



KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

Vol. 59, 2020

Kobe City Hospital Organization

神戸市立病院紀要

令和2年 第59巻

神戸市立医療センター中央市民病院
神戸市立医療センター西市民病院
神戸市立西神戸医療センター
神戸市立神戸アイセンター病院

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

KOBE CITY HOSPITAL BULLETIN

An Annual Review of
Medical Science and Practice

Kobe City Hospital Organization

EDITORIAL BOARD

Yasushi Naito, M.D., Chairman

Takayuki Ishikawa, M.D.

Mutsushi Kawakita, M.D.

Yutaka Furukawa, M.D.

Ichiro Nakamura, M.D.

Hiromi Tomioka, M.D.

Kousaku Matsubara, M.D.

Mitsugu Omasa, M.D.

Yasuhiko Hiramami, M.D.

巻頭の辞

神戸市立病院紀要の第 59 巻が発刊の運びとなりました。本紀要に「肝細胞癌に対する外科治療の進歩と最近のトピックス」と題する貴重な総説をお寄せいただいた西市民病院有井病院長をはじめ、症例報告や部局の活動報告をお纏めいただいた各病院のスタッフ諸君、さらには編集委員の皆さまに厚く御礼を申し上げます。

紀要は私たち神戸市民病院機構の研究水準を示すのみならず、同時に臨床の水準をも示すものであると思います。と言いますのも、従来、医学・医療は研究か臨床かという対極で議論されてきましたが、私はそうではないのではないかと考えているからです。ベッドサイドで患者の訴えを丁寧に拾うことができる臨床医は、ベンチに座っても他者が誤差として捨てたデータの中に真実が宿っていることに気づきます。臨床に必要な活力と研究を進める知力とは大概同じ源泉から湧き出ているようです。とりわけ、臨床データの収集と解析の手法が格段に進歩し、細胞や動物に頼らなくても、実臨床から病態の核心の迫る研究をなしえる時代を迎えた今日、両者は対極ではなく、相補的な関係にあることがむしろ当たり前になってきました。我々のような沢山の症例を扱う医療機関の時代がやってきたとも謂うことができます。

従って本紀要は、私たちこの 1 年間の努力を客観的に表す指標です。半世紀を超えて綿々と指標が積み重ねられてきたことには大いなる意味があります。そして今日の指標の立ち位置をそれでよしとするのか、更にもっとと考えるのか、それも私たちに問われていることだと自覚したいと思います。

神戸市立医療センター中央市民病院

院長 木原康樹

目 次

I. 総 説

- I. 1 肝細胞癌に対する外科治療の進歩と最近のトピックス
.....西市民病院 院長 有 井 滋 樹..... 1

II. 症例報告

- II. 1 多彩な精神症状を呈した臍帯血移植後 HHV-6 脳炎の 1 例
..... 中央市民病院 精神・神経科 福 島 春 子 他 9
- II. 2 多房性嚢胞を有する耳下腺原発粘表皮癌の診断に穿刺吸引細胞診が有用であった 1 例
.....西市民病院 臨床検査技術部 弘 田 大 智 他.....13

III. CPC 報告

- III. 1 CPC 報告 (2019 年 4 月～2020 年 3 月) (中央市民病院)19
- III. 2 CPC 報告 (2019 年 4 月～2020 年 3 月) (西市民病院)35
- III. 3 CPC 報告 (2019 年 4 月～2020 年 3 月) (西神戸医療センター)39

IV. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(1) 笠原ガン治療研究事業

- IV. 1 担癌患者・非担癌患者における静脈血栓塞栓症発症の危険因子の同定と、積極的予防対策の検討
.....中央市民病院 循環器内科 北 井 豪.....55
- IV. 2 化学療法中の転移固形がん患者の HRQOL に影響を与える因子を検討する
.....中央市民病院 乳腺外科 木 川 雄一郎.....55
- IV. 3 Tumor-to-tumor metastasis:Pulmonary carcinoid metasta-sizing to solitary fibrous tumor
.....中央市民病院 呼吸器外科 宍 戸 裕.....56
- IV. 4 当院における HBOC に対する RRSO の経験
.....中央市民病院 産婦人科 林 信 孝.....56
- IV. 5 咽頭・口腔表在癌の研究 —特に頭微内視鏡による、光学生検を用いた診断の可能性について—
.....中央市民病院 頭頸部外科 篠 原 尚 吾.....57
- IV. 6 頭頸部癌診療における兵庫県の現状と公立病院としての当院の立場
.....中央市民病院 頭頸部外科 篠 原 尚 吾.....60
- IV. 7 放射線治療歴の有無による経口的咽頭悪性腫瘍切除術の比較
..... 中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 竹 林 慎 治.....60

IV. 8	口内法で舌部分切除術を施行した舌癌症例の検討 —深達度による検討とその妥当性について—中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 瀧口清海.....61
IV. 9	研究課題名：異時性両側性 HPV 関連扁桃癌の一症例中央市民病院 頭頸部外科 水野敬介.....62
IV. 10	活動性の頭蓋外病変を有さない転移性脳腫瘍患者に対する放射線治療の成績中央市民病院 放射線治療科 小倉健吾.....62
IV. 11	当院における局所進行腭癌に対する化学放射線療法 of 検討中央市民病院 放射線治療科 岩井貴寛.....63
IV. 12	Outcome of stereotactic body radiotherapy for patients with histologically proven Stage I non-small-cell lung cancer中央市民病院 放射線治療科 緒方隆司.....64
IV. 13	動体追尾 IMRT における線量検証および log file 解析 Verification of dosimetric and positional accuracy for dynamic tumor tracking IMRT (DTT IMRT)中央市民病院 放射線技術部 末岡正輝.....66

V. 病院別診療科別論文発表及び学会報告数

VI. 論文発表

VI. 1	中央市民病院71
VI. 2	西市民病院95
VI. 3	西神戸医療センター98
VI. 4	神戸アイセンター病院 104

VII. 学会報告

VII. 1	中央市民病院 105
VII. 2	西市民病院 167
VII. 3	西神戸医療センター 177
VII. 4	神戸アイセンター病院 193

I. 総

説

I. 総説

I. 肝細胞癌に対する外科治療の進歩と最近のトピックス

有井 滋樹

神戸市立医療センター西市民病院 病院長

要旨

肝細胞癌に対する治療は病態に応じて多岐にわたるが、外科治療が最も根治性に優れていることには変わりはない。本稿では主として外科治療におけるトピックスを取り上げ、その変遷と進歩を概説する。最も大きな変革は肝切除に関連する領域であり、これらは医用工学の進歩によるところが大きい。列挙すると、1) 腹腔鏡下肝切除の導入と普及、2) 術前シミュレーション、3) 手術ナビゲーション 4) 造影超音波、5) ALPPS などである。さらには我が国のデータに基づいた肝移植の適応拡大もなされた。分子標的薬そして免疫チェックポイント阻害剤の開発も目覚ましいが、外科治療にも影響を与えることであろう。さらには今後一層の発展が期待されるゲノム医療の導入は今後の臨床を変えていくと思われる。

キーワード：腹腔鏡下肝切除、術前シミュレーション、ナビゲーションシステム、分子標的薬
免疫チェックポイント阻害剤、ゲノム医療

(神戸市立病院紀要 59: 1-8, 2020)

Recent progress in the surgical treatment of hepatocellular carcinoma

Shigeki Arii

Director, Kobe City Medical Center West Hospital, Kobe, Japan

Abstract

By virtue of the advancements in science and technology, hepatic resection and other related areas have seen remarkable innovations. Among them, technical and instrumental improvements in laparoscopic hepatic resection are major topics of interest. This progress may lead to laparoscopic hepatectomy being regarded as the standard procedure for hepatic resection. Other important innovations include advances in preoperative simulation methods, the development and clinical application of navigation systems in hepatic resection, the intraoperative use of contrast-enhanced ultrasound, and the development of the associating liver partition and portal vein ligation for staged hepatectomy technique for two-stage extended hepatectomy. Additionally, on the basis of a Japanese nationwide survey, the liver transplantation criteria for hepatocellular carcinoma has been expanded. Regarding medical treatment, the major point is the development of molecular target drugs and immune checkpoint inhibitors that may also influence surgical treatment. In the near future, the development of genomic medicine will enable the establishment of novel therapeutic strategies for the treatment of hepatocellular carcinoma.

Key words ; laparoscopic hepatic resection, preoperative simulation method, navigation system, molecular targeted drug, immune checkpoint inhibitors, genomic medicine

(Kobe City Hosp Bull 59: 1-8, 2020)

はじめに

肝細胞癌の発生にはB型、およびC型肝炎ウイルスの持続感染が深く関わっていることはよく知られた事実であるが、Direct acting antivirals (DAA製剤)の登場によりこれらウイルス感染が高率に制圧されるようになった。その結果、ウイルス肝炎由来の肝臓癌の発生はすでに減少しており、今後さらにこの傾向は著しくなることであろう。一方、非B非C型の肝臓癌の割合が著しく増加し、Tateishiらは全国調査のデータから1991年では10.0%、2015年では32.5%と報告している⁽¹⁾。さらに重要なことは発生数も大幅に増加し、20年前に比べて約5倍になっている。

一方、世界に目を転じると、国際がん研究機関 (International Agency for Research on Cancer : IARC) によるGLOBOCAN 2012の集計によれば、肝臓癌による死亡者総数は約74万人で、全がん種中第2位(9.1%)であり、依然として多くの命を奪っている疾病である。

治療法については他の癌腫に比べて病態に応じた多彩の治療法があり、それぞれにおいて大なる進歩がみられている。

本稿では外科医の立場から外科治療の現況と進歩につき述べ、その責を果たしたい。

1. 外科治療の位置づけ

肝臓癌の治療には外科治療(肝切除)、Radio Frequency Ablation (RFA)に代表される内科的局所治療、肝動脈塞栓療法(TACE)などの放射線科的IVR、重粒子・陽子線照射、そして抗がん剤や分子標的薬による薬物治療、そして肝移植が主たるものである。それぞれの治療法の適応は病態(患者の年齢や心肺機能を含む一般状態、肝予備力、癌の局在や進行度)によって決定される。

昨今では当然、ガイドラインが大きな指針を示すことになるが、図1に示すように治療アルゴリズムも各々の病態につき複数の治療法が併記されているのが実情である。したがって最終的には医師の裁量が重要となるが、各種治療法の成績を十分に知り、選択の根拠を患者に合理的に説明できなければならない。

外科治療を行うに当たっては当該腫瘍を根治的に切除するに適切な切除量が許容できる肝機能を有することが大前提である。腫瘍サイズの制限はない。腫瘍個数についてはガイドラインでは3個以内とされているが、私見としてはこれには異存がある。主腫瘍の近傍たとえば同一区域や亜区域に肝内転移病巣として3個以上が存在し(腫瘍は4個以上となる)、一括切除可

能な場合には大いに切除適応があると考えられる。また、肝臓癌では多中心性発がんが少なくないが、癌腫が4個以上あってもそれらが多中心性発がんである場合には肝内転移による場合よりも切除による根治度は高まると考えられる。実際、私の自験例の検討でも塞栓術よりも切除が良好であった。したがって、単に個数で一律に考えるのではなく、その様態を深く考慮することが大切である。

適応は前述したように各種治療法がオーバーラップすることも少なくないが、3cmを超えるとRFAの適応ではないとされているので、3cmが一つの境界点である。3cm以下ならば切除、RFAのどちらを選択してもよいが、確実にRFAで制御できるサイズは実は必ずしも明らかではない。RFAの術者の技量にもよるであろうし、癌腫の局在にもよる。私見であるが、2cm以下ならば完全制御の確率が高いのでRFAを選択することに依存はない。ただ、大血管の近傍、肝門部近傍(とくに胆管損傷が危惧される場合)の癌腫では2cm以下でもRFAでは遺残の可能性や胆管損傷の確率が高まると考えられるので、外科治療が望ましい。問題は2cm-3cmであるが、前述したような局在を勘案し、内科、外科合同で協議することを推奨する。

なお、日本肝臓学会による第20回全国原発性肝臓癌追跡調査報告(2019)によるデータではChild-Pugh A (n=22258、1998-2009)に対する肝切除の生存中央値は96.9か月、5年、10年生存率は65.8%、44.0%、内科的局所治療では生存中央値は81.4か月、5年、10年生存率は63.8%、23.2%である⁽²⁾。

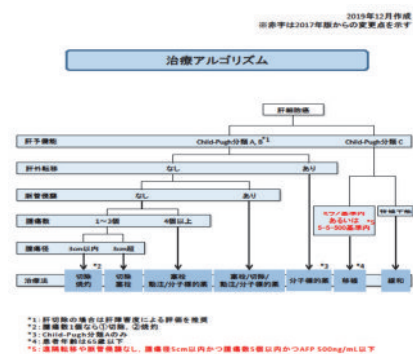


図1 肝細胞癌治療アルゴリズム

日本肝臓学会 編「肝臓診療ガイドライン2017年版補訂版」2020年、P 70、金原出版

2. 肝細胞癌に対する肝切除の特殊性

肝切除自体の特殊性と、肝細胞癌特有の問題がある。いうまでもなく肝臓は腹部臓器で唯一生命に直結する臓器であり、全摘すればI-3日で死に至るとさ

れているが、そうでなくとも一定以上の肝臓容量がなければ致命的な肝不全となり、死に至る。生体部分肝移植においては全肝の35%以上を温存すればドナーは肝不全に陥ることなく安全とされており、安全限界は25-30%と考えられている。ドナーは一般に正常肝であるので、この安全限界は正常肝についてのみ当てはまることであり、傷害肝には適用できない。

転移性肝癌と違って肝細胞癌は多くの場合、傷害肝を母地として発生し、しかも傷害の程度は症例により異なる。ここに肝細胞癌手術における肝予備力判定の重要性がある。

肝切除自体も他の消化器系の手術と様相は大きく異なる。最大の違いは肝臓が大きな塊の3次元臓器であり、内部には脈管(動脈、静脈、門脈、胆管)が豊富に走行しているにもかかわらず、肝を割っていかない限りそれらを直視することができない(図2)。さらに切除の対象となる癌腫すら見えない、あるいは触知できないことも少なくない。他方、一般の消化器手術はほとんどの場合、脈管は透見することができ、3次元を2次元展開して手術を進めることができる。

このように肝切除は他の消化器系手術とは全く異なる側面を有している。ここに後述するようなテクノロジーが導入されている所以がある。

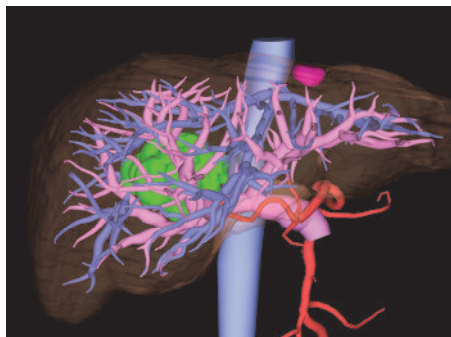


図2 肝臓の豊富な脈管と癌腫の関係性を示す 赤；肝動脈、ピンク；門脈、青；肝静脈、緑；腫瘍

3. 肝予備能評価

術式は主として癌腫の存在範囲と肝予備力判定により決定される。肝機能の評価にはChild-Pugh (C-P)分類がよく用いられるが、本来、肝硬変の障害度を表す指標であり、切除許容量を精密に決定する方法としては不十分である。すなわちC-P分類Aといっても肝予備力には大きな幅があるので、さらに細かい分類が必要である。そのため、従来より多くの指標が提唱されてきた。ICG 停滞率/消去率、ICGRmax, 種々の rapid turnover protein の測定、ガラクトース負荷試験、グルカゴン負荷試験、血中ケトン体比などの意義

について数多くの発表がなされた。そのなかで現在も頻用されている方法はICG 停滞率/消去率である。なかでも肝切除量とビリルビンとを組み合わせた幕内基準⁽³⁾が簡便でよく用いられている。この基準は40年以上前に作成されたものであり、その後の肝切除術の向上、術前術後管理の進歩などを勘案するとさらに新たな基準が作成されることを期待したい。

4. 肝切除術の進歩

以下の1) - 5)で肝切除術に関する最近の進歩について述べるが、その前に、肝切除の歴史をごく簡単に振り返っておくことにする⁽⁴⁾。

肝門部にて血管処理を行った系統的な肝葉切除の第一例は1949年、後の京都大学第一外科教授で当時小倉記念病院外科部長であった本庄一夫の報告である(図3)⁽⁵⁾。余談ですが、私は本庄教授に憧れて第一外科に進みました。従来の定説はLortat-Yacob and Robertが第一例を行ったとされていたが、Fosterがその著書Solid Liver Tumorにおいて論文中に記載された手術日に基づけばHonjo I and Araki Cが世界で最初であると述べたのである⁽⁶⁾。

その後、大きな進展はみられなかったが、1970年代後半から新たな展開が始まった。それは超音波検査、CTが臨床に導入されたことによる。この非侵襲的診断の進歩により切除の対象となる小型肝癌の発見が増加した。さらに術中超音波検査が開発され、血管支配に準拠した系統的な区域、亜区域切除が確立されていった。その後、より積極的な血行再建を伴う拡大切除がtotal hepatic vascular exclusion techniqueや、様々なV-Vシャント、さらには心房にまで腫瘍栓が進展している症例には人工心肺を駆使した肝切除が行なわれるようになった(図4,5)。この手技は1988年に第一例が行われた生体部分肝移植へとつながっていくことになる⁽⁷⁾。しかし、このような血管再建を伴う血管合併切除は当然手術侵襲が大きく、必ずしも良好な治療成績がおさめられないことが明らかとなり、より厳格な適応の下で行うことになっていくと同時に以下に述べるような低侵襲を目指した手術や精緻で洗練されたナビゲーションによる方向へと向かっていった。



図3 本庄一夫先生 左：金沢大学教授時代、右：
ニューヨーク講演旅行時
〈三重大学名誉教授 水本龍二先生から頂戴したものです〉

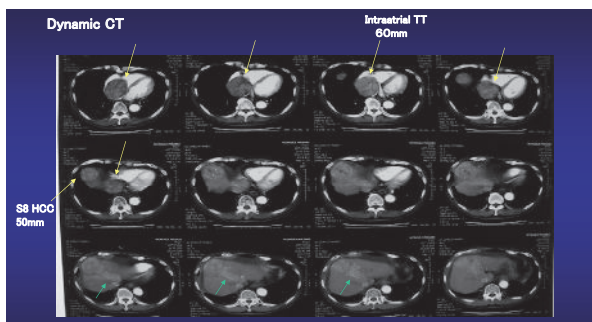


図4 心房内腫瘍栓を示すCT像

心房内腫瘍栓摘除

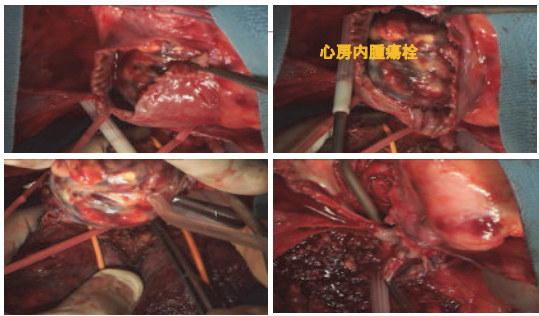


図5 図4の症例の術中写真

1) 腹腔鏡下肝切除、ロボット(ダヴィンチ)支援手術

腹腔鏡下肝切除の導入と発展、そして普及が最近の最大のトピックであろう。

世界最初の報告は1991年であるが、その後さまざまなデバイスの進歩とともに症例数は年を経るごとに著しく増加している。その目覚ましい普及の理由はデバイスの進歩以外に、術後の疼痛が少ないこと、そして在院日数が短いことであり、

いわゆる低侵襲手術として認知され、保険収載されたことによる。そして少なくとも短期成績では開腹手術に勝るとも劣らないことが明らかにされている。また、術式としては部分切除が大多数を占めていたが(2010年に保険収載)、最近では2016年に全例登録制の下で、葉切除、区域切除、亜区域切除も保険収載され、開腹切除に近い精緻さが達成されようとしており、症例登録数もほぼ1万例となっている。

他方、ロボット支援手術については前立腺や大腸の切除術における普及に比べて明らかに遅い感がある。もちろん、保険収載がなされていないことも大きいですが、腹腔鏡下肝切除に勝るメリットが現時点ではあまりないという点にある⁽⁸⁾。デメリットとしては肝臓の実質切離に使える精緻なエネルギーデバイスが少ないとされている。一方、吻合を伴う手術においてはダヴィンチは優れているので胆道再建を要する肝門部胆管癌などへの活用が今後期待される。また、2019年にダヴィンチ サージカルシステムが20年間の特許が切れたので、新規の手術ロボットの開発が活発化することにも期待したい。

2) 術前シミュレーション

従来は造影CTの画像を用いて全肝容積、各区域の容積、さらには3D画像を構築して血管走行を把握していたが、近年、シミュレーションソフトが開発され⁽⁹⁾血管走行の微細で精緻な描出、任意の肝領域の容量、さらには血管支配領域の同定が可能となり、切除による鬱血領域まで知ることができるようになった。これにより綿密な切除のプランニングが可能となった。実際、切除量と術前のシミュレーションで測定した推定切除容積がよく近似することも示された。(図6,7)

症例2: S8a+S5a (肝前区腹側領域)切除

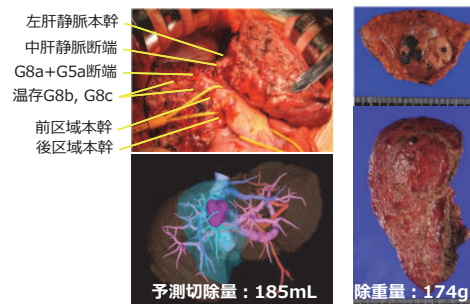


図6 シミュレーションによる切除の1例

シミュレーション結果と実際の肝切除量

n=80 (シミュレーションと術式が一致した症例)

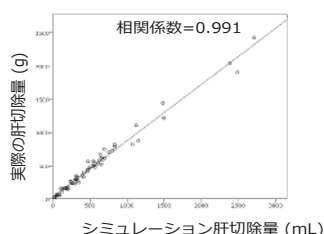


図7 切除重量と術前シミュレーションとの相関

3) 術中造影超音波

術中超音波は肝切除で不可欠の手技である。これによりはじめて小さく深部の癌腫であってもその局在、血管走行との関係性を知ることが出来、切除のナビゲーションとしても欠かせないものである。これに加えて近年の進歩として造影超音波がある。造影剤であるソナゾイドを静注することにより肝内の動脈、門脈、静脈そして腫瘍血管がリアルタイムに描出され、腫瘍と血管との位置関係のみならず、腫瘍の腫瘍学的特性を推察することが出来る⁽¹⁰⁾。さらにはpostvascular phaseでは数mm程度の小腫瘍の発見にも優れており、時に門脈腫瘍栓も描出されることもある。

4) ICG注入による小腫瘍の同定と切除ナビゲーション

ICG試験は前述したように肝予備力判定に必須であるが、近年、肝腫瘍の同定と切除のナビゲーションに使用されており、徐々に一般化されつつある。これはインドシアニングリーンが蛍光を発することを利用したものである⁽¹¹⁾。本色素は細胞内に取り込まれた後、胆汁中に排泄されるが、がん細胞には一般にその排泄機能がないため腫瘍内に長時間とどまる。この性質を利用して術中の小腫瘍の同定に応用されているが、深部に存在する場合には描出力は劣る。また、門脈枝の選択的遮断下にインドシアニンを門脈内に注入することにより非遮断領域を染色し切離ライン/面を同定することができるので、切離に際してのナビゲーションとして活用しうるものである。しかし、この方法では術者はICG蛍光画像を写しているモニターと術野をともに見る必要があるために頻回の視線移動が必要である。また、2)で述べたシミュレーションは術中のリアルタイムの情報ではないことと術中の臓器の変形や動きに対応できないのでナビゲーションには適

さない。これらの問題を克服するため京都大学肝胆膵・移植外科 波多野(現兵庫医大教授)、西野、瀬尾、新田(現西市民病院外科医長)らはパナソニックと共同でプロジェクションマッピングの手法で手術中の臓器に直接ICG画像を投影する可視光投影装置(Medical Imaging Projection System)を開発した(図8,9)⁽¹²⁾。この方法により前述した欠点が克服され、現在、臨床で使用するに至っており今後の普及が期待される。

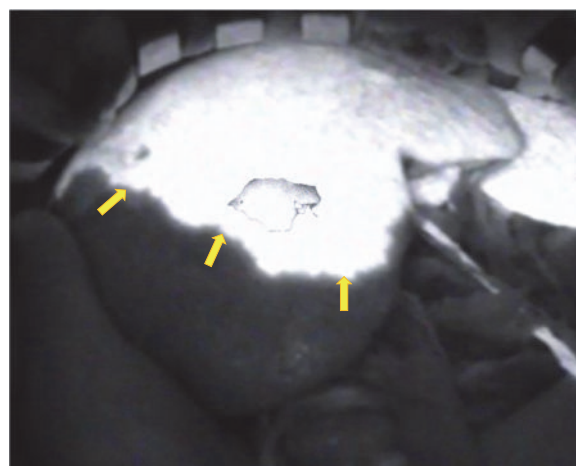


図8 後区域グリソン枝の血流遮断下に注入したICGで示されたdemarcation line (→)をモニター画像にて確認

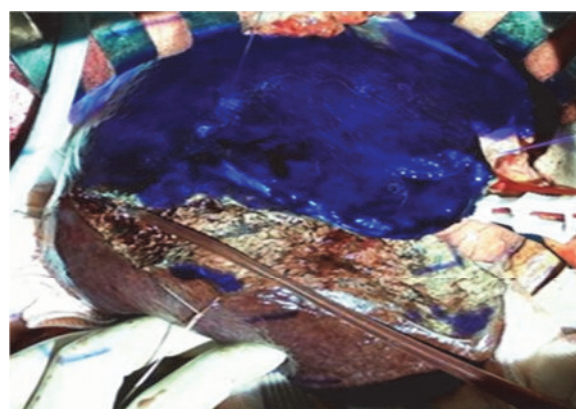


図9 可視光投影装置(Medical Imaging Projection System)により肝臓に投影されたICG染色面にしたがって肝実質切離を進め、後区域切除を行っている

5) ALPPS、PVE

肝切除に際し、予定残肝容積が十分でなく、術後の重篤な肝不全が予測される場合、門脈枝の塞栓術(portal vein embolization ,PVE)がしばしば行われる。これに先立って、本庄一夫が動物実験の結果⁽¹³⁾を臨床応用した。すなわち、片葉の門脈枝を結紮し、非結紮葉が再生肥大したのち結紮

葉を切除する二期的肝切除を行った⁽¹⁴⁾ ⁽¹⁵⁾。幕内、木下らは本庄の門脈枝結紮術にヒントを得て、結紮の代わりに塞栓物質で切除予定側の門脈枝を塞栓したのち、3-4週間後に塞栓葉を切除する方法を開発した。この方法はIVRの発展により可能となったものであり、比較的簡便であり、切除の安全性を高める手法として広く普及している。しかし、欠点としては再生肥大するまでに塞栓後3-4週間が必要であること、また、必ずしも予定どおり十分な残存肝容量が得られないこともある。

以上のようなPVEの欠点を補うような方法として Associating Liver Partition and Portal vein Ligation for staged hepatectomy (ALPPS)が、近年、注目を集めた。最初の報告はドイツの Hauke Lらがケープタウンで開催されたE-AHPBAのポスターセッションであった。(Baumgart et al, HPB (Oxford) 2011; 13 (suppl 2): 1-145)。正式な論文としての最初の発表は2012年の Schnitzbauer AAらによる Ann Surg誌である⁽¹⁶⁾。切除側の門脈枝を結紮(塞栓ではない)し、同時に切除予定としている切離面で肝実質の離断を行うことを一期目の手術とする方法である。本法の最も大きな利点は9-14日程度で大きな再生肥大(増大率約80%)が得られることである。ただ、一期目の手術自体の侵襲も低いとは言えず、合併症も少なくない。最近では肝細胞癌や胆道再建を伴う手術ではとくに合併症率も高いことが明らかとなっている。最も良い適応としては肝障害が併存していない大腸がんの多発肝転移症例であろう。しかし、私見ではあるが、多くの多発肝転移症例では部分切除などを組み合わせたり、PVEや、二期的切除などを駆使することにより切除できることも少なくなく、ALPPSが適応となる症例は意外と少ないように考えている。

5. 肝移植適応の拡大

わが国のデータを根拠にして2019年8月に肝細胞癌に対する肝移植の適応が拡大された⁽¹⁷⁾。従来のミラノ基準(腫瘍条件として腫瘍径3cm以内、腫瘍個数3個以内、または5cm単発、かつ脈管侵襲なし、肝外転移なし)に加えて、腫瘍径5cm以内かつ腫瘍個数5個以内かつAFP 500ng/ml以下(5-5-500基準)となった。このJapan criteriaにより適応となる症例が約19%増加するものと見込まれている。

6. 薬物治療の進歩、ゲノム医療の保険収載と外科治療への影響

外科治療のトピックが腹腔鏡下肝切除とすれば薬物治療のトピックは分子標的薬の進歩とゲノム医療の保険収載である。1990年代に血管新生因子が固形癌の増殖に深く関わるという研究が盛んとなり、筆者もこのような研究に従事した時期がある。その時、現在西市民病院乳腺外科部長の三瀬昌宏が筆頭著者となり、肝細胞癌の腫瘍血管新生にVEGFが関わっていることを世界で初めて示した(図10)⁽¹⁸⁾。さらに、現大阪赤十字病院外科医長の森章がVEGFの受容体であるflt-1のsoluble typeを投与してVEGFをブロックすることにより肝がんの増殖を抑えることを動物実験にて明らかにした(図11)⁽¹⁹⁾。このような研究がVEGFなどを標的とする分子標的薬ソラフェニブの開発へと進展し、2009年に切除不能肝癌に対して保険収載され、広く使われることとなった。その後はソラフェニブを凌ぐ薬剤が長い間現れなかったが、2017年にレゴラフェニブ、2018年にレンバチニブが本邦で承認されるに至った。外科治療のような根治性は有さないが、治療アルゴリズムに示されるようにその治療上の役割は増大している。外科医として興味深いことはレンバチニブの腫瘍縮小効果が他の分子標的薬に比べて大きいいため、レンバチニブの術前投与により外科切除不能が可能になるというconversion surgery⁽²⁰⁾が期待されることである。

ゲノム医療については肝癌の全ゲノムシーケンスも解析され、driver変異として、Wntシグナル、TP53, TERT, SWI/SNF複合体の変異などが高い頻度で生じていることが明らかにされている⁽²¹⁾⁽²²⁾。今後、ゲノム医療はさらに普及するであろうが、ゲノム異常が見つかった際に対応する薬剤がどの程度存在するかどうか、すなわちactionabilityが重要となる。Hardingらのデータでは24%となっているが、わが国の実情ではこれより低いことが推測される。一方、薬剤の効果を事前に予測するbiomarker探索も大切であるが、肝癌において保険収載されている種々のマルチキナーゼ阻害剤の効果を予測するゲノム変異は明らかではない。唯一、ラムシルマブにおいてaフェトプロテイン400ng/ml以上が効果予測因子として認められているに過ぎない⁽²³⁾。

免疫療法についてはまさにブレイクスルーがなされた。それは1987年に活性化T細胞上に発現する受容体CTLA-4分子⁽²⁴⁾、1992年に京都大学の本庶佑先生のグループからPD-1分子⁽²⁵⁾が発見されたことによる。ともに2018年のノーベル医学生理学賞を受賞されたことは記憶に新しい。抗CTLA-4抗体(tremelimumab)、抗PD-1抗体(nivolumab,pembrolizumabなど)、抗

PD-L1抗体(atenzolizumabなど)が単独あるいは血管新生阻害を主とする分子標的薬との併用の臨床試験が開始されている。まだ第3相試験の結果は論文としては報告されていないが、nivolumabによる第1/2相の非比較試験では214名中CR3名、PR39名、奏効率19.6%というかなり良好な成績が報告されている。⁽²⁶⁾

さらについで最近、薬物療法歴のない進行または切除不能肝細胞癌で、C-PAの患者を対象としてアテゾリズマブ(ATZ, 抗PD-L1抗体) + ベバシズマブ(BEV, 高VEGF抗体)とソラフェニブ群を比較した第3相試験の結果が発表された⁽²⁷⁾。それは薬物治療のパラダイムを変えるような成績であった。生存期間においてATZ + BEVが対照群に比べてハザード比0.58, と有意($p=0.0006$)に良好であり、無増悪生存期間においても同様であった(ハザード比0.59, $p=0.0001$)。本治療法は忍容性も良好であり、切除不能肝細胞癌治療の標準的一次治療として位置づけられたといえる。

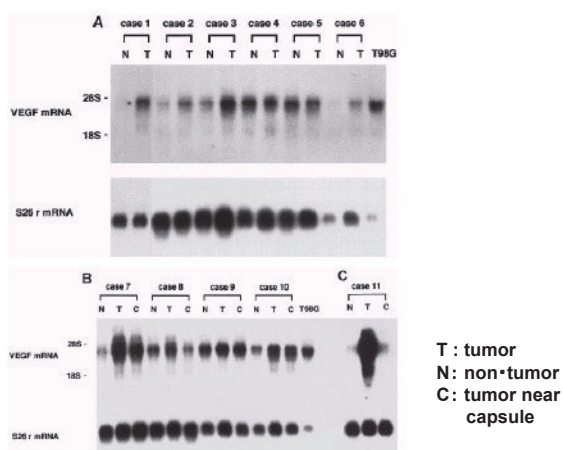


図10 肝細胞癌切除標本のVEGFmRNA発現；Tではおしなべて他より高発現を示している。

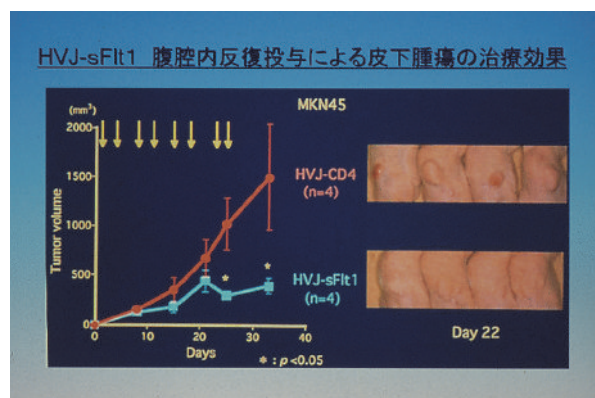


図11 VEGF受容体に対する可溶性抗体の腫瘍増殖抑制効果；HVJ-CD4を投与された対照群に比べてHVJ-sFlt1投与群では有意に腫瘍増殖が抑制されている。

おわりに

新しい術式の開発は外科医による研究の王道である。同時に外科は周辺領域の進歩とともに発展してきた事実を鑑みれば、外科研究は手術手技に関すること以外にも非常に幅広いものである。どうか安全性を担保しつつ、新しいことに挑戦されることを願う次第である。

文献

- 1) Tateishi R, Okanoue T, Fujiwara N et al : Clinical characteristics, treatment and prognosis of non-B, non-C hepatocellular carcinoma : a large retrospective multicenter cohort study. J Gastroenterol, 50 : 350-360, 2015
- 2) 第20回 全国原発性肝癌追跡調査報告(2008~2009) 日本肝癌研究会追跡調査委員会 工藤正俊, 泉 並木, 久保正二, 國土典宏 他 : 258-293, 2019
- 3) 幕内雅敏, 高山忠利, 山崎晋, 他 : 肝硬変合併肝癌治療のstrategy. 外科診療 29 : 1530-1536, 1987
- 4) 有井滋樹 肝臓外科の歴史。肝臓 48 : 473-483, 2007
- 5) Honjo I, Araki C. Total resection of the right lobe of the liver. J Internat Coll Surgeons 23 : 23-28, 1953
- 6) Foter JH Berman MM. Solid Liver Tumors. W.B Saunders Company. Philadelphia. London. Toronto. 1967
- 7) Raia S, Nery JR. Mies S. Liver Transplantation from live donors. Lancet 2 : 497, 1989
- 8) Zureikat AH, Borrebach J, Pitt HA et al : Minimally invasive hepatopancreatobiliary surgery in North America : an ACS-nsqip analysis of predictors of conversion for laparoscopic and robotic pancreatectomy and hepatectomy. HPB (Oxford) 19 : 595-602, 2017
- 9) Saito S, Yamanaka J, Miura K, et al : A novel 3D hepatectomy simulation based on liver circulation : Application to liver resection and transplantation . Hepatology 41 : 1297 - 1304, 2005
- 10) Mitsunori Y, Tanaka S, Nakamura N, et al. Contrast-enhanced intraoperative ultrasound for hepatocellular carcinoma : high sensitivity of diagnosis and therapeutic impact. J Hepatobiliary Pancreat Sci. 20 : 234-42, 2013
- 11) Aoki T, Yasuda D, Shimizu Y, et al. Image-guided liver mapping using fluorescence navigation system with indocyanine green for anatomical hepatic resection. World J Surg, 32 : 1763-1767, 2008

- 12) Nishino H, Hatano E, Seo S et al. Real-time navigation for liver surgery using projection mapping with indocyanine green fluorescence : Development of the novel medical imaging projection system. *Ann Surg* 267 : 1134-1140, 2018
- 13) Rous P, Larimore L : Relation of the portal blood to liver maintenance. *J Exp Med* 31 : 609, 1920
- 14) 本庄一夫、小坂 進 二次の肝切除。手術 15 : 1001-1010, 1961
- 15) Honjo I, Suzuki T, Ozawa K, et al. Ligation of a branch of the portal vein for carcinoma of the liver. *Am J Surg* 130 : 296-302, 1975
- 16) Schnitzbauer AA, Lange SA, Goessmann H et al. : Right portal vein ligation combined with in situ splitting induces rapid left lateral liver lobe hypertrophy enabling 2-staged extended right hepatic resection in small-for-size settings. *Ann Surg* 255 : 406-414, 2012
- 17) Shimamura T, Akamatsu N, Fujiyoshi M, et al. Expanded living-donor liver transplantation criteria for patients with hepatocellular carcinoma based on the Japanese nationwide survey : the 5-5-500 rule -a retrospective study. *Transplant International* 32 : 356-368, 2019
- 18) Mise M, Arai S, Higashitsuji H et al. Clinical significance of vascular endothelial growth factor and basic fibroblast growth factor gene expression in liver tumor. *Hepatology* 23 : 455-464, 1996
- 19) Morin A, Arai S, Furutani M et al. Vascular endothelial growth factor-induced tumor angiogenesis and tumorigenicity in relation to metastasis in a HT1080 human fibrosarcoma model. *Int J Cancer* 80 : 738-743, 1999
- 20) Sato N, Beppu T, Kinoshita K, et al. Conversion hepatectomy for huge hepatocellular carcinoma with arterioportal shunt after chemoembolization and lenvatinib therapy. *Anticancer Res* 39 : 5695-5701, 2019
- 21) Fujimoto A, Furuta M, Totoki Y et al. Whole genome mutational landscape and characterization of non-coding and structural mutations in liver cancer. *Nat Genet* 48 : 500-509, 2016
- 22) Harding JJ, Nandakumar S, Armenia J et al. Prospective Genotyping of Hepatocellular Carcinoma : Clinical Implications of Next Generation Sequencing for Matching Patients to Targeted and Immune Therapies. *Clin Cancer Res* 25 : 2116-2126, 2019
- 23) Zhu AX, Kang YK, Yen CJ et al. Ramucirumab after sorafenib in patients with advanced hepatocellular carcinoma and increased α -fetoprotein concentrations (REACH-2) : a randomized, double-blind, placebo-controlled, phase 3 trial *Lancet Oncol* 20 : 282-96, 2019
- 24) Brunet JF, Denizot F, Luciani MF et al : A new member of the immunoglobulin superfamily-CTLA-4. *Nature* 328 : 267-270, 1987
- 25) Ishida Y, Agata Y, Shibahara K et al : Induced expression of PD-1, a novel member of the immunoglobulin gene superfamily, upon programmed cell death. *EMBO J*, 11 : 3887-3895, 1992
- 26) El-Khoueiry, Sangro B, Yau T et al : Nivolumab in patients with advanced hepatocellular carcinoma (CheckMate 040) : an open-label, non-comparative, phase 1/2 dose escalation and expansion trial. *Lancet* 389 : 2492-2502, 2017
- 27) Finn RS, Qin S, Ikeda M et al: Atezolizumab plus bevacizumab in unresectable hepatocellular carcinoma. *N Engl J Med* 382 : 1894-1905, 2020

II. 症 例 報 告

II. 症例報告

II. 1 臍帯血移植後 HHV-6 脳炎に罹患し多彩な精神症状を呈した白血病の一例

福島春子¹⁾ 鶴谷 茂³⁾ 宮井宏之¹⁾ 大谷恭平¹⁾ 松石邦隆¹⁾
下村良充²⁾ 米谷 昇²⁾ 石川隆之²⁾

神戸市立医療センター中央市民病院 ¹⁾ 精神・神経科 ²⁾ 血液内科 ³⁾ 薬剤部

要 旨

造血幹細胞移植患者では、様々な要因から免疫不全状態になり脳炎などを発症するケースが多く、そのひとつとして Human herpesvirus (HHV) -6 脳炎がある。今回われわれは臍帯血移植後に HHV-6 脳炎と診断され、ウイルス陰転化後も間欠的な疼痛と掻痒、不穏が遷延した症例を経験した。症例は 40 歳代男性、急性リンパ性白血病と診断され寛解導入療法と強化療法を終了後に臍帯血移植を受け、生着と完全寛解維持を確認した。移植後から両下肢の間欠的な疼痛が増悪し、辻褄のあわない言動、不眠、焦燥が出現した。髄液 PCR にて HHV-6 が検出され HHV-6 脳炎と診断した。抗ウイルス薬の投与により検査上脳炎所見は消退したが、間欠的に生じる激しい掻痒、疼痛を伴う精神運動興奮、失見当識や減裂な言動が続いた。本症例は、症状は脳炎やせん妄の経過と異なり週 1 回ひと晩だけ出現することが特徴的であった。

キーワード：Human herpesvirus (HHV) -6、脳炎、臍帯血移植、急性リンパ性白血病

(神戸市立病院紀要 59 : 9 - 12, 2020)

Various psychiatric symptoms in a leukemia patient with human herpesvirus-6 encephalitis after umbilical cord blood transplantation

Haruko Fukushima ¹⁾, Shigeru Tsurutani ³⁾, Hiroyuki Miyai ¹⁾, Kyohei Otani ¹⁾, Kunitaka Matsuishi ¹⁾, Yoshimitsu Shimomura ²⁾, Noboru Yonetani ²⁾, Takayuki Ishikawa ²⁾

¹⁾ Department of Psychiatry, Kobe City Medical Center General Hospital

²⁾ Department of Hematology, Kobe City Medical Center General Hospital

³⁾ Department of Pharmacy, Kobe City Medical Center General Hospital

Abstract

Human herpesvirus (HHV) -6 is the most frequent cause of encephalitis in patients with hematopoietic stem cell transplant (HSCT) with significant morbidity and mortality. Major neurologic symptoms in patients with HHV-6 encephalitis include memory disturbance, altered consciousness, and convulsions. However, psychiatric symptoms are infrequently associated with these patients. Here, we presented a post-HSCT patient with HHV-6 encephalitis, who manifested various psychiatric symptoms along with intractable pruritus, and intermittent pain in lower legs. The patient was diagnosed as having acute lymphocytic leukemia, who received umbilical cord blood transplant after remission induction therapy and consolidation cure; the engraftment and maintenance of complete remission were then confirmed. However, intermittent pain in both legs was exacerbated after the transplant along with confused behavior, insomnia, and agitation. The diagnosis of HHV-6 encephalitis was made based on the detection of HHV-6 in the spinal fluid by polymerase chain reaction (PCR). Although the encephalitic symptoms, observed on examination, were resolved by the administration of antiviral drugs, the patient continuously suffered psychomotor excitement with intermittent severe pruritus and pain, disorientation, and incoherent behavior. This case highlights that the symptoms characteristically appeared only one night on a weekly basis, unlike the course of encephalitis or delirium.

Keywords : Human herpesvirus-6, encephalitis, cord blood transplantation, acute lymphoblastic leukemia

(Kobe City Hosp Bull 59 : 9 - 12, 2020)

はじめに

造血幹細胞移植患者では、様々な要因から免疫不全状態になり脳炎などを発症する場合が多く、そのひとつとして Human herpesvirus (HHV) -6 脳炎がある。今回われわれは、臍帯血移植後に HHV-6 脳炎を発症し、経過中多彩な精神症状を呈した症例を報告する。なお報告に際して、個人情報保護の観点から主旨に影響しない程度の改変を加えた。

I. 症例

患者：46 歳男性

家族歴：親族を含め精神疾患の既往はない。

既往歴：特記すべきものなし

生活歴：喫煙歴なし、飲酒は機会飲酒程度。高卒後、公務員として稼働していた。結婚して小学生と中学生の男児がいる。妻と子ども 2 人の 4 人暮らしである。

現病歴：X 年 2 月倦怠感、関節痛、出血傾向が出現し、A 病院血液内科にて急性リンパ性白血病と診断された。B 病院血液内科に X 年 2 月から 6 月まで計 4 回入院し、寛解導入療法と地固め強化療法を受けた。X 年 7 月 B 病院血液内科に再入院し、入院 10 日目（移植病日 0）に臍帯血移植を受けた。以後、生着と完全寛解維持を確認している。

経過：移植直前から肩の違和感、移植直後から疼痛があり、入院 28 日目（移植病日 18）から両下肢の間欠的な疼痛が増悪した。「両下肢に激痛が走る」と叫び声をあげたが翌日下肢痛は消失し、かわりに両脇に力を入れ体幹を前屈しながら間欠的に疼痛を訴えた。「ピッチングに行かないと。お金はちゃんと払います」「これから映画に行く」と辻褄のあわない言動、不眠、焦燥も出現した。HHV-6 脳炎を疑い入院 28 日目から foscarnet (FCN) を開始した。入院 30 日目（移植病日 20）の髄液 PCR にて HHV-6 が検出され、HHV-6 脳炎と診断し FCN を継続した。当日の血液および髄液検査所見を表 1 に示す。入院 32 日目に実施した Mini-Mental State Examination は 24/30 点で、日付の見当識、計算、口頭指示で失点し年齢不相応の高次脳機能障害を認めた。頭部 MRI では髄膜、脳実質とも異常なく、主幹動脈も異常を認めなかった (図 1)。

8 月下旬から発汗前後で増悪する全身の掻痒を自覚し、掻破痕も強く見られた。掻痒は日によって変動が大きく、皮膚科で生検を行ったが特記すべき異常は認められなかった。その後腎機能障害が出現したため、入院 50 日目から FCN を ganciclovir (GCV) に変更した。髄液中のウイルス量は順調に低下したが、見当識障害

や突発的に生じる移動性の疼痛、発汗前後で増悪する全身の掻痒は続き、入院 59 日目（移植病日 49）から精神運動興奮状態となった。会話は成立せず、処置をする看護師に対し「出ていけ、どけー、このウーロン茶。待ってくれー、そんな赤いのどないなんねん」と叫び暴力を振るおうとした。脳炎に伴う器質性緊張病にせん妄が重畳している状態と思われた。一般病棟では対応が困難になり、入院 60 日目精神科身体合併症病棟に転棟し医療保護入院となった。翌日「昨日のことは覚えていません。今朝からはっきりしています。自分がおかしかったと思います」と反応性は急速に回復した。Tacrolimus を内服しているため、向精神薬は CYP3A4 で代謝されない olanzapine 10mg、asenapine 5mg で加療した。興奮は数日続くが、健忘を残して収まることを繰り返した。疼痛に関して CIPS (Calcineurin-inhibitor induced pain syndrome) の有無について評価を行ったが、脊髄 MRI に骨髄浮腫はなく (図 2)、骨シンチでも積極的に CIPS を疑う所見は認めなかった (図 3)。入院 87 日目（移植病日 77）に髄液中 HHV-6 が陰転化したため GCV は終了し、外泊を経て入院 106 日目（移植病日 96）に退院した。

退院後、掻痒感と疼痛で臥床できず、長時間ソファに座って過ごしたため褥瘡が増悪した。退院 2 週間後（移植病日 110）に急性肺炎、肺炎をきたし緊急入院した。依然として週 1 回ペースで全身の激しい掻痒を訴え、一晚中血が出るほど頭や全身を掻きむしり「うー」と大声で叫んだ。掻痒は diphenhydramine、hydroxyzine などを使用したが無効で、olanzapine や asenapine、clonazepam を試したが改善は得られなかった。混乱した状況は健忘を残していた。再入院 21 日目に退院したが、9 日後（移植病日 139）自宅で死亡が確認された。死因は不明であった。死亡前日に外来を受診したときの血液検査所見は表 2 のとおりであった。経過中に使用した主な免疫抑制剤、抗ウイルス薬、向精神薬を図 5 に示す。

表 1 検体検査所見 (day20, HHV-6 が検出されたとき)

WBC	0.5	x10 ³ /μL	Na	151	mEq/L
RBC	269	x10 ⁴ /μL	K	4.2	mEq/L
Hb	7.9	g/dL			
Ht	24.1	%	髄 - 蛋白	40	
PLT	2.0	x10 ⁴ /μL	髄 - GLU	86	
AST	24	U/L	髄 - Cl	139	
ALT	34	U/L	外観	水透	
CRP	3.49	mg/dL	細胞数 /μL	1	
BUN	11.4	mg/dL	単核球 /μL	1	
Cre	0.56	mg/dL	多形核球 /μL	0	
Tacrolimus	15.5	ng/mL	HHV-6 (PCR)	106	Copy/mL

図1 頭部MRI (移植病日 26)

髄膜、脳実質とも異常なし。主幹動脈も異常なし

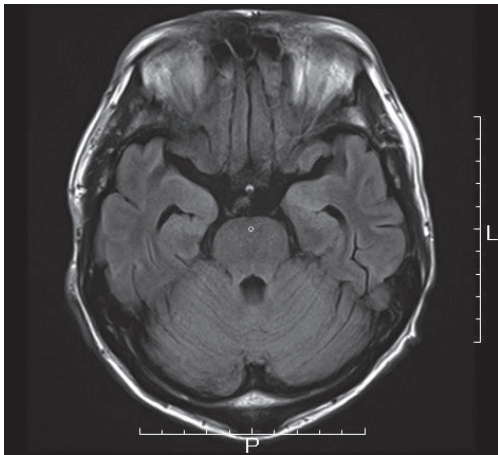


表2 検体検査所見 (移植病日 138, 死亡前日)

WBC	6.9	x10 ³ /μL	Na	140	mEq/L
RBC	369	x10 ⁴ /μL	K	4.4	mEq/L
Hb	11.0	g/dL	Glu	204	mg/dL
Alb	3.5	g/dL	P	6.5	mg/dL
CK	118	U/L	Ca	9.4	mg/dL
γ GT	39	U/L	AMY	128	U/L
AST	19	U/L	LP	152	U/L
ALT	22	U/L	BUN	18.7	mg/dL
CRP	0.98	mg/dL	Cre	0.88	mg/dL

図2 脊髄MRI (移植病日 63)

CIPS で認められるような骨髄浮腫の所見なし

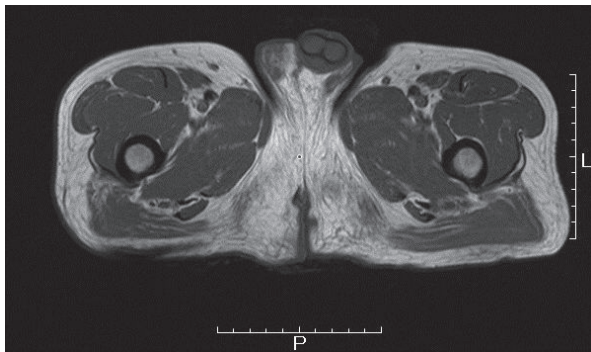


図3 骨シンチ (移植病日 67) 積極的にCIPSを疑う所見なし。

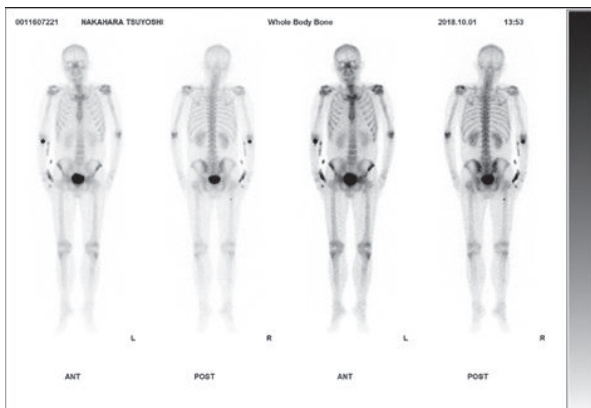


図4 脳波 (移植病日 48)

8-9Hz poorly organized 軽度のびまん性脳症の所見。間欠的に出現する痛みにより臥位を保てず座位で施行。しかし10分も記録できなかった。

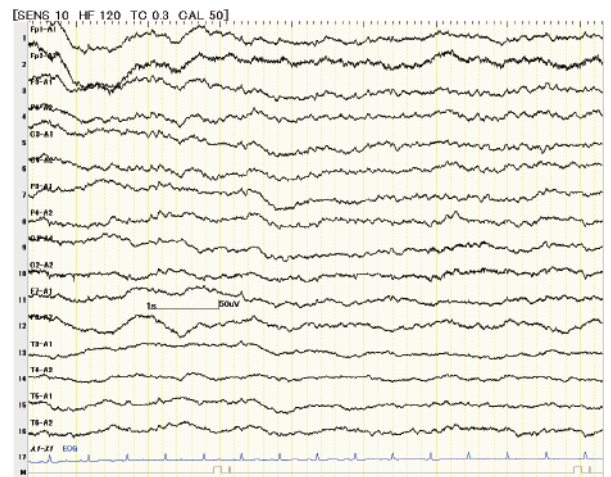
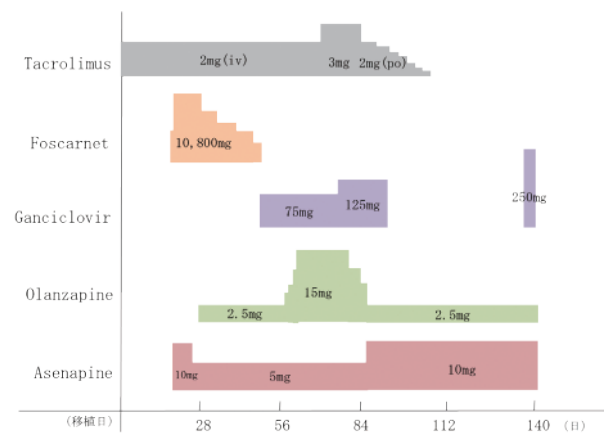


図5 経過中に使用した主な免疫抑制剤、抗ウイルス剤、向精神薬



II. 考察

造血幹細胞移植後のウイルス関連脳炎は重篤な合併症である。造血幹細胞移植後のHHV-6脳炎発症率は0.96～11.6%と様々であるが¹⁾、決してまれな疾患ではない。特に臍帯血移植 (cord blood transplantation (CBT)) は危険因子である²⁾。診断は髄液のPCRが有用で、頭部MRI画像 (大脳辺縁系に異常信号) も有用とされる³⁻⁶⁾。

発症時期は移植後2～6週間の比較的早期であることが多い^{3) 7-9)}。最も頻度が高いのは移植後3週目 (移植病日 21 付近) である^{3-4) 8-9)}。見当識障害や短期記憶障害に続いてけいれんや意識障害を生じ、GCV や FCN による適切な治療を行ったとしても、半数以上は死亡あるいは記憶障害などの重篤な後遺症を残すことが知られている¹⁰⁾。CBT など高リスク症例を対象として移植後早期に無条件にGCV や FCN を予防投与する試みも

行われているが、適切な対応策は今なお不明である¹¹⁾。

本症例では中枢神経症状を認め、髄液から HHV-6 が 10^6 copy/ml 以上認められたが、MRI 拡散強調画像では異常信号を認めなかった。FCN や GCV を投与し髄液検査で HHV-6 ゲノムが検出感度以下になったが、間欠的に生じる激しい搔痒、疼痛を伴う精神運動興奮、失見当識や減裂な言動が続き、診断と治療に苦慮した一例であった。検査上脳炎所見は消退したあとも、せん妄の経過と異なり週1回ひと晩だけ症状が出現した。同様の報告はこれまでなく、本症例に特徴的であった。

文 献

- 1) 安川正貴：造血幹細胞移植後 HHV-6 脳炎. 日本医事新報 4788 : 57, 2016
- 2) 石綿一哉, 加登大介, 内田直之 他：臍帯血移植後における HHV6 脳炎の検討. 臨床血液 50 : 901, 2009
- 3) Ogata M, Kikuchi H, Satou T et al. Human herpesvirus 6 DNA in plasma after allogeneic stem cell transplantation: incidence and clinical significance. J Infect Dis 193: 68-79, 2006
- 4) Muta T, Fukuda T, Harada M. Human herpesvirus-6 encephalitis in hematopoietic SCT recipients in Japan: a retrospective multicenter study. Bone Marrow Transplant 43: 583-585, 2009
- 5) Seeley WW, Marty FM, Holmes TM, et al. Post-transplant acute limbic encephalitis: clinical features and relationship to HHV6. Neurology 69: 156-165, 2007
- 6) Bhanushali MJ, Kranick SM, Freeman AF, et al. Human herpes 6 virus encephalitis complicating allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Neurology 80: 1494-1500, 2013
- 7) Ogata M, Satou T, Inoue Y, et al. Foscarnet against human herpesvirus (HHV) -6 reactivation after allo-SCT: breakthrough HHV-6 encephalitis following antiviral prophylaxis. Bone Marrow Transplant 48: 257-264, 2013
- 8) Zerr DM. Human herpesvirus 6 and central nervous system disease in hematopoietic cell transplantation. J Clin Virol 37: S52-S56, 2006
- 9) Ogata M, Oshima K, Ikebe T, et al. Clinical characteristics and outcome of human herpesvirus-6 encephalitis after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. Bone Marrow Transplant 52: 1563-1570, 2017
- 10) 緒方正男, 内田直之, 福田隆浩：造血細胞移植ガイドライン, ウイルス感染症の予防と治療, HHV-6. 日本造血細胞移植学会 monograph 50 : 10, 2018
- 11) 神田善伸：造血幹細胞移植診療実践マニュアル—データと経験を凝集した医療スタッフのための道標, 南江堂, 東京, 163, 2015

II. 症例報告

II. 2 多房性嚢胞を有する耳下腺原発粘表皮癌の診断に 穿刺吸引細胞診が有用であった1例

弘田大智¹⁾ 村井志織¹⁾ 井上友佳里¹⁾ 中彩乃¹⁾ 岡村俊佑¹⁾
吉田澄子¹⁾ 山下展弘¹⁾ 岡林美鈴²⁾ 勝山栄治²⁾
神戸市立医療センター西市民病院 ¹⁾臨床検査技術部 ²⁾病理診断科

要 旨

粘表皮癌 (mucoepidermoid carcinoma : MEC) は全唾液腺腫瘍の5%と比較的稀な腫瘍である。MECは病理組織学的に粘液産生細胞、類表皮細胞 (扁平上皮細胞)、未分化な小型の中間細胞の3種類から構成されており、その比率や細胞分化の程度により様々な形態を呈し、嚢胞形成もよくみられる。唾液腺腫瘍の診断において穿刺吸引細胞診は重要な役割を果たしているが、嚢胞を形成する腫瘍に対しての正診率は高くない。今回、われわれは大きな多房性嚢胞を有するにも関わらず、穿刺吸引細胞診でMECを疑えた1例を経験したので報告する。

症例は50歳代、男性。左耳下部腫脹増大を主訴に来院し、各種画像検査では隔壁を有する嚢胞と充実部からなる悪性腫瘍が疑われた。超音波検査を併用した充実部の穿刺吸引細胞診では、軽度重積した上皮細胞集塊の中に、粘液を有する細胞や中間細胞、扁平上皮様の細胞を認め、MECを疑った。切除標本では、粘液産生上皮を主として中間細胞に相当する細胞の混在した増生であり、粘表皮癌と診断した。

キーワード：粘表皮癌, 穿刺吸引細胞診, 多房性嚢胞

(神戸市立病院紀要 59 : 13 - 17, 2020)

Diagnosis of mucoepidermoid carcinoma forming a largemultilocular cyst in the parotid gland with fine needle aspiration cytology: A case report

Daichi Hirota¹⁾, Shiori Murai¹⁾, Yukari Inoue¹⁾, Ayano Naka¹⁾,
Shunsuke Okamura¹⁾, Sumiko Yoshida¹⁾, Nobuhiro Yamashita¹⁾,
Misuzu Okabayashi²⁾, Eiji Katsuyama²⁾

¹⁾ Department of Clinical laboratory, Kobe City Medical Center West Hospital, Hyogo, Japan

²⁾ Department of Pathology, Kobe City Medical Center West Hospital, Hyogo, Japan

Abstract

Mucoepidermoid carcinoma (MEC) is a relatively rare tumor, accounting for 5% of all salivary gland tumors. Histopathologically, MEC is composed of mucus-producing, epidermoid, and intermediate cells. Morphologically, MECs are extremely heterogeneous, depending on the ratio and the degree of differentiation. Cyst formation is common in MEC. Fine-needle aspiration cytology (FNAC) plays an important role in the diagnosis of salivary gland tumors, but its diagnostic accuracy for cystic tumors is low. Here, we report a case of suspected MEC on FNAC despite the presence of a large multilocular cyst.

A man in his 50's presented with swelling in the right subaural region. On computed tomography and ultrasonography, a malignant tumor, comprising a cyst with a septum and solid portion, was suspected. FNAC revealed mucus-producing, epidermoid, and intermediate cells and therefore, MEC was suspected. Histopathological examination revealed that the tumor was mainly a mixture of mucus-producing epithelial and intermediate cells. Hence, a diagnosis of MEC was made.

Key words : mucoepidermoid carcinoma, fine-needle aspiration cytology, multilocular cyst

(Kobe City Hosp Bull 59 : 13 - 17, 2020)

はじめに

粘表皮癌 (mucoepidermoid carcinoma : MEC) は全唾液腺腫瘍の5%と比較的稀な腫瘍である¹⁾。組織学的には粘液産生細胞、類表皮細胞(扁平上皮細胞)、未分化な小型の中間細胞の3種類から構成されており²⁾、その比率や細胞分化の程度により様々な形態を呈し³⁾、嚢胞形成もよくみられる。

穿刺吸引細胞診 (fine needle aspiration cytology : FNAC) は唾液腺腫瘍の診断において重要な役割を果たしているが、嚢胞性病変に対する診断精度は高くない⁴⁾。

今回われわれは、多房性嚢胞を有するにも関わらず、超音波検査を併用した充実性領域に対するFNACでMECを疑えた1例を経験したので、若干の文献の考察を加え報告する。

I. 症例

患者：50歳代、男性

主訴：左耳下部腫脹

既往歴：特記事項なし

家族歴：特記事項なし

現病歴：3ヵ月前から左耳下部の小さなしこりに気付いていたが放置していた。約1ヶ月前から徐々に腫脹増大を自覚し、当院皮膚科を受診したところ、耳下腺内の悪性腫瘍が疑われたため、診断および腫瘍切除目的で当院耳鼻咽喉科に紹介された。来院時の血液検査では特記すべき所見はなかった。超音波検査では、左耳介前部耳下腺の領域に40×30mmの境界明瞭、辺縁一部不整な腫瘤を認めた。腫瘤は隔壁を有する嚢胞性領域と血流豊富な充実性領域から構成されていた(図1A、B)。頸部造影CT検査では、左耳下腺下部に境界明瞭で内部に隔壁を有する嚢胞をもつ腫瘤を認めた(図2)。頸部領域に有意なリンパ節腫大は認めなかった。

超音波検査を参考に、腫瘤の充実性領域と嚢胞性領域からそれぞれ穿刺吸引細胞診 (fine needle aspiration cytology : FNAC) を施行した。充実性領域では、多数の赤血球と一部粘液をみる背景に軽度重積した上皮細胞集塊を散見した。集塊には粘液を有する細胞や扁平上皮様の細胞、中間細胞が混在しており、一部に核小体の腫大を認めた。やや核の大小不同は認めるものの、核形不整やクロマチンの増加は目立たなかった(図3A、B)。ギムザ染色では、metachromasyを呈する間質粘液は認めず、MECを疑った。

嚢胞性領域では、赤血球や粘液を背景に好中球主体の炎症細胞や組織球を散見するのみであり、上皮細

胞は確認できなかった。

画像所見とFNACの結果から、MECを疑い全身麻酔下に左耳下腺浅葉切除術が施行された。

病理所見

1. 肉眼所見：大小複数の嚢胞を形成し、白色充実性の腫瘍を認めた(図4)。
2. 組織所見：粘液産生上皮を主として中間細胞に相当する細胞の混在した増生でMECの所見であった(図5A)。嚢胞壁には同様の腫瘍細胞がわずかにみられる部分(図5B)があり、複数の嚢胞は腫瘍に伴う変化と考えた。嚢胞領域が多く、壊死、mitosisの増加、目立つ核異型性などなく、低悪性相当であった。腫瘍は周囲への浸潤所見に乏しく、切除断端部分への露出は確認されなかった。

術後経過：術後合併症なく経過し、約1年後の時点で腫瘍の再発はみられない。

図1：超音波検査

- A) 左耳下腺腫瘍内に隔壁を有する嚢胞性領域と
- B) 血流豊富な充実性領域 (矢印) を認める。



図1A

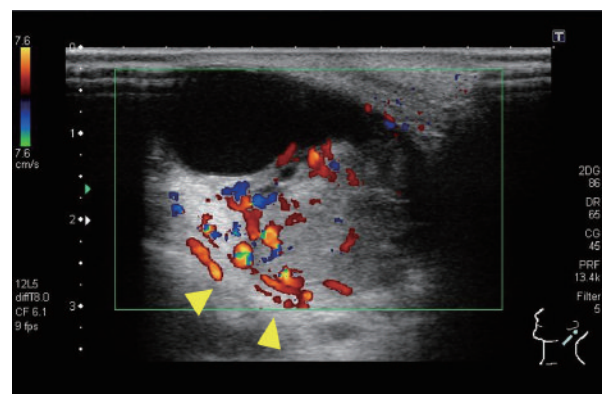


図1B

図 2：頸部造影 CT 検査

左耳下腺下部に隔壁を有する嚢胞をもつ腫瘤（矢印）を認める。

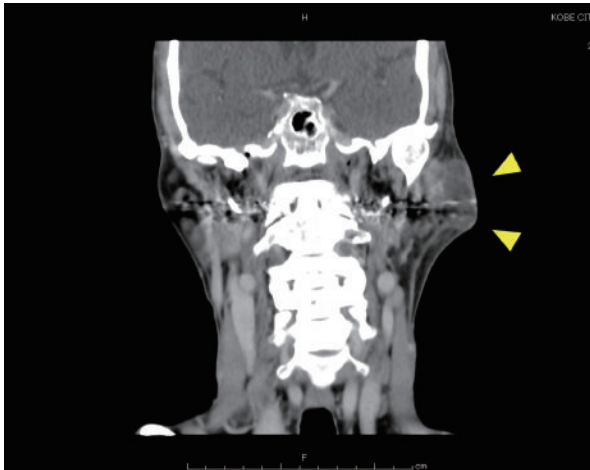


図 3：パパニコロウ染色像

A) 粘液を背景に上皮細胞集塊を認める。
B) 集塊には粘液を有する細胞や扁平上皮様の細胞、中間細胞が混在している。

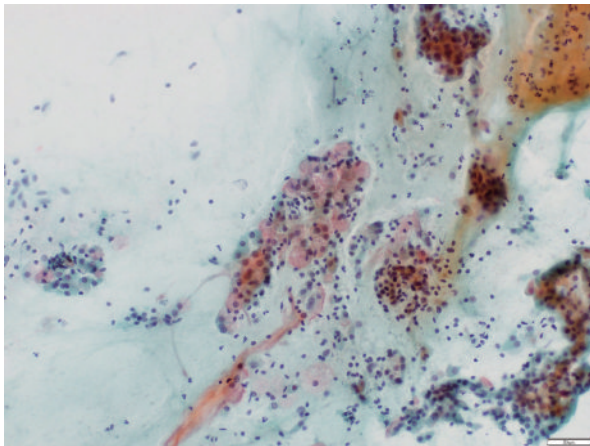


図 3 A

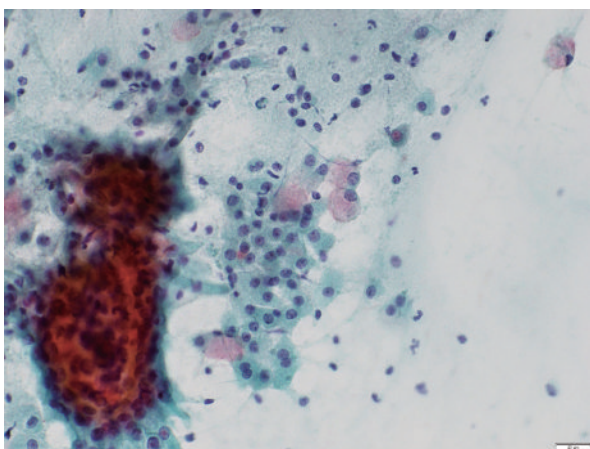


図 3 B

図 4：肉眼像

大小複数の嚢胞を形成し、白色充実性の腫瘍を認める。

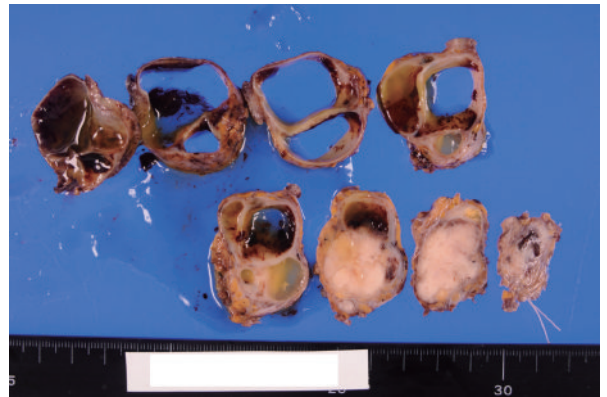


図 5：HE 染色像

A) 粘液産生上皮や中間細胞の混在した増生を認める、
B) 嚢胞壁に腫瘍細胞と同様の細胞がみられる。

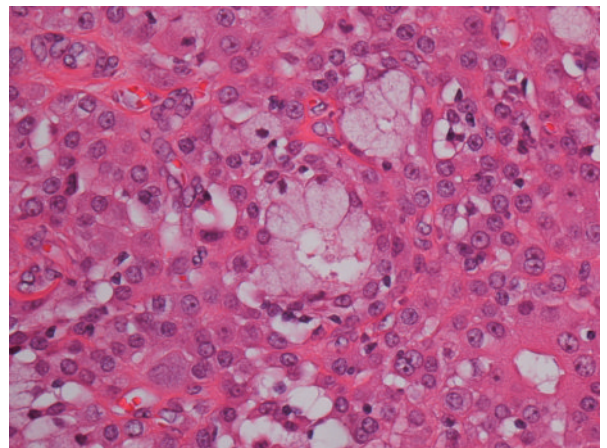


図 5 A

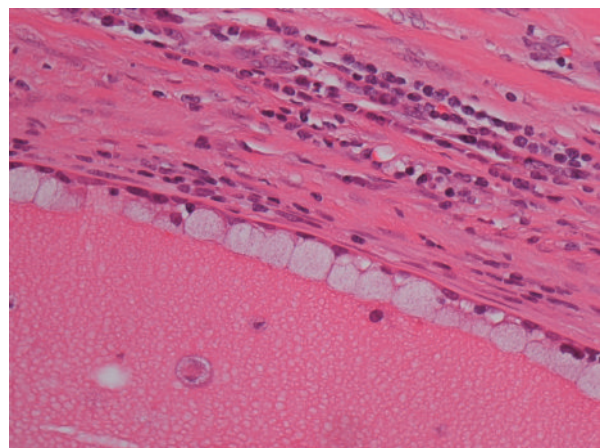


図 5 B

II. 考察

粘表皮癌（mucoepidermoid carcinoma：MEC）は 1945 年に Stewart ら⁵⁾ によって唾液腺上皮由来の良性腫瘍（mucoepidermoid tumor）として初めて報告された。しかし、一部の症例では局所再発や遠隔転移

をきたし予後不良となることから、1992年のWHO分類で粘表皮癌として唾液腺悪性腫瘍に分類された。

MECの発生頻度は10万人に0.1人、全唾液腺腫瘍の5%と稀ではあるが、唾液腺悪性腫瘍の20%を占め、子供から大人まで唾液腺原発の悪性腫瘍の中では最も頻度が高い。大唾液腺と小唾液腺に1:1の割合で発生し、大唾液腺の中では耳下腺に多い。男女比は3:2でやや男性に多い¹⁾。

緩徐な発育を示す硬い無痛性腫瘤として認められることが多いが、まれに急速に増殖し、粘膜や皮膚に潰瘍を形成、あるいは骨破壊をきたす場合もある。

本症例も男性で耳下腺に発生した無痛性の腫瘤であった。2ヶ月と比較的早い期間で増大を示したが、潰瘍形成や骨破壊は認めなかった。

MECは病理組織学的には粘液産生細胞、類表皮細胞(扁平上皮細胞)、未分化な小型の中間細胞の3種類から成り、その比率や細胞分化の程度により様々な形態を呈する。Goodeら⁶⁾は、それまでに報告された悪性度分類をふまえて、予後不良因子としての病理組織学的な要素を点数化し、嚢胞成分の割合が20%未満を2点、神経周囲浸潤があれば2点、壊死があれば3点、強拡大10視野あたりの核分裂像が4個以上あれば3点、退形成があれば4点とし、その合計点数が4点以下を低悪性、5~6点を中等度悪性、7点以上を高悪性として分類した。

本症例は粘液産生上皮を主として中間細胞に相当する細胞の混在した増生であった。嚢胞領域が多く、神経周囲浸潤や壊死、核分裂像の増加、目立つ核異型性などはなく、低悪性相当であった。

唾液腺腫瘍において、FNACは簡便性、非侵襲性、安全性、迅速性および低コストなどの利点から術前の良悪性の鑑別ならびに組織型推定目的に広く行なわれている⁷⁾。その診断精度は、感度70-90%、特異度86-100%、偽陰性5-10%、偽陽性0-6%と術中迅速組織診断の精度にほぼ匹敵するとされている⁴⁾。

しかし唾液腺腫瘍を代表する多形腺種やワルチン腫瘍のFNACでの正診率はそれぞれ90.3%、95.5%⁷⁾と良好であるのに対し、MECの正診率は50%とかなり低い⁸⁾。

Tesseyら⁹⁾はMEC6例中4例、Inら¹⁰⁾も6例中4例を偽陰性で報告したとしている。FNACによるMECの偽陰性例は多くみられ、われわれが検索した中でもMEC33例中13例が偽陰性として報告されており、内訳は多形腺種が6例、嚢胞が4例、粘液嚢胞、ワルチン腫瘍、慢性唾液腺炎がそれぞれ1例であった⁹⁻¹²⁾。

MECの中でも特に低悪性型はFNACによる診断が最も困難な腫瘍の一つであり、偽陰性となる危険性が指摘されている^{9) ,13)}。

低悪性型MECではしばしば嚢胞形成を示すが、唾液腺の嚢胞性病変では検体中の細胞数が少ないことなどの原因により¹⁴⁾ FNACの診断率は低く¹⁵⁾、低悪性型MECがFNAC診断において偽陰性となる大きな原因と考える。

本症例でも、嚢胞性領域では赤血球や粘液を背景に好中球主体の炎症細胞や組織球を散見するのみであり、上皮細胞は確認できなかったが、充実性領域では粘液を背景に多数の粘液を有する細胞や扁平皮様の細胞、中間細胞を認めたためMECを疑い得た¹⁶⁾。

今回、大きい嚢胞を形成した腫瘍であったにも関わらず、術前にFNACでMECを疑えた理由としては、超音波検査を併用して充実性領域を穿刺できたからだと考える。Nasutiら¹⁷⁾も、超音波検査下に嚢胞液をすべて抜きとってから充実性腫瘍部の穿刺を行なうことで83%の高い正診率を得たと報告し、充実性部分からの標本採取の重要性を報告している。

嚢胞を有する唾液腺腫瘍の診断には、超音波検査を併用し充実性領域を穿刺するFNACが有用である。

III. 結語

今回、大きな多房性嚢胞を有する粘表皮癌の1例を経験した。その診断に超音波検査を併用した充実性領域の穿刺吸引細胞診が有用であった。

文献

- 1) 稲垣 宏, 中山崇久: 粘表皮癌: 特異的遺伝子異常とその臨床病理学的意義. Nagoya Med. J 51: 101-105, 2010
- 2) Brandwein-Gensler M, Bell D, Inagaki H, et al: World Health Organization Classification of Tumors, Pathology and Genetics, Head and Neck Tumors, 4th ed, WHO, Switzerland, 163-164
- 3) 川井弘光: 唾液腺腫瘍アトラス. 第3版, 金原出版, 東京都, 89-95
- 4) 鐵原拓雄, 伊禮 功, 広川満良, 他: 唾液腺の穿刺吸引細胞診 - 嚢胞性病変におけるピットフォール - J Jpn Soc Clin Cytol 41: 56-61, 2002
- 5) Stewart FW, Foote FW, Becker WF, et al: Mucoepidermoid tumors of salivary glands. Ann Surg 122: 820-844, 1945
- 6) Goode RK, Auclair PL, Ellice GL, et al: Mucoepidermoid carcinoma of the major salivary

- glands: clinical and histocytologic analysis of 234 cases with evaluation of grading criteria. *Cancer* 82: 1217-1224, 1998
- 7) 山田光一郎, 佐藤進一, 土師知行: 唾液腺腫瘍における穿刺吸引細胞診の有用性. *頭頸部外科* 24: 341-345, 2014
- 8) Pitts DB, Hilsinger RL, Jr Karandy E, Ross JC, et al: Fine-needle aspiration in the diagnosis of salivary gland disorders in the community hospital setting. *Arch Otolaryngol Head Neck Surg* 118: 479-482, 1992
- 9) Joseph TP, Joseph CP, Jayalakshmy PS, et al: Diagnostic challenges in cytology of mucoepidermoid carcinoma: Report of 6 cases with histopathological correlation. *J Cytol* 32: 21-24, 2015
- 10) Song IH, Song JS, Sung CO, et al: Accuracy of core needle biopsy versus fine needle aspiration cytology for diagnosing salivary gland tumors. *J Pathol Transl Med* 49: 136-143, 2015
- 11) Sarkar A, Sharma N, Shaema S, et al: Fine needle aspiration cytology utility in salivary gland tumor diagnosis. *Indian J Otolaryngol Head Neck Surg* 69: 147-154, 2017
- 12) Arul P, Akshatha C, Suresh Masilamani, et al: Diagnosis of salivary gland lesions by fine needle aspiration cytology and its histopathological correlation in a Tertiary care center of Southern India. *J Clin Diagn Res* 9: EC07-10, 2015
- 13) Hughes JH, Volk EE, Wilbur DC, et al: Pitfalls in salivary gland fine-needle aspiration cytology: lessons from the College of American Pathologists Interlaboratory Comparison Program in nongynecologic cytology. *Arch Pathol Lab Med* 129: 26-31, 2005
- 14) Pantanowitz L, Thompson LDR, Rossi ED, et al: Diagnostic approach to fine needle aspirations of cystic lesions of the salivary gland. *Head Neck Pathol* 12: 548-561, 2018
- 15) Allison DB, Mc Cuiston AM, Kawamoto S, et al: Cystic salivary gland lesions: utilizing fine needle aspiration to optimize the clinical management of a broad and diverse differential diagnoses. *Diagn Cytopathol* 45: 800-807, 2017
- 16) Kumar N, Kapila K, Verma K: Fine needle aspiration cytology of mucoepidermoid carcinoma. A diagnostic problem. *Acta Cytol* 35: 357-359, 1991
- 17) Nasuti JF, Yu GH, Gupta PK: Fine needle aspiration of cystic parotid glands lesions: an institutional review of 46 cases with histologic correlation. *Cancer* 90: 111-116, 2000

III. C P C 報 告

Ⅲ. CPC 報告

Ⅲ. 1 CPC 報告(2019年4月～2020年3月) (中央市民病院)

第1回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ：透析アミロイドーシスを背景に菌血症を合併し、不整脈により急死した一例

2. 診療科：総合内科
主治医・受持医：進藤達也、水野泰志、吉崎亜依沙、嶋田有里、西岡弘晶

3. CPC開催日：2019年4月17日

4. 発表者：臨床側（総合内科 進藤達也
初期研修医 木村拓哉）
病理側（山下大祐 初期研修医
加藤大翼）

5. 患者：78歳、女性

6. 臨床診断：①顕微鏡的多発血管炎 ②人工弁感染心内膜炎

7. 剖検診断：①菌血症
(血液培養：Staphylococcus aureus,
Streptococcus α -streptococcus,
Pseudomonas aeruginosa 陽性)
肺炎（右肺下葉、左肺下葉）
大動脈弁置換術後、僧帽弁形成術後（明らかな感染性疣贅はなし）
②急速進行性糸球体腎炎 / 透析腎
③透析アミロイドーシス

8. 臨床情報：

1) 現病歴

入院3か月前に特別養護老人ホームに入所した。入所時から食欲不振が持続していた。

入院2か月半前に腰痛が出現、精査にて第3腰椎圧迫骨折を指摘され、保存的加療の方針となった。その後も食欲不振が持続した。入院前日に近医受診し、血液検査にて炎症反応高値を指摘され、当院総合内科外来を紹介受診した。

2) 既往歴・家族歴など

大動脈弁狭窄症（2012年 AVR,MVP,CABG 術後）
ANCA 陰性 RPGN（2009年腹膜透析→血液透析）
胃癌（2010年に胃全摘術）、関節リウマチ、腰椎圧迫骨折、両膝人工関節置換術後

3) 診察所見

身長 146.7cm, 体重 35.7kg, るい瘦著明

血圧 130/76mmHg, 脈拍数 84 回 / 分 (整), RR16 回 / 分, SpO2 98% (室内気), 体温 38.2℃

GCS : E4V5M6

眼瞼結膜：出血斑なし、口腔内：粘膜疹 / 咽頭発赤 / 扁桃腫大なし

頸部：リンパ節腫大なし

心音：3 LSB を最強点とする汎収縮期雑音、

呼吸音：両側清

腹部：平坦, 軟, 圧痛なし, Murphy 徴候なし, 肝叩打痛なし

背部：脊柱叩打痛なし、両側 CVA 叩打痛なし

四肢：四肢全体に紫斑が散在する、右前腕にシャントあり、周囲に紫斑を認めるが、発赤・熱感はなし

右手指に痂皮を伴う皮疹が散在、左足底部に圧痛のない紫斑あり、両側下腿に浮腫あり、右左それぞれに1か所ずつ1-2cmの潰瘍あるが、発赤、熱感、膿汁なし

4) 検査データ

WBC 9000/ μ L, RBC $428 \times 10^4 / \mu$ L, Hb 12.4g/dL, PLT $4.6 \times 10^4 / \mu$ L, PT-INR 1.18, APTT 38.6sec, Alb 2.2g/dL, AST 20U/L, ALT 9 U/L, LD 353U/L, BUN 21.8mg/dL, Cre 2.05mg/dL, Na 139mEq/L, K 4.4mEq/L, Ca 8.1mg/dL, Mg 2.0mg/dL, Glu 95mg/dL, CRP 21.11mg/dl, コルチゾール 19.9 μ g/dL, TSH 1.33U/mL, FT4 1.21ng/dL, フェリチン 158.0ng/mL, MPO-ANCA <0.5 IU/mL, PR3-ANCA <0.5 IU/mL, T-SPOT 陰性

5) 画像診断所見

・ ECG : HR 83 回 / 分、洞調律、左軸偏位

・ Xp : 右下肺野浸潤影、両側 CP angle dull、心拡大なし

・ 胸腹部造影 CT

両側胸水あり、L3, Th12 に骨折あり。硬化は認めず、新規骨折や感染に伴う病的骨折の可能性あり、上行結腸壁に浮腫状変化、右上肢のシャント血管に血栓なし、明らかな膿瘍形成 / 塞栓なし

・ 経胸壁心エコー

大動脈弁、僧帽弁：疣腫を疑う構造物

6) 経過・治療

人工弁感染心内膜炎を第一に疑った。心不全徴

候はなく、胸腹部頭部 CT にて確認可能な塞栓はないことから、手術適応はないと考えられた。またバイタルは安定しており、経食道心エコー検査および血液培養の結果を見て、抗菌薬投与を行う方針となった。

第4病日：午前7時50分に看護師が訪室し、一旦退室。数分後に帰室すると、GCSE 1 V 1 M 5 と意識レベルが低下。心拍数 約 40 回 / 分(夜間は約 80 回 / 分)、収縮期血圧 72mmHg で、橈骨動脈は触知しなかった。午前9時5分、死亡確認された。

7) 手術所見：なし

8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

- ①心室細動をきたした原因は何か。
- ②発熱 / 炎症反応高値の原因は何か。

9) 剖検情報：

①剖検診断と病理所見

<主病変>

- (1)菌血症(血液培養：Staphylococcus aureus, Streptococcus a -streptococcus, Pseudomonas aeruginosa 陽性)
- (2)肺炎(右肺下葉、左肺下葉)
- (3)大動脈弁置換術後、僧帽弁形成術後(感染性疣贅なし)
- (4)急速進行性糸球体腎炎 / 透析腎
- (5)透析アミロイドーシス
- (6)胃癌術後(2010年胃全摘術後) 再発なし

<副病変>

- (1)出血傾向・血小板減少(紫斑・腹腔内出血、大腸粘膜内出血)
- (2)大腸びらん(CD toxin 陽性)
- (3)動脈硬化(動脈内膜肥厚、左前下行枝 50% 狭窄)
- (4)廃用委縮(腸腰筋)
- (5)胸水
- (6)術後癒着(縦隔、心嚢、上腹部)
- (7)るいそう
- (8)副腎委縮

②担当病理医：山下大祐

10. 考 察

70歳代女性の症例。炎症反応高値の原因としては、下大静脈の血液培養から Staphylococcus aureus, a -streptococcus, Pseudomonas aeruginosa が 2/2 セットで検出されており、菌血症と考える。弁置換術後であり、人工弁置換術後感染性内膜炎を念頭に検索したが、弁に石灰化はみられたが、グラム染色などで明ら

かな感染性疣贅は認めなかった。感染の focus としては肺に局所的に好中球浸潤および球菌塊を認め、局所の肺炎から菌血症に至った可能性が考えられた。大腸にびらん、出血を認めたが、検出された菌種からは感染源とは考えにくく、血小板減少に伴う粘膜出血を考える。結核を疑う壊死性類上皮肉腫は認めなかった。腎臓は透析腎で糸球体は荒廃しており、急速進行性糸球体腎炎の再燃などは認めなかった。諸臓器の血管周囲や腎実質、甲状腺にアミロイドの沈着を認め、左室の小血管周囲にもアミロイド沈着がみられた。アミロイド沈着は血管周囲にとどまり、心筋間などにはみられないため積極的に不整脈の原因とはいえないものの、透析アミロイドーシスが不整脈の誘因となった可能性は考えられる。

【症例2】

1. 症 例 テ ー マ：血管内大細胞型 B 細胞性リンパ腫に敗血症性ショックを合併し死亡した一例
2. 診 療 科：血液内科
主治医・受持医：林克磨、唐渡修一郎、森田真梨、平本野展大、石川隆之
3. CPC 開催日：2019年4月17日
4. 発 表 者：臨床側(総合内科 進藤達哉
初期研修医 木村 拓哉)
病理側(山下大祐 初期研修医
加藤大翼)
5. 患 者：78歳、女性
6. 臨 床 診 断：血管内大細胞型 B 細胞性リンパ腫、敗血症
7. 剖 検 診 断：①血管内大細胞型 B 細胞性リンパ腫
②敗血症性ショック
8. 臨 床 情 報：
 - 1) 現病歴
3週間前、抜歯後の抗生剤(AMPC)投与後以降、倦怠感と下痢が継続した。2週間前、発熱・倦怠感が続くため近医にて入院加療となった。11日前、意識障害、腎障害、肝障害あるため前医転院となり、ハイドロコルチゾン 200mg/日 で解熱した。前日より意識障害とアシデミアが悪化し透析開始し、当院搬送となった。PLT 低下 / LDH 上昇、骨髄穿刺からリンパ腫細胞疑われ血液内科転科となった。
 - 2) 既往歴・家族歴など
甲状腺機能低下、シェーグレン症候群、高血圧、胆石症

3) 診察所見

身長：150 cm 体重：64 kg

A：挿管

B：RR23,SpO2 98% (A/C VC FiO2 50% PEEP 8 Vt 430)

C：BP 134/76 HR 87 (Nad 3mL/hr)

D：GCS E 1 VtM4 (問いかけにうなづく程度)

E：来院時体温 36.4 度

瞳孔 3mm/3mm 対光反射 +/+ 迅速ではない

眼瞼結膜 蒼白なし 眼球結膜 黄染あり

頸部 右頸部に FDL リンパ節触知せず

呼吸音 両下肺野で低下 心音 聴取難

腹部 膨満 軟 両季肋部触診で顔しかめ

四肢浮腫あり

4) 主な検査データ

WBC 7600/ μ L, RBC 292×10^4 / μ L, Hb 8.4g/dL, MCV 93 fL, PLT 3.6×10^4 / μ L, PT-INR 5.99, APTT >200 sec, TP 4.2 g/dl, Alb 2.4g/dL, T-bil 2.0mg/dL, AST 2469 U/L, ALT 581U/L, LD 3145U/L, ALP 487 U/L, γ -GTP 47 U/L, CK 1300U/L, AMY 35U/L, BUN 41.0mg/dL, Gre 1.67mg/dL, Na 134mEq/L, K 4.6mEq/L, Cl 98mEq/L, Ca 6.9mg/dL, Glu 46mg/dL, CRP 3.85mg/dl, 血液ガス：PH 6.919, P CO2 33.4, P O2 104.2, HCO3 6.5, AG 18.3, Lac 16.0

5) 画像診断所見

- ・ ECG：HR 71、洞調律、QT 延長
- ・ Xp：右下肺野透過性低下 両側 CP angle dull
- ・ CT：両側胸水あり 脾腫なし 肝臓軽度腫大 皮下浮腫あり

6) 経過・治療

入院後、プレドニゾロン 100mg/日を先行投与開始、第4病日にデキサメタゾン 40mg/日に変更した。第6病日、2日間シクロホスファミド 300mg/m²を投与後、肝逸脱酵素は改善傾向であったが黄疸の改善はなく、DIC 進行。第8病日、乳酸値の上昇/培養採取後にメロペネムとバンコマイシンとミカファンギンを開始。第10病日、Enterococcus faecium 2/4本陽性判明。回路内が凝固して透析施行不可となった。第11病日、withdrawの方針とし、多臓器不全で死亡退院となった。

7) 手術所見：なし

8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

- ①診断は血管内リンパ腫でよいか

②血管内リンパ腫ならどの臓器に浸潤していたか

③ Enterococcus faecium 菌血症の主たる感染巣はどこか

9. 剖検情報：

①剖検診断と病理所見

<主病変>

(1)血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫

(2)敗血症性ショック

2-1. ショック肝

<副病変>

(1)腹水症 [胸水 (右:400ml, 左:500ml), 腹水:1000ml]

(2)腹膜炎 (大網・脾臓表面)

(3)左肺動脈内血栓

(4)動脈硬化

②担当病理医：吉田 誠

10. 考 察

諸臓器の血管内を中心に CD20 陽性のリンパ腫細胞が広範に拡がっていた。さらに血球貧食および急性脾炎を呈しており、臨床情報と合わせて敗血症性ショックと考えた。感染源は明らかではなかった。副腎は重量が保たれており、組織学的にも壊死変性は目立たなかった。一方、周囲血管内には腫瘍が充満していた。ショックに伴う循環血流量の低下とあわせた、複合的な原因の結果、副腎機能低下に至ったと考える。同様に腫瘍は脳実質へ浸潤していないものの、血管内に腫瘍細胞が散見され、ショックに合併する肝不全とあわせた結果、意識障害となったと考える。本症例では IVL を基礎疾患として、ショックを経て多臓器不全に至ったのが直接死因と考える。

第2回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ：ウイルス性ならびに細菌性肺炎による呼吸不全により死亡した1例
2. 診療科：呼吸器内科
主治医・受持医：平林亮介、鄭浩柄、青山直樹、林克磨、富井啓介
3. CPC開催日：2019年6月19日
4. 発表者：臨床側(呼吸器内科 平林亮介 初期研修医 那須愛)
病理側(吉田誠 初期研修医 福見アウエイ)
5. 患者：77歳、男性

6. 臨床診断：① HIV 感染症 ②肺炎
7. 剖検診断：
肺炎（CMV によるウイルス性肺炎および細菌性肺炎疑い・加療後）
- ・びまん性肺胞障害（急性期から器質化期）
 - ・肺胞出血（軽度から中等度：下葉やや優位）
 - ・胸水（淡黄色透明 右：200ml, 左：150 ml）

8. 臨床情報：

1) 現病歴

入院1ヶ月前に下腿浮腫が徐々に増悪。入院当日、トイレに行った後に呼吸苦を自覚。安静で軽度改善したが、少しの体動で呼吸苦が再燃し救急要請となった。

2) 既往歴・家族歴など

X-23年 T2DM 腎機能低下あり透析打診
X-13年 HIV 感染・AIDS 指摘
X-8年 大腸癌、回盲部腫瘍切除
X年 舌がん、舌部分切除

3) 診察所見

身長：155cm, 体重 55kg, BMI 22.8,
血圧 117/49mmHg, 脈拍 90/分・整・b, 呼吸数 31/分, SpO₂ 82% (RA) (6L リザーバマスクで 96% に), 体温 35.6°C
意識清明 呼吸音：両側呼気 雑音+ 下腿浮腫 +/+

4) 主な検査データ

[動脈血液ガス (6L/min)]
PH(動脈)7.434, PCO₂ 20.6 mmHg, PO₂ 112.8mmHg, HCO₃-13.6mmol/L, cLac2.4mmol/L, WBC5.9 × 10³/μL, Hb6.3g/dL, MCV118fl, Plt5.0 × 10⁴/μL, Alb2.9g/dL, T-Bil1.6mg/dL, AST100U/L, ALT 75U/L, LD 649U/L, CK 392U/L, CK-MB 17.4U/L, BUN 31.7mg/dL, Cre 1.49mg/dL, CRP 1.17mg/dL, KL-6 127U/mL, B-D グルカン <6.0 pg/mL, CD4+T 数 91/μL

5) 画像診断所見

[胸部 XP]：両側中枢側を中心に肺実質影増強
[ECG]：洞調律、88bpm、ST 変化なし
[胸部 CT]：両肺中枢側優位に陰影の増強 少量の胸水/腹水

6) 経過・治療

患者背景と胸部 XP/CT 所見から感染、出血が考えられた。PIPC/TAZ+AZM, 利尿薬、輸血、NIV での加療を開始した。第3病日、CMV アンチゲネミア陽性となった。呼吸不全の原因として

肺胞出血、CMV 肺炎および感染症、異型肺炎を含む市中肺炎、PCP が疑われ、ホスカルネット、AZT, LVFX を投与した。第9病日、全身状態改善傾向。薬剤性が疑われる肝酵素上昇、血小板減少を認めた。被疑薬のホスカルネット、LVFX (10日治療) 中止。第11病日、全身状態改善し EICU 退室。第13病日、経腸栄養を嘔吐、その後呼吸状態悪化し、第15病日、死亡確認。

7) 手術所見：なし

8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

- ①呼吸状態悪化の原因
入院時の呼吸状態悪化の原因
再増悪の原因
- ② CMV 感染症を含む日和見感染症の所見はあるか？
- ③以前より認めていた肝硬変の原因

9. 剖検情報：

①剖検診断と病理所見

<主病変>

(1)肺炎（CMV によるウイルス性肺炎および細菌性肺炎疑い・加療後）

1-1：びまん性肺胞障害（急性期から器質化期）(両肺上葉)(右:370g, 左:350 g)

1-2：肺胞出血（軽度から中等度：下葉やや優位）

1-3：胸水（淡黄色透明 右：200ml, 左：150ml）

<副病変>

(2)左室急性及び陳旧性心筋梗塞（前壁から側壁にかけて）(375 g)

(3)肝細胞脱落（薬剤性肝障害ないしは心下原性ショック）(913 g)

3-1：肝うっ血

3-2：門脈圧亢進症

3-2-1：脾腫 (212g)

(4)両側良性腎硬化症

(5)大動脈粥状硬化症

(6)諸臓器粘膜うっ血

(7)腹水（淡黄色透明 500ml）

(8)舌癌及び大腸癌の再発・転移なし

②担当病理医：吉田 誠

10. 考察

病理所見からは、ウイルス性肺炎及び細菌性肺炎によって引き起こされたびまん性肺胞障害や肺胞出血の進行が致死的な呼吸困難につながったと考えられた。一方で、入院時の急性発症の呼吸苦、肺の

butterfly shadow は左室の急性心筋梗塞と心不全で説明がつくと考えた。

組織学的には、両側肺では広範に肺炎、びまん性肺胞障害、肺胞出血の所見が観察された。免疫組織学的にはCMV染色、グラム染色、Grocott染色、PAS染色では、起病菌やウイルスは検出されなかったが、細菌性肺炎やCMVによるウイルス性肺炎があったとして矛盾しない所見と考えた。左室の前壁から側壁にかけて急性及び陈旧性心筋梗塞の像が散見された。肝臓では、肝細胞脱落が目立ち、過去の薬剤性肝障害や上記の急性心筋梗塞による心原性ショックを原因に疑う。その他に、両側良性腎硬化症、大動脈粥状硬化症、諸臓器うっ血等が指摘されたが、死因とは直接は関係ないと考えた。

【症例2】

1. 症例テーマ：急性骨髄性白血病に菌血症を併発、呼吸状態が悪化し死亡した例
2. 診療科：血液内科
主治医・受持医：森拓人、小野祐一郎、松下章子、石川隆之
3. CPC開催日：2019年6月19日
4. 発表者：臨床側（血液内科 森拓人 初期研修医 渡部博明）
病理側（山下大祐 初期研修医 鎌田賢昇）
5. 患者：66歳、男性
6. 臨床診断：急性骨髄性白血病
7. 剖検診断：①血MDS overt leukemia
②アスペルギルス感染症
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴
2016年11月健康診断で血球減少を指摘され、同年12月2日MDS-RCMDと診断。
2017年3月 プリモボラン、9月からシクロスポリン（CyA）＋プレドニン（PSL）で加療されるも血球減少進行。AzaC適応と診断されたが同意得られず、11月からEpo治療を行ったが効果無く、年末に感染症をおこした。
2018年1月PC10単位、RCO2単位輸血。
2018年1月転居に伴い当院へ紹介受診。
同日の骨髄穿刺で白血病化が確認され、血液内科へ予定入院。
 - 2) 既往歴・家族歴など
2015年 胸椎破裂骨折（T11,12）に対して

T9-L2 後方除圧固定術

後遺症による両下肢対麻痺、膀胱直腸障害

3) 診察所見

体重 63.7kg

体温 36.8℃ 脈拍数 99 bpm, 血圧 134/78 mmHg,

SpO₂ 99%

眼瞼結膜 やや蒼白、眼球結末 黄染はない

頸部、腋窩にリンパ節腫脹はない

心音 整、雑音はない、肺音 清

腹部は平坦・軟 肝臓・脾臓は触れない

下肢に運動障害（MMT 4）、異常感覚（しびれ）を認める

皮疹・浮腫は認めない

4) 主な検査データ

・骨髄穿刺 初診日

Erythroid 40%, Myeloid 52%, myeloblast agranular 49.8%

やや過形成骨髄 異形成は小型巨核球、多核正染色赤芽球、巨赤芽様変化があり、腫瘍細胞の増生がある。腫瘍細胞の形態は中型から大型サイズの核形不整、切れ込みがあり、空胞を有している。

G band 46,XY,+1,der (1;7) (q10;p10) [20]

・血液検査 入院日

TP 7.3 g/dL, Alb 3.7 g/dL, Glob 3.6 g/dL, T-Bil 0.7 mg/dL, AST 84 U/L, ALT 149 U/L, LD 314 U/L, ALP 394 U/L, LAP 172 U/L, γ -GT 200 U/L, ChE 233 U/L, CK 167 U/L, アミラーゼ 50 U/L, BUN 25.1 mg/dL, Cre 0.91 mg/dL, 尿酸 3.9 mg/dL, Na 138 mEq/L, K 4.3 mEq/L, Cl 102 mEq/L, Ca 8.3 mg/dL, TG 88 mg/dL, T-Cho 132 mg/dL, CRP 13.89 mg/dL, GLU 106 mg/dL, 推算 GFR 65 mL/min/1.73m², WBC $1.0 \times 10^3/\mu\text{L}$, RBC $286 \times 10^4/\mu\text{L}$, Hb 9.4 g/dL, Ht 28.0 %, MCV 98 fl, Plt $1.3 \times 10^4/\mu\text{L}$, Blast 6.0 %, Promyelo. 0.0 %, Myelo. 0.0 %, Meta. 0.0 %, Band. 0.0 %, Seg. 5.0 %, Lymph. 84.0 %, Mono. 1.0 %, Eos. 1.0 %, Baso. 1.0 %, Total 100 %, Ebl. 0 /100WBC), 総好中球 30 / μL , Fib-濃度 568 mg/dL, Dダイマー 0.55 $\mu\text{g/mL}$,

5) 画像診断所見

・心電図

HR 106, NSR, Saddleback型ST上昇（右胸部）

・頸部-胸部造影CT

肝腫大あり、右上顎洞に粘膜肥厚あり、両肺胸膜直下に軽度の線維化あり、脾実質は委縮

6) 経過・治療

DNR/AraC で治験開始。治療 8 日目、発熱あり抗菌剤開始 (CFPM)、血培採取。血培からは 4/4 *a* -Streptococcus を検出。治療 11 日目、G-CSF75 μ g 開始、熱型安定せず、抗生剤を適宜変更するも改善は得られず。頸部-胸部造影 CT では膿瘍形成など無く明らかな熱源は認められなかった。治療 17 日目、骨髄穿刺再検。腫瘍細胞を 72.4% 認め、原病の進行と判断。これをもって治験は終了とした。治療 18 日目朝、突然酸素化が低下。Xp 上無気肺、原因は誤嚥によるものと考えた。治療 23 日目死亡。

7) 手術所見：なし

8) 症例の問題点

- ①直接死因は AML でよいか？
- ②急激な呼吸状態の変化(無気肺)の原因は何か？

9. 部 検 情 報：

①部検診断と病理所見

<主病変>

- (1) MDS overt leukemia
- (2) アスペルギルス感染症
左肺、左胸壁の広範囲、大動脈周囲組織、左肺底側の横隔膜

<副病変>

- (1) 心外膜炎
- (2) 膀胱炎
- ②担当病理医：山下大祐

10. 考 察：

60 歳代男性、臨床的に MDS overt leukemia の症例。死亡 3 週間前に菌血症、更に全身の疼痛を訴えていた。また死亡 1 週間前には芽球が 70% を占めていたとのこと。呼吸状態の悪化を経て死亡した。部検時には、特に左胸腔を中心とする粟粒結核を疑うような大きさが揃った小粒状結節を多数認めた。呼吸不全の原因になり得ると考えた。組織学的には乾酪壊死と考えられた部位に一致して多数のアスペルギルスが集簇していた。また、骨髄の組織像は芽球の増生が視認し難く、MDS と考えた。原病の増悪により全身予備能が低下、さらにアスペルギルス感染症の併発により最終的に呼吸不全を来し死亡したものとする。

第 3 回中央市民病院 CPC 報告

【症例 1】

1. 症 例 テ ー マ：感染性内膜炎からショック状態となり死亡した 1 例
2. 診 療 科：総合内科
主治医・受持医：林 克磨、吉崎亜衣沙、志水隼人、西久保雅司、西岡弘晶
3. CPC 開催日：2019 年 8 月 21 日
4. 発 表 者：臨床側（総合内科 前川和輝 初期研修医 岡 俊吾）
病理側（塚本信哉 初期研修医 山下大祐）
5. 患 者：81 歳、女性
6. 臨 床 診 断：①感染性心内膜炎
②敗血症性ショック
7. 剖 検 診 断：感染性心内膜炎
敗血症
化膿性脊髄炎
8. 臨 床 情 報：
 - 1) 現病歴
X- 2 週近医整形外科で両膝のヒアルロン酸関節注射を施行した。
X- 2 日昼過ぎに長男が会ったときには特に普段と変わりなく問題なかった。患者本人はその頃から倦怠感と頻尿、尿混濁を自覚していたが、発熱や排尿時痛、残尿感はなかった。X- 1 日 14 時に長男が訪問したところ、患者が仰臥位で倒れていたが、10 分後には自分で歩いてトイレに行けるようになった。一度離れて 1 時間後に再度訪問すると椅子に座って普通に過ごしており、会話も可能であったため長男は帰宅した。
X 日 8 時 30 分に長男が訪問したところ、前日と同じ場所に仰臥位で倒れていた。救急要請を行い、当院 ER を受診、septic shock+hypovolemic shock として集中治療目的に ICU 入室、総合内科入院となった。
 - 2) 既往歴・家族歴など
心房頻拍、心房粗動（アブレーション後）、発作性上室頻拍症（PSVT）、洞不全症候群（SSS）、大動脈弁閉鎖不全症（AR）、僧帽弁閉鎖不全症（MR）、三尖弁閉鎖不全症（TR）、脂質異常症、肺結核症、突発性難聴
 - 3) 診察所見
身長：133cm, 体重 36.5kg, BMI 20.6, るいそうあり
体温 39.9℃, 血圧 118/62 mmHg (NAD 0.43 γ),

脈拍数 86 /min (不整), 呼吸数 24 /min, SpO₂ 97% (RA), sick な印象

4) 主な検査データ

WBC $15.6 \times 10^3 / \mu\text{L}$, Hb 13.7 g/dL, MCV 89 fL, MCHC 32.0 %, Plt $21.0 \times 10^4 / \mu\text{L}$, TP 6.4 g/dL, Alb 2.7 g/dL, T-Bil 0.9 mg/dL, AST 108 U/L, ALT 44 U/L, LDH 509 U/L, ALP 295 U/L, γ -GT 16 U/L, CK 4528 U/L, CK-MB 104.0 IU/L, ProBNP 104,443 pg/mL, TropI 5.444 ng/mL, Amy 46 U/L, リパーゼ 21 U/L, BUN 55.6 mg/dL, Cre 2.19 mg/dL, Glu 199 mg/dL, CRP 41.43 mg/dL, Na 143 mEq/L, K 3.6 mEq/L, Ca 9.1 mg/dL, PT-INR 1.05, 動脈血液ガス: pH 7.429, PCO₂ 29.2 mmHg, PO₂ 236 mmHg, HCO₃ 19.0 mmol/L, BE -3.9 mmol/L, Anion Gap 11.4 mmol/L, Lac 4.9 mmol/L

5) 画像診断所見

・胸腹部単純 CT

側弯症あり。腰椎 L 4 右椎弓にて分離症疑い。周囲に粗大な腫瘍は指摘できない。

左肺下葉にて肺炎を疑う浸潤影あり。

肝内に嚢胞疑いの多発する LDA はあるが外側区域に多発する LDA は比較的濃度が高く

辺縁おやや不整で腫瘍の疑いあり。胆石あり。

右腎結石あり。左腎はやや腫大。

6) 経過・治療

第 1 病日の血液培養で GPC cluster が検出されたため、第 2 病日に CEZ+escalation した。エントリー部位としては X- 2 週に施行された両膝ヒアルロン酸関節注射が疑われた。第 3 病日に NAD をオフにし、MAP 65mmHg を保てることを確認した。第 1 病日の血液培養で MSSA が検出されたため CEZ 単剤に de-escalation した。第 4 病日に施行した経食道エコーで僧帽弁に 5 mm の疣贅を確認、感染性心内膜炎の診断となり、抗菌薬投与を継続した。同日に右優位の脱力を認めており、頭部 MRI で IE によると考えられる脳塞栓を認めしたが、出血リスクを考慮して積極的な抗凝固は行わない方針とした。第 8 病日まで経過良好であり同日に ICU から退室したが、第 9 病日の 2 時 00 分に SpO₂ が低下し、看護師が訪室したところ刺激に反応なく眼球は上転しており痙攣発作と考えられたため、酸素投与が開始された。TTE で多量の心嚢液を認めたため挿管、心嚢穿刺を施行したが、救命困難と判断し、3 時 10 分

に死亡確認した。

7) 手術所見: なし

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

(1) CPA の原因として、臨床的には感染性心内膜炎を背景とした心タンポナーデや大動脈解離が疑われたが、病理所見はどうか

(2) 画像所見から肝腫瘍を疑ったが、病理所見で肝腫瘍を疑う所見はあったか

(3) 自覚症状としては L 1-3 の腰部痛を有したが、画像所見では異常なく、病理所見では異常はあったか

9. 剖検情報:

①剖検診断と病理所見

<主病変>

(1) 感染性心内膜炎

僧帽弁にグラム陽性球菌 (MSSA) の疣贅敗血症

急性脾炎 (66g)

過形成性骨髄および血球貧食像

化膿性脊椎炎

[多発性脳梗塞]

<副病変>

(1) 心肺蘇生後状態

[心タンポナーデ]

1-1. 大動脈弓部解離

1-2. 右肺門部出血

1-3. 右第 2-3 肋骨および左第 3-6 肋骨骨折

1-4. 消化管内のガス貯留および大腸虚血性変化

(2) ショック肝 (978g)

(3) 大動脈粥状硬化症

②担当病理医: 山下大祐

10. 考察:

80 歳代女性で、MSSA 菌血症と感染性心内膜炎を背景に、多発性脳梗塞、化膿性脊椎炎、肝腫瘍、腎腫瘍の合併を疑われていた症例。

剖検の結果、僧帽弁にグラム陽性球菌塊を認め、血液培養で検出されていた MSSA による感染性心内膜炎である。急性脾炎を呈しており、敗血症の状態と考える。外観上明らかな骨折や腫瘍は視認しがたいが、頸椎頭側の骨髄に壊死と好中球の集簇巣を認め、化膿性脊椎炎の所見である。感染性心内膜に伴う全身状態の悪化が直接死因に大きく寄与したと考える。

CPA の原因として臨床的に心タンポナーデが想定

された。開胸および開心で観察したところ、右心房の心外膜裂隙を認めたが、心停止以前に明確に心嚢内への出血を示唆する所見に乏しい。また大動脈弓部解離（左鎖骨下動脈分岐後すぐの抹消側）も認められたが、部位からは心嚢水貯留には至らず。上記はいずれも胸骨圧迫で圧力がかかりやすい位置することから、心肺蘇生に伴う変化と推定する。

【症例2】

1. 症例テーマ：免疫チェックポイント阻害剤による薬剤性肺障害の治療中に気胸を繰り返し死亡した1例
2. 診療科：呼吸器内科
主治医・受持医：細谷和貴、中川 淳、伊達直希、
宍戸 裕、富井啓介
3. CPC開催日：2019年8月21日
4. 発表者：臨床側（呼吸器内科 細谷和貴
初期研修医 久保賢哉）
病理側（吉田 誠 初期研修医
山本 大）
5. 患者：73歳、男性
6. 臨床診断：薬剤性間質性肺炎
7. 剖検診断：
右肺癌術後（腺癌 右下葉部分切除検体、免疫
チェックポイント阻害薬治療後）
腫瘍転移（両側肺動脈抹消枝、右胸壁、大動脈
周囲リンパ節、左副腎）
器質性肺炎+腫瘍様高度炎症（右中下葉）（右肺、
1100g；左肺、1200g）
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴
2017年8月から肺腺癌 Stage IV B, EGFR/ALK
陰性、PD-L1 強陽性に対し Pembrolizumab を1
次治療として使用していた。原発巣は評価不能だ
が縦隔リンパ節転移は著明に縮小し、2018年12月
27日までに22サイクル投与していた。2019年1月
17日、23サイクル目投与のため無症状で受診した
際に撮影した胸部X線で両肺に透過性低下がみら
れ、精査加療目的に同日入院とした。
 - 2) 既往歴・家族歴など
陳旧性脳梗塞、総胆管結石、十二指腸潰瘍（術後）、
前立腺肥大、高血圧症、高尿酸血症水疱性類天疱
瘡（2018年5月。抗BP120抗体陽性）
 - 3) 診察所見
体温 36.6度、血圧 126/80mmg、脈拍数 80 bpm

（整）、SpO2 96%（Room Air）

呼吸音は両側やや減弱しているが清、口腔内乾燥
あり、全身の皮膚・関節に特記所見無し

4) 主な検査データ

WBC 7200/ μ L, Hb 11.8 g/dL, Plt 35.8×10^4 /
 μ L, TP 5.9 g/dL, Alb 1.8 g/dL, T-Bil 0.3 mg/dL,
AST 22 IU/L, ALT 14 IU/L, LDH 236 IU/L, CK
33 U/L, BUN 15.5 IU/L, Cre 0.86 mEq/L, Na 134
mEq/L, K 4 mEq/L, Cl 104mg/dL, CRP 0.57
mg/dL, IgG 1791 mg/dL, IgA 594 mg/dL, IgM
65 mg/dL, リウマトイド因子 12 IU/L, 抗核抗
体 (speckled) 160倍, 抗RNP抗体 17.2 U/mL,
抗SS-A抗体 >1200 U/mL, 抗SS-B抗体 133 U/
mL, 抗Scl-70抗体 (-), 抗セントロメア抗体 (-),
抗CCP抗体 (-), 抗Jo-1抗体 (-), 抗ARS抗
体 (-), 抗MDA 5抗体 (-), KL-6 3245 U/
mL, SP-D 1380 ng/mL, NT-proBNP 160 pg/mL,
 β -Dグルカン <6.0 pg/mL, CMV antigenemia (-)

5) 画像診断所見

胸部CT（2017年6月6日）：右肺S6に胸水と
接して結節あり。LDAあり。

（2018年10月18日）：右肺S6結節の術後変化
は変化なし。（診断的右下葉部分切除後。）

（2019年1月17日）：両側上葉優位、特に嚢胞周
囲に強くすりガラス影あり。

6) 経過・治療

入院翌日に気管支鏡検査を行った。観察で多量
の膿性痰がみられた。気管支肺泡洗浄を試みたが
すぐに気管支が虚脱し回収できなかった。膿性痰
の存在から抗菌薬による治療を行ったが、肺野の
陰影は増悪傾向で収縮性変化が進んだ。入院後も
無症状でSpO2も問題なかった。

Pembrolizumabによる薬剤性肺障害、シェー
グレン症候群に関連した間質性肺炎も鑑別に上がり、
病態の精査のため、第20病日にVATS下肺
生検を施行した。肺生検検体の病理像から、免疫
チェックポイント阻害薬（ICI）による薬剤性肺
障害と診断した。

肺生検術後から左気胸が遷延し、酸素化の低
下もともなった。第35病日にステロイドをmPSL
80mg（2mg/kg）で開始し、すりガラス陰影と酸
素化はやや改善したかに見えたが、肺野の収縮は
進行しその後も左気胸を繰り返した。気胸と肺虚
脱時の高度の低酸素を繰り返す中で、もとの低栄
養も相まって衰弱が進み、第76病日に死去された。

- 7) 手術所見：なし
- 8) 症例の問題点（剖検で解明したかった事項）
- (1) ICI による薬剤性肺障害を示唆する特徴的な病理所見はあるか？
 - (2) ステロイド投与で炎症は抑えられていたか？
 - (3) 死亡に至った原因は何か？ 間質性肺障害か、気胸か、原疾患（腫瘍）か？

9. 剖検情報：

①剖検診断と病理所見

<主病変>

- (1) 右肺癌術後（腺癌 右下葉部分切除検体、免疫チェックポイント阻害薬治療後 VATS 検体）
 - 1-1. 腫瘍転移（両側肺動脈末梢枝、右胸壁、大動脈周囲リンパ節、左副腎）
 - 1-2. 器質化肺炎＋膿瘍様高度炎症（右中下葉）（右肺，1100g；左肺，1200g）

<副病変>

- (1) 大動脈粥状硬化
 - 1-1. 腎硬化症（右 190g，左 180g）
- (2) 腎嚢胞（両側）

②担当病理医：吉田 誠

10. 考察

病理所見では、高度な器質化肺炎像を中心として、肺胞内への強い好中球浸潤を伴う膿瘍様高度炎症やびまん性肺胞障害（DAD）を認め複数の病態が混在していた。特に膿瘍様高度炎症は、免疫チェックポイント阻害薬に関連した病変を見ていることが示唆された。

ステロイドに対する反応としては、VATS 検体と比較しても間質線維化は進行している印象であり、また好中球浸潤や DAD パターンといった新規病変を認めたことから、反応性は不良であることが示唆された（ただしステロイドが tapering されており再燃していた可能性も考えられた）。加えて、一部に膿瘍様高度炎症を認めたこともステロイドへの反応不良が予想される点であった。

CT 画像上で認める嚢胞様病変に関しては、高度な線維化に伴う蜂巣肺や、背景の肺気腫が間質線維化により顕在化したものであると考えられた。複数の病態が複合していると考えられた多彩な病理学的所見は、間質性肺炎のどれとも言い難く、免疫チェックポイント阻害薬による肺病変が示唆された。間質線維化による拡散障害を背景に、気胸を合併した事による 1 型呼吸不全が今回の死因であると考えられ

た。免疫チェックポイント阻害薬による肺障害は画像所見上、器質化肺炎パターンが最も多く（23.4%）、過敏性肺炎パターン（15.6%）、NSIP パターン（7.8%）、気管支炎パターン（6.3%）の順である。本症例は器質化の目立つ DAD パターンであるが、一方で好中球浸潤も目立っており、疾患活動性のあることがうかがわれた。

11. 参考文献

- 1) Delaunay M, et al. Immune-checkpoint inhibitors associated with interstitial lung disease in cancer patients. Eur Respir J. 2017;50 : 1700050.

第4回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ：ホジキンリンパ腫治療後経過中に、感染症状から DIC を合併し死亡した 1 例
2. 診療科：総合内科
主治医・受持医：藤田将平、安藤徳晃、進藤達哉、西岡弘晶
3. CPC 開催日：2019 年 10 月 16 日
4. 発表者：臨床側（総合内科 藤田将平 初期研修医 安藤徳晃）
病理側（永山貴恵 初期研修医 吉田 誠）
5. 患者：81 歳、女性
6. 臨床診断：①侵襲性肺炎球菌感染症
②播種性血管内血液凝固症候群
7. 剖検診断：ホジキンリンパ腫治療後状態（化学療法・自家移植・骨髄移植後 4 年、再発・転移なし）
播種性血管内血液凝固症候群（DIC）
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴
入院 2 週間前より咳・鼻水・咽頭痛・倦怠感を自覚していた。当院入院 2 日前より悪寒と食思不振が出現し仕事は休んでいた。入院 1 日前の午前 8 時頃に家人の呼びかけに返答出来ず、歩行時にふらつきが出現していた。午前 10 時半頃に体動困難となり、家人により救急要請され前医に入院となった。前医では血液培養 2 セット採取後、ABPC/ABT が開始された。解熱後にトイレ歩行や食事は可能であったが、紫斑が出現し両手指の筋力低下を認めていた。当院入院当日の採血で多臓器不全が疑われたため、当院に転院となった。

2) 既往歴・家族歴など

34～48歳 Hodgkin リンパ腫治療
42歳と46歳で再発 化学療法
47歳再発 骨髄移植
41歳 ギラン・バレー症候群
57歳 舌腫瘤（詳細不明、通院自己中断）

3) 診察所見

身長：171.2cm 体重 77kg
A：開通
B：RR25 SpO₂ 97%（2L/min）努力様呼吸
C：BP 179/140 HR 144 冷汗なし
D：GCS E 4 V 5 M 6
E：36.2度
項部硬直なし
瞳孔 3mm/3mm 対光反射 +/-
眼瞼結膜 溢血点なし 眼球結膜 黄染なし
頸部 リンパ節腫脹なし
呼吸音 wheezeなし 心音 整 雑音なし
腹部 平坦 軟 圧痛なし
四肢 下腿浮腫なし 四肢冷感あり
鼻・体幹・下肢を中心に紫斑あり
両側手関節遠位に筋力低下・感覚障害あり
両側膝関節遠位に感覚障害あり

4) 主な検査データ

WBC $39.2 \times 10^3/\mu\text{L}$ RBC $560 \times 10^4/\mu\text{L}$ Hb 17.7g/dL
PLT $2.3 \times 10^4/\mu\text{L}$ Howell-Jolly body
ALB 3.3g/dL T-BIL 3.3mg/dL AST 661IU/L
ALT 193IU/L LD 1876IU/L ALP 506IU/L γ -GTP 102IU/L
CK 2175IU/L CK-MB 50.6IU/L アミラーゼ 47IU/L
リパーゼ 37IU/L 尿素窒素 33.6mg/dL
クレアチニン 2.28mg/dL Na 131mEq/L
K 4.0mEq/L Ca 8.1mg/dL GLU 290mg/dL
CRP 46.99mg/dL トロポニンI 1.064ng/mL PT-INR 1.31
Dダイマー 139 $\mu\text{g/mL}$ Fib 391mg/dL

・培養結果（ER初療中に判明した前医の血液培養検査）

血液培養2セットより S. Pneumoniae 検出 当院での血液培養検査は陰性

5) 画像診断所見

・Xp 浸潤影なし CP angle sharp
・心エコー
EF 20% LVOT-VTI 6cm MRなし TRなし
ARなし
びまん性壁運動低下あり 心嚢液貯留なし
・胸腹部単純CT

肺野：浸潤影なし 縦隔リンパ節腫脹なし
腹部：脂肪肝 脾臓石灰化 脾臓萎縮 脾周囲大動脈前方脂肪織濃度上昇
出血性腎嚢胞 左総腸骨動脈奇形

6) 経過・治療

入院1日目、肺炎球菌菌血症として入院した。PRSPカバーのため CTRX+VCM で髄膜炎 dose で empiric 治療を開始した。入院2日目、夜間より頻呼吸が出現し、早朝には意識障害も出現し、前胸部と下腿の皮疹が拡大した。その後血圧低下、呼吸状態悪化とショック状態となり、死亡となった。

7) 手術所見：なし

8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

- ①萎縮した脾臓と本病態の関連
- ②Hodgkin リンパ腫の再発の所見の有無
- ③感染巣の有無

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

- (1) 感染性心内膜炎（僧帽弁，グラム陽性球菌（MSSA）疣贅）
 - 1-1. 敗血症
 - 1-2. 急性脾炎（66g）
 - 1-3. 過形成性骨髄および血球貪食像
 - 1-4. 化膿性脊椎炎
[多発性脳梗塞]

<副病変>

- (1) 心肺蘇生後状態
 - 1-1. [心タンポナーデ]
 - 1-2. 大動脈弓部解離
 - 1-3. 右肺門部出血
 - 1-4. 右第2-3肋骨および左第3-6肋骨骨折
 - 1-5. 消化管内のガス貯留および大腸虚血性変化
- (2) ショック肝（978g）
- (3) 大動脈粥状硬化症

2) 担当病理医：吉田 誠

10. 考 察：

病理解剖所見では胃や皮膚に出血が見られ、腎糸球体に微小血栓が多数観察できた。DICの所見と考えられた。元々免疫不全状態にあった患者が、上気道感染を契機として菌血症/DICを引き起こし、死亡したものと考えられるが、剖検時の所見では敗血症の所見はない。

病理学的にはホジキンリンパ腫の再発はみられ

ず、侵襲性肺炎球菌感染症へ進展したこととの直接的な関与は指摘できない。

【症例2】

1. 症例テーマ：左上葉肺腺癌に肺炎を合併し死亡した一例
2. 診療科：呼吸器内科
主治医・受持医：大崎 恵、立川 良、山本 大、
富井啓介
3. CPC開催日：2019年10月16日
4. 発表者：臨床側（呼吸器内科 大崎 恵
初期研修医 大森怜於）
病理側（山下大祐 初期研修医
森久芳樹）
5. 患者：60歳女性
6. 臨床診断：敗血症性ショック
7. 剖検診断：
左上葉肺腺癌 pT4N1M0
両側肺炎（左上葉＞左下葉＞右上中葉）
8. 臨床情報：
 - 1) 現病歴
X-10日 嘔声を主訴にして当院総合内科外来を受診し、CTで肺腫瘍を認め呼吸器内科紹介となった。
X-1日より咳嗽と少し血の混じった喀痰を自覚し、咳嗽時に左側胸部から背部にかけての痛みを自覚していた。
X日 改善しないため救急要請した。
来院時よりショックを認め、補液1500mLを行ったが、改善しなかった。
敗血症性ショックとしてピペラシリン/タゾバクタム（PIPC/TAZ）+アジスロマイシン（AZM）とヒドロコルチゾン50mgを開始し、血圧維持のためにノルアドレナリン（NA d）の持続投与を要した。q SOFA 2点、喀痰Gram染色でグラム陽性双球菌様の貪食像を認め、胸部レントゲン撮影で左上肺野に浸潤影を認めた。肺炎による敗血症性ショックとして集中治療目的にICU入室、呼吸器内科入院となった。
 - 2) 既往歴
腹腔鏡下胆嚢摘出術
 - 3) 診療所見
身長 148cm
体温 35.9℃、血圧 67/53 mmHg、脈拍数 117/min（整）、呼吸数 25/min、SpO₂ 89%（RA）、

呼吸音 左胸部で rhonchi 聴取する
心音 整 雑音なし
腹部 特記所見無し

4) 検査データ

WBC $8.7 \times 10^3/\mu\text{L}$ RBC $441 \times 10^4/\mu\text{L}$, Hb 15.1g/dL, MCV 101fl, MCHC 34.0% PLT $17.1 \times 10^4/\mu\text{L}$ TP 6.7g/dL, ALB 3.3 g/dL, T-BIL 1.5 mg/dL, AST 21 U/L, ALT 16U/L, LD 126 U/L, CK 24 U/L, アミラーゼ 25 U/L, 尿素窒素 15.8 mg/dL, クレアチニン 1.01mg/dL
Na 136 mEq/L, K 3.3 mEq/L, Ca mg/dL, GLU 127 mg/dL, CRP 11.95 mg/dL
動脈血液ガス：PH 7.426, P CO₂ 30.9mmHg, P O₂ 77.5mmHg, HCO₃ 19.9mmol/L, BE -3.1mmol/L, AG 9.9mmol/L, Glu 137mg/dL, Lac 3.0mmol/L
喀痰グラム染色
グラム陽性双球菌の貪食像

5) 画像診断所見

・胸部レントゲン撮影：左上葉に浸潤影あり
・胸部単純CT：
左肺上葉縦隔側に27mm大の不整形結節あり。
左上区気管支に広く接しており、内腔の狭小化も見られる。
左肺門（左主気管支周囲）リンパ節転移疑い。
左副腎の結節様腫大があり、転移が疑われる。

6) 経過・治療

肺炎による敗血症性ショックとして、PIPC/TAZ + AZMで治療開始された。徐々に循環状態は安定し Nad14mL/hより漸減された。第2病日には、循環状態は安定していたが、乳酸は4.0mmol/L・PaCO₂は41.9mmHgとやや増加傾向、pHは7.306と低下し、白血球は2000/ μL と減少していた。鼻カニューラ5L投与でSpO₂90%程度を維持し、家族との会話も可能なほど改善していたため、救急病棟に転室となった。しかし、転室後より左反回神経麻痺による排痰困難や呼吸筋疲労により、呼吸不全が進行したため、再度E-ICU入室・挿管管理となった。第3病日よりアドレナリン開始されたが、反応性は乏しく、抗菌薬はカテーテル関連血流感染症も考慮し、カルバペネム+バンコマイシン+ミカファンギンにエスカレーションされた。血液検査では白血球減少に加え、赤血球・血小板も低下し汎血球減少を認めた。第3病日夜から呼吸性アシドーシスが進行し、第4病日早朝に持続的血液透析（CHD）開

始された。しかし汎血球減少・肝障害・腎障害が進行し、同日死亡となった。

7) 手術所見：なし

8) 症例の問題点

①細菌性肺炎による敗血症ショックを疑って治療していたが、病理所見と一致するか。

②気管支鏡検査では診断できなかった左上葉肺結節の診断および病期は？

③感染がコントロールできなかった患者背景は？(担瘤・栄養状態など)

④血球減少を認め、DIC、敗血症、薬剤性などが鑑別であったが原因を示唆する病理所見はあったか？

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

(1) 左上葉肺腺癌 pT4N1M0

(2) 両側肺炎(左上葉>左下葉>右上中葉)

<副病変>

(1) 喫煙肺

(2) 慢性肺炎

(3) 肝臓架橋性線維化

(4) 副腎萎縮

(5) 口腔内衛生不良

2) 担当病理医：山下大祐

10. 考 察

60歳女性で嘔声を主訴に来院し、胸部CTで左肺門部の悪性腫瘍を疑われ当院呼吸器内で精査されていた症例。死亡3日前に下気道症状を自覚され2日前に重症肺炎となり、状態は急激に悪化。呼吸循環不全に対して加療されるも死亡。

肉眼では、左肺門部に肺癌を疑う腫瘍性病変を認めた。左上葉のほぼ全域が含気を失って硬く触れ、大葉性肺炎を呈していた。易出血傾向で、体表や心臓表面に紫斑や点状出血を認める。組織学的に、左肺門部を中心に腺癌が拡がっており、心外膜へ浸潤していた。左反回神経も巻き込んでいた。他臓器への転移は認めないが、肺門リンパ節に転移していた。

左上葉では肺胞腔内に好中球およびフィブリンが多数充満し、胸膜炎も呈していた。炎症の程度は強く、骨髄では血球貪食が散見される。加えて、左下葉、さらに右上中葉にも肺炎像を認める。

担瘤症例であり、喫煙肺、口腔内衛生不良、臍臓や肝臓の線維増生に加えて、副腎の萎縮を伴っており、予備能は年齢以上に相当低下していたと

考えられる。組織学的には証明できなかったが、Klebsiella pneumoniaeを起病菌とした肺炎を契機に、敗血症性ショックに至り、急激な循環・呼吸不全を来し、死亡したと考えられる。

第5回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症 例 テ ー マ：肺胞蛋白症による呼吸不全で死亡した1例

2. 診 療 科：呼吸器内科

主治医・受持医：大崎 恵、印藤貴士、宍戸 裕、
吉田一史、河内勇人、林 克磨、
田中 淳、井手裕之、森 令法、
立川 良、冨井啓介

3. CPC開催日：2019年12月18日

4. 発 表 者：臨床側(呼吸器内科 大崎 恵
初期研修医 井手裕之)
病理側(山元康弘 初期研修医
吉田 誠)

5. 患 者：70歳、男性

6. 臨 床 診 断：肺胞蛋白症

7. 剖 検 診 断：肺胞蛋白症

8. 臨 床 情 報：

1) 現病歴

X-8年 マントル細胞リンパ腫に対して臍帯血移植された。

X-1年 成人Still病を発症しmPSL20mg+TAC0.8mgで治療されていた。

X年 来院3ヶ月前より両側肺野にGGOが出現し、拡大した。来院17日前に左肺のBAL/TBLBを行い、病理学的に肺胞蛋白症と診断された。来院3日前のCTで両側GGOの増悪・拡大を認め、呼吸不全も急速に進行したため、全肺洗浄目的に当院へ転院となった。

2) 既往歴・家族歴など

慢性副鼻腔炎、痔瘻、MCL(X-8年完全寛解)、成人Still病、2型糖尿病、脊柱管狭窄症

3) 診察所見

BT: 37.1℃ HR: 61bpm BP: 138/85mmHg

RR: 16/分 SpO2: 90%(NHF 50L/min, FiO2 0.53)

頭部：眼瞼結膜蒼白なし、眼球結膜黄染なし

胸部：両側下肺野でfine crackle聴取

腹部・背部：散在性に紫斑

四肢：両側下腿浮腫、両上下肢にlivedo様皮疹

4) 主な検査データ

■血液検査（第1病日）

WBC $7.9 \times 10^3/\mu\text{L}$, RBC $235 \times 10^4/\mu\text{L}$ ▼, Hb 8.9 g/dL ▼, MCV 110 fl ▲, Plt $11.2 \times 10^4/\mu\text{L}$ ▼, PT-% 113.3 %, PT-INR 0.94, APTT-sec 28.5 sec, APTT-% 84.5 %, TP 5.1 g/dL ▼, Alb 2.2 g/dL ▼, T-Bil 0.6 mg/dL, AST 34 U/L, ALT 35 U/L, LD 1048 U/L ▲, ALP 473 U/L ▲, γ -GT 111 U/L ▲, BUN 22.4 mg/dL ▲, Cre 0.64 mg/dL, Na 146 mEq/L, K 3.7 mEq/L, Cl 104 mEq/L, Ca 8.7 mg/dL, CRP 4.78 mg/dL ▲, ferritin 2553 ng/mL ▲, KL-6 24293 U/mL ▲, sIL-2R 1220 U/mL ▲

IgG 938 mg/dL, IgA 61 mg/dL ▼, IgM 90 mg/dL, C3 82 mg/dL, C4 21 mg/dL, \times RF <3 IU/mL, 抗核抗体 FA 抗体価 <40 倍, RNPAAb CLE 4.4 U/mL, SSA Ab CLE 7.5 U/mL, SSB Ab CLE 2.4 U/mL, Scl70 CLE 5.3 U/mL, dsDNA Ab CLE 6.8 IU/mL, MPO-ANCA(-), 抗ARS抗体(-), RNAポリメラーゼ3判定(-), コウCCPコウタイ <0.5 U/mL, コウJO1-AB(-), PR3-ANCA(-), セントロメア AB <20 U/mL, β -Dグルカン <6 pg/mL, アスペル AB <4 倍, アスペル AG(-), CMV-アンチ(-), GM-CSF抗体陰性（前医結果）

■動脈血液ガス（第1病日）SpO₂: 90% (NHF 50L/min, FiO₂ 0.53)

pH 7.472 ▲, PaO₂ 79.7 mmHg, PaCO₂ 39.7 mmHg, HCO₃- 28.7 mmol/L ▲, Lac 3.4 mmol/L

5) 画像診断所見

- ・胸部 Xp（第1病日）：両側肺野にすりガラス影
- ・胸部 CT（来院3日前）：両側肺野に crazy paving、左気胸、左胸部皮下気腫

6) 経過・治療

第4病日、SpO₂: 88% と呼吸状態が悪化したため、挿管管理となった。第5病日、朝に右気胸が判明し、ECMO 使用下で全肺洗浄を施行した。貧血が進行し右胸水増加があったため、ドレーン留置ところ、血性胸水を認めた。造影CTでは右胸腔内に造影剤漏出を認めた。第7病日、低酸素血症が遷延し、細菌性肺炎として MEPM+VCM を開始した。第8-11病日、ECMO からの離脱を試みるが、人工呼吸管理下では著明な低酸素血症出現し、ECMO からの離脱は困難であった。第12病日、全肺洗浄、抗菌薬、利尿薬などの加療を行うも、呼吸不全の改善を得られず、家族と相談し、ECMO 離脱の方針となった。午後1:

24 死亡確認となった。

7) 手術所見：なし

8) 症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）

(1) 前医で肺胞蛋白症と診断されたが、肺胞蛋白症で間違いなかったか？

(2) 全肺洗浄で呼吸状態は改善しなかったが、背景肺の変化はどうであったか？

(3) 2次性肺胞蛋白症の原因となる疾患はあったか？

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

(1) 肺胞蛋白症（高度の器質化を伴う）

1-1. 右血胸（ドレーンチューブ挿入後）

1-1-1. 右胸水 100ml（血性）、左胸水 100ml（黄色透明）

<副病変>

(1) 大動脈粥状硬化

1-1. 腎硬化症：右（158g）、左（144g）

(2) マントル細胞リンパ腫（2010年11月他院臍帯血移植後）：再発なし

(3) 成人Still病（2017年8月～ステロイド治療中）

2) 担当病理医：吉田 誠

10. 考察

マントル細胞リンパ腫に対して臍帯血移植、成人Still病の既往があり、抗GM-CSF抗体陰性であることから臨床的には続発性肺胞蛋白症と診断された症例。入院後、肺胞洗浄ならびに体外膜型人工肺管理を継続したが、低酸素血症は進行、10月2日に死亡退院となった。組織では肺胞腔内は蛋白物質で満たされ肺胞蛋白症と一致し、さらに線維増生も著明であり肺組織の器質化が高度であった。マントル細胞リンパ腫の再発は認めず、肺感染像や粉塵などの傷害像もなく、続発性肺胞蛋白症の原因ははっきりしなかった。以上より直接死因は上記疾患に伴う呼吸不全と考えた。

肺胞蛋白症は先天性、特発性、二次性に大別される。特発性では血清ならびに気管支肺胞洗浄液中に抗GM-CSF抗体が検出される。二次性には血液疾患（骨髄異形成症候群、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）、呼吸器感染症、粉塵などの吸入が挙げられる。本症例は抗GM-CSF抗体であることから二次性と考えられる。成人Still病との関連ははっきりしない。マントル細胞リンパ腫の既往があるものの、10年前の既往であること、臍帯血移植後で再発がみられないことから、直接の関与は疑わし

い。二次性肺胞蛋白症では一般的に、肺胞内に貯留する蛋白質が一次性に比較して少ないとされているが、肺生検病理像では明瞭なPAS好性の蛋白質がみられており、組織所見からは特発性肺胞蛋白症との鑑別は困難である。剖検肺では肺胞内の蛋白質はみられるものの、一方で器質化像も高度であり、通常の肺胞蛋白症とは異なる像であった。器質化像が目立っていたことが、肺胞洗浄抵抗性であったことの原因であるが、その成因ははっきりしない。

11. 参考文献

1. 渡辺雅人 他：肺胞蛋白症の病態と治療. 日内会誌 2005；94：763-768.

【症例2】

1. 症例テーマ：HCV感染による肝硬変に肝細胞癌を合併し死亡した1例
2. 診療科：消化器内科
主治医・受持医：鄭浩柄、猪熊哲朗
3. CPC開催日：2019年12月18日
4. 発表者：臨床側（消化器内科 鄭浩柄 初期研修医 小林弘典）
病理側（山下大祐 初期研修医 松本絢子）
5. 患者：58歳、男性
6. 臨床診断：肝細胞癌
7. 剖検診断：
中～低分化型肝細胞癌
(右葉, 最大径 180x135mm) pT3NXM1
肝硬変 (2,700g)
8. 臨床情報：
1) 現病歴
1993年の十二指腸潰瘍手術で輸血後C型肝炎を発症。1998年にIFN-β加療するも再燃、2010年PSE・PEG-IFNα2b 100μg/W+RBV 800mg/dを実施し、20週目でHCV陰性化するもS4とS5にHCCを認めたため治療中止となり、同年肝細胞癌切除が実施された。その後少量長期IFNを実施するも経過中に慢性C型肝炎再燃・HCC再発を認め、2013/5にTACE・RFA (S4-8)、2014/5にRFA (S5-6)、シメプレビル3剤併用療法 (1/29-12/24でSVR達成)を行った。その後も2016年・2017年にHCC再発に対しRFA/TACEを繰り返し、2017年には門脈腫瘍塞栓も指摘され、ソラフェニブ・HAICを実施するも腫瘍は増大傾向だった。LpTAI (抗癌剤混注リビ

オドール動注療法)をエピルピシン (2017/12/15-)・ミリプラチン (2018/1/12-)で実施したが効果に乏しくBSCの方針となった。2018/4/2-25腫瘍浸潤・胆管狭窄を背景とした急性胆管炎で入院。2018年5月23日、黄疸増強と肝不全進行を認めため同日緊急入院とした。

2) 既往歴・家族歴など

慢性C型肝炎・肝硬変・HCC (Stage IV A)、十二指腸潰瘍

3) 診察所見

意識清明、BT 36.5度、BP 112/45mmHg、HR 61、RR 12、SpO2 94% (RA)

腹痛は自製内、下腿浮腫増悪、陰嚢水腫あり、皮膚黄染++

4) 主な検査データ

血液検査

WBC $7.1 \times 10^3/\mu\text{L}$ (Meta. 0.5%, Band. 2.0%, Seg. 81.5%, Lymph. 6.5%, Mono. 7.5%), Hb 7.0 g/dL (MCV 97 fl, MCHC 33.2%), Plt $15.2 \times 10^4/\mu\text{L}$, PT-INR 1.52, TP 6.8 g/dL, Alb 2.1 g/dL, Glob 4.7 g/dL, T-Bil 12.1 mg/dL, D-Bil 9.6 mg/dL, AST 259 U/L, ALT 153 U/L, LD 336 U/L, ALP 1756 U/L, γ -GT 324 U/L, アンモニア $51 \mu\text{g/dL}$, ChE 93 U/L, CK 68 U/L, アミラーゼ 34 U/L, BUN 34.4 mg/dL, Cre 1.08 mg/dL, 尿酸 10.3 mg/dL, Na 130 mEq/L, K 5.4 mEq/L, Cl 92 mEq/L, Ca 7.8 mg/dL, マグネシウム 2.6 mg/dL, TG 66 mg/dL, T-Cho 128 mg/dL, LDL-Cho 75 mg/dL, GLU 163 mg/dL, CRP 9.94 mg/dL,

5) 画像診断所見

・胸部Xp：右C-P angle 右 dull・左 sharp、軽度心拡大あり、肺野の透過性低下

・DyCT：ENBD tube・肝動注リザーバーカテーテル留置、総胆管拡張は改善・右葉肝内胆管拡張は増悪、多発肝腫瘍、肝表の少量腹水、門脈内腫瘍栓+末梢肝萎縮、脾腫

6) 経過・治療

黄疸増強と嘔気・下腿浮腫・倦怠感・腹水貯留によるADL低下で緊急入院した。嘔気はジフェンヒドラミン・ジプロフィリン i.v.で改善認めたが、浮腫・腹水はアルブミン・フロセミド 20mg i.v.試みるもコントロール困難で治療中に腎機能障害を生じたためフロセミド 10mgに減薬し、5/31から倦怠感に対して麻薬持続皮下注を開始した。その後も肝不全は進行し2018年6月

6日22時7分(第15病日)死去された。

7) 手術所見: なし

8) 症例の問題点(剖検で解明しなかった事項)

(1) 死因に胆管炎などの活動性感染症は関与していたか?

(2) 死亡時点で他臓器への転移はあったか?

(3) 肝不全の Acute on chronic な増悪に門脈腫瘍血栓(PVTT)は関与していたか?

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

(1) 中～低分化型肝細胞癌(右葉, 最大径180x135mm) pT 3NXM1, pStage IV B
門脈本幹や末梢門脈枝、臍実質内の上腸間膜静脈、脾静脈、左肺血管内に腫瘍栓

(2) 肝硬変(2700g)

2-1. 全身黄疸(肺、腎臓、全身皮膚、眼球結膜)

2-2. 胆汁円柱(両側腎)

2-3. 門脈圧亢進症

2-3-1. 横隔膜静脈瘤

2-3-2. 脾腫(476g)

ステント留置後(胃十二指腸動脈)

(3) 肺障害(器質化を伴う)(右441g, 左510g)

<副病変>

大動脈粥状硬化(軽度)

2) 担当病理医: 山下大祐

10. 考察

50歳代男性のC型肝炎に伴う肝硬変に肝細胞癌を合併し死亡した1例。肝実質内には低～中分化型肝細胞癌の広範な腫瘍浸潤を認めた。また、門脈本幹、肺動脈内、臍実質脈管内に腫瘍血栓像を認めた。背景肝は著明な線維化と再生結節を伴い完成された肝硬変像であり、胆汁うっ滞を認めた。肝以外の諸臓器(肺、尿細管内)にもビリルビン沈着を認めており、胆汁うっ滞、肝不全に伴う黄疸が進行していたと考える。以上より、直接的な死因については肝硬変、腫瘍血栓を含めた広範な腫瘍進展に伴う肝細胞癌の進行に伴う肝不全が原因と考える。なお、両側肺に認められた硝子膜形成については原因がはっきりしなかった。

第6回中央市民病院CPC報告

【症例1】

1. 症例テーマ: ウェルシュ菌によるガス壊疽感染症で死亡した1例

2. 診療科:

主治医・受持医: 救急科 園 真蓮、有吉孝一

3. CPC開催日: 2019年2月19日

4. 発表者: 臨床側(救急科 園 真蓮 初期研修医 藤沢 亮)

病理側(佐野円香 初期研修医 山下大祐)

5. 患者: 57歳、男性

6. 臨床診断: ガス壊疽感染症

7. 剖検診断:

Clostridium perfringens 感染症(培養: 血液、皮膚、肝臓)

8. 臨床情報:

1) 現病歴

13時頃、急性発症の腰背部痛、頭痛を自覚し、発熱もあったため、15時頃に公共交通機関にて前医を受診した。鎮痛薬と血液検査、培養採取、CT撮像を受けた。血液検査で間接 Bil 優位の高 Bil 血症、CTで肝臓内にエアーを認めたため、血液疾患の可能性を指摘され、18時頃当院に緊急転送措置とされた。救急隊接触時より、頻呼吸、SpO₂低下認め、当院搬送中に、酸素10LでSpO₂ 67% 吐血し心肺停止となった。

2) 既往歴・家族歴など

慢関節リウマチ

3) 診察所見

A: 来院と同時に吐血

B: RR30, SpO₂ 67% (10L)

C: BP 171/112 HR 123

D: GCS E4V1M1 → E1VtM1

E: 来院時体温 37.2度

腹部は膨満 顔面はやや紅潮

4) 主な検査データ

WBC 12000/μL, RBC 369 × 10⁴/μL, Hb 9.8/dL, MCV 65 fL, PLT 8.5 × 10⁴/μL, Blast 0.0, Ebl 4, TP 6.0 g/dl, Alb 3.0 g/dL, T-bil 4.7 mg/dL, D-bil 1.9 mg/dL, AST 919 U/L, ALT 211 U/L, LD 10432 U/L, CK 224 U/L, AMY 26 U/L, BUN 11.9 mg/dL, Cre 1.63 mg/dL, Na 128 mEq/L, K 6.9 mEq/L, Ca 7.6 mg/dl, Glu 290 mg/dL, CRP 1.10 mg/dl

血液動脈ガス：pH 7.35, pCO₂ 29.8 mmHg, pO₂ 64 mmHg, HCO₃ 16 mEq/L, Na 134 mEq/L, K 5.8mEq/L, Cl 106 mEq/L, AnGAP 11.8 mEq/L

5) 画像診断所見

- ・ Xp：両側肺野透過性低下 両側 CP angle sharp
- ・ 前医 CT：肝臓内／胃粘膜に新規の含気を伴う病変を認める 腸管は全体的に浮腫状

6) 経過・治療

18：31 到着と同時に吐血、呼吸停止。口腔内吸引し、気道確保。O₂ 15L で補助換気開始

18：46 PEA となったため胸骨圧迫開始

18：49 気管挿管 メイロン投与、TTE で心嚢水ないことを確認。PEA/asystole のまま 30 分以上、蘇生

19：31 死亡確認

7) 手術所見：なし

8) 症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)

- (1) 肝臓内ガス / 胃粘膜周囲ガスと死因との関連
- (2) 死因は血液疾患 / 感染症か。あるいは他か。

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見

<主病変>

(1) ガス壊疽 (Clostridium perfringens)

- ・ Clostridium perfringens 感染症 (培養：血液、皮膚、肝臓)
- ・ 諸臓器融解壊死ならびに気腫性変化：肝臓、腎臓、脾臓、膵臓、心臓、副腎、甲状腺、消化管、前立腺、骨髄、横紋筋

(2) 体表の血性水泡を伴う紫斑

(3) 血性胸水 (left/right 200ml)

<副病変>

(1) 心肺蘇生関連

1-1. 多発肋骨骨折

1-2. 肺挫傷

(2) 肝脂肪沈着

2) 担当病理医：山下大祐

10. 考 察：

50 歳代男性の既往に関節リウマチ (RA) がある症例。15 年前に RA と診断されたが、コントロールは良好で、アクテムラのみ投与されていた。死亡当日の昼過ぎに急な腰背部痛、頭痛と発熱を自覚し、近医受診。全身状態が急激に悪化、当院搬送直後に吐血、心肺停止状態となり、治療の甲斐なく死亡した。肉眼的には諸臓器の壊死および出血が著明。いたるところに小気泡が形成され、また腹腔内の腐臭

があった。組織では肺を除く全ての臓器で融解壊死が著明であり、桿菌は標本作製した全ての部位でみられた。培養ではウェルシュ菌 (Clostridium perfringens) が血液、皮膚、肝臓で陽性となっており、全身臓器へのウェルシュ菌高度感染による多臓器障害が死因と考える。血管内容血を来したガス壊疽菌敗血症 40 例を検討した報告では、32 例 (80%) が死亡し、来院から死亡までの時間は中央値で 8 時間と報告している。本症例でも、来院時から死亡までが約 1 時間と極めて短時間で死亡しており、ガス壊疽菌による敗血症が激烈かつ急激な転帰をとることに合致している。ガス壊疽菌の生体への侵入経路は外因性経路と内因性経路に分けられ、前者は外傷などに続発する軟部組織感染症として、後者は bacterial translocation などによる深部組織膿瘍 (肝膿瘍、肺膿瘍など) の原因となりうる。本症例では外傷の既往はなく、内因性経路と考えられる。タクロリムス内服中に RA 患者の腓頭部十二指腸切除術後に発症したウェルシュ菌感染症の一例報告では、タクロリムスによる免疫不全がウェルシュ菌感染症発症の一因になったと考察している。本症例ではアクテムラ投与のみであり、ウェルシュ菌感染との関連は不明である。

11. 参 考 文 献

1. 橋本 雅一 他：クロストリジウム属. 新編臨床検査講座 22 微生物学 臨床微生物学. 東京：医歯薬出版；1987. p. 198-203.
2. 中野 忠澄 他：ウェルシュ菌感染ショック. 臨床と細菌. 1983；10：301-5.
3. 久保 徹 他：腓頭十二指腸切除術後に発症した Clostridium perfringens 敗血症の 1 例. 日本消化器外科学会雑誌. 2017；50：596-603
4. van Bunderen CC, et al. Clostridium perfringens septicemia with massive intravascular hemolysis: a case report and review of the literature. Neth J Med. 2010；68 (9)：343-6.

Ⅲ. CPC 報告

Ⅲ. 2 CPC 報告(2019年4月～2020年3月) (西市民病院)

第1回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・担当医：内科 星、田中
2. CPC 開催日：2019年4月9日
3. 発表者：臨床側（田中）
病理側（勝山）
4. 患者：80才台、男性
5. 臨床診断：食道癌
6. 剖検診断：食道癌
7. 剖検情報：
 - 1) 剖検診断と病理所見

I. 食道癌（中等度分化型扁平上皮癌）

A. 同転移

1. 縦隔リンパ節

2. 気管、右気管支

B. 胃瘻造設術後状態

II. 肺うっ血水腫（左：420、右：500g）

III. 腔水症

A. 左胸水（800ml、黄色透明）

B. 心嚢水（20ml、黄色透明）

IV. 良性腎硬化症（左：170、右：130g）

V. 肝褐色変性（1000g）

*食道は外部からは軟に触知され、肉眼的な腫瘍は認められません。*縦隔リンパ節の腫大、気管膜様部および右主気管支に腫瘍があり、その部分の組織所見で扁平上皮癌の浸潤をみます。*その他には転移は認められません。*気道内には異物は認められませんでした。*下部消化管には黄色軟便がみられ、血性ではありませんでした。*皮下脂肪も多く、栄養状態は良好です。

2) 担当病理医：勝山

第2回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・担当医：内科 星、原
2. CPC 開催日：2019年4月23日
3. 発表者：臨床側（原）
病理側（勝山）
4. 患者：80才台、男性
5. 臨床診断：虚血性腸炎
6. 剖検診断：虚血性腸炎治療後状態
7. 剖検情報：
 - 1) 剖検診断と病理所見

I. 虚血性腸炎治療後状態

II. 糸球体腎炎（左：50、右：50g）

A. 「慢性腎不全」

1. 粥状動脈硬化

a) 左前下行枝（約90%の狭窄）

b) 左回旋枝（約90%の狭窄）

c) 右冠動脈（約50%の狭窄）

d) 大動脈（高度）

2. 横隔膜異所性石灰化

3. 心肥大（480g、手拳の1.2倍大）

4. 両側胸水（左：350、右：1100ml、黄色透明）

B. 透析導入状態

III. びまん

*下部消化管内容は黄色軟便であり、血性ではありません。粘膜にも出血、潰瘍などみず、きれいでした。*腎不全に伴う高度の動脈硬化がみられ、また両側横隔膜には斑状の異所性石灰化をみます。*気道内異物や肺動脈内血栓はみず、突然死の原因は指摘できません。*冠動脈に高度の狭窄がみられ、不整脈のリスクはあったものと考えます。*心筋梗塞の所見はありません。

2) 担当病理医：勝山

第3回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・担当医：泌尿器科 平田
内科 北尾
 2. CPC 開催日：2019年7月30日
 3. 発表者：臨床側（北尾）
病理側（勝山）
 4. 患者：70才台、男性
 5. 臨床診断：右腎腫瘍
 6. 剖検診断：右腎後腹膜原発悪性腫瘍、滑膜肉腫疑い
 7. 剖検情報：
 - 1) 剖検診断と病理所見
- I. 右腎周囲後腹膜原発悪性腫瘍（右腎を含めて1200g、滑膜肉腫疑い）
- ##### A. 同転移
1. 肝（1350g、直径1cm以下多数）
 2. 脊椎
 3. 癌性腹膜炎（腸管膜、腹膜に直径5mm以

下無数の白色低隆起性病変形成)

a) 腹水 (1000ml)

4. 左腎門部 (300g)

5. 腸腰筋

6. 肺 (顕微鏡的、癌性リンパ管炎)

II 肺うっ血水腫 (左: 500、右: 500g)

*後腹膜から右腎を巻き込む様な広がりを示す腫瘍です。*その組織所見では、小型核を有する腫瘍細胞の瀰漫性の浸潤増生をみます。リンパ管侵襲を示す部分で腺管形成など明かな上皮性結合をみます。粘液変性を示す部分 (アルシヤンブルー陽性) をまじえます。特染にて、CKAE1/AE3 (+), CK7 (+), CK20 (-), Vimentin (+), Calretinin (-), D2-40 (-), S-100 (-) と上皮性、非上皮性分化の混在をみ、また粘液変性からも滑膜肉腫を考えます。CD99 (-) でした。*肺には顕微鏡的な転移を認めました。*胃、膵、下部消化管には著変はありません。

2) 担当病理医: 勝山

第4回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・担当医: 内科 高田、加藤、吉本

2. CPC 開催日: 2019年8月27日

3. 発表者: 臨床側 (吉本)
病理側 (勝山)

4. 患者: 70才台、女性

5. 臨床診断: 大腸癌、神経内分泌癌疑い

6. 剖検診断: 大腸癌、神経内分泌癌

7. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

I. 大腸癌 (上行結腸原発、神経内分泌癌)

A. 同転移

1. 肝 (3400g、直径4cm以下無数の転移巣形成)

2. 膵頭部リンパ節 (3.5x1.5cm)

3. 骨

4. 肺 (左: 350、右: 450g、顕微鏡的)

II. 縦隔内甲状腺腫

III. 腔水症

A. 腹水 (400ml、血性)

B. 胸水 (左: 50ml、右: 50ml)

C. 心嚢水 (10ml)

*結腸腫瘍は粘膜面は adenoma 相当ですが、その深部で腺管構造を示さない小型腫瘍細胞の瀰漫性の浸潤増生をみます。*小型腫瘍細胞は特染にて Synaptophysin (+), Chromogranin (-) であり、

neuroendocrine な性格をみます。neuroendocrine carcinoma の所見と考えます。*また CK7 (-), CK20 (-) であり通常の結腸粘膜上皮の形質はみられません。*転移巣はその様な neuroendocrine carcinoma によるものです。*縦隔病変は反応性の甲状腺組織の腫大であり、腺腫様甲状腺腫相当の所見で、悪性所見は認められません。

2) 担当病理医: 勝山

第5回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・担当医: 内科 網本、晴木

2. CPC 開催日: 2019年9月24日

3. 発表者: 臨床側 (晴木)
病理側 (勝山)

4. 患者: 70才台、男性

5. 臨床診断: 血球貧食症候群

6. 剖検診断: 悪性リンパ腫

7. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

I. 悪性リンパ腫 (非ホジキン、B細胞びまん性大細胞型)

A. 同浸潤

1. 肝 (1100g)

2. 脾臓 (250g)

3. 骨髄

4. 胸膜

B. 血球貧食症候群

II. 解離性大動脈瘤

A. 大動脈粥状硬化症 (軽度~中等度)

III. 肝褐色変性 (1100g)

IV. 腔水症

A. 胸水 (左: 200、右: 200ml、黄色透明)

B. 心嚢水 (10ml、黄色透明)

*肝には肉眼的に著変はみませんでした。組織にて門脈域を中心に大型異型リンパ球の密な増生をみます。LCA (+), L26 (+), CD3 (-) であり、B細胞びまん性大細胞型悪性リンパ腫の所見です。*同様の腫瘍を脾臓、骨、胸膜に認めます。*骨髄には血球貧食症候群と思われる所見がみられます。胸部から腹部に至る解離性大動脈瘤をみます。その内面はチリメン状となり、梅毒を疑いましたが血清反応は陰性でした。*肺には目だったうっ血、水腫は認められません。組織ではヒアリン膜は認められませんでした。*消化管には著変はありません。

2) 担当病理医: 勝山

第6回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・担当医：内科 星、濱本
2. CPC 開催日：2019年10月29日
3. 発表者：臨床側（星）
病理側（濱本）
4. 患者：70才台、男性
5. 臨床診断：食道癌
6. 剖検診断：重複癌
7. 剖検情報：
 - 1) 剖検診断と病理所見
 - I. 重複癌
 - A. 食道癌（低分化型扁平上皮癌）化学療法後、ステント挿入術後状態
 1. 同穿孔
 2. 右肺尖部膿瘍形成
 3. 同転移
 - a) 肝(1320g、直径3.5cm以下複数腫瘍形成)
 - b) 肺（左：280、右：280g）
 - (1)癌性リンパ管炎
 - B. 胃癌化学療法後状態（噴門部原発、低分化型腺癌、再発なし）
 - II. 腔水症
 - A. 胸水（左：800、右：800ml）
 1. 両下肺無気肺（左：300、右：500g）
 - B. 心嚢水（50ml）
 - III. るいそう
* 食道下部腹側に穿孔があり、ステントが露出します。* 頸部食道から右肺尖部に膿瘍形成があり、その部分の細菌培養で、E. cloacae（少数）、E. faecium（1+）、C. glabrata（少数）を認めました。
* 胃噴門部から臍体部にかけて肥厚、腫瘍形成があり、その組織所見では、わずかに角化傾向をみる低分化扁平上皮癌の浸潤増生をみます。腺癌の成分は認められません。* 肝には白色やや硬い、境界明瞭な腫瘍形成を複数みました。その組織所見も同様に低分化扁平上皮癌です。* リンパ管を主体とした脈管浸潤が目立ち、肺では癌性リンパ管炎の所見をみます。* 下部消化管には著変はありませんでした。
 - 2) 担当病理医：勝山

第7回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・担当医：内科 瀧口、佐伯、川崎、中川
2. CPC 開催日：2019年11月26日
3. 発表者：臨床側（中川）
病理側（勝山）
4. 患者：70才台、女性
5. 臨床診断：ネフローゼ症候群
6. 剖検診断：ネフローゼ症候群
7. 剖検情報：
 - 1) 剖検診断と病理所見
 - I. 「ネフローゼ症候群」(左：60、右：110g)
 - A. 腔水症
 1. 胸水（左：200、右：700ml、黄色透明）
 - a) 右無気肺（350g）
 2. 腹水（450ml、黄色透明）
 - II. クロストリジウム腸炎
 - III. 肺うっ血水腫および気管支肺炎（左：650、右：350g）
 - IV. 大動脈粥状硬化症
 - V. 肝褐色変性（950g）
* 腎は左が萎縮し、表面には粗大陥凹をみます。右は肉眼的には著変ありません。腎の組織所見では、一部の糸球体のヒアリン化をみ、微小膿瘍が散見されますが、光顕上著変を指摘し難い糸球体が多いです。* 結腸は全長に渡り、小さな隆起性病変の散在をみます。その組織所見では浮腫、変性、死後変化と思われるびらんが目立ち、反応性の隆起性病変です。内容は血性ではありません。
* 胃にも死後変化が目立ちました。* その他の消化管内容は血性ではなく正常です。
 - 2) 担当病理医：勝山

第8回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・担当医：内科 吉積、西垣
2. CPC 開催日：2020年1月28日
3. 発表者：臨床側（西垣）
病理側（勝山）
4. 患者：70才台、男性
5. 臨床診断：サルコイドーシス
6. 剖検診断：サルコイドーシス
7. 剖検情報：
 - 1) 剖検診断と病理所見
 - I. サルコイドーシス
 - II. 急性出血性睪炎の疑い

III. 慢性間質性肺炎（左：480、右：650g）

IV. 心肥大（560g、手拳の1.5倍大）

A. 冠動脈硬化症

B. 大動脈粥状硬化症（軽度～中等度）

1. 良性腎硬化症（左：180、右：200g）

V. びまん

VI. 死後変性著明（死後33時間）

* 肺の組織所見では、血管周囲を中心に壊死を伴わない多数の小型 granuloma の形成をみます。

* 肺門部、気管周囲、脾周囲リンパ節にも多数の granuloma の形成をみ、サルコイドーシスに矛盾しない所見です。* 胸膜直下を主体とした fibrosis をみ、また一部では蜂巢肺様変化もみられます。著変のない肺胞壁が多く、空間的不均一性があり、UIP pattern 相当と思います。* 脾には出血があります。死後変性が著しく組織所見の判定は困難ですが、好中球浸潤を疑う所見をみ、出血性脾炎の可能性を考えます。* 心肥大をみまが心筋組織には granuloma の形成はみず、心サルコイドーシスの所見は認められません。* 突然死を説明できる気道内異物、肺動脈血栓、急性心筋梗塞の所見は認められません。* 著しい肥満を認めました。

2) 担当病理医：勝山

IV びまん

* 横行結腸に壁肥厚を認めます。組織では変性所見を伴う腫瘍細胞のわずかな残存をみます。結腸内には茶褐色固形便が多くみられますが、イレウスはみません。* 肝転移が目立ち、そのため肝不全と思われる黄疸、腹水貯留をみます。* 肺にも小さな転移巣を複数みます。* 胃には正常食物残渣を多量に認めました。* 腹水は黄色透明であり、癌の播種はみません。

2) 担当病理医：勝山

第9回西市民病院CPC報告

1. 診療科、主治医・担当医：内科 星、谷野

2. CPC 開催日：2020年2月25日

3. 発表者：臨床側（谷野）
病理側（勝山）

4. 患者：70才台、女性

5. 臨床診断：大腸癌

6. 剖検診断：大腸癌

7. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

I. 大腸癌治療後状態（横行結腸原発、Borr IV型、中等度分化型腺癌）

A. 同転移

1. 肝（2100g、直径2cm以下多数）

a) 肝不全

(1) 黄疸

(2) 腹水（900ml、黄色透明）

2. 肺（左：280、右：460g、直径0.5cm以下複数）

II. 肺うっ血水腫

III. 良性腎硬化症（左：100、右：100g）

Ⅲ. CPC 報告

Ⅲ. 3 CPC 報告(2019年4月～2020年3月) (西神戸医療センター)

第1回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ: Hodgkin Lymphoma の経過観察中に消化管穿孔を呈した1例
2. 診療科、主治医: 免疫血液内科 田中康博、高根 諒
3. CPC 開催日: 2019年5月27日
4. 発表者: 臨床側(高根 諒、田中康博): 病理側(橋本公夫、勝冨浩紀)
5. 患者: 87歳、女性
6. 臨床診断: classic Hodgkin lymphoma、消化管穿孔
7. 剖検診断: classic Hodgkin lymphoma、回腸穿孔、腹膜炎
8. 臨床情報:

【現病歴】

X- 1年1月より、38℃台の発熱と食欲不振を認め、抗生剤加療にて改善なく、同年2月に当院免疫血液内科を紹介受診となった。CTにて多発リンパ節腫大および脾内腫瘍を認め、生検で classic Hodgkin Lymphoma, Stage III B と診断。BV 投与で加療行うも X 年3月の PET-CT で PD となり、以後対症療法を行いながら外来で経過観察していた。X 年5月30日午前3時頃に突然腹痛、黒色便が出現し、同日当院免疫血液内科に緊急入院となった

【既往歴】

結核性肋膜炎、脂質異常症、アレルギー性皮膚炎、メニエール病、骨粗鬆症、不眠症

【身体所見】

BT 39.7℃, HR 83/min, BP 139/84 mmHg, SpO₂ 98% (room air). 頸部リンパ節: 触知せず、心音: 雑音なし、呼吸音: wheezes (-), crackles (-)、腹部: 平坦、軟、左季肋部に1横指脾臓を触知、四肢: 両下腿浮腫あり

【検査所見】

WBC 4500/ μ l, RBC 297万/ μ l, Hb 8.8 g/dl, Ht 28.7%, Plt 5.8万/ μ l, MCV 97 fl, MCH 329.6 pg, MCHC 30.7%, CRP 22.8 mg/dl, TP 5.2 g/dl, Alb 1.9 g/dL, T-Bil 1.4 mg/dl, AST 10 IU/l, ALT 12 IU/l, ALP 564 IU/l, LDH 339 IU/l, CK 25 IU/l, AMY 113 IU/l, BUN 30 mg/dl, Cr 0.85 mg/dl, eGFR 47.5 ml/分/1.73, Na 135 mEq/l, K 5.0 mEq/l, Ca 7.2 mg/dl, sIL-2R 10800 U/ml

【画像検査】

<上部消化管内視鏡検査> 十二指腸下行脚まで挿入したが、明らかな出血、潰瘍性病変、隆起性病変は認めず。

<腹部CT> 左>右の両側胸水が見られ、肝脾周囲～右側腹部、骨盤内などにて腹水を散見。上腹部正中腹壁直下をはじめとして腹腔内には free air が散見される。上行結腸～横行結腸脾彎曲付近にかけてではガス貯留を主とする拡張が見られるが、下行～S状結腸では虚脱様となっている。

【経過・治療】

EGD では異常を認めず、5/31のCTにて free air を認め消化管穿孔と診断した。高齢でリンパ腫が末期であるため手術適応はなく、セフトリアキソン 2 g/day、PSL 30mg/day で保存的加療を行い、6月2日に永眠された。

【症例の問題点】(剖検で解明しなかった事項)

消化管穿孔の原因・場所の特定

9. 剖検情報:

1) 剖検診断と病理所見

剖検診断: classic Hodgkin lymphoma、回腸穿孔、腹膜炎

病理所見:

主病変:

1. ホジキンリンパ腫、同浸潤転移: 肝、脾、骨髄、リンパ節(両側肺門部、気管周囲、大動脈周囲、腸間膜)

2. 下部消化管穿孔に伴う腹膜炎(回腸末端から35cmの回腸、混濁した腹水800ml)

副病変:

1. 肺うっ血水腫(右: 600g / 左: 370g、胸水250ml / 300ml)

2. 腸管浮腫(上行結腸からS状結腸)

死因: 回腸穿孔に伴う腹膜炎からのものである敗血症

2) 担当病理医: 勝冨浩紀

3) 病理医からのコメント

本例は肝、脾、骨髄、リンパ節(両側肺門部、気管周囲、大動脈周囲、腸間膜)にリンパ腫の浸潤が認められた。免疫組織化学的には CD30 陽性

を示す Hodgkin lymphoma として矛盾しないと考えられた。回腸には穿孔に伴う腹膜炎が認められたが、リンパ腫の浸潤は認められなかった。直接死因は穿孔に伴う腹膜炎からの敗血症と考えられた。

10. 考 察

悪性リンパ腫と消化管穿孔の関係

消化管に原発する悪性腫瘍のうち、悪性リンパ腫の頻度は1～2.2%程度。しかし、消化管肉腫の中で発生頻度が比較的多く、リンパ節外原発の悪性リンパ腫のうち、消化管に初発するのが約1/4といわれている。また、消化管原発悪性リンパ腫は胃48～50%、小腸30～37%、回盲部12～13%、結腸10～12%の割合でみられ、穿孔例は25%近くに認められる。しかし、これらは非ホジキンリンパ腫に関する報告であり、ホジキンリンパ腫での報告は少ない。

本症例では悪性リンパ腫を発症している経過で下部消化管穿孔を発症したため、当初は悪性リンパ腫の浸潤が原因となり、消化管穿孔を引き起こしたと考えられた。しかし、病理解剖した結果、穿孔部位に明らかなリンパ腫の浸潤は認めず、消化管穿孔に至った原因は特定できなかった。

11. 参 考 文 献：

- 造血器腫瘍診療ガイドライン2018、
血液病レジデントマニュアル第二版 医学書院
Spontaneous intestinal perforation due to non-Hodgkin's lymphoma: evaluation of eight cases. Ara C, Coban S, Kayaalp C, Yilmaz S, Kirimlioglu V. *ig Dis Sci.* 2007 Aug;52 (8) : 1752-6. Epub 2007 Apr 10,
Jejunal perforation in gallstone ileus - a case series. Browning LE, Taylor JD, Clark SK, Karanjia ND. *J Med Case Rep.* 2007 ; 1 : 157

第2回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：DLBCLの中枢神経系再発後に敗血症をきたした1例
2. 診 療 科・担 当 医：免疫血液内科 田中康博、中嶋眞美
3. CPC 開催日：2019年6月3日
4. 発 表 者：臨床側（中嶋眞美）
：病理側（橋本公夫）
5. 患 者：70歳、女性
6. 臨 床 診 断：非ホジキンリンパ腫再燃、敗血症
7. 剖 検 診 断：非ホジキンリンパ腫（びまん性大細胞性B細胞性リンパ腫）

8. 臨 床 情 報：

【主訴】左頸部リンパ節腫脹

【現病歴】

46歳時発症のSAPHO症候群のため当院免疫血液内科にてMTX投与され、コントロール良好であった。X-1年3月にCTにて右腎腫瘍を認め、CT下生検にて非ホジキンリンパ腫（DLBCL：diffuse large B-cell lymphoma）と診断。R-CHOP療法を計6コース施行し、同年11月のPET-CTでCRと判断した。12月末より構音障害が生じ、X年1月の頭部CT/MRIにて左側頭葉に腫瘍を認めた。開頭生検にてNHL再発と診断、大量MTX療法を3 course 施行するもPDであったため全脳照射+boost照射追加したところ症状が消失した。5月中旬頃より左頸部リンパ節腫脹が出現し、5月29日入院となった。

【既往歴】高血圧 小児喘息 子宮癌 右大腿骨転子部骨折

【身体所見】

身長162cm, 体重62.7kg, BT 36.5℃, HR 117 bpm, BP 128/78 mmHg, SpO2 96%. 眼瞼結膜：蒼白 頸部：左頸部に5cm大のリンパ節腫脹の集簇あり、同部位の疼痛あり。胸部：呼吸音清、心音明らかな雑音なし。肝臓/脾臓：腫大なし。四肢：両膝より遠位に浮腫あり、両下肢に紫斑あり、両下肢脱力あり、両肘関節痛あり

【検査所見】

〈血液検査〉WBC 11700/μl (Neut : 90.0 %, Lymp : 5.0 %) , RBC 438 × 10⁴/μl, Hb 11.4 g/dl, Plt 28.0 × 10⁴/μl, 網赤血球数 18%, CRP 0.6 mg/dl, AST 18 IU/L, ALT 20 IU/L, LDH 602 IU/L, ALP 292 IU/L, γ GTP 15 IU/L, T-Bil 0.8 mg/dl, TP 6.1 g/dl, Alb 3.8 g/dl, CK 108 IU/L, BUN 20 mg/dl, Cre 0.44 mg/dl, 血清β 2-MG 1.8 mg/L, IgG 694 mg/dl, IgA 106 mg/dl, IgM 108 mg/dl, Na 126 mEq/l, K 4.2 mEq/l, Ca 9.3 mg/dl, IP 3.7 mg/dl, sIL-2R 539 U/ml

〈PET-CT経過〉

X-1/04/12（初発時）：前縦隔、心臓周囲脂肪織内、第9胸椎椎体、右上顎骨、右腎、右咽頭扁桃、肺、肝臓などへのリンパ腫浸潤を認める。右仙骨神経叢、右大腿神経の走行に一致した集積あり、neurolymphomatosisの像を考える。

X/02/13（CNS再発後）：左側頭葉領域に正常脳実質より高いFDG集積を伴う領域を認め、既知の中

中枢神経病変と考えられる。その他明らかな再発部位はなし。

X/05/29（今回入院時）：左側頭葉病変の残存あり。側頭骨尾側の軟部影、左頸部・鎖骨上の腫大リンパに高集積あり、再発病変と考えられる。また左上咽頭側面にも集積亢進を認め、波及した病変の可能性はある。

＜頭部 MRI（X/06/12）＞

前回 MRI で左大脳半球に認められた造影をうける腫瘍性病変はほぼ消失している。その一方で、今回の MRI では左頸部に腫瘍性病変が出現しており、2018/05/29 の PET-CT で指摘された病変と考えられる。

【経過】

5月29日のPET-CTにてDLBCLの左頸部リンパ節再発と診断し、サルベージ療法として第7病日よりESHAP療法を施行した。骨髄抑制中の第17病日より発熱、血圧低下、脈拍増加が出現し、同日の血液培養から緑膿菌が検出されたことからseptic shockと診断、G-CSF皮下注とMEPM点滴を開始した。症状は数日で軽快、左頸部のリンパ節腫脹は消失し治療効果は良好であった。AraCを減量してESHAP療法2コース目を第35病日より施行した。第42病日より発熱を認めた。血液培養陰性で、G-CSFとCFPM点滴を開始したが発熱は持続していた。第45病日より強い腹痛と下血を認め、翌日からフェンタニル皮下注を開始するも腹痛の改善は乏しく、第48病日から尿量低下を認め、全身状態は悪化していき、第50病日の午前8時58分に永眠された。

【病理解剖目的】

- ①脳病変残存の有無
- ②リンパ腫の広がり
- ③感染巣の有無

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

剖検診断：非ホジキンリンパ腫（大脳、脳幹転移）、下部消化管憩室炎、敗血症

病理所見：

左右胸腔内、腹腔内に体腔液の貯留なし。左右肺と壁側胸膜の癒着なし。腸管の癒着や穿孔は認めないが、S状結腸の漿膜面には出血痕あり。胸腹腔内にリンパ腫の浸潤を認めず。

結腸全体に憩室を多数認め、漿膜側に糞石（便）の圧排を認める。S状結腸下部では潰瘍と出血を伴う憩室炎を認める。明らかな穿孔なし。組

織学的には漿膜下組織に達する憩室を多数認める。S状結腸下部には憩室炎が認め、周囲に壊死性物質の付着あり。漿膜面にはフィブリン析出を認める。脾臓の断面に泥状物がみられ、感染が示唆される。病理組織学的に好中球浸潤はみられないが、組織球が目立つ。

骨髄は高度の低形成性を示しており、リンパ腫の浸潤は見られない。リンパ腫による腫瘍形成や明らかな節内病変（リンパ節腫大）も確認できない。病理組織学的にリンパ節にリンパ腫の浸潤は認められない。

脳は左右側頭葉、中脳から橋、くも膜下腔にリンパ腫の浸潤が認められる。多くは血管周囲性並びに血管壁への浸潤であるが、左前頭葉を中心に脳実質内へのびまん性浸潤も認められる。硬膜組織への浸潤は認められない。リンパ腫細胞はCD20(+)、CD79a(+), CD3(-), CD5(-), bcl2(+), bcl6(-/+)を示し、Ki67陽性率は90%以上と高率である。

2) 担当病理医：勝嶋浩紀

3) 病理医からのコメント

本例は左右側頭葉と脳幹、くも膜下腔に広い範囲でリンパ腫の浸潤が認められた。免疫組織化学的にはCD20陽性のDLBCLとして矛盾しないと考えられた。他臓器への浸潤増生は認められなかった。下部消化管に広く憩室が認められ、固有筋層を越える侵入が認められた。S状結腸下部では高度の憩室炎が認められ、周囲には腹膜炎の所見が認められた。直接死因は重度憩室炎による敗血症と考えられた。リンパ腫の中枢神経への浸潤が死因にどの程度影響を及ぼしたかは不明である。

10. 考察

DLBCLの中枢神経再発後の治療について

DLBCLの2～10%でCNS再発が起こるとされており、CD5陽性例や血管内大細胞型B細胞リンパ腫はCNS再発しやすい。全患者にCNS再発予防を行うことは推奨されていないが高リスク群では考慮されるが確立された予防治療法はない。

本邦においては、造血器腫瘍診療ガイドライン2018によると、多くのサルベージ療法はあるが明確な選択基準はなく前治療歴や全身状態に応じてレジメン（DHAP療法/ESHAP療法/DeVIC療法/ICE療法etc.）を選択することが多い。化学療法感受性再発例については自家末梢血幹細胞移植の適応となり、CNS再発や原発性CNSリンパ腫に対して

は大量 MTX 療法を可能な限り行う。

米国においては National Comprehensive Cancer Network ガイドライン (2005 年) によると、全脳放射線治療後の再発に対してはサルベージ療法が、放射線治療がなされていない再発例に対して、①以前 MTX で良好な反応を示した場合再度 MTX 治療 ②以前 MTX で反応が乏しかった場合放射線治療が推奨される。

以上より、CNS 再発の治療、予防にも大量 MTX 療法が有効とされており、大量 MTX 療法で効果不十分の場合は放射線治療併用が推奨される。

11. 参考文献

- 1) 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018
- 2) 米国 National Comprehensive Cancer Network ガイドライン (2005 年)
- 3) Bay-area Lymphoma Information Network. Tomita N et al. Central nervous system event in patients with diffuse large B-cell lymphoma in the rituximab era. Cancer Sci. 2012 Feb;103(2): 245-51.
- 4) CNS international prognostic index : A risk model for CNS relapse in patients with diffuse large B-cell lymphoma treated with R-CHOP Norbert Schmitz et al. JCO 34 : 3150-3156. 2016.

第3回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ：回盲部原発のびまん性大細胞性 B 細胞性リンパ腫の 1 例
2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液内科 田中康弘、浅井真梨
3. CPC 開催日：2019 年 6 月 10 日
4. 発表者：臨床側 (浅井真梨) 病理側 (橋本公夫)
5. 患者：75 歳、男性
6. 臨床診断：回盲部びまん性大細胞性 B 細胞性リンパ腫
7. 剖検診断：びまん性大細胞性 B 細胞性リンパ腫
8. 臨床情報：

【主訴】倦怠感、食欲不振

【現病歴】

X-2 年 8 月消化管穿孔を契機に回盲部原発びまん性大細胞性リンパ腫 (DLBCL) と診断された。R-CHOP 療法で PR、R-ICE 療法で PD となり、R-GDP 療法 3 コース + 放射線治療 40Gy/20fr 施行

するも、X 年 3 月の PET-CT では下大静脈腹側にリンパ節腫大、右肺尖部に結節影を認め PD と判定した。

X 年 3 月 19 日胸腔鏡下に右肺上葉を部分切除し、病理組織学的に CD20 陰性 DLBCL と診断された。その後無治療経過観察となっていたが、4 月 6 日朝より右背部痛あり、造影 CT で右水腎症を認めた。5 月 1 日の単純 CT では術後の右肺尖部に新たな結節影を認め、右肩甲骨部痛が出現したため入院加療となった。CMD 療法へ移行し、外来で 5 コース施行したが症状は持続し sIL-2R は上昇傾向であった。

X 年 8 月上旬頃より頭痛、嘔気、食欲不振あり、8 月 17 日緊急入院。麻薬で疼痛コントロールを行い、右肺尖部腫瘍に対して放射線治療を開始し、40Gy/20fr 完遂した。LDH は放射線治療により 923 IU/l から 367 IU/l と低下し、右胸水も減少傾向を認めた。

入院時より発熱あり。入院 26 日目より PSL40mg/day 開始し速やかに解熱得られ、嘔気も軽減した。放射線治療終了後も右胸水貯留は残存し、入院 41 日目胸腔穿刺で胸膜浸潤と診断した。その後倦怠感が増悪したが、本氏・家族の希望あり入院 53 日目退院となった。

退院翌日に発熱、せん妄、傾眠あり、再入院となった。

【既往歴】57 歳 頸椎症

【入院時現症】意識 清明、体温 38.1℃、血圧 97/66 mmHg、脈拍 123 bpm、SpO2 96% (O2 カメラ 2L)、身長 170cm、体重 70kg、眼瞼結膜蒼白、体表のリンパ節に腫脹なし、右腋窩付近に手術痕あり、呼吸音右肺で減弱、心雑音なし、腹部 平坦・軟、肝脾腫なし、正中に手術痕あり、右下腹部に腫瘤を触れる、下腿浮腫なし、皮疹なし

【検査所見】<血液> WBC 1000/μl, Hb 10.8 g/dl, Ht 31.5%, Plt 5.3 万 /μl, CRP 7.5 mg/dl, TP 5.1 g/dl, Alb 2.6 g/dl, T-bil 0.7 mg/dl, AST 57 IU/l, ALT 23 IU/l, ALP 305 IU/l, LDH 763 IU/l, BUN 29 mg/dl, Cr 1.29 mg/dl, eGFR 42.5 ml/min/1.73m², Na 124 mEq/l, K 4.5 mEq/l, Ca 8.5 mg/dl

<胸部単純写真> 右胸水貯留

<頸胸腹部単純 CT> 右肺尖部～胸壁深部にかけて軟部組織濃度域の広がり増強、連続性あり 右肺縦隔側結節様構造が増大し腫瘤様に変化あり 傍腹部大動脈部右近傍に不整形腫瘤性変化あり、4 ヶ月前と比較して増大あり

【経過】入院翌日、胸部単純 X 線で右胸水がさらに増加。血圧低下・尿量減少をきたし、同日永眠した。

【症例の問題点】病変の拡がり、CD20 陰性化の程度

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見

剖検診断：回盲部 CD20 陰性びまん性大細胞性 B 細胞リンパ腫再発

(腹腔内、右胸腔内播種)

病理所見：

〔胸部〕右胸腔に 2300ml 強の赤褐色やや混濁した胸水貯留。右肺尖部は胸壁に癒着し、壁側胸膜は横隔膜面～縦隔面を含めて腫瘍でびまん性に肥厚。縦隔では右肺門部に腫瘤形成あり、剖面を作成すると右肺下葉気管支周囲にも腫瘤形成あり。

〔腹部〕黄褐色の腹水が少量見られるのみ。回盲部手術部と考えられる腸間膜部に径 10cm 以上の一塊となった腫瘍あり。この腫瘍からの播種と考えられる腹膜病変が壁側腹膜 / 横隔膜にあり。肝臓表面に腫瘤形成あり。腫瘍部には、回盲部切除時の縫合部や、横行結腸の一部が癒着し、さらに十二指腸水平脚は巻き込まれており、粘膜面に腫瘍の露出あり。右尿管も腫瘍部に巻き込まれていた。肝臓剖面では実質内には結節形成なく、門脈の拡張とうっ血あり。十二指腸に腫瘍の露出あり。右尿管が腫瘍に巻き込まれており、強く水腎症を呈し出血が認められた実質にも萎縮あり。被膜下実質内に結節状の腫瘍の転移が認められた。

〔顕微鏡所見〕2 年前の診断時の組織では、CD20/ 10/79a 陽性・CD3/5 陰性であったが、今回の病理解剖では腫瘍細胞の CD20 陰転化を認めた。

2) 担当病理医：橋本公夫

3) 病理医からのコメント

悪性リンパ腫の回盲部術部の腸間膜に腫瘤形成が認められ、腹腔内に播種するとともに、横隔膜を越えて右胸膜に播種を起こしたものと考えられた。縦隔にも腫瘤形成が認められ、右肺にも浸潤が認められた。リンパ節腫大は腸間膜から後腹膜、気管周囲から気管分岐部に見られた。回盲部手術部の腫瘍は、剖面では多結節性で、リンパ節再発と考えられた。腫瘍の浸潤による呼吸循環不全が最終死因と考えられた。

10. 考 察

大腸原発悪性リンパ腫について

消化管原発悪性リンパ腫は胃に多く、大腸原発は 6-12% とされている¹⁾。大腸原発悪性リンパ腫は大腸原発悪性疾患の 1% 以下にすぎない²⁾。発生部位頻度は①盲腸、②直腸であり両者で全体の 70-90% を占め、リンパ組織の発達部に好発する³⁾。頻度の高い組織型は本症例のような diffuse large B-cell type; DLBCL (26-49%)、MALT リンパ腫 (37-39%) である⁴⁾。CT 所見としては、大腸壁の肥厚にも関わらず大腸内腔が確認されることが特徴である。腸管原発悪性リンパ腫の診断基準を次に示す。①表在リンパ節を触知しない ②胸部 X 線上縦隔リンパ節腫大を認めない ③末梢白血球や分画に異常を認めない ④開腹時所見で腸管病変が主体で転移は所属リンパ節に限局する ⑤肝、脾臓に病変を認めない。本症例ではいずれの項目も満たしており、回盲部原発と診断された。DLBCL では病期決定後に化学療法 / 放射線療法を行うことが基本だが、大腸原発に限ると、限局する場合にはまず外科治療で原発巣の切除と大腸癌に準じた十分なリンパ節郭清をすべきとの報告があり、おって術後補助療法を行うことが推奨されている⁵⁻⁶⁾。予後は大腸癌より不良で 5 生率が 30-40% とされている⁷⁾。

11. 参 考 文 献

- 1) Lee HJ, et al : Eur Radiol 2002 ; 12 : 2242-2249
- 2) Wong MTC, et al : Colorectal Dis 2006 ; 8 : 2462-73
- 3) Jinmai D, et al : Jpn J Surg 1983 ; 13 : 331-336
- 4) 中村昌太郎, 他 : 大腸癌 Frontier 2009 ; 2 : 153-157
- 5) 松本修一, 他 : 外科 1981 ; 43 : 7-13
- 6) 平山亮一, 他 : 手術 2007 ; 61 : 113- 6
- 7) 岩下明德, 他 : 胃と腸 1995 ; 30 : 869-886

第 4 回西神戸医療センター CPC 報告

1. 症 例 テ ー マ：間質性肺炎の急性増悪
2. 診療科、主治医：免疫血液内科 橋本朗子、山本健太
3. CPC 開催日：2019 年 6 月 17 日
4. 発 表 者：臨床側（山本健太）
病理側（石原美佐）
5. 患 者：69 歳、男性
6. 臨 床 診 断：間質性肺炎の急性増悪
7. 病 理 診 断：びまん性肺胞障害

8. 臨床情報：

【現病歴】

201X- 2年に回盲部原発びまん性大細胞性B細胞性リンパ腫（DLBCL）を発症、加療後にCRを維持していたが、骨髓異形成症候群（MDS）を発症した。MDSに対しては外来フォローで経過を見ていたが、201X年4月初旬より原因不明の発熱を認めため、精査目的で4月27日に入院となった。

【既往歴】8歳：急性腎炎 42歳：脂質異常症 52歳：高尿酸血症

【身体所見】

体温 37.1℃，脈拍 83 bpm，血圧 121/68 mmHg，SpO₂ 87%（room air）。眼瞼結膜蒼白、眼瞼結膜黄染なし。頸部リンパ節を触知せず。心音：整、雑音なし。呼吸音：coarse crackles（+） fine crackles（+）。腹部：平坦、軟、腸蠕動音良好、腹痛なし。四肢：浮腫なし。

【検査所見】

〈血液検査（201X/ 4/27）〉 WBC 1000/μl（STAB 13.0%，SEG 66.0%，LYMPH 9.0%，MONO 8.0%，MYELO 3.0%），RBC 183 × 10⁴ /μl，Hb 10.9 g/dl，Plt 3.3 × 10⁴ /μl，網赤血球 12%，AST 36 IU/L，ALT 24 IU/L，LDH 510 IU/L，T-Bil 0.4 mg/dl，TP 5.8 g/dl，Alb 3.0 g/dl，ChE 209 IU/L，BUN 17 mg/dl，Cre 1.38 mg/dl，Na 137 mEq/l，K 3.1 mEq/l，Cl 102 mEq/l，Ca 8.4 mg/dl，血糖 197 mg/dl，CRP 12.4 mg/dl

〈胸部Xp（201X/ 4/27）〉 明らかな心拡大なく、両肺野の浸潤影も軽度

〈胸部単純CT（201X/ 5/ 1）〉 両側肺に浸潤影を認め、背側優位にすりガラス影が広範囲に出現 胸水貯留も認められる

【入院後経過】

入院時より PIPC/TAZ 4.5g q8h による抗生剤治療を開始、呼吸状態不良に対してはリザーバマスクにて対応した。第4病日に撮像した胸部単純CTにて両側肺の浸潤影の増悪を認め、間質性肺炎、抗生剤による薬剤性肺炎、真菌感染など疑われたため同日より MCFG 150mg を併用、呼吸管理としては NPPV に変更した。病態としては感染症契機の間質性肺炎の急性増悪と考え、第5 - 6病日に mPSL 1g/day によるステロイドパルス療法を施行した。第7病日に抗生剤を MEPM 0.5g q8h に変更し第9病日に VCM 0.5g q12h を併用したが、発熱は持続し、NPPV は S/T モードで FiO₂ 1.0 としても SpO₂ 90% を下回る状態が持続していた。第12病日にエンドキサンパルス療法を施行、第14病日

にウイルス性肺炎も考慮し GCV 500mg を追加したが臨床症状の改善が認められず、同日より緩和目的にモルヒネの投与を開始した。その後、第17病日の 17:56 に死亡確認となった。

【臨床上の問題点】 治療に対して非常に抵抗性の強かった間質性肺炎の病態に対して臨床的疑問が生じ、病理解剖を依頼した。

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

剖検診断：びまん性肺胞障害

病理所見：

両肺に間質性の病変のびまん性の拡がり認められ、胸水貯留を伴っていた。組織学的に高度のびまん性肺胞障害の像が認められ、高度の換気障害による呼吸不全が直接の死の原因となったと考えられた。悪性リンパ腫を含む腫瘍性病変は認められず、真菌や細菌、ウイルスなどの感染所見も明らかでなかった。以前より胸膜直下の網状影が画像的にみられていたこと、組織学的に胸膜下に蜂窩肺形成がわずかにみられたことなどからは、確定は困難であるが間質性肺炎の急性増悪が最も疑われた。

他臓器に直接の死因となりうる病変は認められなかった。大動脈弁のフィブリン疣贅、腹部大動脈瘤の壁血栓、腎糸球体の微小血栓などの存在からは死戦期の凝固異常の存在が疑われ、骨髓異形成症候群と相まって血小板の低下を助長したと考えられた。骨髓異形成症候群、播種性凝固症候群等による貧血も低酸素状態の急激な悪化の一因となっていたと考えられた。

2) 担当病理医：石原美佐

10. 考察

間質性肺炎の急性増悪について

間質性肺炎（以下、IP）の病理像は多彩であり、膠原病や無機・有機粉塵の曝露（職業的要因）、薬剤によるものなど原因が明らかな場合の他に原因が特定できない場合があり、原因不明のIPを特発性間質性肺炎（IIPs）と分類する¹⁾。2013年に報告されたアメリカ胸部医学会（ATS）/ヨーロッパ呼吸器学会（ERS）国際分類において、主要なIIPsに、特発性肺線維症（IPF）、特発性非特異性間質性肺炎（特発性NSIP）、剥離性間質性肺炎（DIP）、呼吸器細気管支炎関連性間質性肺疾患（RB-ILD）、特発性器質化肺炎（COP）、急性間質性肺炎（AIP）が包含される²⁾。今回の症例はIPFの一例であっ

たと考えられる。IPF の経過中に、1 カ月以内の経過で (1) 呼吸困難の増強 (2) HRCT 所見で蜂巢肺所見 + 新たに生じたすりガラス陰影・浸潤影 (3) 動脈血酸素分圧の低下 (同一条件下で PaO₂ 10 mmHg 以上) の全てがみられる場合、間質性肺炎の急性増悪と診断できる (ただし明らかな肺感染症、気胸、悪性腫瘍、肺塞栓、心不全を除外する)。IPF 患者の死亡原因は急性増悪が全体の 40% と報告されており³⁾、急性増悪を起こした群では 5 年生存率が 18.4% と極めて予後が悪い⁴⁾。急性増悪時の治療としてはステロイドパルス療法、抗繊維化薬、人工呼吸管理などが挙げられるが、急性増悪を一度起こしてしまった場合には極めて予後が不良であるため、高リスク群に対しては予防的に抗繊維化薬の投与が有効であるという報告もされている。本症例では、抗生剤やステロイドパルスなどあらゆる治療に効果が乏しく、病理組織学的に間質性肺炎の急性増悪をきたしており救命は困難な一例であったと言える。

11. 参考文献

- 1) 特発性間質性肺炎 診断と治療の手引き 改訂第 3 版, 南江堂, 2016
- 2) 千田金吾, ほか. 厚生科学研究特定疾患対策研究事業びまん性肺疾患研究班平成 13 年度研究報告書 2002; 106-108.
- 3) Natsuizaka M, et al : Am J Respir Crit Care Med 2014; 190 (7) : 773-779
- 4) Song JW, et al : Eur Respir J 2011; 37 (2) : 356-363

第 5 回西神戸医療センター CPC 報告

1. 症例テーマ: 結腸浸潤をきたした末梢性 T 細胞リンパ腫の 1 例
2. 診療科、主治医・受持医: 免疫血液内科
田中康博、松川敦紀
3. CPC 開催日: 2019 年 7 月 22 日
4. 発表者: 臨床側 (松川敦紀)
病理側 (橋本公夫、勝冨浩紀)
5. 患者: 69 歳、女性
6. 臨床診断: 末梢性 T 細胞性リンパ腫
7. 剖検診断: 末梢性 T 細胞性リンパ腫 非特異型
8. 臨床情報:

【主訴】発熱、血圧低下

【現病歴】201X-1 年 1 月に左頸部のリンパ節腫大を認めたため、近医受診され当院へ紹介された。自

然消退を認めたが、同年 7 月の CT で再度リンパ節の腫大を認め、生検にて末梢性 T 細胞性リンパ腫と診断。8 月から CHOP 療法で治療開始。6 コース施行し、最終投与 12 月で治療終了。201X 年 1 月の PET 検査では一部に残存病変を疑う異常集積をごくわずかに認めたが、自覚症状ないため near CR と判断し経過観察としていた。2 月 8 日に血小板の著減を認めたため、精査加療目的に入院。精査で骨盤内にわずかに腫瘍細胞の浸潤の可能性を認めたが、TPO agonist 導入で血小板増多を認めたため、3 月 10 日に退院となった。3 月 30 日から発熱と血圧低下を認めたため、4 月 2 日に受診。LDH, ALP の上昇、汎血球減少の進行を認め、末梢性 T 細胞リンパ腫の増悪が疑われたため、同日緊急入院となった。

【既往歴】副甲状腺機能亢進症、結核

【入院時現症】体温 36.9℃, 脈拍 69 回 / 分, 血圧 128/64mmHg, SpO₂ 97% (room air)

【検査所見】〈血液検査〉WBC 1300/μl (網赤血球 11%, 好中球 81.1%, リンパ球 10.9%, 単球 6.6%, 異型リンパ球 検出せず), RBC 376 万 / μl, Hb 11.0g/dl, Ht 33.0%, Plt 10.8 万 / μl, 血糖 162mg/dl, CRP 2.7mg/dl, TP 6.8g/dl, Alb 3.0g/dl, T-Bil 2.1mg/dl, ChE 134 IU/l, AST 52 IU/l, ALT 29 IU/l, ALP 501 IU/l, LDH 662 IU/l, BUN 13mg/dl, Cr 0.39mg/dl, Na 133mEq/l, K 2.8mEq/l, Cl 94mEq/l, Ca 8.1mg/dl, siL-2R 6130 U/ml, β 2-MG 5.5 mg/l, PT-INR 0.9, APTT- 秒 31.5 秒, D ダイマー 1.16 μg/ml, Fib 322

〈PET-CT (201X/ 3/15)〉腸間膜脂肪織内や傍腹部大動脈部にて淡い FDG 集積を示すリンパ節を散見する。脾臓のサイズは前回同様だが、集積は全体的に亢進、遅延相でも遷延しており、リンパ腫の浸潤性変化の可能性も考えられる。両肺野に小結節様～小斑状構造を散見する。特に左肺上葉 S 3 末梢や右中下葉間胸膜沿い、左肺下葉の心背側沿いに見られる病変はリンパ腫の浸潤性変化が考えられる。

【入院後経過】

入院時下痢症状強かったため、精査すると CMV アンチゲネミア陽性であった。CMV に対する治療開始 (4/3 ~ 4/30 ホスカビル、4/4 ~ 4/6・4/25 ~ 5/2 ファンガード) したが、症状の改善を認めなかった。CMV 腸炎の症状改善を待たず、4/13 に原疾患に対する化学療法 (GEM-P) を開始した。4/24 の CT にてリンパ腫増悪を確認した。4/25 に施行された下部消化管内視鏡下での生検では、CMV-DNA が定量され、またリンパ腫の浸潤も認めた。4/27

から ICE 療法を開始した。しかし、その頃から循環動態は不安定になり、5/2 に永眠となった。

9. 剖 検 情 報：

1) 剖検診断と病理所見：

剖検診断：末梢性 T 細胞性リンパ腫非特異型

病理所見：

[胸部] 左右胸腔内に 400ml、500ml の黄褐色の胸水貯留。胸膜の癒着なし。胸腔内にリンパ腫浸潤なし。両側肺とも含気が低下し、うっ血あり。肺の断面では、感染症や明らかなリンパ腫浸潤を疑う所見なし。病理組織学的にはリンパ腫の浸潤巣を認めず、CMV などの感染を示唆する所見なし。気管分岐部や気道周囲のリンパ節に異型リンパ球の浸潤を認める。

[腹部] 胃小弯を中心に点状出血、びらん。小腸の漿膜側から腸間膜にかけて点状出血が広く認められるが、粘膜面の点状出血はほとんど見られない。腸間膜内に腫大するリンパ節が多数認められる。上行結腸から S 状結腸にかけて斑状・低隆起の発赤が多発し、粘膜上皮の剥脱がみられる。組織学的には、回腸から S 状結腸にかけて異型リンパ球の浸潤が認められる。腸間膜内リンパ節にも背景に線維化を伴い異型リンパ球の浸潤が認められる。CMV 陽性となる封入体様の構造を有する細胞が少数ながら粘膜側で認められる。

肝臓にはうっ血を認める。組織学的に類洞の拡張が非常に目立ち、高度うっ血の所見。肝細胞には小滴性の脂肪化が見られる。明らかな肝細胞壊死は見られない。脾臓は高度の腫大が認められ (340g)、組織学的にはうっ血が認められる。左右の腎臓には、軽度の重量増加 (190g / 200g) が見られ、腎盂および尿管に点状出血が認められる。腎盂や尿管の拡張は認められない。

甲状腺には褐色調の腫瘍が認められ、組織学的には結節性甲状腺腫と診断した。病理組織学的には、いずれにもリンパ腫の浸潤は見られない。骨髄は低形成性を示しており、ごく少数の巨核球、赤芽球系、骨髄球が認められ、多くはリンパ腫細胞の浸潤である。免疫組織化学的に、各臓器に浸潤するリンパ腫細胞は CD3 (+), CD5 (+) CD4 (+), CD8 (+/-), CD79a (-) を示しており、Ki67 陽性率は 1% 以下相当である。リンパ腫による腫瘤形成や明らかな節内病変 (リンパ節腫大) は確認できない。

2) 担当病理医：橋本公夫

3) 病理医からのコメント：

本例では結腸全体と腸間膜リンパ節を主座にしてリンパ腫の浸潤が認められた。腫瘤形成や節内病変は認められなかった。免疫組織化学的には末梢性 T 細胞性リンパ腫非特異型と判断した。CMV 陽性となる細胞が少数、結腸に認められた。直接死因は結腸へのリンパ腫浸潤により下痢が引き起こされ、これに伴う脱水に対する循環不全と考えられた。

10. 考 察

末梢性 T 細胞性リンパ腫 (PTCL) はリンパ球の中の T 細胞から発生する非ホジキンリンパ腫である。欧米で頻度の高い PTCL 病型は頻度が高いものから順に、非特定型 (PTCL-NOS)、血管免疫芽球形 T 細胞リンパ腫 (AITL)、ALK 陽性未分化大細胞リンパ腫 (ALCL)、ALK 陰性未分化大細胞リンパ腫 (ALCL) である。今回の症例は PTCL-NOS に当たる。病期分類は、ほかの非ホジキンリンパ腫と同様に Lugano 分類 (2014) が用いられ、PTCL は無治療で月単位の病勢進行を示すアグレッシブ リンパ腫 (中悪性度リンパ腫) に分類される。予後は DLBCL より不良である。

PTCL-NOS は他のどの疾患単位にも属さない主として節性に発生する一群の PTCL であり、腫瘍細胞はびまん性の増殖を示し、核の多形性や大小不同、多くの核分裂像、毛細血管増生などの特徴を有する。また、成人に多く節性病変が多いが、骨髄・肝臓・皮膚などの節外病変も見られ、B 症状を伴い病期進行例が多い。

PTCL はアグレッシブ リンパ腫の 10 ~ 15% を占める。米国での大規模ランダム化比較試験において CHOP 療法 (CPA, DXR, VCR, PSL) がアグレッシブ リンパ腫に対する標準治療に位置づけられたことを受けて、PTCL の標準治療も CHOP 療法であるとみなされて、現在でも広く CHOP 療法が行われている。二次治療は、CCR 4 陽性症例に対してモガムリズマブが投与される。CD30 抗原陽性症例にはブレンツキシマブベドチンの注射製剤が考慮される。2017 年 5 月よりヒト T 細胞の増殖に関与するプリンヌクレオシドホスホリラーゼ (PNP) の経口阻害薬フォロデシンが臨床使用され、2017 年 7 月にはヒストン脱アセチル化酵素 (HDAC) 阻害薬のロミデプシンが承認された。しかし、いずれの二次治療においても治療効果は必ずしも良好とは言えず、二次治療以降の標準治療は確立されていないのが現状である。

PTCL-NOSに関してはイタリアの研究グループから提唱された病型特異的予後予測モデルである PIT (Prognostic Index for PTCL-U) がある。PIT では、年齢 > 60 歳、performance status (PS) > 1、血清 LDH 値 > 施設基準値上限、骨髓浸潤陽性の 4 つが予後不良因子として規定されている。今回の症例では、group 4 に当たる。

11. 参考文献

- 1) 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年
- 2) Gallamini A, et al. Peripheral T-cell lymphoma unspecified (PTCL-U) : a new prognostic model from a retrospective multicentric clinical study.

第 6 回西神戸医療センター CPC 報告

1. 症例テーマ：非ホジキンリンパ腫再発の 1 例
2. 診療科、主治医・受持医：免疫血液内科
新里偉咲、野口 佑
3. CPC 開催日：2019 年 7 月 29 日
4. 発表者：臨床側（野口 佑）
病理側（橋本公夫）
5. 患者：90 歳、男性
6. 臨床診断：びまん性大細胞性 B 細胞性リンパ腫
7. 剖検診断：びまん性大細胞性 B 細胞性リンパ腫、左肺乳頭状腺癌
8. 臨床情報：

【主訴】動悸、息切れ

【既往歴】虫垂炎術後、高血圧、糖尿病、左慢性膿胸

【現病歴】

X-12 年発症の非ホジキンリンパ腫（びまん性大細胞性リンパ腫：DLBCL）に対して当院免疫血液内科でフォローされており、化学療法を施行しながら増悪寛解を繰り返していた。X 年 3 月 13 日に動悸、息切れを主訴に来院し、血液検査で炎症反応の上昇と可溶性 IL-2 receptor (sIL-2R) の上昇が見られた。胸部 CT から右肺尖部リンパ節の増大が見られ、これによる気管支閉塞から閉塞性肺炎を伴っていた。原疾患に対して化学療法目的に同日入院となった。

【入院時現症】体温 36.3℃ 脈拍 80/分 血圧 120/68mmHg SpO2 93% (room air)

【検査所見】

〈血液検査〉WBC 10000/μl (NEUT 4.0% (STAB 4.0%, SEG 63.0%)), LYMPH 16.0%, MONO 16.0%,

EOS 1.0%, BASO 0.0%) , RBC 434 万 /μl, Hb 12.6 g/dl, Ht 37.6 %, Plt 14.8 万 /μl, 血糖 65 mg/dl, CRP 3.6 mg/dl, TP 5.7 g/dl, Alb 3.2 g/dl, T-Bil 1.0 mg/dl, AST 27 IU/l, ALT 14 IU/l, LDH 196 IU/l, CK 41 IU/l, BUN 18 mg/dl, Cr 0.91 mg/dl, eGFR 59.1 ml/分 /1.73, Na 137 mEq/l, K 4.4 mEq/l, 可溶性 IL-2 receptor 8290 U/ml

〈胸部 X 線〉以前より左慢性膿胸の指摘あり左肺野透過性の低下を認める。右肺門部に新規の浸潤影あり。

〈胸部単純 CT〉前回画像 (X-1 年 11 月 28 日) から指摘されている右肺尖部リンパ節腫大の増悪を認める。

【入院後経過】

DLBCL 再発

悪性リンパ腫の増悪による肺尖部リンパ節腫大の気管閉塞から呼吸不全を来し、呼吸症状が出現したと考えられた。3/14 原疾患に対して化学療法 (R-THP-COP 療法) を開始した。しかし 3/31 に施行した胸部単純 CT では右肺尖部リンパ節腫大は増悪傾向であり、4/5 に検査提出した可溶性 IL-2 receptor は 13000 U/ml (入院時 8290 U/ml) と増加しており治療抵抗性を示した。4/6 より R-THP-COP 療法 2 回目を施行したが、90 歳と高齢であり家族と相談し今後の積極的治療は行わない方針となった。5/11 上室性頻脈を契機に心不全を認めた。5/13 血圧低下を認め 5/17 永眠となった。5/11 精査目的に撮影した胸部単純 CT では右肺心尖部リンパ節は増大傾向にあり、右肺野に新規の結節影が散見された。

【症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)】

本症例ではこれまで治療効果を認めてきた DLBCL に対する R-THP-COP 療法がまったく効果を示さなかったことが疑問に残る。さらに新規肺病変も認めるようになり 2 次性癌の可能性も示唆される。原疾患であるリンパ腫の広がり、2 次性癌の有無について評価するため病理解剖を依頼した。

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

剖検診断：びまん性大細胞性 B 細胞性リンパ腫、左肺乳頭状腺癌

病理所見：

右胸腔内に 300ml の黄褐色の混濁のない胸水貯留。右胸腔は胸壁から壁側胸膜にかけて腫瘍が見られており、腫瘍は縦隔に拡がり、上大静

脈合流部が癒着していた。剖面でも腫瘍が上葉、S6 優位で肺内に腫瘤を形成していた。右肺下葉は無気肺状であった。左肺は膿胸のため、胸壁強く萎縮しており、肺実質はわずかであった。胸壁との剥離時に乳白色の粘稠な液が流出した。剖面では肺門部近傍にわずかに実質が残っているのみであった。組織学的には胸壁から壁側胸膜、臓側胸膜から右肺内、縦隔にかけてみられた腫瘍は結合性が見られない中型の核を持つ細胞で、胞体は不明であるが、核周囲が淡明であった。核小体や核分裂像は目立たなかった。免疫組織化学的には増生する細胞は pancytokeratin (-), CD20 (-), CD79a (+), bcl-2 (+), bcl-6 (+), CD3 (-), CD5 (-), CD56 (-), CD7 (focal +) であった。左肺上葉肺門部からの組織では内腔に乳頭状に増生する乳頭状腺癌の所見が見られており、胞体に粘液を持つ細胞が見られた。周囲にも粘液産生が見られた。周囲あるいは肺門部に腫大したリンパ節は見られなかった。肺以外の他の部位のリンパ節や肝臓、脾臓、骨髄には見られなかった。

2) 担当病理医：病理科 橋本公夫

3) 病理医からのコメント：

本例は非ホジキンリンパ腫治療後の右胸腔内再発の所見で、腫瘍は右壁側胸膜、臓側胸膜、肺実質内から縦隔に拡がりが見られた。左肺は膿胸の状態であったが、上葉肺門部で乳頭状腺癌、粘液産生性が見られた。腺癌は局所にとどまっていた。他の臓器には死因に関係するよう有意な所見は見られなかった。腫瘍再発による右肺無気肺と水腫、左肺膿胸、残存左肺上葉の肺癌による呼吸不全が死因と考えられた。

10. 考 察

高齢者の DLBCL に対する治療法として、65 歳以上 80 歳未満に対しては標準量の R-CHOP 療法が推奨される。80 歳以上に対しては容量、あるいはコース数を減らした R-CHOP 療法が推奨される。しかし悪性リンパ腫における国際予後指標のうち、高齢(年齢>61 歳以上)が予後不良因子であり、また若年と比べ治療合併症も発生率は高くなるため治療の個別化が必要となる⁽¹⁾。本症例では発症年齢が 78 歳と高齢であり、R-CHOP 療法よりやや治療毒性が緩徐な R-THP-COP 療法が選択された。今回の入院期間で治療効果を示さなかったのには、病理結果から CD20 (-) と形質転換を認めておりリツキ

シマブの効果を期待できない状態であったことが一因に考えられる。

悪性リンパ腫と肺癌との重複は、高齢化・化学療法 の進歩により増加傾向にある。悪性リンパ腫に肺癌 の重複する頻度は約 0.8 ~ 2.1% 程度となっている。悪性リンパ腫に重複癌の発症する理由として、患者 の免疫能の低下や、第一原発癌の治療による誘発癌 の可能性が指摘されている。本症例では左肺実質が 膿胸の影響で高度に萎縮していたため生前肺癌を発 見することは困難であった。しかし左肺はもともと ほとんど機能していたと思われ、今回の死因のうち、 左肺癌による影響は極めて小さいと思われる。また 慢性膿胸と肺癌の関連を文献検索したが、はっきり とした報告は見られなかった。

11. 参 考 文 献

- 1) 造血器腫瘍診療ガイドライン 2018 年版
- 2) 孤立性小結節影を呈した肺原発 diffuse large B-cell lymphoma の 1 例 The Japanese Association for Chest Surgery (JACS)
- 3) 悪性リンパ腫と肺癌の重複した 3 症例 北関東医学 39 (3) : 385-389, 1989

第 7 回西神戸医療センター CPC 報告

1. 症 例 テ ー マ : 循環器入院患者の急変原因について
2. 診療科、主治医・受持医 : 循環器内科 大末剛史、
亀井沙瑛香
3. CPC 開催日 : 2019 年 9 月 2 日
4. 発 表 者 : 病理側 (浅井沙月)
臨床側 (亀井沙瑛香)
5. 患 者 : 84 歳 男性
6. 臨 床 診 断 : うっ血性心不全、低心拍出症候群、
頻脈性心房細動、急性腎不全
7. 剖 検 診 断 : 心不全、心内膜下梗塞
8. 臨 床 情 報 :

【現病歴】

X 年 5 月 1 日より嘔吐があり、3 日に排尿困難を自覚し当院救急外来を受診された。尿閉と診断後、導尿され帰宅 (尿流出は 150ml)。4 日に同様の症状に加え、食事・水分摂取不可、立位困難、全身状態の悪化傾向あり、再受診された。

【既往歴】慢性心房細動、慢性心不全、高血圧、糖尿病、脳梗塞、前立腺癌、認知症

【診療所見】

血圧 119/52mmHg、心拍数 170 - 180 回 / 分、体温 36.3°C、SpO2 表示出ず (後に酸素 3 - 4L で SpO2 93

- 96%)、JCS II -10、末梢冷感著明、四肢浮腫なし、
髄膜刺激徴候なし。心音：雑音なし。呼吸音：清。腹
部：平坦、軟、圧痛なし。

【検査データ】

〈心電図〉心房細動、I / II / V4/V5/V6にST低
下あり、右軸偏位あり。

〈胸部レントゲン〉心拡大あり（心胸郭比61.8%）、
肺うっ血あり。

〈動脈血液ガス（酸素3L鼻カヌラ）〉pH 7.403、
PCO₂ 18.4 mmHg、PO₂ 77.6 mmHg、HCO₃ 11.2
mmol/l、BE -10.8

〈血液検査〉WBC 19600 / μ l、NEUT 87.9%、RBC 464
万 / μ l、Hb 13.9 g/dl、Plt 11.8 万 / μ L、D-dimer 6.25
 μ g/ml、PT-INR 2.3、APTT 30.2 秒、CRP 3.1 mg/dl、
T-Bil 1.3/dl、AST 1033 IU/l、ALT 2167 IU/l、Alb
2.9 g/dl、ChE 133 U/l、ALP 300 IU/l、LDH 1535
IU/l、AMY 221 IU/l、CK 762 IU/l、BUN 92 mg/dl、
Cr 2.1 mg/dl、eGFR 24.2 ml / 分 / 1.73、Na 130 mEq/
l、K 4.5 mEq/l、Cl 101 mEq/l、Ca 8.4 mg/dl、BNP
5391 ng/l、高感度トロポニン I 13077.5 ng/ml

〈心臓超音波検査〉visual EF 25%、びまん性左室
壁運動低下あり、血栓なし。AR mild、MR mild to
moderate、TR mild to moderate。IVC 径 23mm、
呼吸性変動 < 50%、TRPG 25mmHg、推定右室圧
40mmHg

【経過・治療】

胸部 X 線で肺水腫を認め、新機能低下を伴っている
ことから心不全と診断。利尿薬（フロセミド、アゾセ
ミド）、強心薬（ドブタミン）を投与し、胸部レント
ゲン上肺うっ血は改善傾向であったが、高張性高ナ
トリウム血症（Na 158 mEq/l）を認めたため、利尿
薬を中止した。心不全が再増悪したため、ドブタミン、
フロセミドを再開したが、肺うっ血の増悪と尿量低下
が続いた。低心拍出状態が続き、虚血性心疾患が疑
われたが、明らかな ST 上昇型急性心筋梗塞ではな
かったため、心不全の治療後に心臓カテーテル検査
を行う方針であった。（結果的には心不全改善前に死
亡されたため精査は行えなかった。

頻拍性心房細動に対してはランジオロールとベラパ
ミルを投与しレートコントロールを行い、頻脈は
160-180 回 / 分から 90-120 回 / 分程度に改善した。
ボノブラザンフマル酸を内服していたが、入院 8 日
目から黒色便を認めた。上部消化管内視鏡で出血性
胃潰瘍を認めたため焼却止血した。貧血の進行は軽
度で輸血は要さなかった。

経過中、CRP 高値が続いたため胸腹部 CT を行っ
たが原因は不明であった。発熱がなかったため抗生
剤投与は行わなかった。上部消化管内視鏡検査で気
管内に喀痰貯留があり原因として不顕性誤嚥が疑わ
れた。

死亡日当日、収縮期血圧が 90mmHg 台とやや低め
だったため、ドブタミン塩酸塩を 0.5 → 2.0 ml/h へ
増量し、100mmHg 台まで上昇した。その後、頻
拍傾向であったが、9 : 05 にモニター上心拍数が
40 回 / 分に低下し JCS III -300、橈骨動脈触知不能、
血圧測定不能となった。心臓超音波検査を施行した
ところ、左室内に血栓の充満と上行大動脈の一部に
flap 様のものを認めた。9 : 15 にモニター上心停
止となり、死亡された。

【症例の問題点（剖検で解明しなかった事項）】

- ・急変直後の心臓超音波検査で左室内に血栓充満を
認めた原因について。
- ・心臓超音波検査で上行大動脈に flap 様所見あり、
大動脈解離の有無について。
- ・冠動脈病変による虚血性心筋症の有無について。
- ・ボノブラザンフマル酸内服中に出血性胃潰瘍と
なった原因と悪性所見があるかどうかについて。
- ・誤嚥性肺炎の有無について。

9. 剖 検 情 報 :

1) 剖検診断と病理所見 :

剖検診断：心内膜下心筋梗塞（左冠動脈主幹部狭窄）
病理所見：

主病変：

心内膜下梗塞、心室中隔から左室壁：左室心内
血栓、5mm 大

副病変：

心房細動：左心耳内血栓、1.5cm 大

動脈硬化症：冠状動脈（左主幹部：50% 狭窄、
右起始部 75% 狭窄）

大動脈（中等度から高度。弓部大動脈、総腸骨
動脈優位）

良性腎硬化症（右 100g、左 90g）

肝臓中心静脈周囲壊死（920g）

胸水貯留（右 1100ml、褐色透明。左 計測不可）
胃体中部後壁潰瘍（1.5x1.5cm、内視鏡的治療
後状態）

心室中隔から左室に心内膜下梗塞を認め、同部
位に心内血栓を認めた。梗塞巣は発生から約
2 - 4 週間程度の領域が主体で、一部で発生
から約 1 - 2 週間程度の急性の変化を認めた。

その他、左心耳にも血栓を認め、血栓傾向の可能性が考えられたが、その他の臓器に明らかな塞栓や血栓は認めなかった。胃潰瘍部に悪性所見は認めなかった。

2) 担当病理医：浅井沙月、石原美佐

3) 病理医からのコメント：

動脈硬化症を背景に、左室の心内膜下梗塞が発生し、急性心不全をきたし死亡に至ったと考えられる。梗塞部と左心耳に血栓を認めたが、左室内を充満するような血栓は認めず、また検索した範囲で明らかな塞栓症は認めなかった。

10. 考 察

急変の原因について

- ・仮説1 急性大動脈解離；急変時のエコーで大動脈内に Flap 様所見を認めたため。
- ・仮説2 深部静脈血栓症→肺塞栓症；血栓が三尖弁に嵌頓した可能性あり、出血性胃潰瘍のため抗凝固薬を中止していたこと、長期臥床があったことから血栓傾向が強かったと考えられる。
- ・仮説3 不顕性誤嚥による窒息
- ・仮説4 急性心筋梗塞

モニター上徐々に心拍が低下したことから致死性不整脈は否定的であった。貧血や吐下血を認めず出血性ショックは否定的であった。検査結果上、電解質異常は否定的であった。急変の原因がはっきりしないため剖検を行うこととなった。

剖検の結果、急性大動脈解離や肺塞栓症は認めず、窒息の所見も見られなかった。心内膜下心筋梗塞に伴う難治性心不全状態であり、高度の冠動脈狭窄が残存していたことから、カテコラミン投与により心筋虚血の増悪を来して急変に至ったと推測される。

第8回西神戸医療センターCPC報告

1. 症 例 テ ー マ：心不全の治療経過中に、アミオダロン関連肺障害を合併した1例
2. 診療科、主治医・受持医：循環器内科
大末剛史、内山 葵
3. CPC 開催日：2020年2月3日
4. 発 表 者：病理側（浅井沙月）
臨床側（内山 葵）
5. 患 者：75歳、男性
6. 臨 床 診 断：薬剤性間質性肺炎（アミオダロン関連肺障害疑い）、慢性心不全
7. 剖 検 診 断：慢性心不全、びまん性肺胞傷害
8. 臨 床 情 報：

【現病歴】

陳旧性心筋梗塞・僧帽弁閉鎖不全症・心室頻拍などで当院循環器内科通院中の患者。2015年より心不全入院を繰り返していた。2019年2月に僧帽弁閉鎖不全症に対し経皮的僧帽弁クリップ術を施行し、以降は心不全の増悪なく経過していた。2019年9月X-5日より咳嗽、X-3日より37℃の発熱を認め、近医を受診し内服処方にて経過を見られた。咳嗽は改善傾向にあったが、発熱が続いており倦怠感も強く食事摂取不良となり、9月X日に近医を再診した。近医の胸部X線検査にて右胸水の増加を認めたため、心不全の増悪が疑われ、当院救急外来を紹介受診となった。

【既往歴】

陳旧性心筋梗塞、僧帽弁閉鎖不全症、心室頻拍、発作性心房細動、糖尿病、高血圧症、直腸癌、リウマチ性多発筋痛症、慢性腎臓病、B型肝炎、Bowen病、痛風、胆嚢炎

【診療所見】

意識レベル GCS E4V5M6, BT 37.3℃, BP 111/52 mmHg, HR 70bpm, RR 19回/min, SpO2 91%(RA).
頭頸部：貧血(-), 頸静脈怒張(-). 胸部：心音整・雑音(-), 呼吸音 右下肺 軽度 coarse crackles 聴取(+). 四肢：浮腫(-).

【主な検査データ】

〈心電図〉HR 67 bpm, 洞調律、低電位、V3-V5誘導のR波増高不良、心室期外収縮(+). QT=0.411秒。

〈血液検査〉WBC 5400/μl, RBC 346万/μl, Hb 11.0 g/dl, Ht 33.3%, Plt 8.6万/μl, PT-INR 1.5, APTT-秒 36.5秒, 血糖 144 mg/dl, CRP 5.7 mg/dl, TP 6.6 g/dl, Alb 3.4 g/dl, T-Bil 0.8 mg/dl, ChE 130 IU/l, AST 131 IU/l, ALT 114 IU/l, ALP 306 IU/l, LDH 310 IU/l, CK 122 IU/l, BUN 65 mg/dl, Cr 2.52 mg/dl, eGFR 20.4 ml/分/1.73m², Na 134 mEq/l, K 3.7 mEq/l, Cl 97 mEq/l, Ca 7.7 mg/dl, 乳酸 1.5 mmol/l, トロポニン I 100.6 ng/ml, BNP 645.7 pg/ml, KL-6 258 U/ml, プロカルシトニン 1.40 ng/ml

〈静脈血液ガス検査〉pH 7.44, PCO₂ 33.9 mmHg, PO₂ 45.1 mmHg, HCO₃act 22.7 mmol/l, A-aDO₂ 9.18 mmHg

〈各種培養・迅速検査〉痰培養①：Normal flora (4+)、痰培養②：Normal flora (4+)、Stenotorophomonas maltophilia (3+)。血液培養：No growth。尿中肺炎球菌抗原：陰性。尿中レジオ

ネラ抗原：陰性。β-D グルカン：陰性。

【画像診断所見】

〈胸部 X 線検査〉右 CP angle dull、右下肺野すりガラス影を認める。CTR 67.2%。

〈心エコー検査〉visual EF 20% 程度、MR mild、TR trivial、TR-PG 14mmHg、IVC 17mm、呼吸性変動良好、心嚢水貯留なし

〈胸部単純 CT 検査〉右肺上葉に浸潤影・すりガラス影が散見され、両肺下葉にも浸潤影を認める。右胸水貯留あり。

【経過・治療】

肺炎 (s/o：細菌性 r/o：薬剤性)

入院後より CTRX 2g/day で治療開始したが発熱が持続しており呼吸状態も悪く、第2病日には CTRX を中止し MEPM 0.5g × 2/day に変更した。以降も呼吸不全増悪し第3病日には NPPV 装着となった。第4病日に胸部単純 CT を再度撮影したところ、両側びまん性すりガラス陰影の増加を認め薬剤性肺炎やニューモシスチス肺炎が疑われた。被疑薬のアミオダロンを中止し、ST 合剤 9g/day、ステロイドパルス 1000mg/day × 3day の後、PSL 60mg/day 投与を行った。ST 合剤は β-D グルカンの上昇を認めなかったため中止した。治療効果なく呼吸不全はさらに増悪し第6病日には挿管に至った。

慢性心不全、低左心機能

血圧低下を認めたため第2病日から DOB、第3病日から NAD、第4病日から DOA を開始した。昇圧剤を3剤使用し増量していったにも関わらず、血圧コントロールは不良であった。血液検査にて BNP 値は第5病日まで低下傾向にあったため心不全の増悪が主病態とは考えられなかったが、最終的に BNP も増悪傾向にあった。第7病日の血液検査では高 K 血症、代謝性アシドーシスの進行あり緊急透析の対応も考えられたが、血圧のコントロールがついておらず透析困難と考えられ、昇圧薬・ステロイド・利尿薬・抗菌薬による現行治療は継続したまま症状緩和に徹する方針となった。第9病日の朝から徐々に血圧低下を認め、心電図上 A-systole となり午前 11 時 57 分に永眠された。

【症例の問題点 (剖検で解明しなかった事項)】

薬剤性間質性肺炎の有無、ニューモシスチス肺炎などの有無、心筋障害の程度

9. 剖検診断と病理所見

剖検診断：

びまん性肺胞傷害 (DAD)、慢性心不全、陳旧性

心筋梗塞、冠状動脈バイパス術後

病理所見：

心臓は大きく、心室の壁は菲薄化し、右心房、左心房、左心室に拡張を認めた。新規の心筋梗塞を示唆する所見は明らかでなかった。肺には、両側に胸水貯留を認め、両肺全葉に高度な硝子膜の形成と肺胞上皮の増殖、肺胞出血を認めた。びまん性肺胞傷害 (DAD) の像で、発症からおよそ 4 - 5 日程度と推察された。DAD の変化が強く肺胞の線維化の観察は困難であったが、慢性の経過を示唆する高度な線維化や蜂巣肺の所見は認めなかった。

2) 担当病理医：浅井沙月 石原美佐

3) 病理医からのコメント

慢性心不全が背景として、肺炎のために全身状態が悪化し、さらに DAD による呼吸不全の発生により死に至ったと考えられる。アミオダロン肺障害が疑われていたが本症例では高度な DAD の所見を認める。アミオダロン肺障害は典型的には非特異性間質性肺炎 (NSIP) あるいは剥離性間質性肺炎 (DIP) の所見を示すとされているが、本症例では DAD の変化が強く、肺胞壁の線維化の評価が困難である。DAD の契機として生前の感染症や、アミオダロン肺障害として DAD が生じた可能性が考えられるが確定に至らない。

10. 考察

アミオダロンは心房細動・心室頻拍に対する再発予防効果が高い抗不整脈薬である。副作用として肺毒性、甲状腺機能異常、視覚障害、肝障害、皮膚症状を呈することで知られている。アミオダロンによる薬剤性肺障害の発症率は報告によりばらつきがあり、低用量 (≦ 200mg/day) での発症は少ないとされてきたが、国内では低用量での発症も報告されており日本人の体質的素因が示唆される。アミオダロン投与開始 8 週以降に生じ、6 ~ 12 ヶ月で最もリスクが高いとされている。リスク因子として性別 (男性)、年齢 (40 歳以上)、基礎病変及び状態 (胸部 X 線画像上の何らかの異常、肺手術・COPD・低肺機能、吸入酸素濃度の上昇、ヨード系造影剤の投与)・用量 (平均では 500mg/day) などが挙げられている。

本症例は、基礎疾患として肺疾患の既往はないものの、虚血性心疾患、僧帽弁閉鎖不全症、心室頻拍があり、慢性心不全の病態であったが、各疾患に対して治療が行われており代償機構が働いていた。14

年前からアミオダロンを使用していたが200 mg/day と高用量ではなかった。今回、細菌性肺炎を呈し痰培養にて maltophilia が検出され、抗菌薬治療を行ったが効果なく、薬剤性肺炎やニューモシチス肺炎が鑑別として上がった。ステロイドパルス・PSL 継続投与、ST 合剤で治療を行ったが β -D グルカン は陰性であり、ニューモシチス肺炎は否定的であった。薬剤性肺炎自体の増悪と、それに伴い心不全が増悪し低心拍出量症候群を引き起こし最終的に腎不全を初めとする多臓器不全に陥ったと考えられた。

11. 参考文献：薬剤性肺障害の診断・治療の手引き 2013 日本呼吸器学会

第9回西神戸医療センターCPC報告

1. 症例テーマ：悪性胸膜中皮腫
2. 診療科、主治医：呼吸器内科 木田陽子、
飯尾享平
3. CPC 開催日：2020年3月9日
4. 発表者：臨床側（飯尾享平）
病理側（浅井沙月）
5. 患者：64歳、男性
6. 臨床診断：上皮型悪性胸膜中皮腫 IV期
7. 剖検診断：悪性胸膜中皮腫
8. 臨床情報：

【現病歴】

20xx年2月初旬より体重減少を自覚していたが、仕事が忙しかったため放置していた。3月7日に左心窩部痛が出現し前医を受診した。胸部単純CT検査で左胸膜のびまん性肥厚と左胸水貯留を認めため精査目的に3月12日に当院呼吸器内科を紹介受診した。PET-CT検査で左悪性胸膜中皮腫が疑われ、3月29日に施行したエコーガイド下胸膜生検で上皮型悪性胸膜中皮腫と診断された。

20xx年4月11日からCBDCA；AUC 5 day 1 + PEME500mg/m²を開始した。以後外来で6コースとPEME単剤の維持療法1コースを施行したが病勢の進行を認め、9月には全身状態がPS 2に悪化していた。20xx年10月8日ニボルマブ初回投与を開始し、在宅調整や症状緩和やニボルマブ2コース目を検討する目的で10月18日に呼吸器内科に入院となった。

【既往歴・家族歴など】

20-35歳時にアスベストに暴露する可能性のある工事現場に行っていた。

【主な検査データ】

〈血液検査〉WBC 8600 / μ L, RBC 591 / μ L, Hb 16.9 /dL, Plt 48.0 / μ L, PT-INR 0.9, APTT- 秒 31.7 秒, Dダイマー 1.27 μ g/ml, AST 23 IU/L, ALT 14 IU/L, LDH 162 IU/L, AMY 49 IU/L, CK 56 IU/L, T-Bil 0.4 mg/dL, TP 8.1 g/dL, Alb 3.4 g/dL, BUN 11 mg/dL, Cre 1.24 mg/dL, eGFR 46.5 mL/min/1.73m², 血糖 115 mg/dL, CRP 1.9 mg/dL, Na 136 mEq/L, K 4.9 mEq/L, Cl 100 mEq/L, Ca 9.9 mEq/L, シフラ 41.3 ng/mL, CEA 1.5 ng/mL

〈CT〉左胸膜・葉間胸膜がびまん性・不均一に肥厚しており、左胸腔内には複数箇所被包化胸水様の液貯留も認められた。

〈PET-CT〉左胸膜の不整な肥厚像に一致して、FDGの高集積を認めた（SUVmax 10）。

【経過・治療】

10月18日に入院。入院前より黒色便を認めており、高度貧血の原因として消化管出血が疑われ、赤血球2単位を輸血した。10月19日、再度赤血球2単位を輸血した。10月24日に上部消化管内視鏡検査を施行し胃潰瘍の所見を得た。入院時にはPS 4であり本人ご家族と相談し緩和ケアの方針となった。10月25日1:00頃よりいびき様呼吸が見られるようになった。5:00頃より意識レベルの低下を認めた。13:00頃よりSpO₂低下、血圧、脈拍の低下を認め、14:47に永眠された。

【症例の問題点】

- ・腫瘍の浸潤の程度（対側胸郭や腹腔内への転移について）
- ・上皮型の中皮腫の診断に変更がないか。
- ・進行度が著しいため肉腫型成分はないかどうか。
- ・右肺は癌性リンパ管症であったかどうか。
- ・アスベスト小体などがあるか。

9. 剖検情報：

1) 剖検診断と病理所見

剖検診断：上皮型悪性中皮腫 左胸膜原発

浸潤・転移：左肺と左胸膜の白色領域、右肺全葉実質内、右胸膜、肺門、縦隔リンパ節、心嚢、両心室心筋内、左肋間筋、両側横隔膜、食道壁、大網、腹腔、大動脈周囲リンパ節、膀胱

1.1 腫瘍性リンパ管症（右肺；510g, 左肺；測定不可）

- 1.2 胸水貯留（右；1100ml, 黄色透明, 左；計測不可）
- 1.3 腹水貯留（150ml, 黄色白濁）
- 1.4 心嚢水貯留（60ml）

病理所見：

左胸膜は横隔膜面優位に全面が高度に肥厚しており、肥厚部主体に胸腔から腹腔に広く腫瘍細胞を認めた。腫瘍は胸膜や気管支周囲のリンパ管に高度な浸潤を示しており、リンパ管症として矛盾しない所見であった。腫瘍細胞は微小乳頭型様の構造を主体とする上皮型悪性中皮腫であった。治療効果とするような腫瘍の壊死や変性所見は目立たなかった。背景の肺には、明らかな鉄の間質への沈着を認めず、アスベスト小体も認めなかった。

- 1) 担当病理医：浅井沙月 石原美佐
- 2) 病理医からのコメント

左胸膜を原発とする上皮型悪性中皮腫を認め、胸腔内、腹腔内に広く腫瘍細胞を認める。肉腫型の成分は認めず、アスベスト小体も明らかでない。左肺の容量減少、両肺の肺胞壁への腫瘍の広がり、リンパ管症といった要因が相乗的に呼吸機能を低下させ、呼吸不全、および全身の腫瘍の広がりによる消耗により死に至ったと考えられる。

10. 考 察

悪性中皮腫は胸膜（80%）、腹膜（10%）、心膜、精巣鞘膜に発生する悪性腫瘍。年間罹患率は840人/年と報告されている。また、罹患率は年々増加しており2030年には3000人/年になると予想されている。上皮型（60%）、二相型（30%）、肉腫型（10%）の3種類に分類される。上皮型は予後が良く、5-10年以上生存する例もある一方肉腫型は予後が悪く、月単位で進行する。病期分類別の予後は、I期14.6%（n = 48）、II期4.5%（n = 22）、III期8.0%（n = 50）、IV期0.0%（n = 70）といずれも不良であることが報告されている。腫瘍マーカーは可溶性メソテリン関連ペプチド、Cyfraが挙げられる。胸水メソテリン、胸水ヒアルロン酸の上昇が有意な所見である。CEAが上昇していないことも陰性所見として重要である。造影CT、PET-CTでは肺を取り囲む全集性の胸膜肥厚や縦隔胸膜浸潤、結節状の胸膜肥厚、1cm以上の胸膜肥厚が特徴である。最終的には胸膜生検で確定診断をする。

治療について：肉眼的に腫瘍が切除可能であれば胸膜肺全摘除術や胸膜切除/肺剥皮術が推奨されるが、実際には適応症例は少ない。化学療法はPS

0-2の患者ではシスプラチン+ペメトレキセド併用療法4-6コースが推奨される。PS 0-2の患者では2nd Lineとしてニボルマブが推奨される。PS 3以上では治療について明確なエビデンスはない。

11. 参 考 文 献：

肺癌診療ガイドライン 悪性胸膜中皮腫診療ガイドライン 2018年版
厚生労働省人口動態統計、都道府県（21大都市再掲）別にみた中皮腫による死亡数の年次推移（平成7年～27年）

IV. 医学振興事業等研究費 補助による業績報告

IV. 医学振興事業等研究費補助による業績報告

(1) 笠原ガン治療研究事業

IV. 1 担癌患者・非担癌患者における静脈血栓塞栓症発症の危険因子の同定と、積極的予防対策の検討

中央市民病院 循環器内科 北井 豪

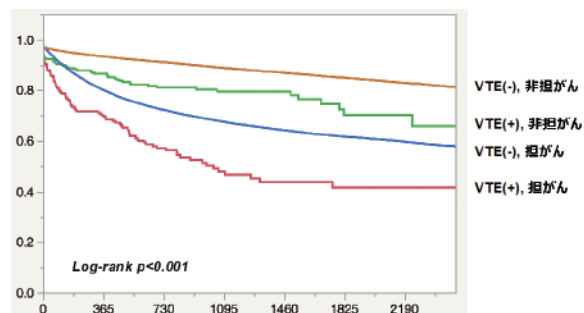
【研究結果】

2011年7月1日から2018年7月31日までに当院を退院された患者のうち、深部静脈血栓症の診断で入院した患者を除外した、146,792例（平均年齢：57.7 ± 24.4歳、男性：53.6%、平均在院日数：は11.3 ± 18.1日）を研究対象とした。

対象患者のうち、担がん患者は43,232人（29.5%）であった。がん種の内訳は、A：血液（n=5460, 12.6%）、B：子宮・卵巣（n=1584, 3.7%）、C：腎・泌尿器（n=4702, 10.9%）、D：食道・胃（n=4084, 9.4%）、E：肝胆膵（n=4939, 11.4%）、F：肺（n=6397, 14.8%）、G：小腸・大腸（n=2643, 6.1%）、H：乳腺（n=1718）、I：その他（n=11705, 27.1%）であった。

入院中にVTEを発症した患者は、511例（0.35%）であり、そのうち担がん患者は195例（38.2%）であった。一方入院中にVTEの発症が見られなかった146,281例のうち担がん患者は43,037例（29.4%）であった。担がん患者は、非担がん患者に比して有意にVTE発症率が高かった（担がん vs 非担がん；0.45% vs 0.31%, $p < 0.001$ ）。担がん患者でVTE発症した195例の患者のがん種の内訳は、A：血液（n=42, 21.5%）が最も多く、F：肺（n=38, 19.5%）が次いでいた。

平均追跡916日の間に23,591例の患者が死亡し、VTE発症患者はVTE非発症患者に比して有意に生命予後が不良であった（hazard ratio: 2.04, 95%信頼区間: 1.72-2.39, $p < 0.001$ ）。また担がん患者は、非担がん患者に比して有意に生命予後が不良であった（hazard ratio: 2.89, 95%信頼区間: 2.82-2.97, $p < 0.001$ ）。VTE発症患者、非発症患者をそれぞれ単がん患者、非担患者に群わけすると、いずれの群においても担がん患者は非担がん患者に比して予後不良であった（log-rank $p < 0.001$, 図）。



IV. 2 化学療法中の転移固形がん患者のHRQOLに影響を与える因子を検討する

中央市民病院 乳腺外科 木川雄一郎

【背景】

転移再発固形がん患者においては、根治困難な疾患に直面した心理・社会的負担や化学療法に伴う有害事象で、Health-related Quality of Life (HRQOL) はしばしば低下する。しかしながら、外来通院日のみの問診や診察では、HRQOLが適切に評価されているとはいえず、医療者は患者の状態を過小評価していることが多い。転移固形がん患者治療の重要なエンドポイントであるHRQOLを適切かつ簡便に評価し、今後の治療や患者サポートにつなげることは急務である。我々はEORTCで開発されたCHESによるHRQOL評価と症状モニタリングが患者に与える影響を評価することを目的としたprospective cohort studyを行っておりその中間解析を提示する。(UMIN ID 000029663)

【方法】

転移固形がん（胃がん、大腸がん、乳がん）で1次または2次化学療法（分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤を含む）を予定している患者を対象とし、CHESを用いてベースライン、12週後、24週後の3ポイントでHRQOLを評価した。HRQOL尺度はEORTC QLQ-C30とEORTC QLQ-CIPN20を使用。CHESは通院日以外も患者自身での回答が可能であるため、希望があれば診察前に自宅で患者自身によるQOL評価を行い、治療医はそのスコアを適宜モニタリングした。（自宅での回答困難群：コホートA、自宅での回答可能群：コホートBと定義）。主要評価項

目はベースラインからのEQ-5D-5Lスコアの変化、副次的評価項目は、EORTC QLQ-C30 スコアなど。

【結果】

2018年1月~2019年11月までの間に31人が登録された。平均年齢は67.1歳(50-82)、男性11人(35.5%)、女性20人(64.5%)。胃がん4人(12.9%)、大腸がん11人(35.5%)、乳癌16人(51.6%)。コホートAは16人(51.6%)、コホートB15人(48.4%)。先行文献よりEQ-5D-5Lスコアの minimally important difference (MID) を6ポイントと定義したところ、24週時点で改善22.6%、不変35.5%、悪化29.0%であった。同様にEORTC GLG-C30におけるGlobal health statusスコアのMIDを10ポイントと定義したところ、24週時点で改善18.5%、不変22.2%、悪化59.3%であった。コホートAとB間で上記スコア変化に差はなかった。

【結語】

今回の解析では自宅での症状モニタリングとHRQOL維持との関連はなかった。また、症状悪化時のフィードバックをどのように行うべきかといった課題も見出された。

IV. 3 Tumor-to-tumor metastasis : Pulmonary carcinoid metas-tasizing to solitary fibrous tumor

中央市民病院 呼吸器外科 宍戸 裕

【文献情報】

Yutaka Shishido, Akihiro Aoyama, Shigeo Hara, Hiroshi Hamakawa, Yutaka Takahashi : Tumor-to-tumor metastasis : Pulmonary carcinoid metastasizing to solitary fibrous tumor. Am J Case Rep, 2019 ; 20 : 1205-1209

Abstract :

Tumor-to-tumor metastasis is an uncommon phenomenon where a primary tumor metastasizes into another tumor. An 81-year-old Asian woman was referred to our hospital for evaluation and treatment of a solid mass in the right middle lung lobe that had rapidly enlarged for 1.5 years compared to that observed over the last 5 years. On computed tomography (CT), the mass was 68 × 60 mm, and

two different tumors appeared to exist in the upper portion of the mass. Blood examination findings revealed high serum levels of progastrin-releasing peptide and neuron-specific enolase. Based on the radiographic course of the tumor and elevated levels of tumor markers, we suspected that a new malignant tumor, such as a neuroendocrine tumor, had developed dorsally adjacent to the benign tumor. CT-guided percutaneous needle biopsy of the lung indicated a solitary fibrous tumor (SFT), which did not lead to the diagnosis of another tumor adjacent to the original tumor. Therefore, right middle lobectomy was performed. The resected specimen contained two different tumors : an SFT and a typical carcinoid without mitosis or necrosis. On microscopic examination, they were separated from each other by normal alveolar tissue. In addition, a typical carcinoid was also observed inside the SFT lesion completely enclosed by the SFT tissue. These findings suggested that the carcinoid metastasized to the SFT in the same lung lobe. To the best of our knowledge, this is the first case of a pulmonary typical carcinoid metastasizing to an intraparenchymal SFT.

IV. 4 当院におけるHBOCに対するRRSOの経験

中央市民病院 産婦人科 林 信孝

【はじめに】

遺伝性乳癌卵巣癌症候群(HBOC)は、オラパリブの登場やHBOCの原因遺伝子であるBRCA1/2遺伝子の遺伝学的検査がオラパリブのコンパニオン診断として保険承認された事などにより、近年大きな注目を集めている。乳がんや卵巣がんを発症した患者をきっかけに、乳がん、卵巣がん未発症のBRCA1/2遺伝子の病的バリエーション保持者が明らかとなる場合があり、未発症者に対するサーベイランスや予防学的手術のニーズも増加してきている。このような背景の中で、当院においては2017年10月にHBOCを対象疾患とした「家族性腫瘍相談外来」を開設し、遺伝カウンセリング、遺伝学的検査を実施している。また2018年1月には院内での審査を経て、リスク低減卵巣卵管切除術(RRSO)を実施した。

【目的】

HBOCはRRSOを行う事により、卵巣癌、乳癌の

リスクを低減させる。当院では院内での管理部長会での審査を経て、RRSOの実施体制を整備し、希望者に手術を行っている。当院でのRRSOの現状を検討した。

【RRSOの実施体制の整備】

2018年1月に当院管理部長会において、BRCA 1 遺伝子の病的バリエーションを有する卵巣癌未発症の女性に対するRRSOの実施に関して審議を頂き、承認を経て、当該患者の自費負担にて手術を実施した。今後も管理部長会での審議を経て、リスク低減手術を行う方針である。

【RRSO実施症例】

これまでに4名のBRCA 1/2 遺伝子の病的バリエーション保持者に対してリスク低減手術(RRSO)を実施した。いずれも乳癌の診断を契機に他院で遺伝学的検査を受け、BRCA 1/2 遺伝子の病的バリエーション保持が判明した症例であった。すべての症例を腹腔鏡手術にて実施した。摘出標本の病理学的評価を行い、卵管の上皮内病変など病理学的検索を実施する、これまでに病理学的検討により上皮内病変などが判明した症例は認めていない。

【展望】

今後もコンパニオン診断の対象症例の拡大などが見込まれており、未発症BRCA 1/2 遺伝子の病的バリエーション保持者が判明するケース増え、予防手術実施件数の増加が見込まれる。地域がん診療連携拠点病院として、発症者に対する遺伝学的背景に基づいた治療を行うとともに、未発症者に対する遺伝カウンセリングやサーベイランスについても対応する責務を負っており、引き続き、診療体制の確立を行っていきたいと考えている。

本内容は、2019年6月に東京で開催された、第25回家族性腫瘍学会学術集会にてポスター発表を行った。

IV. 5 咽頭・口腔表在癌の研究—特に顕微内視鏡による、光学生検を用いた診断の可能性について— 中央市民病院 頭頸部外科 篠原尚吾

【業績の報告学会・論文】

第42回日本頭頸部癌学会・2018年6月14日、15日・東京

第6回アジア頭頸部癌学会・2019年3月27日～30日・ソウル、韓国

【業績の論文】

Japanese Journal of Clinical Oncology, 2018, 1-6
doi : 10.1093/jjco/hyy056

【著者・演者】

篠原尚吾、竹林 慎治、菊地正弘、原田博之、道田哲彦、林一樹、山本亮介、齋田浩二、水野敬介、藤原敬三、内藤 泰

神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

【諸言】

転移性頸部リンパ節に対して開放生検を施行すること(violating the neck)は、患者の生命予後を悪化させることが1950年代にMartinらによって示され、それ以降一塊切除(en-block dissection)が頸部リンパ節の切除に対する基本概念となり、そのような考えをもとに頸部郭清術という術式が発展してきた。そのため、我々耳鼻咽喉科・頭頸部外科医は転移性頸部リンパ節が疑わしいリンパ節腫脹の対しては、通常原発巣の探索(内視鏡)、画像診断や穿刺吸引細胞診で組織型を推定することを先行することとしている。しかしながら、悪性リンパ腫の診断に際しては、標本を通常の病理検査以外にフローサイトメトリーや遺伝子検査等に提出するので、ある程度の組織量が求められる。頸部リンパ節腫脹に対し、悪性リンパ腫を疑う場合や、穿刺吸引細胞診などの初期の検査で診断が確定しなかった場合にやむを得なく開放生検を行うが、その場合もリンパ節の被膜を破綻させずに切除する「切除生検」が望ましいと考えられる。しかしながら、頸部リンパ節が大きい場合や周辺臓器に強く癒着する場合など、切除生検が不可能な場合は、リンパ節の被膜に切開を入れ、リンパ節の一部の組織のみを切除する「切開生検」をやむを得ずに行う。今回我々はこのように「切開生検」を、悪性リンパ腫ではなく固形癌の転移巣に施行してしまった場合、果たして本当に生命予後に悪影響を及ぼすのかを、後方視的に検討した。

【対象と方法】

対象は2005年から2015年までの間に当科にて診断目的で頸部リンパ節の生検術を施行した524例で、そのうち悪性腫瘍の転移リンパ節(造血系悪性腫瘍を

除く) 64 例に対し予後の検討を行った。検討項目は、①原発巣別に頸部のどのあたりに転移リンパ節に対して切除術を施行したかを、AAO-HNS の頸部リンパ節のレベル分類を用いて示した。② 生検が必要であった理由 (初診時原発不明、再発リンパ節かどうかの確認、ステージング中に発見され遠隔転移かどうかの確認、肺腫瘍頸部転移例疑いで、頸部から肺腫瘍の病理型を特定した場合等)、③ 切開生検を施行した症例と切除生検を施行した症例の全生存率、疾患特異的生存率の差異 の3つである。

【結果】

① 固形癌の転移リンパ節は左のレベル5 (左鎖骨上窩—外側頸部)、左レベル4 (左下内頸リンパ節)、右レベル4 (右下内頸リンパ節) の順に多く、横隔膜以下の原発巣からの転移はすべて左レベル4—5に局在していることが判った。② 初診時原発不明33例、再発リンパ節かどうかの確認16例、ステージング中に発見され遠隔転移かどうかの確認7例、肺腫瘍頸部転移例疑いで、頸部から肺腫瘍の病理型を特定した場合8例であった。③ 全転移性悪性腫瘍を対象とした場合、予想を裏切り、切開生検施行例(31例)の方が、全生存率も疾患特異的生存率も切除生検施行例(33例)より良い結果となったが、有意差はなかった。

【考察】

1950年代の頸部郭清創成期より現在まで信じられてきた、「切開生検は予後を悪くするので避けるべき」という教義は、化学療法や放射線療法など、当時存在しなかった治療 modality の出現により、すでに真実ではなくなった可能性が示された。外科系は技術を伝えるという、多分に経験的な学問であるため、治療の進歩に伴い既存の教義は再検討されるべきであると考えられる。本研究はその点で意義が高いものとする。

【追記】

論文掲載費として予算を組んでいたが、掲載費の請求がなく、会員であるアジア頭頸部癌学会から演題登録の強い依頼があったので、アジア頭頸部癌学会に演題登録し、3月に発表予定です。
発表予定のポスターを次ページに示します。

IN VIVO REAL TIME IMAGING OF HEAD AND NECK SQUAMOUS CELL CARCINOMA USING CONFOCAL MICRO-ENDOSCOPY AND APPLICABLE FLUORESCENT DYES –PRELIMINARY STUDY–



Shogo Shinohara¹, Kazuo Funabiki¹, Shinji Takebayashi¹, Masahiro Kikuchi², Kiyomi Hamaguchi¹, Shigeo Hara¹, Daisuke Yamashita¹, Akira Mizoguchi³
 1) Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan
 2) Kyoto University Graduate School of Medicine, Kyoto, Japan
 3) Mie University Graduate School of Medicine, Mie, Japan



Introduction

The usefulness of optical biopsy using confocal micro-endoscope (CME) has become widely accepted especially in gastrointestinal or pulmonary medicine. However, its usefulness in head and neck surgery still remains largely elusive. We designed a fiber-bundle based confocal micro-endoscope and evaluated its usefulness in head and neck tumor cases, especially, squamous cell carcinomas.

Devices

The confocal microscopy was invented by Marvin Minsky in 1955. It was termed "confocal" because the condenser and objective lens had the same focal point. A light source is focused into the sample, illuminating a single point. The detection pinhole aperture passes light from the focus, but significantly rejects light from depths in the sample above and below the focal plane. CME was invented by using a single mode fiber in place of a traditional confocal pinhole. Similar to the commercially available micro-endoscopy (Cell Vizio, France), we used a bundle of thousands of single mode fibers. Endoscope was fabricated using a commercially available fiber-bundle (Fujikura FIGH or Sumita HDIG, diameter: 300-350 μ m), one end of which was beveled to have bamboo-spear tip. The other end was polished to have optical flat surface and was scanned by a custom-built confocal laser scanner (Figure 1).¹⁾ This system is capable of simultaneous multi-fluorescence color detection with arbitrary selectable laser lines (currently 473 and 561nm lasers are installed).

Methods and Materials

This study prospectively reviewed 10 HNSCC tumors resected by surgery in 10 patients, from whom a written consent to use the samples to this study was obtained. The characteristics of the patients were shown in Table 1. Dissected specimens were evaluated about its auto-fluorescence spectral profile with 473nm laser excitation and underwent optical observation by attaching the surface of the bamboo-spear tip of the micro-endoscope. Auto-fluorescence spectrum and intensity were measured in real time by Mini Spectrometer (Hamamatsu, C10083CA). Secondary, 10 μ g/ml acriflavine was applied on to the specimen to label the nuclei with 473 nm excitation. Optical observation in 500-550nm emerged fluorescent was also done to estimate the shapes, sizes and patterns of the nuclei with the micro-endoscope. At the final step, 10 μ g/ml acriflavine and 10 μ g/ml eatable red dye #106 were applied with 473 nm and 561 nm laser excitation, and 500-550nm and 570-630 nm emerged fluorescences were estimated.

Results

Auto-fluorescent spectral analysis revealed that the auto-fluorescence (500-550nm) of cancer tissue against 473nm excitation was lower than that of corresponding normal tissue (Figure 2). The representative data of auto-fluorescent spectrum is shown in Figure 3. The accumulated data from 5 cases (case 1-5) are demonstrated in Figure 4. After the application of acriflavine on the specimen, the nuclei of the sample tissue were labeled with green fluorescence. There existed a clear difference between tumor tissue and normal pharyngeal mucosa in the uniformity of nuclear size and shape. In normal mucosa, cells are arranged in an orderly manner with each cell looked like a frog's egg, whereas, in cancer tissue, cell density was apparently higher and cells were less orderly arranged. These findings well represented the pathological findings of the surface of the specimen (Figure 5). In adding red dye #106, images became more vivid but more complicated because red dye staining cytoplasm emerged different wave length 570-630 nm fluorescence (Figure 6)

Discussion

In the present study, normal mucosa was proved to emit more auto-fluorescence than cancerous tissue against 473nm excitation. Higher fluorescent emission was observed around the nuclei not in the nuclei (Figure 2). In the past report, collagen fibers generate the highest intensity of the fluorescence among all tissues examined.²⁾ The difference between normal mucosa and cancerous tissue may depend on the existence of extracellular matrix, where several types of collagen abounds. After the application of acriflavine, the nuclei of the cells were easily visualized. The nuclei of normal mucosa and cancerous tissue differed in density, shape and uniformity of the interval as observed in pathological findings (Figure 5). However, we could easily mistake normal mucosa to cancerous tissue if we push the probe down to the basal layer where the density of cells are richer (Figure 5 right lower). In making a diagnosis, the pathological findings of normal tissue by layer should be well understood by the examiner. Aiming at staining nuclei and cytoplasm separately and obtaining better visual findings, we did double staining with acriflavine and eatable red dye #106. Looking at isolated cells from the specimens, nuclei and cytoplasm were clearly stained in the different wave length (Figure 6B). However, on the tissue, CME findings looked more complicated than the findings with acriflavine only (Figure 6A). We need more trial and error on the double staining technique.

Conclusions

We demonstrated the possibility of real time in vivo imaging using newly developed CME and conditions which could distinguish cancer tissue from normal mucosa without invasive biopsy.

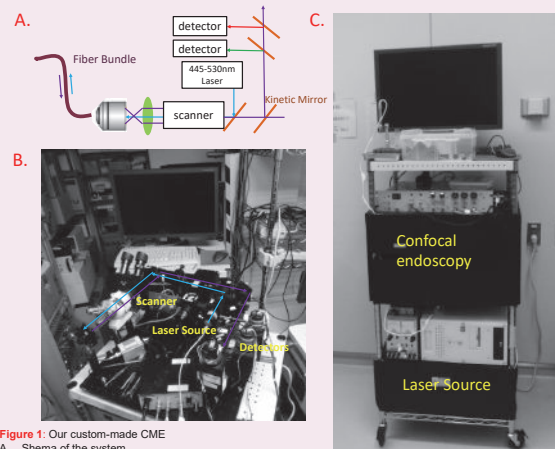


Figure 1: Our custom-made CME
 A. Schema of the system
 B. Confocal endoscopy system
 C. The tower of CME equipped in the operation room

case	gender	age	primary	stage	irradiated history
1	M	57	Hypopharynx	T2N1M0	CRT 70Gy
2	F	72	Hypopharynx	T1N0M0	RT 50Gy
3	M	71	Larynx	T3N0M0	none
4	M	75	Lower gingiva	T4aN2bM0	none
5	M	79	Tongue	T4aN2bM0	none
6	M	60	Oropharynx	T2N0M0	RT 50Gy
7	F	91	Lower gingiva	T4aN0M0	none
8	M	61	Oropharynx	T1N0M0	RT 66Gy
9	M	50	Tongue	T2N2bM0	none
10	M	61	Hypopharynx	T1N0M0	none

Table 1: Patients' characteristics
 The surface of resected primary sites was estimated using CME
 CRT: Concurrent Chemo-radiotherapy
 RT: Radiotherapy

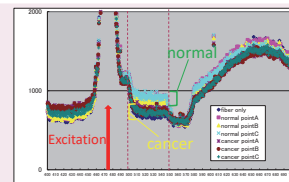


Figure 3: The intensity of auto-fluorescent spectrum obtained by excitation with 473 nm laser (Case 1). The spectrum and intensity was measured at 3 points of the surface of the cancer and 3 points of normal mucosa. Apparently, the intensity of the auto-fluorescence between 500-550nm at the cancer sites was lower than the corresponding normal mucosa.

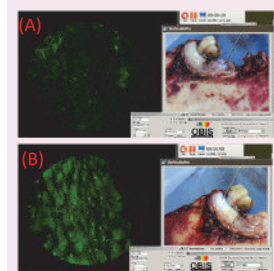


Figure 2: CME view at 473 nm laser excitation: (A) tumor, (B) corresponding normal mucosa. The positions of the tip of the CME are monitored simultaneously with a different CGD camera.

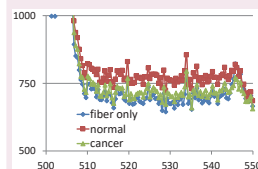


Figure 4: Averaged intensity of auto-fluorescence spectrum between 550-550nm obtained from 5 cases (Case 1,2,3,4,5). This graph demonstrated cancerous tissue emits lower auto-fluorescence than normal mucosa.

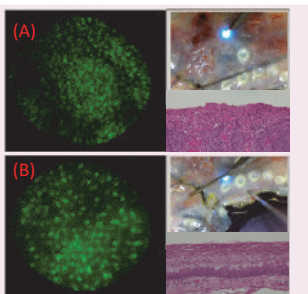


Figure 5: CME findings of cancerous tissue (A) and normal mucosa (B) after applying acriflavine (Case 5). The sampling sites are shown in right upper. The pathological findings of corresponding tissue are also shown in right lower.

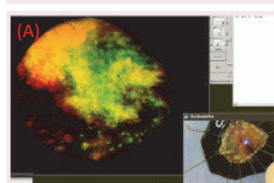


Figure 6: (A) CME findings of normal mucosal cells attached on the surface of the fiberscope (white arrows) after applying acriflavine and eatable red dye #106 (Case 10). This figure well demonstrated that cytoplasm of cells were clearly stained with eatable red dye #106

Contact

Shogo Shinohara M.D., Ph.D.
 Department of Head and Neck Surgery,
 Kobe City Medical Center General Hospital
 Email: sinosino@kcho.jp
brynmawrshogo@gmail.com
 Phone: +81-78-302-4321



References

- 1). Circuit-dependent striatal PKA and ERK signaling underlies rapid behavioral shift in mating reaction of male mice. Goto A, Nakahara I, Yamaguchi T, Kamioka Y, Sumiyama K, Matsuda M, Nakanishi S, Funabiki K. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 2015. 112:6718-23.
- 2) Noninvasive histological imaging of head and neck squamous cell carcinomas using confocal laser endomicroscopy. Linxweiler M, Kadah BA2 Bozzato A, Bozzato V, Hasenfus A, Kim YJ, Wagner M, Igressa A, Schick B, Charalampaki P. *Eur Arch Otorhinolaryngol*. 2016. 273:4473-4483.

IV. 6 頭頸部癌診療における兵庫県の現状と公立病院としての当院の立場

中央市民病院 頭頸部外科 篠原尚吾

【業績の報告学会・論文】

第43回日本頭頸部癌学会・2019年6月13日、14日・金沢

【業績の論文】

頭頸部癌 45(4):381-386,2019. (笠原がん基金への謝辞あり)

【著者・演者】

篠原尚吾、神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科

【研究内容】

兵庫県は約550万人と全国7位の人口を有する県で、面積も広く瀬戸内海、日本海と2つの海に面している。10の医療圏に分割されており、がん診療連携拠点病院は各医療圏に最低1施設、計14施設あるが、耳鼻・頭頸科の医師が2名以上常勤している施設はうち10施設で南部に偏在しており医療の局在化は明らかである。頭頸部外科学会認定施設は大学病院2施設、がんセンターの他、当院と関西労災病院の計5施設であるが、頭頸部外科指導医が常勤している病院は8病院と比較的多い。病院情報局データ(H29)を分析すると、県の頭頸部癌患者の65%は頭頸部外科学会指定認定施設で、79%は頭頸部外科指導医が常勤している病院で治療を受けており、手術に関してはさらにその比率は71%、80%と高くなる。兵庫県における当院のシェアは、頭頸部癌患者全体では13%、手術患者では21%程度と考えられる。

公立一般病院である当院は病床数768床のうち40床が救急病床を占め、全国救命救急センター評価で4年連続1位を獲得した高度急性期病院である。耳鼻・頭頸科はスタッフ6名、専攻医3名の9名で、私を含めてそのうち7名が頭頸部外科兼任となっている。口腔外科の兼任医師も含め、エフォート率を掛けた人員は約4名である。頭頸部外科の入院患者数は年間308名、手術件数は288件(甲状腺疾患含む)であるが、病床数は13床と少ない。手術日は週のうち4日であり、手術待機期間は4週間以内になるように調整している。

均点化や標準化のための問題点として挙げられるのは、前述した ①病床数が少ないことのほか

②形成外科医のavailabilityが低いことが挙げられる。使用可能な病床数により入院基準を厳しくしており、PSの良い患者の通常照射、分割照射は外来で、Chemoselectionを目的とした導入化学療法(S-1/CDGP)も外来で行うことを原則としている。化学放射線療法(CRT)は導入当初の副作用が少ないweekly CDDPを1st lineとしており、全身状態によっては外来からの開始を勧めている。術後やCRT後の回復期は早期に後方支援病院へ転院、緩和治療は地域医療推進課が早期から介入することで、地域の病院へ依頼している。再発・転移時の化学療法は、腫瘍内科の協力の元、極力外来で施行している。また舌部切+頸部郭清、喉頭全摘などの定型手術はパスを適応することで入院日数を規定しており(各々7日、14日)、これらの取り組みが奏功しているのか、頭頸部癌患者の平均在院日数は18.7日と比較的短い。

形成外科は常勤医3名で一般形成外科、熱傷管理、乳房再建など多くの業務を分担している。そのため自科で可能な有茎皮弁による再建に頼らざるを得ず、過去10年の口腔癌の再建でも大胸筋皮弁が最も多く用いられていた。これらの皮弁を機能を損なうことなく再建に用いる工夫についても紹介した。

【追記】

本報告は第43回日本頭頸部癌学会における会長指定のシンポジウム「頭頸部がん専門医制度 10年の検証」のシンポジストとして、当院頭頸部外科である私が、一般病院の頭頸部外科代表として指名を受け、発表したものである。

IV. 7 放射線治療歴の有無による経口的咽頭悪性腫瘍切除術の比較

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 竹林慎治

【学会発表】

第119回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会(2018年5月31日-6月2日、横浜)

【目的】

咽喉頭は、食事、呼吸、発声に関わる部位であり、腫瘍の治療は根治だけでなく、QOLについても考慮が必要である。そのため、喉頭温存をめざした治療が試みられてきた。機器の進歩に伴い、癌の早期発見および経口的腫瘍切除の適応拡大が可能になり、放射線治療後再発の救済手術や放射線治療温存のため経口的

腫瘍切除術が増加してきた。そこで、経口的腫瘍切除術の安全性や治療効果を検討し、放射線治療歴が経口的腫瘍切除術の適応に影響を与えるか検討することにした。

【方法】

当院倫理委員会の承認を得て、電子カルテを後方視的に調査した。2008年1月1日から2017年12月31日までの期間に当科で全身麻酔下経口的咽頭腫瘍切除術を施行した咽頭悪性腫瘍67例に対して放射線治療歴、性別、年齢、手術部位、手術方法、手術時間、切除範囲、入院期間、術後から経口開始までの期間、合併症、術後再発の有無、粗生存率、無再発生存率について検討した。

【結果】

放射線治療歴のある症例は31例で、治療歴のない症例が36例であった。放射線治療歴の有無で、性別、年齢、手術部位、術式、手術時間、入院期間、術後から経口開始までの期間に統計学有意差を認めなかった。合併症は放射線治療歴がある症例は9例に生じ、ない症例は4例に生じたが、統計学的有意差は認めなかった。放射線治療歴のある症例に多かった合併症は、嚥下障害であった。2年粗生存率は、放射線治療歴ありが90.8%、なしが97.2%で、2年無再発生存率は、放射線治療歴ありが72.9%で、なしが62.3%で統計学的有意差は認めなかった。放射線治療歴のある症例は頸部リンパ節転移再発を認めなかったが、治療歴のない症例に頸部リンパ節転移再発を認めた。

【まとめ】

経口的腫瘍切除術は概ね安全に施行された。放射線治療歴の有無で経口的切除術の合併症、予後等に有意差を認めなかった。しかし、放射線治療後は、嚥下障害を多く認め、放射線治療歴のない場合は、頸部リンパ節転移を多く認めた。放射線治療後の経口的腫瘍切除を検討する場合は嚥下障害により注意を払う必要があり、放射線治療歴のない場合は、頸部郭清術追加の検討やより慎重なリンパ節転移の観察が必要である。

IV. 8 口内法で舌部分切除術を施行した舌癌症例の検討—深達度による検討とその妥当性について—

中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 濱口清海

舌癌においては以前より腫瘍の深達度が予後に寄与する可能性が示唆されており、2017年に改訂されたUICC第8版ではT分類に腫瘍の深達度が新たに規定され5mm以上がT2に、10mm以上がT3となった。第7版までの分類では腫瘍の大きさのみの分類であり長径2cm以下をT1、長径4cm以下をT2としていた。旧T分類のT1、T2症例において、原発巣は口腔内より切除可能であることが多いが、舌癌においては後発リンパ節転移が生じると予後が悪くなることが知られており、臨床的にN0M0であった場合にどうした症例に対して予防的頸部郭清を行うべきか、議論が分かれるところであり、ガイドライン上も「ハイリスク群に対しては予後に寄与する」としていながらもハイリスク群は未だ明確には定義づけされていない。一方、T3以上の症例においては切除部の再建手術が推奨されているが、高齢者等においては再建手術の侵襲が認容できないことがあるため、口腔内からの切除を選択せざるを得ない場合がある。当科ではUICC第8版の改訂より以前から腫瘍の深達度に注目しており、National Comprehensive Cancer Network (NCCN) ガイドラインに準じて、深達度が4mm以上の症例に対しては予防的頸部郭清手術を推奨してきた。また、高齢で再建手術のような大手術に耐えられない症例に対しては口内法による原発切除と頸部郭清を行い手術侵襲を小さくして治療を図ることとしている。

本研究ではこれまで当科で行ってきた上記の診療方針の妥当性を検討することを目的としている。2007年～2016年の10年間に当科で口内法で切除した舌癌症例92症例を対象として検討した。旧分類および新分類におけるT分類、N分類、ステージ分類、深達度、予防的および治療的頸部郭清術施行の有無、術前化学療法施行の有無、術後放射線治療の有無、再発の有無を検討し、再発症例に対してはその再発の部位（原発／リンパ節／遠隔転移）と治療法について検討した。結果、新分類のT3症例は73～86歳、平均80歳と高齢者が多く口内法を余儀なくされた症例も多いが、平均生存期間46ヶ月と特に予後が悪く、深達度の深い症例には口内法による切除は不適であり、拡大手術を要すると考えられた。

本研究の結果を第43回日本頭頸部癌学会において

ポスター発表しディスカッションを行った。深達度の判定についてなどの質疑があったが、術前に画像診断で明らかなものは画像診断で判定し、明らかでないものは切除標本を術中および術後の病理診断で判定しており、それぞれ、頸部郭清を予定併施、術中併施、後日施行していることを追加として説明した。

IV. 9 研究課題名：異時性両側性 HPV 関連扁桃癌の一症例

中央市民病院 頭頸部外科 水野敬介

ヒトパピローマウイルス関連頭頸部扁平上皮癌 (HPV-HNSCC) は、ウイルスの持続感染により起こるとされている癌で、HPV 非関連の頭頸部扁平上皮癌に比べて、予後が良いことが知られており、UICC 8th では、HPV 関連と非関連を分けてステージングするなど、近年議論の多いタイプの癌である。HPV 非関連頭頸部扁平上皮癌と HPV-HNSCC は予後に関連する因子の一つとして、HPV-HNSCC における二次癌の発生率が非常に低いことが挙げられる。二次癌の発生は 2-3% と言われており、通常の HNSCC の約 3 割と比べて、有意に少ない。また、HPV 非関連頭頸部扁平上皮癌での二次癌の発生は予後を著しく悪くするとされているが、HPV-HNSCC の二次癌の発生は予後に寄与しない点も重要な点である。

一方、HPV-HNSCC の二次癌はほとんどが同時性の発生であり、異時性の報告は国内外で少数の報告がある程度である。異時性については症例数も少なく、対側の扁桃を一時治療の際にどう扱うかのコンセンサスはまだ得られていないのが現状である。今回、異時性両側性 HPV 関連扁桃癌の一症例を経験したため、第 43 回日本頭頸部癌学会でポスター発表をおこなった。

症例は 50 代男性。X-3 年前に p16 陽性の左中咽頭扁平上皮癌 cT3N0M0 (UICC7th) に対して、TS-14 日間投与と CDGP 投与を 1 クール行った後、66Gy の IMRT66Gy 放射線単独治療を行った。X 年、フォローの PET-CT にて右扁桃への集積と右 Level II リンパ節への集積を指摘。生検にて p16 陽性中咽頭扁平上皮癌であり、PET-CT、MRI と合わせて cT2N1M0 (UICC8th) と診断した。前回の放射線治療で右扁桃には約 60Gy、右頸部リンパ節 Level II ~ IV には 45Gy 以上照射されていたため、追加の放射線治療は困難と判断し、右拡大扁桃摘出術、右頸部郭清術を行った。現時点で術後半年が経過しているが再発所見なく

経過良好であった。また、p16 陽性であっても必ずしも HPV 感染とは言い切れないといわれており、左右扁桃の SCC に対して、PCR を行ったところ、両側とも HPV16 が同定された。HPV16 のサブタイプについては検討できていないが、同一の HPV16 の感染により扁桃癌が発生した可能性があると考えられた。

ヒトパピローマウイルス関連頭頸部扁平上皮癌 (HPV-HNSCC) については昨今、治療強度の変更の検討など議論が尽きない分野である。考察については以下の 3 点をおこなった

- HPV-HNSCC の二次癌が HPV 非関連と比べて非常に少ない理由は HPV の陰窩への指向性で、小さな病変が見逃されている可能性がある
- HPV 非関連 HNSCC の場合は喫煙、飲酒による field effect で二次癌の発生するのに対して、HPV-HNSCC では治療により既に同時に存在した微小な癌が消滅するか、陰窩に感染していたウイルスが照射により死滅するために、異時性二次癌が発生しにくいのではないかと推察する
- HPV-HNSCC の二次癌は、HPV 非関連頭頸部癌と違って、予後不良因子とはならないとされていることもあり、対側の治療は必ずしも行わなくても良いのではないかと考える

上記内容をポスター発表した。HPV 関連の異時性癌については非常に珍しかったが、聴衆に同様の研究をされておられる先生がおられ、その方は PCR でホールシーケンスを行い、HPV16 型のうち、異なるウイルスで異時性癌が起こっていたようである。

HPV 関連中咽頭癌の治療を行う際に、稀ではあるが、異時性に癌が発生することも念頭に入れた治療計画を行えるよう、今回考察した内容を生かしていきたいと考えている。

IV. 10 活動性の頭蓋外病変を有さない転移性脳腫瘍患者に対する放射線治療の成績

中央市民病院 放射線治療科 小倉健吾

【背景 / 目的】

活動性の頭蓋外病変を有さないことは、以前より転移性脳腫瘍患者の予後良好因子として知られていた。近年では分子標的薬をはじめとする全身療法の発達もあり、さらに予後が延長してきている。しかし一方、その長くなった経過の中でしばしば頭蓋内再発をきたし、再発病巣へ救済治療（定位照射、全脳照射、手術

など)を繰り返すことがある。予後良好な患者群に対してはより長期的な視点での治療効果と有害事象のバランスをとることが重要であるが、どの程度まで繰り返してよいのか、再照射に関する有効性や安全性などもまだ不明な点が多い。今回このような転移性脳腫瘍患者に対する救済治療を含めた当院での治療成績を検討・報告する。

【方法】

対象期間内に転移性脳腫瘍に対する初回の放射線治療を受けた全患者は201名であり、そのうち上記条件を満たす解析対象患者は24名であった(12%)。男性15名、女性9名、年齢中央値は67歳(33-77歳)、PSは0-1が20名、2-4が4名、原発巣は肺、乳腺、卵巣でそれぞれ17名、6名、1名、初回放射線治療の時点での頭蓋外状態は「なし」が10名、「安定」が14名、であった。初回放射線治療からの観察期間中央値は20か月(3-62か月)で、1年頭蓋内制御割合は34%(95%信頼区間[CI]13-56%)、頭蓋内制御期間中央値は10か月(95%CI5-17か月)であった。経過中、頭蓋内再発に対する再治療を受けたのは13名で、全脳照射、局所照射、手術の累積実施回数はそれぞれ14回、27回、10回であった。4名は同一箇所にも複数回の局所照射が行われていた。最終観察時点での頭蓋内制御は24名中19名で得られており(79%)、5名の再発形式は局所増悪が3名、播種増悪が2名であった。初回治療として全脳照射を受けた患者では、新規脳転移出現が単独で発生するという再発形式を認めなかった。1年全生存割合は82%(95%CI58-93%)、全生存期間中央値は34か月であった。明らかな中枢神経死をきたした患者は2名であった。中枢神経系の有害事象はCTCAE ver. 4.0でGrade 3-4以上のものが3名(痙攣発作2名、白質脳症1名)に見られ、明らかに治療に関連すると考えられるのはうち1名(白質脳症)であった。放射線壊死は8名にみられたが、いずれもGrade 2以下であった。初回放射線治療時の頭蓋外状態が「なし」群は、「安定」群と比べて、頭蓋外制御期間、全生存期間、中枢神経死割合のいずれも良好な傾向はあったが有意差は認めなかった。

【結語】

活動性の頭蓋外病変を有さない転移性脳腫瘍患者の予後は長く、経過中に頭蓋内再発をきたすものの複数回の治療介入により最終的な頭蓋内制御は概ね良好で

あった。また、中枢神経死や治療に伴う重篤な有害事象の頻度は少なかった。

【その他】

本内容に関して2019年9月にシカゴで開催された米国放射線腫瘍学会(ASTRO: American Society for Radiation Oncology)においてeポスターによる口頭発表を行いました。

IV. 11 当院における局所進行腺癌に対する化学放射線療法の評価

中央市民病院 放射線治療科 岩井貴寛

【背景/目的】

遠隔転移を有さない切除不能な局所進行腺癌(LAPC)に対しては化学療法単独もしくは化学放射線療法(CRT)が標準治療である。全生存率に対する寄与はどちらも同一とされるが、化学放射線療法は局所制御率において化学療法単独に勝るというデータがある。治療法をCRTに絞っても施設ごとに様々な照射法、併用薬剤があり、最適な治療法については議論がある分野である。研究によっては線量増加が全生存率や局所制御率に寄与するという報告もあり、今後の当院での治療方針検討のためLAPCに対する現状の当院でのCRTの治療成績を検討する。

【方法】

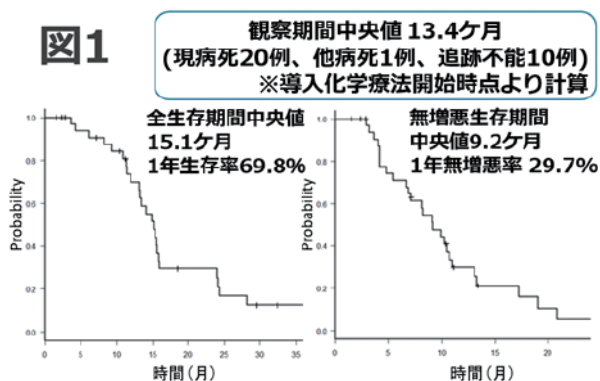
2006年8月から2017年11月までに神戸市立医療センター中央市民病院もしくは先端医療センター病院で、手術不能もしくは手術を拒否された遠隔転移を有さない腺癌患者に対しConventionalな放射線治療を施行した31例につき後方視的に検討した。検討はカルテから収集した年齢、性別、Performance Status、Staging、組織型、腫瘍の部位、治療開始日、照射線量、照射範囲、併用薬剤、一次治療効果、局所再発・遠隔転移の有無、再発確認日、転機などの情報をもとに行った。全生存期間・無増悪生存期間をKaplan-Meyer法を用いて求めた。治療による一次治療効果、局所再発の有無をRecist v1.1に準拠して評価した。どの部位からの再発が多いのか把握するため局所再発、遠隔転移などの初回再発形式を集計した。治療の安全性について評価するため急性期・晩期の有害事象をCommon Terminology Criteria for Adverse Events v4.0で評価した。

【結果】

1例を除き放射線療法を施行した全例が照射を完遂した。観察期間中央値は13.4ヶ月で生存期間中央値、無増悪生存期間中央値はそれぞれ15.1ヶ月、9.2ヶ月であった(図1)。1年生存率、1年無増悪生存率はそれぞれ69.8%、32.1%であった。線量分割は45-64.8 Gy/1.8 Gy/fr(中央値50.4Gy)であった。照射野は腫瘍、転移リンパ節に絞った5例を除き腫瘍局所+周囲のリンパ節領域への照射を行っていた。CRTでは80%の症例でS-1を併用していた。22例に再発を認め、初回再発形式は局所再発が9例、遠隔転移が9例、局所再発と遠隔転移の同時再発が4例であった。放射線療法が影響したと考えられるGrade 3以上の非血液毒性は急性期3例・晩期1例に観察された。

【結論】

当院の成績は全生存率や安全性に関して既報告と遜色なかったが、局所再発が高いと考えられた。



IV. 12 Outcome of stereotactic body radiotherapy for patients with histologically proven Stage I non-small-cell lung cancer

Takashi Ogata, Yasuhiro Kosaka,
Toshiyuki Imagumbai, Kengo Ogura, Takayuki
Hattori, Shinya Hiraoka and Masaki Kokubo
Department of Radiation Oncology,
Kobe City Medical Center General Hospital,
Kobe, Japan

【目的】

定位放射線治療(SBRT)は早期の非小細胞肺癌(NSCLC)患者に対する根治的な局所療法の一つである。早期のNSCLCに対するSBRTの当院での成績を評価するために本研究を実施した。

【方法】

2009年から2016年にかけて、当院では411病変に対して、SBRTを施行した。うち組織学的に診断されたStage I(UICC 7th)のNSCLC 143名150症例を本研究に含んだ。再発、死亡例を除く、観察期間が6カ月未満の症例は、本研究から除外した。データは後ろ向きに収集、解析した。

年齢の中央値は80歳(57-90歳)で、男性は92名96症例、女性51名54症例であった。TNM分類(UICC 7th)はT1aN0M0が53症例、T1bN0M0が59症例、T2aN0M0が38症例であった。組織型は腺癌が100症例、扁平上皮癌が44症例、それ以外が6症例であった。処方線量は、48Gy/4fr.が122症例、60Gy/8fr.が19症例、60Gy/10fr.が4症例、それ以外が5症例であった。

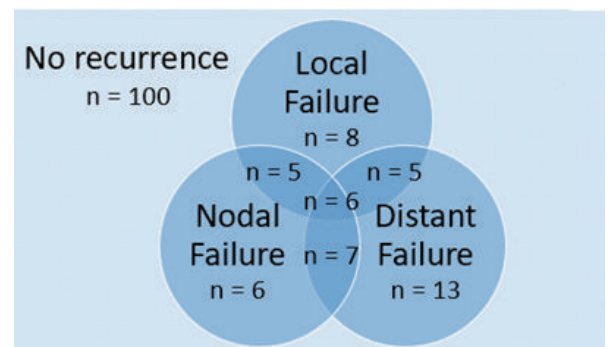
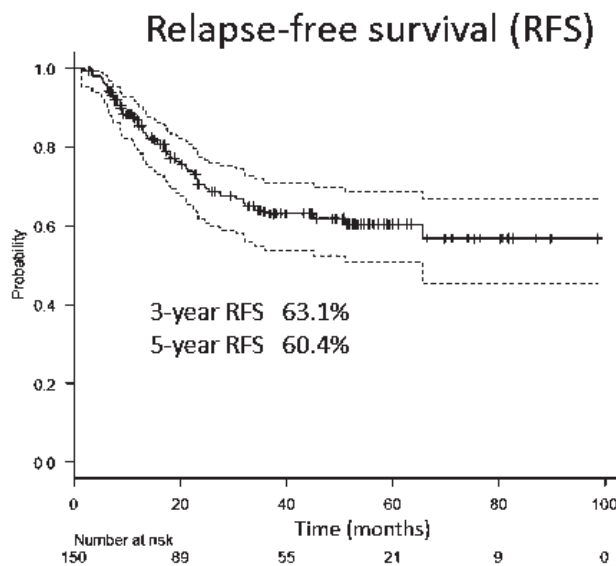
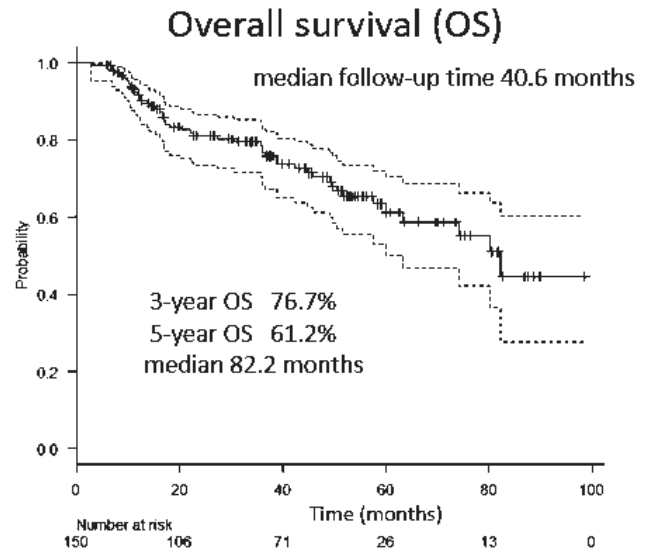
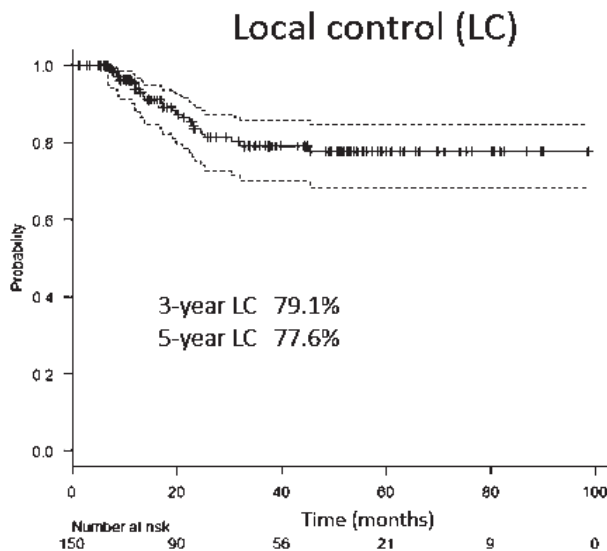
SBRT後の全生存率(OS)、局所制御率(LC)、無再発生存率(RFS)について Kaplan-Meier法を用いて検討した。

Patient Characteristics	No.
Age	
Median (range)	80 (57-90)
Sex	
Male/Female	92/51 96 cases/54 cases
TNM (UICC 7 th)	
T1aN0M0/T1bN0M0/T2aN0M0	53/59/38
Pathology	
adenocarcinoma/squamous cell carcinoma/others	100/44/6
Prescription dose (Isocenter dose)	
48 Gy/4 fr. / 60 Gy/8 fr. / 60 Gy/10 fr. / others	122/19/4/5

【結果】

全症例および生存例の観察期間中央値はそれぞれ38.0カ月(2.8-98.6カ月)、45.8カ月(6.0-98.6カ月)であった。3年OSは76.7%、3年LCは79.1%、3年RFSは63.1%で、5年OSは61.2%、5年LCは77.6%、5年RFSは60.4%であった。

病勢の進行は50症例で認め、局所再発が24症例、リンパ節再発が24症例、遠隔再発が31症例であった。再発までの中央値は、局所再発で17.1カ月(6.9-45.6カ月)、リンパ節再発で14.6カ月(1.2-65.6カ月)、遠隔再発で13.0カ月(3.4-51.2カ月)であった。局所再発においては、95.8%にあたる23症例が治療後3年以内の再発であった。



単変量解析では、扁平上皮癌、3 cm 以上の腫瘍径、男性であることが有意に OS を低下させたが、多変量解析では、扁平上皮癌であることだけが有意に OS を低下させる因子となった。LC を低下させる因子については、単変量解析、多変量解析ともに本研究では指摘できなかった。

Variable	OS			P value	LC
	Univariate analysis	Multivariate analysis			
	P value	HR	95% CI	P value	
Pathology (adenocarcinoma vs squamous cell carcinoma)	<.01	3.16	1.67-5.98	<.01	All of them were not associated with an increased risk for local failure.
Age (≥ 80 vs < 80)	.68	1.45	0.76-2.78	.26	
Sex (female vs male)	.04	0.96	0.42-2.16	.92	
Stage (T1a or T1b vs T2)	.01	0.47	0.24-0.91	.25	

有害事象として、Grade 2 以上の放射線性肺臓炎を 25 症例で認め、うち 2 症例は Grade 5 であった。Grade 5 の 2 症例はいずれも SBRT を 2 回受けた症例であり、さらにそのうちの 1 例は SBRT 前に間質性肺炎と診断されていた。

Adverse Events	Gr.2	Gr.3	Gr.4	Gr.5
Radiation pneumonitis	21	2	0	2

【結語】

本研究では、比較的良好な局所制御を得たが、局所再発は遠隔再発に次ぐ再発様式であった。本研究では局所制御率を低下させるリスク因子を示すことができなかった。リスク因子を見つけるため、今後も研究を継続させる必要がある。

IV. 13 動体追尾 IMRT における線量検証および log file 解析

Verification of dosimetric and positional accuracy for dynamic tumor tracking IMRT (DTT IMRT)

中央市民病院 放射線技術部 末岡正輝

Masaki Sueoka^{1,2}, Akira Sawada³, Hiroaki Tanabe¹,
Yuki Okada¹, Sho Taniuchi¹, Masao Tanooka²,
Noboru Okuuchi¹, Masaki Kokubo⁴, Koichiro Yamakado²

1 Department of Radiological Technology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

2 Department of Radiology, Hyogo College of Medicine, Nishinomiya, Japan

3 Department of Radiological Technology, Faculty of Medical Science, Kyoto College of Medical Science, Nantan, Japan

4 Department of Radiation Oncology, Kobe City Medical Center General Hospital, Kobe, Japan

Purpose :

We performed both, dosimetric and positional accuracy verification of dynamic tumor tracking (DTT) intensity modulated radiation therapy (IMRT) , with the Vero4DRT system using a moving phantom (QUASAR respiratory motion platform ; QUASAR phantom) and system log files.

Materials and Methods :

The QUASAR phantom was placed on a treatment couch (Fig.1) . Measurement of the point dose and dose distribution was performed for following irradiation patterns. a) Static IMRT : conventional IMRT irradiation with the QUASAR phantom static, b) Non-DTT IMRT : conventional IMRT irradiation with the QUASAR phantom moving, c) DTT IMRT : DTT IMRT irradiation with the QUASAR phantom moving. IMRT plans (pyramid shaped, prostate, paranasal sinus, and pancreatic cancer) were performed in the step-and-shoot mode. The QUASAR phantom was driven by sinusoidal patterns ([amplitude, period] = [10 mm, 4 s], [20 mm, 4 s], [40 mm, 4 s]) in the superior-inferior (SI) direction. The tolerance for dose error in point dose verification was

set to less than $\pm 5\%$ and $\pm 3\%$ for single beams and summation of all beams, respectively. The tolerance of the γ pass rate in dose distribution verification using 3% dose and 3 mm distance to agreement with 30% dose threshold, was set to greater than 90%. Furthermore, predicted positional errors induced by the Vero4DRT system and mechanical positional errors of the gimbal head, were calculated using the system log files.

Results :

Point dose verification :

Figure 2 represents the dose errors for static, Non-DTT, and DTT IMRT in the pancreatic cancer plan. The dose errors for static IMRT were within the tolerance on all verification plans. For Non-DTT IMRT, the dose errors were within the tolerance only for the pyramid shaped plans. Conversely, the dose errors for the other cancer targets were within the tolerance for accumulated dose from all beams ; however, the dose error from single beam exceeded the limit. In particular, larger amplitude resulted in greater standard deviations of the dose error with single beam. On the other hand, the dose errors were within the tolerance for all verification plans using DTT IMRT, and differences in dose errors by variation of amplitude were also insignificant.

Dose distribution verification :

Figure 3 show the dose profiles for pancreatic cancer, as functions of distances from the central axes. For static IMRT, the γ pass rate was greater than 96% ($97.9 \pm 1.16\%$) on all verification plans. For Non-DTT IMRT, compared to the verification plan, the dose profile along the SI direction, which was along the driving shaft of the QUASAR phantom, showed reductions and increases in the flat and penumbra areas, respectively, as the amplitude increased. The γ pass rates for amplitude of 10 mm ($93.9 \pm 2.02\%$) were within the tolerance. The γ pass rates at amplitudes of 20 mm and 40 mm were below the tolerance, at $68.3 \pm 7.82\%$ and $45.7 \pm 9.50\%$, respectively. On DTT IMRT, the dose profiles agreed well with the verification plans. The γ pass rates were greater than 94% on all verification plans.

Analysis of positional errors of DTT IMRT using log files :

The mean + 2SD of the predicted positional error was the largest, at 0.82 mm, with an amplitude and period of 40 mm and 4 s, respectively. The correlation coefficients between the predicted positional error and target velocity were low ($R = 0.15 \pm 0.01$), those between the predicted positional error and target acceleration were high ($R = -0.61 \pm 0.15$).

The mean + 2SD of the mechanical positional error was the largest, at 1.02 mm, with an amplitude and period of 40 mm and 4 s, respectively. The correlation coefficients between mechanical positional errors and target velocities were high ($R = 0.57 \pm 0.02$), while those between mechanical positional errors and target accelerations were low ($R = 0.36 \pm 0.02$).

4. Conclusion

Compared to the verification plans, the point doses and dose distributions of DTT IMRT by Vero 4 DRT in this study, were within the tolerance limits. In addition, the positional errors calculated from the log files were small, suggesting that DTT IMRT can deliver doses with high accuracy comparable to static IMRT.

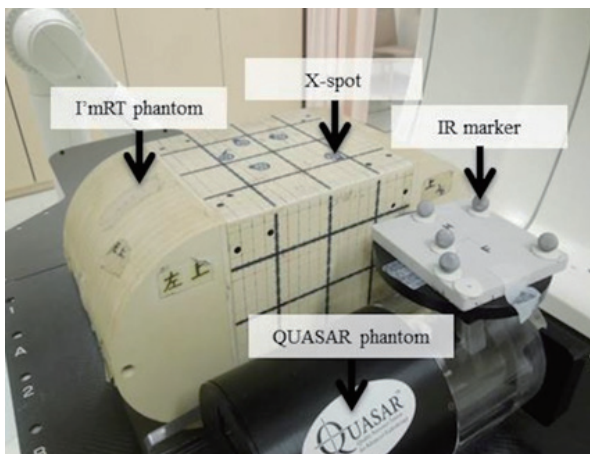


Fig. 1. A photograph of dose verification system for dynamic tumor-tracking IMRT irradiation

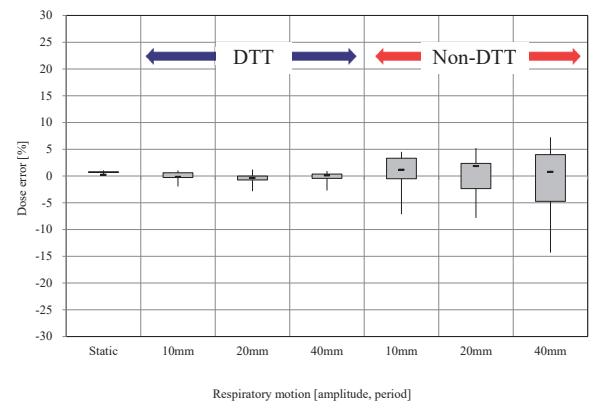


Fig. 2. The dose errors compared with verification plan among static, Non-DTT, and DTT IMRT for pancreatic cancer

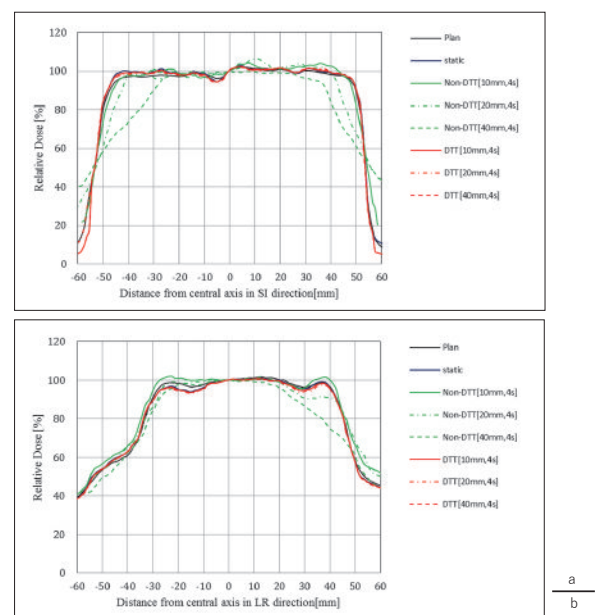


Fig. 3. Result of dose distribution verification. Dose profiles as a function of distance from the central axis for pancreatic cancer IMRT. (a) SI direction; (b) LR direction.

V. 病 院 別 診 療 科 別
論文発表及び学会報告数

V. 病院別診療科別論文発表及び学会報告数

	中央市民病院	論文発表	学会報告
1	循環器内科	38	50
2	糖尿病・内分泌内科	4	41
3	腎臓内科	-	28
4	脳神経内科	14	44
5	消化器内科	3	70
6	呼吸器内科	35	25
7	血液内科	20	33
8	腫瘍内科	9	17
9	緩和ケア内科	2	4
10	感染症科	24	23
11	精神・神経科	-	6
12	小児科・新生児科	21	24
13	皮膚科	5	15
14	外科・移植外科	6	46
15	乳腺外科	-	5
16	心臓血管外科	1	18
17	呼吸器外科	2	14
18	脳神経外科	44	118
19	整形外科	7	45
20	形成外科	1	3
21	産婦人科	7	47
22	泌尿器科	8	56
23	耳鼻咽喉科	7	47
24	頭頸部外科	10	18
25	麻酔科	5	10
26	歯科・歯科口腔外科	4	27
27	病理診断科	25	31
28	放射線診断科	4	6
29	放射線治療科	7	17
30	救急科	15	35
31	総合内科	29	39
32	看護部	1	30
33	薬剤部	21	120
34	臨床検査技術部	9	45
35	放射線技術部	4	23
36	リハビリテーション技術部	9	41
37	臨床工学技術部	-	6
38	栄養管理部	3	3
	合計数	404	1,230

	西市民病院	論文発表	学会報告
	循環器内科	-	-
	糖尿病・内分泌内科	-	22
	腎臓内科	1	4
	脳神経内科	-	2
	消化器内科	2	-
	呼吸器内科	16	54
	血液内科	1	1
	リウマチ・膠原病内科	-	1
	臨床腫瘍科	-	-
	脳神経外科	9	13
	小児科	2	8
	皮膚科	-	2
	外科・呼吸器外科・消化器外科・乳腺外科	-	15
	整形外科	4	9
	リハビリテーション科	-	-
	産婦人科	-	-
	泌尿器科	-	4
	眼科	-	-
	耳鼻咽喉科	-	-
	麻酔科	-	1
	歯科口腔外科	9	5
	病理診断科	-	1
	放射線科	-	-
	救急総合診療部	-	-
	総合内科	1	6
	看護部	2	7
	薬剤部	-	18
	臨床検査技術部	1	7
	放射線技術部	-	4
	リハビリテーション技術部	-	-
	臨床工学室	-	-
	栄養管理室	-	6
	診療情報管理室	-	-
	合計数	48	190

※神戸市立病院紀要第59巻(令和2年)に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。

西神戸医療センター		論文発表	学会報告
1	循環器内科	-	1
2	内分泌・糖尿内科	-	8
3	腎臓内科	-	5
4	脳神経内科	1	2
5	消化器内科	1	18
6	呼吸器内科	-	8
7	免疫血液内科	2	4
8	緩和ケア内科	-	4
9	精神・神経科	4	2
10	小児科	8	17
11	皮膚科	11	12
12	外科・消化器外科	2	49
13	乳腺外科	2	11
14	呼吸器外科	10	26
15	脳神経外科	3	13
16	整形外科	-	6
17	形成外科	3	11
18	産婦人科	3	5
19	泌尿器科	8	15
20	眼科	-	2
21	耳鼻いんこう科	2	6
22	リハビリテーション科	-	-
23	麻酔科	2	4
24	歯科口腔外科	3	8
25	病理診断科	4	4
26	放射線診断科	-	5
27	放射線治療科	-	2
28	看護部	1	11
29	薬剤部	2	5
30	臨床検査技術部	3	10
31	放射線技術部	-	3
32	リハビリテーション技術部	4	10
33	臨床工学室	-	7
34	栄養管理室	-	1
35	感染防止対策室	1	5
36	総合内科	2	-
合計数		82	300

神戸アイセンター病院		論文発表	学会報告
診療部		13	52
看護部		0	0
薬剤部		0	3
視能訓練士室		0	0
栄養管理科		0	1
事務局		0	0
合計数		13	56

※神戸市立病院紀要第59巻(令和2年)に掲載した論文発表及び学会報告から集計した数。

VI. 論 文 発 表

VI. 論文発表

VI. 1 中央市民病院

VI. 1.1 循環器内科

1. 河野裕之, 北井 豪: 診断ツールから読み解く心不全治療 最前線の治療から見えてきたことー若手循環器医のための若手による企画ー 治す 心不全診療 up to date ー新しいガイドラインは日常診療をどう変えたか?ー. Heart View 23: 378-384,2019
2. 北井 豪, 辻坂勇太, 古川 裕: 循環器教育講座 循環器疾患における画像診断の進歩. 心臓リハビリテーション 25: 230-232,2019
3. 古川 裕: 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 大動脈弁閉鎖不全症. 日本医事新報 4967: 41,2019
4. 古川 裕: 治療法の再整理とアップデートのために 専門家による私の治療 心筋炎. 日本医事新報 4968: 46,2019
5. 堀田 怜, 北井 豪: 【あなたのエコーで予後を知る】 三尖弁逆流の予後を知る. 心エコー 20: 714-721,2019
6. 北井 豪, 三好悠太郎: 【ビッグデータからみた循環器疾患の将来】 ビッグデータを用いた循環器疾患の Genotyping や Phenotyping. 心臓 51: 782-787,2019
7. 松田靖弘, 江原夏彦, 吉田一史, 金 基泰, 小山忠明: 経皮的冠状動脈形成術後に心拍動下冠状動脈バイパス術と直接大動脈アプローチ経カテーテル大動脈弁置換術を施行した1例. 胸部外科 72: 1009-1013,2019
8. 豊田俊彬: 【本邦の PCI best practice を考える】 MVD へのアプローチ Staged PCI か、single session か. Coronary Intervention 16: 19-25,2020
9. 岩田健太郎, 本田明広, 北井 豪: 【地域における予防の効果ー理学療法の可能性】 急性期病院における予防と地域との連携. 理学療法ジャーナル 4: 293-302,2020
10. Murai R, Kaji S, Kitai T, Kim K, Ota M, Koyama T, Furukawa Y: The Clinical Significance of Cerebral Microbleeds in Infective Endocarditis Patients. Semin Thorac Cardiovasc Surg 31:51-58,2019
11. Yaku H, Kato T, Morimoto T, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Taniguchi R, Iguchi M, Kato M, Takahashi M, Jinnai T, Ikeda T, Nagao K, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Toyofuku M, Seko Y, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Shizuta S, Ono K, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T; KCHF Study Investigators: Association of Mineralocorticoid Receptor Antagonist Use With All-Cause Mortality and Hospital Readmission in Older Adults With Acute Decompensated Heart Failure. JAMA Netw Open 2:e195892,2019
12. Watanabe H, Domei T, Morimoto T, Natsuaki M, Shiomi H, Toyota T, Ohya M, Suwa S, Takagi K, Nanasato M, Hata Y, Yagi M, Suematsu N, Yokomatsu T, Takamisawa I, Doi M, Noda T, Okayama H, Seino Y, Tada T, Sakamoto H, Hibi K, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Hanaoka KI, Morino Y, Kozuma K, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T; STOPDAPT- 2 Investigators: Effect of 1 -Month Dual Antiplatelet Therapy Followed by Clopidogrel vs 12-Month Dual Antiplatelet Therapy on Cardiovascular and Bleeding Events in Patients Receiving PCI: The STOPDAPT- 2 Randomized Clinical Trial. JAMA 321:2414-2427,2019
13. Izumi C, Kitai T, Kume T, Onishi T, Yuda S, Hirata K, Yamashita E, Kawata T, Nishimura K, Takeuchi M, Nakatani S: E Effect of Left Ventricular Reverse Remodeling on Long-term Outcomes After Aortic Valve Replacement. Am J Cardiol 124:105-112,2019
14. Toyota T, Morimoto T, Yamashita Y, Shiomi H, Kato T, Makiyama T, Nakagawa Y, Saito N, Shizuta S, Ono K, Kimura T: More- Versus Less-Intensive Lipid-Lowering Therapy. Circ Cardiovasc Qual Outcomes 12:e005460,2019
15. Ishii M, Taniguchi T, Morimoto T, Ogawa H, Masunaga N, Abe M, Yoshikawa Y, Shiomi H, Ando K, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Izumi C, Miyake M, Mitsuoka H, Kato M, Hirano Y, Matsuda S, Nagao K, Inada T, Mabuchi H, Takeuchi Y, Yamane K, Toyofuku M, Minamino-Muta E, Kato T, Inoko M, Ikeda T, Komasa A, Ishii K, Hotta K, Higashitani N, Kato Y, Inuzuka Y, Jinnai T, Morikami Y, Akao M, Minatoya K, Kimura T; CURRENT AS Registry Investigators: Reasons for Choosing Conservative Management in Symptomatic Patients With Severe Aortic Stenosis - Observations From the CURRENT AS Registry. Circ J 83:1944-1953,2019

16. Hyogo K, Yoshida A, Takeuchi M, Kiuchi K, Fukuzawa K, Takami M, Kobori A, Okajima K, Odake M, Okada T, Shimane A, Kawahara Y, Sekiya J, Sano H, Ichikawa Y, Hirata KI; HAF - NET Registry Investigators:One-year clinical outcomes of anticoagulation therapy among Japanese patients with atrial fibrillation: The Hyogo AF Network (HAF-NET) Registry. *J Arrhythm* 35:697-708,2019
17. Matsumura-Nakano Y, Shiomi H, Morimoto T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kadota K, Ando K, Yamaji K, Shizuta S, Sakata R, Hanyu M, Shimamoto M, Komiya T, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-2 Investigators:Surgical Ineligibility and Long-Term Outcomes in Patients With Severe Coronary Artery Disease. *Circ J* 83:2061-2069,2019
18. Kagiya N, Kitai T, Hayashida A, Yamaguchi T, Okumura T, Kida K, Mizuno A, Oishi S, Inuzuka Y, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Shimizu A, Urakami Y, Toki M, Aritaka S, Matsumoto K, Nagano N, Yamamoto K, Matsue Y:Prognostic Value of BNP Reduction During Hospitalization in Patients With Acute Heart Failure. *J Card Fail* 25:712-721,2019
19. Alvarez PA, Kitai T, Sperry BW, Perez AL, Tang WHW:Hemodynamic Determinants of Right Heart Failure are Associated with Impaired T Cell Activation in Advanced Heart Failure. *J Card Fail* 25:774-775,2019
20. Kim K, Yamashita Y, Morimoto T, Kitai T, Yamane T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Amano H, Takase T, Hiramori S, Oi M, Akao M, Kobayashi Y, Toyofuku M, Izumi T, Tada T, Chen PM, Murata K, Tsuyuki Y, Saga S, Sasa T, Sakamoto J, Kinoshita M, Togi K, Mabuchi H, Takabayashi K, Shiomi H, Kato T, Makiyama T, Ono K, Furukawa Y, Kimura T; COMMAND VTE Registry Investigators:Risk Factors for Major Bleeding during Prolonged Anticoagulation Therapy in Patients with Venous Thromboembolism: From the COMMAND VTE Registry. *Thromb Haemost* 119:1498-1507,2019
21. Takeji Y, Taniguchi T, Morimoto T, Saito N, Ando K, Shirai S, Sakaguchi G, Arai Y, Fuku Y, Kawase Y, Komiya T, Ehara N, Kitai T, Koyama T, Watanabe S, Watanabe H, Shiomi H, Minamino-Muta E, Matsuda S, Yaku H, Yoshikawa Y, Yamazaki K, Kawatou M, Sakamoto K, Tamura T, Miyake M, Sakaguchi H, Murata K, Nakai M, Kanamori N, Izumi C, Mitsuoka H, Kato M, Hirano Y, Inada T, Nagao K, Mabuchi H, Takeuchi Y, Yamane K, Tamura T, Toyofuku M, Ishii M, Inoko M, Ikeda T, Ishii K, Hotta K, Jinnai T, Higashitani N, Kato Y, Inuzuka Y, Morikami Y, Minatoya K, Kimura T; CURRENT AS registry Investigators and the K-TAVI registry Investigators:Transcatheter aortic valve implantation versus conservative management for severe aortic stenosis in real clinical practice. *PLoS One* 14:e0222979,2019
22. Furukawa Y:Meteorological factors and seasonal variations in the risk of acute myocardial infarction. *Int J Cardiol* 294:13-14,2019
23. Kitai T, Okamoto T, Miyakoshi C, Niikawa H, Alvarez PA, Krittanawong C, Xanthopoulos A, McCurry KR:Impact of combined heart and lung transplantation on bronchiolitis obliterans syndrome, cardiac allograft vasculopathy, and long-term survival. *J Heart Lung Transplant* 38:1170-1177,2019
24. Natsuaki M, Morimoto T, Shiomi H, Yamaji K, Watanabe H, Shizuta S, Kato T, Ando K, Nakagawa Y, Furukawa Y, Tada T, Nagao K, Kadota K, Toyofuku M, Kimura T:Application of the Academic Research Consortium High Bleeding Risk Criteria in an All-Comers Registry of Percutaneous Coronary Intervention. *Circ Cardiovasc Interv* 12:e008307,2019
25. Natsuaki M, Morimoto T, Watanabe H, Nakagawa Y, Furukawa Y, Kadota K, Akasaka T, Hanaoka KI, Kozuma K, Tanabe K, Morino Y, Muramatsu T, Kimura T; CREDO - Kyoto PCI/CABG registry cohort - 2, RESET and NEXT trial investigators:Ischemic and Bleeding Risk After Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Prior Ischemic and Hemorrhagic Stroke. *J Am Heart Assoc* 8:e013356,2019
26. Nagao K, Watanabe H, Morimoto T, Inada T, Hayashi F, Nakagawa Y, Furukawa Y, Kadota K, Akasaka T, Natsuaki M, Kozuma K, Tanabe K, Morino Y, Shiomi H, Kimura T; CREDO - Kyoto PCI/CABG Registry Cohort - 2, RESET, and NEXT Investigators:Prognostic Impact of Baseline Hemoglobin Levels on Long-Term Thrombotic and Bleeding Events After Percutaneous Coronary Interventions. *J Am Heart Assoc* 8:e013703,2019
27. Watanabe H, Domei T, Morimoto T, Natsuaki M, Shiomi H, Toyota T, Ohya M, Suwa S, Takagi K, Nanasato M, Hata Y, Yagi M, Suematsu N, Yokomatsu T, Takamisawa I, Doi M, Noda T, Okayama H, Seino Y, Tada T, Sakamoto H, Hibi K, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Hanaoka KI, Morino Y, Kozuma K, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T; STOPDAPT- 2 Investigators.Very Short Dual Antiplatelet Therapy After Drug-Eluting Stent Implantation in Patients With High Bleeding Risk: Insight From the STOPDAPT-2 Trial. *Circulation* 140:1957-1959,2019

28. Yoshioka K, Matsue Y, Yamaguchi T, Kitai T, Kagiya N, Okumura T, Kida K, Oishi S, Akiyama E, Suzuki S, Yamamoto M, Kuroda S, Matsumura A, Hirao K: Safety and Prognostic Impact of Early Treatment with Angiotensin-Converting Enzyme Inhibitors or Angiotensin Receptor Blockers in Patients with Acute Heart Failure. *Am J Cardiovasc Drugs* 19:597-605,2019
29. Minamino-Muta E, Kato T, Morimoto T, Taniguchi T, Izumi C, Nakatsuma K, Inoko M, Shirai S, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Miyake M, Mitsuoka H, Hirano Y, Sasa T, Nagao K, Inada T, Nishikawa R, Takeuchi Y, Matsuda S, Yamane K, Su K, Komasa A, Ishii K, Kato Y, Takabayashi K, Watanabe S, Saito N, Minatoya K, Kimura T; CURRENT AS Registry Investigators: Decline in Left Ventricular Ejection Fraction During Follow-Up in Patients With Severe Aortic Stenosis. *JACC Cardiovasc Interv* 12:2499-2511,2019
30. Krittanawong C, Tunhasiriwet A, Wang Z, Zhang H, Farrell AM, Chirapongsathorn S, Sun T, Kitai T, Argulian E: Association between short and long sleep durations and cardiovascular outcomes: a systematic review and meta-analysis. *Eur Heart J Acute Cardiovasc Care* ; 8 :762-770,2019
31. Kitai T, Tsutsui RS: The contemporary role of echocardiography in the assessment and management of aortic stenosis. *J Med Ultrason* 47:71-80,2020
32. Shiraki H, Kasamoto M, Yasutomi M, Kaji S, Akutsu K, Furukawa Y, Shimizu W, Inoue N: Clinical Features of Spontaneous Isolated Dissection of Abdominal Visceral Arteries. *J Clin Med Res* 12:13-17,2020
33. Kushiyama A, Taniguchi T, Morimoto T, Shiomi H, Ando K, Kanamori N, Murata K, Kitai T, Kawase Y, Izumi C, Miyake M, Mitsuoka H, Kato M, Hirano Y, Matsuda S, Inada T, Nagao K, Mabuchi H, Takeuchi Y, Yamane K, Toyofuku M, Ishii M, Minamino-Muta E, Kato T, Inoko M, Ikeda T, Komasa A, Ishii K, Hotta K, Higashitani N, Kato Y, Inuzuka Y, Jinnai T, Morikami Y, Saito N, Minatoya K, Kimura T; CURRENT AS Registry Investigators: Age-Related Differences in the Effects of Initial Aortic Valve Replacement vs. Conservative Strategy on Long-Term Outcomes in Asymptomatic Patients With Severe Aortic Stenosis. *Circ J* 84:252-261,2020
34. Kato T, Yaku H, Morimoto T, Inuzuka Y, Tamaki Y, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Taniguchi R, Iguchi M, Kato M, Takahashi M, Jinnai T, Ikeda T, Nagao K, Kawai T, Komasa A, Nishikawa R, Kawase Y, Morinaga T, Su K, Kawato M, Seko Y, Inoko M, Toyofuku M, Furukawa Y, Nakagawa Y, Ando K, Kadota K, Shizuta S, Ono K, Sato Y, Kuwahara K, Ozasa N, Kimura T: Association with Controlling Nutritional Status (CONUT) Score and In-hospital Mortality and Infection in Acute Heart Failure. *Sci Rep* 10:3320,2020
35. Yaku H, Kato T, Morimoto T, Inuzuka Y, Tamaki Y, Ozasa N, Yamamoto E, Yoshikawa Y, Kitai T, Kato M, Ikeda T, Furukawa Y, Nakagawa Y, Sato Y, Kuwahara K, Kimura T: Risk factors and clinical outcomes of functional decline during hospitalisation in very old patients with acute decompensated heart failure: an observational study. *BMJ Open* 10:e032674,2020
36. Takeji Y, Shiomi H, Morimoto T, Furukawa Y, Ehara N, Nakagawa Y, Kato T, Tazaki J, Kato ET, Yaku H, Yoshikawa Y, Tada T, Hanyu M, Kadota K, Komiya T, Ando K, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort Investigators: Diabetes Mellitus and Long-Term Risk for Heart Failure After Coronary Revascularization. *Circ J* 84:471-478,2020
37. Natsuaki M, Morimoto T, Yamamoto E, Watanabe H, Furukawa Y, Abe M, Nakao K, Ishikawa T, Kawai K, Yunoki K, Shimizu S, Akao M, Miki S, Yamamoto M, Okada H, Hoshino K, Kadota K, Morino Y, Hanaoka KI, Tanabe K, Kozuma K, Kimura T; STOPDAPT trial investigators: One-year clinical outcomes of patients with versus without acute coronary syndrome with 3-month duration of dual antiplatelet therapy after everolimus-eluting stent implantation. *PLoS One* 15:e0227612,2020
38. Takase T, Ikesue H, Nakagawa H, Kinoshita M, Muroi N, Kitai T, Furukawa Y, Hashida T: Risk factors for major bleeding and clinically relevant non-major bleeding in Japanese patients treated with edoxaban. *Biol Pharm Bull* 43:458-462,2020

VI. 1.2 糖尿病・内分泌内科

1. 篠原尚吾, 竹林慎治, 濱口清海, 道田哲彦, 齊田浩二, 水野敬介, 日野 恵, 籾谷雄二, 藤本寛太: 甲状腺分化癌に対する FDG/PET-CT の適応と有用性について—甲状腺全摘 + アブレーション / 全身シンチを基本治療方針とした場合—. *耳鼻臨床* 112 : 597-602,2019

2. 磯村 望, 高津絵梨香, 山本伊都香, 岩倉敏夫: SGLT 2 阻害薬による食行動の変化と治療効果についての検討. 糖尿病 63:110-118,2020
3. 難波光義, 松久宗英, 岩倉敏夫: 糖尿病治療に関連した重症低血糖の調査委員会報告. 糖尿病学 2019:86-93,2019
4. 岩倉敏夫: 低血糖およびシックデイ. 特集インスリン分泌促進系薬 Update, 難波光義, 10, フジメディカル出版, 大阪, 196 - 201,2019

VI. 1.3 脳神経内科

1. Sone J, Mitsuhashi S, Fujita A, Mizuguchi T, Hamanaka K, Mori K, Koike H, Hashiguchi A, Takashima H, Sugiyama H, Kohno Y, Takiyama Y, Maeda K, Doi H, Koyano S, Takeuchi H, Kawamoto M, Kohara N, Ando T, Ieda T, Kita Y, Kokubun N, Tsuboi Y, Katoh K, Kino Y, Katsuno N, Tsuboi Y, Katoh K, Kino Y, Katsuno M Iwasaki Y, Yoshida M, Tanaka F, Suzuki I, Martin C.F, Matsumoto N: Long-read sequencing identifies GGC repeat expansions in NOTCH 2 NLC associated with neuronal intranuclear inclusion disease. *nature genetics* 51:1215-1221,2019
2. Hochsmann B, Murakami Y, Osato M, Knaus A, Kawamoto M, Inoue N, Hirata T, Murata S, Anliker M, Eggermann T, Jager M, Floettmann R, Hoellein A, Murase S, Ueda Y, Nishimura JI, Kanakura Y, Kohara N, Schrezenmeier H, Krawitz PM, Kinoshita T: Complement and inflammasome overactivation mediates paroxysmal nocturnal hemoglobinuria with autoinflammation. *The Journal of Clinical Investigation* 129:5123-5136,2019
3. Todo K, Sakai N, Imamura H, Yamagami H, Adachi H, Kono T, Kobayashi J, Yamamoto S, Morimoto T, Tani S, Kawamoto M, Sakaguchi M, Ueno Y, Kunieda T, Narumi O, Sakai C, Ishii A, Hoshi T, Koyanagi M, Mineharu Y, Ishikawa T, Kuramoto Y, Sato S, Ohara N, Arimura K, Nakamura H, Nishida T, Gon Y, Fujinaka T, Yoshiya K, Kishima H, Mochizuki H, Kohara N; KCGH-CSC Registry Investigators: Successful Reperfusion with Endovascular Therapy Has Beneficial Effects on Long-Term Outcome Beyond 90 Days. *Cerebrovascular Disease* 47:127-134,2019
4. Yagita Y, Sakai N, Miwa K, Ohara N, Tanaka M, Sakaguchi M, Kitagawa K, Mochizuki H: Magnetic Resonance Imaging Findings Related to Stroke Risk in Japanese Patients With Fabry Disease. *Stroke* 50:2571-2573,2019
5. 松本理器, 下竹昭寛, 吉村 元: 脳波 up to date: 意識障害の脳波学. *臨床病理* 67:764-774,2019
6. 吉村 元: 高齢者のてんかんの特徴・治療・予後について. *日本医事新報* 4985:54-55,2019
7. Togo M, Yoshimura H, Ohira J, Funakoshi Y, Tani S, Hara S, Sakai N, Kohara N: Cavernous sinus meningioma with the involvement of the medial sphenoidal wing mimicking hypertrophic pachymeningitis. *Neurol Clin Neurosci* 7:365-366,2019
8. Nakamichi K, Kawamoto M, Ishii J, Saijo M: Improving detection of JC virus by ultrafiltration of cerebrospinal fluid before polymerase chain reaction for the diagnosis of progressive multifocal leukoencephalopathy. *BMC Neurol* 19:252,2019
9. Ohira J, Fujiwara S, Kohara N: Extremely long cord lesion in acute disseminated encephalomyelitis. *Neurology and Clinical Neuroscience* 8:50-51,2020
10. Fujiwara S, Mimura N, Yoshimura H, Fujimoto D, Ito M, Mori R, Ito J, Tomii K, Kawamoto M, Kohara N: Elevated Adenosine Deaminase Levels in the Cerebrospinal Fluid in Immune Checkpoint Inhibitor-induced Autoimmune Encephalitis. *Internal Medicine* 58:2871-2874,2019
11. 吉村 元: てんかん重積状態の診断と治療. *神経治療学* 3:457-460,2019
12. 吉村 元: 高齢者のてんかん重積状態. *神経治療学* 36:483-485,2019
13. 吉村 元, 池田昭夫: てんかん. 専門家による私の治療 2019-20 年版, 1, 日本医事新報社, 546-549,2019
14. 尾原信行: いまどきの血管内治療 [急性期脳梗塞]. *むかしの頭で診ていませんか? 神経診療をスッキリまとめました*, 宮嶋裕明, 南江堂, 東京, 164-170,2019

VI. 1.4 消化器内科

1. Kitamoto H, Yamashita D, Inokuma T: A Rare Tumor Disseminated to the Gastrointestinal Tract After Treatment for HIV-Associated Lymphoproliferative Disease. *Gastroenterology* 2019 156:2136-2138,2019
2. Kitamoto H, Fushima M, Inokuma T: Chronic GI bleeding in a middle-aged woman. *Gut* Aug 2019 68:1385-1429,2019

3. Kitamoto H, Inoue S, Okamoto K, Inokuma T: Scanning early catches the worm: abdominal ultrasound as a possible screening method for intestinal cestodes. *Lancet* 394:10205,2019

VI. 1.5 呼吸器内科

1. Hayato Kawachi, Daichi Fujimoto, Takeshi Morimoto, Kazutaka Hosoya, Yuki Sato, Mariko Kogo, Kazuma Nagata, Atsushi Nakagawa, Ryo Tachikawa, Keisuke Tomii: Early depth of tumor shrinkage and treatment outcomes in non-small cell lung cancer treated using Nivolumab. *Invest New Drugs* 67: 7-9,2019
2. HAYATO KAWACHI, DAICHI FUJIMOTO, DAISUKE YAMASHITA, JUNYA FUKUOKA, YUKA KITAMURA, KAZUTAKA HOSOYA, YUKI SATO, KAZUMA NAGATA, ATSUSHI NAKAGAWA, RYO TACHIKAWA, NAOKI DATE, ICHIRO SAKANOUÉ, HIROSHI HAMAKAWA, YUTAKA TAKAHASHI and KEISUKE TOMII: Association Between Formalin Fixation Time and Programmed Cell Death Ligand 1 Expression in Patients With Non-Small Cell Lung Cancer. *Anticancer Research* 39:2561-2567,2019
3. Kogo M, Otsuka K, Morimoto T, Nagata K, Nakagawa A, Tomii K: Pulmonary artery enlargement predicts poor outcome during acute exacerbations of fibrotic interstitial lung disease. *Respirology* 24:777-782,2019
4. Kazutaka Hosoya, Daichi Fujimoto, Hayato Kawachi, Yuki Sato, Mariko Kogo, Kazuma Nagata, Atsushi Nakagawa, Ryo Tachikawa, Shinya Hiraoka, Masaki Kokubo, Keisuke Tomii: Ineligibility for the PACIFIC trial in unresectable stage III non-small cell lung cancer patients. *Cancer Chemotherapy and Pharmacology* 84:275-280,2019
5. Ogura T, Takigawa N, Tomii K, Kishi K, Inoue Y, Ichihara E, Homma S, Takahashi K, Akamatsu H, Ikeda S, Inase N, Iwasawa T, Ohe Y, Ohta H, Onishi H, Okamoto I, Ogawa K, Kasahara K, Karata H, Kishimoto T, Kitamura Y, Gemma A, Kenmotsu H, Sakashita H, Sakamoto S, Sekine K, Takiguchi Y, Tada Y, Toyooka S, Nakayama Y, Nishioka Y, Hagiwara K, Hanibuchi M, Fukuoka J, Minegishi Y, Yanagihara T, Yamamoto N, Yamamoto H, Gaga M, Fong KM, Powell CA, Kiura K; DLD/TO Assemblies of JRS: Summary of the Japanese Respiratory Society statement for the treatment of lung cancer with comorbid interstitial pneumonia. *Respiratory Investigation* 57:512-533,2019
6. Toshihide Yokoyama, Hiroshige Yoshioka, Daichi Fujimoto, Yoshiki Demura, Katsuya Hirano, Takahiro Kawai, Ryogo Kagami, Yasuyoshi Washio, Tadashi Ishida, Mariko Kogo, Keisuke Tomii, Takehiro Okuno, Masaya Akai, Masataka Hirabayashi, Takashi Nishimura, Yasuharu Nakahara, Young Hak Kim, Chisato Miyakoshi, Kenichi Yoshimura, Toyohiro Hirai: A phase II study of low starting dose of afatinib as first-line treatment in patients with EGFR mutation-positive non-small-cell lung cancer (KTORG1402). *Lung Cancer* 135:175-180,2019
7. R. Tazawa, T. Ueda, M. Abe, K. Tatsumi, R. Eda, S. Kondoh, K. Morimoto, Takeshi Tanaka, E. Yamaguchi, A. Takahashi, M. Oda, H. Ishii, S. Izumi, H. Sugiyama, A. Nakagawa, K. Tomii, M. Suzuki, S. Konno, S. Ohkouchi, N. Tode, T. Handa, T. Hirai, Y. Inoue, T. Arai, K. Asakawa, T. Sakagami, A. Hashimoto, Takahiro Tanaka, T. Takada, A. Mikami, N. Kitamura, and K. Nakata: Inhaled GM-CSF for Pulmonary Alveolar Proteinosis. *N Engl J Med* 381:923-932,2019
8. R Hirabayashi, A Nakagawa, H Takegawa, K Tomii: A case of pleural effusion caused by Mycobacterium fortuitum and Mycobacterium mageritense coinfection. *BMC Infectious Diseases* 19:720,2019
9. Atsushi Matsunashi, Daichi Fujimoto, Kazutaka Hosoya, Kei Irie, Shoji Fukushima, Keisuke Tomii: Osimertinib in a patient with non-small cell lung cancer and renal failure undergoing hemodialysis: a case report. *Investigational New Drugs* 38:1192-1195,2019
10. Minami T, Tachikawa R, Matsumoto T, Murase K, Tanizawa K, Inouchi M, Handa T, Oga T, Hirai T, Chin K: Adrenal gland size in obstructive sleep apnea: Morphological assessment of hypothalamic-pituitary-adrenal axis activity. *PLoS One*:e0222592,2019
11. Hayato Kawachi, Motohiro Tamiya, Akihiro Tamiya, Seigo Ishii, Katsuya Hirano, Hirotaka Matsumoto, Yasushi Fukuda, Toshihide Yokoyama, Ryota Kominami, Daichi Fujimoto, Kazutaka Hosoya, Hidekazu Suzuki, Tomonori Hirashima, Masaki Kanazu, Nobuhiko Sawa, Junji Uchida, Mitsunori Morita, Takeshi Makio, Satoshi Hara, Toru Kumagai: Association between metastatic sites and first-line pembrolizumab treatment outcome for advanced non-small cell lung cancer with high PD-L1 expression: a retrospective multicenter cohort study. *Invest New Drugs* 38:211-218,2020

12. Motohiro Tamiya, Akihiro Tamiya, Kazutaka Hosoya, Yoshihiko Taniguchi, Toshihide Yokoyama, Yasushi Fukuda, Katsuya Hirano, Hirotaka Matsumoto, Ryota Kominami, Hidekazu Suzuki, Tomonori Hirashima, Junji Uchida, Mitsunori Morita, Masaki Kanazu, Nobuhiko Sawa, Yoshinori Kinoshita, Satoshi Hara, Toru Kumagai, Daichi Fujimoto: Efficacy and safety of pembrolizumab as first-line therapy in advanced non-small cell lung cancer with at least 50% PD-L1 positivity: a multicenter retrospective cohort study (HOPE-001). *Invest New Drugs* 37:1266-1273,2019
13. Ryuya Eda, Masaki Kanazu, Hiroyuki Kurebe, Masahide Mori, Daichi Fujimoto, Yoshihiko Taniguchi, Hidekazu Suzuki, Katsuya Hirano, Toshihide Yokoyama, Mitsunori Morita, Yasushi Fukuda, Junji Uchida, Takeshi Makio, Motohiro Tamiya: Clinical outcomes in non-small cell lung cancer patients with an ultra-high expression of programmed death ligand-1 treated using pembrolizumab as a first-line therapy: A retrospective multicenter cohort study in Japan. *PLoS ONE* 14:e0220570-11,2019
14. Kondoh Y, Azuma A, Inoue Y, Ogura T, Sakamoto S, Tsushima K, Johkoh T, Fujimoto K, Ichikado K, Matsuzawa Y, Saito T, Kishi K, Tomii K, Sakamoto N, Aoshima M, Araya J, Izumi S, Arita M, Abe M, Yamauchi H, Shindoh J, Suda T, Okamoto M, Ebina M, Yamada Y, Tohda Y, Kawamura T, Taguchi Y, Ishii H, Hashimoto N, Abe S, Taniguchi H, Tagawa J, Bessho K, Yamamori N, Homma S: A Randomized Study of Thrombomodulin alfa for Acute Exacerbation of Idiopathic Pulmonary Fibrosis. *Am J Respir Crit Care Med* 20:1110-1119,2020
15. Koh Nakata, Tatsuki Sugi, Keiko Kuroda, Kazutaka Yoshizawa, Toshinori Takada, Ryushi Tazawa, Takahiro Ueda, Ami Aoki, Mitsuhiro Abe, Koichiro Tatsumi, Ryosuke Eda, Shotaro Kondoh, Konosuke Morimoto, Takeshi Tanaka, Etsuro Yamaguchi, Ayumu Takahashi, Miku Oda, Haruyuki Ishii, Shinyu Izumi, Haruhito Sugiyama, Atsushi Nakagawa, Keisuke Tomii, Masaru Suzuki, Satoshi Konno, Toyohiro Hirai, Shinya Ohkouchi, Yoshikazu Inoue, Taizou Hirano, Tomohiro Handa, Toru Arai, Katsuaki Asakawa, Takuro Sakagami, Takahiro Tanaka, Ayako Mikami, Nobutaka Kitamura: Validation of a new serum granulocyte-macrophage colony-stimulating factor autoantibody testing kit. *ERJ Open Res* 6:00259-2019,2020
16. Mariko Kogo, Daichi Fujimoto, Kazutaka Hosoya, Kazuma Nagata, Atsushi Nakagawa, Ryo Tachikawa, Daisuke Yamashita, Yuka Kitamura, Yukihiko Imai, Keisuke Tomii: Tumour content ratio matters for detecting epidermal growth factor receptor mutation by cobas test in small biopsies; a retrospective study. *BMC Cancer* 20:104,2020
17. 永田一真, 富井啓介: ネーザルハイフロー療法の最新知見. *分子呼吸器病*, 2020
18. 永田一真: 慢性呼吸不全に対するNIVとHFNC. *人工呼吸管理のすべて*, 2020
19. 永田一真: ハイフローセラピー. *内科 今日の呼吸器診療*, 2019
20. 永田一真: 急性呼吸不全における高流量鼻カニューラ酸素療法 (HFNC) の適応. *Respiall 通信*, 2020
21. Kimihiko Murase, Kiminobu Tanizawa, Takuma Minami, Takeshi Matsumoto, Ryo Tachikawa, Naomi Takahashi, Toru Tsuda, Yoshiro Toyama, Motoharu Ohi, Toshiki Akahoshi, Yasuhiro Tomita, Koji Narui, Hiroshi Nakamura, Tetsuro Ohdaira, Hiroyuki Yoshimine, Tomomasa Tsuboi, Yoshihiro Yamashiro, Shinichi Ando, Takatoshi Kasai, Hideo Kita, Koichiro Tatsumi, Naoto Burioka, Keisuke Tomii, Yasuhiro Kondoh, Hirofumi Takeyama, Tomohiro Handa, Satoshi Hamada, Toru Oga, Takeo Nakayama, Tetsuo Sakamaki, Satoshi Morita, Tomohiro Kuroda, Toyohiro Hirai, Kazuo Chin: A Randomized Controlled Trial of Telemedicine for Long-Term Sleep Apnea CPAP Management. *Ann Am Thorax Soc*:201907-494OC, 2019
22. 永田一真, 富井啓介: 急性呼吸不全. *最新呼吸器内科・外科学*, 2019
23. 永田一真: HFNCによる呼吸管理. *Respica*, 2019
24. 永田一真: NPPVとHFT: 切り替え時の注意点. *Respica 増刊号*, 2019
25. Daichi Fujimoto, Makiko Yomota, Akimasa Sekine, Mitsunori Morita, Takeshi Morimoto, Yukio Hosomi, Takashi Ogura, Hiromi Tomioka, Keisuke Tomii: Nivolumab for advanced non-small cell lung cancer patients with mild idiopathic interstitial pneumonia: A multicenter, open-label single-arm phase II trial. *Lung Cancer* 134:274-278,2019
26. Jiro Ito, Kazuma Nagata, Takeshi Morimoto, Mariko Kogo, Daichi Fujimoto, Atsushi Nakagawa, Kojiro Otsuka, Keisuke Tomii: Respiratory management of acute exacerbation of interstitial pneumonia using high-flow nasal cannula oxygen therapy: a single center cohort study. *J Thorac Dis* 11:103-112,2019
27. Motokazu Kato, Keisuke Tomii, Kenichi Hashimoto, Yasuko Nezu, Takeo Ishii, C Elaine Jones, Sally Kilbride, Annette S Gross, Christine S Clifton, David A Lipso: The IMPACT study - single inhaler triple therapy (FF/UMEC/

- VI) versus FF/VI and UMEC/VI in patients with COPD: Efficacy and safety in a Japanese population. *Int J COPD* 14:2849-2861,2019
28. 富井啓介、門脇 徹、北島尚昌、福井基成、永田一真、堀江健夫、阿部博樹、奥田みゆき、丞々弥生、坪井知正、仁多寅彦、蝶名林直彦：在宅ハイフローセラピーの現状。日本呼吸ケア・リハビリテーション学会誌 28：291-297,2019
 29. HIRONORI YOSHIDA, HIROKI NAGAI, YUICHI SAKAMORI, HIROAKI OZASA, TAKASHI NISHIMURA, KEISUKE TOMII, TOYOHITO HIRAI, YUKINORI MATSUO, YUSUKE IIZUKA, TAKASHI MIZOWAKI, KENICHI YOSHIMURA, YOUNG HAK KIM:Phase II Study of Consolidation Amrubicin After Concurrent Chemoradiotherapy in Patients With Limited-stage Small-cell Lung Cancer. *In Vivo* 34:897-902,2020
 30. 富井啓介：移植関連肺疾患。最新呼吸器内科・外科学, 伊達洋至・平井豊博監修, メディカルレビュー社, 東京, 603-606,2019
 31. 立川 良：非心原性肺水腫、急性呼吸促拍症候群 (ARDS)。最新呼吸器内科・外科学, 伊達洋至・平井豊博監修, メディカルレビュー社, 東京, 778-780,2019
 32. 立川 良：OSA と高血圧、糖尿病、脂質異常、メタボリック症候群。呼吸器ジャーナル 実地診療に役立つ睡眠時無呼吸症候群 (SAS) と睡眠関連低換障害の現況と課題, 陳和夫, 67, 医学書院, 132-138,2019
 33. 立川 良：間質性肺炎急性増悪。医師・ナースのためのNPPV丸ごと辞典：どんなとき、どう使う？非侵襲的呼吸管理のすべてがわかる, 石原英樹, メディカ出版, 277-281,2019
 34. 富井啓介：非侵襲的陽圧換気療法。今日の治療指針2020, 福井次矢, 高木誠, 小室一成, 医学書院, 東京, 280-281,2020
 35. 細谷和貴、立川 良、原 重雄、富井啓介：血管内リンパ腫。呼吸器内科, 37, 科学評論社, 183-188,2020

VI. 1.6 血液内科

1. Shimomura Y, Hara M, Tachibana T, Ohashi K, Sakura T, Fukuda T, Nakazawa H, Iwato K, Kanda Y, Ikeda T, Eto T, Kanda J, Ichinohe T, Atsuta Y, Ishikawa T, Ishiyama K:Outcomes of second allogeneic haematopoietic stem cell transplantation in patients with relapse of myelodysplastic syndrome. *Br J Haematol* 186:86-90,2019
2. Morita-Fujita M, Katoh D, Shimomura Y, Ishikawa T:High Level of Serum Soluble Interleukin- 2 Receptor Is Associated With Poor Survival in Patients With First Relapsed or Refractory Peripheral T-Cell Lymphoma, Not Otherwise Specified: A Retrospective Study. *Clin Lymphoma Myeloma Leuk* 19:e337-e342,2019
3. Fujimoto A, Hiramoto N, Yamasaki S, Inamoto Y, Uchida N, Maeda T, Mori T, Kanda Y, Kondo T, Shiratori S, Miyakoshi S, Ishiyama K, Ikegame K, Matsushashi Y, Tanaka J, Ichinohe T, Atsuta Y, Ogata M, Suzuki R:Risk Factors and Predictive Scoring System For Post-Transplant Lymphoproliferative Disorder after Hematopoietic Stem Cell Transplantation. *Biol Blood Marrow Transplant* 25:1441-1449,2019
4. Ogata T, Shimomura Y, Yamashita D, Imai Y, Ishikawa T:Substantial improvement in immune thrombocytopenic purpura associated with T-cell/histiocyte-rich B-cell lymphoma treated with chemotherapy: A case report. *Mol Clin Oncol* 10:441-445,2019
5. Katoh D, Ochi Y, Hiramoto N, Morita M, Yabushita T, Shimomura Y, Yamashita D, Ono Y, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Imai Y, Hashimoto H, Ishikawa T:Parvovirus B19 infection in adult patients after allogeneic stem cell transplantation: our experience of five cases and literature review. *Bone Marrow Transplant* 55:653-656,2020
6. Shimomura Y, Hara M, Maruoka H, Yabushita T, Ishikawa T:Measurable residual disease evaluated by flow cytometry using leukemia associated immune phenotypes following allogeneic stem cell transplantation is associated with high relapse rates in patients with acute myeloid leukemia. *Leuk Lymphoma* 61:745-748,2020
7. 中村桃子, 吉岡 聡, 山下大祐, 原 重雄, 石川隆之：Ibrutinibにより自己免疫性血球減少症が改善した単クローン性免疫グロブリン沈着症合併慢性リンパ性白血病。臨床血液 60：1449-1454,2019
8. 藤本亜弓, 平本展大, 松下章子, 石川隆之：Lenalidomideを含むレジメンが奏効した髄膜浸潤形質細胞性白血病。臨床血液 60：1550-1554,2019
9. Fujikura K, Yamashita D, Sakamoto R, Ishikawa T, Chuang SS, Itoh T, Imai Y: Intravascular NK/T-cell lymphoma:clinicopathological and integrated molecular analysis of two cases provides a clue to disease pathogenesis. *J Clin Pathol* 72:642-646,2019

10. Itonaga H, Ishiyama K, Aoki K, Aoki J, Ishikawa T, Ohashi K, Fukuda T, Ozawa Y, Ota S, Uchida N, Eto T, Iwato K, Ohno Y, Takanashi M, Ichinohe T, Atsuta Y, Miyazaki Y: Clinical impact of the loss of chromosome 7q on outcomes of patients with myelodysplastic syndromes treated with allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Bone Marrow Transplant* 54:1471-1481,2019
11. Itonaga H, Ishiyama K, Aoki K, Aoki J, Ishikawa T, Uchida N, Ohashi K, Ueda Y, Fukuda T, Sakura T, Ohno Y, Iwato K, Okumura H, Kondo T, Ichinohe T, Takanashi M, Atsuta Y, Miyazaki Y: Increased opportunity for prolonged survival after allogeneic hematopoietic stem cell transplantation in patients aged 60-69 years with myelodysplastic syndrome. *Ann Hematol* 98:1367-1381,2019
12. Watatani Y, Sato Y, Miyoshi H, Sakamoto K, Nishida K, Gion Y, Nagata Y, Shiraishi Y, Chiba K, Tanaka H, Zhao L, Ochi Y, Takeuchi Y, Takeda J, Ueno H, Kogure Y, Shiozawa Y, Kakiuchi N, Yoshizato T, Nakagawa MM, Nanya Y, Yoshida K, Makishima H, Sanada M, Sakata-Yanagimoto M, Chiba S, Matsuoka R, Noguchi M, Hiramoto N, Ishikawa T, Kitagawa J, Nakamura N, Tsurumi H, Miyazaki T, Kito Y, Miyano S, Shimoda K, Takeuchi K, Ohshima K, Yoshino T, Ogawa S, Kataoka K: Molecular heterogeneity in peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified revealed by comprehensive genetic profiling. *Leukemia* 33:2867-2883,2019
13. Maruyama D, Nagai H, Fukuhara N, Kitano T, Ishikawa T, Nishikawa T: Final analysis of a phase II study of ibrutinib in Japanese patients with relapsed/refractory mantle cell lymphoma. *J Clin Exp Hematop*:98-100,2019
14. Iida S, Watanabe T, Matsumoto M, Suzuki K, Sunami K, Ishida T, Ando K, Chou T, Ozaki S, Taniwaki M, Uike N, Shibayama H, Hatake K, Izutsu K, Ishikawa T, Shumiya Y, Tobinai K: Carfilzomib monotherapy in Japanese patients with relapsed or refractory multiple myeloma: A phase 1/2 study. *Cancer Sci* 110:2924-2932,2019
15. Kawabata H, Usuki K, Shindo-Ueda M, Kanda J, Tohyama K, Matsuda A, Araseki K, Hata T, Suzuki T, Kayano H, Shimbo K, Chiba S, Ishikawa T, Arima N, Nohgawa M, Miyazaki Y, Kurokawa M, Arai S, Mitani K, Takaori-Kondo A; Japanese National Research Group on Idiopathic Bone Marrow Failure Syndromes: Serum ferritin levels at diagnosis predict prognosis in patients with low blast count myelodysplastic syndromes. *Int J Hematol* 110:533-542,2019
16. Fujisaki T, Ishikawa T, Takamatsu H, Suzuki K, Min CK, Lee JH, Wang J, Carson R, Crist W, Qi M, Nagafuji K: Daratumumab plus bortezomib, melphalan, and prednisone in East Asian patients with non-transplant multiple myeloma: subanalysis of the randomized phase 3 ALCYONE trial. *Ann Hematol* 98:2805-2814,2019
17. Izumi K, Kanda J, Nishikori M, Arai Y, Ishikawa T, Yoshioka S, Ueda Y, Maeda T, Yonezawa A, Anzai N, Moriguchi T, Imada K, Akasaka T, Nohgawa M, Itoh M, Aiba A, Tsunemine H, Watanabe M, Kondo T, Takaori-Kondo A: Outcomes of allogeneic stem cell transplantation for DLBCL: a multi-center study from the Kyoto Stem Cell Transplantation Group. *Ann Hematol* 98:2815-2823,2019
18. Izutsu K, Minami Y, Fukuhara N, Terui Y, Jo T, Yamamoto G, Ishikawa T, Kobayashi T, Kiguchi T, Nagai H, Ohtsu T, Kalambakas S, Fustier P, Midorikawa S, Tobinai K: Analysis of Japanese patients from the AUGMENT phase III study of lenalidomide + rituximab (R2) vs. rituximab + placebo in relapsed/refractory indolent non-Hodgkin lymphoma. *Int J Hematol* 111:409-416,2020
19. Itamura H, Shindo T, Yoshioka S, Ishikawa T, Kimura S: Phosphorylated ERK1/2 in CD4 T cells is associated with acute GVHD in allogeneic hematopoietic stem cell transplantation. *Blood Adv* 4:667-671,2020
20. 石川隆之: MDS の治療 本邦における治療の現状. *メチル化阻害薬日本臨床* 77: 1512-1517,2019

VI. 1.7 腫瘍内科

1. Munemoto Y, Nakamura M, Takahashi M, Kotaka M, Kuroda H, Kato T, Minagawa N, Noura S, Fukunaga M, Kuramochi H, Touyama T, Takahashi T, Miwa K, Satake H, Kurosawa S, Miura T, Mishima H, Sakamoto J, Oba K, Nagata N: SAPPHERE: a randomised phase II study of planned discontinuation or continuous treatment of oxaliplatin after six cycles of modified FOLFOX6 plus panitumumab in patients with colorectal cancer. *Eur J Cancer* 119:158-167,2019
2. Yasuhide Yamada, Wasaburo Koizumi, Kazuhiro Nishikawa, Masahiro Gotoh, Nozomu Fuse, Naotoshi Sugimoto, Tomohiro Nishina, Kenji Amagai, Keisho Chin, Yasumasa Niwa, Akihito Tsuji, Hiroshi Imamura, Masahiro Tsuda, Hirofumi Yasui, Hirofumi Fujii, Kensei Yamaguchi, Hisateru Yasui, Shuichi Hironaka, Ken Shimada, Ichinosuke Hyodo: Sex Differences in the Safety of S-1 Plus Oxaliplatin and S-1 Plus Cisplatin for Patients With Metastatic Gastric Cancer. *Cancer Sci* 110:2875-2883,2019

3. Misato Ogata, Hironaga Satake, Takatsugu Ogata, Yukimasa Hatachi, Shigeo Hara, Seiichi Hirota, Hisateru Yasui:Reduction and Escalation in the Dose of Sunitinib were Adequately Effective against Gastrointestinal Stromal Tumor of the Small Intestine: A Case Report. *Intern Med* 58:3243-3246,2019
4. Hiroaki Tanioka, Takeshi Nagasaka, Futoshi Uno, Masafumi Inoue, Hiroyuki Okita, Yosuke Katata, Hiromitsu Kanzaki, Hidekazu Kuramochi, Hironaga Satake, Yoshiaki Shindo, Akira Doi, Jyunichiro Nasu, Haruhiro Yamashita, Yoshiyuki Yamaguchi:The Relationship Between Peripheral Neuropathy and Efficacy in Second-Line Chemotherapy for Unresectable Advanced Gastric Cancer: A Prospective Observational Multicenter Study Protocol (IVY). *BMC Cancer* 19:941,2019
5. Satoshi Yuki, Katsunori Shinozaki, Tomomi Kashiwada, Tetsuya Kusumoto, Masaaki Iwatsuki, Hironaga Satake, Kazuma Kobayashi, Taito Esaki, Yuichiro Nakashima, Hirofumi Kawanaka, Yasunori Emi, Yoshito Komatsu, Mototsugu Shimokawa, Akitaka Makiyama, Hiroshi Saeki, Eiji Oki, Hideo Baba, Masaki Mori:Multicenter Phase II Study of SOX Plus Trastuzumab for Patients With HER 2 + Metastatic or Recurrent Gastric Cancer: KSCC/HGCSG/CCOG/PerSeUS 1501B. *Cancer Chemother Pharmacol* 85:217-223, 2020
6. Motozumi Ando, Masaki Hirabatake, Hisateru Yasui, Shoji Fukushima, Nobuyuki Sugioka, Tohru Hashida:A Simplified Method for Therapeutic Drug Monitoring of Mitotane by Gas Chromatography-Electron Ionization-Mass Spectrometry. *Biomed Chromatogr* 34:e4776,2020
7. Takeshi Suzuki, Yasutaka Sukawa, Chiyo K.Imamura, Toshiki Masuishi, Hironaga Satake, Yosuke Kumekawa, Shinsuke Funakoshi, Masahito Kotaka, Yoshiki Horie, Sadayuki Kawai, Hiroyuki Okuda, Tetsuji Terazawa, Chihiro Kondoh, Ken Kato, Kenichi Yoshimura, Hideki Ishikawa, Yasuo Hamamoto, Narikazu Boku, Hiromasa Takaishi, Takanori Kanai:A Phase II Study of Regorafenib With a Lower Starting Dose in Patients With Metastatic Colorectal Cancer: Exposure-Toxicity Analysis of Unbound Regorafenib and Its Active Metabolites (RESET Trial). *Clin Colorectal Cancer* 19:13-21,2020
8. Motoo Nomura, Isao Oze, Toshiki Masuishi, Tomoya Yokota, Hironaga Satake, Shunichiro Iwasawa, Ken Kato, Masashi Andoh:Multicenter prospective phase II trial of nivolumab in patients with unresectable or metastatic mucosal melanoma. *Int J Clin Oncol* 25:972-977,2020
9. 緒方美里, 松本光史:産婦人科救急・当直対応マニュアル【Ⅱ.産婦人科 オンコロジック・エマージェンシーへの対応法】腫瘍崩壊症候群. *臨床婦人科産科*, 73, 医学書院, 2019

VI. 1.8 緩和ケア内科

1. 西本哲郎:緩和ケア医の立場から. 明日からできる!在宅輸血マニュアル 在宅新療0-100, 4, へるす出版, 878-881,2019
2. 西本哲郎: 第三章 腫瘍学的緊急症 上大静脈症候群, 専門家をめざす人のための緩和医療学, 日本緩和医療学会編集, 2, 南光堂, 東京, 281-287,2019

VI. 1.9 感染症科

1. Nishikubo M, Kanamori M, Nishioka H:Levofloxacin-Associated Neurotoxicity in a Patient with a High Concentration of Levofloxacin in the Blood and Cerebrospinal Fluid. *Antibiotics (Basel)* 8:78,2019
2. Shimizu H, Hara S, Nishioka H:Disseminated cryptococcosis with granuloma formation in idiopathic CD 4 lymphocytopenia. *J Infect Chemother* 26:257-260,2020
3. Nishioka H, Shimizu H:Herpes Zoster presenting with systemic symptoms prior to prodromal pain. *Journal of Hospital General Medicine* 2:54-55,2020
4. Tatebe M, Doi A, Nasu S, Hama N, Nomoto R, Arakawa E, Izumiya H, Nishioka H:A Case of *Vibrio cholerae* Infection in Japan Not Associated with Overseas Travel. *Internal Medicine* 58:2581-2583,2019
5. Harada S, Aoki K, Yamamoto S, Ishii Y, Sekiya N, Kurai H, Furukawa K, Doi A, Tochitani K, Kubo K, Yamaguchi Y, Narita M, Kamiyama S, Suzuki J, Fukuchi T, Gu Y, Okinaka K, Shiiki S, Hayakawa K, Tachikawa N, Kasahara K, Nakamura T, Yokota K, Komatsu M, Takamiya M, Tateda K, Doi Y:Clinical and Molecular Characteristics of *Klebsiella pneumoniae* Isolates Causing Bloodstream Infections in Japan: Occurrence of Hypervirulent Infections in Health Care. *J Clin Microbiol* 57:e01206-19,2019

6. Hayakawa K, Nakano R, Hase R, Shimatani M, Kato H, Hasumi J, Doi A, Sekiya N, Nei T, Okinaka K, Kasahara K, Kurai H, Nagashima M, Miyoshi-Akiyama T, Kakuta R, Yano H, Ohmagari N: Comparison between IMP carbapenemase-producing Enterobacteriaceae and non-carbapenemase-producing Enterobacteriaceae: a multicentre prospective study of the clinical and molecular epidemiology of carbapenem-resistant Enterobacteriaceae. *J Antimicrob Chemother* 75:697-708,2020
7. Iwata K, Doi A, Oba Y, Matsuo H, Ebisawa K, Nagata M, Nishimura S, Yoshimura K, Masuda A, Shiomi H, Kodama Y: Shortening antibiotic duration in the treatment of acute cholangitis: rationale and study protocol for an open-label randomized controlled trial. *Trial* 21:97,2020
8. Shimizu H, Nishioka H: Adult-onset Still's disease accompanied by erythema multiforme presenting as an atypical rash. *Scand J Rheumatol* 31: 1-2,2020
9. 竹中麻理子, 岩本昌子, 東別府直紀, 西岡弘晶: 空腸ストーマを有する短腸症候群になった血液透析患者の水分とナトリウム管理を行った2症例. 学会誌 JSPEN 1: 86-91,2019
10. 茨木まどか, 東別府直紀, 西岡弘晶: 盲端となった胃管へ半固形栄養剤を投与し栄養管理を行った食道がん切除後の1例. 学会誌 JSPEN 1: 187-193,2019
11. 西岡弘晶: 内科医として“足”を診る common な足病変 update 「痛風」. *内科* 124: 2321-2324,2019
12. 黒田浩一: 目で見るトレーニング「VGSによる髄膜炎」. *Medicina* 57: 593,2020
13. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第9回 グラム陽性球菌編②. *J-IDEO* 3: 414-422,2019
14. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第9回 グラム陽性球菌編③. *J-IDEO* 3: 573-581,2019
15. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第89回 グラム陽性球菌編④. *J-IDEO* 3: 692-698,2019
16. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第9回 グラム陽性球菌編⑤. *J-IDEO* 3: 924-931,2019
17. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第9回 グラム陽性球菌編⑥. *J-IDEO* 4: 30-36,2020
18. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第9回 グラム陽性球菌編⑦. *J-IDEO* 4: 276-284,2020
19. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第9回 グラム陽性球菌編⑧. *J-IDEO* 3: 414-422,2019
20. 黒田浩一: フルオロキノロン系抗菌薬. *KANSEN JOURNAL*, 2019
21. 黒田浩一: インフルエンザ. *Gノート増刊* 6: 103-119,2019
22. 黒田浩一: かぜの診かた. 外来で診る感染症 (具芳明・大曲貴夫編), 日本医事新報社, 2020
23. 黒田浩一: 好中球減少時の発熱へのアプローチ. 病院内/免疫不全関連感染症診療の考え方と進め方 第2集 (IDATEN セミナーテキスト編集委員会編), 医学書院, 東京, 2019
24. 黒田浩一: 亀田流 市中肺炎診療レクチャー 感染症医と呼吸器内科医の視点から. 中外医学社, 東京, 2019

VI. 1.10 小児科・新生児科

1. Hirase S, Okafuji I, Kasai K, Matsumoto K, Tanaka Y, Tanaka Y, Tsuruta S: Disaster preparation: Survey of patients with food allergies in Kobe, Japan. *Pediat Int* 6: 847-851,2019
2. Arakawa H, Shimojo N, Katoh N, Hiraba K, Kawada Y, Yamanaka K, Igawa K, Murota H, Okafuji I, Fukuie T, Nakahara T, Noguchi T, Kanakubo A, Katayama I: Consensus statements on pediatric atopic dermatitis from dermatology and pediatrics practitioners in Japan: Goals of treatment and topical therapy. *Allergo Int* 69:84-90,2020
3. Iwata K, Nishimoto T, Higasa K, Usuki, S, Miyakoshi C: Gingyogedokusan versus oseltamivir for the treatment of influenza: Bayesian inference using the Markov chain Monte Carlo method with prior pilot study data. *Traditional & Kampo Medicine* 6:134-138,2019

4. Yokoyama T, Yoshioka H, Fujimoto D, Demura Y, Hirano K, Kawai T, Kagami R, Washio Y, Ishida T, Kogo M, Tomii K, Okuno T, Akai M, Hirabayashi M, Nishimura T, Nakahara, Y, Kim YH, Miyakoshi C, Yoshimura K, Hirai T, Kyoto Thoracic Oncology Research Group(KTORG):A Phase II Study of Low Starting Dose of Afatinib as First-Line Treatment in Patients With EGFR Mutation-Positive Non-Small-Cell Lung Cancer (KTORG1402). *Lung Cancer* 135:175-180,2019
5. Kitai T, Okamoto T, Miyakoshi C, Niikawa H, Alvarez PA, Krittanawong C, Xanthopoulos A, McCurry KR:Impact of combined heart and lung transplantation on bronchiolitis obliterans syndrome, cardiac allograft vasculopathy, and long-term survival. *J Heart Lung Transplant* 38:1170-1177,2019
6. Kuragaichi T, Kataoka Y, Miyakoshi C, Miyamoto T, Sato Y:External validation of pooled cohort equations using systolic blood pressure intervention trial data. *BMC Research Notes* 12:271,2019
7. Asada S, Yokoyama K, Miyakoshi C, Fukuma S, Endo Y, Wada M, Nomura T, Onishi Y, Fukagawa M, Fukuhara S, Akizawa T:Relationship Between Serum Calcium or Phosphate Levels and Mortality Stratified by Parathyroid Hormone Level: An Analysis From the MBD- 5 D Study. *Clin Exp Nephrol* 24:630-637,2020
8. Iwata K, Miyakoshi C:A Simulation on Potential Secondary Spread of Novel Coronavirus in an Exported Country Using a Stochastic Epidemic SEIR Model. *J Clin Med* 9:944,2020
9. 今井孝成, 相原雄幸, 岡藤郁夫, 南部光彦, 望月博之, 本村知華子, 山口公一: 社会保険委員会調査報告～令和2(2020)年度診療報酬改定に向けて～. *日本小児アレルギー学会誌* 32:263-272,2019
10. 岡藤郁夫: 樹木花粉. *日本小児アレルギー学会誌* 33:758-768,2019
11. 岡藤郁夫: 小児アレルギー療養指導料. *日本小児アレルギー学会誌* 34:105-108,2020
12. 岡藤郁夫: Year in review 気管支喘息. *日本小児アレルギー学会誌* 34:129-132,2020
13. 山本千尋, 岡藤隆夫, 鶴田 悟, 中西恭一, 八若博司, 三木和典, 桃田哲也, 吉田元嗣, 藤田位, 熊谷直樹: 兵庫県小児科医会が実施したワクチンの管理方法についての実態調査結果について. *日本小児科医会会報* 57:75-82,2019
14. 竹本崇之, 松原康策, 磯目賢一, 岩田あや, 山田早紀, 宮越千智, 常 彬. 神戸西地域中核病院における小児侵襲性肺炎球菌感染症『肺炎球菌結合型ワクチン導入前後の変化, 2002～2018年-』. *感染症誌* 93:485-492,2019
15. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟, 大前沙織, 水戸部祐子, 土井雅津代: 皮下免疫療法にてハウスダストから標準化ダニ抗原へ切り替え症例における抗体価の推移についての検討. *アレルギー* 68:589-589,2019
16. 田中裕也, 岡藤郁夫, 大前沙織, 水戸部祐子, 土井雅津代, 鶴田 悟:小児への急速皮下免疫療法における, 標準化ダニ抗原とハウスダスト抽出液の違い. *アレルギー* 68:681-690,2019
17. 濱田匡章, 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟, 田中一郎: 5歳未満を対象とした標準化ダニアレルゲン皮下免疫療法の治療経過の検討. *アレルギー* 68:619-619,2019
18. 根津麻里, 岡藤郁夫, 伊藤 環, 田中裕也, 鶴田 悟: 食物依存性運動誘発アナフィラキシーが疑われ, 食物摂取+運動負荷による誘発試験を行った10症例の検討. *日本小児臨床アレルギー学会誌* 17:322-329,2019
19. 大岩香梨, 阿部純也, 水本 洋, 遠藤耕介, 佐藤正人, 秦 大資: 腸回転異常症術後に持続する胆汁性胃残とCRP上昇から新生児・乳児消化管アレルギーと診断した1例. *小児科* 60:1831-1835,2019
20. 李 崇至, 谷内昇一郎, 松井美樹, 多賀陽子, 郷間 環, 榎本真宏, 今出 礼, 西野昌光:アナフィラキシーで入院した小児救急201例における二相性反応について ※小児アレルギー学会誌に投稿 2020年1月24日に採択。今後学会誌に掲載予定。
21. 山川勝:神戸市立医療センター中央市民病院若年者院外心停止事例の検討-後遺症なく社会復帰したICD抵抗性Electrical Stormの1例を中心に。若年者心疾患・生活習慣病対策協議会誌 47:13-21,2019

VI. 1.11 皮膚科

1. 長野 徹, 鷺見真由子, 小谷晋平, 小坂博志: 膝窩リンパ節転移を認め、治療の選択に苦慮した外踝部有棘細胞癌の1例. *Skin Cancer* 34:136-139,2019
2. 長野 徹, 鷺見真由子, 小坂博志, 小川真希子, 山本博史: 放射線照射の関与が推察された皮膚平滑筋肉腫の1例. *皮膚科の臨床* 61:1224-1225,2019

3. Shindo T, Masuda Y, Imai Y, Nagano T, Nishioka H, Shindo T, et al: Acute Generalized Exanthematous Pustulosis Caused by Praziquantel. *Am J Trop Med Hyg* 100:700-702,2019
4. Nishikubo M, Yamashita Y, Nagano T, Nishioka H: Fasciitis-panniculitis syndrome preceding the recurrence of lung cancer. *Scandinavian Journal of Rheumatology*, in press
5. Fujii S, Tanaka A, Furuoka K, Nakamura A, Nagano T: Rare case of orbital cellulitis resulting in visual loss due to central retinal artery occlusion. *Journal of Dermatology*, in press

VI. 1.12 外科・移植外科

1. Hiroki Hashida, Masato Kondo, Daisuke Yamashita, Shigeo Hara, Ryosuke Mizuno, Motoko Mizumoto, Hiroyuki Kobayashi, Satoshi Kaihara: Transperineal abdominoperineal resection for anorectal melanoma: A case report. *Int J Surg Case Rep* 61:214-217,2019
2. Hiroki Hashida, Masato Sato, Yukiko Kumata, Motoko Mizumoto, Masato Kondo, Hiroyuki Kobayashi, Takehito Yamamoto, Hiroaki Terajima, Satoshi Kaihara: Usefulness of laparoscopic posterior rectopexy for complete rectal prolapse: A cohort study. *Int J Surg* 72:109-114,2019
3. Ryosuke Kita, Hiroki Hashida, Kenji Uryuhara, Satoshi Kaihara: Hepatic Anisakiasis Mimicking Metastatic Liver Tumour. *Int J Surg Case Rep* 60:209-212,2019
4. Koji Kitamura, Bettina M Buchholz, Kareem Abu-Elmagd, Joerg C Kalff, Nico Schafer, Martin W von Websky: Chronic rejection after intestinal transplantation: A systematic review of experimental models. *Transplant Rev(Orlando)* 33:173-181,2019
5. 増井秀行, 瓜生原健嗣, 喜多亮介, 近藤正人, 貝原 聡: 当院で経験したラジオ波焼灼術後横隔膜ヘルニアの2例. *日本ヘルニア学会誌* 5: 17-25,2019
6. 増井秀行, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡, 細谷 亮: 膿瘍形成性虫垂炎を併発した盲腸癌に対して腹腔鏡手術を施行した1例. *外科* 81: 155-161,2019

VI. 1.13 心臓血管外科

1. 小泉滋樹, 高崎 直, 長澤 淳, 小山忠明: 腱索断裂, 前尖 cleft での若年者孤立性三尖弁閉鎖不全症に対して人工腱索再建での三尖弁形成術を施行した1例. *日本心臓血管外科学会雑誌* 48: 324-326,2019

VI. 1.14 呼吸器外科

1. Yutaka Shishido, Kazuhiro Minami, Ichiro Sakanoue, Yutaka Takahashi, and Hiroshi Hamakawa: Large traumatic pneumatocele treated using video-assisted thoracoscopic surgery. *J Trauma Acute Care Surg* 86:1039-1040,2019
2. Yutaka Shishido, Akihiro Aoyama, Shigeo Hara, Hiroshi Hamakawa, Yutaka Takahashi: Tumor-to-Tumor Metastasis: Pulmonary Carcinoid Metastasizing to Solitary Fibrous Tumor. *Am J Case Rep* 20:1205-1209,2019

VI. 1.15 脳神経外科

1. 今村博敏, 坂井信幸: 頸動脈ステント留置術 (CAS). *ブレインナーシング* 35: 17-20,2019
2. 今井啓輔, 山上 宏, 白川 学, 中川一郎, 中澤拓也, 八子理恵, 吉村紳一, 今村博敏, 高木俊範, 坂井信幸: 神戸宣言, その後: 急性期脳梗塞に対する血管内治療の普及の取り組み各地方の取り組み 近畿地方. *脳血管内治療* 4: 28-36,2019
3. 今村博敏, 坂井信幸: 急性期血栓回収術. *ブレインナーシング* 35: 21-24,2019
4. 今村博敏, 坂井信幸: 急性頭蓋内主観動脈閉塞症に対する血行再建術. *脳神経外科速報* 29: 398-405,2019
5. 尾原信行, 藤原 悟, 幸原伸夫, 坂井信幸: 院内発症脳卒中への迅速対応: RRS(院内救急対応システム)の応用. *分子脳血管病* 18: 58-60,2019
6. 坂井信幸, 坂井千秋, 今村博敏: 脳血管内治療の State-of-Art. *脳動脈瘤 WEB*. *Clinical Neuroscience* 37: 1196-1197,2019
7. Yusuke Funakoshi, Taketo Hatano, Mitsushige Ando, Hideo Chihara, Wataru Takita, Keisuke Tokunaga, Takuro Hashikawa, Takahiko Kamata, Eiji Higashi, Izumi Nagata: Use of Direct Carotid Artery Puncture Access for Flow Diverter Embolization Combined with Coil Embolization: A Case Report. *Journal of Neuroendovascular Therapy* 13:143-148,2019

8. Yusuke Funakoshi, Hirotoshi Imamura, Shoichi Tani, Hidemitsu Adachi, Ryu Fukumitsu, Tadashi Sunohara, Yoshihiro Omura, Yuichi Matsui, Natsuhi Sasaki, Tatsumaru Fukuda, Ryo Akiyama, Kazufumi Horiuchi, Shinji Kajiura, Masashi Shigeyasu, Nobuyuki Sakai: Progressive thrombosis of unruptured aneurysms after coil embolization: analysis of 255 consecutive aneurysms. *Journal of Neurointerventional Surgery* 11:1-6, 2019
9. Yusuke Funakoshi, Junya Hanakita, Toshiyuki Takahashi, Manabu Minami, Taigo Kawaoka, Yasufumi Ohtake, Yuki Oichi: Investigation of Radiologic Landmarks Used to Decide the Appropriate Surgical Approach for Upper Thoracic Ventral Degenerative Disorders. *World Neurosurgery* 125:856-862, 2019
10. Hirotoshi Imamura, Nobuyuki Sakai, Michael J. Alexander: Flow-Diverter Stenting of Intracavernous Internal Carotid Artery Mycotic Aneurysm. *Journal of Stroke and Cerebrovascular Diseases* 28:81-82, 2019
11. Hirotoshi Imamura, Nobuyuki Sakai, Yasushi Ito, Chiaki Sakai, Akio Hyodo, Shigeru Miyachi, Yuji Matsumaru, Shinichi Yoshimura, Toshi Abe, Hiroshi Yamagami, Mikito Hayakawa, Hiroaki Sato, Toshiyuki Fujinaka, Kenichiro Tanabe, JHSR Collaborators: Prospective Registry of Embolization of Intracranial Aneurysms Using HydroSoft Coils: Results of the Japanese HydroSoft Registry. *WORLD NEUROSURGERY* 127:631-637, 2019
12. Ryo Akiyama, Hirotoshi Imamura, Shoichi Tani, Hidemitsu Adachi, Ryu Fukumitsu, Tadashi Sunohara, Yoshihiro Omura, Yusuke Funakoshi, Yuichi Matsui, Natsuhi Sasaki, Tatsumaru Fukuda, Kazufumi Horiuchi, Shinji Kajiura, Masashi Shigeyasu, Nobuyuki Sakai: Outcomes of Endovascular Therapy Versus Microsurgical Treatment for Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage in Patients ≥ 70 Years of Age. *Journal of Neuroendovascular Therapy*, 2019
13. Arimura K, Iihara K, Satow T, Nishimura A, Tokunaga S, Sakai N; JR-NET investigators: Safety and Feasibility of Neuroendovascular Therapy for Elderly Patients: Analysis of Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy 3. *Neurol Med Chir(Tokyo)* 59:305-312, 2019
14. Enomoto Y, Mizutani D, Yoshimura S, Sakai N; Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy (JR-NET) investigators: Changing Paradigms of Periprocedural Antithrombotic Therapy in Neuroendovascular Therapy: Analysis of JR-NET 3. *Neurol Med Chir(Tokyo)* 59:247-256, 2019
15. Okuno Y, Yamagami H, Kataoka H, Tahara Y, Tonomura S, Tokunaga H, Imahori T, Matsui D, Kobayashi M, Imamura H, Sakai N, Takahashi JC, Toyoda K, Nagatsuka K, Ihara M: Field Assessment of Clinical Stroke by Emergency Services for Acute Delivery to a Comprehensive Stroke Center: FACE 2 AD. *Translational Stroke Research* 11:664-67, 2019
16. Yusuke Funakoshi, Hirotoshi Imamura, Shoichi Tani, Hidemitsu Adachi, Ryu Fukumitsu, Tadashi Sunohara, Yoshihiro Omura, Yuichi Matsui, Natsuhi Sasaki, Tatsumaru Fukuda, Ryo Akiyama, Kazufumi Horiuchi, Shinji Kajiura, Masashi Shigeyasu, Nobuyuki Sakai: Safety and efficacy of an open-cell stent and double-balloon protection for unstable plaques: analysis of 184 consecutive carotid artery stenosis. *Journal of Neurointerventional Surgery* 12:758-763, 2019
17. 福田竜丸, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 血管内治療と開頭クリッピング術を要する多発未破裂脳動脈瘤における治療戦略. *脳神経外科速報* 47: 943-947, 2019
18. Nishi H, Oishi N, Ishii A, Ono I, Ogura T, Sunohara T, Chihara H, Fukumitsu R, Okawa M, Yamana N, Imamura H, Sadamasa N, Hatano T, Nakahara I, Sakai N, Miyamoto S: Predicting Clinical Outcomes of Large Vessel Occlusion Before Mechanical Thrombectomy Using Machine Learning. *Stroke* 50:2379-2388, 2019
19. Kawabata S, Imamura H, Tani S, Adachi H, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Matsui Y, Akiyama R, Horiuchi K, Sakai C, Sakai N: Effect of Direct Neurologic Evaluation on Outcomes During Treatment of Unruptured Intracranial Aneurysms Under Local Anesthesia. *WORLD NEUROSURGERY* 131:e593-e598, 2019
20. Sakai N, Uchida K, Iihara K, Satow T, Ezura M, Hyodo A, Miyachi S, Miyamoto S, Nagai Y, Nishimura K, Toyoda K, Yoshimura S, Imamura H, Sakai C, Matsumaru Y: Japanese Surveillance of Neuroendovascular Therapy I JR-NET - Part II. Japanese Registry of NeuroEndovascular Treatment 3. Main Report. *Neurol Chir(Tokyo)* 59:106-115, 2019

21. Funakoshi Y, Imamura H, Tani S, Adachi H, Fukumitsu R, Sunohara T, Suzuki K, Omura Y, Matsui Y, Sasaki N, Bando T, Fukuda T, Akiyama R, Horiuchi K, Kajiura S, Shigeyasu M, Sakai N:Effect of Straightening the Parent Vessels in Stent-Assisted Coil Embolization for Anterior Communicating Artery Aneurysms. *WORLD NEUROSURGERY* 126:e410–e416,2019
22. Kawabata S, Imamura H, Tani S, Adachi H, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Matsui Y, Akiyama R, Horiuchi K, Sakai C, Sakai N:Effect of Direct Neurologic Evaluation on Outcomes During Treatment of Unruptured Intracranial Aneurysms Under Local Anesthesia. *World Neurosurg* 131:593–598,2019
23. Takagi T, Yoshimura S, Sakai N, Iihara K, Oishi H, Hirohata M, Matsumaru Y, Matsumoto Y, Yamagami H, Menon BK, Almekhlafi M, Holodinsky JK, Kamal N, Hill MD, Goyal M:Distribution and current problems of acute endovascular therapy for large artery occlusion from a two-year national survey in Japan. *International Journal of Stroke*, 2019
24. Kada A, Ogasawara K, Kitazono T, Nishimura K, Sakai N, Onozuka D, Shiokawa Y, Miyachi S, Nagata I, Toyoda K, Hashimoto Y, Hasegawa Y, Hoshino H, Yoshimura S, Suzuki M, Tsujino A, Matsuda S, Kurogi R, Kurogi A, Ren N, Nishimura A, Arimura K, Hagihara A, Tominaga T, Kayama T, Arai H, Suzuki N, Miyamoto S, Ogawa A, Iihara K; J-ASPECT Study Collaborators:National trends in outcomes of ischemic stroke and prognostic influence of stroke center capability in Japan,2010–2016. *International Journal of Stroke* 15:289–298,2019
25. Kakita H, Yoshimura S, Uchida K, Sakai N, Yamagami H, Morimoto T; RESCUE–Japan Registry 2 Investigators:Impact of Endovascular Therapy in Patients With Large Ischemic Core:Subanalysis of Recovery by Endovascular Salvage for Cerebral Ultra–Acute Embolism Japan Registry 2. *Stroke* 50:901–908,2019
26. Matsukawa H, Kiura Y, Sakai N, Yamagami H, Uchida K, Morimoto T, Kageyama H, Yoshimura S; RESCUE–Japan Registry 2 Investigators. Effect of Endovascular Therapy on Subsequent Decompressive Hemicraniectomy in Cardioembolic Ischemic Stroke with Proximal Intracranial Occlusion in the Anterior Circulation:Sub–Analysis of the RESCUE–Japan Registry 2. *Cerebrovasc Dis* 48:9–16,2019
27. Miura M, Yoshimura S, Sakai N, Yamagami H, Uchida K, Nagao Y, Morimoto T:Endovascular therapy for middle cerebral artery M 2 segment occlusion: subanalyses of RESCUE–Japan Registry 2. *Journal of Neurointerventional Surgery* 11:964–969,2019
28. Nakamura H, Fujinaka T, Nishida T, Kishima H, Sakai N; JR–NET3 study group:Endovascular Therapy for Ruptured Vertebral Artery Dissecting Aneurysms: Results from Nationwide,Retrospective,Multi–Center Registries in Japan(JR–NET 3). *Neurol Med Chir(Tokyo)* 15:10–18,2019
29. Nishi H, Ishii A, Satow T, Iihara K, Sakai N; Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy(JR–NET) investigators:Parent Artery Occlusion for Unruptured Cerebral Aneurysms: Results of the Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy 3. *Neurol Med Chir(Tokyo)* 59: 1–9,2019
30. Nishi H, Oishi N, Ishii A, Ono I, Ogura T, Sunohara T, Chihara H, Fukumitsu R, Okawa M, Yamana N, Imamura H, Sadamasa N, Hatano T, Nakahara I, Sakai N, Miyamoto S:Predicting Clinical Outcomes of Large Vessel Occlusion Before Mechanical Thrombectomy Using Machine Learning. *Stroke* 50:2379–2388,2019
31. Nishimura A, Nishimura K, Onozuka D, Matsuo R, Kada A, Kamitani S, Higashi T, Ogasawara K, Shimodono M, Harada M, Hashimoto Y, Hirano T, Hoshino H, Itabashi R, Itoh Y, Iwama T, Kohriyama T, Matsumaru Y, Osato T, Sasaki M, Shiokawa Y, Shimizu H, Takekawa H, Nishi T, Uno M, Yagita Y, Ido K, Kurogi A, Kurogi R, Arimura K, Ren N, Hagihara A, Takizawa S, Arai H, Kitazono T, Miyamoto S, Minematsu K, Iihara K; J-ASPECT study collaborators:Development of Quality Indicators of Stroke Centers and Feasibility of Their Measurement Using a Nationwide Insurance Claims Database in Japan –J-ASPECT Study–. *Circulation Journal* 83:2292–2302,2019
32. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K, Ohara N, Kono T, Fujiwara S, Kaneko N, Tateshima S:First-in-man experience of the Versi Retriever in acute ischemic stroke. *Journal of Neurointerventional Surgery* 11:296–299,2019
33. Sakai N, Imamura H, Arimura K, Funatsu T, Beppu M, Suzuki K, Adachi H, Okuda T, Matsui Y, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K, Tani S, Adachi H, Sakai C, Kaneko N, Tateshima S:PulseRider–assisted coil embolization for treatment of intracranial bifurcation aneurysms:a single-center case series with 24-month follow-up. *World Neurosurg* 128:461–467,2019

34. Sugiu K, Hishikawa T, Murai S, Takahashi Y, Kidani N, Nishihiro S, Hiramatsu M, Date I, Satow T, Iihara K, Sakai N: Treatment Outcome of Intracranial Tumor Embolization in Japan: Japanese Registry of NeuroEndovascular Therapy 3 (JR-NET 3). *Neurol Med Chir(Tokyo)* 59:41-47,2019
35. Todo K, Sakai N, Imamura H, Yamagami H, Adachi H, Kono T, Kobayashi J, Yamamoto S, Morimoto T, Tani S, Kawamoto M, Sakaguchi M, Ueno Y, Kunieda T, Narumi O, Sakai C, Ishii A, Hoshi T, Koyanagi M, Mineharu Y, Ishikawa T, Kuramoto Y, Sato S, Ohara N, Arimura K, Nakamura H, Nishida T, Gon Y, Fujinaka T, Yoshiya K, Kishima H, Mochizuki H, Kohara N, KCGH-CSC Registry Investigators: Successful Reperfusion with Endovascular Therapy Has Beneficial Effects on Long-Term Outcome Beyond 90 Days. *Cerebrovasc Dis* 47:127-134,2019
36. Tokuda R, Yoshimura S, Uchida K, Yamada K, Satow T, Iihara K, Sakai N; Japanese Registry of NeuroEndovascular Therapy (JR-NET) investigators: Real-world Experience of Carotid Artery Stenting in Japan: Analysis of 8458 Cases from the JR-NET 3 Nationwide Retrospective Multi-center Registries. *Neurol Med Chir(Tokyo)* 59:117-125,2019
37. Toyoda K, Koga M, Yamamoto H, Foster L, Palesch YY, Wang Y, Sakai N, Hara T, Hsu CY, Itabashi R, Sato S, Fukuda-Doi M, Steiner T, Yoon BW, Hanley DF, Qureshi AI; ATACH- 2 Trial Investigators: Clinical Outcomes Depending on Acute Blood Pressure After Cerebral Hemorrhage. *Annals of Neurology* 85:105-113,2019
38. Toyoda K, Uchiyama S, Yamaguchi T, Easton JD, Kimura K, Hoshino H, Sakai N, Okada Y, Tanaka K, Origasa H, Naritomi H, Houkin K, Yamaguchi K, Isobe M, Minematsu K; CSPS.com Trial Investigators: Dual antiplatelet therapy using cilostazol for secondary prevention in patients with high-risk ischaemic stroke in Japan: a multicentre, open-label, randomised controlled trial. *Lancet Neurol* 18:539-548,2019
39. Tsuruta W, Matsumaru Y, Iihara K, Satow T, Sakai N, Katsumata M, Hosoo H, Sato M, Ito Y, Marushima A, Hayakawa M, Ishikawa E, Matsumura A: Clinical Characteristics and Endovascular Treatment for Spinal Dural Arteriovenous Fistula in Japan: Japanese Registry of Neuroendovascular Therapy 2 and 3. *Neurol Med Chir(Tokyo)* 59:492-497,2019
40. Uchida K, Yoshimura S, Sakai N, Yamagami H, Morimoto T; RESCUE-Japan Registry 2 Investigators: Sex Differences in Management and Outcomes of Acute Ischemic Stroke With Large Vessel Occlusion. *Stroke* 50:1915-1918,2019
41. Yamagami K, Kurogi R, Kurogi A, Nishimura K, Onozuka D, Ren N, Kada A, Nishimura A, Arimura K, Ido K, Mizoguchi M, Sakamoto T, Kayama T, Suzuki M, Arai H, Hagihara A, Iihara K; J-ASPECT Study Collaborators: The Influence of Age on the Outcomes of Traumatic Brain Injury: Findings from a Japanese Nationwide Survey (J-ASPECT Study-Traumatic Brain Injury). *World Neurosurg* 130:26-46,2019
42. Yamamoto H, Hamasaki T, Onda K, Nakayama Y, Ishii A, Oishi H, Sakai N, Satow T: Evaluating the safety and technical effectiveness of a newly developed intravascular 'flow isolator' stent for the treatment of intracranial aneurysms: study protocol for a first-in-human single-arm multiple-site clinical trial in Japan. *BMJ Open* 9:e020966,2019
43. Hirotohi Imamura, Nobuyuki Sakai, Tetsu Satow, Koji Iihara: Factors related to adverse events during endvascular coil embolization for ruptured cerebral aneurysms. *Journal of Neurointerventional Surgery* 12:605-609,2020
44. 堀内一史, 今村博敏, 鈴木啓太, 江原夏彦, 安積佑太, 金 基泰, 古川 裕, 坂井信幸: 経カテーテルの大動脈弁置換術施行後に生じた完全房室ブロックにより一過性脳虚血発作を繰り返したため、緊急で頸動脈ステント留置術を施行した1例. *脳血管内治療*, 2020

VI. 1.16 整形外科

1. Yasuda T, Matsunaga K, Hashimura T, Tsukamoto Y, Sueyoshi T, Ota S, Fujita S, Onishi E: Characterization of Femoral Head Destruction in the Early Stage of Rapidly Progressive Osteoarthritis of the Hip. *Austin Journal of Orthopedics & Rheumatology* 6:1081,2019
2. Masuda S, Onishi E, Ota S, Fujita S, Sueyoshi T, Hashimura T, Yasuda T: Vertebroplasty Using Allograft Bone Chips with Posterior Instrumented Fusion in the Treatment of Osteoporotic Vertebral Fractures with Neurological Deficits. *Spine Surg Relat Res* 3:249-254,2019
3. Azukizawa M, Ito H, Hamamoto Y, Fujii T, Morita Y, Okahata A, Tomizawa T, Furu M, Nishitani K, Kuriyama S, Nakamura S, Yoshitomi H, Nakatani T, Tsuboyama T, Hamaguchi M, Matsuda S, Yasuda T: The effects of well-rounded exercise program on systemic biomarkers related for cartilage metabolism. *Cartilage* 10:451-458,2019

- 橋村卓実, 藤田俊史, 露口和陽, 藤尾圭司: AO type C 橈骨遠位端骨折に対する術中牽引の有無における術後 X 線パラメーターの比較検討. 日本手外科学会雑誌 35: 1178-1183,2019
- 本田新太郎, 西口 滋, 山根逸郎, 安田 義: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎弓根スクリューによる後方固定術の治療成績. 中部整災誌 62: 37-38,2019
- 安田 義, 小柳圭一, 中垣美優, 原田惇平, 吉矢晋一, 市橋則明, 伊藤浩充: 中間報告. 女性アスリートにおける股関節回旋と膝前十字靭帯損傷との関連性に関する研究. 体力科学 68: 61,2019
- 藤田 暁, 藤田俊史, 橋村卓実, 大西英二郎, 西口 滋, 安田 義: キーンバック病に対してシリコン人工月状骨置換術施行後 35 年間追跡できた 1 例. 中部整災誌 62: 297-298,2019

VI. 1.17 形成外科

- Yasuhiro Katayama, Motoko Naitoh, Hiroshi Kubota, Satoko Yamawaki, Rino Aya, Toshihiro Ishiko, Naoki Morimoto: Chondroitin Sulfate Promotes the Proliferation of Keloid Fibroblasts Through Activation of the Integrin and Protein Kinase B Pathways. International Journal of Molecular Sciences 21:1955,2020

VI. 1.18 産婦人科

- 松林 彩, 高石 侑, 岡本葉留子, 奥立みなみ, 松岡秀樹, 門元辰樹, 増田望穂, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 中北 麦, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院で施行した妊娠中の付属器腫瘍手術の検討. 臨床婦人科産科 73: 605-610,2019
- 森 龍雄, 星野達二, 衣田隆俊, 藤井 優, 吉岡信也: 日本におけるトキソプラズマ感染, 食肉とペットの抗体陽性率. 産婦人科の実際 68: 1283-1288,2019
- 倉田靖桐, 木戸 晶, 吉岡信也: 【産婦人科診療 decision making のための MRI・CT】 卵巣の良性疾患および悪性腫瘍との鑑別診断 充実部と嚢胞部が混在する卵巣腫瘍の鑑別診断 c. 卵巣境界悪性腫瘍の画像診断 (解説 / 特集). 産婦人科の実際 68: 744-751,2019
- Maeda Y, Uematsu K, Matsubayashi A, Yoshioka S: Pulse granuloma presenting as a complex pelvic cyst. J Obstet Gynaecol Res 45: 1588-1592,2019
- 中北 麦, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山 瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当科における再発婦人科悪性腫瘍に対する腹腔鏡手術の後方視的検討. 日本産科婦人科内視鏡学会雑誌 35: 191-198,2019
- 富田裕之, 岡本葉留子, 門元辰樹, 柳川真澄, 増田望穂, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 中北 麦, 小林史昌, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 高度肥満の子宮体癌患者に対して腹腔鏡下手術を施行した 3 症例の検討. 天理医学紀要 22: 29-34,2019
- 林 信孝, 吉岡信也, 吉田晶子, 平見恭彦: 神戸市立医療センター中央市民病院における家族性腫瘍相談外来の立ち上げについて - 遺伝性腫瘍に対する診療体制構築の取り組み -. 神戸市立病院紀要 58: 74-79,2019

VI. 1.19 泌尿器科

- 川喜田睦司: 特集: ロボット支援を極めるーよりハイクラスな手技を求めるあなたにー ロボット支援腎部分切除術: 後腹膜アプローチ. 臨床泌尿器科 73:302-307 2019
- 川喜田睦司: 特集「腎がんに対する外科治療の現状と展望」低侵襲根治的腎摘除術の適応と問題点. 泌尿器科 11: 253-258 2020
- 松岡崇志, 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司, 山下大祐, 今井幸弘: 両側多発腎腫瘍を呈した Renal oncocytosis の 1 例. 泌尿器科紀要 65: 111-116,2019
- Suzuki I, Kubota M, Murata S, Makita N, Tohi Y, Kawakita M: A case of Ewing sarcoma family tumor of the kidney treated with robotic-assisted partial nephrectomy. Urol Case Rep 25:100900,2019
- Tohi Y, Murata S, Makita N, Suzuki I, Kubota M, Sugino Y, Inoue K, Kawakita M: Comparison of perioperative outcomes of robot-assisted partial nephrectomy without renorrhaphy: Comparative outcomes of cT 1 a versus cT 1 b renal tumors. Int J Urol 26:885-889,2019
- 土肥洋一郎, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 久保田聖史, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 当院における外傷性副腎損傷の検討. 泌尿器科紀要 65: 271-275,2019

7. 久保田聖史：RARCでの体腔内尿路変向術. 兵庫県泌尿器科医学会報 2019 15：41-44,2019
8. Goto T, Inoue T, Kobayashi T, Yamasaki T, Ishitoya S, Segawa T, Ito N, Shichiri Y, Okumura K, Okuno H, Kawakita M, Kanaoka T, Terada N, Mukai S, Sugi M, Kinoshita H, Kamoto T, Matsuda T, Ogawa O: Feasibility of laparoscopic adrenalectomy for metastatic adrenal tumors in selected patients: a retrospective multicenter study of Japanese populations. *Int J Clin Oncol* 2020 25:126-134,2020

VI. 1.20 耳鼻咽喉科

1. 大政遥香, 神崎 晶, 高橋真理子, 佐藤宏昭, 和田哲郎, 川瀬哲明, 内藤 泰, 村上信五, 原 晃, 小川 郁: Tinnitus handicap inventory 耳鳴苦痛度質問票改訂版の信頼性と妥当性に関する検討. *Audiology Japan* 62：607-614,2019
2. 内藤 泰: 高度難聴(補聴器、人工内耳). 今日の治療指針 2020年度, 福井次夫, 高木 誠 編, 1, 医学書院, 東京, 1614 - 1615,2020
3. 諸頭三郎, 内藤 泰: 人工聴覚器のマッピング. *耳鼻咽喉科・頭頸部外科* 92：58-65,2019
4. 内藤 泰: より低侵襲で明瞭な聞こえが期待される新型人工内耳が登場. 週刊朝日 MOOK 手術でわかるいい病院, 佐々木広人, 朝日新聞出版, 東京, 423, 2020
5. Kishimoto I, Yamazaki H, Naito Y, Moroto S, Yamazaki T: First implant-Induced changes in rostral brainstem impair second implant outcomes in sequential bilateral cochlear implant children with long inter-implant Delay. *Otology & Neurotology* 40:364-372,2019
6. Ideura M, Nishio S, Moteki H, Takumi Y, Miyagawa M, Sato T, Kobayashi Y, Ohyama K, Oda K, Matsui T, Ito T, Suzumura H, Nagai K, Izumi S, Nishiyama N, Komori M, Kumakawa K, Takeda H, Kishimoto Y, Iwasaki S, Furutake S, Ishikawa K, Fujioka M, Nakanishi H, Nakayama J, Horie R, Ohta Y, Naito Y, Kakudo M, Sakaguchi H, Kataoka Y, Kazuma S, Hato N, Nakagawa T, Tsuxhihashi N, Kanda Y, Kihara C, Tono T, Miyanoohara I, Ganaha A, Usami S: Comprehensive analysis of syndromic hearing loss patients in Japan. 9:11976,2019
7. Smieja DA, Dunkley BT, Papsin BC, Easwar V, Yamazaki H, Deighton M, Gordon KA: Interhemispheric auditory connectivity requires normal access to sound in both ears during development. *Neuroimage* 208:116455, 2020

VI. 1.21 頭頸部外科

1. 篠原尚吾, 竹林慎治, 濱口清海, 道田哲彦, 齊田浩二, 水野敬介, 日野 恵, 籠谷雄二, 藤本寛太: 甲状腺分化癌に対する FDG/PET-CT の適応と有用性について—甲状腺全摘 + アブレーション / 全身シンチを基本治療方針とした場合—. *耳鼻臨床* 112：597-602,2019
2. 濱口清海, 桂 裕紀, 田中美穂, 池上 聡, 水野敬介, 齊田浩二, 道田哲彦, 竹林慎治, 藤原敬三, 篠原尚吾, 内藤 泰: 口蓋扁桃摘出術後出血で血友病 A が発覚した 2 例. *耳鼻臨床* 112：747-751,2019
3. 竹林慎治, 篠原尚吾, 水野敬介, 齊田浩二, 道田哲彦, 濱口清海, 藤原敬三, 内藤 泰: 頭頸部手術における抗血栓薬服用の影響. *耳鼻臨床* 112; 11：769-774,2019
4. 篠原尚吾: 頭頸部がん専門医制度 10 年の検証—兵庫県の現状と一般病院としての当院の立場—. *頭頸部癌* 45：381-386,2019
5. 山田光一郎, 竹林慎治, 本多啓吾, 木村俊哉, 三浦 誠: 穿刺吸引細胞診にて鑑別困難であった甲状腺腫瘍の検討. *日本気管食道科学会誌* 71：15-20, 2020
6. Kojima T, Hori R, Tanaka S, Tamaki H, Asato R, Kitamura M, Tateya I, Shinoara S, Takebayashi S, Maetani T, Kitani Y, Kumabe Y, Ushio K, Ichimaru K, Honda K, Mizuta M, Yamada K, Omori K: A retrospective multicenter study of sublingual gland carcinoma in Japan. *Auris Nasus Larynx* [Epub Ahead of printing]
7. Morita S, Inoue T, Shimeno, Inokuma T, Takebayashi S, Shinohara S: Endoscopic subepithelial dissection for superficial pharyngeal cancer: A case series of 44 superficial cancers. *Endoscopy* 51:4,2019
8. Mizuno K, Shinohara K, Omura Y, Imamura H, Shigeyasu M, Michida T, Hamaguchi K, Takebayashi S, Fujiwara K, Naito Y: Vertebral artery injury caused by glass remnants in the neck: A case report. *Acta Oto-Laryngologica Case Reports* 4:30-34,2019
9. Hori R, Shinohara S, Kojima T, Kagoshima H, Kitamura M, Tateya I, Tamaki H, Kumabe Y, Asato R, Harada H, Kitani Y, Tsujimura T, Honda K, Ichimaru K, Omori K: Real-World outcomes and prognostic factors in patients receiving nivolumab therapy for recurrent or metastatic head and neck carcinoma. *Cancers* 11:1317,2019

10. Shinohara S, Funabiki K, Kikuchi M, Takebayashi S, Hamaguchi K, Hara S, Yamashita D, Imai Y, Mizoguchi A:Real-time imaging of head and neck squamous cell carcinomas using confocal micro-endoscopy and applicable dye: A preliminary study. *Auris Nasus Larynx* 47:668-675,2020

VI. 1.22 麻酔科

1. Daisuke Kawakami, Jiro Ito:Massive hemolysis due to Clostridium perfringens infection. *Intensive Care Med* Jan 46:122,2020
2. Kenjiro Ouchi, Daisuke Kawakami, Jiro Ito:Aquarium sign in acute mesenteric ischemia. *Intensive Care Med* Dec 45:1826,2019
3. 川上大裕, 藤谷茂樹: PICS の概念と今後の課題. *ICU と CCU* 43: 361-369,2019
4. 川上大裕:post-ICU ケア. *Hospitalist 総合内科のための集中治療*, 安宅一晃, 八重樫牧人, 1, MEDSi, 東京, 2019
5. 川上大裕:明日のアクションが変わる ICU 輸液力の法則, 1, 中外医学社, 東京, 2019

VI. 1.23 歯科口腔外科

1. Yamamoto S, Taniike N, Takenobu T:Application of an open position splint integrated with a reference frame and registration markers for mandibular navigation surgery. *Int J Oral Maxillofac Surg* 9:686-690,2019
2. Yamamoto S, Taniike N, Yamashita D, Takenobu T:Osteomyelitis of the mandible caused by late fracture following third molar extraction. *Case Rep Dent* 2019,2019
3. 山本信祐, 前田圭吾, 平井雄三, 首藤敦史, 上原京憲, 谷池直樹, 竹信俊彦:当科で加療した panfacial fracture 13 例の臨床的検討. *日本口腔顎顔面外傷学会誌* 18: 35-43,2019
4. 谷池直樹, 前田圭吾, 平井雄三, 山本信祐:ニコチンガムの不適切な使用によって生じたと考えられた難治性口腔粘膜潰瘍の 1 例. *日本口腔診断学会雑誌* 32: 216-219,2019

VI. 1.24 放射線診断科

1. Kurata Y, Nishio M, Kido A, Fujimoto K, Yakami M, Isoda H, Togashi K:Automatic segmentation of the uterus on MRI using a convolutional neural network. *Computers in biology and medicine* Volume 114, November 2019:103438,2019
2. Sakaguchi R, Kataoka M, Kanao S, Miyake KK, Nakamoto Y, Sugie T, Toi M, Mikami Y, Togashi K:Distribution pattern of FDG uptake using ring-type dedicated breast PET in comparison to whole-body PET/CT scanning in invasive breast cancer. *Ann Nucl Med*:33(8):570-578,2019
3. 倉田靖桐, 中尾恭子, 木戸 晶:癒着胎盤以外の胎盤疾患の MRI. *画像診断* 39 巻 7 号: 701-710,2019
4. 倉田靖桐, 木戸 晶, 吉岡信也:卵巣境界悪性腫瘍の画像診断. *産婦人科の実際* 68 巻 7 号: 744-751,2019

VI. 1.25 病理診断科

1. Asakawa T, Asou M, Hara S, Ehara T, Araki M:Fibrillary Glomerulopathy with a High Level of Myeloperoxidase-ANCA: A Case Report. *Case Rep Nephrol* 2020:6343521,2020
2. Hyodo T, Kono K, Nishi S, Itoh T, Hara S:An Incidental Diagnosis of Microscopic Renal Angiomyolipoma Completely Excised on Renal Biopsy: A Case Report. *Am J Case Rep* 21:e921353,2020
3. Shinohara S, Funabiki K, Kikuchi M, Takebayashi S, Hamaguchi K, Hara S, Yamashita D, Imai Y, Mizoguchi A:Real-time imaging of head and neck squamous cell carcinomas using confocal micro-endoscopy and applicable dye: A preliminary study. *Auris Nasus Larynx* 47:668-675,2020
4. Kogo M, Fujimoto D, Hosoya K, Nagata K, Nakagawa A, Tachikawa R, Yamashita D, Kitamura Y, Imai Y, Tomii K:Tumour content ratio matters for detecting epidermal growth factor receptor mutation by cobas test in small biopsies; a retrospective study. *BMC Cancer* 20:104, 2020
5. Saito T, Matsunaga A, Fukunaga M, Nagahama K, Hara S, Muso E:Apolipoprotein E-related glomerular disorders. *Kidney Int* 97:279-288, 2020
6. Yamamoto S, Taniike N, Yamashita D, Takenobu T:Osteomyelitis of the Mandible Caused by Late Fracture following Third Molar Extraction. *Case Rep Dent* 5421706,2019

7. Shimizu H, Hara S, Nishioka H: Disseminated cryptococcosis with granuloma formation in idiopathic CD4 lymphocytopenia. *J Infect Chemother* 26:257-260, 2020
8. Shishido Y, Aoyama A, Hara S, Hamakawa H, Takahashi Y: Tumor-to-Tumor Metastasis: Pulmonary Carcinoid Metastasizing to Solitary Fibrous Tumor. *Am J Case Rep* 20:1205-1209, 2019
9. Hashida H, Kondo M, Yamashita D, Hara S, Mizuno R, Mizumoto M, Kobayashi H, Kaihara S: Transperineal abdominoperineal resection for anorectal melanoma: A case report. *Int J Surg Case Rep* 61:214-217, 2019
10. Fujikura K, Yamashita D, Sakamoto R, Ishikawa T, Chuang SS, Itoh T, Imai Y: Intravascular NK/T-cell lymphoma: clinicopathological and integrated molecular analysis of two cases provides a clue to disease pathogenesis. *J Clin Pathol* 72:642-646, 2019
11. Shishido Y, Aoyama A, Hara S, Hamakawa H, Takahashi Y: Tumor-to-Tumor Metastasis: Pulmonary Carcinoid Metastasizing to Solitary Fibrous Tumor. *Am J Case Rep* 20:1205-1209, 2019
12. Akita T, Mori S, Onishi A, Hara S, Yamada H, Nagasawa A, Imada H, Shimoura H, Ooka J, Tanaka H, Hirata KI: Successful Triple Combination Immunosuppressive Therapy with Prednisolone, Cyclosporine, and Mycophenolate Mofetil to Treat Recurrent Giant Cell Myocarditis. *Intern Med* 58:2035-2039, 2019
13. Kawachi H, Fujimoto D, Yamashita D, Fukuoka J, Kitamura Y, Hosoya K, Sato Y, Nagata K, Nakagawa A, Tachikawa R, Date N, Sakanoue I, Hamakawa H, Takahashi Y, Tomii K: Association Between Formalin Fixation Time and Programmed Cell Death Ligand 1 Expression in Patients With Non-Small Cell Lung Cancer. *Anticancer Res* 39:2561-2567, 2019
14. Nakanishi K, Okamoto T, Nozu K, Hara S, Sato Y, Hayashi A, Takahashi T, Nagano C, Sakakibara N, Horinouchi T, Fujimura J, Minamikawa S, Yamamura T, Rossanti R, Nagase H, Kaito H, Ariga T, Iijima K: Pair analysis and custom array CGH can detect a small copy number variation in COQ6 gene. *Clin Exp Nephrol* 23:669-675, 2019
15. Kato T, Ushioji Y, Yokoyama H, Hara S, Matsunaga A, Muso E, Saito T: A case of apolipoprotein E2/2 showing non-immune membranous nephropathy-like glomerular lesions with foamy changes. *CEN Case Rep* 8:106-111, 2019
16. Katoh D, Ochi Y, Hiramoto N, Morita M, Yabushita T, Shimomura Y, Yamashita D, Ono Y, Yoshioka S, Yonetani N, Matsushita A, Imai Y, Hashimoto H, Ishikawa T: Parvovirus B19 infection in adult patients after allogeneic stem cell transplantation: our experience of five cases and literature review. *Bone Marrow Transplant* 55:653-656, 2020
17. Satou A, Tabata T, Miyoshi H, Kohno K, Suzuki Y, Yamashita D, Shimada K, Kawasaki T, Sato Y, Yoshino T, Ohshima K, Takahara T, Tsuzuki T, Nakamura S: Methotrexate-associated lymphoproliferative disorders of T-cell phenotype: clinicopathological analysis of 28 cases. *Mod Pathol* 32:1135-1146, 2019
18. Ogata T, Shimomura Y, Yamashita D, Imai Y, Ishikawa T: Substantial improvement in immune thrombocytopenic purpura associated with T-cell/histiocyte-rich B-cell lymphoma treated with chemotherapy: A case report. *Mol Clin Oncol* 10:441-445, 2019
19. Ito T, Tojo N, Takashiro K, Yoshimura K, Yamamoto K, Hara S, Takesue K, Yoshimatsu N, Obata T, Takahara N: IgM-mediated Warm Autoimmune Hemolytic Anemia: An Autopsy Report. *Intern Med* 58:999-1002, 2019
20. Hayashi K, Kikuchi M, Imai Y, Yamashita D, Hino M, Ito K, Shimizu K, Harada H, Shinohara S: Clinical Value of Fused PET/MRI for Surgical Planning in Patients With Oral/Oropharyngeal Carcinoma. *Laryngoscope* 130:367-374, 2020
21. Kitamoto H, Yamashita D, Inokuma T: A Rare Tumor Disseminated to the Gastrointestinal Tract After Treatment for HIV-Associated Lymphoproliferative Disease. *Gastroenterology* 156:2136-2138, 2019
22. 北村 悟, 西村 透, 山下大祐, 梶本和義, 岡村明治, 今井幸弘: 盲腸穿孔で発症した高齢者 Epstein Barr virus positive diffuse large B-cell lymphoma NOS の 1 例. *診断病理* 37:20-25, 2020
23. 細谷和貴, 立川 良, 原 重雄, 富井啓介. 【呼吸器希少疾患 update】 血管内リンパ腫. *呼吸器内科* 37: 183, 2020
24. 原 重雄: 【尿細管間質障害 - 最新の知見】 薬剤・金属に伴う尿細管間質障害 カルシニューリン阻害薬. *腎と透析* 87: 259-263, 2019
25. 中村桃子, 吉岡 聡, 山下大祐, 原 重雄, 石川隆之: Ibrutinib により自己免疫性血球減少症が改善した単クローン性免疫グロブリン沈着症合併慢性リンパ性白血病 *臨床血液* 60: 1449-1454, 2019

VI. 1.26 放射線治療科

1. Yamashita M, Takahashi R, Kokubo M, Takayama K, Tanabe H, Sueoka M, Ishii M, Tachibana H: A feasibility study of independent verification of dose calculation for Vero 4 DRT. *Medical Dosimetry* 44:20-25, 2019
2. Akamatsu H, Nakamura K, Ebara T, Inaba K, Itasaka S, Jingu K, Kosaka Y, Murai T, Nagata K, Soejima T, Takahashi S, Toyoda T, Toyoshima S, Nemoto K, Akimoto T: Organ-preserving approach via radiotherapy for small cell carcinoma of the bladder: an analysis based on the Japanese Radiation Oncology Study Group (JROSG) survey. *J Radiat Research* 60:509-516, 2019
3. Hosoya K, Fujimoto D, Kawachi H, Sato Y, Kogo M, Nagata K, Nakagawa A, Tachikawa R, Hiraoka S, Kokubo M, Tomii K: Ineligibility for the PACIFIC Trial in Unresectable Stage III Non-Small Cell Lung Cancer Patients. *Cancer Chemother Pharmacol* 84:275-280, 2019
4. Iizuka Y, Katagiri T, Ogura K, Mizowaki M: Comparison between the different doses of radioactive iodine ablation prescribed in patients with intermediate-to-high-risk differentiated thyroid cancer. *Annals of Nuclear Medicine* 33:495-501, 2019
5. Uto M, Ogura K, Mukumoto N, Miyabe Y, Nakamura M, Hirashima H, Katagiri T, Takehana K, Hiraoka M, Mizowaki T: Single-isocenter volumetric-modulated Dynamic WaveArc therapy for two brain metastases. *Jpn J Radiol* 37:619-625, 2019
6. Iizuka Y, Nakamura M, Kozawa S, Mitsuyoshi T, Matsuo Y, Mizowaki T: Tumour volume comparison between 16-row multi-detector computed tomography and 320-row area-detector computed tomography in patients with small lung tumours treated with stereotactic body radiotherapy: Effect of respiratory motion. *Eur J Radiol* 117:120-125, 2019
7. Sueoka M, Sawada A, Tanabe H, Okada Y, Taniuchi S, Yamane Y, Okuuchi N, Takayama K, Kokubo M: Dosimetric and positional accuracy verification of dynamic tumor tracking IMRT (DTT IMRT) irradiation method using log file analysis. *International Journal of Medical Physics, Clinical Engineering and Radiation Oncology* 8:211-224, 2019

VI. 1.27 救急科

1. 伊原崇晃, 有吉孝一: 116 動物咬傷は高圧洗浄しなくてはいけない? . 小児のマイナートラブルハンドブック, 市川光太郎 編集, 長村敏生 編集協力, 中外医学社, 東京, 228-229, 2019
2. 伊原崇晃, 有吉孝一: 117 縫合したら抗菌薬の予防投与は必要? . 小児のマイナートラブルハンドブック, 市川光太郎 編集, 長村敏生 編集協力, 中外医学社, 東京, 228-229, 2019
3. 有吉孝一: 咬傷・虫刺傷. 小児科 第60巻第5号 4月臨時増刊号, 小児科編集委員会編. 小児一次救急マニュアル, 金原出版株式会社, 東京, 834 (392) -841 (399), 2019
4. 柳井真知: 重篤感染症・SIRS/sepsis. 内科医小児科研修医のための小児救急治療ガイドライン, 市川光太郎, 天本正乃 編集, 改訂第4版, 診断と治療社, 52-60, 2019
5. 有吉孝一: 溺水. 内科医小児科研修医のための小児救急治療ガイドライン, 市川光太郎 天本正乃 編集, 改訂第4版, 診断と治療社, 419-422, 2019
6. 水 大介, 柳井真知, 有吉孝一: アンダートリアージを回避せよ! . アセスメントスキルがぐんぐん高まる臨床推論トレーニングブック, 金芳堂, 2019
7. 水 大介: 縫合. こどもの外科救急, 鉄原健一, 日本医事新報社, 2019
8. 有吉孝一, 柳井真知: 躓く前に跳べ! 救急的人生相談. エマログ, Vol32 No 2, メディカ出版, 121 (281) - 123 (283), 2019
9. 有吉孝一, 柳井真知: 躓く前に跳べ! 救急的人生相談. エマログ, Vol32 No 3, メディカ出版, 133 (445) - 135 (447), 2019
10. 有吉孝一, 柳井真知: 躓く前に跳べ! 救急的人生相談. エマログ, Vol32 No 4, メディカ出版, 145 (617) - 147 (619), 2019
11. 有吉孝一, 柳井真知: 躓く前に跳べ! 救急的人生相談. エマログ, Vol32 No 5, メディカ出版, 125 (765) - 127 (767), 2019
12. 有吉孝一, 柳井真知: 躓く前に跳べ! 救急的人生相談. エマログ, Vol32 No 6, メディカ出版, 146 (938) - 147 (939), 2019

13. Junichiro Ohira, Hajime Yoshimura, Takeshi Morimoto, Koichi Ariyoshi, Nobuo Kohara: Factors associated with the duration of the postictal state after a generalized Convulsion. *European Journal of Epilepsy* 65:101-105, 2019
14. Hiroki Kinoshita, Machi Yanai, Koichi Ariyoshi, Motozumi Ando and Ryo Tamura: A patient with metformin-associated lactic acidosis successfully treated with continuous renal replacement therapy: a case report. *Journal of Medical Case Reports* 13:371, 2019
15. Machi Yanai, Koichi Ariyoshi: Two Cardiac Arrests that Occurred after the Administration of Sugammadex: A Case of Kounis Syndrome. *Case Reports in Emergency Medicine* 2020:doi.org/10.1155/2020/6590101, 2020

VI. 1.28 総合内科

1. Nishikubo M, Kanamori M, Nishioka H: Levofloxacin-Associated Neurotoxicity in a Patient with a High Concentration of Levofloxacin in the Blood and Cerebrospinal Fluid. *Antibiotics (Basel)* 8:78, 2019
2. Shimizu H, Hara S, Nishioka H: Disseminated cryptococcosis with granuloma formation in idiopathic CD4 lymphocytopenia. *J Infect Chemother* 26:257-260, 2020
3. Nishioka H, Shimizu H: Herpes Zoster presenting with systemic symptoms prior to prodromal pain. *Journal of Hospital General Medicine* 2:54-55, 2020
4. Tatebe M, Doi A, Nasu S, Hama N, Nomoto R, Arakawa E, Izumiya H, Nishioka H: A Case of *Vibrio cholerae* Infection in Japan Not Associated with Overseas Travel. *Internal Medicine* 58:2581-2583, 2019
5. Harada S, Aoki K, Yamamoto S, Ishii Y, Sekiya N, Kurai H, Furukawa K, Doi A, Tochitani K, Kubo K, Yamaguchi Y, Narita M, Kamiyama S, Suzuki J, Fukuchi T, Gu Y, Okinaka K, Shiiki S, Hayakawa K, Tachikawa N, Kasahara K, Nakamura T, Yokota K, Komatsu M, Takamiya M, Tateda K, Doi Y: Clinical and Molecular Characteristics of *Klebsiella pneumoniae* Isolates Causing Bloodstream Infections in Japan: Occurrence of Hypervirulent Infections in Health Care. *J Clin Microbiol* 57:e01206-19, 2019
6. Hayakawa K, Nakano R, Hase R, Shimatani M, Kato H, Hasumi J, Doi A, Sekiya N, Nei T, Okinaka K, Kasahara K, Kurai H, Nagashima M, Miyoshi-Akiyama T, Kakuta R, Yano H, Ohmagari N: Comparison between IMP carbapenemase-producing Enterobacteriaceae and non-carbapenemase-producing Enterobacteriaceae: a multicentre prospective study of the clinical and molecular epidemiology of carbapenem-resistant Enterobacteriaceae. *J Antimicrob Chemother* 75:697-708, 2020
7. Iwata K, Doi A, Oba Y, Matsuo H, Ebisawa K, Nagata M, Nishimura S, Yoshimura K, Masuda A, Shiomi H, Kodama Y: Shortening antibiotic duration in the treatment of acute cholangitis: rationale and study protocol for an open-label randomized controlled trial. *Trials* 21:97, 2020
8. Shimizu H, Nishioka H: Adult-onset Still's disease accompanied by erythema multiforme presenting as an atypical rash. *Scand J Rheumatol* 31:1-2, 2020
9. 竹中麻理子, 岩本昌子, 東別府直紀, 西岡弘晶: 空腸ストーマを有する短腸症候群になった血液透析患者の水分とナトリウム管理を行った2症例. 学会誌 JSPEN 1:86-91, 2019
10. 茨木まどか, 東別府直紀, 西岡弘晶: 盲端となった胃管へ半固形栄養剤を投与し栄養管理を行った食道がん切除後の1例. 学会誌 JSPEN 1:187-193, 2019
11. 鈴木一生, 久保田聖史, 上原慶一郎, 志水隼人, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木良輔, 土肥洋一郎, 山下大祐, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 陰嚢部から全身症状に進展した結節性多発動脈炎の1例. 泌尿器科紀要 65:127, 2019
12. 西岡弘晶: 内科医として“足”を診る common な足病変 update 「痛風」. 内科 124:2321-2324, 2019
13. 黒田浩一: 目で見るトレーニング「VGSによる髄膜炎」. *Medicina* 57:593, 2020
14. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第9回 グラム陽性球菌編②. *J-IDEO* 3:414-422, 2019
15. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第9回 グラム陽性球菌編③. *J-IDEO*, 3, 中外医学社, 東京, 573-581, 2019
16. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第89回 グラム陽性球菌編④. *J-IDEO*, 3, 中外医学社, 東京, 692-698, 2019
17. 黒田浩一: 研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える? 第9回 グラム陽性球菌編⑤. *J-IDEO*, 3, 中外医学社, 東京, 924-931, 2019

18. 黒田浩一：研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える？第9回 グラム陽性球菌編⑥. J-IDEO, 4, 中外医学社, 東京, 30-36, 2020
19. 黒田浩一：研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える？第9回 グラム陽性球菌編⑦. J-IDEO, 4, 中外医学社, 東京, 276-284, 2020
20. 黒田浩一：研修医のための微生物レクチャーシリーズ グラム染色所見と培養結果からどう考える？第9回 グラム陽性球菌編②. J-IDEO, 3, 中外医学社, 東京, 414-422, 2019
21. 黒田浩一：フルオロキノロン系抗菌薬. KANSEN JOURNAL, 2019
22. 黒田浩一：インフルエンザ. G ノート増刊, 6, 羊土社, 東京, 103-119, 2019
23. 黒田浩一：かぜの診かた. 外来で診る感染症, 具芳明・大曲貴夫編, 日本医事新報社, 2020
24. 黒田浩一：好中球減少時の発熱へのアプローチ. 病院内/免疫不全関連感染症診療の考え方と進め方 第2集, IDATEN セミナーテキスト編集委員会編, 医学書院, 東京, 2019
25. 黒田浩一：亀田流 市中肺炎診療レクチャー 感染症医と呼吸器内科医の視点から. 中外医学社, 東京, 2019
26. 貝田 航：悩むケースに立ち向かう！臨床推論のススメ方～全国 GIM カンファレンスより～第6回 穴は ぜんぶ診たか？. 内科 125: 311-319, 2020
27. 志水隼人：症例 33. レジデントノート増刊 臨床写真図鑑, 21, 羊土社, 東京, 2019
28. 志水隼人：症例 34. レジデントノート増刊 臨床写真図鑑, 21, 羊土社, 東京, 2019
29. 金森真紀：糖代謝の生理学 糖の消化・吸収からエネルギー利用・貯蔵の流れに沿って. Medicina 57, 2020

VI. 1.29 看護部

1. 新改法子, 森本 剛, 矢野久子, 小山忠明：開心術後の手術部位感染発生に関するリスク因子の検討. 日本心臓血管外科学会雑誌 48: 161-169, 2019

VI. 1.30 薬剤部

1. Ando M, Nakasako S, Ariyoshi K, Yamaguchi M, Sakizono K, Minowa K, Fukushima S, Sugioka N, Hashida T: Re-elevation of serum amlodipine level after lipid emulsion therapy in an overdose case. J Clin Pharm Ther 44: 970-973, 2019
2. Takase T, Ikesue H, Nakagawa H, Kinoshita M, Muroi N, Kitai T, Furukawa Y, Hashida T: Effect of the number of dose adjustment factors on bleeding risk in patients receiving 30 mg/day edoxaban. J Clin Pharm Ther 45: 298-302, 2020
3. Takase T, Ikesue H, Nakagawa H, Kinoshita M, Muroi N, Kitai T, Furukawa Y, Hashida T: Risk factors for major bleeding and clinically relevant non-major bleeding in Japanese patients treated with edoxaban. Biol Pharm Bull 43: 458-462, 2020
4. Nakao S, Hasegawa S, Shimada K, Mukai R, Tanaka M, Matsumoto K, Uranishi H, Masuta M, Ikesue H, Hashida T, Iguchi K, Nakamura M: Evaluation of anti-infective-related Clostridium difficile-associated colitis using the Japanese Adverse Drug Event Report database. Int J Med Sci 17: 921-930, 2020
5. Ando M, Hirabatake M, Yasui H, Fukushima S, Sugioka N, Hashida T: A simplified method for therapeutic drug monitoring of mitotane by gas chromatography-electron ionization-mass spectrometry. Biomed Chromatogr 34: e4776, 2020
6. Ando M, Nishioka H, Nakasako S, Kuramoto E, Ikemura M, Kamei H, Sono Y, Sugioka N, Fukushima S, Hashida T: Observational retrospective single-centre study in Japan to assess the clinical significance of serum daptomycin levels in creatinine phosphokinase elevation. J Clin Pharm Ther 45: 290-297, 2020
7. 増本憲生, 久井裕美子, 細見健悟, 杉田裕貴, 小牧佐知子, 稲田智子, 大槻裕朗, 中川雄介：冠動脈ステント留置を目的とする短期入院糖尿病患者における入院時ラグルチド自己注射導入の有用性に関する検討. くすりと糖尿病 8: 299-306, 2019
8. 池末裕明：血管新生阻害薬の術前休薬. 月刊薬事 臨時増刊号 61: 2627-2628, 2019
9. 池末裕明：がん治療による口内炎対策. 月刊薬事 臨時増刊号 61: 2629-2630, 2019
10. 池末裕明：G-CSF 製剤の投与方法. 月刊薬事 臨時増刊号 61: 2631-2632, 2019

11. 山本晴菜：病院薬剤師が肝炎 Co として活躍。肝炎医療 Co これだけは～基礎からすべての職種がひと目で分かる強みを活かした活動事例まで～. 厚生労働科学研究費補助金「肝炎ウイルス検査受検から受診、受療に至る肝炎対策の効果検証と拡充に関する研究」(代表研究者：江口有一郎) 2019 年度報告書, 2019
12. 登佳寿子：ACE 阻害薬・ARB. HEART nursing 32 : 6-12,2019
13. 柴谷直樹、室井延之：神戸アイセンター病院薬剤部の紹介とロービジョン患者への服薬指導の取り組み. 全国自治体病院協議会雑誌 58 : 611-614,2019
14. 室井延之：糖尿病治療の評価と合併症・副作用マネジメント 糖尿病における食事・運動療法の評価とその対応. 薬局 70 : 1583-1587,2019
15. 室井延之：輸液・栄養療法で用いるデバイスの基礎知識. 薬局 70 : 1728-1732,2019
16. 山本晴菜：抗 HCV 薬. 医療現場のための薬物相互作用リテラシー, 大野能之, 樋坂章博(編集), 南山堂, 東京, 184-188,2019
17. 三沖大介：ハイリスク薬の指導記録. シンプルでわかりやすい薬歴・指導記録の書き方, 寺沢匡史(編著), 南山堂, 東京, 90-101,2019
18. 池末裕明：VEGF 経路阻害薬(血管新生阻害薬：高分子薬). 整理して理解する抗がん薬, 濱 敏弘(監修), じほう, 東京, 138-148,2019
19. 榎原洋子, 池末裕明：Lesson 8 便秘に対応する. 基本的知識と症例から学ぶ がん緩和ケアの薬の使い方, 岡本禎晃, 荒井幸子(編集), じほう, 東京, 112-119,2019
20. 池末裕明, 橋田 亨：抗悪性腫瘍薬. 治療薬ハンドブック 2020, 高久史磨(監修), じほう, 東京, 1008-1108,2020
21. 池末裕明：処方箋に基づく医薬品の調製.(4)ケミカルハザード. 薬学生のための病院・薬局実務実習テキスト 2020 年版, 薬学教育協議会 病院・薬局実務実習近畿地区調整機構(監修), じほう, 東京, 84-86,2020

VI. 1.31 臨床検査技術部

1. 松下隆史：ENoG (Electro Neuro Graphy) の手技とコツ. Medical Technology, 47, 医歯薬出版, 東京, 1130-1135,2019
2. 山本 剛：Special Topics 令和元年のグラム染色論. J-IDEO 3,480-495,2019
3. 山本 剛：Clinical Picture Neisseria meningitidis. 日本臨床微生物学雑誌, 巻頭, 2019
4. 山本 剛：感染症の初期治療に役立つ塗抹検査法とその解釈 一般細菌を目的とした検体別塗抹検査法. 髄液. 臨床と微生物 46 : 15-520,2019
5. 山本 剛：臨床写真図鑑 第 1 章 感染症 20.15 歳女子 発熱を伴う腹痛レジデントノート 21 : 51-52,2019
6. 丸岡隼人, 白石祐美：悪性リンパ腫やリンパ性白血病の診断において, クロナリティを判断するためのサザンブロット法と PCR 法の使い分けを教えてください. 検査と技術, 48, 医学書院, 56-60,2020
7. 佐々木一朗：糖尿病性末梢神経障害でなぜ神経伝導検査の F 波検査が重要なのですか?. 検査と技術, 48, 医学書院, 東京, 69-73,2020
8. 山本 剛：グラム染色道場 2 - 菌も病気も染め分けろ -. 日本医事新報社, 1, ラン印刷社, 東京, 2020
9. 山本 剛：第 5 章検査材料 抗酸菌検査ガイド 2020. 日本結核・非結核性抗酸菌症学会, 小立鉦彦 編, 1, 南光堂, 東京, 29-32,2020

VI. 1.32 放射線技術部

1. Wataru Okada, Masao Tanooka, Keisuke Sano, Mayuri Shibata, Hiroshi Doi, Masayoshi Miyazaki, Ryuta Nakahara, Masaki Sueoka, Hitomi Suzuki, Masayuki Fujiwara, Taisuke Inomata, Koichiro Yamakado: Couch modeling optimization for tomotherapy planning and delivery, Journal of applied clinical medical physics 20: 114-121,2019
2. Masaki Sueoka, Akira Sawada, Hiroaki Tanabe, Yuki Okada, Sho Taniuchi, Noboru Okuuchi, Masao Tanooka, Masaki Kokubo, Koichiro Yamakado: Verification of Dosimetric and Positional Accuracy of Dynamic Tumor Tracking Intensity Modulated Radiation Therapy. International Journal of Medical Physics, Clinical Engineering and Radiation Oncology 8 : 211-224,2019

3. Masayoshi Miyazaki, Shingo Ohira, Yoshihiro Ueda, Masaru Isono, Masayuki Fujiwara, Masao Tanooka, Wataru Okada, Ryuta Nakahara, Masaki Sueoka, Hitomi Suzuki, Teruki Teshima, Koichiro Yamakado: Oesophageal Cancer: Conformal Radiotherapy vs. Hybrid-VMAT Technique With Two Different Treatment Planning Systems. *In vivo* 34:331-337,2020
4. Hayashi K, Kikuchi M, Imai Y, Yamashita D, Hino M, Ito K, Shimizu K, Harada H, Shinohara S: Clinical Value of Fused PET/MRI for Surgical Planning in Patients with Oral/Oropharyngeal Carcinoma. *The Laryngoscope* 130:doi: 10.1002/lary.27911,2019

VI. 1.33 リハビリテーション技術部

1. Shimogai T, Izawa KP, Kawada M, Kuriyama A: Factors Affecting Discharge to Home of Medical Patients Treated in an Intensive Care Unit. *Int J Environ Res Public Health* 16:4324,2019
2. 大塚脩斗, 下雅意崇亨, 下出 優, 森沢知之, 玉木 彰, 小山忠明, 古川 裕, 北井 豪, 岩田健太郎, 江原夏彦: 経カテーテル大動脈弁植込術 (TAVI) を試行した患者における術後の身体活動に影響する要因の検討. *理学療法兵庫* 25: 58-59,2019
3. 浅井康紀, 大庭順平, 崎本史生, 藤原瑞穂, 岩田健太郎: 集中治療室における作業療法実践に関する探索的研究. *神戸学院総合リハビリテーション研究* 15: 17-25, 2020
4. 阿波邦彦, 江越正次郎, 田平一行, 野崎忠幸, 木村智子, 小川真人, 北村匡大, 下雅意崇亨, 笠原西介, 井澤和夫, 野村卓生, 河野健一, 河辺信秀, 渡部祥輝, 音部雄平, 平野康之, 堀田千晴, 堀田一樹, 平木幸治, 加藤祐司, 鈴木昌幸, 池田聖児, 島 雅晴, 島崎寛将, 谷口小百合, 井出 宏, 森尾裕志: 循環器疾患—知識・検査データ 循環器疾患における薬物療法. *PT・OT 入門 イラストでわかる内部障害*, 上杉雅之 監修, 堀江淳 編, 医歯薬出版, 東京, 2019
5. 岩田健太郎, 本田明広, 北井 豪: 急性期病院における予防と地域との連携, *PT ジャーナル*, 医学書院, 東京, 2019
6. Michitaka KATO, PT, Ph.D, Masakazu SAITOH, PT, Ph.D, Tomonori KAWAMURA, PT, MSc, Kento IWATA, PT, MSc, Koji SAKURADA, PT, Ph.D, Daisuke OKAMURA, PT, Masayuki TAHARA, PT, Satoshi YUGUCHI, PT, Ph.D, Kenta KAMISAKA, PT, Ph.D., Keisuke OURA, PT, MSc, Yuji MORI, PT, Tomoyuki MORISAWA, PT, Ph.D, Tetsuya TAKAHASHI, PT, Ph.D: Postoperative atrial fibrillation is associated with delayed early rehabilitation after heart valve surgery. a multicenter study 22: 1-8,2019
7. Ishihara K, Izawa KP, Kitamura M, et al: Influence of mild cognitive impairment on activities of daily living in patients with cardiovascular disease. *Heart Vessels* 34:1944-1951,2019
8. Ishihara K, Izawa KP, Kitamura M, et al: Serum concentration of dihomo- γ -linolenic acid is associated with cognitive function and mild cognitive impairment in coronary artery disease patients. *Prostaglandins Leukot Essent Fatty Acids* 158:102038,2020
9. Kojima S, Abe T, Morishita S, et al: Acute moderate-intensity exercise improves 24-h sleep deprivation-induced cognitive decline and cerebral oxygenation: A near-infrared spectroscopy study. *Respir Physiol Neurobiol* 274:103354,2020

VI. 1.34 栄養管理部

1. 竹中麻理子, 岩本昌子, 東別府直紀, 西岡弘晶: 空腸ストーマを有する短腸症候群になった血液透析患者の水とナトリウム管理を行った2症例. *学会誌 JSPEN* 1: 86-91,2019
2. 茨木まどか, 東別府直紀, 西岡弘晶: 盲端となった胃管へ半固形栄養剤を投与し栄養管理を行った食道がん切除後の1例. *学会誌 JSPEN* 1: 187-193,2019
3. 磯村 望, 高津絵梨香, 山本伊都香, 岩倉敏夫: SGLT 2 阻害薬による食行動の変化と治療効果についての検討. *糖尿病* 63: 110-118, 2020

VI. 2 西市民病院

VI. 2.1 消化器内科

1. 板井良輔, 池田英司, 三上 栄, 植村久尋, 星 充, 丸尾正幸, 安村聡樹, 高田真理子, 住友靖彦, 山下幸政: 大腸に Multiple lymphomatous polyposis を認めた全身性濾胞性リンパ腫の 1 例. *Gastroenterological Endoscopy* 61 : 1561-1568,2019
2. 高田真理子, 河南智晴: 回盲部・大腸・肛門 ウイルス感染症 単純性ヘルペス腸炎 消化器内視鏡. *消化管感染症のすべて* 31 : 276-279,2019

VI. 2.2 呼吸器内科

1. Yamazoe M, Tomioka H, Wada T: Impact of urinary tract infection on nursing and healthcare-associated pneumonia. *J Infect Chemother* 25:950-954,2019
2. Morita M, Tomioka H: Case report Infective endocarditis presenting as diffuse alveolar hemorrhage: A case report. *Respiratory Medicine Case Reports* 28:100931,2019
3. Morita M, Tamiya M, Fujimoto D, Tamiya A, Suzuki H, Hirano K, Fukuda Y, Yokoyama T, Kominami R, Kanazu M, Uchida J, Hara S, Yamashita S, Tomioka H: Prediction of patients with a tumor proportion score > 50% who do not respond to first-line monotherapy with pembrolizumab. *BMC Cancer* 20:93,2020
4. Wada T, Tomioka H: Clinical features and outcomes of idiopathic pulmonary fibrosis patients hospitalized for pneumonia. *J Respir Med Lung Dis* 5:1049,2020
5. Tomioka H, Wada T, Yamazoe M, Yoshizumi Y, Nishio C, Ishimoto G: Ten-year experience of smoking cessation in a single center in Japan. *Respir Investig* 57:380-387,2019
6. Edahiro R, Kanazu M, Kurebe H, Mori M, Fujimoto D, Taniguchi Y, Suzuki H, Hirano K, Yokoyama T, Morita M, Fukuda Y, Uchida J, Makio T, Tamiya M: Clinical outcomes in non-small cell lung cancer patients with an ultra-high expression of programmed death ligand- 1 treated using pembrolizumab as a first-line therapy: A retrospective multicenter cohort study in Japan. *PLoS One* 14:e0220570,2019
7. Fujimoto D, Yomota M, Sekine A, Morita M, Morimoto T, Hosomi Y, Ogura T, Tomioka H, Tomii K: Nivolumab for advanced non-small cell lung cancer patients with mild idiopathic interstitial pneumonia: A multicenter, open-label single-arm phase II trial. *Lung Cancer* 134:274-278,2019
8. Fujimoto D, Yoshioka H, Kataoka Y, Morimoto T, Hata T, Kim YH, Tomii K, Ishida T, Hirabayashi M, Hara S, Ishitoko M, Fukuda Y, Hwang MH, Sakai N, Fukui M, Nakaji H, Morita M, Mio T, Yasuda T, Sugita T, Hirai T: Pseudoprogression in Previously Treated Patients with Non-Small Cell Lung Cancer Who Received Nivolumab Monotherapy. *J Thorac Oncol* 14:468- 474,2019
9. Ikeda S, Yoshioka H, Kaneda T, Yokoyama T, Niwa T, Sone N, Ishida T, Morita M, Tomioka H, Komaki C, Hirabayashi M, Hasegawa Y, Noguchi T, Nakano Y, Sakaguchi C, Yoshimura K, Hirai T: A phase II study of cisplatin plus gemcitabine followed by maintenance gemcitabine for advanced squamous non-small-cell lung cancer: Kyoto Thoracic Oncology Research Group 1302. *Oncology* 97:327-333,2019
10. Tamiya M, Tamiya A, Hosoya K, Taniguchi Y, Yokoyama T, Fukuda Y, Hirano K, Matsumoto H, Kominami R, Suzuki H, Hirashima T, Uchida J, Morita M, Kanazu M, Sawa N, Kinoshita Y, Hara S, Kumagai T, Fujimoto D: Efficacy and safety of pembrolizumab as first-line therapy in advanced non-small cell lung cancer with at least 50% PD-L 1 positivity: a multicenter retrospective cohort study (HOPE-001). *Invest New Drugs* 37:1266-1273,2019
11. Kawachi H, Tamiya M, Tamiya A, Ishii S, Hirano K, Matsumoto H, Fukuda Y, Yokoyama T, Kominami R, Fujimoto D, Hosoya K, Suzuki H, Hirashima T, Kanazu M, Sawa N, Uchida J, Morita M, Makio T, Hara S, Kumagai T: Association between metastatic sites and first-line pembrolizumab treatment outcome for advanced non-small cell lung cancer with high PD-L 1 expression: a retrospective multicenter cohort study. *Invest New Drugs* 38:211-218,2020
12. 山添正敏, 森田充紀, 富岡洋海: 防水スプレー吸入により肺傷害をきたした一例. *中毒研究* 32 : 284-288,2019
13. 富岡洋海: 薬剤性肺疾患. 「最新呼吸器内科・外科学」, 伊達洋至, 平井豊博監修, メディカルレビュー社, 東京, 612-615,2019
14. 富岡洋海: 特発性肺線維症の臨床所見. *薬局* 71 : 22-25, 2020

15. 富岡洋海, 紙田光豊, 東久弥: 特発性肺線維症 (IPF) における抗線維化療法導入のバリア: わが国における IPF 患者と担当医師の意識調査 (第1報). 呼吸臨床 4: e00097, 2020
16. 富岡洋海, 紙田光豊, 東久弥: 特発性肺線維症 (IPF) 診療における患者と医師の相互理解: わが国における IPF 患者と担当医師の意識調査 (第2報). 呼吸臨床 4: e00098, 2020

VI. 2.3 血液内科

1. Okuni-Watanabe M, Kurata K, Yakushijin K: The first case of e-cigarette-induced polycythemia. Case Rep Hematol 26: doi: 10.1155/2019/2084325, 2019

VI. 2.4 腎臓内科

1. 金井大輔, 渡邊周平: 薬剤性腎障害とは?. Medical Technology 48: 539-543, 2020

VI. 2.5 総合内科

1. Oh K, Inoue T, Saito T, Nishio C, Konishi H: Spinal epidural abscess caused by Pasteurella multocida mimicking aortic dissection: a case report. BMC Infect Dis 19: 448, 2019

VI. 2.6 小児科

1. 松本和徳, 田中由起子, 渡木綾子, 赤沢尚美: 当院におけるアレルギーチームの取り組みと現状. 日本小児臨床アレルギー学会誌 17: 24-27, 2019
2. Satoshi Hirase, Ikuo Okafuji, Kazuko Kasai, Kazunori Matsumoto, Yukiko Tanaka, Yuya Tanaka, Satoru Tsuruta: Disaster Preparation: Survey of Patients With Food Allergies in Kobe, Japan. Pediatrics International 61: 847-851, 2019

VI. 2.7 整形外科

1. 小林雅典, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 山根逸郎: TWINS を用いた大腿骨頸部骨折の治療成績. 中部整災誌 62: 981-982, 2019
2. 本田新太郎, 西口 滋, 山根逸郎, 安田 義: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する経皮的椎弓根スクリューによる後方固定術の治療成績. 中部整災誌 62: 37-38, 2019
3. 藤田 暁, 藤田俊史, 橋村卓実, 大西英次郎, 西口 滋, 安田 義: キーンバック病に対してシリコン人工月状骨置換術施行後 35 年間追跡できた 1 例. 中部整災誌 62: 297-298, 2019
4. 山根逸郎, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 小林雅典, 本田新太郎: 骨粗鬆症性椎体骨折に対する後方手術の治療成績. Journal of Spine Research 10: 524, 2019

VI. 2.8 脳神経外科

1. Ryo Akiyama, Hirotohi Imamura, Shoichi Tani, Hidemitsu Adachi, Ryu Fukumitsu, Tadashi Sunohara, Yoshihiro Omura, Yusuke Funakoshi, Yuichi Matsui, Natsuhi Sasaki, Tatsumaru Fukuda, Kazufumi Horiuchi, Shinji Kajiura, Masashi Shigeyasu, Nobuyuki Sakai: Outcomes of Endovascular Therapy versus Microsurgical Treatment for Aneurysmal Subarachnoid Hemorrhage in Patients ≥ 70 Years of Age. Journal of Neuroendovascular Therapy 14: 1-7, 2020
2. 福田竜丸, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 佐々木夏一, 松井雄一, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 重安将志, 坂井信幸: 血管内治療と開頭クリッピング術を要する多発未破裂脳動脈瘤における治療戦略. 脳神経外科 47: 943-947, 2019
3. Funakoshi Y, Imamura H, Tani S, Adachi H, Fukumitsu R, Sunohara T, Omura Y, Matsui Y, Sasaki N, Fukuda T, Akiyama R, Horiuchi K, Kajiura S, Shigeyasu M, Sakai N: Progressive thrombosis of unruptured aneurysms after coil embolization: analysis of 255 consecutive aneurysms. Journal of Neurointerventional Surgery 11: 1113-1117, 2019
4. Funakoshi Y, Imamura H, Tani S, Adachi H, Fukumitsu R, Sunohara T, Suzuki K, Omura Y, Matsui Y, Sasaki N, Bando T, Fukuda T, Akiyama R, Horiuchi K, Kajiura S, Shigeyasu M, Sakai N: Effect of Straightening the Parent Vessels in Stent-Assisted Coil Embolization for Anterior Communicating Artery Aneurysms. World Neurosurg 126: 410-416, 2019

5. Kawabata S, Imamura H, Tani S, Adachi H, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Matsui Y, Akiyama R, Horiuchi K, Sakai C, Sakai N:Effect of Direct Neurologic Evaluation on Outcomes During Treatment of Unruptured Intracranial Aneurysms Under Local Anesthesia. *World Neurosurg* 131:593-598,2019
6. Sakai N, Imamura H, Adachi H, Tani S, Tokunaga S, Funatsu T, Suzuki K, Adachi H, Sasaki N, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K, Ohara N, Kono T, Fujiwara S, Kaneko N, Tateshima S:First-in-man experience of the Versi Retriever in acute ischemic stroke. *Journal of Neurointerventional Surgery* 11:296-299,2019
7. Sakai N, Imamura H, Arimura K, Funatsu T, Beppu M, Suzuki K, Adachi H, Okuda T, Matsui Y, Kawabata S, Akiyama R, Horiuchi K, Tani S, Adachi H, Sakai C, Kaneko N, Tateshima S:PulseRider-assisted coil embolization for treatment of intracranial bifurcation aneurysms: a single-center case series with 24-month follow-up. *World Neurosurg* 128:461-467,2019
8. Todo K, Sakai N, Imamura H, Yamagami H, Adachi H, Kono T, Kobayashi J, Yamamoto S, Morimoto T, Tani S, Kawamoto M, Sakaguchi M, Ueno Y, Kunieda T, Narumi O, Sakai C, Ishii A, Hoshi T, Koyanagi M, Mineharu Y, Ishikawa T, Kuramoto Y, Sato S, Ohara N, Arimura K, Nakamura H, Nishida T, Gon Y, Fujinaka T, Yoshiya K, Kishima H, Mochizuki H, Kohara N, KCGH-CSC Registry Investigators:Successful Reperfusion with Endovascular Therapy Has Beneficial Effects on Long-Term Outcome Beyond 90 Days. *Cerebrovasc Dis* 47:127-134,2019
9. Tani S, Imamura H, Asai K, Shimizu K, Adachi H, Tokunaga S, Funakoshi T, Suzuki K, Adachi H, Kawabata S, Matsui Y, Sasaki N, Akiyama R, Horiuchi K, Sakai C, Sakai N:Comparison of practical methods in clinical sites for estimating cerebral blood flow during balloon test occlusion. *J Neurosurg* 131:1430-1436,2019

VI. 2.9 歯科口腔外科

1. 河合峰雄：歯科治療時の一過性異常高血圧への対応。病気を持った患者の歯科治療セミナー，足立了平，兵庫県保険医協会歯科部会，神戸，3-4,2019
2. 河合峰雄：高血圧患者への対応。病気を持った患者の歯科治療セミナー，足立了平，兵庫県保険医協会歯科部会，神戸，4-5,2019
3. 河合峰雄：心筋梗塞発症後半年間は歯科治療禁忌は本当か？。病気を持った患者の歯科治療セミナー，足立了平，兵庫県保険医協会歯科部会，神戸，6-7,2019
4. 野杵明美，中村仁也，藤井一維，河合峰雄：日本歯科麻酔学会認定歯科衛生士 presents もし、全身管理をしていなかったら・・・第1回 血圧。デンタルハイジーン 40：53-55,2020
5. 上石恵里，中村仁也，藤井一維，河合峰雄：日本歯科麻酔学会認定歯科衛生士 presents もし、全身管理をしていなかったら・・・第2回 意識。デンタルハイジーン 40：189-191,2020
6. 松永千恵，石神哲郎，藤井一維，河合峰雄：日本歯科麻酔学会認定歯科衛生士 presents もし、全身管理をしていなかったら・・・第3回 脈拍。デンタルハイジーン 40：301-303,2020
7. 阿部田暁子，卯田昭夫，藤井一維，河合峰雄：日本歯科麻酔学会認定歯科衛生士 presents もし、全身管理をしていなかったら・・・第4回 呼吸。デンタルハイジーン 40：426-428,2020
8. 遠藤美咲，高野宏二，藤井一維，河合峰雄：日本歯科麻酔学会認定歯科衛生士 presents もし、全身管理をしていなかったら・・・第5回 意識。デンタルハイジーン 40：552-553,2020
9. 河合峰雄：第3章 患者管理の各論、1. 全身管理に留意すべき疾患と歯科治療上必要な注意点、1. 循環器疾患。有病者歯科学，足立了平，石垣佳希，岩淵博史，金子忠良，酒巻裕之，宮田 勝 編，永末書店，京都，64-77,2020

VI. 2.10 看護部

1. 新田和子：リフレクションを支援する看護師の方略に関する研究 A study on strategies used by nurses to provide reflection support. *高知女子大学看護学会誌* 44：1-10,2019
2. 阪田真由，山口陽恵：外国人産婦への母乳育児支援。臨床助産ケア 11：57-64,2019

VI. 2.11 臨床検査技術部

1. 中 彩乃，吉田澄子，下田智晴，中村大輔，弘田大智，山下展弘，森島秀司，勝山栄治：良性多嚢胞性腹膜中皮腫の1例。神戸市立病院紀要 58：21-25,2019

VI. 3 西神戸医療センター

VI. 3.1 総合内科

1. Rinastiti P, Ikeda K, Rahardini EP, Miyagawa K, Tamada N, Kuribayashi Y, Hirata KI, Emoto N: Loss of family with sequence similarity 13, member A exacerbates pulmonary hypertension through accelerating endothelial-to-mesenchymal transition. *PLoS One* 15:e0226049,2019
2. 磯目賢一, 中島佳代, 池町真実, 山崎貴之, 中浴伸二, 宮川一也, 永澤浩志: 院内感染 で判明したレジオネラ菌による給湯系汚染とその後の対応. *日本環境感染学会誌* 35: 81-86,2020

VI. 3.2 脳神経内科

1. Chigusa Shirakawa, Chie Yanagihara, Shin Takano, Yukiko Ishio, Akiko Mikawa: ndogenous Endophthalmitis Following Streptococcus Aureus (MSSA) Meningitis. *臨床神経学* 59:185-189,2019

VI. 3.3 免疫血液内科

1. Yasuhiro Tanaka, Misa Ishihara, Hiroaki Miyoshi, Akiko Hashimoto, Isaku Shinzato, Koichi Ohshima: Spontaneous regression of diffuse large B-cell lymphoma in the small intestine with multiple lymphadenopathy. *J Clin Exp Hematop* 59:17-21,2019
2. Ito T, Hashimoto Y, Tanaka Y, Nakaya A, Fujita S, Satake A, Nakanishi T, Konishi A, Hotta M, Yoshimura H, Ishii K, Hashimoto A, Kondo T, Omura H, Shinzato I, Tanaka T, Nomura S: Efficacy and Safety of Anagrelide as a First-Line Drug in Cytoreductive Treatment-Naïve Essential Thrombocythemia Patients in a Real-World Setting. *Eur J Haematol* 103:116-123,2019

VI. 3.4 消化器内科

1. 原 和也, 林 幹人, 石原 美佐, 井谷智尚: 【消化管感染症のすべて】回盲部・大腸・肛門 寄生虫感染症 クリプトスポリジウム感染症. *消化器内視鏡* (0915-3217) 31: 242-245,2019

VI. 3.5 精神・神経科

1. 川添文子: 摂食障害治療における学校との連携～入院治療を要した小児期 ANR の連携例を通じて～. *心身医学* 59: 245-250,2019
2. 佐藤真紀, 北村葉子, 高宮静男, 太田陽花, 菊池由貴: 管理栄養士として出来る早期対応と予防の試み. *日本小児心身医学会雑誌* 27: 491-493,2019
3. Shinichiro Nagamitsu, Yoshimitsu Fukai, So Uchida, Michiko Matsuoka, Toshiyuki Iguchi, Ayumi Okada, Ryoichi Sakuta, Takeshi Inoue, Ryoko Otani, Shinji Kitayama, Kenshi Koyanagi, Yuichi Suzuki, Yuki Suzuki, Yoshino Sumi, Shizuo Takamiya, Chikako Fujii, Yasuko Tsurumaru, Ryuta Ishii, Tatsuyuki Kakuma, Yushiro Yamashita: Validation of childhood eating disorder outcome scale. *Biopsychosoc Med* 13: 21,2019
4. 高宮静男: 摂食障害の子どもたち 家庭や学校で早期発見・対応するための工夫, 初版, 合同出版, 東京, 2019

VI. 3.6 小児科

1. 松原康策: B群レンサ球菌感染症の疫学と臨床. *小児科* 60: 375-381,2019
2. 瀧本裕美, 川北かおり, 松原康策, 登村信之, 内藤昭嘉, 岩田あや, 竹内康人: 母児共に後遺症なく救命し得た妊娠中の肺炎球菌性髄膜炎. *日本周産期・新生児医学会雑誌* 55: 151-156,2019
3. 竹本崇之, 松原康策, 磯目賢一, 岩田あや, 山田早紀, 宮越千智, 常 彬: 神戸西地域中核病院における小児侵襲性肺炎球菌感染症 一肺炎球菌結合型ワクチン導入前後の変化, 2002-2018年一. *日本感染症学雑誌* 93: 485-492,2019
4. Tamura A, Nino N, Yamamoto N, Naito A, Matsubara K, Nakatani N, Ichikawa T, Nakamura S, Saito A, Kozaki A, Kishimoto K, Ishida T, Shigematsu Y, Hasegawa D, Kosaka Y: Vitamin B12 deficiency anemia in an exclusively breastfed infant born to an ileum-resected mother. *Pediatr Neonatol* 60:579-580,2019

5. 山田早紀, 松原康策, 千貫祐子, 堀 雅之, 正木太朗: ネコとイヌの両者に感作されたと考えられる小児期早期発症の pork-cat syndrome の 1 例. アレルギー 68:1141-1147,2019
6. 山口善道: CT 検査 一部位別意義と注意点. 小児内科 51:245-249,2019
7. 山田早紀, 松原康策, 千貫祐子, 堀 雅之, 正木太朗: 神戸西地域中核病院における市中感染型小児侵襲性黄色ブドウ球菌感染症ー 1994-2019 年の検討ー. 小児感染免疫 32:3-10,2020
8. 磯目賢一, 中島佳代, 池町真実, 山崎貴之, 中浴伸二, 宮川一也, 永澤浩志: 院内感染で判明したレジオネラ菌による給湯系汚染とその後の対応. 日本環境感染学会誌 35:81-86,2020

VI. 3.7 外科・消化器外科

1. 牧野健太, 長井和之, 堀江和正, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: 上行結腸癌に対する腹腔鏡下回盲部切除術後に上腸間膜静脈血栓症を生じた 1 例. 外科 81:793-797,2019
2. 塩田哲也, 岡村隆仁, 中山裕行, 加藤達史, 鬼頭祥悟, 佐多律子: 初回投与後にアナフィラキシーショックを認めた胃癌の 1 例. 癌と化学療法 46:1433-1435,2019

VI. 3.8 乳腺外科

1. Watanabe T, Kaoku S, Yamaguchi T, Okuno T, et al: Multicenter prospective study of color Doppler ultrasound for breast masses: utility of our color Doppler method. Ultrasound in Med. & Biol 45:1367-1379,2019
2. 奥野敏隆: フローイメージング. 乳房超音波入門, 伊藤吾子, 日本医事新報社, 20-26,2020

VI. 3.9 脳神経外科

1. Sakata J, Sasayama T, Tanaka K, Nagashima H, Nakada M, Tanaka H, Hashimoto N, Kagawa N, Kinoshita M, Nakamizo S, Maeyama M, Nishihara M, Hosoda K, Kohmura E: MicroRNA regulating stanniocalcin-1 is a metastasis and dissemination promoting factor in glioblastoma. J Neurooncol 142:241-251,2019
2. Tanaka J, Hosoda K, Matsuo K, Kyotani K, Takemoto Y, Yamamoto Y, Fujita A, Kohta M, Kimura H, Sasayama T, Kohmura E: Pencil Beam Presaturation Magnetic Resonance Imaging Helps to Identify Patients at Risk for Intolerance to Temporary Internal Carotid Artery Occlusion During Carotid Endarterectomy and Carotid Artery Stenting. World Neurosurg 130:e899-e907,2019
3. 東野真志, 西原賢在, 蘆田典明, 橋本公夫, 石原美佐, 高原佳央里, 篠山隆司, 甲村英二, 細田弘吉. 悪性リンパ腫との鑑別を要した神経 Sweet 病の 2 例. 脳神経外科ジャーナル 29:119-124,2020

VI. 3.10 呼吸器外科

1. Takahagi A, Shindo T, Chen-Yoshikawa TF, Yoshizawa A, Gochi F, Miyamoto E, Saito M, Tanaka S, Motoyama H, Aoyama A, Takaori-Kondo A, Date H: Trametinib Attenuates Delayed Rejection and Preserves Thymic Function in Rat Lung Transplantation. Am J Respir Cell Mol Biol 61:355-366,2019
2. Hijiya K, Chen-Yoshikawa TF, Motoyama H, Ohsumi A, Nakajima D, Sakamoto J, Aoyama A, Date H: Long Agonal Period Deteriorates Cardiac Death Donor Lung Function in a Rat EVLP Model. Gen Thorac Cardiovasc Surg 67:457-463,2019
3. Masatsugu Hamaji, Atsushi Kawaguchi, Mitsugu Omasa, Tatsuo Nakagawa, Ryota Sumitomo, Cheng-long Huang, Takuji Fujinaga, Masaki Ikeda, Tsuyoshi Shoji, Hiromichi Katakura, Hideki Motoyama, Toshi Menju, Akihiro Aoyama, Toshihiko Sato, Toyofumi-Fengshi Chen-Yoshikawa, Makoto Sonobe, Hiroshi Date: Low incidence of and mortality from a second malignancy after resection of thymic carcinoma Interact Cardiovasc Thorac Surg 28:375-379,2019
4. Miyata R, Hamaji M, Omasa M, Nakagawa T, Sumitomo R, Huang CL, Ikeda M, Fujinaga T, Shoji T, Katakura H, Motoyama H, Nakajima D, Ohsumi A, Menju T, Aoyama A, Chen-Yoshikawa TF, Sato T, Sonobe M, Date H: Survival outcomes after minimally invasive thymectomy for early-stage thymic carcinoma. Surg Today 49:357-360,2019
5. Kayawake H, Motoyama H, Date H: Variant Scimitar Syndrome With Intralobar Pulmonary Sequestration Containing Adenocarcinoma. Gen Thorac Cardiovasc Surg 68:74-76,2020
6. Oda H, Hamaji M, Motoyama H, Ikeda T, Minatoya K, Nakajima D, Chen-Yoshikawa TF, Date H: Use of a Three-Dimensional Model in Lung Transplantation for a Patient With Giant Pulmonary Aneurysm. Ann Thorac Surg 109:e183-e185,2020

7. Kayawake H, Aoyama A, Kinoshita H, Yoneda T, Baba S, Teramoto Y, Miyagawa-Hayashino A, Yamazaki K, Motoyama H, Hamaji M, Nakajima D, Chen-Yoshikawa TF, Date H: Diameter of the Dilated Main Pulmonary Artery in Patients With Pulmonary Hypertension Decreases After Lung Transplantation Surg Today 50:275-283,2020
8. Miyahara S, Hamaji M, Aoyama A, Nakajima D, Motoyama H, Chen-Yoshikawa TF, Date H: Backtable Bronchoplasty for Donor Tracheal Bronchus in Lung Transplantation. Gen Thorac Cardiovasc Surg doi: 10.1007/s11748-020-01305-6, 2020
9. Shunichi Nagata, Mitsugu Omasa, Kosuke Tokushige, Takao Nakanishi1, Hideki Motoyama: Efficacy and safety of surgery for spontaneous pneumothorax in elderly patients. Interact Cardiovasc Thorac Surg 30:263-268, 2020
10. Tokuno J, Chen-Yoshikawa TF, Oga T, Oto T, Okawa T, Okada Y, Akiba M, Ikeda M, Nakajima D, Hamaji M, Motoyama H, Aoyama A, Isomi M, Chin K, Date H: Analysis of Optimal Health-Related Quality of Life Measures in Patients Waitlisted for Lung Transplantation. Can Respir J 2020:doi: 10.1155/2020/4912920, 2020

VI. 3.11 皮膚科

1. 山田早紀, 松原康策, 千貫祐子, 堀 雅之, 正木太朗: ネコとイヌの両者に感作されたと考えられる小児期早期発症の pork-cat syndrome の 1 例. アレルギー 68: 1141-1147,2019
2. 中村文香, 兼本洋介, 藤井翔太郎, 小川 聡, 鷺尾 健, 正木太朗, 堀 雅之, 立石千晴, 鶴田大輔: 小児水疱性類天疱瘡の 1 例. 皮膚科の臨床 62: 139-143, 2020
3. Nishimura T, Saito Y, Washio K, Komori S, Respatika D, Kotani T, Murata Y, Ohnishi H, Mizobuchi S, Matozaki T: SIRP α on CD11c+ cells induces Th17 cell differentiation and subsequent inflammation in the CNS in experimental autoimmune encephalomyelitis. Eur J Immunol 50:doi: 10.1002/eji.201948410,2020
4. Fujiwara S, Nakano E, Nakamura K, Washio K, Ogura K, Nishigori C: Pazopanib as a potential chemotherapy for cutaneous angiosarcoma: A case series of 10 patients from a single institution. J Dermatol 47,2020
5. Oda Y, Washio K, Fukunaga A, Mizuno M, Hirai H, Imamura S, Hatakeyama M, Ogura K, Nishigori C: Establishment of the basophil activation test to detect photoallergens in solar urticaria. J Allergy Clin Immunol Pract 8:2817-2819,2020
6. Mizuno M, Fukunaga A, Washio K, Imamura S, Oda Y, Nishigori C: A visual analogue scale for itch and pain in 23 cases of cholinergic urticaria. J Eur Acad Dermatol Venereol 34,2020
7. Oda Y, Fukunaga A, Washio K, Imamura S, Nishigori C: Reply. J Allergy Clin Immunol Pract 8:826-827,2020
8. Fukunaga A, Oda Y, Washio K, Omori T, Kakei Y, Hide M, Nishigori C: Efficacy of switching to bilastine, a histamine H₁ receptor antagonist, in patients with chronic spontaneous urticaria (H1-SWITCH): study protocol for a randomized controlled trial. Trials 21:doi: 10.1186/s13063-019-3878-2,2020
9. Oda Y, Washio K, Fukunaga A, Imamura S, Hatakeyama M, Ogura K, Ishii K, Hide M, Nishigori C: Clinical utility of the basophil activation test in the diagnosis of sweat allergy. Allergol Int doi: 10.1016/j.alit.2019.09.003,2019
10. Oda Y, Washio K, Fukunaga A, Imamura S, Hatakeyama M, Ogura K, Ishii K, Hide M, Nishigori C. Clinical utility of the basophil activation test in the diagnosis of sweat allergy. Allergol Int 69:261-267,2020
11. Hosaka C, Kunisada M, Koyanagi-Aoi M, Masaki T, Takemori C, Taniguchi-Ikeda M, Aoi T, Nishigori C: Induced pluripotent stem cell-derived melanocyte precursor cells undergoing differentiation into melanocytes. Pigment Cell Melanoma Res 32:623-633,2019

VI. 3.12 泌尿器科

1. 請田翔子, 清水洋祐, 小河孝輔, 宇都宮紀明, 勝寫浩紀, 石原美佐, 橋本公夫, 金丸聰淳: 腹膜のみに転移を認めた去勢抵抗性前立腺癌の 1 例. 泌尿器科紀要 65: 175-179,2019
2. Shoko Uketa, Yousuke Shimizu, Kosuke Ogawa, Noriaki Utsunomiya, Sojun Kanamaru: Port-site hernia from an 8mm robotic trocar following robot-assisted radical cystectomy: Report of a rare case. IJU case reports 3: 97-99,2020
3. 寒野 徹, 井上貴博, 奥村和弘, 山田 仁, 川喜田睦司, 賀本敏行, 清水洋祐, 伊藤哲之, 七里泰正, 神波大己, 小林 恭, 小川 修: 腹腔鏡下膀胱全摘術は本邦に安全に導入されたか? 本邦他施設共同研究での導入初期症例における治療成績の検討. 泌尿器科紀要 65: 439-444,2019
4. Kanno T, Inoue T, Ito K, Okumura K, Yamada H, Kawakita M, Fujii M, Shimizu Y, Yatsuda J, Moroi S, Shichiri Y, Akao T, Sawada A, Kobayashi T, Ogawa O: Oncological outcomes and recurrence patterns after laparoscopic radical cystectomy for bladder cancer: A Japanese multicenter cohort. Int J Urol 27: 250-256, 2020

5. Kobayashi K, Yamamoto S, Takahashi S, Ishikawa K, Yasuda M, Wada K, Hamasuna R, Hayami H, Minamitani S, Matsumoto T, Kiyota H, Tateda K, Sato J, Hanaki H, Masumori N, Hiyama Y, Yamada H, Egawa S, Kimura T, Nishiyama H, Miyazaki J, Matsumoto K, Homma Y, Kamei J, Fujimoto K, Torimoto K, Tanaka K, Togo Y, Uehara S, Matsubara A, Shoji K, Goto H, Komeda H, Ito T, Mori K, Mita K, Kato M, Fujimoto Y, Masue T, Inatomi H, Takahashi Y, Ishihara S, Nishimura K, Mitsumori K, Ito N, Kanamaru S, Yamada D, Hiroshi M, Yamashita M, Tsugawa M, Takenaka T, Takahashi K, Oka Y, Yasufuku T, Watanabe S, Chihara Y, Okumura K, Kawanishi H, Matsukawa M, Shigeta M, Koda S: The third national Japanese antimicrobial susceptibility pattern surveillance program: Bacterial isolates from complicated urinary tract infection patients. *J Infect Chemother* 26: 418-428, 2020
6. Togo Y, Fukui K, Ueda Y, Kanamaru S, Shimizu Y, Wada K, Sadahira T, Yamada Y, Matsumoto M, Hamasuna R, Ishikawa K, Takai M, Maekawa Y, Yasuda M, Kokura K, Kondoh N, Takiuchi H, Yamamoto S: Comparison of single- and multiple-dose cefazolin as prophylaxis for transurethral enucleation of prostate: A multicenter, prospective, randomized controlled trial by the Japanese Research Group for Urinary Tract Infection. *Int J Urol* 27: 244-248, 2020
7. 上原慎也, 山村走平, 濱砂良一, 西井久枝, 市原浩司, 高橋 聡, 桧山佳樹, 石川清仁, 吉村耕治, 金丸聰淳, 栗村雄一郎, 根本 勺, 高橋康一, 篠原信雄, 秋田珠実, 富田祐司, 近藤幸尋, 門田晃一, 谷村正信, 丸晋太郎, 鈴木康之, 渡邊豊彦, 小川輝之, 三井貴彦, 亀岡 浩, 新田浩司, 小島祥敬, 片岡政雄, 野村昌良, 常盤紫野, 諸角誠人, 平沼俊亮, 香川 誠, 井口太郎, 仲谷達也, 田口和己, 戸澤啓一, 安井孝周, 竹下英機, 高村俊哉, 浮村 理, 辛島 尚, 蘆田真吾, 湯淺 健, 柑本康夫, 河合弘時二, 森田伸也, 大家基嗣, 増田 均, 黒田昌男, 福本 亮, 福井辰成, 上田修史, 杉元幹史, 鞍作克之, 成瀬光栄, 立木美香, 田上哲也, 田辺昌代, 小林 皇, 舛森直哉, 白石晃司, 慎 武, 岡田 弘, 小川総一郎, 秦 淳也, 上平 修, 天野俊康, 小松康宏, 澁谷忠正, 三股浩光, ヒース 雪, 矢澤 聡, 中島洋介, 新地祐介, 堀口明男, 篠田和伸, 近藤恒徳, 佐藤裕之, 佐藤雄一, 杉多良文, 林祐太郎, 水野健太郎, 西尾英紀, 上仁教義, 小林憲市, 河内明宏, 山口孝則, 神沢英幸, 胡口智之, 東武昇平, 野口 満, 秦 聡孝, 武藤 智: 尿路性器結核. 泌尿器科外来マスターバイブル, 「臨床泌尿器科」編集委員会, 第1版, 医学書院, 東京, 40-43, 2019
8. 上原慎也, 山村走平, 濱砂良一, 西井久枝, 市原浩司, 高橋 聡, 桧山佳樹, 石川清仁, 吉村耕治, 金丸聰淳, 栗村雄一郎, 根本 勺, 高橋康一, 篠原信雄, 秋田珠実, 富田祐司, 近藤幸尋, 門田晃一, 谷村正信, 丸晋太郎, 鈴木康之, 渡邊豊彦, 小川輝之, 三井貴彦, 亀岡 浩, 新田浩司, 小島祥敬, 片岡政雄, 野村昌良, 常盤紫野, 諸角誠人, 平沼俊亮, 香川 誠, 井口太郎, 仲谷達也, 田口和己, 戸澤啓一, 安井孝周, 竹下英機, 高村俊哉, 浮村 理, 辛島 尚, 蘆田真吾, 湯淺 健, 柑本康夫, 河合弘時二, 森田伸也, 大家基嗣, 増田 均, 黒田昌男, 福本 亮, 福井辰成, 上田修史, 杉元幹史, 鞍作克之, 成瀬光栄, 立木美香, 田上哲也, 田辺昌代, 小林 皇, 舛森直哉, 白石晃司, 慎 武, 岡田弘, 小川総一郎, 秦 淳也, 上平 修, 天野俊康, 小松康宏, 澁谷忠正, 三股浩光, ヒース 雪, 矢澤 聡, 中島洋介, 新地祐介, 堀口明男, 篠田和伸, 近藤恒徳, 佐藤裕之, 佐藤雄一, 杉多良文, 林祐太郎, 水野健太郎, 西尾英紀, 上仁教義, 小林憲市, 河内明宏, 山口孝則, 神沢英幸, 胡口智之, 東武昇平, 野口 満, 秦 聡孝, 武藤 智: 尿路真菌症. 泌尿器科外来マスターバイブル, 「臨床泌尿器科」編集委員会, 第1版, 医学書院, 東京, 44-47, 2019

VI. 3.13 産婦人科

1. 瀧本裕美, 川北かおり, 松原康策, 登村信之, 内藤昭嘉, 岩田あや, 竹内康人: 母児ともに後遺症なく救命し得た妊娠中の肺炎球菌性髄膜炎. *日本周産期・新生児学会誌* 55: 155-156, 2019
2. 登村信之, 近田恵里, 三村裕美, 小菊 愛, 森上聡子, 佐原裕美子, 川北かおり, 佐本 崇, 橋本公夫, 嘉納 萌, 吉田茂樹, 竹内康人: 腹腔鏡手術後に診断された嚢胞性顆粒膜細胞腫の一例. *臨床産婦人科* 73, 2019
3. Yumi Takimoto, Ai Kogiku, Eri Konda, Takasi Samoto, Misa Ishihara, Taro Yamashita: Primary localized amyloidosis of the uterine cervix during pregnancy. *THE JOURNAL OF Obstetrics and Gynecology Research* 46, 2020

VI. 3.14 耳鼻いんこう科

1. 横井 純, 四宮 瞳, 堀地祐人, 小嶋康隆, 雲井一夫: 頸部リンパ節結核 18 症例の臨床的検討. *耳喉頭頸* 91: 1071-1076, 2019
2. 雲井一夫: からだの話 「アレルギー性鼻炎」. *あすの健康*, 117, 兵庫県予防医学協会, 1-3, 2020

VI. 3.15 形成外科

1. 岡本貴子, 小熊 孝: 慢性膿胸に対する陰圧閉鎖療法の経験. 日形会誌 39: 440-445, 2019
2. 小熊 孝: 顔面への真皮脂肪移植. PEPARS 159: 176-181, 2020
3. 松葉啓文, 小熊 孝, 岡本貴子: 接着スプリントを使用した手指瘢痕拘縮形成術後の後療法. 形成外科 63: 508-512, 2020

VI. 3.16 麻酔科

1. 伊藤綾子, 飯島克博, 堀川由夫, 伊地智和子, 田中 修: 周術期管理に難渋した周産期心筋症の1症例. 麻酔 69: 166-168, 2020
2. 川瀬太助, 伊地智和子, 樋口恭子, 飯島克博, 堀川由夫, 田中 修: シスプラチンを腹腔内投与した術後7日目に意識障害を伴う著しい低ナトリウム血症を呈した1症例. 麻酔 69: 184-187, 2020

VI. 3.17 病理診断科

1. Tsuzuki S, Kataoka TR, Ito H, Ueshima C, Asai S, Yokoo H, Haga H: A case of renal cell carcinoma unclassified with medullary phenotype without detectable gene deletion. Pathol Int 69: 710-714, 2019
2. 船越真依, 石原美佐, 井上友佳里, 清水理絵, 西田 稔, 毛利衣子, 勝嶋浩紀, 橋本公夫: 2型乳頭状腎細胞癌の1例 CTガイド下腎腫瘍生検時の針先洗浄細胞診を中心に. 日本臨床細胞学会雑誌 (0387-1193) 58: 120-125, 2019
3. 原 和也, 林 幹人, 石原美佐, 井谷智尚: 【消化管感染症のすべて】回盲部・大腸・肛門 寄生虫感染症 クリプトスポリジウム感染症. 消化器内視鏡 (0915-3217) 31: 242-245, 2019
4. 請田翔子, 清水洋祐, 小河孝輔, 宇都宮紀明, 勝嶋浩紀, 石原美佐, 橋本公夫, 金丸聰淳: 腹膜のみに転移を認めた去勢抵抗性前立腺癌の1例. 泌尿器科紀要 (0018-1994) 65: 175-179, 2019

VI. 3.18 歯科口腔外科

1. 山本信祐, 前田圭吾, 平井雄三, 首藤敦史, 上原京憲, 谷池直樹, 竹信俊彦: 当科で加療した panfacial fracture 13例の臨床的検討. 日本口腔顎顔面外傷学会雑誌 18: 35-43, 2019
2. 谷池直樹, 前田圭吾, 平井雄三, 山本信祐: ニコチンガムの不適切な使用によって生じたと考えられた難治性口腔粘膜潰瘍の1例. 日本口腔診断学会雑誌 32: 216-219, 2019
3. Hitoshi Amano, Futoshi Iwaki, Meiko Oki, Kazuhiro Aoki, Shinsuke Ohba: An osteogenic helioxanthin derivative suppresses the formation of bone-resorbing osteoclasts. Regenerative Therapy 11: 290-296, 2019

VI. 3.19 看護部

1. 高木美希: インフュージョンリアクションが薬物療法による有害反応への対応～こんな時どうしたらよいの～. がん看護 25: 103-106, 2020

VI. 3.20 薬剤部

1. Ando M, Nakasako S, Ariyoshi K, Yamaguchi M, Sakizono K, Minowa K, Fukushima S, Sugioka N, Hashida T: Re-elevation of serum amlodipine level after lipid emulsion therapy in an overdose case. J Clin Pharm Ther 44: 970-973, 2019
2. 池村 舞, 中浴伸二, 橋田 亨: 病院・集中治療室. 薬剤師実務のアウトカム, 亀井美和子 編, 初版, 薬ゼミ情報教育センター, 埼玉, 2019

VI. 3.21 臨床検査技術部

1. 川井順一: 心エコー. 僧帽弁逆流の心エコー記録のコツ 20: 1182-1194, 2019
2. 川井順一: 左室流入血流と僧帽弁狭窄 僧帽弁逆流. エキスパートが教える 心・血管エコー計測のノウハウ, 医学書院, 75-94 (左室流入血流と僧帽弁狭窄), 132-157 (僧帽弁逆流), 2019
3. 船越真依, 石原美佐, 井上友佳里, 清水理絵, 西田 稔, 毛利衣子, 勝嶋浩紀, 橋本公夫: 2型乳頭状腎細胞癌の1例 - CTガイド下腎腫瘍生検時の針先洗浄細胞診を中心に -. 日本臨床細胞学会雑誌 58: 120-125, 2019

VI. 3.22 リハビリテーション技術部

1. Inoue T, Misu S, Tanaka T, Kakehi T, Kakiuchi M, Chuman Y, Ono R:Frailty defined by 19 items as a predictor of short-term functional recovery in patients with hip fracture. *Injury* 50:2272-2276,2019
2. 垣内優芳：入門講座 困難への対応 - 経験者に学ぶ・2 医療職間のコミュニケーションの悩み. *PT ジャーナル* 53 : 597-599,2019
3. 井上達朗：リハビリテーション栄養論文紹介 . *リハビリテーション栄養* 3,2019
4. 井上達朗：特別寄稿 理学療法士がしておきたい栄養の基礎と実際 . *理学療法兵庫* 25,2019

VI. 3.23 感染防止対策室

1. 磯目賢一, 中島佳代, 池町真実, 山崎貴之, 中谷伸二, 宮川一也, 永澤浩志：院内感染で判明したレジオネラ菌による給湯系汚染とその後の対策. *日本環境感染学会誌* 35 : 81-86,2020

VI. 4 神戸アイセンター病院

VI. 4.1 診療部

1. Yoshitake S, Murakami T, Uji A, Fujimoto M, Dodo Y, Suzuma K, Tsujikawa A: Granular lesions of short-wavelength and near-infrared autofluorescence in diabetic macular oedema. *Eye* 33: 564-571,2019
2. Takagi S, Kudo S, Yokota H, Akiba M, Mandai M, Hiram Y, Takahashi M, Kurimoto Y, Ishida M: Assessment of the deformation of the outer nuclear layer in the Epiretinal membrane using spectral-domain optical coherence tomography. *BMC Ophthalmol* 19:113,2019
3. Miyamoto N, Mandai M, Oishi A, Nakai S, Honda S, Hirashima T, Oh H, Matsumoto Y, Uenishi M, Kurimoto Y: Long-term results of photodynamic therapy or ranibizumab for polypoidal choroidal vasculopathy in LAPTOP study. *Br J Ophthalmol* 103:844-848,2019
4. An G, Akiba M, Yokota H, Motozawa N, Takagi S, Mandai M, Kitahata S, Hiram Y, Takahashi M, Kurimoto Y: Deep Learning Classification Models Built with Two-step Transfer Learning for Age Related Macular Degeneration Diagnosis. *Conf Proc IEEE Eng Med Biol Soc* 2019:2049-2052,2019
5. Kubota F, Suetsugu T, Kato A, Gomi F, Takagi S, Kinoshita T, Ishikawa H, Mitamura Y, Kondo M, Iwahashi C, Kuwayama S, Kurimoto Y, Ogura Y, Yasukawa T, on Behalf of the Japanese clinical retina study (J-crest) group: Tilted disc syndrome associated with serous retinal detachment: Long-term prognosis. A retrospective multicenter survey. *Am J of Ophthalmol* 207:313-318,2019
6. Motozawa N, An G, Takagi S, Kitahata S, Mandai M, Hiram Y, Yokota H, Akiba M, Tsujikawa A, Takahashi M, Kurimoto Y: Optical coherence tomography-based deep-learning models for classifying normal and age-related macular degeneration and exudative and non-exudative age-related macular degeneration changes. *Ophthalmol Ther* 8 :527-539,2019
7. Ito SI, Takagi S, Takahashi M, Sugita S, Hiram Y, Fujihara M, Uzu T, Azumi A, Kurimoto Y: Bilateral retinitis after influenza virus infection in a case report. *American Journal of Ophthalmology Case Reports* 17:100584,2020
8. 栗本康夫 : iPS 細胞による網膜再生医療と神戸アイセンター . 宮城県眼科醫會報 154 : 5,2019
9. 栗本康夫 : 眼科再生医療 . 臨床雑誌「内科」 9 : 1834,2019
10. 栗本康夫 : いろいろな水晶体関連緑内障 A variety of Lens-Induced Glaucoma. *あたらしい眼科* 36 : 1105-1107,2019
11. 吉水 聡 : 急性原発閉塞隅角症のリスク評価 . *あたらしい眼科* 37 : 59-60, 2020
12. 前田忠郎 , 万代道子 : 網膜と再生医療 . *日本の眼科* 91 : 160-164, 2020
13. 前田忠郎 , 万代道子 : 再生医療とは (総説) . *日本の眼科* 91 : 148-152, 2020

VII. 学 会 報 告

Ⅶ. 学 会 報 告

Ⅶ. 1 中央市民病院

Ⅶ. 1. 1 循環器内科

1. 堀田 怜, 太田光彦, 山本 駿, 堀 香菜, 菅沼直生子, 紺田利子, 金 基泰, 北井 豪, 谷 知子, 小山 忠明, 古川 裕: 左房内ポケットを生じた高度僧帽弁逆流の2症例. 日本心エコー図学会第30回学術集会, 長野, 2019.5.10-12
2. 中原千裕, 太田光彦, 北井 豪, 香原美咲, 則政文子, 長野真弥, 山本 駿, 堀 香菜, 上野菜美子, 紺田利子, 藤井洋子, 山本 剛, 三羽えり子, 菅沼直生子, 谷 知子, 古川 裕: 大動脈弁位人工弁機能評価における右傍胸骨アプローチの有用性. 日本心エコー図学会第30回学術集会, 長野, 2019.5.10-12
3. 山本 駿, 太田光彦, 北井 豪, 香原美咲, 則政文子, 長野真弥, 中原千裕, 堀 香菜, 上野菜美子, 紺田利子, 藤井洋子, 山本 剛, 三羽えり子, 菅沼直生子, 加地修一郎, 谷 知子, 古川 裕: 高齢者におけるS字状中隔の頻度と心拍出量評価に与える影響. 日本心エコー図学会第30回学術集会, 長野, 2019.5.10-12
4. 長野真弥, 太田光彦, 北井 豪, 香原美咲, 則政文子, 中原千裕, 山本駿, 堀 香菜, 上野菜美子, 紺田利子, 藤井洋子, 菅沼直生子, 佐々木康博, 小堀敦志, 谷 知子, 古川 裕: 心房細動に対するカテーテルアブレーション後の左房容積および左房機能の経時的変化. 日本心エコー図学会第30回学術集会, 長野, 2019.5.10-12
5. 辻坂勇太, 太田光彦, 北井 豪, 金 基泰, 加地修一郎, 古川 裕: 心房細動症例における僧帽弁輪と三尖弁輪の関係性: 三次元経食道心エコー図による検討. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019.5.24-26
6. 谷 知子, 藤森結衣, 後藤真理菜, 太田光彦, 北井 豪, 古川 裕: 人工弁サイズ計測における経胸壁3D心エコー図を用いた実験モデルでの検討. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019.5.24-26
7. 香原美咲, 太田光彦, 上野菜美子, 山本 駿, 三好悠太郎, 金 基泰, 北井 豪, 加地修一郎, 谷 知子, 古川 裕: 人工血管置換術後に発症した溶血性貧血の成因を心エコー図検査で特定し得た2症例. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019.5.24-26
8. 舛本慧子, 金 基泰, 古川 裕: 手掌筋膜炎と多発関節炎を呈しステロイドが奏効した腫瘍随伴症候群による心膜液貯留の一例. 第127回日本循環器学会近畿地方会, 京都, 2019.6.22
9. 川本篤彦, 藤田靖之, 木下 慎, 古川 裕, 寺師浩人: 慢性重症下肢虚血に対する自家CD34陽性細胞移植治療成績とそのメカニズム. 第11回日本下肢救済・足病学会学術集会, 神戸, 2019.6.28-29
10. 豊田俊彬: 本邦における積極的脂質低下療法: 治療薬の選択. LDL コレステロール治療目標値設定の意義. 第51回日本動脈硬化学会総会・学術集, 京都, 2019.7.11-12
11. 藤本和美, 仲村直子, 松村佳苗, 北井 豪, 古川 裕: 心不全患者の6分間歩行試験を看護師が退院指導に活用する方法の検討. 第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 大阪, 2019.7.13-14
12. 横山慎一郎, 仲村直子, 松村佳苗, 北井 豪, 古川 裕: 入院・外来心臓リハビリテーションへの病棟看護師の継続的関与による心不全再入院防止の試み. 第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 大阪, 2019.7.13-14
13. Sasaki Y, Kobori A: Effectiveness of Dragging Application Using Endoscopic Laser Balloon Ablation System for Pulmonary Vein Isolation. 第66回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2019.7.24-27
14. Yoshizawa T, Shizuta S, Komasa A, Sasaki Y, Kobori A, Furukawa Y, Iseda T, Morita J, Hiroshima K, Ando K, Kimura T: The 2nd Generation Cryoballoon Ablation is Safe and Useful for Paroxysmal Atrial Fibrillation in Super-Elderly Patients Over 80 Years: A Report from the BREAK-AF Study. 第66回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2019.7.24-27
15. Kobori A, Sasaki Y, Masumoto A, Miyoshi Y, Kono H, Tsujisaka Y, Toyota T, Kim K, Kitai T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Clinical Utility of Various Kinds of Balloon-Based Ablation Catheter for Japanese Patients with Paroxysmal Atrial Fibrillation. 第66回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2019.7.24-27
16. Kono H, Sasaki Y, Kobori A, Masumoto A, Miyoshi Y, Tsujisaka Y, Horita R, Azumi Y, Toyota T, Ota M, Kim K, Kitai T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Challenge of Zero-Fluoroscopy Ablation for Atrial Fibrillation. 第66回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2019.7.24-27
17. Kobori A, Sasaki Y, Masumoto A, Miyoshi Y, Kono H, Tsujisaka Y, Toyota T, Ota M, Kim K, Kitai T, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Impact of High-Power Ablation Based on Ablation Index on Pulmonary Vein Isolation for Atrial Fibrillation. 第66回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2019.7.24-27

18. 中農陽介, 小堀敦志, 佐々木康博, 古川 裕, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中村悟士, 高岡循子, 坂地一朗: CARTO HD COLORING module を用いて心房頻 拍回路を同定しえた1症例. 第66回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2019.7.24-27
19. Toyota T, Morimoto T, Imuro S, Iwata H, Miyauchi K, Inoue T, Nakagawa Y, Daida H, Ozaki Y, Sakuma I, Furukawa Y, Ohashi Y, Matuzaki M, Nagai R, Kimura T: LDL-C levels on statins and cardiovascular event risk in stable coronary artery disease: An observation from the REAL-CAD study. European Society of Cardiology (ESC2019), Paris, France, 2019.8.31-9.4
20. 三好悠太郎, 北井 豪, 加地修一郎, 古川 裕:大動脈壁在血栓症の症例報告とその疫学・治療 に関する考察. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019.9.13-15
21. 舛本慧子, 太田光彦, 金 基泰, 北井 豪, 豊田俊彬, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 小山忠明, 谷 知子, 古川 裕:経カテーテル的大動脈弁置換術の直前に左室内 異常構造物が出現した一例. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019.9.13-15
22. 竹内素志, 北井 豪, 古川 裕:細菌性肺炎, 消化管出血による入院を繰り返す高齢心房細動合併心不全症例: 高齢心房細動患者における心不全入院の予後と危険因子. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019.9.13-15
23. 中山雄二, 今井龍一郎, 中岡洋子, 窪川渉一, 川井和哉, 浜重直久, 土居義典, 加地修一郎: 左主幹部巨大冠動脈瘤に伴う急性前壁梗塞で心肺停止後, 心肺蘇生・緊急冠動脈バイパス術で救命し得た川崎病既往のある中年女性例. 第67回日本心臓病学会学術集会, 名古屋, 2019.9.13-15
24. Kono H, Kitai T, W.H.Wilson Tang, Miyoshi Y, Masumoto A, Tsujisaka Y, Sasaki Y, Toyota T, Kim K, Ehara N, Kobori A, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Predictive Value of Spot Urine Sodium in Acute Decompensated Heart Failure. HFSA 2019 Annual Scientific Meeting, Philadelphia, PA, 2019.9.13-16
25. 辻坂勇太, 豊田俊彬, 江原夏彦, 金 基泰, 北井 豪, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕:大動脈弁二尖弁に対する経カテーテル的大動脈弁置換術の検討. 第28回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2019学術集会, 名古屋, 2019.9.19-21
26. 舛本慧子, 金 基泰, 江原夏彦, 豊田俊彬, 北井 豪, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕:経カテーテル的大動脈弁置換術中に経食道心エコー図にて左室内に高輝度構造物の形成を認めた一例. 第28回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2019学術集会, 名古屋, 2019.9.19-21
27. 三好悠太郎, 江原夏彦, 辻坂勇太, 金 基泰, 北井 豪, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕:TAVI 周術期に脳梗塞と血管合併症を来した2症例の検討. 第28回日本心血管インターベンション治療学会 CVIT2019学術集会, 名古屋, 2019.9.19-21
28. 虫明和徳, 金 基泰, 古川 裕:活動性がん患者における静脈血栓塞栓症に対するDOAC の効果と安全性の検討. 第2回日本腫瘍循環器学会学術集会, 旭川, 2019.9.21-22
29. 北井 豪:循環器集中治療でSwan-Ganz カテーテルを生かす. 第23回日本心不全学会学術集会, 広島, 2019.10.4-6
30. 舛本慧子, 金 基泰, 豊田俊彬, 北井 豪, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕:当院にて経験したトランスサイレチン型心アミロイドーシスとAL アミロイドーシスにおける臨床所見の比較. Features of Transthyretin Cardiac Amyloidosis compared with Light-Chain Cardiac Amyloidosis. 第23回日本心不全学会学術集会, 広島, 2019.10.4-6
31. Izumi C, Furukawa Y, Miyake M, Nishimura K, Amano M, Kitai T, Obayashi Y: 生体弁置換術後心房細動患者の抗血栓療法に関する後向きレジストリー. The BPV-AF retrospective registry Registry of antithrombotic therapy in atrial fibrillation patients with a bioprosthetic valve: The BPV-AF retrospective registry. 第23回日本心不全学会学術集会, 広島, 2019.10.4-6
32. Sasaki Y, Kobori A: Mid-Long Term Outcomes of Dragging Laser Application Using Endoscopic Laser Balloon Ablation System for Pulmonary Vein Isolation: Initial Experience at Single Center. 12th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHRS2019), Bangkok, Thailand, 2019.10.24-27
33. Kono H, Kitai T, W.H.Wilson Tang, Miyoshi Y, Masumoto A, Tsujisaka Y, Sasaki Y, Toyota T, Kim K, Ehara N, Kobori A, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Changes in luminal esophageal temperature during pulmonary vein isolation by High-Power versus Conventional radiofrequency ablation. 12th Asia Pacific Heart Rhythm Society Scientific Session (APHRS2019), Bangkok, Thailand, 2019.10.24-27

34. 北井 豪, 太田光彦: 弁膜症疾患に対する運動負荷心エコー有用性～運動負荷での弁膜症の定量評価は可能か?～. 日本超音波医学会第 46 回関西地方会学術集会, 大阪, 2019.10.26
35. 則政文字, 紺田利子, 河野裕之, 北井 豪, 太田光彦, 藤本寛太, 長野真弥, 山本 駿, 谷 知子, 古川裕: 褐色細胞腫破裂によるカテコラミン心筋症の一例. 日本超音波医学会第 46 回関西地方会学術集会, 大阪, 2019.10.26
36. 佐々木康博: 当施設における Laser balloon を用いた dragging 法による肺静脈解離の術後成績についての検討. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2019, 石川, 2019.11.7-9
37. 朴 美仙, 河野裕之, 佐々木康博, 小堀敦志: 心房細動アブレーションにおける第 4 世代クライオバルーンカテーテルの有効性検討. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2019, 石川, 2019.11.7-9
38. 河野裕之, 小堀敦志, 朴 美仙, 佐々木康博, 古川 裕: 高出力高周波電流アブレーションによる肺静脈解離の食道温度変化の検討. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2019, 石川, 2019.11.7-9
39. 高岡循子, 小堀敦志, 佐々木康博, 朴 美仙, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 中村 聡, 中村悟士, 坂地一朗, 古川 裕: ショートチップ型クライオバルーンカテーテルによる肺静脈電位観察の有効性検討. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2019, 石川, 2019.11.7-9
40. Tsujisaka Y, Kim K, Kaji S, Sasaki Y, Kitai T, Kobori A, Pak M, Toyota T, Ehara N, Kinoshita M, Furukawa Y: Determinants of the Improvement of Atrial Functional Mitral Regurgitation After Catheter Ablation for Atrial Fibrillation: Analysis of Three-Dimensional Multislice Computed Tomography and Transthoracic Echocardiography. Sessions of the American Heart Association (AHA2019), Philadelphia, PA, 2019.11.16-18
41. Tsujisaka Y, Toyota T, Ehara N, Kim K, Kitai T, Pak M, Sasaki Y, Kobori A, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Feasibility of Transcatheter Aortic Valve Replacement in Patients With Bicuspid Aortic Valve. Sessions of the American Heart Association (AHA2019), Philadelphia, PA, 2019.11.16-18
42. Kim K, Pak M, Toyota T, Sasaki Y, Kitai T, Kobori A, Ehara N, Kinoshita M, Kaji S, Furukawa Y: Clinical Outcomes and Predictors for Adverse Cardiac Events in Medically Treated Patients With Atrial Mitral Regurgitation. Sessions of the American Heart Association (AHA2019), Philadelphia, PA, 2019.11.16-18
43. 西浦直紀, 北井 豪, 宮脇規壽, 三好悠太郎, 舛本慧子, 河野裕之, 辻坂勇太, 朴 美仙, 豊田俊彬, 佐々木康博, 金 基泰, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 小山忠明, 古川 裕: 右心不全をきたした高度三尖弁逆流症に対し, 単独三尖弁手術を検討した 1 例. 第 10 回日本心臓弁膜症学会, 東京, 2019.11.29-30
44. 宮脇規壽, 金 基泰, 西浦直紀, 三好悠太郎, 舛本慧子, 河野裕之, 辻坂勇太, 朴 美仙, 豊田俊彬, 佐々木康博, 北井 豪, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕: 心室頻拍を契機に診断されたトランスサイレチン型心アミロイドーシスの 1 例. 第 128 回日本循環器学会近畿地方会, 大阪, 2019.11.30
45. 小堀敦志: ここまでわかる心電図: 不整脈編 心電図から局在を予測する. 第 128 回日本循環器学会近畿地方会 第 24 回近畿支部研修医のための教育セッション, 大阪, 2019.11.30
46. 河野裕之, 金 基泰, 西浦直紀, 宮脇規壽, 舛本慧子, 三好悠太郎, 辻坂勇太, 朴 美仙, 豊田俊彬, 佐々木康博, 北井 豪, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕: 治療部位の選択に苦慮した非 ST 上昇型急性心筋梗塞の一例. 第 33 回日本心臓血管インターベンション治療学会近畿地方会, 大阪, 2020.1.11
47. 宮脇規壽, 西浦直紀, 舛本慧子, 三好悠太郎, 河野裕之, 辻坂勇太, 朴 美仙, 豊田俊彬, 佐々木康博, 金 基泰, 北井 豪, 小堀敦志, 江原夏彦, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕: Coronary Orbital Atherectomy System を使用し, Viper wire が断裂した一例. 第 34 回日本心臓血管インターベンション治療学会近畿地方会, 大阪, 2020.2.15
48. 西浦直紀, 江原夏彦, 宮脇規壽, 舛本慧子, 三好悠太郎, 河野裕之, 辻坂勇太, 朴 美仙, 豊田俊彬, 佐々木康博, 金 基泰, 北井 豪, 小堀敦志, 木下 慎, 加地修一郎, 古川 裕: 心肺停止に至った左回旋枝高度狭窄合併高度大動脈弁狭窄に対し緊急 BAV/PCI 後, TAVI を施行し救命できた 1 例. 第 34 回日本心臓血管インターベンション治療学会近畿地方会, 大阪, 2020.2.15
49. 大塚脩斗, 岩田健太郎, 北井 豪, 下雅意崇亨, 中田歩美香, 滝本龍矢, 金 基泰, 江原夏彦, 小山忠明, 古川 裕: 経カテーテル大動脈弁植込術 (TAVI) 術前の患者における歩行速度による 6 分間歩行距離の推定に関する検討. 日本心臓リハビリテーション学会第 5 回近畿地方会, 大阪, 2020.2.15
50. 高橋真弓子, 松村佳苗, 仲村直子, 横山公子, 滝本龍矢, 北井 豪, 古川 裕: 活動調整が必要な頻脈性心不全患者の外來心臓リハビリテーションにおける支援. 日本心臓リハビリテーション学会第 5 回近畿地方会, 大阪, 2020.2.1

VII. 1.2 糖尿病・内分泌内科

1. 岩倉敏夫：迫りくる低血糖～今、求められる重症低血糖のリスクマネージメント～. 第3回多職種連携講演会, 厚木, 2019.4.19
2. 藤本寛太, 籾谷雄二, 伯田琢郎, 大久保万理江, 岩倉敏夫, 松岡直樹：短腸症候群における血中カルシウム値変化の検討. 第92回日本内分泌学会学術集会, 仙台, 2019.5.10
3. 籾谷雄二, 大久保万理江, 伯田琢郎, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 松岡直樹：初回手術から20年以上経って遠隔転移をきたした甲状腺癌患者11例の検討. 第92回日本内分泌学会学術集会, 仙台, 2019.5.10
4. 伯田琢郎, 籾谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 石原 隆, 松岡直樹：初回手術33年後に肺転移が出現した甲状腺乳頭癌の1例. 第92回日本内分泌学会学術集会, 仙台, 2019.5.11
5. 伯田琢郎, 岩倉敏夫, 大久保万理江, 藤本寛太, 籾谷雄二, 松岡直樹：治療を放置する2型糖尿病患者の臨床像について10年間の変化の検討. 第62回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019.5.25
6. 岩倉敏夫：重症低血糖を回避する～高齢者糖尿病治療のコツと落とし穴～. 加賀市医師会学術講演会, 加賀, 2019.5.31
7. 籾谷雄二：原発性アルドステロン症の病診連携. 神戸糖尿病内分泌連携セミナー, 神戸, 2019.6.6
8. 岩倉敏夫：迫りくる低血糖～無自覚性低血糖から考える治療戦略～. Insulin Expert Seminar, 大阪, 2019.7.4
9. 岩倉敏夫：糖尿病治療の光と影～安全かつ良質な糖尿病治療を目指して～. Diabetes Summer Seminar2019, 東京, 2019.7.6
10. 岩倉敏夫：糖尿病を放置する患者のかかえる問題と対策. 第10回西神戸内分泌・糖尿病オープンカンファレンス, 神戸, 2019.7.11
11. 岩倉敏夫：糖尿病通院治療中断のかかえる問題～チーム医療でいかに対応できるか～. 第22回阪神糖尿病セミナー (HANDS), 尼崎, 2019.9.7
12. 岩倉敏夫：今ここにある危機 - 重症低血糖を回避するためにすべきこと. TRF meeting 2019, 札幌, 2019.9.13
13. 藤本寛太, 石原 隆, 須川秀夫, 森 徹, 井上愛子, 大久保万理江, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹：診断と治療に悩んでいる甲状腺中毒症の1例. 第112回神戸甲状腺研究会, 神戸, 2019.9.14
14. 井上愛子, 藤本寛太, 大久保万理江, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹：FGF23高値を伴う低P血症をきたした前立腺癌骨転移の1例. 第225回日本内科学会近畿地方会, 神戸, 2019.9.21
15. 岩倉敏夫：迫りくる低血糖～今、求められる重症低血糖のリスクマネージメント～. 第9回東北信糖尿病エリアフォーラム, 長野, 2019.9.26
16. 岩倉敏夫：迫りくる低血糖～今、求められる重症低血糖のリスクマネージメント～. 第28回八尾地区糖尿病連携会, 八尾, 2019.10.3
17. 大久保万理江, 籾谷雄二, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 秋山 亮, 春原 匡, 谷 正一, 山下大祐, 松岡直樹：著明な石灰化を伴ったプロラクチノーマの1例. 第97回京都内分泌同好会, 京都, 2019.10.5
18. 岩倉敏夫：重症低血糖を防ぐためにすべきこと～安全かつ良質な糖尿病治療を目指して～. Diabetes Expert Forum～我が国の糖尿病治療を考える～, 大阪, 2019.10.6
19. 井上愛子, 藤本寛太, 籾谷雄二, 大久保万理江, 岩倉敏夫, 松岡直樹：バセドウ病の術前管理でステロイド大量療法が著効した1例. 第62回日本甲状腺学会学術集会, 前橋, 2019.10.11
20. 岩倉敏夫：迫りくる低血糖～高齢者糖尿病治療のコツと落とし穴～. 第7回次代を見据えた医療を考える会, 金沢, 2019.10.24
21. 岩倉敏夫：重症低血糖を回避する～高齢者糖尿病治療のコツと落とし穴～. 第49回明石糖尿病臨床の集い, 明石, 2019.10.26
22. 岩倉敏夫：患者・家族の調査結果からみえる重症低血糖の課題. 重症低血糖プレスセミナー, 東京, 2019.10.29
23. 松岡直樹：糖尿病治療の薬剤選択 メトホルミン添付文書改訂による変化を中心に. 糖尿病 Update セミナー in KOBE, 神戸, 2019.10.31
24. 大久保万理江, 岩倉敏夫, 藤本寛太, 籾谷雄二, 松岡直樹：自己免疫性脳炎を合併した多腺性自己免疫症候群III型 (APS3型) の1例. 第56回日本糖尿病学会近畿地方会, 大阪, 2019.11.9
25. 井上愛子, 大久保万理江, 藤本寛太, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹：二峰性の意識障害をきたした低血糖脳症の1例. 第56回日本糖尿病学会近畿地方会, 大阪, 2019.11.9

26. 岩倉敏夫：迫りくる低血糖～今、求められる重症低血糖のリスクマネージメント～. Yokohama Minato Diabetes Seminar ～低血糖について考える～, 横浜, 2019.11.26
27. 岩倉敏夫：生活習慣病患者を取り巻く Clinical Inertia と薬物治療の問題. 第9回神戸糖尿病 Expert Meeting, 神戸, 2019.11.28
28. 藤島雄幸, 籾谷雄二, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 臼井 健：GATA3 遺伝子に新規 Variant を認めた HDR 症候群の母子例. 第 29 回臨床内分泌代謝 Update, 高知, 2019.11.29
29. 大久保万理江, 籾谷雄二, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 秋山 亮, 春原 匡, 谷 正一, 山下大祐：著明な石灰化を伴ったプロラクチノーマの一例. 第 29 回臨床内分泌代謝 Update, 高知, 2019.11.30
30. 井上愛子, 藤本寛太, 大久保万理江, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹：FGF23 高値を伴う低 P 血症を呈した去勢抵抗性前立腺癌骨転移の 1 例. 第 29 回臨床内分泌代謝 Update, 高知, 2019.11.30
31. 岩倉敏夫：重症低血糖を回避する～DPP4 阻害薬がもたらした糖尿病治療のパラダイムシフト～. 超高齢化時代の血糖管理を考える会, 川崎, 2019.12.10
32. 岩倉敏夫：無自覚性低血糖への対策～FGM を活用した安全な糖尿病治療とは～. HYOGO Diabetes Conference 2019, 神戸, 2019.12.19
33. 松岡直樹：糖尿病の初期治療に関して～メトホルミンを中心に～. メトホルミンセミナー in 神戸, 神戸, 2020.1.22
34. 松岡直樹：DPP-4 阻害薬の最近の知見. DiaMond Seminar in KOBE, 神戸, 2020.2.6
35. 大森怜於, 藤本寛太, 大久保万理江, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 原 重雄：原発性甲状腺癌との鑑別が困難であった肺腺癌甲状腺転移の 1 例. 第 4 2 回京都甲状腺研究会, 京都, 2020.2.8
36. 籾谷雄二, 大森怜於, 大久保万理江, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 道田哲彦, 瀧口清海, 篠原尚吾, 原 重雄, 松岡直樹：原発性甲状腺癌との鑑別が困難であった肺腺癌甲状腺転移の 1 例. 第 113 回 神戸甲状腺研究会, 神戸, 2020.2.8
37. 藤島雄幸, 岩倉敏夫, 大久保万理江, 藤本寛太, 籾谷雄二, 松岡直樹：自己免疫性脳炎を合併した多腺性自己免疫症候群 III 型 (APS3 型) の一例. 第 1 4 回糖尿病臨床フォーラム, 大阪, 2020.2.15
38. 秋葉健太, 増本憲生, 入江 慶, 池末裕明, 室井延之, 松岡直樹, 橋田 亨：2 型糖尿病性ケトアシドーシスで救急搬送された患者の実態調査. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.16
39. 大森怜於, 藤本寛太, 大久保万理江, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 原 重雄：原発性甲状腺癌との鑑別が困難であった肺腺癌甲状腺転移の 1 例. 第 227 回日本内科学会近畿地方会 (開催中止：紙上発表), 京都, 2020.3.7
40. 大久保万理江, 伯田琢郎, 藤本寛太, 籾谷雄二, 岩倉敏夫, 松岡直樹：高血糖で治療に難渋しミュンヒハウゼン症候群が疑われた 2 型糖尿病の 1 例. 第 227 回日本内科学会近畿地方会 (開催中止：紙上発表), 京都, 2020.3.7
41. 岩倉敏夫：迫りくる低血糖～高齢者糖尿病治療のコツと落とし穴～. 糖尿病ライブ配信講演会, 神戸, 2020.3.31

Ⅶ. 1.3 腎臓内科

1. 吉本明弘：腎機能を考慮した抗凝固療法. 抗凝固療法カンファレンス in kobe, 神戸, 2019.4.11
2. 中村美咲季：ループス腎炎様の病理像を呈した膜性増殖性糸球体腎炎について. 第 14 回神戸膠原病腎臓カンファレンス, 神戸, 2019.5.13
3. 吉本明弘：多発性嚢胞腎の病態と新たな治療法. 多発性のう胞腎カンファレンス in AWAJI, 淡路, 2019.5.14
4. 吉本明弘：糖尿病性腎臓病について. 第 7 回 Kobe Nephrology Forum, 神戸, 2019.5.28
5. 澤村直彦：透析患者の降圧療法. 透析患者会勉強会, 神戸, 2019.6.9
6. 田路佳範, 澤村直彦, 中村和史, 塩田文彦, 吉本明弘：当院での ESA 製剤の使用の現状. 第 64 回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019.6.30
7. 澤村直彦, 中村和史, 能登理央, 塩田文彦, 田路佳範, 吉本明弘：当院における長期留置カテーテル使用の現状. 第 64 回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019.6.30
8. 吉本明弘：ADPKD に対するトルバプタンの使用経験. ADPKD Seminar, 神戸, 2019.7.10
9. 吉本明弘：長期 PD 患者の管理. 第 1 回京都 PD フォーラム, 京都, 2019.7.13

10. 吉本明弘：慢性腎臓病における尿酸管理の重要性. 第 16 回西播磨関節リウマチ学術講演会, 赤穂, 2019.7.20
11. 吉本明弘：腎代替療法の現状. 第 6 回地域連携セミナー, 神戸, 2019.8.24
12. 吉本明弘：多発性嚢胞腎の病態と当院での取り組み～腹部エコーを用いたスクリーニング～. ADPKD セミナー, 神戸, 2019.8.27
13. 吉本明弘：腎から全身を診る～DKD に伴う合併症を予防するために～. 実地臨床医の為の糖尿病セミナー, 大阪, 2019.8.31
14. 田路佳範：当院における腎臓内科診療の取り組み. 神戸腎臓病診療を考える会, 神戸, 2019.9.5
15. 吉本明弘：慢性腎臓病における CKD-MBD 治療について～チーム医療・地域連携を含めて～. 神戸腎臓病診療を考える会, 神戸, 2019.9.5
16. 吉本明弘：当院における ESA 製剤の使用状況と最近の話題. 腎性貧血治療の UP to DATE, 神戸, 2019.9.7
17. 吉本明弘：慢性腎臓病の治療におけるポイント～外来診療から病診連携まで～. 第 3 回 NARA Primary Care Conference, 奈良, 2019.9.28
18. 中村美咲季, 澤村直彦, 伊藤誠二, 田路佳範, 原 重雄, 吉本明弘：プレドニゾロンと MMF の併用療法が著効した MPGN 様の増殖性糸球体腎炎の 1 例. 第 225 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.9.21
19. 吉本明弘：慢性腎臓病における尿酸管理の重要性. 北区医師会学術講演会, 神戸, 2019.9.21
20. 吉本明弘：多発性嚢胞腎の病態と治療～当院での取り組みについて～. 心・腎カンファレンス, 須磨, 2019.10.3
21. 伊藤誠二：透析患者さんのフレイル、サルコペニア. 透析患者会勉強会, 神戸, 2019.10.4
22. 中村美咲季, 澤村直彦, 伊藤誠二, 能登理央, 田路佳範, 原 重雄, 吉本明弘：2 年間で当院にて経験した C3 腎症の 3 例についての検討. 第 49 回日本腎臓学会西部学術集会, 高知, 2019.10.18
23. 吉本明弘：慢性腎臓病 (CKD) の原因と腎代替療法の選択～AKI to CKD～. 第 2 回豊岡腎臓勉強会, 豊岡, 2019.11.10
24. 伊藤誠二, 中村美咲季, 澤村直彦, 能登理央, 田路佳範, 原 重雄, 吉本明弘：当院における腹膜透析症例の継続期間および離脱理由の検討. 第 25 回日本腹膜透析医学会学術集会・総会, 広島, 2019.11.24
25. 澤村直彦, 中村美咲季, 伊藤誠二, 田路佳範, 吉本明弘, 原 重雄, 能登理央, 田中 淳：化学療法により透析を離脱できた、MGRS による急速進行性糸球体腎炎の 1 例. 226 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.12.21
26. 吉本明弘：腎性貧血治療の最近の話題～当院における ESA 製剤の使用状況を含めて～. 大阪, 2020.2.27
27. Seiji Ito, Misaki Nakamura, Naohiko Sawamura, Rio Noto, Yoshinori Taro, Akihiro Yoshimoto：Examination of the Relationship Between Peritoneal Dialysis Duration and Age at Introduction. 40th Annual Dialysis Conference, Kansas City, USA, 2020.2.8-11
28. Naoya Kamae, Satoshi Nakamura, Kazuhisa Inoue, Hiroko Nakazono, Yu Harazono, Sakaji Ichiro, Akihiro Yoshimoto：Consideration of continuous blood purification therapy during surgery. 40th Annual Dialysis Conference, Kansas City, USA, 2020.2.8-11

VII. 1. 4 脳神経内科

1. 尾原信行, 今村博敏, 乾涼磨, 片上隆史, 堀井亮, 朝倉健登, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 重安将志, 梶浦晋司, 田村亮太, 角替麻里絵, 福田竜丸, 石山浩之, 秋山智明, 佐々木夏一, 村上泰隆, 藤原悟, 大村佳大, 春原匡, 福井伸行, 福光 龍, 足立秀光, 谷 正一, 幸原伸夫, 坂井信幸：24 時間戦えます！TREVO Xp ProVue Retriever の実力. AIS summit WEST, 2019.4.27
2. 田村亮太, 石井淳子, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 瀬川翔太, 大平純一朗, 三村直哉, 村上泰隆, 藤原 悟, 尾原信行, 河野智之, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫：ギランバレー症候群における顔面神経麻痺の検討. 第 60 回日本神経学会, 大阪, 2019.5.23
3. Ishii J, Tamura R, Ohira J, Kimura M, Kuroda T, Segawa S, Mimura N, Murakami Y, Fuiwara S, Ohara N, Kono T, Yoshimura H, Kawamoto M, Kohara N：Peripheral nerve involvement in Bickerstaff brainstem encephalitis. 第 60 回日本神経学会, 大阪, 2019.5.23
4. 黒田健仁, 藤原 悟, 尾原信行, 河野智之, 今村博敏, 神谷侑画, 木村正夢嶺, 田村亮太, 瀬川翔太, 大平純一朗, 三村直哉, 村上泰隆, 石井淳子, 吉村 元, 川本未知, 有吉孝一, 坂井信幸, 幸原伸夫：急性期脳卒中診療におけるプレホスピタルの現状と課題. 第 60 回日本神経学会, 大阪, 2019.5.23

5. 小柳圭一, 石井淳子, 黒田健仁, 浅井康紀, 門 浄彦, 岩田健太郎, 幸原伸夫: HAL が有効であった重度体幹機能低下の進行期顔面肩甲上腕型ジストロフィーの一症例. 第 60 回日本神経学会, 大阪, 2019.5.24
6. Fujiwara S, Ohara N, Kono T, Imamura H, Murakami Y, Adachi H, Sakai N, Kohara N: Early detection for intracranial atherosclerosis in acute thrombectomy. 第 60 回日本神経学会, 大阪, 2019.5.25
7. 藤原 悟, 吉村 元, 幸原伸夫: 免疫チェックポイント阻害薬と自己免疫性脳炎・髄膜炎・脊髄炎. 第 60 回日本神経学会, 大阪, 2019.5.25
8. 尾原信行, 乾 涼磨, 片上隆史, 堀井 亮, 朝倉健登, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 重安将志, 梶浦晋司, 田村亮太, 角替麻里絵, 福田竜丸, 石山浩之, 秋山智明, 佐々木夏一, 村上泰隆, 藤原 悟, 大村佳大, 春原 匡, 福井伸行, 福光 龍, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 幸原伸夫, 坂井信幸: 令和における脳梗塞急性期の抗凝固療法. 第 11 回近畿脳血管障害カンファレンス Evidence Session, 2019.6.1
9. 黒田健仁, 吉村 元, 十河正弥, 佐野円香, 乾 涼磨, 片上隆史, 荒武由利子, 木村正夢嶺, 田村亮太, 角替麻里絵, 石山浩之, 藤原 悟, 村上泰隆, 石井淳子, 尾原信行, 川本未知, 幸原伸夫: MADSAM 様の神経伝導所見を呈した neurofibromatosis 1-associated neuropathy の一例. 第 57 回亀山正邦記念神経懇話会 (KSK), 大阪, 2019.6.15
10. 尾原信行, 今村博敏, 乾 涼磨, 片上隆史, 堀井 亮, 朝倉健登, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 重安将志, 梶浦晋司, 田村亮太, 角替麻里絵, 福田竜丸, 石山浩之, 秋山智明, 佐々木夏一, 村上泰隆, 藤原 悟, 大村佳大, 春原 匡, 福井伸行, 福光 龍, 足立秀光, 谷 正一, 幸原伸夫, 坂井信幸: 血栓回収療法を施行した急性脳主幹動脈閉塞例の塞栓源と予後. 第 6 回心血管脳卒中学会, 東京, 2019.6.28
11. 木村正夢嶺, 川本未知, 乾 涼磨, 片上隆史, 黒田健仁, 田村亮太, 角替麻里絵, 石山浩之, 藤原 悟, 村上泰隆, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫: 遅発型ポンペ病姉妹例の治療経過. 神戸神経筋疾患セミナー 2019, 神戸, 2019.7.10
12. 石井淳子, 幸原伸夫: SLE に合併した PML –主治医が脳生検に期待したこと–. 第 60 回日本神経病理学会, 名古屋, 2019.7.15
13. 田村亮太, 藤原 悟, 乾 涼磨, 片上隆史, 荒武由利子, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 角替麻里絵, 石山浩之, 村上泰隆, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫: クリプトコッカス髄膜炎、傍椎体膿瘍を契機に診断した特発性 CD リンパ球減少症の高齢女性の例. 日本神経学会第 114 回近畿地方会, 大阪, 2019.7.27
14. 黒田健仁, 村上泰隆, 荒武由利子, 乾 涼磨, 片上隆史, 木村正夢嶺, 田村亮太, 角替麻里絵, 石山浩之, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫: 共同偏視と spindle coma を発症した Bickerstaff 型脳幹炎の 1 例. 日本神経学会第 114 回近畿地方会, 大阪, 2019.7.27
15. 角替麻里絵, 川本未知, 尾原信行, 乾 涼磨, 片上隆史, 荒武由利子, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 田村亮太, 石山浩之, 藤原 悟, 村上泰隆, 石井淳子, 吉村 元, 幸原伸夫: 20 年以上の経過で歩行障害が進行した motor-sensory neuropathy の 53 歳男性例. 第 78 回兵庫神経内科研究会, 神戸, 2019.9.13
16. 川本未知: パーキンソン病治療薬 up-to-date. 兵庫地区薬剤師会研修会, 神戸, 2019.9.19
17. 清水祐里, 西野彰悟, 吉田 誠, 山下大祐, 原 重雄, 古岡慶子, 長野 徹, 藤原 悟: 色素沈着症の一例. 第 86 回日本病理学会近畿支部学術集会, 吹田, 2019.9.19
18. 大平純一朗, 石井淳子, 藤原 悟, 村上泰隆, 尾原信行, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫: 声帯麻痺を含む急速進行性の球麻痺を来したギランバレー症候群の 1 例. 第 31 回日本神経免疫学会, 千葉, 2019.9.27
19. 石井淳子, 尾原信行, 松梨敦史, 富井啓介, 長野 徹, 原 重雄, 幸原伸夫: 免疫チェックポイント阻害薬使用後に顔面の筋萎縮を呈した肺腺癌の一例. 第 31 回日本神経免疫学会, 千葉, 2019.9.27
20. 尾原信行: 脳卒中 神戸市の現状. ストップ NO 卒中プロジェクトエリア会議 in 兵庫, 神戸, 2019.10.23
21. 尾原信行, 乾 涼磨, 片上隆史, 堀井 亮, 朝倉健登, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 重安将志, 梶浦晋司, 田村亮太, 角替麻里絵, 福田竜丸, 石山浩之, 秋山智明, 村上泰隆, 藤原 悟, 大村佳大, 春原 匡, 福井伸行, 福光 龍, 今村博敏, 谷 正一, 幸原伸夫, 坂井信幸: 脳卒中で困らない街 神戸を目指して. 第 40 回多摩地区脳卒中治療研究会, 東京, 2019.10.25
22. 吉村 元: 成人のてんかん重積状態への対応. 第 53 回日本てんかん学会, 神戸, 2019.10.31
23. 片上隆史, 吉村 元, 黒田健仁, 石山浩之, 乾 涼磨, 木村正夢嶺, 田村亮太, 角替麻里絵, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 川本未知, 幸原伸夫: 非けいれん性てんかん重積状態の診断に頭部 MRI、脳血流 SPECT が有用であった一例. 第 53 回日本てんかん学会, 神戸, 2019.11.1
24. 吉村 元: 成人のてんかん重積状態. 第 53 回日本てんかん学会, 神戸, 2019.11.1

25. 尾原信行, 乾涼磨, 片上隆史, 堀井亮, 朝倉健登, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 重安将志, 梶浦晋司, 田村亮太, 角替麻里絵, 福田竜丸, 石山浩之, 秋山智明, 村上泰隆, 藤原悟, 大村佳大, 春原匡, 福井伸行, 福光龍, 今村博敏, 谷正一, 幸原伸夫, 坂井信幸: どこから来たの? その血栓 - 脳梗塞塞栓源検索の実際 -. HeartBrainConference, 2019.11.8
26. 尾原信行: 脳卒中の予防と治療. 第 13 回兵庫県脳卒中市民公開講座, 神戸, 2019.11.10
27. Fujiwara S, Ohara N, Imamura H, Kimura M, Tsunogae M, Ishiyama H, Murakami Y, Adachi H, Kohara N, Sakai N: CT/CTA based selection for the treatment of Large Vessel Occlusion. 第 35 回日本脳神経血管内治療学会 (JSNET2019), 福岡, 2019.11.21
28. 藤原 悟, 尾原信行, 今村博敏, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一, 坂井信幸, 幸原伸夫: 病棟急変対応システム (Rapid Response System,RRS) を活用した院内発症脳梗塞対応. 第 35 回日本脳神経血管内治療学会 (JSNET2019), 福岡, 2019.11.21
29. Tsunogae M, Fujiwara S, Ohara N, Kimura M, Ishiyama H, Murakami Y, Imamura H, Adachi H, Sakai N, Kohara N: Futile recanalization in mechanical thrombectomy for large vessel occlusion. 第 35 回日本脳神経血管内治療学会 (JSNET2019), 福岡, 2019.11.21
30. 村上泰隆, 尾原信行, 石山浩之, 藤原 悟, 大村佳大, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 今村博敏, 幸原伸夫, 坂井信幸: 当院における症候性頭蓋内動脈狭窄症の後方視的検討. 第 35 回日本脳神経血管内治療学会 (JSNET2019), 福岡, 2019.11.21
31. 尾原信行, 今村博敏, 藤原 悟, 村上泰隆, 石山浩之, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 足立秀光, 有吉孝一, 幸原伸夫, 坂井信幸: 救急隊出動から再開通までの時間短縮を目指した取組み. 第 35 回日本脳神経血管内治療学会 (JSNET2019), 福岡, 2019.11.21
32. 黒田健仁, 藤原 悟, 尾原信行, 村上泰隆, 今村博敏, 足立秀光, 神谷侑画, 有吉孝一, 坂井信幸, 幸原伸夫: プレホスピタルで脳卒中以外を疑われ血管内治療を行った症例の検討. 第 35 回日本脳神経血管内治療学会 (JSNET2019), 福岡, 2019.11.21
33. 石山浩之, 尾原信行, 今村博敏, 幸原伸夫, 内田和孝, 森本 剛, 山上 宏, 坂井信幸, 吉村紳一: 前方循環主幹動脈閉塞に対する血管内治療におけるエダラボン投与と転帰の関連. 第 35 回日本脳神経血管内治療学会 (JSNET2019), 福岡, 2019.11.21
34. 木村正夢嶺, 藤原 悟, 尾原信行, 今村博敏, 足立秀光, 幸原伸夫, 坂井信幸: 単純 CT における閉塞血管の石灰化所見が 1pass 再開通率に及ぼす影響. 第 35 回日本脳神経血管内治療学会 (JSNET2019), 福岡, 2019.11.22
35. 吉村 元, 黒田健仁, 藤原 悟, 片上隆史, 乾 涼磨, 木村正夢嶺, 角替麻里絵, 田村亮太, 石山浩之, 村上泰隆, 石井淳子, 尾原信行, 川本未知, 幸原伸夫: cyclic seizures による非けいれん性てんかん重積状態の診断と治療に急性期持続脳波モニタリングが有用であった 2 例. 第 49 回日本臨床神経生理学会, 福島, 2019.11.28
36. 藤原 悟, 石井淳子, 吉村 元, 川本未知, 幸原伸夫: 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症における伝導ブロック所見の検討. 第 49 回日本臨床神経生理学会, 福島, 2019.11.29
37. 黒田健仁, 吉村 元, 松下隆史, 十河正弥, 乾 涼磨, 片上隆史, 木村正夢嶺, 田村亮太, 角が麻里絵, 石山浩之, 藤原 悟, 村上泰隆, 石井淳子, 尾原信行, 川本未知, 幸原伸夫: CIDP との鑑別に神経超音波検査が有用であった neurofibromatosis 1-associated neuropathy の一例. 第 49 回日本臨床神経生理学会, 福島, 2019.11.30
38. 片上隆史, 川本未知, 乾 涼磨, 黒田健仁, 木村正夢嶺, 田村亮太, 石山浩之, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 吉村 元, 尾原信行, 大野欽司, 幸原伸夫: サルプタモールが著効した DOK7 変異型先天性筋無力症の 1 例. 日本神経学会第 115 回近畿地方会, 大阪, 2019.12.7
39. 乾 涼磨, 川本未知, 下村良充, 片上隆史, 荒武由利子, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 田村亮太, 角替麻里絵, 石山浩之, 藤原 悟, 村上泰隆, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫: 体幹失調と異常眼球運動を呈した抗 Ma2/Ta 抗体陽性ホジキンリンパ腫の 1 例. 日本神経学会第 115 回近畿地方会, 大阪, 2019.12.7
40. 川本未知: ALS, MSA, 筋ジスの疾患理解と包括的呼吸ケア. 淡路圏域難病支援者研修会, 淡路, 2019.12.14
41. 角替麻里絵, 川本未知, 尾原信行, 乾 涼磨, 片上隆史, 荒武由利子, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 田村亮太, 石山浩之, 藤原 悟, 村上泰隆, 石井淳子, 吉村 元, 幸原伸夫: 慢性進行性の motor-sensory neuropathy を呈した家族性神経核内封入体病の一例. 第 58 回亀山正邦記念神経懇話会 (KSK), 京都, 2019.12.14

42. 荒武由利子, 川本未知, 原 重雄, 佐々木夏一, 乾 涼磨, 片上隆史, 木村正夢嶺, 角替麻里絵, 田村亮太, 石山浩之, 村上泰隆, 藤原 悟, 石井淳子, 尾原信行, 吉村 元, 幸原伸夫: 当初肥厚性硬膜炎様の病理像を呈したが再生検で Lymphoplasmacyte-rich meningioma と診断した一例. 第 20 回日本神経病理学会近畿地方会, 大津, 2019.12.21
43. 藤原 悟: 免疫チェックポイント阻害薬と自己免疫性中枢神経合併症. 第 58 回摩耶神経カンファレンス, 神戸, 2020.1.31
44. 荒武由利子, 川本未知, 原重雄, 佐々木夏一, 乾涼磨, 片上隆史, 木村正夢嶺, 黒田健仁, 角替麻里絵, 田村亮太, 石山浩之, 村上泰隆, 藤原悟, 石井淳子, 尾原信行, 吉村元, 幸原伸夫: 7年の経過で視力障害が進行し鞍上部腫瘍の鑑別に苦慮した 39 歳男性例. 第 79 回兵庫神経内科学研究会, 神戸, 2020.2.21

VII. 1.5 消化器内科

1. 杉ノ下与志樹: 透析患者の C 型肝炎治療の経験 - 透析室の C 型肝炎ゼロ達成!?. C 型肝炎撲滅講演会, 神戸, 2019.4.4
2. Ueno Y: CORRELATION BETWEEN ENDOSCOPIC FEATURES AND HISTOLOGICAL SUBTYPES OF SMALL INTESTINAL LYMPHOMAS. ESGE2019, Prague, 2019.4.5
3. Morita S: ENDOSCOPIC SUBEPITHELIAL DISSECTION FOR SUPERFICIAL PHARYNGEAL CANCER: A CASE SERIES OF 44 SUPERFICIAL CANCERS. ESGE2019, Prague, 2019.4.5
4. 森田周子: 当院における緊急内視鏡を施行した消化管出血症例の検討. 脳卒中センターカンファレンス, 神戸, 2019.4.18
5. 森田周子: 当院における緊急内視鏡を施行した消化管出血症例の検討. 第 40 回神戸市中央区内科医会学術講演会, 神戸, 2019.4.20
6. 占野尚人: GERD とバレット食道癌. 第 40 回神戸市中央区内科医会学術講演会, 神戸, 2019.4.20
7. 文原大貴, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: 当院におけるレゴラフェニブ不応例に対するレンバチニブの使用経験. 第 55 回日本肝臓学会総会, 東京, 2019.5.30
8. 山本晴菜, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 平嶋正樹, 池末裕明, 室井延之, 猪熊哲朗, 橋田 亨: 肝疾患専門医療機関における肝炎医療コーディネーターとしての薬剤師の取り組み. 第 55 回日本肝臓学会総会, 東京, 2019.5.30
9. 山本晴菜, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 平嶋正樹, 池末裕明, 室井延之, 猪熊哲朗, 橋田 亨: 肝疾患専門医療機関における肝炎医療コーディネーターとしての薬剤師の取り組み. 第 55 回日本肝臓学会総会, 東京, 2019.5.30
10. 和田将弥: 臍周囲液体貯留に対する超音波内視鏡下臍嚢胞. 第 97 回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019.5.31
11. 森田周子: 表在咽頭腫瘍における深達度の内視鏡診断. 第 97 回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019.5.31
12. 谷口洋平: 中下悪性胆道狭窄に対する術前 full covered metallic stent(fcSEMS) の検討. 第 97 回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019.6.1
13. 占野尚人: 胃癌 ESD 非治癒切除例の検討. 第 97 回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2019.6.1
14. 森田周子: 壁深達度 T4b 症例の臨床経過. 第 73 回日本食道学会学術集会, 福岡, 2019.6.6
15. 井上聡子: 炎症性腸疾患に対する薬物治療. 第 25 回中央区薬剤師学術講演会, 神戸, 2019.6.15
16. 井上聡子, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 池田結香, 田中由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: 著明な pseudopolyposis をきたし、イレウスに至った潰瘍性大腸炎の一例. 第 55 回兵庫県内視鏡治療談話会, 神戸, 2019.6.26
17. 文原大貴: 進行肝細胞癌に対するレンバチニブの使用経験. 第 34 回東神戸消化器疾患セミナー, 神戸, 2019.6.27
18. 田中由香里, 占野尚人, 福島政司, 猪熊哲朗, 上田浩之: 内視鏡的止血が困難であった非静脈瘤性上部消化管出血に対する緊急 IVR の検討. 第 102 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2019.7.6
19. 井上聡子, 猪熊哲朗, 山下大祐, 原 重雄: 潰瘍性大腸炎に伴う colitic cancer の臨床像. 第 102 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2019.7.6

20. 上田智也, 谷口洋平, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: 腹腔鏡下胆嚢摘出術後の難治性胆汁瘻に対して Fully Covered Self Expandable Metallic Stent 留置が有用であった一例. 第 102 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2019.7.6
21. 長尾宗一郎, 谷口洋平, 上田智也, 唐渡修一郎, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 山下大祐, 原 重雄: 腎細胞癌肝転移との鑑別に EUS-FNA が有用であった微小 PanNET の一例. 第 102 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2019.7.6
22. 大久保佑樹, 谷口洋平, 上野由香里, 文原大貴, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗, 山下大祐, 原 重雄: ステロイドにより軽快したペムプロリズマブ関連胃炎の一例. 第 102 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2019.7.6
23. 池田結香, 井上聡子, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗, 山下大祐: 急激な進行をたどった消化管アミロイドーシスに対してトシリズマブが著効した一例. 第 102 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2019.7.6
24. 文原大貴, 占野尚人, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 上野由香里, 大久保佑樹, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗, 原 重雄: 通常内視鏡観察での発見, 全貌観察が困難であった下咽頭癌の 2 例. 第 102 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2019.7.6
25. 秋山慎介, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 池田結香, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: 食道顆粒細胞腫に対する ESD の経験. 第 102 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2019.7.6
26. 唐渡修一郎, 細谷和也, 上田智也, 長尾宗一郎, 上野由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: 当院における上部消化管内視鏡的異物除去症例の検討. 第 102 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2019.7.6
27. 谷口洋平, 和田将弥, 猪熊哲朗: 膵癌に対する術前胆道ドレナージの検討 -Metallic Stent vs Plastic Stent-. 第 50 回日本膵臓学会大会, 東京, 2019.7.12
28. 和田将弥, 谷口洋平: ペムプロリズマブによる免疫関連有害事象と思われる膵炎の一例. 第 50 回日本膵臓学会大会, 東京, 2019.7.12
29. 和田将弥, 谷口洋平, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における膵粘液性嚢胞腫瘍 (MCN) 切除例の検討. 第 50 回日本膵臓学会大会, 東京, 2019.7.13
30. 長尾宗一郎, 谷口洋平, 上田智也, 唐渡修一郎, 田中由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: 胆管空腸吻合部完全狭窄に対して経皮胆道鏡とシングルバルーン内視鏡 (SBE) によるランデブー法が有用であった一例. 第 42 回京大消化器内科関連病院症例検討会, 京都, 2019.7.27
31. 文原大貴: 当院でのトルバプタン使用経験からの考察. 第 2 回神戸消化器懇話会, 神戸, 2019.8.1
32. 谷口洋平: 当院における膵癌診療の現状. 第 2 回神戸消化器懇話会, 神戸, 2019.8.1
33. 森田周子: 胃癌の内視鏡診断と治療並びにリスク管理 基礎から極める. 第 36 回日本消化器内視鏡学会近畿セミナー, 大阪, 2019.8.25
34. 井上聡子: 当院における潰瘍性大腸炎の診療方針について. 神戸 IBD 医療連携を考える会, 神戸, 2019.8.29
35. 井上聡子: 著明な偽ポリポーシスを呈し短期間で狭窄が進行した潰瘍性大腸炎. 第 9 回 IBD Research Seminar, 大阪, 2019.9.7
36. 秋山慎介, 谷口洋平, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 田中由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 細谷和也, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: 胃粘膜下腫瘍に対する EUS-FNA の有用性の検討. 日本消化器病学会近畿支部第 111 回例会, 大阪, 2019.10.5
37. 細谷和也, 占野尚人, 森田周子, 猪熊哲朗: 胃癌 ESD 後 eCuraC-2 例の検討. 日本消化器病学会近畿支部第 111 回例会, 大阪, 2019.10.5
38. 唐渡修一郎, 上田智也, 長尾宗一郎, 田中由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: Gemcitabine+nab-Paclitaxel 併用療法が奏功し、Conversion surgery 可能となった局所進行切除不能膵癌の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 111 回例会, 大阪, 2019.10.5

39. 長尾宗一郎, 井上聡子, 上田智也, 唐渡修一郎, 田中由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗, 原 重雄: 下行結腸狭窄に対して外科的治療を要した潰瘍性大腸炎の一例. 日本消化器病学会近畿支部第 111 回例会, 大阪, 2019.10.5
40. 文原大貴, 鄭 浩柄, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 田中由香里, 大久保佑樹, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: レゴラフェニブ不応の肝細胞癌に対して長期間レンパチニブが有効である一例. 日本消化器病学会近畿支部第 111 回例会, 大阪, 2019.10.5
41. 田中由香里, 杉ノ下与志樹, 鄭 浩柄, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 猪熊哲朗, 石川隆之: 抗 PD-1 抗体によるステロイド抵抗性の高度肝障害に対してミコフェノール酸モフェチルが著効した一例. 日本消化器病学会近畿支部第 111 回例会, 大阪, 2019.10.5
42. 上田智也, 鄭 浩柄, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 田中由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗, 吉岡 聡: びまん性肝内動脈シャントに伴う門脈圧亢進症に対して肝動脈塞栓術が有用であった一例. 日本消化器病学会近畿支部第 111 回例会, 大阪, 2019.10.5
43. 大久保佑樹, 杉ノ下与志樹, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 田中由香里, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 山下大祐: 出血を契機に診断しえた肝細胞癌胃転移の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 111 回例会, 大阪, 2019.10.5
44. 森田周子: 消化管領域における内視鏡医療 診断から治療まで. 第 64 回日本口腔外科学会総会・学術大会, 北海道, 2019.10.27
45. 上田智也, 谷口洋平, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 池田結香, 田中由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: Mirizzi 症候群に対して経口胆道鏡下水圧衝撃波結石破碎術 (EHL) で結石除去が有用であった 1 例. 第 56 回兵庫県内視鏡治療談話会, 大阪, 2019.10.5
46. 細谷和也: 大腸内視鏡 診断の基礎から最近の話題まで - 早期発見・早期治療を目指して -. 兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会, 神戸, 2019.11.28
47. 秋山慎介: 拡大内視鏡画像の検討および病理対比について その 1(胃). 第 3 回神戸拡大内視鏡研究会, 神戸, 2019.11.30
48. 森田周子: 食道疾患 診断と治療の update 基本からリスク管理まで. 第 37 回日本消化器内視鏡学会近畿セミナー, 大阪, 2019.12.8
49. 田中由香里: 当院における免疫チェックポイント阻害薬による肝障害を発症した症例の検討. 第 43 回日本肝臓学会西部会, 下関, 2019.12.12
50. 文原大貴: レンパチニブ中止後に急速進行を認めた進行肝細胞癌症例に対する考察. 第 1 回 KOBE Liver Conference, 神戸, 2020.1.11
51. 細谷和也, 森田周子, 占野尚人, 猪熊哲朗: 抗血栓薬内服例における 2nd look の意義に関する検討. 第 103 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18
52. 秋山慎介, 細谷和也, 占野尚人, 森田周子, 猪熊哲朗: 当院における表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍に対する EMR の現状. 第 103 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18
53. 大久保佑樹, 杉ノ下与志樹, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 池田結香, 田中由香里, 文原大貴, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 山下大祐: 出血を契機に診断しえた肝細胞癌胃転移の 2 例. 第 103 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18
54. 戸田 潤, 細谷和也, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 重里徳子, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: 多彩な内視鏡像を呈した腸管濾胞性リンパ腫の 1 例. 第 103 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18
55. 唐渡修一郎, 谷口洋平, 上田智也, 長尾宗一郎, 田中由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: NBI 拡大観察により AIN(Anal intraepithelial neoplasia) と診断した病変に対して ESD を施行した 1 例. 第 103 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18

56. 重里徳子, 井上聡子, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 戸田 潤, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: 内視鏡像と病理所見が乖離した好酸球性胃腸炎の一例. 第 103 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18
57. 長尾宗一郎, 谷口洋平, 上田智也, 唐渡修一郎, 田中由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: 腸管空腸吻合部完全閉塞に対して経皮胆道鏡とシングルルーメン内視鏡 (SBE) によるランデブー法が有用であった一例. 第 103 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18
58. 上田智也, 谷口洋平, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 田中由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: Mirizzi 症候群に対して経口胆道鏡下での電気水圧衝撃波破碎術 (EHL) が有用であった 1 例. 第 103 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18
59. 文原大貴, 谷口洋平, 和田将弥, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 田中由香里, 大久保佑樹, 秋山慎介, 細谷和也, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗, 貝原 聡: 膵管、胆管拡張を来した、術前診断に難渋した NET-G3 の一例. 第 103 回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18
60. 上田智也: 症例提示 (食道). 第 371 回兵庫県消化管研究会, 神戸, 2020.1.23
61. 森田周子: 薬物性潰瘍から患者さんを守るために ~消化器内科の立場から~. OTSUKA web seminar, 神戸, 2020.2.12
62. 井上聡子, 猪熊哲朗: 潰瘍性大腸炎に対するトファシチニブの当院の使用経験. 日本消化器病学会近畿支部第 112 回例会, 京都, 2020.2.29
63. 杉ノ下与志樹, 和田将弥, 猪熊哲朗: 日本消化器病学会近畿支部第 112 回例会. 京都, 2020.2.29, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 和田将弥, 猪熊哲朗: ソラフェニブの治療効果を踏まえた分子標的治療薬による進行肝細胞癌治療戦略. 日本消化器病学会近畿支部第 112 回例会, 京都, 2020.2.29
64. 大久保佑樹, 谷口洋平, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 池田結香, 田中由香里, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: 当院における TS1 膵癌の臨床および画像的特徴についての検討. 日本消化器病学会近畿支部第 112 回例会, 京都, 2020.2.29
65. 文原大貴, 鄭 浩柄, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 重里徳子, 戸田 潤, 大久保佑樹, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: レンバチニブ中止後に急速進行を認めた進行肝細胞癌の 2 例. 日本消化器病学会近畿支部第 112 回例会, 京都, 2020.2.29
66. 重里徳子, 杉ノ下与志樹, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 戸田 潤, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗: PBC・AIH の病態を異時性に示した PBC-AIH Overlap 症候群の 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 112 回例会, 京都, 2020.2.29
67. 上田智也, 谷口洋平, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 重里徳子, 戸田 潤, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: バスケット嵌頓の解除に経口胆道下での電気水圧衝撃波破碎術 (EHL) が有用であった 1 例. 日本消化器病学会近畿支部第 112 回例会, 京都, 2020.2.29
68. 和田将弥, 谷口洋平, 猪熊哲朗: 膵内分泌腫瘍診断においてソマトスタチン受容体シンチグラフィは有用か?. 日本消化器病学会近畿支部第 112 回例会, 京都, 2020.2.29
69. 占野尚人, 細谷和也, 森田周子, 猪熊哲朗: (追加発言) 高齢者における中・下咽頭癌の経口的切除. 日本消化器病学会近畿支部第 112 回例会, 京都, 2020.2.29
70. 戸田 潤, 井上聡子, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 重里徳子, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 占野尚人, 森田周子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗: 当院で経験した日本海裂頭条虫の 4 例. 日本消化器病学会近畿支部第 112 回例会, 京都, 2020.2.29

VII. 1.6 呼吸器内科

1. 細谷和貴, 藤本大智, 大崎 恵, 松梨敦史, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: EGFR 遺伝子変異陽性 + T790M 変異陽性非小細胞肺癌に対するオシメルチニブ療法の有効性・安全性に関する検討. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.12
2. 佐藤悠城, 藤本大智, 森本 剛, 細谷和貴, 河内勇人, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: 免疫チェックポイント阻害薬の dissociated response の頻度と奏効率についての検討. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.13

3. 立川 良, 大崎 恵, 松梨敦史, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介: 実臨床における“器質化肺炎”はどの程度背景因子を有しているのか?. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.13
4. 立川 良: CPAP 治療前後のエネルギー代謝と睡眠時間の変化の多様性. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.13
5. 松梨敦史, 永田一真, 大崎 恵, 細谷和貴, 河内勇人, 平林亮介, 森 令法, 古郷摩利子, 佐藤悠城, 藤本大智, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: 当院での interstitial pneumonia with autoimmune features 症例における肺高血圧症の合併の検討. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.13
6. 永田一真: 非侵襲的呼吸管理の現状と今後の課題 ~慢性II型呼吸不全~. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.14
7. 嶋田有里, 松梨敦史, 立川 良, 島 祐介, 大崎 恵, 益田隆広, 細谷和貴, 平林亮介, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介, 舛本慧子, 加地修一郎, 西久保雅司: 肺癌に随伴した Palmar Fasciitis with Polyarthritides Syndrome の一例. 第 110 回日本肺癌学会関西支部学術集会, 京都, 2019.6.29
8. 松梨敦史, 立川 良, 嶋田有里, 島 祐介, 益田隆広, 細谷和貴, 平林亮介, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 西久保雅司, 西岡弘晶, 原 重雄, 富井啓介: 壊疽性膿皮症の関与が疑われた空洞性肺病変の一例. 第 93 回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2019.7.6
9. 島 祐介, 松梨敦史, 藤本大智, 嶋田有里, 益田隆広, 細谷和貴, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 原 重雄, 富井啓介: 間質性肺疾患との鑑別を有した腫瘍塞栓を伴う急速進行性肺癌の一例. 第 93 回呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2019.7.6
10. 細谷和貴, 佐藤悠城, 島 祐介, 嶋田有里, 大崎 恵, 益田隆広, 松梨敦史, 平林亮介, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介, 宍戸 裕, 高橋 豊, 原 重雄: 免疫チェックポイント阻害薬による薬剤性肺障害を、VATS 下肺生検により組織学的に診断し得た一例. 第 93 回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2019.7.6
11. 永田一真: COPD 増悪に対する高流量鼻カニューラ酸素療法(HFNC)の有用性. 第 41 回日本呼吸療法医学会学術集会, 大阪, 2019.8.3
12. 石井淳子, 尾原信行, 松梨敦史, 富井啓介, 長野 徹, 原重雄, 幸原伸夫: 免疫チェックポイント阻害薬使用後に顔面の筋萎縮を呈した肺腺癌の一例. 第 31 回日本神経免疫学会, 千葉, 2019.9.27
13. Yuki Sato, Daichi Fujimoto, Kazutaka Hosoya, Kazuma Nagata, Atsushi Nakagawa, Ryo Tachikawa, Keisuke Tomii : Impact of visceral fat area as independent predictive factor in patients with advanced non-small cell lung cancer treated with nivolumab. ESMO 2019, バルセロナ, スペイン, 2019.9.28
14. 永田一真: 特発性肺線維症における非侵襲的呼吸管理. 第 29 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 名古屋, 2019.11.11
15. 永田一真: 呼吸ケアにおける医療機器「キカイ」を上手に使おう 非侵襲的呼吸管理①: NPPV と HFNC. 第 29 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 名古屋, 2019.11.11
16. 永田一真: 慢性呼吸不全に対する長期 HFNC の有効性. 第 29 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会, 名古屋, 2019.11.12
17. 嶋田有里, 中川 淳, 島 祐介, 大崎 恵, 松梨敦史, 益田隆広, 細谷和貴, 平林亮介, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 立川 良, 富井啓介, 甲 貴文, 高橋 豊, 平本展大, 山下大祐, 原 重雄: 原因不明の両側性すりガラス影に対して胸腔鏡下肺生検で診断した血管内悪性リンパ腫の一例. 第 94 回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2019.11.23
18. 島 祐介, 立川 良, 嶋田有里, 益田隆広, 松梨敦史, 細谷和貴, 平林亮介, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 武部沙也香, 加藤大典, 富井啓介: Abemaciclib(CDK4/6 阻害剤) による薬剤性肺炎の一例. 第 94 回日本呼吸器学会 近畿地方会, 大阪, 2019.11.23
19. 松梨敦史, 永田一真, 嶋田有里, 島 祐介, 益田隆広, 細谷和貴, 平林亮介, 佐藤悠城, 藤本大智, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: びまん性汎細気管支炎による慢性II型呼吸不全急性増悪に高流量鼻カニューラ酸素療法が奏功した一例. 第 94 回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2019.11.23
20. 佐藤悠城, 藤本大智, 原 重雄, 細谷和貴, 嶋田有里, 島 祐介, 大崎 恵, 松梨敦史, 益田隆広, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: 免疫チェックポイント阻害薬の治療効果予測因子としての STK11/LKB1 免疫染色の検討. 肺癌学会総会 2019, 大阪, 2019.12.6

21. 光吉隆真, 小坂恭弘, 富井啓介, 小久保雅樹: LA-NSCLC に対する根治的 CRT 後の治療成績: TNM 分類第 7 版と第 8 版の比較. 第 60 回日本肺癌学会, 大阪, 2019.12.8
22. 細谷和貴, 藤本大智, 谷口善彦, 横山俊秀, 富井啓介, 平野勝也, 小南亮太, 鈴木秀和, 金津正樹, 内田純二, 森田充紀, 原 聡志, 田宮基裕: PD-L1 強陽性非小細胞肺癌患者に対する 1 次治療ペムプロリズマブの獲得耐性に関する検討. 第 60 回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019.12.8
23. 嶋田有里, 藤本大智, 島 佑介, 大崎 恵, 益田隆広, 松梨敦史, 細谷和貴, 平林亮介, 佐藤悠城, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: 免疫チェックポイント阻害薬単剤治療中における緊急入院に関する検討. 第 60 回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019.12.8
24. 益田隆広, 藤本大智, 佐藤悠城, 島 佑介, 嶋田有里, 大崎 恵, 松梨敦史, 山田 翔, 細谷和貴, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: 進展型小細胞癌における Impower 133 試験適格患者と非適格患者の検討. 第 60 回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019.12.8
25. 嶋田有里, 佐藤悠城, 立川 良, 岩城謙太郎, 水本素子, 原 重雄, 島佑 介, 大崎 恵, 松梨敦史, 益田隆広, 山田 翔, 細谷和貴, 平林亮介, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介: BRAF V600E 陽性肺腺癌に対してダブラフェニブ、トラメチニブ投与中に小腸穿孔を来した一例. 第 111 回日本肺癌学会関西支部学術集会, 大阪, 2020.2.22

VII. 1.7 血液内科

1. 井本寛東, 下村良充, 瀬尾龍太郎, 石川隆之: 新規発症造血器腫瘍における ICU 入室後の予後因子. meet the hematologist, 京都, 2019.7.20
2. 石川隆之: ホジキンリンパ腫におけるニボルマブの使用経験. オブジーボ WEB ライブセミナー, 神戸, 2019.7.22
3. 松下章子: 多発性骨髄腫における治療目標. ダラザレックス発売 2 周年記念講演会, 神戸, 2019.9.26
4. 中村桃子, 山下大祐, 原 重雄, 石川隆之: ベネトラス後再発に対し、イブルチニブ、同種造血幹細胞移植をおこなった慢性リンパ性白血病. 第 81 回日本血液学会総会, 東京, 2019.10.11
5. 井本寛東, 下村良充, 瀬尾龍太郎, 石川隆之: 新規発症造血器腫瘍の ICU 入室後の予後因子. 第 81 回日本血液学会総会, 東京, 2019.10.11
6. 横山寿行, 青埴信之, 安藤 潔, 飯田浩充, 石川隆之, 白杵憲祐, 小野澤真弘, 木崎昌弘, 久保恒明, 黒田純也, 小林幸夫, 清水隆之, 千葉 滋, 奈良美保, 波多智子, 日高道弘, 藤原慎一郎, 細野奈穂子, 前田嘉信, 森田泰慶, 草野美喜子, Qiaoyang Lu, 宮脇修一, Erkut Bahceci, 直江知樹: FLT3 遺伝子変異陽性の再発又は治療抵抗性 AML を対象としたギルテリチニブの第 3 相試験(日本人集団). 第 81 回日本血液学会総会, 東京, 2019.10.11
7. 佐倉 徹, 飯田浩充, 石川隆之, 白杵憲祐, 藤澤 信, 宮本敏浩, 森田智視, Bahceci Erkut, 金子正人, 門倉 健, 福田武蔵, 宮脇修一, 直江知樹: 未治療の日本人 AML を対象としたギルテリチニブと化学療法との併用の第 I 相試験. 第 81 回日本血液学会総会, 東京, 2019.10.11
8. 南谷泰仁, 佐藤信也, 吉里哲一, 永田安伸, 竹田淳恵, 趙 蘭英, 白石友一, 千葉健一, 田中洋子, 鶴見 寿, 笠原千嗣, 木口 亨, 石川隆之, 千葉 滋, 上田恭典, 今田和典, 白杵憲祐, 高折晃史, 大屋敷一馬, 宮崎泰司, 牧島秀樹, 熱田由子, 宮野 悟, 小川誠司: 統合ゲノム解析による骨髄系腫瘍の解析. 第 81 回日本血液学会総会, 東京, 2019.10.11
9. 佐伯龍之介, 塩澤裕介, 吉里哲一, 南谷泰仁, 竹田淳恵, 吉田健一, 白石友一, 田中洋子, 千葉健一, 熱田由子, 鬼塚真仁, 糸永英弘, 真田 昌, 神田善伸, Przychodzen Bartlomiej, Sekeres Mikkael, Guinta Kathryn, Sauntharajah Yogen, 宮崎泰司, 千葉 滋, 笠原千嗣, 木口 亨, 鶴見 寿, Malcovati Luca, Cazzola Mario, 石川隆之, 宮野 悟, Maciejewski Jaroslaw, 牧島秀樹, 小川誠司: 骨髄系腫瘍におけるコピー数異常と遺伝子変異の統合解析. 第 81 回日本血液学会総会, 東京, 2019.10.11
10. 竹田淳恵, Leeyung Shih, 千葉健一, 白石友一, 塩澤裕介, 吉里哲一, 昆 彩奈, 越智陽太郎, 永田安伸, 半下石明, 石山 謙, 鶴見 寿, 宮崎泰司, 平本展大, 石川隆之, 高折晃史, 片岡圭亮, 真田 昌, 田中洋子, 白杵憲祐, 宮脇修一, 宮野 悟, Arnold Ganser, Michael Heuser, Felicitas Thol, 南谷泰仁, 吉田健一, 小川誠司: 赤白血病の特徴と新たな分子標的. 第 81 回日本血液学会総会, 東京, 2019.10.12
11. 上條公守, 下村良充, 石川隆之: 単一施設での HIV 関連リンパ腫 12 例の後方視的臨床研究. 第 81 回日本血液学会総会, 東京, 2019.10.13

12. 下村良充：Flu/Bu4/Mel を用いた同種造血幹細胞移植. Hematopoietic Stem Cell Transplantation Seminar in Hyogo 2019, 神戸, 2019.11.1
13. 石川隆之：ベネトクラックス後にイブルチニブを用いた CLL/SLL の一例. AbbVie Symposium 2019, 大阪, 2019.11.9
14. 井本寛東, 吉岡聡, 石川隆之：当院で経験した血管内大細胞型 B 細胞リンパ腫の 24 例. 第 112 回近畿血液学地方会, 京都, 2019.11.16
15. 上條公守, 下村良充, 齋藤健貴, 加藤まどか, 吉岡 聡, 米谷 昇, 石川隆之：dasatinib により bone marrow aplasia に至った慢性骨髄性白血病の 1 例. 第 112 回近畿血液学地方会, 京都, 2019.11.16
16. 神田まどか, 下村良充, 石川隆之：当院での血栓性血小板減少性紫斑病 (TTP) 症例の検討. 第 112 回近畿血液学地方会, 京都, 2019.11.16
17. 岡田直樹, 平本展大, 山下大祐, 丸岡隼人, 石川隆之：過粘稠度症候群を機に診断された、t(14:16):MAF 陽性 IgM- κ 型多発性骨髄腫の 1 例. 第 112 回近畿血液学地方会, 京都, 2019.11.16
18. 越智達也, 吉岡聡, 石川隆之：BD 療法が奏功したネフローゼ症候群合併 Light chain proximal tubulopathy. 第 112 回近畿血液学地方会, 京都, 2019.11.16
19. Yoshimitsu Shimomura, Masahiko Hara, Hisashi Yamamoto, Tatsuo Ichinohe, Takahiro Fukuda, Minoko Takanashi, Yoshiko Atsuta, Takayuki Ishikawa：Impact of Adding Melphalan to Fludarabine and a Myeloablative Dose of Intravenous Busulfan for Patients Who Received Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation. 61st Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, Orland, 2019.12.7
20. Takuto Mori, Nobuhiro Hiramoto, Ryosuke Ueda, Yoshimitsu Shimomura, Satoshi Yoshioka, Takayuki Ishikawa：Combination of a Cyclophosphamide-Total Body Irradiation Conditioning Regimen and Tacrolimus Plus Mycophenolate Mofetil for Gvhd Prophylaxis Is Associated with Higher HHV-6 Encephalitis Incidence after Cord Blood. Transplantation 61st Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, Orland, 2019.12.7
21. Wataru Munakata, Naohiro Sekiguchi, Rai Shinya, Kenshi Suzuki, Hiroshi Handa, Hirohiko Shibayama, Tomoyuki Endo, Yasuhito Terui, Noriko Iwaki, Noriko Fukuhara, Hiro Tatetsu, Shinsuke Iida, Takayuki Ishikawa, Ryota Shiibashi, Koji Izutsu: Phase 2 Study of Tirabrutinib (ONO/GS-4059), a Second-Generation Bruton' s Tyrosine Kinase Inhibitor, Monotherapy in Patients with Treatment-Naïve or Relapsed/Refractory Waldenström Macroglobulinemia. 61st Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, Orland, 2019.12.8
22. Junya Kanda, Yasuyuki Arai, Tadakazu Kondo, Takayuki Ishikawa, Yasunori Ueda, Kazunori Imada, Takashi Akasaka, Akihito Yonezawa, Kazuhiro Yago, Masaharu Nohgawa, Naoyuki Anzai, Toshinori Moriguchi, Toshiyuki Kitano, Mitsuru Itoh, Nobuyoshi Arima, Tomoharu Takeoka, Mitsumasa Watanabe, Hirokazu Hirata, Kosuke Asagoe, Masanori Miyanishi, Isao Miyatsuka, Le My An, Akifumi Takaori-Kondo: Establishment of a Predictive Model of GvHD-Free, Relapse-Free Survival after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation Using a Machine Learning Algorithm. 61st Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, Orland, 2019.12.8
23. Elsa Bernard, Yasuhito Nannya, Tetsuichi Yoshizato, Robert P. Hasserjian, Ryunosuke Saiki, Yusuke Shiozawa, Sean M. Devlin, Heinz Tuechler, Araxe Sarian, Luca Malcovati, Francesc Sole, Detlef Haase, Maria Creigno, Max Levine, Ulrich Gemming, Catherine Cargo, Yanming Zhang, Juan Medina, Juan E. Arango Ossa, Julie Schanz, Arjan van de Loosdrecht, Martin Jädersten, John M. Bennett, Magnus Tobiasson, Olivier Kosmider, Matilde Y Follo, Felicitas Thol, Ronald F Pinheiro, Valeria Santini, Ioannis Kotsianidis, Jacqueline Boultwood, Fabio PS Santos, Senji Kasahara, Takayuki Ishikawa, Hisashi Tsurumi, Akifumi Takaori-Kondo, Toru Kiguchi, Chantana Polprasert, Virginia M. Klimek, Michael R. Savona, Monika Belickova, Christina Ganster, Lionel Ades, Matteo Giovanni Della Porta, Alexandra Smith, Yesenia Werner, Minal A Patel, Agnes Viale, Katelynd Vanness, Donna S Neuberger, Kristen E. Stevenson, Kamal Menghrajani, Kelly L Bolton, Pierre Fenaux, Andrea Pellagatti, Uwe Platzbecker, Michael Heuser, Peter Valent, Shigeru Chiba, Yasushi Miyazaki, Carlo Finelli, Maria Teresa Voso, Lee-Yung Shih, Michaela Fontenay, Joop H. Jansen, José Cervera, Yoshiko Atsuta, Norbert Gattermann, Benjamin L. Ebert, Rafael Bejar, Peter L Greenberg, Mario Cazzola, Eva Hellstrom Lindberg, Seishi Ogawa and Elli Papaemmanuil: TP53 State Dictates Genome Stability, Clinical Presentation and Outcomes in Myelodysplastic Syndromes. 61st Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, Orland, 2019.12.9

24. June Takeda, Kenichi Yoshida, Yasuhito Nannya, Lee-Yung Shin, Ayana Kon, Akinori Yoda, Yotaro Ochi, Yusuke Shiozawa, Tetsuichi Yoshizato, Cassandra M Kerr, Yuichi Shiraishi, Kenichi Chiba, Yasunobu Nagata, Akira Hangaishi, Toshiyuki Kitano, Ken Ishiyama, Hisashi Tsurumi, Yasushi Miyazaki, Nobuhiro Hiramoto, Takayuki Ishikawa, Akifumi Takaori-Kondo, Masahiro Nakagawa, Masashi Sanada, Hideyuki Nakazawa, Keisuke Kataoka, Ryunosuke Saiki, Hiroko Tanaka, Kensuke Usuki, Shuichi Miyawaki, Satoru Miyano, Arnold Ganser, Michael Heuser, Jaroslaw P. Maciejewski, Felicitas Thol, Hideki Makishima, Seishi Ogawa: Novel Molecular Pathogenesis and Therapeutic Target in Acute Erythroid Leukemia. 61st Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, Orland, 2019.12.9
25. Dai Maruyama, Kiyoshi Ando, Kazuhito Yamamoto, Eiji Kiyohara, Yasuhito Terui, Noriko Fukuhara, Tomomitsu Miyagaki, Hidetsugu Kawai, Yoshiki Tokura, Mamiko Sakata-Yanagimoto, Tadahiko Igarashi, Junya Kuroda, Jiro Fujita, Toshiki Uchida, Takayuki Ishikawa, Kentaro Yonekura, Koji Kato, Tadashi Nakanishi, Kenya Nakai, Risa Matsunaga, Kensei Tobinai: Phase 2 Study of E7777, a Diphtheria Toxin Fragment-Interleukin-2 Fusion Protein, in Japanese Patients with Relapsed or Refractory Peripheral and Cutaneous T-Cell Lymphoma. 61st Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, Orland, 2019.12.9
26. Ryunosuke Saiki, Yusuke Shiozawa, Tetsuichi Yoshizato, Yasuhito Nannya, June Takeda, Kenichi Yoshida, Yuichi Shiraishi, Hiroko Tanaka, Kenichi Chiba, Yoshiko Atsuta, Makoto Onizuka, Hidehiro Itonaga, Masashi Sanada, Yoshinobu Kanda, Bartłomiej Przychodzen, Mikkael A. Sekeres, Kathryn Guinta, Yogenthiran Sauntharajah, Lee-Yung Shih, Shuichi Miyawaki, Tsuyoshi Nakamaki, Masataka Taguchi, Shigeo Fuji, Nana Sasaki, Nobuhiko Uoshima, Yasunori Ueda, Yasushi Miyazaki, Kensuke Usuki, Kazunori Imada, Akifumi Takaori-Kondo, Shigeru Chiba, MD, Senji Kasahara, Toru Kiguchi, Hisashi Tsurumi, Luca Malcovati, Mario Cazzola, Takayuki Ishikawa, Satoru Miyano, Jaroslaw P. Maciejewski, Hideki Makishima, Seishi Ogawa: Integrated Analysis of Copy-Number Alterations and Gene Mutations in 2,000 Patients with Myeloid Neoplasms. 61st Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, Orland, 2019.12.9
27. Hiroharu Imoto, Hiroyuki Matsui, Yasuyuki Arai, Tadakazu Kondo, Yasunori Ueda, Kazunori Imada, Takashi Akasaka, Akihito Yonezawa, Kazuhiro Yago, Takayuki Ishikawa, Akifumi Takaori-Kondo: Risk Factors and the Therapeutic Efficacy for Thrombotic Microangiopathy in Patients after Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation – Results of the Multicenter Retrospective Cohort Study. 61st Annual Meeting and Exposition of American Society of Hematology, Orland, 2019.12.9
28. 米谷昇：G-Benda 治療後早期に形質転換をきたした FL の 2 例。Hematology Conference in Osaka, 大阪, 2020.2.7
29. 石川隆之：MDS 治療のブレイクスルーを求めて。第 18 回下野市血液疾患研究会, 下野, 2020.2.13
30. 森拓人, 平本展大, 上田亮介, 下村良充, 吉岡聡, 石川隆之：臍帯血移植において CY/TBI 前処置と Tac/MMF GVHD 予防は HHV-6 脳炎のリスク因子である。第 42 回日本造血細胞移植学会総会, 東京, 2020.3.6
31. 井本寛東, 平本展大, 上條公守, 岡田直樹, 斎藤健貴, 森拓人, 神田まどか, 下村良充, 上田亮介, 吉岡聡, 米谷昇, 松下章子, 石川隆之：当院における EBV 関連 T/NK 細胞リンパ増殖性疾患に対する同種造血幹細胞移植の治療成績。第 42 回日本造血細胞移植学会総会, 東京, 2020.3.7
32. 上條公守, 下村良充, 岡田直樹, 斎藤健貴, 井本寛東, 神田まどか, 森拓人, 上田亮介, 平本展大, 吉岡聡, 米谷昇, 松下章子, 石川隆之：血液腫瘍患者における PTCY を用いた HLA 半合致移植の単一施設における後方視的検討。第 42 回日本造血細胞移植学会総会, 東京, 2020.3.7
33. 下村良充, 原正彦, 平林茂樹, 近藤忠一, 水野昌平, 内田直之, 河北敏郎, 土岐典子, 福田隆浩, 和氣敦, 神田善伸, 木村貴文, 一戸辰夫, 熱田由子, 柳田正光：非寛解急性白血病における Flu/Bu4/Mel と従来型骨髄破壊的前処置の比較。第 42 回日本造血細胞移植学会総会 (プレナリー), 東京, 2020.3.7

VII. 1.8 腫瘍内科

1. Takatsugu Ogata, Hironaga Satake, Misato Ogata, Hisateru Yasui : The diagnosis and outcomes when the outpatients receiving chemotherapy visited the emergency room: A tertiary referral center retrospective study of 734 cases. 2019 ASCO Annual Meeting, Chicago, 2019.6.1
2. Misato Ogata, Yumi Ama, Takatsugu Ogata, Masaki Hirabatake, Hisateru Yasui, Tohru Hashida, Hironaga Satake : Safety and effectiveness of direct oral anticoagulants (DOACs) for venous thromboembolism (VTE) in patients with active cancer: a retrospective study. ESMO GI 2019, Baecelona, 2019.7.3-5

3. 緒方美里, 佐竹悠良, 阿萬祐未, 平昌正樹, 緒方貴次, 安井久晃, 橋田 亨: Safety and effectiveness of direct oral anticoagulants for venous thromboembolism in patients with active cancer. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019.7.18-20
4. 安井久晃: 副作用とその対策、支持療法 (教育講演). 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019.7.18
5. 崔 諭司, 豊田昌徳, 飛松和俊, 佐竹悠良, 安井久晃, 石川瑤子, 金原史朗, 小山泰司, 藤島佳未, 今村善宣, 船越洋平, 清田尚臣, 外山博近, 児玉裕三, 南 博信: Phase I study of gemcitabine / nab-paclitaxel / S-1 in patients with advanced pancreatic cancer (GeNeS1S trial). 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019.7.18-20
6. 砂川 優, 市川 度, 萩原 謙, 津田政広, 高金明典, 安井久晃, 佐竹悠良, 傳田忠道, 畝川芳彦, 谷岡洋亮, 小高雅人, 東風 貢, 渡邊貴紀, 中村将人, 辻 晃仁, 谷 聡, 根来裕二, 飛松和俊, 竹内正弘, 藤井雅志: Update on phase II trial of cetuximab plus S-1/oxaliplatin (SOX) for metastatic colorectal cancer (mCRC): JACCRO CC-06. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019.7.18-20
7. 佐竹悠良, 小高雅人, 緒方貴次, 緒方美里, 安井久晃: Analysis of the reintroducing oxaliplatin in relapsed CRC treated with prior oxaliplatin-based adjuvant chemotherapy. 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019.7.18-20
8. 岡本 渉, 岡村 修, 安井久晃, 宮本裕士, 杉本直俊, 船越信介, 佐藤巳喜夫, 宮田佳典, 田村孝雄, 小高雅人, 篠崎勝則, 牧山明資, 朴 成和, 兵頭一之介, 山崎健太郎, 廣中秀一, 山中竹春, 室 圭, 西尾和人: ctDNA mutations correlate with efficacy of mFOLFOX6/XELOX plus bevacizumab in mCRC patients (WJOG7612GTR). 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019.7.18-20
9. 安井久晃: 治療中の患者にどう ACP を行うか? (JSMO-JSPM 合同シンポジウム). 第17回日本臨床腫瘍学会学術集会, 京都, 2019.7.20
10. Sunakawa Y, Takahashi Y, Inoue E, Sakamoto Y, Kawabata R, Yabusaki H, Matsuyama J, Ishiguro A, Takahashi M, Akamaru Y, Kito Y, Makiyama A, Yasui H, Kawakami H, Nakajima TE, Muro K, Matoba R, Ichikawa W, Fujii M: Interim analysis of an observational/translational study for nivolumab treatment in advanced gastric cancer: JACCRO GC-08 (DELIVER trial). ESMO 2019 Congress, Barcelona, 2019.9.29
11. Miki A, Satake H, Watanabe T, Tanaka N, Hirata K, Shimozaki K, Tanioka H, Matsuura M, Kyogoku T, Tatsumi M, Matoba K, Oka Y, Adachi S, Yasui H, Kotaka M, Kato T, Tsuji A: Primary results of multicenter phase II study of neoadjuvant chemotherapy with S-1 and oxaliplatin for locally advanced gastric cancer (Neo G-SOX PII). ESMO 2019 Congress, Barcelona, 2019.9.29
12. Hisateru Yasui, Akihito Kawazoe, Kensei Yamaguchi, Yuji Negoro, Mizutomo Azuma, Kenji Amagai, Hiroki Hara, Hideo Baba, Masahiro Tsuda, Hisashi Hosaka, Hisato Kawakami, Takashi Oshima, Yasushi Omuro, Nozomu Machida, Taito Esaki, Kazuhiro Yoshida, Tomohiro Nishina, Yoshito Komatsu, Shi Rong Han, Kohei Shitara: S-1+oxaliplatin with pembrolizumab for advanced gastric cancer: The cohort 1 in a phase IIb KEYNOTE-659 study. 2020 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 2020.1.23
13. Ryosuke Kumanishi, Seiichiro Mitani, Shigenori Kadowaki, Tomohiro Matsushima, Naoki Takahashi, Takatsugu Ogata, Hisateru Yasui, Misato Ogata, Hironaga Satake, Yukiya Narita, Toshiki Masuishi, Hideaki Bando, Hiroki Hara, Kei Muro: Efficacy and safety of nivolumab and irinotecan as third-line chemotherapy for advanced gastric cancer: A multi-institutional retrospective study. 2020 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 2020.1.23
14. Masato Kondo, Hironaga Satake, Motoko Mizumoto, Akira Miki, Takanori Watanabe, Norimitsu Tanaka, Kenro Hirata, Hiroaki Tanioka, Yoshihiro Okita, Takahisa Kyogoku, Mitsutoshi Tatsumi, Koreatsu Matoba, Shinichi Adachi, Satoshi Kaihara, Hisateru Yasui, Akihito Tsuji: Multicenter phase II study of neoadjuvant chemotherapy with S-1 and oxaliplatin for locally advanced gastric cancer (Neo G-SOX PII). 2020 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 2020.1.23
15. Hiroki Hara, Atsushi Takeno, Hisateru Yasui, Hiroshi Imamura, Hiroki Akamatsu, Kazumasa Fujitani, Minoru Nakane, Chihiro Kondoh, Seigo Yukisawa, Junichiro Nasu, Yoshinori Miyata, Akitaka Makiyama, Hiroyasu Ishida, Norimasa Yoshida, Eiji Matsumura, Masato Ishigami, Masahiro Sugihara, Atsushi Ochiai, Toshihiko Doi: DS-Screen: Prospective analysis of the expression status of FGFR2 and HER2 in colorectal and gastric cancer population. 2020 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 2020.1.23

16. Masato Nakamura, Hironaga Satake, Koji Oba, Masahito Kotaka, Yoshinori Kagawa, Hisateru Yasui, Takanori Watanabe, Toshihiko Matsumoto, Takayuki Kii, Tetsuji Terazawa, Akitaka Makiyama, Nao Takano, Mitsuru Yokota, Yoshihiro Okita, Koreatsu Matoba, Hiroko Hasegawa, Akihito Tsuji, Naoki Nagata, Junichi Sakamoto, Takeshi Kato : Final results of multicenter phase Ib/ II study of biweekly trifluridine/tipiracil with bevacizumab combination for patients with mCRC refractory to standard therapies (BiTS study). 2020 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 2020.1.25
17. Hiroya Taniguchi, Satoshi Yuki, Manabu Shiozawa, Toshiki Masuishi, Tomohiro Nishina, Yoshinori Kagawa, Naoki Takahashi, Hisateru Yasui, Tadamichi Denda, Yu Sunakawa, Kentaro Yamazaki, Taito Esaki, Hisato Kawakami, Takeshi Kato, Kazuhiro Yoshida, Atsuo Takashima, Hiroko Ohmiya, Shogo Nomura, Atsushi Ohtsu, Takayuki Yoshino : Plasma VEGF-D and PlGF levels according to prior use of biologics among metastatic colorectal cancer: Preliminary results from GI-SCREEN CRC-Ukit study. 2020 Gastrointestinal Cancers Symposium, San Francisco, 2020.1.25

VII. 1.9 緩和ケア内科

1. 大音三枝子, 薩摩由香里, 平野達也, 溝口菜摘, 梅田節子, 新城拓也, 李 美於, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨 : ヒドロモルフォン注射剤から経口剤への換算についての検討. 第 13 回日本緩和医療学会年会, 千葉, 2019.5.31-6.2
2. 西本哲郎 : アドバンス・ケア・プランニングを考える. がん診療オープンカンファレンス, 神戸, 2019.9.26
3. 齋藤美由紀, 奥貞 智, 大野美紀子, 大重美智子, 松山紀美子, 桑原美香, 吉元由美子, 鈴木かず美, 不二京子, 板垣陽子, 井上紀子, 松本深佳, 脇坂智子, 永野千加, 土井成美, 大音三枝子, 梅田節子, 高野けい子, 西本哲郎, 李 美於, 松岡直樹 : 緩和ケアにおける補完代替医療 (CAM) のアロマトリートメント効果の検証. 患者・家族メンタル支援学会第 5 回学術総会, 京都, 2019.10.27
4. 西本哲郎 : シンポジウム 3-2 進行がんの治療継続をめぐる葛藤の共有 がん薬物療法を受けながら生きる人をどう支援するかー緩和ケア医の立場から. 第 43 回日本死の臨床研究会年次大会, 神戸, 2019.11.03

VII. 1.10 感染症科

1. 進藤達哉, 土井朝子, 西岡弘晶 : ヒトアデノウイルス C 種 6 型による壊死性網膜炎を伴う汎ぶどう膜炎を発症したと考えられた AIDS 患者の 1 例. 第 93 回日本感染症学会総会, 名古屋, 2019.4.6
2. 土井朝子, 蓮池俊和, 進藤達哉, 西岡弘晶 : ADA 上昇のために結核性髄膜炎との鑑別が困難であった HIV 髄膜炎の 1 症例. 第 93 回日本感染症学会総会, 名古屋, 2019.4.6
3. 土井朝子 : 膠原病治療薬と感染症. 神戸リウマチ膠原病地域連携セミナー, 神戸, 2019.5.16
4. 進藤達哉, 松岡直樹, 西岡弘晶 : ストレスによる過食が原因と考えられた思春期発症の無症状 2 型糖尿病の 1 例. 第 10 回プライマリ・ケア連合学会学術大会, 京都, 2019.5.19
5. 西岡弘晶 : Clostridioides (Clostridium) difficile 感染症への臨床的アプローチ. 第 27 回東播抗菌化学療法セミナー, 明石, 2019.5.23
6. 土井朝子 : レクチャー 4 : 「感染管理四方山話 2」. 第 18 回 Fleekic, 神戸, 2019.5.26
7. 久保賢哉, 藤田将平, 大平純一郎, 進藤達哉, 志水隼人, 西岡弘晶 : ループス脊髄炎の治療中に脊髄 MRI 検査で異常所見が出現した 1 例. 第 224 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.6.1
8. 蓮池俊和 : 感染症レクチャー②. 第 1 回 IDEAL Kansai (Infectious Diseases Educational Assembly and Lectures in Kansai, 関西感染症教育塾), 大阪, 2019.7.13
9. 黒田浩一 : 気道感染症の診断. AMR 対策臨床セミナー「かぜ診療ブラッシュアップコース」, 岐阜, 2019.7.27
10. 藤田将平, 志水隼人, 金森真紀, 西岡弘晶, 土井朝子 : 水曜の夜から一睡もしていません. 京都 GIM カンファレンス, 京都, 2019.8.2
11. 藤田将平, 進藤達哉, 志水隼人, 土井朝子, 西岡弘晶, 谷口洋平, 丸山治彦 : 経時的な抗体価の変化が診断に寄与した肝蛭症の 1 例. 第 224 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.9.21
12. 黒田浩一 : インフルエンザ. 救急オープンセミナー, 神戸, 2019.10.30
13. 進藤達哉, 西岡弘晶 : 菌血症を伴う ESBL 産生 E. coli による尿路感染症における Escalation therapy の有用性. 第 62 回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 浜松, 2019.11.7
14. 土井朝子 : 令和元年度第 2 回抗菌薬適正使用支援研修エンピリックセラピーとデフィニティブセラピー. 抗菌薬適正使用支援加算に係る研修会, 鳥取, 2019.11.21

15. 前川和輝, 藤田将平, 志水隼人, 黒田浩一, 西岡弘晶: 合併症のない熱帯熱マラリアの再燃にアーテメター / ルメファントリン合剤 (AL 合剤) を再度投与し治療できた 1 例. 第 226 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.12.21
16. 土井朝子: 講演. KOBE 健康くらぶ土曜健康科学セミナー, 神戸, 2020.2.8
17. 黒田浩一: なぜワクチン接種をするのか? ~個人を守るため? 社会を守るため? ~. 白陵中学校 3 年生向け LHR 講演会, 高砂, 2020.2.17
18. 西岡弘晶, 岩本昌子, 東別府直紀: 心臓血管手術後の開始食の食形態による喫食率の検討. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27
19. 常峰かな, 東別府直紀, 末廣 篤, 竹林慎治, 西岡弘晶: 嚥下内視鏡検査の咽喉頭感覚評価について. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27
20. 楠田かおり, 室井延之, 土肥麻貴子, 東別府直紀, 西岡弘晶, 橋田 亨: 急性期病院から在宅へ栄養療法をつなぐための薬剤情報提供の取り組み. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27
21. 東別府直紀, 西岡弘晶: 基調講演 管理栄養士とともに働く ICU. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27
22. 東別府直紀, 西岡弘晶: ICU での静脈栄養について. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27
23. 山岡佑介, 前川和輝, 吉崎亜衣沙, 金森真紀, 西岡弘晶: 3 年間の偏食によって壊血病を発症した 1 例. 第 227 回日本内科学会近畿地方会, 京都, 2020.3.7

VII. 1.11 精神・神経科

1. 福島春子, 鶴谷 茂, 宮井宏之, 大谷恭平, 松石邦隆: 多彩な精神症状を呈した臍帯血移植後 HHV6 脳炎の一例. 第 115 回日本精神神経学会学術総会, 新潟, 2019.6.20
2. 大谷恭平: 医療安全における睡眠薬の選択. 第 6 回多職種間学際シンポジウム, 神戸, 2019.9.26
3. 福島春子, 岩本繁行, 中元康雄, 幸地芳朗: 青少年におけるネット・ゲーム障害の実態と治療報告. 2019 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 札幌, 2019.10.5
4. 中元康雄, 福島春子, 岩本繁行, 幸地芳朗: ネット依存・ゲーム障害の家族に対する心理教育プログラムの実践報告. 2019 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 札幌, 2019.10.5
5. 岩本繁行, 中元康雄, 福島春子, 幸地芳朗: ネット依存のこども・家族への外来継続治療における看護師役割の考察 実践症例の検証・報告から. 2019 年度アルコール・薬物依存関連学会合同学術総会, 札幌, 2019.10.5
6. 加藤大翼, 宮井宏之, 大谷恭平, 福島春子, 松石邦隆: 昏迷状態との鑑別を要した CO 中毒による遅発性脳症の一例. 第 126 回近畿精神神経学会, 神戸, 2020.2.15

VII. 1.12 小児科・新生児科

1. 野谷梨紗子, 川崎英史, 中橋 達, 高原賢守, 毎原敏郎: 超音波検査により早期診断し得た高安動脈炎の 2 女児例. 第 122 回日本小児科学会学術集会, 金, 2019.4.19-21
2. 根津麻里, 岡藤郁夫, 伊藤 環, 田中裕也, 鶴田 悟: 教育現場で運動を契機にアレルギー症状が出現し、運動誘発試験を行った 10 症例の検討. 第 122 回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019.4.21
3. 岸奈津美, 岸本健治, 中村さやか, 市川貴之, 中谷尚子, 二野菜々子, 山本暢之, 田村彰広, 斎藤敦郎, 神前愛子, 石田敏章, 長谷川大一郎, 小阪嘉之: 高リスク神経芽腫患者における化学療法中の筋肉量減少. 第 122 回日本小児科学会学術集会, 金沢, 2019.4.21
4. 根津麻里: リラクゼーションが著効した声帯機能不全の男児例. 第 52 回兵庫県臨床アレルギー研究会, 神戸, 2019.5.11
5. 小林由典, 鶴田 悟: West 症候群の発症予防目的に乳児期早期からビガバトリンを使用した結節性硬化症の 1 例. 第 61 回日本小児神経学会学術集会, 名古屋, 2019.6.1
6. 富本康仁, 岡藤隆夫, 鶴田 悟, 八若博司, 安部治郎, 飯尾 潤, 折山文子, 笠井正志, 梶山瑞隆, 小林 謙, 田中尚子, 濱平陽史, 山本千尋, 吉田元嗣, 辰己和人, 藤田 位: 兵庫県小児科医会における百日咳臨床調査: 第 30 回日本小児科医会総会フォーラム, 京都, 2019.6.8

7. 山本千尋, 岡藤隆夫, 鶴田 悟, 八若博司, 折山文子, 杉原加寿子, 田中尚子, 中西恭一, 三木和典, 桃田哲也, 吉田元嗣, 辰己和人, 藤田 位: ワクチンの管理について(第3報)~停電時の温度管理についての検討. 第30回日本小児科医会総会フォーラム, 京都, 2019.6.8
8. 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟, 大前沙織, 水戸部祐子, 土井雅津代: 皮下免疫療法にてハウスダストから標準化ダニ抗原へ切り替え症例における抗体価の推移についての検討. 第68回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2019.6.14
9. 岡藤郁夫: 学校におけるアレルギー疾患対策(リスク管理と対応). 第68回日本アレルギー学会, 横浜, 2019.6.15
10. 濱田匡章, 田中裕也, 岡藤郁夫, 鶴田 悟, 田中一郎: 5歳未満を対象とした標準化ダニアレルゲン皮下免疫療法の治療経過の検討. 第68回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2019.6.16
11. 岡藤郁夫: アナフィラキシー対応の地域連携. 第36回日本小児臨床アレルギー学会, 和歌山, 2019.7.28
12. 中邨奈津美, 菅 健敬, 高原賢守, 楠本耕平, 山上雄司, 河内晋平, 花田知也: 急性血液浄化療法を必要としたEBV-AHSの一例. 第278回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2019.9.28
13. 野谷梨紗子, 小林由典, 佐伯 玲, 松本泰右, 高端裕人, 二宮 涼, 大岩香梨, 上田太郎, 根津麻里, 久米英太郎, 伊藤 環, 宮越千智, 岡藤郁夫, 山川 勝, 鶴田 悟: 診断に皮膚生検を要した溶連菌感染後結節性紅斑の一例. 第278回日本小児科学会兵庫県地方会, 姫路, 2019.9.28
14. Nezu M: A review of ten patients who took provocation tests because they experienced allergic symptoms after exercise at school. Asia pacific academy of pediatric allergy, respirology and immunology (APAPARI) congress, Bali, Indonesia, 2019.10.10-12
15. 大岩香梨, 岡藤郁夫, 田中裕也, 根津麻里, 上田太郎, 伊藤 環, 鶴田 悟: 舌下免疫療法適応年齢制限撤廃以後に皮下免疫療法を導入した6歳女児例. 第2回日本アレルギー学会地方会近畿支部学術講演会, 京都, 2019.10.22
16. 岡藤郁夫: 地域で支えるアナフィラキシー対応. 第56回日本小児アレルギー学会, 横浜, 2019.11.2
17. 岡藤郁夫: Year in review 小児アレルギーのトピック: 喘息. 第56回日本小児アレルギー学会, 横浜, 2019.11.2
18. 田中裕也, 大前沙織, 岡藤郁夫, 水戸部祐子, 土井雅津代, 鶴田 悟: 小児へのダニ皮下免疫療法における局所反応の推移と血清学的変化. 第56回日本小児アレルギー学会学術大会, 千葉, 2019.11.2
19. 李 崇至, 谷内昇一郎, 仲宗根瑠花, 松井美樹, 郷間 環, 榎本真宏, 起塚 庸, 南 宏尚: 当科で経験したアナフィラキシー症例の検討~二相性反応について~. 第56回日本小児アレルギー学会, 千葉, 2019.11.2-3
20. 岡藤郁夫: 舌下免疫療法ハンズオンセミナー. 第56回日本小児アレルギー学会, 横浜, 2019.11.3
21. 岡藤郁夫: 小児アレルギー疾患療養指導料. 第56回日本小児アレルギー学会, 横浜, 2019.11.3
22. 根津麻里: 当科で高校生以上の患者に対し経口食物負荷試験を行った症例の検討. 第53回兵庫県臨床アレルギー研究会, 神戸, 2019.11.16
23. 田中 悠, 森貞直哉, 鈴木智大, 大橋佳隆, 野津寛大, 飯島一誠: UMOD変異による常染色体優性間質性腎疾患(ADTKD)を合併したKBG症候群の1女性例. 第64回日本人類遺伝学会, 長崎, 2019.11.17
24. 二宮 涼, 森吉研輔, 高野健一, 神菌淳司, 天本正乃, 金子仁彦, 高橋利幸: 抗MOG抗体陽性大脳皮質性脳炎の13歳女児例. 第508回日本小児科学会福岡地方会, 福岡, 2020.2.8

VII. 1. 13 皮膚科

1. 長野 徹: 「どうする? アトピー性皮膚炎」. 兵庫県病院薬剤師会東西神戸支部合同学術講演会, 神戸, 2019.4.18
2. 谷川絢乃, 田中彰浩, 古岡慶子, 増田泰之, 小坂博志, 長野 徹: 筋弛緩薬ロクロニウム臭化物によるアナフィラキシーショックの小児例. 第473回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2019.5.18
3. 古岡慶子, 増田泰之, 中村文香, 谷川絢乃, 鷺見真由子, 小坂博志, 長野 徹: シスプラチン+5FU療法を試みた進行期エクリン汗孔癌の1例. 第35回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 神戸, 2019.5.24-25
4. 長野 徹, 鷺見真由子, 小谷晋平, 小川真希子, 上野充彦, 小坂博志: 膝窩リンパ節転移をみとめ治療の選択に苦慮した外頸部有棘細胞癌の1例. 第35回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会, 神戸, 2019.5.24-25

5. 古岡慶子, 増田泰之, 谷川絢乃, 小坂博志, 長野 徹: 帯状疱疹を契機に発症したと考えた leukocytoclastic vasculitis の 1 例. 第 118 回日本皮膚科学会総会, 名古屋, 2019.6.6-9
6. 長野 徹: 最近経験した興味深い症例から一腫瘍・感染症・アレルギーを中心に一. ⑥第 12 回阪神地区皮膚科セミナー, 尼崎, 2019.7.11
7. 古岡慶子, 田中彰浩, 谷川絢乃, 小坂博志, 長野 徹, 金森真紀: 前腕に再燃した皮膚クリプトコッカス症の 1 例. 第 112 回近畿皮膚科集談会, 大阪, 2019.7.14
8. 長野 徹, 谷川絢乃, 大川亜弥, 澤井智恵, 若田恭介, 内田絢子, 竹中麻理子: 仙骨部褥瘡から波及したガス壊疽・巨大潰瘍の治療経験. 第 21 回日本褥瘡学会総会, 京都, 2019.8.23-24
9. 田中彰浩, 古岡慶子, 増田泰之, 谷川絢乃, 小坂博志, 長野 徹: 上層に脂腺過形成を伴った皮膚線維腫の 1 例. 第 70 回日本皮膚科学会中部支部学術大会, 金沢, 2019.10.5
10. 田中彰浩, 古岡慶子, 中村彩, 藤井翔太郎, 谷川絢乃, 小坂博志, 長野 徹: 臀部に生じた trichoadenoma の 1 例. 第 475 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2019.10.26
11. 長野 徹: 特異な臨床像を呈した爪下外骨腫. 令和元年度神戸中央皮膚科懇話会, 神戸, 2019.10.31
12. 田中彰浩: *Aeromonas hydrophila* による重症壊死性軟部組織感染症. 令和元年度神戸中央皮膚科懇話会, 神戸, 2019.10.31
13. 中村 彩, 田中彰浩, 古岡慶子, 藤井翔太郎, 小坂博志, 長野 徹: Blastic Plasmacytoid Dendritic Cell Neoplasm(BPDCN) の 2 例. 第 83 回日本皮膚科学会東京・東部支部合同学術大会, 東京, 2019.11.16-17
14. 古岡慶子, 田中彰浩, 中村彩, 藤井翔太郎, 長野 徹: ART 療法と Doxil による化学療法の併用が奏功した、内臓病変を伴う AIDS 関連 Kaposi 肉腫の 1 例. 第 476 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2019.12.7
15. 古岡慶子, 田中彰浩, 中村彩, 藤井翔太郎, 長野 徹: 下床に毛芽腫を伴った反転性毛包角化症 (inverted follicular keratosis) の 1 例. 第 478 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2020.3.7

VII. 1. 14 外科・移植外科

1. 橋田裕毅, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡: 大腸神経内分泌腫瘍の治療成績. 第 15 回日本消化管学会, 佐賀, 2019.2.1-3
2. 橋田裕毅: 傍ストーマヘルニア治療における腹腔鏡手術. 第 36 回日本ストーマ排泄リハビリテーション学会, 大阪, 2019.2.22-23
3. 水本素子, 占野尚人, 貝原聡: 当院における噴門部粘膜下腫瘍に対する腹腔鏡内視鏡合同手術. 第 91 回日本胃癌学会, 沼津, 2019.2.27-3.1
4. 小林裕之, 近藤正人, 喜多亮介, 増井秀行, 橋田裕毅, 松原孝明, 塩川桂一, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 水本素子, 瓜生原健嗣, 北村好司, 貝原 聡: 市中病院におけるロボット支援下食道手術の導入. 第 119 回日本外科学会, 大阪, 2019.4.18-20
5. 橋田裕毅, 水野良祐, 神部宏幸, 岩城謙太郎, 塩川桂一, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 細谷亮, 貝原聡: 腹腔鏡下直腸切除術の DST 再建における補強縫合による縫合不全防止. 第 119 回日本外科学会, 大阪, 2019.4.18-20
6. 神部宏幸, 北村好史, 岩城謙太郎, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原聡: 臍頭十二指腸切除症例における術前胆道ドレナージの効果と術後合併症への影響. 第 119 回日本外科学会, 大阪, 2019.4.18-20
7. 岩城謙太郎, 貝原 聡, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣: 肝硬変合併肝細胞癌に対する腹腔鏡手術の有効性. 第 119 回日本外科学会, 大阪, 2019.4.18-20
8. 北村好史, 貝原 聡, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 細谷 亮: 肝門部領域癌における胆道造影下 CT fusion 画像による定型化した simulation と成績. 第 119 回日本外科学会, 大阪, 2019.4.18-20
9. 塩川桂一, 瓜生原健嗣, 岩城謙太郎, 水野良祐, 神部宏幸, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡, 細谷 亮: 当院における下部消化管穿孔奨励の治療成績と予後予測因子の検討. 第 119 回日本外科学会, 大阪, 2019.4.18-20
10. 岩城謙太郎, 貝原 聡, 北村好史: The impact of laparoscopic surgery for hepatocellular carcinoma with liver cirrhosis. ILLS 2019 Tokyo, 東京, 2019.5.9-11

11. 神部宏幸, 北村好史, 塩川桂一, 松原孝明, 瓜生原健嗣: 早期診断により腸管切除を免れたS状結腸間膜窩ヘルニアの一例. 第17回日本ヘルニア学会, 四日市, 2019.5.24-25
12. 小林裕之, 近藤正人, 喜多亮介, 増井秀行, 松原孝明, 塩川桂一, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 貝原 聡: 当院でのロボット支援下食道手術の導入と課題. 第73回日本食道学会, 福岡, 2019.6.6-7
13. Masato Kondo, Satoshi Kaihara: Introduction and results as a safe operative procedure for robotic gastrectomy. EAES 2019, Sevilla, 2019.6.12-15
14. Ryosuke Mizuno, Masato Kondo, Hiroyuki Kanbe, Kentaro Iwaki, Keiishi shiokawa, Takaaki Matsubara, Hideyuki Masui, Ryosuke Kita, Motoko Mizumoto, Koji Kitamura, Hiroki Hashida, Hiroyuki Kobayashi, Kenji Uryuhara, Satoshi Kaihara, Ryo Hosotani: Comparison of standard IPOM and IPOM plus in our hospital. EAES 2019, Sevilla, 2019.6.12-15
15. 貝原 聡, 北村好史, 瓜生原健嗣, 塩川桂一, 橋田裕毅, 岩城謙太郎: Central Sectionectomy for Hilar Cholangiocarcinoma; Application of the Hanging Method in Parenchymal Dissection. 第31回肝胆膵外科学会, 高松, 2019.6.13-15
16. 岩城謙太郎, 貝原 聡, 増井秀行, 北村好史, 瓜生原健嗣: A novel preoperative remnant liver functional evaluation using 99mTcGSA-SPECT and KICG for safe hepatectomy. 第31回肝胆膵外科学会, 高松, 2019.6.13-15
17. 北村好史, 貝原 聡, 岩城謙太郎, 瓜生原健嗣: Importance of regional lymph node dissection for pancreatobiliary subtype of ampullary carcinoma. Investigation of recurrent sites after curative resection. 第31回肝胆膵外科学会, 高松, 2019.6.13-15
18. 貝原 聡, 北村好史, 瓜生原健嗣, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀明: 細管切除術における手術手技. 第74回日本消化器外科学会, 東京, 2019.7.17-19
19. 小林裕之, 近藤正人, 喜多亮介, 増井秀行, 松原孝明, 塩川桂一, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 貝原 聡: 当院でのロボット支援下食道手術の導入と課題. 第74回日本消化器外科学会, 東京, 2019.7.17-19
20. Hiroyuki Kambe, Koji Kitamura, Ryosuke Mizuno, Kentaro Iwaki, Keiichi Shiokawa, Takaaki Matsubara, Hideyuki Masui, Ryosuke Kita, Motoko Mizumoto, Masato Kondo, Hiroyuki Kobayashi, Hiroki Hashida, Kenji Uryuhara, Satoshi Kaihara: Clinical investigation of resected primary duodenal carcinoma. 第74回日本消化器外科学会, 東京, 2019.7.17-19
21. Motoko Mizumoto, Ryosuke Mizuno, Hiroyuki Kanbe, Kentaro Iwaki, Keiichi Shiokawa, Takaaki Matsubara, Hideyuki Masui, Ryosuke Kita, Satoshi Kaihara, Ryo Hosotani: Clinical experience of primary small bowel cancer in our hospital. 第74回日本消化器外科学会, 東京, 2019.7.17-19
22. Ryosuke Mizuno, Masato Kondo, Takuma Kawarabayashi, Tokihiko Sumi, Hiroyuki Kanbe, Kentaro Iwaki, Keiishi shiokawa, Motoko Mizumoto, Koji Kitamura, Hiroki Hashida, Hiroyuki Kobayashi, Kenji Uryuhara, Satoshi Kaihara, Ryo Hosotani: Emergency operation for diverticulitis from the view of pre-operative CT imaging. 第74回日本消化器外科学会, 東京, 2019.7.17-19
23. 近藤正人, 岩城謙太郎, 水野良祐, 神部宏幸, 塩川桂一, 水本素子, 北村好史, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡: 一般市中病院におけるロボット消化管手術の導入と成績. 第74回日本消化器外科学会, 東京, 2019.7.17-19
24. 橋田裕毅, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 貝原 聡: 病態から見た直腸脱に対する腹腔鏡手術. 第74回日本消化器外科学会, 東京, 2019.7.17-19
25. 塩川桂一, 瓜生原健嗣, 岩城謙太郎, 水野良祐, 神部宏幸, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 貝原 聡: T2胆嚢癌に対する当院治療プロトコルの検討. 第74回日本消化器外科学会, 東京, 2019.7.17-19
26. 岩城謙太郎, 貝原 聡, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣: The replaced RHA preserving technique for the plexus of pancreatic head dissection. 第74回日本消化器外科学会, 東京, 2019.7.17-19
27. 北村好史, 貝原 聡, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 松原孝明, 喜多亮介, 増井秀行, 瓜生原健嗣: Preoperative 3D-CT fusion image aim for R0 resection in hilar cholangiocarcinoma. 第74回日本消化器外科学会, 東京, 2019.7.17-19
28. 瓜生原健嗣, 貝原 聡: 当院における高齢肝移植後患者フォローの現状と課題. 第55回日本移植学会, 広島, 2019.10.10-12
29. 橋田裕毅, 近藤正人, 水本素子, 小林裕之, 貝原 聡: 横行結腸癌に対する内側アプローチを中心とした腹腔鏡手術の定型化. 第74回日本大腸肛門病学会, 東京, 2019.10.11-12

30. 橋田裕毅, 水野良祐, 神部宏幸, 塩川桂一, 水本素子, 近藤正人, 小林裕之, 貝原 聡 : 超高齢者の大腸癌に対する腹腔鏡手術の検討. 第 57 回日本癌治療学会, 福岡, 2019.10.24-26
31. Hiroyuki Kobayashi, Masato Kondo, Ryosuke Kita, Hideyuki MasuiTakaaki Matsubara, Keiichi Shiokawa, Kentaro Iwaki, Hiroyuki Kanbe, Ryosuke Mizuno, Satoshi Kaihara : Impact of Intravenous Injection of Glucagon on Anastomotic Leakage in Esophagectomy. ACS 2019, San Francisco, 2019.10.27-31
32. Koji Kitamura, Satoshi Kaihara, Kentaro Iwaki, Hiroyuki Kanbe, Ryosuke Mizuno, Keiichi Shiokawa, Kenji Uryuhara, Hiroyuki Kobayashi : Usefulness of tree-dimentional computed tomography simulation for safe laparoscopic liver anatomical resection. ACS 2019, San Francisco, 2019.10.27-31
33. 近藤正人, 小林裕之, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 神部宏幸, 岩城謙太郎, 水野良祐, 塩川桂一, 貝原 聡 : より簡便で強固な吻合のために 組織補強材付きの自動縫合器を用いて. 第 49 回胃外科術後障害研究会, 鹿児島, 2019.10.31-11.1
34. 河原林卓馬, 北村好史, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 水本素子, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡 : 臍頭十二指腸切除後長期を経て発症した臍放線菌症の一例. 第 81 回臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.14-16
35. 鷺見季彦, 貝原 聡, 河原林卓馬, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣 : 切除不能臍頭部癌に対して, Conversion surgery を行い完全切除し得た一例. 第 81 回臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.14-16
36. 小林裕之, 近藤正人, 塩川桂一, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 水本素子, 橋田裕毅, 貝原 聡 : 神経モニタリングの経験から辿りついた反回神経麻痺のない上縦隔郭清手技. 第 32 回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019.12.5-7
37. 水本素子, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡 : 当院における噴門 LECS の治療成績. 第 32 回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019.12.5-7
38. 神部宏幸, 北村好史, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 水野良祐, 塩川桂一, 水本素子, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡 : 絞扼性イレウスに対する腹腔鏡下手術の適応とその限界. 第 32 回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019.12.5-7
39. 橋田裕毅, 近藤正人, 小林裕之, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 北村好史, 水本素子, 瓜生原健嗣, 貝原 聡 : ロボット支援下直腸手術の導入と早期成績. 第 32 回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019.12.5-7
40. 岩城謙太郎, 近藤正人, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 神部宏幸, 水野良祐, 水本素子, 北村好史, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡 : 高齢者に対する腹腔鏡下胃切除術の合併症頻度は高いが中期成績は良好である. 第 32 回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019.12.5-7
41. 水野良祐, 橋田裕毅, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 塩川桂一, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡 : 腹腔鏡下直腸 DST 吻合における縫合不全予防への取り組み. 第 32 回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019.12.5-8
42. 鷺見季彦, 瓜生原健嗣, 河原林卓馬, 神部宏幸, 水野良祐, 水本素子, 北村好史, 近藤正人, 橋田裕毅, 小林裕之, 瓜生原健嗣, 貝原 聡 : 当院における腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術 (TAPP 法) の治療成績と合併症. 第 32 回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019.12.5-7
43. 近藤正人, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 水本素子, 北村好史, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 貝原 聡 : 市中病院におけるロボット胃癌手術の導入と成績. 第 32 回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019.12.5-7
44. 北村好史, 貝原 聡, 河原林卓馬, 鷺見季彦, 岩城謙太郎, 神部宏幸, 水野良祐, 塩川桂一, 水本素子, 近藤正人, 瓜生原健嗣, 小林裕之, 橋田裕毅, 細谷 亮 : " 腹腔鏡下肝 S7,S8 腫瘍切除における画像支援の活用と手術手技 ". 第 32 回日本内視鏡外科学会, 横浜, 2019.12.5-7
45. Masato Kondo, Hironaga Satake, Motoko Mizumoto, Takanori Watanabe, Norimitsu Tanaka, Kenro Hirata, Hiroaki Tanioka, Yoshihiro Okita, Takahisa Kyogoku, Mitsutoshi Tatsumi, Koreatsu Matoba, Shinichi Adachi, Stoshi Kaihara, Hisateru Yasui, Akihito Tsuji : Multicenter phase II study of neoadjuvant chemotherapy with S-1 and oxaliplatin for locally advanced gastric cancer (Neo G-SOX P II). ASCO-GI 2020, San Francisco, 2020.1.23-25

46. 橋田裕毅, 鷺見季彦, 河原林卓馬, 水野良祐, 神部宏幸, 岩城謙太郎, 塩川桂一, 水本素子, 近藤正人, 小林裕之, 貝原 聡: 超高齢者大腸癌に対する腹腔鏡手術の有用性. 第 16 回日本消化管学会, 姫路, 2020.2.7-8

VII. 1. 15 乳腺外科

1. 加藤大典, 山上和彦, 奥野敏隆, 三瀬昌宏, 水田 誠, 小河泰昌, 木曾末厘乃, 諏訪裕文: 専攻医プログラムにおける研修施設ローテーション(異動)時の申し送り書(評価表)の工夫. 第 27 回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2019.7.13
2. 大山友梨, 木川雄一郎, 武部沙也香, 常盤麻里子, 加藤大典, 山下大祐, 原 重雄, 安井, 福原稔之: Circulating tumor DNA 検査結果からの推奨薬剤によって, 左乳癌皮膚転移と肺 転移は縮小し, 肝転移とリンパ節転移は増大し続けた一例. 第 75 回京滋乳癌研究会, 京都, 2019.9.7
3. 島 佑介, 立川 良, 嶋田有里, 益田隆広, 松梨敦史, 細谷和貴, 平林亮介, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 武部沙也香, 加藤大典, 富井啓介: Abemaciclib(CDK4/6 阻害剤)による薬剤性肺炎の一例. 第 94 回日本呼吸器学会 近畿地方会, 大阪, 2019.11.23
4. 大山 友梨, 木川雄一郎, 武部沙也香, 常盤麻里子, 加藤大典, 山下大祐, 原重雄, 金尾昌太郎, 福原稔之: 術前診断が困難であった悪性葉状腫瘍の 1 例. 第 17 回日本乳癌学会近畿地方会, 神戸, 2019.12.7
5. 武部沙也香, 立川 良, 島 佑介, 大山友梨, 常盤麻里子, 木川雄一郎, 加藤大典: アベマシクリブ投与後に重篤な薬剤性間質性肺炎を発症し死亡した一例. 第 17 回日本乳癌学会近畿地方会, 神戸, 2019.12.7

VII. 1. 16 心臓血管外科

1. 吉田一史, 藤井浩史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: 全弓部大動脈置換術後の胸腹部大動脈瘤に対するオープン手術と二期的 TEVAR での治療戦略. 第 47 回日本血管外科学会学術総会, 名古屋, 2019.5.22
2. 小泉滋樹, 藤井浩史, 吉田一史, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: 腹部 malperfusion を合併した急性 A 型大動脈解離の治療戦略. 第 47 回日本血管外科学会学術総会, 名古屋, 2019.5.24
3. 吉田一史, 吉田壮志, 藤井浩史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 坪田秀樹, 石上雅之助, 小山忠明: 総頸動脈閉塞をきたした大動脈解離に対し, 上行大動脈置換術に先行して頸動脈ステント留置を施行した 2 症例(急性期症例および慢性期症例). 第 72 回兵庫県心臓外科懇話会, 神戸, 2019.6.7
4. 吉田一史, 藤井浩史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: 肺動脈弁置換術と肺動脈・右室流出路再建を要した右室原発悪性腫瘍の一手術例. 第 62 回関西胸部外科学会学術集会, 徳島, 2019.6.13
5. 藤井浩史, 小泉滋樹, 吉田一史, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: 腹部臓器灌流障害を伴う A 型急性大動脈解離に対して静脈グラフトを用いて上行大動脈-上腸間膜動脈バイパスを施行し救命し得た一例. 第 62 回関西胸部外科学会学術集会, 徳島, 2019.6.13
6. 小泉滋樹, 藤井浩史, 吉田一史, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 小山忠明: 自己心膜を用いた僧帽弁前尖 augmentation の再手術症例の検討. 第 62 回関西胸部外科学会学術集会, 徳島, 2019.6.14
7. 藤井浩史, 吉田壮志, 吉田一史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 坪田秀樹, 小山忠明: 伝染性単核球症の急性期に感染性心内膜炎を合併した一例. 第 126 回日本循環器学会近畿地方会, 京都, 2019.6.22
8. 吉田一史, 小山忠明, 江原夏彦, 藤井浩史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳: 経カテーテル大動脈弁植え込み術と体外循環非使用下冠動脈バイパス術の同時手術の検討. 第 24 回日本冠動脈外科学会学術大会, 金沢, 2019.7.11
9. 吉田一史, 小山忠明, 長澤 淳, 藤井浩史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助: 冠動脈バイパス術における内視鏡的大伏在静脈採取術の有効性の検討. 第 24 回日本冠動脈外科学会学術大会, 金沢, 2019.7.12
10. 吉田一史, 藤井浩史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 長澤 淳, 太田光彦, 金 基泰, 江原夏彦, 小山忠明: カテーテル大動脈弁置換術における上行大動脈アプローチと心尖部アプローチの早期成績の比較. 第 10 回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会, 鎌倉, 2019.7.15
11. 吉田壮志, 藤井浩史, 吉田一史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 坪田秀樹, 石上雅之助, 小山忠明: 当院での TAVI における上行大動脈アプローチと経心尖アプローチの比較検討. 低侵襲治療研究会, 大阪, 2019.8.31

12. 藤井浩史, 吉田壮志, 吉田一史, 小泉滋樹, 中村 健, 石上雅之助, 坪田秀樹, 小山忠明: 体外循環非使用下冠動脈バイパス術における遊離右胃大網動脈グラフトの中期成績. 第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会, 京都, 2019.10.31
13. 吉田一史, 吉田壮志, 藤井浩史, 小泉滋樹, 中村 健, 坪田秀樹, 石上雅之助, 小山忠明: Valve in Valve 時代の外科的再大動脈弁置換術の治療成績. 第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会, 京都, 2019.11.1
14. 小泉滋樹, 吉田壮志, 藤井浩史, 吉田一史, 中村 健, 坪田秀樹, 石上雅之助, 小山忠明: 真性弓部大動脈瘤に対する直腸温 30 度軽度低体温オープンステントグラフトでの全弓部人工血管置換術の遠隔成績の検討 - エレファントトランクでの中等度低体温全弓部置換との比較 -. 第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会, 京都, 2019.11.1
15. 坪田秀樹, 坂口元一, 丸井晃: 僧帽弁手術後の僧帽弁置換術の早期および遠隔期成績. 第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会, 京都, 2019.11.1
16. 石上雅之助, 吉田壮志, 藤井浩史, 吉田一史, 小泉滋樹, 中村 健, 坪田秀樹, 小山忠明: Atrial functional MR に対する自己心膜での後尖拡大を用いた僧帽弁形成術の早期成績. 第 72 回日本胸部外科学会定期学術集会, 京都, 2019.11.2
17. 吉田壮志, 藤井浩史, 吉田一史, 小泉滋樹, 松田靖弘, 中村 健, 坪田秀樹, 石上雅之助, 小山忠明: 重度 MR, low EF(15%) の ICM に対し術前か rImpella5.0 を使用し左室形成 (overlap) と MVR を施行した一手術症例. 第 73 回兵庫県心臓外科懇話会, 神戸, 2019.11.8
18. Kazufumi Yoshida, Soshi Yoshida, Hirofumi Fujii, Shigeki Koizumi, Ken Nakamura, Hideki Tsubota, Masanosuke Ishigami, Kite Kim, Natsuhiko Ehara, Tadaaki koyama: The Direct-Aortic Approach for Transcatheter Aortic Valve Replacement Compared with the Transapical Approach. 28th Congress of the Asian Society for Cardiovascular & Thoracic Surgery, Chiang Mai, Thailand, 2020.2.7-10

VII. 1. 17 呼吸器外科

1. 宍戸 裕, 青山晃博, 原 重雄, 印藤貴士, 伊達直希, 浜川博司, 高橋 豊: 同一肺葉内の孤立性線維性腫瘍内に転移を来した定型カルチノイドの 1 例. 第 47 回京都大学呼吸器外科教室冬期研究会, 京都, 2019.2.16
2. 宍戸 裕, 青山晃博, 印藤貴士, 伊達直希, 浜川博司, 高橋 豊, 原 重雄: 同一肺葉内の孤立性線維性腫瘍内に転移を来した定型カルチノイドの 1 例. 第 109 回日本肺癌学会関西支部, 大阪, 2019.2.23
3. 宍戸 裕, 青山晃博, 印藤貴士, 伊達直希, 浜川博司, 高橋 豊, 原 重雄: 当院における肺多形癌切除症例の検討. 第 36 回日本呼吸器外科学会, 大阪, 2019.5.16
4. 印藤貴士, 青山晃博, 原 重雄, 藤本寛太, 宍戸 裕, 伊達直希, 浜川博司, 高橋 豊: Cushing 症候群より 12 年後に切除した ACTH 産生定型カルチノイドの 1 例. 第 36 回日本呼吸器外科学会, 大阪, 2019.5.16
5. 浜川博司, 伊達直希, 印藤貴士, 宍戸 裕, 青山晃博, 高橋 豊: 当院における胸腔鏡下気管・気管支形成術の方法と工夫. 第 36 回日本呼吸器外科学会, 大阪, 2019.5.17
6. 青山晃博, 浜川博司, 印藤貴士, 宍戸 裕, 伊達直希, 高橋 豊: 透析患者の肺癌術後短期及び長期成績. 第 36 回日本呼吸器外科学会, 大阪, 2019.5.17
7. 印藤貴士, 浜川博司, 宍戸 裕, 伊達直希, 青山晃博, 高橋 豊: 胸腔鏡下右上葉切除後に急速に出現した術後肺嚢胞の一例. 第 62 回関西胸部外科学会, 徳島, 2019.6.13
8. 印藤貴士, 甲 貴文, 宍戸 裕, 青山晃博, 浜川博司, 高橋 豊, 原 重雄: 手術により確定診断が得られた硬化性肺胞上皮腫の一例. 第 110 回日本肺癌学会関西支部, 京都, 2019.6.29
9. 細谷和貴, 佐藤悠城, 島 佑介, 嶋田有里, 大崎 恵, 益田隆広, 松梨敦史, 平林亮介, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介, 宍戸 裕, 高橋 豊, 原 重雄: 免疫チェックポイント阻害薬による薬剤性肺障害を、VATS 下肺生検により組織学的に診断し得た一例. 第 93 回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2019.7.6
10. 甲 貴文, 浜川博司, 青山晃博, 印藤貴士, 宍戸 裕, 高橋 豊: 末梢小型肺癌 SBRT 後の病的骨折で生じた肩甲骨下慢性血腫の一例. 京大呼吸外科教室夏季研究会, 箕面, 2019.7.13
11. 青山晃博, 浜川博司, 甲 貴文, 印藤貴士, 宍戸 裕, 高橋 豊: 85 歳以上の肺癌手術症例の短期および長期成績の検討. 第 72 回日本胸部外科学会, 京都, 2019.10.31

12. 嶋田有里, 中川 淳, 島 佑介, 大崎 恵, 松梨敦史, 益田隆広, 細谷和貴, 平林 亮介, 佐藤悠城, 藤本大智, 永田一真, 立川 良, 富井啓介, 甲 貴文, 高橋 豊, 平本展大, 山下大祐, 原 重雄:原因不明の両側性すりガラス影に対して胸腔鏡下肺生検で診断した血管内悪性リンパ腫の一例. 第94回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪市, 2019.11.23
13. 宍戸 裕, 青山晃博, 原 重雄, 印藤貴士, 浜川博司, 富井啓介, 高橋 豊:術前画像での腫瘍内空洞所見は多形癌術後の予後不良因子である. 第60回日本肺癌学会総会, 大阪, 2019.12.8
14. 井口貴文, 浜川博司, 甲 貴文, 宍戸 裕, 青山晃博, 高橋 豊:アプローチの工夫を要した縦隔内甲状腺腫の一切除例. 第48回京都大学呼吸外科教室同門会冬季研究会, 京都, 2020.2.15

VIII. 1. 18 脳神経外科

1. 今村博敏, 坂井信幸:脳卒中治療の進歩と未来. 東海メディカル講演会(オーラル), 名古屋, 2019.4.4
2. 今村博敏:BASICS in Kansai(コメンテーター), 大阪, 2019.4.5
3. 福田竜丸, 今村博敏, 梶浦晋司, 重安将志, 堀内一史, 秋山 亮, 佐々木夏一, 松井雄一, 舟越勇介, 大村佳大, 春原 匡, 福光 龍, 足立秀光, 谷 正一, 坂井信幸:内頸動脈重複中大脳動脈分岐部瘤の一例. Neurosurgery Kinki 2019 Spring Meeting(オーラル), 大阪, 2019.4.6
4. 重安将志, 佐々木夏一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 松井雄一, 福田竜丸, 秋山 亮, 堀内一史, 梶浦晋司, 坂井信幸:血管内治療を施行した後大脳動脈瘤 19 例の成績と手法. Neurosurgery Kinki 2019 Spring Meeting(オーラル), 大阪, 2019.4.6
5. 今村博敏:Prime de Night(座長). Prime de Night, 横浜, 2019.4.12
6. 今村博敏, 坂井信幸:ストローくん. 第3回東福寺多施設間多職種合同カンファレンス(オーラル), 京都, 2019.4.19
7. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 佐々木夏一, 藤原 悟, 村上泰隆, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸:Solitaire. 第18回岡山脳血管内治療研究会(シンポジウム), 岡山, 2019.4.20
8. 今村博敏:当院の取り組み-この4年間を振り返る. KCGH STROKE フォーラム 2019(オーラル), 神戸, 2019.4.25
9. 春原 匡, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 福光 龍, 大村佳大, 佐々木夏一, 秋山智明, 福田竜丸, 重安将志, 梶浦晋司, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸:破裂 A-com 動脈瘤. 第10回京都脳神経外科マイクロサージェリー道場(オーラル), 京都, 2019.4.27
10. 佐々木夏一, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 重安将志, 梶浦晋司, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸:動眼神経との剥離に難渋した左内頸動脈瘤. 第10回京都脳神経外科マイクロサージェリー道場(オーラル), 京都, 2019.4.27
11. 今村博敏:BASICS in CHIBA(コメンテーター). BASICS in CHIBA, 千葉, 2019.5.10
12. 今村博敏, 坂井信幸:エビデンス時代の血栓回収療法. Save the Brain(オーラル), 神戸, 2019.5.15
13. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 佐々木夏一, 藤原 悟, 村上泰隆, 福田竜丸, 秋山智明, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸:Tron FX, Sofia Flow plus を使った新しい急性期脳梗塞治療. Chikugo Neuro Intervention Seminar (オーラル), 福岡, 2019.5.25
14. 佐々木夏一, 福光龍, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 春原 匡, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 重安将志, 梶浦晋司, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸:脳皮質下出血を繰り返した原発不明悪性腫瘍の1例. 4病院合同カンファレンス(オーラル), 神戸, 2019.5.27
15. 坂井信幸, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 春原 匡, 福光 龍, 大村佳大, 福井伸行, 佐々木夏一, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 尾原信行, 藤原 悟, 村上泰隆:脳神経外科における神経超音波. 第38回日本脳神経超音波学会(イブニングセミナー), 奈良, 2019.6.7
16. 坂井信幸, 今村博敏, 尾原信行, Kobe City Medical Center General Hospital 脳卒中センター:脳卒中診療の近未来. 日本における脳卒中センターのありかた. 大阪の脳卒中を変える講演会(特別講演), 大阪, 2019.6.8
17. 今村博敏, 坂井信幸:エビデンス時代の血栓回収療法. 横浜医療センター院内講演会(オーラル), 横浜, 2019.6.14

18. 坂井信幸：最新のデバイスを使用した脳血管内治療脳血管内治療を志す若者に伝えておきたいメッセージ。第30回中四国脳血管内治療ワークショップ講演会(特別講演), 岡山, 2019.6.16
19. 今村博敏, 坂井信幸:救急搬送から血管内治療開始までの時間短縮の重要性。神戸市西消防署での講演(オーラル), 神戸, 2019.6.26
20. 福光 龍, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 春原 匡, 大村佳大, 舟越勇介, 松井雄一, 佐々木夏一, 福田竜丸, 坂井信幸:冠動脈疾患患者における頸動脈ステント留置術周術期合併症の検討。第6回日本心臓血管脳卒中学会学術集会(シンポジウム), 東京, 2019.6.28
21. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 佐々木夏一, 藤原 悟, 村上泰隆, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸:tPA 静注療法を併用した血栓回収療法の治療成績。第6回日本心臓血管脳卒中学会学術集会(シンポジウム), 東京, 2019.6.29
22. 坂井信幸:日本脳卒中学会の脳卒中センター認定について。第76回新潟脳卒中研究会(特別講演), 新潟, 2019.6.29
23. 春原 匡, 今村博敏, 河野智之, 尾原信行, 福光 龍, 藤原 悟, 村上泰隆, 大村佳大, 足立秀光, 幸原伸夫, 坂井信幸:機械的血栓回収術前のt-PA投与が治療成績に与える影響。第6回日本心臓血管脳卒中学会学術集会(オーラル), 東京, 2019.6.29
24. Ryu Fukumitsu, Hirotoishi Imamura, ShoichiTani, Hidemitsu Adachi, Tadashi Sunohara, Yoshihiro Omura, Nobuyuki Fukui, Natsuhi Sasaki, Tatsumaru Fukuda, Tomoaki Akiyama, Shinji Kajiura, Masashi Shigeyasu, Ryo Horii, KentoAsakura, Nobuyuki Sakai : Results of carotid artery stenting without using contrast medium. East Asian Conference of neurointervention 2019(オーラル), 大阪, 2019.7.10
25. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 佐々木夏一, 藤原 悟, 村上泰隆, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸:Solitaire Platinum 4x40の有効性~実臨床での使用経験から~。脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2019(セミナー), 神戸, 2019.7.13
26. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 佐々木夏一, 藤原 悟, 村上泰隆, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸:AIS(2)基本的手技、応用 Simple Stent Retriever。脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2019(セミナー), 神戸, 2019.7.13
27. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 尾原信行, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 佐々木夏一, 藤原 悟, 村上泰隆, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸:末梢病変。脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2019(セミナー), 神戸, 2019.7.13
28. 坂井信幸, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 坂井千秋, 尾原信行, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 佐々木夏一, 藤原 悟, 村上泰隆, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮:動脈狭窄症における Embolic Protection Device の遍歴。脳血管内治療ブラッシュアップセミナー2019(共催セミナー12), 神戸, 2019.7.13
29. 大村佳大, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山智明, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸:Neuroform Atlas 留置後に母血管へcoil逸脱を認めstent追加留置を要した内頸動脈未破裂脳動脈瘤の1例。第58回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ(オーラル), 和歌山, 2019.7.19
30. 足立秀光:脳血管障害。第49回兵庫県脳神経外科医懇話会(座長), 神戸, 2019.7.20
31. 今村博敏:動脈瘤3。第58回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ(座長), 和歌山, 2019.7.20
32. 坂井信幸:今後の急性期脳卒中診療血行再建を中心に、治療適応、新規デバイス導入、診療体制の整備。脳神経治療戦略研究会(特別講演), 松山, 2019.7.20
33. 今村博敏, 坂井信幸:脳卒中診療における抗凝固療法と血管内治療。高齢者の脳を守る会(講演), 札幌, 2019.7.30
34. 今村博敏, 坂井信幸:破裂動脈瘤の再出血を予防するための最善のコイル塞栓術とは。Neurosurgical Forum(オーラル), 高知, 2019.8.3
35. 坂井信幸:脳卒中センター構想とJSNETの取り組み。第30回日本脳神経血管内治療学会九州地方会(特別講演), 福岡, 2019.8.3
36. 福光 龍, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 春原 匡, 大村佳大, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山智明, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 坂井信幸:虚血性心疾患患者における頸動脈ステント留置術の周術期合併症について。第25回日本血管内治療学会学術集会(オーラル), 東京, 2019.8.20

37. 今村博敏, 尾原信行, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 佐々木夏一, 藤原 悟, 村上泰隆, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸: 脳神経の観点からみた急性再開通療法的时间短縮. 第 25 回日本血管内治療学会学術集会 (シンポジウム), 東京, 2019.8.20
38. 今村博敏: 脳動脈瘤コイル塞栓術における困難症例、相談症例などを持ち寄って頂きディスカッションする会. BASICS in Tokyo(コメンテーター), 東京, 2019.8.23
39. 坂井信幸: 最新の脳動脈再開通療法、t-PA 静注療法と血栓回収療法. 第 14 回 FBI 研究会 (福岡救急ネットワーク脳梗塞内科治療研究会)(特別講演), 福岡, 2019.8.28
40. 大村佳大, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山智明, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸: 当院でのペランパネルの使用経験. 第 2 回脳神経外科セミナー in 神戸 (講演), 神戸, 2019.8.30
41. 今村博敏: 第 2 回脳神経外科セミナー in 神戸 (座長). 第 2 回脳神経外科セミナー in 神戸, 神戸, 2019.8.30
42. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 坂井千秋, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 佐々木夏一, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 尾原信行, 藤原 悟, 村上泰隆: 頭蓋内動脈硬化症に対する血管内治療、我が国における Wingspan ステントシステム、これまでそして今後. 第 38 回 The Mt. Fuji Workshop on CVD(イブニングセミナー), 横浜, 2019.8.31
43. 佐々木夏一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸: 急性閉塞で発症した脳底動脈狭窄症例への経皮的血管形成術 / ステント留置術の治療成績. 第 38 回 Mt.Fuji workshop on CVD(シンポジウム), 横浜, 2019.8.31
44. 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 佐々木夏一, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸: Wingspan を使った頭蓋内狭窄症に対する血管形成術. 第 6 回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会 (セミナー), 大阪, 2019.9.7
45. 重安将志, 佐々木夏一, 福光 龍, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸: 巨細胞性動脈炎により頭蓋内多発血管狭窄をきたし PTA を施行した 1 例. 第 6 回日本脳神経血管内治療学会近畿地方会 (オーラル), 大阪, 2019.9.7
46. Nobuyuki SAKAI, Hirotohi IMAMURA, Nobuyuki OHARA, Chiaki SAKAI, Kazuo MINEMATSU, Yasuhiro HASEGAWA, Akio HYODO, Koji IIHARA, Kuniaki OGASAWARA, WICAD investigators: Intracranial Artery Stenosis: an Asian Perspective Current Status of Endovascular Therapy for ICAD - Japanese prospective study of endovascular therapy for ICAD and ICAD based AIS treatment. World Federation of Neurological Surgery 2019, Beijing, China, 2019.9.10
47. 今村博敏, 坂井信幸: 抗凝固薬服用患者の脳卒中治療、血栓回収療法の治療成績向上のために. 八戸救急脳血管内治療セミナー (セミナー), 青森, 2019.9.12
48. 坂井信幸: JSS Stroke Center 認定と JSNET 専門医制度. 第 1 回日本脳神経内科血管研究会 (特別講演), 大阪, 2019.9.14
49. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Ohara N, Fujiwara S, Murakami Y: State-of-the art of Carotid Angioplasty and Stenting - Future Perspective of Carotid Angioplasty and Stenting in Japan. Vascular Symposium(invited lecture), Tel Aviv, Israel, 2019.9.16
50. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 坂井千秋, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 佐々木夏一, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 尾原信行, 藤原 悟, 村上泰隆: 脳卒中急性期のインターベンション治療の現状と課題、Interventional cardiologist の加わる予知はあるか? 脳卒中診療のガイドラインと現状. 第 28 回日本心血管インターベンション治療学会 (日本血管内治療学会合同セッション), 名古屋, 2019.9.21
51. 今村博敏: 特別講演 II. 多職種連携講演会 (座長), 神戸, 2019.9.27
52. 今村博敏, 谷 正一, 河原崎知, 尾原信行, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 松本 調, 大村佳大, 藤原 悟, 村上泰隆, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸: 脳卒中ホットラインを使用した搬送から血管内治療までの時間短縮. 第 47 回日本救急医学会総会・学術総会 (シンポジウム), 東京, 2019.10.2
53. 今村博敏, 坂井信幸: 脳血管障害と抗てんかん薬. エーザイ株式会社 社内講演会 (オーラル), 神戸, 2019.10.4

54. 福光 龍, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 春原 匡, 大村佳大, 福井伸行, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山智明, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 坂井信幸: 造影剤を使用しない頸動脈ステント留置術 (non-contrast CAS) の治療成績. 第 78 回日本脳神経外科学会学術総会 (オーラル), 大阪, 2019.10.9
55. 福井伸行, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 佐々木夏一, 秋山智明, 福田竜丸, 坂井 信幸: 担癌患者の急性期血行再建について地域脳卒中・がん診療拠点施設における検討. 第 78 回日本脳神経外科学会学術総会 (ポスター), 大阪, 2019.10.9
56. 秋山智明, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 佐々木夏一, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 坂井信幸: 急性期頸動脈ステント留置術に関する有効性と安全性の検討. 第 78 回日本脳神経外科学会学術総会 (ポスター), 大阪, 2019.10.9
57. 今村博敏: AIS ⑥ - 高齢者と Late-window Stroke-. 第 78 回日本脳神経外科学会学術総会 (座長), 大阪, 2019.10.10
58. 今村博敏, 谷 正一, 河原崎知, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 松本 調, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸: 新生リトリーパー - 何が変わり、何をもらすか - アジア初 EmboTrap II 登場. 第 78 回日本脳神経外科学会学術総会 (セミナー), 大阪, 2019.10.10
59. 佐々木夏一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 坂井信幸: 急性閉塞で発症した椎骨脳底動脈狭窄症例への経皮的血管形成術 / ステント留置術の治療成績. 第 78 回日本脳神経外科学会学術総会 (オーラル), 大阪, 2019.10.10
60. 福田竜丸, 今村博敏, 朝倉健登, 堀井亮, 梶浦晋司, 重安将志, 秋山智明, 大村佳大, 松本調, 福井伸行, 春原匡, 福光龍, 河原崎知, 谷正一, 坂井信幸: 内頸動脈重複中大脳動脈分岐部瘤の 2 例. 第 78 回日本脳神経外科学会学術総会 (ポスター), 大阪, 2019.10.10
61. 春原 匡, 森実飛鳥, 松浦理史, 斎藤博英, 高橋 淳, 宮本 享: microRNA スイッチを用いた多能性幹細胞由来神経細胞からの皮質運動ニューロンの選別法の開発. 第 78 回日本脳神経外科学会総会 (ポスター), 大阪, 2019.10.11
62. 今村博敏, 谷 正一, 河原崎知, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 松本 調, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸: 血栓回収療法エキスパートの時短戦略 Solitaire Platinum 4x40 の有効性. 第 78 回日本脳神経外科学会学術総会 (セミナー), 大阪, 2019.10.11
63. 今村博敏, 谷 正一, 河原崎知, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 松本 調, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸: 新たな血栓回収デバイスと術工夫 Trevo XP ProVue Retriever x AXS Catalyst 6. 第 78 回日本脳神経外科学会学術総会 (セミナー), 大阪, 2019.10.11
64. 今村博敏, 谷 正一, 河原崎知, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 松本 調, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸: 都心部での疲弊しない血栓回収療法. 第 78 回日本脳神経外科学会学術総会 (シンポジウム), 大阪, 2019.10.11
65. 重安将志, 佐々木夏一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸: 血管内治療を施行した後大脳動脈瘤 20 例の成績と手法. 第 78 回日本脳神経外科学会学術総会 (オーラル), 大阪, 2019.10.11
66. 坂井信幸: 脳梗塞治療の最前線 - 急性期から慢性期まで -. 第 78 回日本脳神経外科学会学術総会 (アフタヌーンセミナー), 大阪, 2019.10.11
67. 大村佳大, 今村博敏, 谷 正一, 坂井千秋, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山智明, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸: ステント単独で治療した出血性解離性動脈瘤の 3 例. 第 78 回日本脳神経外科学術総会 (ポスター), 大阪, 2019.10.12
68. 坂井信幸, 今村博敏, 足立秀光, 谷 正一, 坂井千秋, 河原崎知, 福光 龍, 春原 匡, 松本 調, 福井伸行, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 尾原信行, 藤原 悟, 村上泰隆: 急性期脳梗塞における血管内治療と再開通療法. 第 22 回日本栓子検出と治療学会 (シンポジウム基調口演), 盛岡, 2019.10.18
69. Sakai N, Imamura H, Sakai C, Ohara N, Fujiwara S, Murakami Y: Endovascular management for AIS in Japan. Role of Japanese Society of Neuroendovascular Therapy. Global NV Consensus Meeting @15th World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology, Naples, Italy, 2019.10.20

70. Tadashi Sunohara,M.D, Hirotoshi Imamura,M.D,Ph.D, ShoichiTani,M.D,Ph.D, Hidemitsu Adachi,M.D,Ph.D, Ryu Fukumitsu,M.D,Ph.D, Nobuyuki Fukui,M.D, Yoshihiro Ohmura,M.D, Yusuke Funakoshi,M.D, Natsuhi Sasaki,M.D, Tomoaki Akiyama,M.D, Tatsumaru Fukuda,M.D, Shinji Kajiura,M.D, Masashi Shigeyasu,M.D, Nobuyuki Sakai,M.D,Ph.D. : Occlusion and complication rates with flow diverter treatment depend on aneurysm morphology. WFITN2019(ポスター), Naples,Italy, 2019.10.22
71. Imamura H, Sakai N, Ito Y, Sakai C, Hyodo A, Miyachi S, Matsumaru Y, Yoshimura S, Abe T, Yamagami H, Hayakawa M, Sato H, Fujinaka T, Tanabe K;JHSR Collaborators : Prospective registry of embolization of intracranial aneurysms using HydroSoft coils Results of the Japanese HydroSoft Registry. WFITN2019(ポスター), Naples,Italy, 2019.10.22
72. Nobuyuki Sakai, Hirotoshi Imamura, Chiaki Sakai, Akio Hyodo, Yasushi Ito, Yuji Matsumaru, Shigeru Miyachi, Shinichi Yoshimura, Makoto Sasaki, Kuniaki Ogasawara, Susumu Miyamoto, Masayuki Ezura, Ichiro Nakahara, Akira Ishii, Toshio Higashi, HYBRID study investigators : HYdrocoil versus Bare platinum coil in Recanalization Imaging Data study Prospective randomized multicenter study of Hydrogel Coil vs Bare Platinum Coil for intracranial aneurysms. 15th World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology, Naples,Italy, 2019.10.23
73. Yoshihiro Omura, Hirotoshi Imamura, ShoichiTani, Ryu Fukumitsu, Tadashi Sunohara, Tatsumaru Fukuda, Tomoaki Akiyama, Shinji Kajiura, Masashi Shigeyasu, Nobuyuki Sakai : Trans arterial embolization of intracranial dural arteriovenous fistulas in the ONYX embolic era:A Kobe experience. 15th Congress of World Federation of Interventional and Therapeutic Neuroradiology(オーラル), Naples,Italy, 2019.10.23
74. 今村博敏 : 超高齢社会における脳卒中医療の現状と課題. 第2回 Kone Stroke Joint Meeting(座長), 神戸, 2019.10.24
75. 今村博敏 : G3 summit in Osaka(座長). G3 summit in Osaka, 大阪, 2019.10.25
76. 坂井信幸, 坂井千秋, 山本晴子, 永井洋士, 吉村紳一 : 経験してきた臨床研究、医師主導治験を通じて得たもの. 兵庫医科大学大学院講義, 西宮, 2019.10.28
77. 今村博敏 : Solitaire de Night in 東京(座長). Solitaire de Night in 東京, 東京, 2019.11.1
78. 坂井信幸 : 脳血管内治療の未来、日本脳神経血管内治療学会の目指す方向性. 第20回日本脳神経血管内治療学会北海道地方会, 札幌, 2019.11.2
79. Sakai N, Minematsu K, hasegawa Y, Hyodo A, Iihara K, Ogasawara K, Imamura H, Ohara N, Kono T, Adachi H, Sakai C : Japanese prospective study of endovascular therapy for ICAD. ICAS2019(invited lecture), Los Angeles, 2019.11.4
80. Sakai N, Imamura H, Ohara N, Fujiwara S, Murakami Y, Sakai C, Tani S, Fukumitsu R, Sunohara T, Matsumoto S, Omura Y, Akiyama T, Fukuda T, Kajiura S, Shigeyasu M, Asakura K, Horii R : Endovascular treatment for AIS in Japan,update. Collaterals2019,LosAngeles,USA, 2019.11.6
81. 今村博敏 : Solitaire de Night in 大宮(座長). Solitaire de Night in 大宮, 埼玉, 2019.11.8
82. 今村博敏, 坂井信幸 : 神戸 AIS 治療戦略[末梢・後方循環も含めて]. 北海道大学 AIS セミナー(セミナー), 北海道, 2019.11.9
83. 今村博敏 : STROKE. 2019 ASIA-PACIFIC STROKE LEADERSHIP FORUM(オーラル), Singapore, 2019.11.14
84. Tadashi Sunohara, Hirotoshi Imamura, ShoichiTani, Ryu Fukumitsu, Satoru Kawarazaki, Nobuyuki Fukui, Shirabe Matsumoto, Yoshihiro Ohomura, Tomoaki Akiyama, Tatsumaru Fukuda, Shinji Kajiura, Masashi Shigeyasu, Ryo Horii, KentoAsakura, Nobuyuki Sakai : ACC-dAVF における舌下神経と shunt point の関係についての検討. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会(オーラル), 福岡, 2019.11.21
85. 今村博敏 : 急性期血栓回収療法 : スタッフの疲弊を回避しながら安定した治療成績を得るための工夫. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会(座長), 福岡, 2019.11.21
86. 今村博敏, 谷 正一, 河原崎知, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 松本 調, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸 : 拡がる血栓回収デバイスの選択肢. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会(セミナー), 福岡, 2019.11.21
87. 秋山智明, 福光 龍, 谷 正一, 今村博敏, 河原崎知, 春原 匡, 松本 調, 福井伸行, 大村佳大, 坂井信幸 : 血栓回収術と同時にを行った急性期頸動脈ステント留置術に関する有効性と安全性に関する検討. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会(オーラル), 福岡, 2019.11.21

88. 今村博敏：ペイルアウト（再開通治療）. Continuing Education Program(CEP)(講演)，福岡，2019.11.22
89. 坂井信幸：日本脳神経血管内治療学会、社会に対する貢献と責任. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会（理事長講演），福岡，2019.11.22
90. Hirotochi IMAMURA, Shoichi TANI, Chiaki SAKAI, Satoru KAWARAZAKI, Ryu FUKUMITSU, Tadashi SUNOHARA, Nobuyuki FUKUI, Shirabe MATSUMOTO, Yoshihiro Omura, Tomoaki AKIYAMA, Tatsumaru FUKUDA, Shinji KAJIURA, Masashi SHIGEYASU, Kento ASAKURA, Ryo HORII, Nobuyuki SAKAI : Subarachnoid hemorrhage after coil embolization for unruptured cerebral aneurysms. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会（シンポジウム），福岡，2019.11.22
91. 重安将志, 佐々木夏一, 福光 龍, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸：巨細胞性動脈炎により頭蓋内多発血管狭窄をきたしPTAを施行した1例. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会（ポスター），福岡，2019.11.22
92. 福井伸行, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 佐々木夏一, 秋山智明, 福田竜丸, 坂井 信幸：担癌患者に対する急性期血栓回収療法について. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会（オーラル），福岡，2019.11.22
93. 福光 龍, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 春原 匡, 大村佳大, 福井伸行, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山智明, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 坂井 信幸：造影剤を使用しない頸動脈ステント留置術 (non-contrast CAS) の治療成績. 第35回日本脳神経血管内治療学術総会（オーラル），福岡，2019.11.23
94. 今村博敏：シンポジウム18「硬膜内内頸動脈瘤に対する flow diverter stent（安全性と有用性）」. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会（座長），福岡，2019.11.23
95. 今村博敏, 谷 正一, 河原崎知, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 松本 調, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸. 脳動脈瘤治療において成功のポイント. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会（セミナー），福岡，2019.11.23
96. 今村博敏, 谷 正一, 河原崎知, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 松本 調, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸：都心部での疲弊しない血栓回収療法にむけて. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会（シンポジウム），福岡，2019.11.23
97. 大村佳大, 今村博敏, 谷 正一, 河原崎知, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 松本 調, 福田竜丸, 秋山智明, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸：Cognard分類に基づく頭蓋内硬膜動静脈瘻に対するONYXを用いた経動脈的塞栓術の治療成績. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会（オーラル），福岡，2019.11.23
98. 佐々木夏一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 坂井信幸：急性閉塞で発症した椎骨脳底動脈狭窄症例への経皮的血管形成術/ステント留置術の治療成績. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会（オーラル），福岡，2019.11.23
99. 福田竜丸, 今村博敏, 朝倉健登, 堀井 亮, 梶浦晋司, 重安将志, 秋山智明, 大村佳大, 松本 調, 福井伸行, 春原 匡, 福光 龍, 河原崎知, 谷 正一, 坂井信幸：当院におけるBA-SCA動脈瘤の治療成績. 第35回日本脳神経血管内治療学会学術総会（オーラル），福岡，2019.11.23
100. 今村博敏：最新 Device を使用した動脈瘤治療. TERUMO Micro Vention Neuro Device Seminar(座長)，神戸，2019.11.26
101. 今村博敏, 谷 正一, 河原崎知, 福光 龍, 春原 匡, 松本 調, 福井伸行, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸：メドトロニック指南書 - ここで、メドトロ!! 第2回神奈川若手の会（講演），神奈川，2019.11.28
102. 谷 正一, 佐々木一朗, 大村佳大, 重安将志, 松下隆史, 足立秀光, 今村博敏, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 佐々木夏一, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 堀井 亮, 朝倉健登, 坂井千秋, 坂井信幸：側脳室周囲の静脈性鬱血により段階的に多部位の術中MEPが低下したcentral neurocytomaの1例. 第49回日本臨床神経生理学会学術大会（オーラル），福島，2019.11.29
103. 今村博敏：Solitaire de Night in 静岡. Solitaire de Night in 静岡（講演），静岡，2019.12.6
104. 今村博敏, 坂井信幸. AIS治療時短の秘訣. 第4回福岡大学筑紫病院急性期脳梗塞診療体制構築セミナー（セミナー），福岡，2019.12.12

105. 今村博敏：Solitaire de Night in 名古屋. Solitaire de Night in 名古屋 (講演), 名古屋, 2019.12.13
106. 今村博敏：第 10 回京都大学脳神経外科 NeuroIVR 研修セミナー IVR 道場 (座長). 第 10 回京都大学脳神経外科 NeuroIVR 研修セミナー IVR 道場, 京都, 2019.12.14
107. 今村博敏：第 10 回京都大学脳神経外科 NeuroIVR 研修セミナー IVR 道場 (コメンテーター). 第 10 回京都大学脳神経外科 NeuroIVR 研修セミナー IVR 道場, 京都, 2019.12.14
108. 佐々木夏一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 重安将志, 梶浦晋司, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸：ステントアシストコイル塞栓術で加療を行なった未破裂前交通動脈瘤の 1 例. 第 10 回京都大学脳神経外科 NeuroIVR 研修セミナー IVR 道場 (オーラル), 京都, 2019.12.14
109. 今村博敏：脳神経外科セミナー in 兵庫 (座長). 脳神経外科セミナー in 兵庫, 神戸, 2019.12.19
110. 秋山智明, 谷 正一, 今村博敏, 河原崎知, 福光 龍, 春原 匡, 松本 調, 福井伸行, 大村佳大, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 坂井信幸：当院でのペランパネルの使用経験. 脳神経外科セミナー in 神戸 (講演), 神戸, 2019.12.19
111. 今村博敏：AIS Summit in 京阪神 (コメンテーター). AIS Summit in 京阪神, 大阪, 2019.12.20
112. 今村博敏：Solitaire de Night in 仙台 (座長). Solitaire de Night in 仙台, 仙台, 2020.1.17
113. 今村博敏, 坂井信幸：Solitaire de Night in Hakata. Solitaire de Night in Hakata (講演), 博多, 2020.1.24
114. 今村博敏：セッション 5. 第 59 回近畿脳神経血管内手術法ワークショップ (座長), 滋賀, 2020.1.25
115. 今村博敏：Solitaire de Night in 横浜 (座長). Solitaire de Night in 横浜, 横浜, 2020.2.7
116. 福田竜丸, 福光 龍, 朝倉健登, 堀井 亮, 梶浦晋司, 重安将志, 秋山智明, 大村佳大, 松本 調, 福井伸行, 春原 匡, 河原崎知, 今村博敏, 坂井千秋, 谷 正一, 坂井信幸：頸髄 AVF に対して TAE 後両上肢麻痺を生じた一例. 神戸中央脳神経外科研究会 (オーラル), 兵庫, 2020.2.10
117. 今村博敏：Solitaire de Night in 滋賀. Solitaire de Night in 滋賀 (特別講演), 滋賀, 2020.2.14
118. 今村博敏, 坂井信幸：Solitaire de Night@ Sapporo. Solitaire de Night@ Sapporo (講演), 札幌, 2020.2.21

VII. 1. 19 整形外科

1. 太田悟司, 藤田 暁, 本田新太郎, 小西宏樹, 高岡佑輔, 平塚将太郎, 松永一宏, 森田悠吾, 橋村卓実, 末吉達也, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義：下腿開放骨折後感染難治症例に対するサルベージの相談. 第 8 回京大外傷研究会, 大阪, 2019.2.2
2. 藤田 暁, 藤田俊史, 橋村卓実, 安田 義：超高齢者における complex elbow injury の治療経験. 第 31 回日本肘関節学会学術集会, 小樽, 2019.2.9
3. 藤田俊史, 藤田 暁, 橋村卓実, 末吉達也, 太田悟司, 大西英次郎, 安田 義：Terrible Triad Injury and confusing elbow injury Difficulty in diagnosis and the outcome (Terrible Triad Injury と鑑別の難しい肘外傷とその治療成績). 第 31 回日本肘関節学会学術集会, 小樽, 2019.2.9
4. 橋村卓実, 藤田暁, 藤田俊史, 安田 義：骨間膜損傷を伴った Monteggia 骨折に対して suture-button を使用した一例. 第 31 回日本肘関節学会学術集会, 小樽, 2019.2.9
5. 末吉達也, 安田 義：立位下肢全長レントゲンにおける人工膝関節全置換術後の膝関節面の高さの変化について. 第 49 回日本人工関節学会, 東京, 2019.2.15
6. 末吉達也, 藤田 暁, 本田新太郎, 小西宏樹, 高岡佑輔, 平塚将太郎, 松永一宏, 森田悠吾, 橋村卓実, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義：Stryker 社 NAV3[®] を使用した人工膝関節手術の早期報告. 第 13 回日本 CAOS 研究会, 京都, 2019.3.7
7. 安田 義：骨粗鬆症の病態と治療. アステラス・アムジェン・バイオフーマ社内講演会, 神戸, 2019.3.27
8. 森田悠吾, 大西英次郎, 安田 義, 林 信実：播種性クリプトコッカス症の脊椎病変に対して前方後方固定術を施行した 1 例. 第 132 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 津, 2019.4.5
9. 松永一宏, 藤田俊史, 橋村卓実, 安田 義：若年者環指中手骨頭頭の avascular necrosis に対し骨軟骨移植にて治療した一症例. 第 132 回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 津, 2019.4.5
10. Yasuda T, Onishi E, Ota S, Fujita S, Sueyoshi T, Hashimura T: Correlation of serum MMP-3 levels with time course after the onset of rapidly progressive osteoarthritis of the hip. APLAR-ARA2019, Brisbane, Australia, 2019.4.8-11
11. Yasuda T, Onishi E, Ota S, Fujita S, Sueyoshi T, Hashimura T: Association of serum MMP-3 concentrations with disease progression after the onset of rapidly destructive coxopathy. The 63rd Annual Meeting of Japan College of Rheumatology, Kyoto, 2019.4.15

12. 松永一宏, 枝光 優, 相江直哉, 藤田 暁, 本田新太郎, 橋村卓実, 塚本義博, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 大腿骨遠位端骨折に対して両側プレート固定を用いた症例の検討. 第30回兵庫県骨折治療研究会, 神戸, 2019.4.13
13. 安田 義, 大西英次郎, 太田悟司, 藤田俊史, 末吉達也, 橋村卓実: 急速破壊型股関節症の病型分類とMMP-3との関連性. 第92回日本整形外科学会学術総会, 横浜, 2019.5.11
14. 本田新太郎, 相江直哉, 枝光 優, 藤田 暁, 松永一宏, 橋村卓実, 塚本義博, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 骨粗鬆症性多発性腰椎圧迫骨折を伴った脊柱管狭窄症の1例. 第3回オープンボーンカンファレンス特別講演会, 神戸, 2019.5.18
15. 枝光 優, 相江直哉, 藤田 暁, 本田新太郎, 松永一宏, 橋村卓実, 塚本義博, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 開放性経舟状骨月状骨/月状骨周囲脱臼の一例. 第3回オープンボーンカンファレンス特別講演会, 神戸, 2019.5.18
16. 太田悟司, 枝光 優, 相江直哉, 藤田 暁, 本田新太郎, 松永一宏, 橋村卓実, 塚本義博, 末吉達也, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 下腿開放骨折後感染難治症例に対するサルベージの相談. 第9回京大外傷研究会, 大阪, 2019.6.1
17. 安田 義, 末吉達也: 女性バスケットボール選手とサッカー選手の前十字靭帯損傷と股関節回旋との関連性. 第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 札幌, 2019.6.13
18. 末吉達也, 安田 義: 人工膝関節全置換術後の立位下肢全長レントゲンにおける膝関節面高位の変化について. 第11回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会, 札幌, 2019.6.15
19. Yasuda T, Onishi E, Ota S, Fujita S, Sueyoshi T, Hashimura T: Association between matrix metalloproteinase-3 and the progression of rapidly progressive osteoarthritis of the hip. ICORS2019, Montreal, Canada, 2019.6.22
20. 太田悟司, 安田 義, 末吉達也: 寛骨臼骨折に対する suprapectinial plate の使用経験. 第45回日本骨折治療学会, 福岡, 2019.6.28
21. 末吉達也, 太田悟司, 安田 義: 脛骨髄内釘術後の足関節可動域制限. 第45回日本骨折治療学会, 福岡, 2019.6.28
22. 安田 義, 橋村卓実, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎: 膝前十字靭帯損傷の既往があるバスケットボール女子選手とサッカー女子選手における股関節回旋の比較. 第32回日本臨床整形外科学会学術集会, 神戸, 2019.7.14
23. 大西英次郎: 腰痛診療ガイドライン2019改定のポイントとケースディスカッション. Chronic pain seminar 神戸, 神戸, 2019.7.20
24. 藤田俊史: 高齢者における肩関節外傷と慢性痛 (日本整形外科学会教育研修講演). 神戸市整形外科医会第11回総会学術講演会, 神戸, 2019.7.27
25. 安田 義: 女性アスリートにおける股関節回旋と膝前十字靭帯損傷との関連性 (日本整形外科学会教育研修講演). 兵庫県整形外科医会学術講演会, 神戸, 2019.8.3
26. 相江直哉, 枝光 優, 藤田 暁, 本田新太郎, 松永一宏, 橋村卓実, 塚本義博, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 両踵骨骨折術後の難治性疼痛に対し、関節鏡視下滑膜切除術を行った1例. 第5回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2019.8.23
27. 大西英次郎: 脊椎腫瘍による神経障害性疼痛の治療. 第5回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2019.8.23
28. Sueyoshi T, Matsunaga K, Hashimura T, Fujita S, Ota S, Onishi E, Yasuda T: The background on hip fracture patients; history of fractures and anti-osteoporosis therapy. The 8th Fragility Fracture Network Global Congress, Oxford, UK, 2019.8.29
29. 末吉達也, 相江直哉, 枝光 優, 藤田 暁, 本田新太郎, 松永一宏, 橋村卓実, 塚本義博, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 人工膝関節全置換術後の立位レントゲンにおけるジョイントラインの変化. 第56回兵庫県膝関節研究会, 神戸, 2019.9.14
30. 安田 義, 小柳圭一, 中垣美優, 原田惇平, 吉矢晋一, 市橋則明, 伊藤浩充: 日本体力医学会プロジェクト研究成果報告ー女性アスリートにおける股関節回旋と膝前十字靭帯損傷との関連性に関する研究. 第74回日本体力医学会大会, つくば, 2019.9.20
31. 松永一宏, 安田 義, 藤田俊史, 橋村卓実, 藤田 暁: ムチランス型変形肘関節の上腕骨内上顆骨折後偽関節に対するTEAの2例. 第133回中部日本整形外科災害外科学会学術集会, 神戸, 2019.9.21

32. 藤田俊史, 相江直哉, 枝光 優, 藤田 暁, 本田新太郎, 松永一宏, 橋村卓実, 塚本義博, 末吉達也, 太田悟司, 大西英次郎, 安田 義: 両踵骨骨折術後の難治性疼痛に対し、関節鏡視下滑膜切除術を行った1例. 第43回摩耶整形外科病診連携懇話会, 神戸, 2019.9.26
33. Sueyoshi T, Yasuda T: Joint line changes after total knee arthroplasty with long-leg radiographic measurements. ISTA2019, Toronto, Canada, 2019.10.3
34. 阜月幹太, 高村大祐, 山田莞爾, 高濱安津子, 蔵谷鷹大, 本田明広, 岩田健太郎, 末吉達也, 安田 義: THA術後患者の退院時歩行能力に術前予測院試として握力は影響を及ぼすか. 第7回日本運動器理学療法学会学術大会, 岡山, 2019.10.5-6
35. 高村大祐, 脇川大誠, 畠山隼平, 高濱安津子, 岩田健太郎, 末吉達也, 安田 義, 森山英樹: 血中 miR-133a は人工膝関節全置換術後早期の TUG と関連する. 第7回日本運動器理学療法学会学術大会, 岡山, 2019.10.5-6
36. 藤田俊史, 相江直哉, 枝光 優, 藤田 暁, 本田新太郎, 松永一宏, 橋村卓実, 塚本義博, 末吉達也, 太田悟司, 大西英次郎, 安田 義: 40代女性脆弱性肩関節脱臼骨折の1例. 第31回兵庫県骨折治療研究会, 神戸, 2019.10.5
37. 太田悟司: 当院における脆弱性骨折治療. 令和元年度地域連携懇話会, 神戸, 2019.10.24
38. Satoshi Fujita, Kumiko Shibata, Yuma Yajima, Tadashi Yasuda: Fracture-dislocation of the proximal humerus that induced further displacement by reduction with zero position. 第46回日本肩関節学会, 長野市, 2019.10.25-26
39. 橋村卓実, 本田新太郎, 大西英次郎: スクリュー付きケージ単独での頸椎前方固定術における術後の沈み込みの検討. 第28回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, つくば, 2019.11.15-16
40. 本田新太郎, 橋村卓実, 大西英次郎: 高齢者の上位頸椎骨折における治療成績に関する検討. 第28回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, つくば, 2019.11.15-16
41. 本田新太郎, 橋村卓実, 大西英次郎: 高齢者の上位頸椎骨折における治療成績に関する検討. 第22回日本低侵襲脊椎外科学会, 高松, 2019.11.28-29
42. 本田新太郎, 相江直哉, 枝光 優, 藤田 暁, 松永一宏, 橋村卓実, 塚本義博, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 脛骨プラトー骨折の1例. 第8回京整会轍会症例検討会, 神戸, 2019.11.30
43. 相江直哉, 枝光 優, 藤田 暁, 本田新太郎, 松永一宏, 橋村卓実, 塚本義博, 末吉達也, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: Aeromonas Hydrophilaによる壊死性筋膜炎で骨盤半裁術を行うも救命し得なかった一例. 第8回京整会轍会症例検討会, 神戸, 2019.11.30
44. 末吉達也, 相江直哉, 枝光 優, 藤田 暁, 本田新太郎, 松永一宏, 橋村卓実, 塚本義博, 太田悟司, 藤田俊史, 大西英次郎, 安田 義: 膝蓋骨下極骨折の手術治療. 第6回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2019.12.14
45. 大西英次郎: 脊椎疾患における腰痛の診断と治療～腰痛診療 GL を踏まえて～. 第24回西播・姫路医療セミナー, 姫路, 2019.12.19

VII. 1. 20 形成外科

1. 池田実香, 片岡和哉, 七 也, 松添晴加, 篠原尚吾, 濱口晴海: 頭頸部骨欠損に対する人工骨プレートを用いた再建4例. 第62回日本形成外科学会総会学術集会, 札幌, 2019.5.15-17
2. 七 也, 片岡和哉, 池田実香, 松添晴加: 長掌筋腱付き前腕皮弁による軟口蓋再建の一例. 第62回日本形成外科学会総会学術集会, 札幌, 2019.5.15-17
3. 池田実香, 松添晴加, 内藤素子, 片岡和哉, 川端智也, 辻 孝, 武尾 真: ケロイド移植モデルの構築(第2報). 第28回日本形成外科学会基礎学術集会, 仙台市, 2019.11.14-15

VII. 1. 21 産婦人科

1. 川崎 薫, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 大竹紀子, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 前置胎盤のリスク評価に対するMRIの有用性についての検討. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 2019.4.11-14
2. 小山瑠梨子, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 大竹紀子, 上松和彦, 川崎 薫, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院における選択的帝王切開施行時期の検討. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 2019.4.11-14

3. 岡本葉留子, 川崎 薫, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 大竹紀子, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 分娩後異常出血に対する子宮動脈塞栓術の検討. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 2019.4.11-14
4. 林 信孝, 吉岡信也, 上松和彦, 青木卓哉, 池田仁恵, 三上幹男, 榎本隆之, 小林陽一, 永瀬 智, 横山正俊, 片渕秀隆, 「子宮頸部円錐切除術の実態調査」に関する小委員会: 本邦における子宮頸部円錐切除術 14,832 例の検討 手術器具に関しての検討 「子宮頸部円錐切除術の実態調査」に関する小委員会 (日本産科婦人科学会婦人科腫瘍委員会) 報告. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 2019.4.11-14
5. 山添紗恵子, 松林 彩, 崎山明香, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 富田裕之, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 平滑筋腫からの発生が疑われた平滑筋肉腫の2例. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 2019.4.11-14
6. 崎山明香, 柳川真澄, 山添紗恵子, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院における胎盤ポリープ症例の検討. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 2019.4.11-14
7. 松林 彩, 岡本葉留子, 門元辰樹, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 卵巣境界悪性腫瘍を疑い手術を施行するも Hyperreactio luteinalis であった一例. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 2019.4.11-14
8. 荻野敦子, 松坂 直, 浅見夕菜, 上林翔大, 増田美穂, 中島文香, 安田美樹, 種田健司, 佐藤 浩, 田口奈緒, 廣瀬雅也: 当院での閉経後に子宮頸部円錐切除術を施行した症例の臨床成績. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 2019.4.11-14
9. 柳川真澄, 大竹紀子, 高石 侑, 松岡秀樹, 奥立みなみ, 岡本葉留子, 門元辰樹, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 子宮頸管縫縮用の糸による子宮筋腫茎部絞扼を試みた腹腔鏡下筋腫核出術. 第18回兵庫産婦人科内視鏡手術懇話会, 神戸, 2019.5.11
10. 吉岡信也: 婦人科腫瘍治療における血栓について. 港島腫瘍循環器セミナー, 神戸, 2019.5.15
11. 奥立みなみ: 2回のUAEの後に多量性器出血を来し、子宮全摘術に至った子宮仮性動脈瘤の一例. Kyoto Exchange Meeting 2019, 京都, 2019.6.8
12. 吉岡信也: 最近の当院での子宮内膜症症例について. 兵庫県 Woman's Health 懇話会, 神戸, 2019.6.13
13. 林 信孝, 吉岡信也: 当院における HBOC に対する RRSO の経験. 第25回日本家族性腫瘍学会学術集会, 東京, 2019.6.14-15
14. 高石 侑, 川崎 薫, 岡本葉留子, 奥立みなみ, 松岡秀樹, 門元辰樹, 柳川真澄, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 周産期心筋症発症のリスクが左室機能改善に与える影響についての検討. 第140回近畿産婦人科学会学術集会, 大阪, 2019.6.15
15. 奥立みなみ, 今竹ひかる, 荻野敦子, 高石 侑, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 川崎 薫, 青木卓哉, 吉岡信也: 出血コントロールに難渋し2回のUAEの後に子宮全摘術に至った子宮仮性動脈瘤の1例. 第93回兵庫県産婦人科学会総会, 神戸, 2019.6.30
16. 高石 侑, 今竹ひかる, 荻野敦子, 奥立みなみ, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院における子宮留膿症破裂による穿孔性腹膜炎6例の検討. 第93回兵庫県産婦人科学会総会, 神戸, 2019.6.30
17. 小山瑠梨子, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 大竹紀子, 川崎薫, 青木卓哉, 山下大祐, 吉岡信也: 当科における卵巣上皮性境界悪性腫瘍の後方視的検討. 第61回日本婦人科腫瘍学会, 新潟, 2019.7.4-5
18. 林 信孝, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 青木卓哉, 原重雄, 吉岡信也: 子宮体癌に合併した卵巣漿液粘性境界悪性腫瘍の1例. 第61回日本婦人科腫瘍学会, 新潟, 2019.7.4-5
19. 大竹紀子, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 川崎 薫, 青木卓哉, 吉岡信也: 子宮体癌の迅速病理診断の有用性に対する検討. 第61回日本婦人科腫瘍学会, 新潟, 2019.7.4-5
20. 崎山明香, 青木卓哉, 山添紗恵子, 小池彩美, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 吉岡信也, 原 重雄, 水本素子, 塩川桂一: 腹腔鏡手術で治療し得た直腸子宮内膜症から発生した悪性腫瘍の1例. 第61回日本婦人科腫瘍学会, 新潟, 2019.7.4-5

21. 青木卓哉, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 吉岡信也, 山下大祐: 卵管原発小細胞癌の1例. 第61回日本婦人科腫瘍学会, 新潟, 2019.7.4-5
22. 青木卓哉, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 吉岡信也, 山下大祐: 後腹膜原発扁平上皮癌の1例. 第61回日本婦人科腫瘍学会, 新潟, 2019.7.4-5
23. 川崎 薫, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 大竹紀子, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 精神疾患合併妊娠における精神障害増悪リスク因子についての検討. 第55回日本周産期新生児医学会学術講演会, 松本, 2019.7.13-15
24. 山添紗恵子, 奥立みなみ, 柳川真澄, 小池彩美, 上松和彦, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 大竹紀子, 川崎 薫, 吉岡信也: 異なる転帰をたどった子宮筋腫合併、後屈嵌頓子宮の2症例. 第55回日本周産期新生児医学会学術講演会, 松本, 2019.7.13-15
25. 門元辰樹, 川崎 薫, 奥立みなみ, 小池彩美, 柳川真澄, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 大竹紀子, 上松和彦, 吉岡信也: 妊娠中に卵巣膿瘍を合併した1例. 第55回日本周産期新生児医学会学術講演会, 松本, 2019.7.13-15
26. 奥立みなみ, 今竹ひかる, 荻野敦子, 高石 侑, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 川崎 薫, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院での子宮頸部円錐切除術後妊娠における流早産リスク因子の検討. 第55回日本周産期新生児医学会学術講演会, 松本, 2019.7.13-15
27. 吉岡信也: 子宮全摘再考: 腹式、膣式、鏡視下手術の適応と今後 開腹、腹腔鏡の適応(討論) 膈上に至る巨大子宮の症例、GnRHaの使用について: 開腹で行う立場から. 第35回温知会サマーフォーラム, 京都, 2019.7.15
28. 吉岡信也: 一般市中病院における腹腔鏡下広汎子宮全摘術(LRH) ~子宮摘出法の迷走~. 第3回婦人科がん内視鏡出雲セミナー, 出雲, 2019.8.24
29. 荻野敦子, 川崎 薫, 今竹ひかる, 高石 侑, 奥立みなみ, 小池彩美, 山添紗恵子, 松林 彩, 崎山明香, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院におけるやせ妊婦の周産期予後に関する検討. 第43回日本女性栄養・代謝学会, 神戸, 2019.9.6
30. 岡本葉留子, 川崎 薫, 青木卓哉, 吉岡信也, 山下大祐, 原 重雄, 倉田靖桐, 和仁洋治, 福永真治: 子宮体部腺筋症から発生した Mesonephric-like Adenocarcinoma の1症例. 第20回JSAWI2019, 淡路, 2019.9.6-7
31. 小山瑠梨子, 大竹紀子, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 上松和彦, 川崎 薫, 青木卓哉, 吉岡信也: 卵巣囊腫茎捻転を繰り返した小児に対して両側卵巣固定術を施行した1例. 第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 京都, 2019.9.12-14
32. 岡本葉留子, 大竹紀子, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 川崎 薫, 青木卓哉, 吉岡信也, 山下大祐, 原 重雄, 倉田靖桐: 術前診断に苦慮した子宮腺筋症から発生した類内膜癌の1例. 第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 京都, 2019.9.12-14
33. 大竹紀子, 吉岡信也, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉: 腹腔鏡下に生検した子宮体癌IA期再発症例と同病期の再発症例の病理学的検討. 第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 京都, 2019.9.12-14
34. 山添紗恵子, 小池彩美, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 大竹紀子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 全腹腔鏡下子宮全摘術後の腔断端子宮内膜症と考えられた一例. 第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 京都, 2019.9.12-14
35. 崎山明香, 青木卓哉, 小池彩美, 山添紗恵子, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 大竹紀子, 川崎 薫, 上松和彦, 吉岡信也, 水本素子, 塩川桂一, 原 重雄: 腹腔鏡手術で治療しえた直腸子宮内膜症から発生した類内膜癌の1例. 第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 京都, 2019.9.12-14
36. 柳川真澄, 大竹紀子, 崎山明香, 林 信孝, 小山瑠梨子, 田邊更衣子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 子宮頸管縫縮用糸により子宮筋腫茎部絞扼を試みた腹腔鏡下子宮筋腫核出術. 第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 京都, 2019.9.12-14
37. 須賀真美, 鶴久森夏世, 鍋田基生, 青木卓哉, 吉岡信也: 有床診療所での腹腔鏡手術の導入と短期成績. 第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 京都, 2019.9.12-14
38. 高石 侑, 川崎 薫, 上松和彦, 吉岡信也: 巨大胎児腹腔内臍帯静脈瘤を認めたが慎重な管理により生児を得た症例. 日本超音波医学会第46回関西地方会, 大阪, 2019.10.26

39. 荻野敦子, 小山瑠梨子, 今竹ひかる, 高石 侑, 奥立みなみ, 小池彩美, 山添紗恵子, 松林 彩, 崎山明香, 林 信孝, 田邊更衣子, 大竹紀子, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院における preterm PROM 症例の検討. 第 141 回近畿産婦人科学会学術集会, 滋賀, 2019.10.27
40. 今竹ひかる, 高石 侑, 荻野敦子, 奥立みなみ, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓也, 吉岡信也: 当院における子宮頸癌に対するペバシズマブの使用状況. 第 141 回近畿産婦人科学会学術集会, 滋賀, 2019.10.27
41. 山添紗恵子, 今竹ひかる, 高石 侑, 荻野敦子, 前田振一郎, 奥立みなみ, 小池彩美, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 腹腔内へ迷入したため腹腔鏡下で摘出を行ったレボノルゲストレル放出子宮内システム (LNG-IUS) の 2 例. 第 34 回日本女性医学学会学術集会, 福岡, 2019.11.2
42. 林 信孝, 平見恭彦, 吉田晶子, 緒方貴次, 緒方美里, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 川崎 薫, 青木卓哉, 安井久晃, 吉岡信也: 当院でのマイクロサテライト不安定性検査と MSI-H 症例に対する遺伝カウンセリング Summary of microsatellite instability test results in our hospital, and genetic counseling for MSI-H cases. 日本人類遺伝学会第 64 回大会, 長崎, 2019.11.6-9
43. 崎山明香: 当院におけるリムパーザの使用経験 -AE 管理と Efficacy-. 兵庫産婦人科卵巣がんセミナー 2019, 神戸, 2019.11.23
44. 山添紗恵子, 今竹ひかる, 高石 侑, 荻野敦子, 前田振一郎, 奥立みなみ, 小池彩美, 崎山明香, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 当院で骨盤内膿瘍に対して腹腔鏡下手術を行った症例に関する検討. 第 32 回日本性感染症学会学術大会, 京都, 2019.11.30
45. 高石 侑, 川崎 薫, 上松和彦, 吉岡信也: 慎重な管理により健児を得ることができた巨大胎児腹腔内臍帯静脈瘤の 1 症例. 2019 年度兵庫県産婦人科臨床懇話会, 神戸, 2020.1.11
46. 吉岡信也, 前田振一郎, 荻野敦子, 高石 侑, 奥立みなみ, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 川田悦子, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 上松和彦, 青木卓哉: 当院での早期子宮体癌に対するロボット支援下手術 (ダビンチ Si, Xi および X) 導入の経験. 第 42 回日本産婦人科手術学会 第 8 回日本婦人科ロボット手術学会, 京都, 2020.2.22-23
47. 大竹紀子, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 川田悦子, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 上松和彦, 青木卓哉, 吉岡信也: 助手の適切な牽引とカメラワークにより安全に手術できる子宮頸部筋腫の腹腔鏡下子宮全摘術. 第 42 回日本産婦人科手術学会 第 8 回日本婦人科ロボット手術学会, 京都, 2020.2.22-23

VII. 1. 22 泌尿器科

1. 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 筋層浸潤性膀胱がんに対する術前補助化学療法 dose-dense GC の安全性と有効性. 第 107 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.18
2. 川喜田睦司: 「教育企画 8: 腹腔鏡下副腎摘除術: 技術認定に必要な手術手技」腹腔鏡下副腎摘除術: 技術認定を目指して. 第 107 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.19
3. 川喜田睦司, 牧田哲幸, 杉野善雄, 村田詩織, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 井上幸治: 碎石位頭低位による経結腸間膜腹腔鏡下左後腹膜到達法 (ビデオ). 第 107 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.19
4. 杉野善雄, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 赤羽瑞穂, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 松岡崇志, 今輩倍敏行, 井上幸治, 川喜田睦司: 当院における前立腺癌小線源治療の長期成績. 第 107 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.19
5. 鈴木一生, 山下大祐, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 原重雄, 川喜田睦司: ロボット支援体腔鏡下前立腺全摘除 (RARP) における拡大リンパ節郭清 (ELND) 例のリンパ節および病理学的リンパ節転移 (pN+) 分布の検討. 第 107 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.19
6. 久保田聖史, 松岡崇志, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 鈴木良輔, 福永有伸, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 抗血栓薬継続下でのロボット支援腎部分切除術は出血や合併症を増やすのか?. 第 107 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.19

7. 土肥洋一郎, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 久保田聖史, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: ロボット支援腎部分切除術における腫瘍の解剖学的特性の温阻血時間延長 (> 25 分) に影響する因子の検討. 第 107 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.19
8. 藤澤正人, 白木良一, 田邊一成, 江藤正俊, 武中 篤, 川喜田睦司, 原 勲, 浮村 理, 伊夫貴直和, 那須保友, 松原昭郎, 河合明宏, 近藤恒徳, 荒井陽一, 大山 力, 堀江重郎, 神保正貴, 後藤百万, 金山博臣, 小糸悠也: 腎門部に位置する cT1、cN0、cM0 腎腫瘍の患者を対象に da Vinci サージカルシステムを用いた腎部分切除術の有効性を評価する多施設共同非盲検単群臨床研究. 第 107 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.19
9. 牧田哲幸, 村田詩織, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: ロボット支援前立腺全摘術におけるドレーン留置の必要性に関する検討. 第 107 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.19
10. 牧田哲幸, 村田詩織, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 分岐部腎動脈瘤に対する、冷阻血、顕微鏡使用下での動脈瘤切除、血行再建術(ビデオ). 第 107 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.19
11. 川喜田睦司: ランチョンセミナー 38: TUR の極意 - PDD とバイポーラーがもたらす新展開 - Bipolar: バイポーラーを駆使した前立腺核出術. 第 107 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.20
12. 鈴木一生, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: 前立腺癌ホルモン療法におけるメタボリックシンドローム (metabolic syndrome: MetS) と骨関連事象 (skeletal related events: SRE) の短期評価. 第 107 回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.20
13. 川喜田睦司: 泌尿器腹腔鏡手術の基本. ETHICON Harmonic HD Safe Usage Training, 須賀川, 2019.4.28
14. 川喜田睦司: 泌尿器腹腔鏡手術の基本・出血の対処法. 第 23 回神戸泌尿器腹腔鏡教育プログラム, 須賀川, 2019.5.11
15. 川喜田睦司: シンポジウム 5『腎癌下大静脈血栓摘除術における血管外科の手技を学ぶ』腹腔鏡下「完全一塊」根治的腎・下大静脈内腫瘍血栓摘除術. 第 35 回腎移植・血管外科研究会, 高山, 2019.5.18
16. 村田詩織, 井上幸治, 牧田哲幸, 鈴木一生, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 川喜田睦司: 経陰生検によって診断し得た女性 IgG4 関連疾患の 2 例. 第 241 回日本泌尿器科学会関西地方会, 大阪, 2019.5.25
17. 川喜田睦司, 川端岳: 第 21 回泌尿器腹腔鏡下縫合・結紮手技講習会, 神戸, 2019.5.26
18. 川喜田睦司: 前立腺全摘除術など. KUYS (Kagoshima Urologists' Youth Seminar), 鹿児島, 2019.6.1
19. 久保田聖史, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木一生, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 川喜田睦司: ワークショップ 尿路上皮癌の治療戦略 RARC での体内尿路変向術, 第 77 回兵庫県泌尿器科医会学術講演会, 神戸, 2019.6.8
20. 川喜田睦司, 川端岳, 田中一志: Ethicon kobe Urologic Laparoscopy Seminar Vol.2 『EKULS-』, 神戸, 2019.6.15
21. 川喜田睦司: 腹腔鏡手術手技の極意. Ethicon kobe Urologic Laparoscopy Seminar Vol.2 『EKULS-』, 神戸, 2019.6.15
22. 川喜田睦司, 井上幸治, 堤 尚史, 久保田聖史, 阿部陽平, 牧田哲幸, 村田詩織, 国分英利, 山口立樹, 石川英二: 当病院での診療成績について. 第 18 回港島泌尿器科病院診療所交流会 (芦屋・西宮・尼崎), 西宮, 2019.6.20
23. 川喜田睦司: ビデオシンポジウム 6-2「私の鏡視下手術 - さらに手術のヒト工夫 -」泌尿器腹腔鏡手術の工夫. 第 44 回日本外科系連合学会学術集会, 金沢, 2019.6.21
24. 阿部陽平, 山口立樹, 国分英利, 村田詩織, 牧田哲幸, 久保田聖史, 堤 尚史, 井上幸治, 川喜田睦司: VHL 腎癌の 1 例. HOWN-RCC 講演会, 神戸, 2019.6.22
25. 川喜田睦司: 第 198 回日本内視鏡外科学会腹腔鏡下結紮・縫合手技講習会, 大阪, 2019.6.23
26. 川喜田睦司: 腎癌に対するロボット支援手術と腹腔鏡手術. 沖縄腎癌講演会 2019, 那覇, 2019.6.28
27. 川喜田睦司: ビデオシンポジウム ロボット腎部切における手技の工夫 RAPN (私の選択) カテなし、実質縫合なし、ドレーンなし. 第 50 回腎癌研究会記念大会, 東京, 2019.7.6
28. 川喜田睦司, 伊藤哲之, 宮嶋 哲: 日本泌尿器内視鏡学会第 86 回腹腔鏡トレーニングコース (初心者コース), 川崎, 2019.7.7
29. 村田詩織, 山口立樹, 国分英利, 牧田哲幸, 阿部陽平, 久保田聖史, 堤 尚史, 井上幸治, 川喜田睦司: 左後腹膜に発生した巨大嚢胞の 1 例. Prostate Cancer Seminar in Hyogo, 神戸, 2019.8.31

30. 川喜田睦司：早期尿禁制の工夫．第 11 回 Urology Network Operation Seminar 泌尿器科手術手技塾，大阪，2019.9.27
31. 川喜田睦司：医療現場でのカテーテル選択の重要性—現状と展望—．Coloplast Continence Care Seminar，神戸，2019.10.5
32. 川喜田睦司：オブジーボ・ヤーボイ併用療法について．RCC Web セミナー in Hyogo，神戸，2019.10.10
33. 村田詩織，山口立樹，国分英利，牧田哲幸，阿部陽平，久保田聖史，堤 尚史，井上幸治，川喜田睦司：ネオアジュバントロボット支援前立腺全摘術の検討．KULP セミナー，神戸，2019.10.17
34. 阿部陽平，村田詩織，牧田哲幸，久保田聖史，堤 尚史，井上幸治，川喜田睦司，山下大祐，原 重雄：腎細胞癌の多発骨転移を認めた von Hippel-Lindau 病の 1 例．日本泌尿器腫瘍学会第 5 回学術集会，福岡，2019.10.27
35. 川喜田睦司：教育セミナー 3 クオリティを求めた泌尿器科腫瘍の診断と治療 ロボット手術における更なる工夫〜クオリティの向上を目指して〜．第 71 回西日本泌尿器科学会総会，松江，2019.11.8
36. 川喜田睦司：—CKD と腎移植の知見—腎移植の現況．第二回豊岡腎臓勉強会，豊岡，2019.11.10
37. 久保田聖史，松岡崇志，山口立樹，村田詩織，国分英利，牧田哲幸，鈴木一生，鈴木良輔，福永有伸，阿部陽平，土肥洋一郎，杉野善雄，井上幸治，川喜田睦司：抗血栓薬継続下での泌尿器科的腹腔鏡手術の安全性の検討．第 78 回兵庫県泌尿器科医会学術講演会，神戸，2019.11.16
38. 寒野 徹，伊藤克弘，山田 仁，久保田聖史，川喜田睦司，小堀 豪，赤尾利弥，井上貴博，小川 修：腹腔鏡下膀胱全摘除術における体腔内回腸導管造設術の工夫と治療成績．第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会，京都，2019.11.21
39. 鈴木一生，国分英利，村田詩織，牧田哲幸，鈴木良輔，福永有伸，久保田聖史，土肥洋一郎，井上幸治，川喜田睦司：Total Anatomical Reconstruction の尿禁制への影響：傾向スコアマッチングによる比較．第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会，京都，2019.11.21
40. 久保田聖史，山口立樹，国分英利，村田詩織，牧田哲幸，阿部陽平，堤 尚史，井上幸治，川喜田睦司：ロボット支援膀胱全摘術における体腔内尿路変向術後の麻痺性イレウスに関する検討．第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会，京都，2019.11.22
41. 寒野 徹，井上貴博，奥村和弘，川喜田睦司，藤井将人，清水洋祐，神波大己，諸井誠司，七里泰正，赤尾利弥：腹腔鏡下膀胱全摘除術の再発様式の検討：特に腹腔内再発に関して．第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会，京都，2019.11.22
42. 亀岡 浩，花井一也，川喜田睦司，熊谷 伸，小島祥敬：当院における Neoadjuvant 化学療法後の腹腔鏡下膀胱全摘除術の検討．第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会，京都，2019.11.22
43. 村田詩織，牧田哲幸，鈴木一生，鈴木良輔，福永有伸，久保田聖史，土肥洋一郎，杉野善雄，井上幸治，川喜田睦司：腹膜外アプローチによるロボット支援前立腺全摘術：経腹アプローチとの比較検討．第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会，京都，2019.11.22
44. 山口立樹，村田詩織，牧田哲幸，久保田聖史，井上幸治，川喜田睦司：腹腔鏡下ならびにロボット支援前立腺全摘術における pN1 症例の臨床的検討．第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会，京都，2019.11.22
45. 国分英利，山口立樹，村田詩織，牧田哲幸，鈴木一生，阿部陽平，久保田聖史，堤 尚史，井上幸治，川喜田睦司：Very high risk localized prostate cancer 症例における術後 PSA 再発の検討．第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会，京都，2019.11.22
46. 阿部陽平，山口立樹，国分英利，村田詩織，牧田哲幸，鈴木一生，久保田聖史，堤 尚史，井上幸治，川喜田睦司：ロボット支援腹腔鏡腎部分切除術における経腹膜および後腹膜到達法の手術成績の比較．第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会，京都，2019.11.22
47. 今尾哲也，鈴木智敬，下島雄治，天野俊康，川喜田睦司：当科におけるロボット支援腎部分切除術におけるドレーン留置の必要性に関する検討．第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会，京都，2019.11.22
48. 牧田哲幸，村田詩織，鈴木一生，阿部陽平，久保田聖史，土肥洋一郎，杉野善雄，井上幸治，川喜田睦司：TURBT における、光線力学的診断 (PDD) と狭帯域光による診断 (NBI) の比較検討．第 33 回日本泌尿器内視鏡学会総会，京都，2019.11.23
49. 寺地敏郎，川喜田睦司，中川 健，繁田正信：インドネシア泌尿器腹腔鏡普及促進事業．JICET Program(ENIXE2)，ジャカルタ，インドネシア，2019.11.29-30

50. 川喜田睦司:パネルディスカッション3 cT3以上腎癌に対する腹腔鏡下手術 腹腔鏡下「完全一塊」根治的腎・下大静脈内腫瘍血栓摘除術. 第32回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019.12.5
51. 川喜田睦司:ワークショップ 腹腔鏡における縫合の極意:エキスパートからのアドバイス 腹腔鏡手術における縫合の基本手技と応用. 第38回泌尿器科手術研究会, 大阪, 2020.1.25
52. 川喜田睦司:ロボット支援手術の現状と将来. 第3回先端医療を考える会~北播磨地域の質の高い医療を目指して~, 小野, 2020.2.13
53. 牧田哲幸, 山口立樹, 国分英利, 村田詩織, 阿部陽平, 久保田聖史, 堤 尚史, 井上幸治, 川喜田睦司:人工尿道括約筋の露出を伴う陰嚢内膿瘍治療後に再留置した1例. 第243回日本泌尿器科学会関西地方会, 京都, 2020.2.15
54. 阿部陽平, 山口立樹, 国分英利, 村田詩織, 牧田哲幸, 久保田聖史, 堤 尚史, 井上幸治, 川喜田睦司:トラバクテジンにより長期SDを維持している後腹膜脂肪肉腫の1例. 第243回日本泌尿器科学会関西地方会, 京都, 2020.2.15
55. 国分英利, 山口立樹, 村田詩織, 牧田哲幸, 阿部陽平, 久保田聖史, 堤 尚史, 井上幸治, 川喜田睦司:ロボット支援腎部分切除術を施行した若年性腎癌の2例. 兵庫・岡山RCC講演会, 神戸, 2020.2.22
56. 川喜田睦司:ベオーバ治療の実際. キッセイ社内研修会, 神戸, 2020.3.9

VII. 1. 23 耳鼻咽喉科

1. Morita S, Inoue T, Shimeno N, Inokuma T, Takebayashi S and Shinohara S: Endoscopic subepithelial dissection for superficial pharyngeal cancer: A case series of 44 superficial cancers. European Society of Gastrointestinal Endoscopy (ESGE) Days 2019, Prague, Czech Republic, 2019.4.4-6
2. 水野敬介, 篠原尚吾, 齊田浩二, 道田哲彦, 竹林慎治, 濱口清海, 藤原敬三, 内藤 泰:深頸部膿瘍に対する切開排膿手術の必要性に関する検討. 第34回京都耳鼻咽喉科研究会, 京都, 2019.4.6
3. 篠原尚吾:クロージングリマークス. 甲状腺癌・分子標的薬研究会, 大阪, 2019.4.20
4. 内藤 泰:内耳奇形の診断と治療(学術講演). 第120回日本耳鼻咽喉科学会, 大阪, 2019.5.9-11
5. 内藤 泰:加齢による難聴の傾向と対策(講演). KOBE健康くらぶ 土曜健康科学セミナー, 神戸, 2019.6.8
6. Naito Y: Indication criteria for child CI & current status (Workshop). Hearing implant workshop, Petersburg, Russia, 2019.6.12-14
7. Naito Y: Surgeon Group Live Surgery (Commentator). Hearing implant workshop, Petersburg, Russia, 2019.6.12-14
8. 道田哲彦, 内藤 泰, 篠原尚吾, 藤原敬三, 濱口清海, 齊田浩二, 水野敬介:急性中耳炎と髄膜炎により人工内耳の摘出と再手術を行った common cavity 奇形例. 第81回耳鼻咽喉科臨床学会, 名古屋, 2019.6.27-28
9. 水野敬介, 内藤 泰, 齊田浩二, 道田哲彦, 濱口清海, 竹林慎治, 藤原敬三, 篠原尚吾:経乳突法で治療した側頭骨内髄膜脳瘤を伴う成人型特発性耳性髄液漏の1例. 第81回耳鼻咽喉科臨床学会, 名古屋, 2019.6.27-28
10. 前川圭子:音声治療の実際-具体的な事例を通して-(講演). 神戸地区耳鼻咽喉科医会連絡会, 学術講演・臨床セミナー, 神戸, 2019.6.29
11. 篠原尚吾, 竹林慎治, 濱口清海, 道田哲彦, 齊田浩二, 水野敬介, 戸部陽太, 藤原敬三, 内藤泰:低分化成分を含む甲状腺癌20例の臨床的特徴 -甲状腺取り扱い規約第6版での甲状腺低分化癌-. 第192回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2019.7.20
12. 藤原敬三, 内藤 泰, 篠原尚吾, 竹林慎治, 濱口清海, 道田哲彦, 齊田浩二, 水野敬介, 戸部陽太:外耳道腫瘍の検討 -診断に至る過程について-. 第192回日耳鼻兵庫県地方部会, 神戸, 2019.7.20
13. 前川圭子:症状対処の音声治療(講演). 音声外科ワークショップ2019, 京都, 2019.7.28
14. 諸頭三郎:人工内耳装用学童の課題と指導. 兵庫県東播地区言語・難聴研究会講演会, 加東, 2019.8.1
15. 諸頭三郎:内耳や内耳道に問題がある人工内耳小児例の療育(講演). 神戸聴覚特別支援学校職員研修会, 神戸, 2019.9.10
16. 前川圭子:音声治療(講演). 2019年度認定言語聴覚士講習会(成人発声発語障害領域), 東京, 2019.9.22
17. 内藤 泰: AUDITORY IMPLANTS, Pediatric bilateral cochlear implant (特別企画, Chair/ Panelist). 第29回日本耳科学会, 山形, 2019.10.10-12

18. 水野敬介, 藤原敬三, 道田哲彦, 瀨口清海, 竹林慎治, 内藤 泰: 鼓室形成術の既往のない鼓膜真珠腫9症例. 第29回日本耳科学会, 山形市, 2019.10.10-12
19. 玉谷輪子: 当科でのEASの取り組み～言語聴覚士の立場から見たEAS臨床のポイント～(講演). 20th Anniversary EAS ワークショップ in 山形, 山形市, 2019.10.10
20. 藤原敬三, 内藤 泰, 竹林慎治, 瀨口清海, 道田哲彦, 水野敬介: 外科的切除を行った外耳道良性腫瘍の検討. 第29回日本耳科学会, 山形市, 2019.10.10-12
21. 内藤 泰: 人工聴覚器ワーキンググループ報告「人工聴覚器の適応拡大に向けて」小児に対する人工内耳(1歳未満の人工内耳, 両側同時人工内耳). 第29回日本耳科学会, 山形, 2019.10.10-12
22. 前川圭子: 音声治療の理論と実際ー上記の検査結果からどのように音声治療の適応を考え、実際に行うか、やってみよう音声治療!(講演). 第64回日本音声言語医学会ポストコンgresセミナー, さいたま, 2019.10.19
23. 水野敬介, 内藤 泰, 船曳和雄, 瀨口清海: 人工内耳植込術を行った小児例における術前後の眼振所見の検討. 第78回日本めまい平衡医学会, 富山市, 2019.10.23-25
24. 内藤 泰: 人工内耳術後のハビリテーション(教育セミナー). 第64回日本聴覚医学会, 大阪, 2019.11.6-8
25. 諸頭三郎: 人工内耳医療の現況と装用児の学習的課題(講演). 兵庫県立こばと聴覚特別支援学校公開講座, 西宮, 2019.11.7
26. 山崎朋子, 諸頭三郎, 玉谷輪子, 藤井直子, 藤原敬三, 内藤 泰: 小児両側同時人工内耳症例の術後成績. 第64回日本聴覚医学会, 大阪, 2019.11.6-8
27. 諸頭三郎, 山崎朋子, 玉谷輪子, 藤井直子, 藤原敬三, 戸部陽太, 内藤 泰: 小児内耳奇形例の人工内耳術後成績. 第64回日本聴覚医学会, 大阪, 2019.11.6-8
28. 前川圭子: 構音障害の評価と指導の実際(講演). 神戸市通級指導教室専門講習, 神戸, 2019.11.25
29. Yamazaki H, Kishimoto I, Naito Y, Moroto S, Yamazaki T: First CI-induced maturation of rostral brainstem impairs 2nd CI outcomes in sequential bilateral CI. 12th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implants and Related Sciences (APSCI2019), Tokyo, 2019.11.27-30
30. 内藤 泰: 人工内耳の適応と検査: 小児編 (Education Program for Japanese 1). 12th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implants and Related Sciences (APSCI2019), Tokyo, 2019.11.27-30
31. Naito Y: Sequential and simultaneous bilateral CI in children (Symposium / Presenter / Bilateral CI 1). 12th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implants and Related Sciences (APSCI2019), Tokyo, 2019.11.27-30
32. Naito Y: Bilateral CI 1 (Symposium, Moderator). 12th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implants and Related Sciences (APSCI2019), Tokyo, 2019.11.27-30
33. Naito Y: Central Processing (Symposium, Moderator). 12th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implants and Related Sciences (APSCI2019), Tokyo, 2019.11.27-30
34. 諸頭三郎: 人工内耳医療の現況と学校内での情報補償(講演). 姫路聴覚支援学校公開講座, 姫路, 2019.12.7
35. 内藤 泰: 小児人工内耳の適応・リハビリテーションと長期経過(講演). 近畿ブロック身体障害者更生相談所長協議会, 神戸, 2019.12.10
36. 内藤 泰: 当科の現況. 第16回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2019.12.12
37. 藤井直子: 当科の人工内耳リハビリテーションの現況. 第16回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2019.12.12
38. 藤原敬三, 竹林慎治, 瀨口清海, 道田哲彦, 水野敬介, 齊田浩二, 戸部陽太: ご紹介頂いた症例呈示、治療方針、経過報告、診療の話題. 第16回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス, 神戸, 2019.12.12
39. Naito Y: Brain function of cochlear implant users (講演). Grand Rounds Distinguished Speaker Series, Department of Otolaryngology-Head and Neck Surgery, UCLA, Los Angeles, 2020.1.8
40. 内藤 泰: 人工内耳と難聴関連遺伝子についてー遺伝子の仕組みを正しく理解するー(講演). 第25回難聴と人工内耳の勉強会, 神戸, 2019.12.14
41. 前川圭子, 宮田恵里: 徒手の喉頭位置調節訓練(講演). 音声治療ワークショップ2020, 大阪, 2020.1.12

42. 諸頭三郎：人工内耳小児の聞こえと育ち（両親向け講座）（講演）．大阪大学耳鼻科人工内耳ワークショップ 2020，大阪，2020.1.19
43. 諸頭三郎：人工内耳小児のハビリテーション - 過去と現在 -（専門家向け講座）（講演）．大阪大学耳鼻科人工内耳ワークショップ 2020，大阪，2020.1.19
44. 戸部陽太：耳鼻科救急疾患（講演）．救急オープンセミナー，神戸，2020.1.29
45. 水野敬介，篠原尚吾，大村佳大，今村博俊，重安将志，道田哲彦，瀧口清海，竹林慎治，藤原敬三，内藤泰：頸部ガラス異物により椎骨動脈損傷をきたした一症例．第3回4病院合同学術研究フォーラム，神戸，2020.2.8
46. 諸頭三郎：学習言語の獲得のために乳幼児期にやっておくべきこと（講演）．声援隊きつともつきこう！9，滋賀県，2020.2.23
47. 山本一郎，前川圭子，住谷匡隆：医療知ろう「口唇口蓋裂の治療と患者へのサポートについて」（ラジオ出演）．番組名 寺谷一紀と い・しょく・じゅう，ラジオ関西，大阪，2020.3.19

VII. 1. 24 頭頸部外科

1. Mizuno K, Shinohara S, Hamaguchi K, Takebayashi S, Fujiwara K, Naito Y: How do we determine the necessity of surgery for deep neck infection? Combined Otolaryngology Spring Meeting 2019, Austin USA, 2019.5.1-5
2. Shinohara S, Funabiki K, Kikuchi M, Takebayashi S, Hamaguchi K, Hara S, Yamashita D, Mizoguchi A: In vivo real time imaging of head and neck squamous cell carcinoma using confocal micro-endoscopy and applicable fluorescent dyes-preliminary study. Combined Otolaryngology Spring Meeting 2019, Austin USA, 2019.5.1-5
3. 竹林慎治，池永直，水野敬介，齊田浩二，道田哲彦，瀧口清海，藤原敬三，篠原尚吾，内藤泰：頭頸部手術における抗血栓薬服用の影響．第120回日本耳鼻咽喉科学会，大阪，2019.5.9-11
4. 小坂恭弘，小久保雅樹，篠原尚吾，竹林慎治，瀧口清海，道田哲彦：中下咽頭・喉頭原発扁平上皮癌に対するIMRTの治療成績．第43回日本頭頸部癌学会，金沢，2019.6.13-14
5. 水野敬介，篠原尚吾，竹林慎治，瀧口清海：異時性両側性HPV関連扁桃癌の一症例．第43回日本頭頸部癌学会，金沢，2019.6.13-14
6. 瀧口清海，篠原尚吾，竹林慎治，道田哲彦，齊田浩二，水野敬介：口内法で舌部分切除術を施行した舌癌症例の検討—深達度による検討とその妥当性について—．第43回日本頭頸部癌学会，金沢，2019.6.13-14
7. 堀龍介，篠原尚吾，児島剛，玉木久信，安里亮，北村守正，楯谷一郎，木谷芳晴，隈部洋平，本多啓吾，辻村隆司，原田博之，鹿子島大貴，大森孝一：プラチナ非抵抗性再発転移頭頸部癌でのニボルマブの効果．第43回日本頭頸部癌学会，金沢，2019.6.13-14
8. 竹林慎治，篠原尚吾，水野敬介，齊田浩二，道田哲彦，瀧口清海，小坂恭弘，小久保雅樹：当院の上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法併用放射線治療．第43回日本頭頸部癌学会，金沢，2019.6.13-14
9. 篠原尚吾：「この症例の治療戦略 頭頸部がん治療の均てん化と標準化の検証」兵庫県の現状と一般病院としての当院の立場（パネルディスカッション）．第43回日本頭頸部癌学会，金沢，2019.6.13-14
10. Kikuchi M, Yamashita D, Hara S, Omori K, Shinohara S: PD-L1 expression of immune cells, PD-1+ tumor infiltrating lymphocytes and CD68+ macrophages in surgical specimens are associated with improved survival and lower recurrence in patients with advanced oral squamous cell carcinoma. 7th WORLD CONGRESS of the International Academy of Oral Oncology (IAOO), Roma, Italy, 2019.8.31-9.3
11. 光吉隆真，岩井貴寛，緒方隆司，服部貴之，小倉健吾，小坂恭弘，今輩倍敏行，瀧口清海，竹林慎治，篠原尚吾，小久保雅樹：当院における唾液腺癌に対する術後放射線療法の治療成績．第323回日本医学放射線学会関西地方会，大阪，2019.11.9
12. 篠原尚吾，竹林慎治，瀧口清海，齊田浩二：低分化成分を含む甲状腺癌20例の臨床的特徴—甲状腺取り扱い規約第6版での甲状腺低分化癌—．第71回日本気管食道科学会，宇都宮，2019.11.28-29
13. 戸部陽太，篠原尚吾，竹林慎治，瀧口清海，道田哲彦，齊田浩二，水野敬介，藤原敬三，内藤泰：術前画像で頸部神経原性腫瘍を疑い、経過観察を選択した9症例の検討．第193回日耳鼻兵庫県地方部会，西宮，2019.12.1
14. 篠原尚吾：当科の現況．第16回神戸市立医療センター中央市民病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科地域合同オープンカンファレンス，神戸，2019.12.12

15. 前川圭子：音声外来の報告。第 16 回神戸市立医療センター中央市民病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 地域合同オープンカンファレンス，神戸，2019.12.12
16. 水野敬介，篠原尚吾，濱口清海，竹林慎治：切開排膿手術を要した深頸部膿瘍 45 例の検討。第 30 回日本頭頸部外科学会，宜野湾，2019.1.30-1.31
17. 竹林慎治，篠原尚吾，戸部陽太，水野敬介，齊田浩二，道田哲彦，浜口清海，藤原敬三，内藤 泰：甲状腺悪性リンパ腫に対する気道確保の検討。第 30 回日本頭頸部外科学会，宜野湾，2019.1.30-1.31
18. 簗谷雄二，大森伶於，大久保万理江，藤本寛太，岩倉敏夫，道田哲彦，濱口清海，篠原尚吾，原重雄，松岡直樹：原発性甲状腺癌との鑑別が困難であった肺腺癌甲状腺転移の 1 例。第 113 回 神戸甲状腺研究会，神戸，2020.2.8

VII. 1. 25 麻酔科

1. 山下 博，美馬裕之：後期高齢者における早期術後認知機能障害（POCD）の発生頻度とリスク因子についての検討。日本麻酔科学会第 66 回学術集会，神戸，2019.05.30
2. 占部大地，宮脇郁子，美馬裕之：全身麻酔時の術前絶飲食指示は本当に守られているか、当日来院患者での検討。日本麻酔科学会第 66 回学術集会，神戸，2019.05.30
3. 占部大地，宮脇郁子，大森彩加，美馬裕之：弓部大動脈置換と冠動脈バイパス同時手術中に冠動脈鎖骨下動脈盗血が生じた一例。日本心臓血管麻酔学会第 24 回学術大会，京都，2019.9.20
4. 梶野超生，宮脇郁子，佐々木伶，美馬裕之：大動脈弁再置換術中に大動脈右房・右室シャントを来した一例，日本心臓血管麻酔学会第 24 回学術大会，京都，2019.9.20
5. 川上大裕：多職種による Critical Care Follow-up Team; CIFT の設立とその取り組み。第 47 回救急医学会総会，東京，2019.10.2
6. Kazuma Yunoki, Ayu Yamada, Hiroyuki Mima: Intraoperative Accidental Migration Of Inferior Vena Cava Tumor Thrombus To Right Atrium. ASA annual meeting 2019, Orlando, FL, USA, 2019.10.22
7. 柚木一馬，美馬裕之：当院における過去 10 年間の術中大量出血症例の検討。日本蘇生学会第 38 会大会，長崎，2019.11.15
8. Hiroshi Ueta, Daisuke Kawakami, Takahiro Shimozono, Hiroyuki Mima: Relationship between PCO2 GAP and complications after cardiac surgery. 49th Society of critical care medicine Critical Care Congress, USA orland, 2020.02.16-19
9. Daisuke Kawakami, Jiro Ito, Hiroshi Ueta, Takahiro Shimozono, Hiroyuki Mima: Dramatic reduction of albumin usage in the intensive care unit after a change in ordering system. 49th Society of critical care medicine Critical Care Congress, USA orland, 2020.2.17
10. 川上大裕，伊藤次郎，植田浩司，下菌崇宏，美馬裕之：オーダー方法変更後のアルブミン製剤使用の劇的な減少。第 47 回日本集中治療医学会（Web 開催），名古屋，2020.3.7

VII. 1. 26 歯科・口腔外科

1. 竹信俊彦：経口的内視鏡補助視野下での関節突起観血の整復固定術：第 22 回顎顔面手術手技研究会「下顎骨関節突起骨折の手術治療」。第 73 回日本口腔科学会学術集会サテライトセミナー 2，川越，2019.4.2
2. 山本信祐，向仲佑美香，前田圭吾，平井雄三，谷池直樹，山下大祐，宇佐美悠，篠原尚吾，竹信俊彦：ナビゲーション手術が有用であった上顎歯原性粘液線維腫；症例報告。第 73 回日本口腔科学会学術集会，川越，2019.4.21
3. 竹信俊彦：新しい手術時の手指消毒法。JACID 口腔インプラント学会認定医のための 100 時間コース，大阪，2019.5.11
4. 竹信俊彦：インプラント治療における基本事項の確認；外科基本知識・Bone biology。JACID 口腔インプラント学会認定医のための 100 時間コース，大阪，2019.5.11
5. 竹信俊彦：歯・口腔顎顔面外傷。岡山大学歯学部特別講義，岡山，2019.5.28
6. 山本信祐，平井雄三，谷池直樹，竹信俊彦：神戸市立医療センター中央市民病院歯科・歯科口腔外科における 11 年 6 か月間の顎矯正手術の臨床的検討。第 29 回日本顎変形症学会総会・学術大会，東京，2019.6.9
7. 平井雄三，竹信俊彦，山本信祐，谷池直樹：顎矯正手術における予防的抗菌薬適正使用への取り組み。第 29 回日本顎変形症学会総会・学術大会，東京，2019.6.9

8. 前田圭吾, 山本信祐, 谷池直樹, 竹信俊彦: 両側顎関節突起骨折に対し high perimandibular approach で整復固定した1例. 第21回日本口腔顎顔面外傷学会総会・学術大会, 岐阜, 2019.7.5-6
9. 梨 正典, 山本信祐, 尾古伶佳, 甲斐彩華, 高橋一広, 向仲佑美香, 前田圭吾, 谷池直樹, 竹信俊彦: 顔面多発骨折に関する臨床的検討. 第50回日本口腔外科学会近畿支部学術集会, 大阪, 2019.7.6
10. 竹信俊彦: 解剖学的3Dプレート Subcondylar プレートシステムを使用した内視鏡支援下顎関節突起骨折観血的整復固定術. 第32回日本顎関節学会総会・学術大会 ランチョンセミナー1, 東京, 2019.7.27
11. Toshihiko Takenobu: AOCMF Asia-Pacific update with AOCMF JAPAN. AOCMF Focused Course on Osteotomy, Fukuoka, 2019.10.5-6
12. Toshihiko Takenobu: Orthognathic surgery versus Distraction osteogenesis. AOCMF Focused Course on Osteotomy, Fukuoka, 2019.10.5-6
13. Toshihiko Takenobu: SSRO & IVRO including. AOCMF Focused Course on Osteotomy, Fukuoka, 2019.10.5-6
14. Toshihiko Takenobu: Genioplasty & Segmental osteotomy. AOCMF Focused Course on Osteotomy, Fukuoka, 2019.10.5-6
15. 向仲佑美香, 竹信俊彦, 前田圭吾: ナビゲーションシステムが有用であった上顎骨髄炎の1例. 第28回日本口腔感染症学会総会学術大会, 東大阪, 2019.10.12-13
16. 山本信祐, 竹信俊彦, 前田圭吾, 谷池直樹: WS2-2; 下顎ナビゲーションにおけるリファレンス・レジストレーション一体型開口位スプリント. 第64回日本口腔外科学会総会・学術集会; 公募ワークショップ2 先進医療(デジタルテクノロジー応用した先進口腔外科医療, 札幌, 2019.10.25
17. 向仲佑美香, 山本信祐, 梨 正典, 前田圭吾, 谷池直樹, 竹信俊彦: 下顎角部に発生した石灰化上皮腫の1例. 第64回日本口腔外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019.10.25
18. 前田圭吾, 竹信俊彦, 梨 正典, 向仲佑美香, 山本信祐, 谷池直樹: 唾石症に対する唾液腺内視鏡手術の臨床的検討. 第64回日本口腔外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019.10.25
19. 竹信俊彦: 兵庫県における口腔外科診療の病病連携と交流. 第64回日本口腔外科学会総会・学術集会, 札幌, 2019.10.26
20. 竹信俊彦: 口の中もがんになる一歯、無しにならないための話. 第9回神戸市北区健康講座, 神戸, 2019.11.9
21. 尾古伶佳, 山本信祐, 高橋一広, 甲斐彩華, 梨 正典, 向仲佑美香, 前田圭吾, 谷池直樹, 竹信俊彦: High perimandibular approach が有用であった陳旧性下顎角部骨折の1例. 第31回日本口腔科学会近畿地方部会, 大阪, 2019.11.30
22. 竹信俊彦, 山本信祐, 谷池直樹, 平井雄三: 顎矯正手術とインプラントの連携治療をおこなった多数歯欠損症例の2例. 第23回日本顎顔面インプラント学会総会, つくば, 2019.11.30-12.1
23. 竹信俊彦: 歯・口腔顎顔面外傷/顎変形症. 宮崎大学医学部特別講義, 宮崎, 2020.1.8
24. 竹信俊彦: 基本術式の確認—オトガイ形成. 第8回関西顎変形症懇話会, 神戸, 2020.2.1
25. Toshihiko Takenobu: Diagnosis and evaluation for oral and maxillofacial trauma: AOCMF Introductory Course: Tokyo: 2020.2.15-16
26. Toshihiko Takenobu: Load sharing and load bearing. AOCMF Introductory Course, Tokyo, 2020.2.15-16
27. Toshihiko Takenobu: Adaptation of reconstruction plate for comminuted fracture of mandible. AOCMF Introductory Course, Tokyo, 2020.2.15-16

VII. 1. 27 病理診断科

1. 河内勇人, 立川 良, 大崎 恵, 松梨敦史, 細谷和貴, 平林亮介, 森 令法, 佐藤悠城, 古郷摩利子, 藤本大智, 永田一真, 中川 淳, 富井啓介, 原 重雄: Nivolumab 投与に伴い急速な経過でびまん性すりガラス影, 肺結節の増悪を来した非小細胞肺癌の1例. 第59回日本呼吸器学会学術集会, 東京, 2019.4.13
2. 鈴木一生, 山下大祐, 村田詩織, 牧田哲幸, 鈴木良輔, 福永有伸, 久保田聖史, 土肥洋一郎, 杉野善雄, 井上幸治, 原 重雄, 川喜田睦司: ロボット支援体腔鏡下前立腺全摘除(RARP)における拡大リンパ節郭清(ELND)例のリンパ節および病理学的リンパ節転移(pN+)分布の検討. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.18
3. 吉田 誠, 毛利太郎, 山本侑毅, 山下大祐, 原 重雄: ALK 陽性スピッツ母斑の2例. 第108回日本病理学会, 東京, 2019.5.9

4. 今井幸弘, 北村 悟, 北代 隼, 松岡亮介, 山下大祐, 福島政司, 横崎 宏, 伊藤智雄: NK cell lymphomatoid gastropathy の2例. 第108回日本病理学会, 東京, 2019.5.9
5. 兵頭俊紀, 原 重雄, 藤井秀毅, 西 慎一, 伊藤智雄: Fabry 病遺伝子変異と腎病理像 E66Q 変異は Fabry 病か否か?. 第108回日本病理学会, 東京, 2019.5.9
6. 石川英二, 長澤 将, 川口武彦, 勝野敬之, 森川 貴, 三浦健一郎, 丸井祐二, 原 重雄, 鶴屋和彦, 乳原善文: 2018年腎生検二次アンケート調査結果(腎生検リスク要因:成人). 第62回日本腎臓学会学術集会, 名古屋, 2019.6.22
7. 長澤 将, 川口武彦, 勝野敬之, 森川 貴, 丸井祐二, 原 重雄, 石川英二, 三浦健一郎, 鶴屋和彦, 乳原善文: 腎生検後に TAE となった患者背景についての検討. 第62回日本腎臓学会学術集会, 名古屋, 2019.6.22
8. 原 重雄: 免疫チェックポイント阻害薬による腎障害. 第62回日本腎臓学会学術集会, 名古屋, 2019.6.22
9. 林 信孝, 小池彩美, 山添紗恵子, 崎山明香, 松林 彩, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 青木卓哉, 原重雄, 吉岡信也: 子宮体癌に合併した卵巣漿液粘液性境界悪性腫瘍の1例. 第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 新潟, 2019.7.5
10. 崎山明香, 青木卓哉, 山添紗恵子, 小池彩美, 松林 彩, 林 信孝, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 吉岡信也, 原 重雄, 水本素子, 塩川桂一: 腹腔鏡手術で治療し得た直腸子宮内膜症から発生した悪性腫瘍の1例. 第61回日本婦人科腫瘍学会学術講演会, 新潟, 2019.7.5
11. 崎山明香, 青木卓哉, 小池彩美, 山添紗恵子, 松林 彩, 林 信孝, 田邊更衣子, 小山瑠梨子, 大竹紀子, 川崎 薫, 上松和彦, 吉岡信也, 水本素子, 塩川桂一, 原 重雄: 腹腔鏡手術で治療しえた直腸子宮内膜症から発生した類内膜癌の1例. 第59回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会, 京都, 2019.9.13
12. 石井淳子, 尾原信行, 松梨敦史, 富井啓介, 長野 徹, 原 重雄, 幸原伸夫: 臨床ケース 免疫チェックポイント阻害薬使用後に顔面の筋萎縮を呈した肺腺癌の一例. 第31回日本神経免疫学会学術集会, 幕張, 2019.9.26
13. 大久保佑樹, 杉ノ下与志樹, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 田中由香里, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 森田周子, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 猪熊哲朗, 山下大祐, 原 重雄: 出血を契機に診断しえた肝細胞癌胃転移の1例. 第111回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2019.10.5
14. 田中由香里, 杉ノ下与志樹, 鄭 浩柄, 上田智也, 唐渡修一郎, 長尾宗一郎, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 森田周子, 占野尚人, 井上聡子, 猪熊哲朗, 石川隆之, 山下大祐, 原 重雄: 抗 PD-1 抗体によるステロイド抵抗性の高度肝障害に対してミコフェノール酸モフェチルが著効した一例. 第111回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2019.10.5
15. 長尾宗一郎, 井上聡子, 上田智也, 唐渡修一郎, 田中由香里, 大久保佑樹, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 谷口洋平, 和田将弥, 森田周子, 占野尚人, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 原 重雄, 猪熊哲朗: 下行結腸狭窄に対して外科的治療を要した潰瘍性大腸炎の一例. 第111回日本消化器病学会近畿支部例会, 大阪, 2019.10.5
16. 原 重雄: 腎移植への貢献 移植腎の T細胞性反応をめぐる近年の動向. 第49回日本腎臓学会西部学術大会, 東京, 2019.10.4
17. 岩崎隆英, 岡田志緒子, 藤森 明, 塙 信人, 下山 学, 山崎 隆, 原 重雄: AKI で発症し化学療法により透析を離脱できた Triple-hit lymphoma の一例. 第49回日本腎臓学会西部学術大会, 高知, 2019.10.18
18. 中村美咲季, 澤村直彦, 伊藤誠二, 能登理央, 田路佳範, 原 重雄, 吉本明弘: 2年間で当院にて経験した C3 腎症の3例についての検討. 第49回日本腎臓学会西部学術大会, 高知, 2019.10.18
19. 塙 信人, 岡田志緒子, 岩崎隆英, 谷 聡, 原 重雄, 藤森 明: ニボルマブ関連間質性腎炎の2例. 第49回日本腎臓学会西部学術大会, 高知, 2019.10.18
20. 堂崎良太, 白井 敦, 能瀬勇馬, 向江翔太, 市川理紗, 原 重雄, 西 慎一: 原発性膜性腎症に巣状分節性糸球体硬化症 (FSGS) を合併した1例. 第49回日本腎臓学会西部学術大会, 高知, 2019.10.18
21. 西野彰悟, 清水祐里, 吉田 誠, 山下大祐, 吉岡信也, 和仁洋治, 福永眞治, 原 重雄: 高度の子宮外発育を呈した子宮体部発生 mesonephric-like adenocarcinoma の一例. 第65回日本病理学会秋期特別総会, 筑波, 2019.11.7
22. 岡田直樹, 平本展大, 山下大祐, 丸岡隼人, 石川隆之: 過粘稠度症候群を機に診断された, t(14;16) MAF 陽性 IgM- κ 型多発性骨髄腫の1例. 第112回近畿血液学地方会, 京都, 2019.11.16

23. 玉木明子, 井本秀志, 尾松雅仁, 田代章人, 山下大祐, 原 重雄: 膣頸部細胞診における血液疾患治療による影響の検討. 第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019.11.16
24. 田代章人, 井本秀志, 玉木明子, 尾松雅仁, 山下大祐, 丸岡隼人, 下村良充, 川本未知, 原 重雄: ウイルス脳炎疑いによる反応性変化像と悪性リンパ腫との鑑別に苦慮した一例. 第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019.11.16
25. 大久保万理江, 旗谷雄二, 藤本寛太, 岩倉敏夫, 松岡直樹, 秋山 亮, 春原 匡, 谷 正一, 山下大祐: 著明な石灰化を伴ったプロラクチノーマの一例. 第 29 回臨床内分泌代謝 Update, 高知, 2019.11.29
26. 宍戸 裕, 青山晃博, 原 重雄, 印藤貴士, 浜川博司, 富井啓介, 高橋 豊: 術前画像での腫瘍内空洞所見は多形癌術後の予後不良因子である. 第 60 回日本肺癌学会, 大阪, 2019.12.7
27. 佐藤悠城, 藤本大智, 原 重雄, 細谷和貴, 嶋田有里, 島 佑介, 大崎 惠, 松梨敦史, 益田隆広, 平林亮介, 永田一真, 中川 淳, 立川 良, 富井啓介: 免疫チェックポイント阻害薬の治療効果予測因子としての STK11/LKB1 免疫染色の検討. 第 60 回日本肺癌学会, 大阪, 2019.12.7
28. 印藤貴士, 甲 貴文, 宍戸 裕, 青山晃博, 浜川博司, 高橋 豊, 原 重雄: 手術により確定診断が得られた硬化性肺胞上皮腫の 1 例. 第 60 回日本肺癌学会, 大阪, 2019.12.7
29. 大久保佑樹, 谷口洋平, 長尾宗一郎, 唐渡修一郎, 上田智也, 田中由香里, 池田結香, 文原大貴, 秋山慎介, 細谷和也, 和田将弥, 森田周子, 占野尚人, 井上聡子, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗, 原 重雄, 山下大祐: 当院における TS1 腺癌の臨床および画像的特徴についての検討. 第 112 回日本消化器病学会近畿支部例会, 京都, 2020
30. 遠藤貴人, 西岡遵, 横山直己, 小田晃康, 小川悟史, 石村武志, 原重雄, 藤澤正人: 腎移植後急性 CNI 腎毒性の 3 例. 第 53 回日本臨床腎移植学会, 東京, 2020.2.20
31. 坂本和雄, 後藤俊介, 吉川美喜子, 西 慎一, 小川悟史, 石村武志, 藤澤正人, 飯島一誠, 原 重雄.: 移植後 1 時間生検で TMA 所見が認められた献腎移植小児例. 第 53 回日本臨床腎移植学会, 東京, 2020.2.20

VII. 1. 28 放射線診断科

1. 倉田靖桐, 日野田卓也, 革島定幸, 上田浩之, 吉岡信也, 山下大祐, 原重雄: Seromucinous carcinoma の一症例. 腹部放射線学会, 下関, 2019.6.29
2. 川上沙耶, 上田浩之: Meckel 憩室穿孔の一例. 第 29 回日本救急放射線研究会, 名古屋, 2019.10.19
3. 金尾昌太郎: 乳房 MRI におけるレポートニング. 第 55 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 名古屋, 2019.10.19
4. 藤本順平, 岡野 拓, 倉田靖桐, 川上沙耶, 革島定幸, 糟谷 誠, 日野田卓也, 山田浩史, 菅 剛, 金尾昌太郎, 上田浩之, 石蔵礼一: 子宮捻転の 3 例: 3 次元理解に向けて. 第 55 回日本医学放射線学会秋季臨床大会, 名古屋, 2019.10.20
5. 岡野 拓, 倉田靖桐, 川上沙耶, 藤本順平, 革島定幸, 糟谷 誠, 日野田卓也, 山田浩史, 菅 剛, 金尾昌太郎, 上田浩之, 石蔵礼一, 藤田将平, 金森真紀, 土井朝子, 谷口洋平, 山下大祐: 当初プタ回虫症として治療されていた肝蛭症の一例. 第 323 回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2019.11.9
6. 川上沙耶, 日野田卓也, 藤本順平, 革島定幸, 糟谷 誠, 岡野 拓, 倉田靖桐, 山田浩史, 菅 剛, 金尾昌太郎, 石蔵礼一: Vibabatr-in-associated brain abnormalities on magnetic resonance imaging. 第 324 回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2020.2.8

VII. 1. 29 放射線治療科

1. 小坂恭弘, 小久保雅樹, 篠原尚吾, 竹林慎治, 濱口清海, 道田哲彦: 中下咽頭・喉頭原発扁平上皮癌に対する IMRT の治療成績. 第 43 回頭頸部癌学会, 金沢, 2019.6.13
2. 竹林慎治, 篠原尚吾, 池永 直, 水野敬介, 斎田浩二, 道田哲彦, 浜口清海, 藤原敬三, 内藤泰, 小坂恭弘, 小久保雅樹: 当院の上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法併用放射線治療. 第 43 回頭頸部癌学会, 金沢, 2019.6.13
3. 光吉隆真, 岩井貴寛, 緒方隆司, 服部貴之, 小倉健吾, 小坂恭弘, 今輩倍敏行, 濱口清海, 竹林慎治, 篠原尚吾, 小久保雅樹: 当院における唾液腺癌に対する術後放射線療法の治療成績. 第 323 回日本医学放射線学会関西地方会, 大阪, 2019.11.9

4. Ogura K, Kosaka Y, Imagumbai T, Hattori T, Hiraoka S, Ogata T, Kokubo M : Outcome of radiotherapy for brain metastases patients without active extracranial disease. 61st American Society for Radiation Oncology, Chicago, USA, 2019.9.16
5. Ogata T, Kosaka Y, Imagumbai T, Ogura K, Hattori T, Hiraoka S, Kokubo M : Outcome of stereotactic body radiotherapy for patients with histologically proven Stage I non-small-cell lung cancer. 61st American Society for Radiation Oncology, Chicago, USA, 2019.9.15
6. Kimura T, Takeda A, Ishikura S, Ariyoshi K, Imagumbai T, Kato T, Eriguchi T, Oku Y, Ozawa S, Tsurugai T, Kokubo M, Shimizu S : Multicenter prospective study of stereotactic body radiotherapy for untreated solitary primary hepatocellular carcinoma : The STRSPH study. 61st American Society for Radiation Oncology, Chicago, USA, 2019.9.16
7. 岩井貴寛, 小倉健吾, 山下幹子, 緒方隆司, 服部貴之, 光吉隆真, 今葦倍敏行, 小久保雅樹 : 膝癌照射後の血中膝外分泌酵素についての検討. 第 48 回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2019.10.12
8. 椋野 諒, 中村光弘, 光吉隆真, 新谷 堯, 根来慶春, 伏木雅人, 小倉昌和, 板坂 聡, 山内智香子, 大津修二, 坂本隆史, 坂本匡人, 荒木則雄, 平島英明, 松尾幸憲, 溝脇尚志 : Radimics 特徴量に基づく肺 SBRT の予後予測に関する多施設共同研究. 第 48 回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2019.10.12
9. 岩井貴寛, 光吉隆真, 植木一仁, 緒方隆司, 服部貴之, 小倉健吾, 今葦倍敏行, 高山賢二, 小久保雅樹 : 当院における局所進行膝癌に対する化学放射線療法への検討. 第 32 回日本放射線腫瘍学会, 名古屋, 2019.11.22
10. 服部貴之, 今葦倍敏行, 奥野芳茂, 高山賢二, 小坂恭弘, 小倉健吾, 光吉隆真, 岩井貴寛, 緒方隆司, 小久保雅樹 : 当院における前立腺癌に対する I-125 小線源治療の中期治療成績の検討. 第 32 回日本放射線腫瘍学会, 名古屋, 2019.11.21
11. 緒方隆司, 小坂恭弘, 今葦倍敏行, 小倉健吾, 光吉隆真, 服部貴之, 岩井貴寛, 小久保雅樹 : 転移性肺腫瘍患者に対する定位放射線治療の成績. 第 32 回日本放射線腫瘍学会, 名古屋, 2019.11.21
12. 光吉隆真, 岩井貴寛, 緒方隆司, 服部貴之, 小倉健吾, 小坂恭弘, 今葦倍敏行, 小久保雅樹 : TNM 分類 (第 8 版) による LA-NSCLC に対する根治的 CRT 後の治療成績の報告. 第 32 回日本放射線腫瘍学会, 名古屋, 2019.11.21
13. 光吉隆真, 小坂恭弘, 富井啓介, 小久保雅樹 : LA-NSCLC に対する根治的 CRT 後の治療成績 : TNM 分類第 7 版と第 8 版の比較. 第 60 回日本肺癌学会, 大阪, 2019.12.8
14. 小宮山貴史, 唐澤克之, 原田英幸, 山本貴也, 松本康男, 小久保雅樹, 光吉隆真, 松尾幸憲, 辻野佳世子, 木村智樹, 鬼丸力也, 中松清志, 大西 洋 : 中枢型 I 期非小細胞肺癌に対する放射線治療. 第 60 回日本肺癌学会, 名古屋, 2019.12.8
15. 末岡正輝, 澤田 晃, 田邊裕朗, 岡田雄基, 奥内 昇, 小久保雅樹 : 動体追尾 IMRT IMRT の線量と照射位置精度検証. 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2020.2.8
16. 足立孝則, 中村光宏, 新谷 堯, 光吉隆真, 柿野 諒, 坂本隆史, 小久保雅樹, 松尾幸憲, 溝脇尚志 : Dose-based radiomics 特徴量を用いた肺 SBRT 後の放射線肺臓炎の予測 : 後方視的多施設共同研究. 第 49 回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2020.2.15
17. 緒方隆司, 小坂恭弘, 今葦倍敏行, 小倉健吾, 光吉隆真, 服部貴之, 岩井貴寛, 小久保雅樹 : 当院における癌性髄膜炎に対する全脳照射の治療成績. 第 49 回京都放射線腫瘍研究会, 京都, 2020.2.15

VII. 1. 30 救急科

1. Akira SASAKI, Machi YANAI, Koichi ARIYOSHI : The feasibility and effectiveness of Hour-1Bundle;sepsis treatment in the emergency room:a retrospective before-after study. ヨーロッパ救急医学会 EUSEM2019, プラハ, 2019.10.15
2. Akira SASAKI, Yoshinori MATSUOKA, Koichi ARIYOSHI : , Machi YANAI, Koichi ARIYOSHI : Bacteria in patients with accidental hypothermia:a retrospective cohort study. ヨーロッパ救急医学会 EUSEM2019, プラハ, 2019.10.15
3. 寺本昇生, 有吉孝一, 柳井真知, 神谷侑画 : 神戸マラソン 2018. 第 22 回日本臨床救急医学会, 和歌山, 2019.5.31
4. 柳井真知, 瀬尾龍太郎, 有吉孝一 : スガマデクスによる Kounis 症候群で 2 度の心停止に至った一例. 第 22 回日本臨床救急医学会, 和歌山, 2019.5.31

5. 有吉孝一（座長）：職場環境、大学生と救急、ファーストエイド．第 22 回日本臨床救急医学会，和歌山，2019.5.31
6. 園 真廉，中村祐美子，井上純一，有吉孝一：等施設におけるグリーンケアの現状と課題．第 22 回日本臨床救急医学会，和歌山，2019.5.31
7. 小倉朋子，水 大介：救急外来での空気感染疾患の予防策の実態．第 22 回日本臨床救急医学会，和歌山，2019.6.1
8. 前澤俊憲，柳井真知，瀬尾龍太郎，有吉孝一：集中治療を要した急性エタノール中毒の 2 症例．第 41 回日本中毒学会学術集会，川越，2019.7.21
9. 松岡由典：蘇生・中毒・環境障害．第 120 回近畿救急医学研究会（日本救急医学会近畿地方会），大阪，2019.7.20
10. 粟田聖也，松岡由典，有吉孝一：眼周囲打撲・眼窩底骨折に対する救急診療の在り方．第 120 回近畿救急医学研究会（日本救急医学会近畿地方会），大阪，2019.7.20
11. 有吉孝一：毒物・薬物中毒・動物咬傷と児童虐待例の鑑別 シンポジウム 7 救急医療・児童虐待から命を守る－故市川光太郎先生企画－．日本外来小児科学会，福岡，2019.8.31
12. 畑 菜摘，松岡由典，有吉孝一：体外循環を用いた心肺蘇生法における標準化プロトコル導入の影響．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.2
13. 松岡由典，水 大介，有吉孝一：心肺蘇生の予後改善を目指して－地域診療体制の重要性．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.2
14. 椋本悠嗣，有吉孝一，水 大介，須賀将文：当院の頭蓋内出血に対するプロトロンビン複合体製剤（ケイセントラ）の使用状況について．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.2
15. 坂谷朋子，瀬尾龍太郎，有吉孝一：非腫瘍性抗 NMDA 受容体農園の若年男性例．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.2
16. 片上大輔，佐々木朗，有吉孝一：当院救命救急センターにおける働き方改革－専攻医からの提言－．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.3
17. 水 大介，有吉孝一：多様なニーズに応じる救急医育成に向けて．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.3
18. 柳井真知，佐々木朗，有吉孝一：敗血症が疑われる救急患者にバンコマイシンは必要か．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.3
19. 佐々木 朗，柳井真知，有吉孝一：救急外来における敗血症 1 時間バンドルの有効性と実現可能性の検討．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.4
20. 木下裕規，松岡由典，有吉孝一：ER における結核感染症の検討．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.4
21. 園 真廉，稲岡佳子，富井啓介，有吉孝一：ER と Team STEPPS．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.4
22. 石原 諭，中山伸一，当麻美樹，高岡 諒，小林誠人，平田淳一，有吉孝一，佐藤慎一：兵庫県における病院前医療の現状と体制強化のための取り組み．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.4
23. 前澤俊憲，柳井真知，有吉孝一：外傷性血気胸における胸腔ドレナージチューブ径の検討．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.4
24. 有吉孝一（司会），山上 浩，志賀 隆，佐藤信宏：ER でのフィードバック．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.4
25. 中永 士師明，松岡由典：第 47 回日本救急医学会学術集会（司会）．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.4
26. 川上正人，佐々木 朗（座長）：ER から臨床研究を発信する．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.4
27. 鴻野公伸，栗林真悠（座長）：第 47 回日本救急医学会学術集会（司会）．第 47 回日本救急医学会学術集会，東京，2019.10.4
28. 有吉孝一：MPU in ED．茨城県精神科医療機関と身体科医療機関の連携強化に係る研修会，水戸，2019.12.4
29. 有吉孝一，大西理史，佐々木 朗，林 卓郎：WS5 Triage スキマの間 隙間産業を味わう．第 10 回日本小児救急医学会教育研修セミナー，さいたま，2019.12.7

30. 有吉孝一, 森村尚登: 災害時の病院避難に関する研修プログラムの開発. 第 25 回日本災害医学会, 神戸, 2020.2.21
31. 有吉孝一, 國方美佐 (座長): 災害に関連する傷病. 第 25 回日本災害医学会, 神戸, 2020.2.21
32. 有吉孝一(司会), 奥村 徹: 地下鉄サリン事件から 25 年その残された課題. 日本中毒学会西日本地方会, 神戸, 2020.2.22
33. 許 智栄: 教育講演「先生! 事件です!!」青酸保険金殺人事件. 日本中毒学会西日本地方会, 神戸, 2020.2.22
34. 藤本 稜, 松岡由典, 許 智栄, 有吉孝一, 清水祐里, 原 重雄: 青い人. 日本中毒学会西日本地方会, 神戸, 2020.2.22
35. 安藤基純, 田村 亮, 中浴伸二, 滝元皐月, 有吉孝一, 山口真理恵, 崎園賢治, 江藤正明, 福島昭二, 杉岡信幸, 橋田 亨: 心肺蘇生後の中毒被疑薬および代謝物の血中濃度推移と心毒性との関連評価: アミトリプチリン過量服用の一例. 日本中毒学会西日本地方会, 神戸, 2020.2.22

VII. 1. 31 総合内科

1. 進藤達哉, 土井朝子, 西岡弘晶: ヒトアデノウイルス C 種 6 型による壊死性網膜炎を伴う汎ぶどう膜炎を発症したと考えられた AIDS 患者の 1 例. 第 93 回日本感染症学会総会, 名古屋, 2019.4.6
2. 土井朝子, 蓮池俊和, 進藤達哉, 西岡弘晶: ADA 上昇のために結核性髄膜炎との鑑別が困難であった HIV 髄膜炎の 1 症例. 第 93 回日本感染症学会総会, 名古屋, 2019.4.6
3. 西久保雅司, 金森真紀: あってもいいが, なくてもいい. 京都 GIM カンファレンス, 京都, 2019.5.10
4. 進藤達哉, 松岡直樹, 西岡弘晶: ストレスによる過食が原因と考えられた思春期発症の無症状 2 型糖尿病の 1 例. 第 10 回プライマリ・ケア連合学会学術大会, 京都, 2019.5.19
5. 土井朝子: 膠原病治療薬と感染症. 神戸リウマチ膠原病地域連携セミナー, 神戸, 2019.5.16
6. 西岡弘晶: Clostridioides (Clostridium) difficile 感染症への臨床的アプローチ. 第 27 回東播抗菌化学療法セミナー, 明石, 2019.5.23
7. 土井朝子: レクチャー 4: 「感染管理四方山話 2」. 第 18 回 Fleekic, 神戸, 2019.5.26
8. 進藤達哉: 紹介状の書き方. 救急オープンセミナー, 神戸, 2019.5.29
9. 久保賢哉, 藤田将平, 大平純一朗, 進藤達哉, 志水隼人, 西岡弘晶: ルーパス脊髄炎の治療中に脊髄 MRI 検査で異常所見が出現した 1 例. 第 224 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.6.1
10. 金森真紀: 指導医のしゃべり場～teaching から assessment まで語り合ひましょう～. ACP (米国内科学会) 日本支部年次総会・講演会 2019, 京都, 2019.6.8
11. 金森真紀: 外来で始められる PMR 診断と治療. ACP (米国内科学会) 日本支部年次総会・講演会 2019, 京都, 2019.6.9
12. 進藤達哉: 兵庫県立尼崎医療センター講演, 尼崎, 2019.7.2
13. 進藤達哉: 感染症ケーススタディー①. 第 1 回 IDEAL Kansai (Infectious Diseases Educational Assembly and Lectures in Kansai, 関西感染症教育塾), 大阪, 2019.7.13
14. 蓮池俊和: 感染症レクチャー②. 第 1 回 IDEAL Kansai (Infectious Diseases Educational Assembly and Lectures in Kansai, 関西感染症教育塾), 大阪, 2019.7.13
15. 進藤達哉: 抗菌薬 基本の「ホ」. 救急オープンセミナー, 神戸, 2019.7.24
16. 黒田浩一: 気道感染症の診断. AMR 対策臨床セミナー「かぜ診療ブラッシュアップコース」, 岐阜, 2019.7.27
17. 進藤達哉: 加古川医療センター講演. EM カンファレンス, 加古川, 2019.7.30
18. 藤田将平, 志水隼人, 金森真紀, 西岡弘晶, 土井朝子: 水曜の夜から一睡もしていません. 京都 GIM カンファレンス, 京都, 2019.8.2
19. 藤田将平, 進藤達哉, 志水隼人, 土井朝子, 西岡弘晶, 谷口洋平, 丸山治彦: 経時的な抗体価の変化が診断に寄与した肝蛭症の 1 例. 第 224 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.9.21
20. 西久保雅司: 今こそ見直す! Vital signs の重要性和敗血症の早期発見. RRS リンクナース会, 神戸, 2019.9.25
21. 黒田浩一: インフルエンザ. 救急オープンセミナー, 神戸, 2019.10.30
22. 志水隼人: Careram Internet. Cluster Seminar, 神戸, 2019.10.30

23. 進藤達哉, 西岡弘晶: 菌血症を伴う ESBL 産生 E. coli による尿路感染症における Escalation therapy の有用性. 第 62 回日本感染症学会中日本地方会学術集会, 浜松, 2019.11.7
24. 吉崎亜衣沙: ナトリウム異常. 救急オープンセミナー, 神戸, 2019.11.13
25. 土井朝子: 令和元年度第 2 回抗菌薬適正使用支援研修エンピリックセラピーとデフィニティブセラピー. 抗菌薬適正使用支援加算に係る研修会, 鳥取, 2019.11.21
26. 志水隼人: 骨, 関節. 救急オープンセミナー, 神戸, 2019.12.4
27. 前川和輝, 藤田将平, 志水隼人, 黒田浩一, 西岡弘晶: 合併症のない熱帯熱マラリアの再燃にアーテメター/ルメファントリン合剤 (AL 合剤) を再度投与し治療できた 1 例. 第 226 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.12.21
28. 前川和輝: 症例発表. 京都 GIM カンファレンス, 京都, 2020.1.10
29. 西久保雅司: 症例発表. 第 20 回 Fleekic, 神戸, 2020.1.26
30. 西久保雅司: 症例発表. 第 20 回 Fleekic, 神戸, 2020.1.26
31. 土井朝子: 講演. KOBE 健康くらぶ土曜健康科学セミナー, 神戸, 2020.2.8
32. 進藤達哉: 抗菌薬 基本の「ン」. 救急オープンセミナー, 神戸, 2020.2.12
33. 黒田浩一: なぜワクチン接種をするのか? ~個人を守るため? 社会を守るため? ~. 白陵中学校 3 年生向け LHR 講演会, 高砂, 2020.2.17
34. 西岡弘晶, 岩本昌子, 東別府直紀: 心臓血管手術後の開始食の食形態による喫食率の検討. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27
35. 常峰かな, 東別府直紀, 末廣篤, 竹林慎治, 西岡弘晶: 嚥下内視鏡検査の咽喉頭感覚評価について. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27
36. 楠田かおり, 室井延之, 土肥麻貴子, 東別府直紀, 西岡弘晶, 橋田亨: 急性期病院から在宅へ栄養療法をつなぐための薬剤情報提供の取り組み. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27
37. 東別府直紀, 西岡弘晶: 基調講演 管理栄養士とともに働く ICU. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27
38. 東別府直紀, 西岡弘晶: ICU での静脈栄養について. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27
39. 山岡佑介, 前川和輝, 吉崎亜衣沙, 金森真紀, 西岡弘晶: 3 年間の偏食によって壊血病を発症した 1 例. 第 227 回日本内科学会近畿地方会, 京都, 2020.3.7

VII. 1. 32 看護部

1. 三村寛子, 仲村直子, 高橋真弓子, 冨田るりこ, 西岡道代, 高野けい子: 急性期基幹病院における筋萎縮性側索硬化症の外来看護の取り組み. 第 60 回日本神経学会学術大会, 大阪, 2019.5.22-25
2. 小倉明子: 救急外来での空気感染疾患の予防策の実態. 第 22 回日本臨床救急医学会総会・学術集会, 和歌山, 2019.5.30-6.1
3. 新改法子: 感染症看護専門看護師の活動調査と今後の課題—第 2 報—. 第 6 回日本 CNS 看護学会, 名古屋, 2019.6.1
4. 川村修司: 被災者兼支援者に対する心のケア〜うつ/PTSD 予防介入プログラム〜. 日本精神保健看護学会 第 29 回学術集会・総会, 名古屋, 2019.6.8-9
5. 野村優子: 泌尿器科外来における清潔間欠自己導尿をしている患者の尿路感染の実態調査—カテーテルの単回使用と陰部消毒廃止による尿の性状変化—. 第 32 回日本老年泌尿器科学会, 旭川, 2019.6.14-15
6. 荒木彩衣: 意識障害のある若年患者の両親に対する代理意思決定支援. 第 15 回一般社団法人 日本クリティカルケア看護学会学術集会, 別府, 2019.6.15-16
7. 西村香澄, 川辺由美, 前田淳子: 透析室の火災を想定した防災訓練について—火災用アクションカードの改定を通して—. 第 64 回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019.6.28-30
8. 川辺由美, 前田淳子: 慢性心不全のターミナル期透析患者の考察—最後まで透析を受けた患者の看護を考える—. 第 64 回日本透析医学会学術集会・総会, 横浜, 2019.6.28-30
9. 仲村直子: 心リハを担当する看護師が公認心理師に期待すること. 第 25 回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 大阪, 2019.7.13-14

10. 藤本和美, 仲村直子, 松村佳苗: 心不全患者の6分間歩行試験の実態調査から看護師が退院指導に活用する方法の検討. 第25回日本心臓リハビリテーション学会学術集会, 大阪, 2019.7.13-14
11. 新改法子: 心臓・大血管手術後の手術部位感染事例における執刀前予防抗菌薬投与のタイミングの分析. 第19回日本感染看護学会学術集会, 名古屋, 2019.8.23-24
12. 藤岡直昭: 育児のために短時間正職員制度を利用して働く看護師のワーク・ライフ・バランスの実現度と労働環境との関連. 第23回日本看護管理学会学術集会, 新潟, 2019.8.23-24
13. 藤原のり子: 病院における災害への備え. 第23回日本看護管理学会学術集会, 新潟, 2019.8.23-24
14. 川村修司: がん治療後に適切に求めを表現できず症状に関するセルフケアが低下した患者へのCNS看護介入とその評価. PASセルフケアセラピー看護学会第2回大会, 大阪, 2019.8.31
15. 新改法子: Evaluating the Impact of Enhanced Contact Precautions on Detecting New Drug-Resistant Organism Cases. Infection Prevention Society, イギリス, 2019.9.22-24
16. 中村祐美子, 船木 淳, 小迫 瞳, 清水愛香, 平野通子, 崎山 愛, 山口 優, 江川幸二: 急変対応のための机上シミュレーション実施前後のノンテクニカルスキルの変化. 第21回日本救急看護学会学術集会, 幕張, 2019.10.4-5
17. 石井万伊, 中村祐美子: 患者家族の危機を捉えた急性期における看取りの看護～デスカンファレンスが救急看護師に及ぼす効果～. 第21回日本救急看護学会学術集会, 幕張, 2019.10.4-5
18. 若林侑起, 仲村直子, 古川 裕: 急性期病院における循環器看護師の末期心不全患者への症状マネジメントに関する実態調査. 第23回日本心不全学会学術集会, 広島, 2019.10.4-6
19. 大川亜弥: 当院の褥瘡管理の変遷 ―電子カルテシステム移行における取り組み―. 第58回全国自治体病院学会 in 徳島, 徳島, 2019.10.24-25
20. 杉江英理子, 前田愛希, 西原浩真, 小柳圭一, 蔵谷鷹大, 大竹康平: 専門看護師と認定看護師が多職種と協働し、企画・運営した医療安全研修の成果. 第4回神戸看護学会学術集会, 神戸, 2019.10.26
21. 藤川愛子, 丸山浩枝, 沖吉みどり: アレルギー疾患をもつ思春期患児と家庭への看護―セルフケア能力の向上を促す支援を通して―. 第4回神戸看護学会学術集会, 神戸, 2019.10.26
22. 小倉明子: 血液培養検査の汚染率減少に向けた取り組み ―汚染状況のフィードバックを実施して―. 第4回神戸看護学会学術集会, 神戸, 2019.10.26
23. 仲村直子: 看護外来は外来看護と何が違うのか. 第16回日本循環器看護学会学術集会, 東京, 2019.11.2-3
24. 森田有香: 脳神経外科ハイブリッドルーム運用に伴う手術室看護師の取り組み. 第35回NPO法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 福岡, 2019.11.21-23
25. 日野雅斗, 佐野亜紀子, 西山恵梨香, 田中静夏, 土井諒也, 長谷川美和, 花房由美子: 急性期病院A病棟における転倒・転落事例の要因―インシデントレポートと看護記録より―. 第14回医療の質・安全学会学術集会, 京都, 2019.11.29-30
26. 高尾佳美, 藤岡直昭, 稲岡佳子: RRSの立ち上げと活動内容について(第1報). 第14回医療の質・安全学会学術集会, 京都, 2019.11.29-30
27. 高尾佳美, 藤岡直昭, 稲岡佳子: RRSリンクナース会の立ち上げと今後の課題について(第2報). 第14回医療の質・安全学会学術集会, 京都, 2019.11.29-30
28. 松本侑梨加, 佐藤悠城, 平井雄三, 藤本大智, 富井啓介, 高尾佳美, 中西雅美, 手島明美: 肺がん化学療法における口腔粘膜炎を予防するための統一した患者教育の取り組み. 第60回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019.12.6-8
29. 尾川華子, 水野慎也, 神谷睦美, 宮本純子, 高以良仁, 豊國義樹, 中瀬亮輔, 久保達彦, 神内 圭, 中森知毅: 2019年モザンビークサイクロン災害におけるJDR医療チームの活動～EMTCC支援の活動内容と今後の課題～. 第25回日本災害医学会総会・学術集会, 神戸, 2020.2.20-22
30. 尾川華子, 水野慎也, 神谷睦美, 宮本純子, 高以良仁, 豊國義樹, 中瀬亮輔, 久保達彦, 神内 圭, 中森知毅: 2019年モザンビークサイクロン災害におけるJDR医療チームの活動～EMTCC支援の活動内容と今後の課題～. 第25回日本災害医学会総会・学術集会, 神戸, 2020.2.20-22

VII. 1. 33 薬剤部

1. 池末裕明: がん薬物療法のサポーターケア～拡がり深まる薬剤師へのニーズと役割～. 第334回岐阜県病院薬剤師会学術講演会, 岐阜, 2019.4.6

2. 室井延之：患者の暮らしにつなぐオール薬剤師による入退院支援業務の展開．兵庫県病院薬剤師会学術講演会，神戸，2019.4.11
3. 池末裕明：安全ながん薬物療法の実践．日本病院薬剤師会・日本医療薬学会がん専門薬剤師集中教育講座（京都会場），京都，2019.4.14
4. 室井延之：明日の Pharmacist を見つめて次世代を担う臨床薬剤師の育成と組織づくり．第 39 回大阪大谷大学薬学部地域連携学術交流会，大阪，2019.5.11
5. 池末裕明：乾癬治療における薬剤師の取り組み．兵庫県病院薬剤師会 Psoriasis Seminar 2019，神戸，2019.5.15
6. 池末裕明：薬剤師からのメッセージ．初めての免疫チェックポイント阻害剤：チームで取り組む irAE マネジメント，京都，2019.5.24
7. 山本晴菜，鄭 浩柄，杉ノ下与志樹，平島正樹，池末裕明，室井延之，猪熊哲朗，橋田 亨：（シンポジウム）肝疾患専門医療機関における肝炎医療コーディネーターとしての薬剤師の取り組み．第 55 回日本肝臓学会総会，東京，2019.5.30-31
8. 山本晴菜，鄭 浩柄，杉ノ下与志樹，平島正樹，池末裕明，室井延之，猪熊哲朗，橋田 亨：（シンポジウム）肝疾患専門医療機関における肝炎医療コーディネーターとしての薬剤師の取り組み．第 55 回日本肝臓学会総会，東京，2019.5.30-31
9. 大音三枝子，薩摩由香里，平野達也，溝口菜摘，梅田節子，新城拓也，李 美於，池末裕明，室井延之，橋田 亨：ヒドロモルフォン注射剤から経口剤への換算についての検討．第 13 回日本緩和医療薬学会年会，幕張，2019.5.30-6.2
10. 橋田 亨：（特別講演）求められる薬剤部マネジメント～医療の荒波を捉えて～．第 2 回広島公的病院薬剤部長マネジメントカンファランス，広島，2019.5.30
11. 橋田 亨：（特別講演）求められる薬剤部マネジメント～医療の荒波を捉えて～．第 1 回埼玉公的病院薬剤部長マネジメントカンファランス，さいたま市，2019.5.31
12. 池末裕明：新たな薬剤師業務の展開とタスク・シフティング．兵庫県病院薬剤師会学術講演会，神戸，2019.6.4
13. 田村 亮：救急・中毒領域において街の薬局でできること．大阪府中央区南薬剤師会平成 31 年度総会，大阪，2019.6.9
14. 橋田 亨：（特別講演）薬剤師が担う抗がん剤治療のトータルマネジメント．病院薬剤師セミナー in 横浜，横浜，2019.6.12
15. 室井延之：（シンポジウム）高度急性期病院から地域につなぐ薬物療法と薬剤師の役割．第 2 回日本病院薬剤師会 Future Pharmacist Forum，東京，2019.6.15-16
16. 福島春子，鶴谷 茂：多彩な精神症状を呈した臍帯血移植後 HHV6 脳炎の一例．第 115 回日本精神神経学会学術大会，新潟，2019.6.20
17. 池末裕明：チームで取り組むがん薬物療法のサポーターケア．多職種で考えるサポーターケア研究会，沖縄，2019.6.28
18. 薩摩由香里：IPF 薬剤師外来の取り組みと有用性の評価．IPF Meet The Expert，東京，2019.6.29
19. 登佳寿子，池末裕明：症例検討．第 38 回 薬剤師のための抗 HIV 薬 服薬指導研修会，広島，2019.7.6
20. 登寿美子：（シンポジウム）心疾患患者の再発防止に向けたアドヒアランス改善のための薬学的アプローチ．第 51 回日本動脈硬化学会総会・学術集会，京都，2019.7.11
21. 橋田 亨：（特別講演）10 年後に活躍する薬剤師～波濤の先に見える未来～．第 6 回 Fukuoka Pharmacy Director Seminar，福島，2019.7.11
22. 森本麻友，内藤陽一，楠原正太，藤本祐未，原野謙一，古川孝広，松原伸晃，細野亜古，向原 徹：パルボシクリブによる掌蹠膿疱症の一例．第 27 回日本乳癌学会学術総会，東京，2019.7.12
23. 池末裕明：（シンポジウム）チームで取り組む irAE マネジメント．医療薬学フォーラム 2019/ 第 27 回クリニカルファーマシーシンポジウム，広島，2019.7.13
24. 高瀬友貴：（シンポジウム）薬剤師が担う医療機関と薬局間の連携手法～プロトコールに基づく薬物治療管理～．第 12 回日本在宅薬学会学術大会，名古屋，2019.7.15
25. 森本麻友，内藤陽一，馬見新佳那子，石原淑子，楠原正太，藤本祐未，原野謙一，古川孝広，松原伸晃，細野亜古，向原 徹，松井礼子，川崎敏克：パルボシクリブ内服中の乳がん患者において腎機能低下の発現状況とそれに伴う有害事象の検討．第 17 回日本臨床腫瘍学会学術集会，京都，2019.7.20

26. 宗村雅男:入院から外来・在宅につなぐ オール薬剤師での取り組み, 2019年度第1回チーム医療推進研修会, 大阪, 2019.7.23
27. 奥貞 智:医薬品安全管理講習会～インスリンを安全に取り扱うために～, 神戸市立アイセンター病院医療安全研修, 神戸, 2019.7.30
28. 橋田 亨:(特別講演) 10年後に活躍する薬剤師～波濤の先に見える未来～, Pharmacy Director Seminar in Yokohama 2019, 横浜, 2019.8.1
29. 室井延之:(シンポジウム) 病院から地域へつなぐ栄養療法と薬剤師の役割, 日本栄養療法推進協議会 第6回教育セミナー, 大阪, 2019.8.3
30. 橋田 亨:(シンポジウム) 抗がん剤曝露対策従業者を守る薬学専門性とマネジメントの視点, 日本病院薬剤師会関東ブロック第49回学術大会, 甲府, 2019.8.25
31. 橋田 亨:(シンポジウム) ロボットと人工知能(AI)が変える薬剤業務, 日本病院薬剤師会関東ブロック第49回学術大会, 甲府, 2019.8.25
32. 室井延之:(シンポジウム)臨床薬剤師の育成につなげる病院実務実習とは, 第4回日本薬学教育学会大会, 大阪, 2019.8.24-25
33. 田村 亮:(シンポジウム)「改訂中毒教育」事始め, 第4回日本薬学教育学会大会, 大阪, 2019.8.24-25
34. 池末裕明:(シンポジウム) 臨床現場からのエビデンス発信に向けた教育の取り組み, 第4回日本薬学教育学会大会, 大阪, 2019.8.24-25
35. 池末裕明:薬剤師がつなぐ がん薬物療法の施設間連携, さいたま地域連携 Network 抗がん剤合同勉強会, 埼玉, 2019.8.26
36. 橋田 亨:(特別講演) 10年後に活躍する薬剤師 波濤の先に見える未来, Tokachi DPC Hospital Pharmacy Director Seminar, 帯広, 2019.8.30
37. 橋田 亨:(特別講演) 医療の大海に船出した薬剤師が波濤の先に見る夢, 福井県病院薬剤師会50周年記念特別講演会, 福井, 2019.8.30
38. 室井延之:病院から地域へつなぐ薬物療法と薬剤師の役割, 第4回 AKASHI Pharmacy Director Seminar, 明石, 2019.9.4
39. 池末裕明:骨転移治療薬の安全性向上にむけて～顎骨壊死のリスク因子と対策～, 第5回 Hyogo Pharmacy Director Conference, 神戸, 2019.9.4
40. 池末裕明:チームで支えるがん薬物療法の安全性向上, 第3回加古川がんチーム医療研究会, 加古川, 2019.9.4
41. 田村 亮:中毒診療において薬剤師にできること, 第26回神戸薬学ネットワーク, 神戸, 2019.9.5
42. 田中郁壮, 柴谷直樹, 藤田和美, 吉水 聡, 室井延之, 栗本康夫, 橋田 亨:原発閉塞隅角病(PACD)患者における緑内障禁忌薬の調査と代替薬の提案, 第30回日本緑内障学会, 熊本, 2019.9.6-8
43. 西脇布貴:(シンポジウム) 免疫チェックポイント阻害薬の更なる安全性向上のための薬剤師の関わり, 第10回アプライド・セラピューティクス(実践薬物治療)学会学術大会, 大阪, 2019.9.7
44. 橋田 亨:(特別講演) 10年後に活躍する薬剤師 波濤の先に見える未来, 宇部・山陽小野田 Pharmacy Director Seminar, 宇部, 2019.9.21
45. 山本晴菜:肝疾患専門医療機関における肝炎医療コーディネーターとしての薬剤師の取り組み, 機関誌『肝臓』座談会, 東京, 2019.9.21
46. Ando M, Tamura R, Yamaguchi M, Sakizono K, Minowa K, Ariyoshi K, Fukushima S, Sugioka N, Hashida T: Characteristics of pharmacokinetics in caffeine overdose of cases 17th International Congress of Therapeutic Drug Monitoring & Clinical Toxicology, ブラジル, 2019.9.22
47. 田中郁壮:緑内障患者に禁忌薬が処方されたら? 緑内障治療の安全管理と薬剤師の役割, 第3回神戸アイセンター病院 眼科臨床懇話会, 神戸, 2019.9.26
48. 高柳信子:多職種連携により完遂できるがん薬物療法～口腔粘膜炎・骨髄抑制・顎骨壊死の症例を通じて～, 令和元年度神戸市歯科医師会周術期等口腔機能管理研修会, 神戸, 2019.9.28
49. 橋田 亨:(講演) 抗がん剤曝露対策従業者を守るマネジメントの視点, 医療安全学会第6回多職種学際シンポジウム, 神戸, 2019.9.28
50. 室井延之:(シンポジウム) 薬剤師の専門教育における NST 専門療法士認定制度, 第74回医療薬学公開シンポジウム, 奈良, 2019.9.29

51. 橋田 亨：(特別講演) 10年後に活躍する薬剤師 波濤の先に見える未来. Pharmacy Director's Seminar in Ashikaga, 足利, 2019.10.2
52. 池末裕明：チームによる免疫チェックポイント阻害薬の有害事象マネジメント. 第3回医薬品適正使用 Conference, 姫路, 2019.10.4
53. 池末裕明：ゲノム医療の進展を見据えた薬剤師タスクの提案. 第7回ポर्टアイランド医看薬業連携の会, 神戸, 2019.10.9
54. 増本憲生：インスリンGLP-1作動薬の種類と使い方, 指導の方法. 糖尿病教育セミナー2019(糖尿病療養指導士兵庫県連合会), 神戸 2019.10.13
55. 池末裕明：タスク・シフティングの取組み. 全国自治体病院協議会2019年度薬剤管理研修会, 東京, 2019.10.18
56. 薩摩由香里：IPF Academy2019ーより良いIPF診療を届けるためにー. IPF Academy 2019, 東京, 2019.10.20
57. 森 康裕, 内田まやこ, 秋葉健太, 池末裕明, 室井延之, 細畑圭子, 下村良充, 橋田 亨, 石川隆之, 中村 任：悪性リンパ腫を対象としたベンダムスチン療法による皮膚障害出現のリスク因子. 第69回日本薬学会関西支部総会・大会, 神戸, 2019.10.24
58. 山口裕規, 内田まやこ, 細見周平, 池末裕明, 細畑圭子, 室井延之, 佐藤悠城, 富井啓介, 橋田 亨, 中村 任：非小細胞肺癌を対象としたドセタキセル療法における発熱性好中球減少症のリスク因子. 第69回日本薬学会関西支部総会・大会, 神戸, 2019.10.24
59. 室井延之：(特別公演) 自治体病院から地域につなぐ薬物療法と薬剤師の役割患者の暮らしにつなぐオール薬剤師による入退院支援業務の展開. 第58回全国自治体病院学会, 徳島, 2019.10.24-25
60. 池末裕明, 藤田拓俊, 平島正樹, 奥吉博之, 室井延之, 富井啓介, 橋田 亨：肺がんに対するニボルマブ療法における好中球/リンパ球比と有害事象および効果の関連. 第57回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019.10.24-26
61. 登佳寿子：ポリファーマシー解消に向けた取組み. 腎臓病SDMセミナー in KOBE, 神戸, 2019.10.26
62. 齋藤美由紀, 奥貞 智, 崔 孝行, 大野美紀子, 大重美智子, 松山紀美子, 桑原美香, 吉元由美子, 鈴木かず美, 不二京子, 板垣陽子, 井上紀子, 松本深佳, 脇坂智子, 永野千加, 土井成美, 大音三枝子, 梅田節子, 高野けい子, 西本哲郎, 李 美於, 松岡直樹：緩和ケアにおける補完代替医療(CAM)のアロマトリートメント効果の検証. 患者・家族メンタル支援学会第5回学術総会, 京都, 2019.10.26-27
63. 宗村雅男：入院から在宅医療への橋渡し～連携で支援する在宅静脈栄養への関わり～. 神戸薬科大学第10回症例検討会, 神戸, 2019.10.27
64. 橋田 亨：(特別講演) 10年後に活躍する薬剤師 波濤の先に見える未来. Fukuyama Pharmacy Director Seminar, 福山, 2019.10.30
65. 橋田 亨：(受賞講演) 臨床上の課題解決に向けた薬学的介入とそのアウトカム評価に関する研究. 第29回日本医療薬学会年会, 福岡, 2019.11.2-4
66. 薩摩由香里, 楠田かおり, 池末裕明, 前田真美, 室井延之, 古郷摩利子, 立川 良, 富井啓介, 橋田 亨：間質性肺炎薬剤師外来による多職種協働の成果～服薬継続期間の延長～. 第29回日本医療薬学会年会, 福岡, 2019.11.2-4
67. 室井延之：(シンポジウム) 病院から地域につなぐ薬物療法と薬剤師の役割. 第29回日本医療薬学会年会, 福岡, 2019.11.2-4
68. 池末裕明：(シンポジウム) 免疫関連有害事象(irAE)とその対策. 第29回日本医療薬学会年会, 福岡, 2019.11.2-4
69. 鎌田里紗, 柴谷直樹, 富田秀明, 山下花南恵, 松岡勇作, 奥貞 智, 室井延之, 橋田 亨：臨床薬剤師の育成に向けた実務実習プログラムの構築とその評価. 第29回日本医療薬学会年会, 福岡, 2019.11.2-4
70. 宗村雅男：スキルワークショップ：エビデンス主体で攻める患者アプローチ. 第2回兵庫県救急・集中治療薬剤師研究会, 神戸, 2019.11.9
71. 橋田 亨：(特別講演) 10年後に活躍する薬剤師 波濤の先に見える未来. Wakayama Pharmacy Director Seminar, 和歌山, 2019.11.15
72. 橋田 亨：(特別講演) 10年後に活躍する薬剤師 波濤の先に見える未来. 第230回鹿児島県病院薬剤師会研修会, 鹿児島, 2019.11.29

73. 土肥麻貴子：臨床とアカデミアの懸け橋としての臨床薬理学部門－米国研修を経験して－. 第 20 回神戸学院大学 - 医療連携講演会. 神戸, 2019.12.2
74. 池末裕明：新たな薬剤師業務の展開とタスク・シフティングの舞台裏～がん薬物療法を中心に～. 水辺の森がん薬物療法セミナー, 長崎, 2019.12.3
75. 奥吉博之, 入江 慶, 土肥麻貴子, 平島正樹, 池末裕明, 室井延之, 江藤正明, 藤本大智, 富井啓介, 橋田 亨：抗 PD-1 抗体ニボルマブを 1 年以上継続している非小細胞肺癌患者における薬物動態の検討. 第 40 回日本臨床薬理学会学術総会, 東京, 2019.12.4-6
76. 薩摩由香里：IPF 薬剤師外来の取り組みと成果～アドヒアランスの向上に向けて～. IPF Web Academy 2019, 神戸, 2019.12.10
77. 山本晴菜, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 平島正樹, 池末裕明, 室井延之, 猪熊哲朗, 橋田 亨：(シンポジウム) 肝炎専門医療機関における肝炎医療コーディネーターとしての薬剤師の活動事. 第 43 回肝臓学会西部会, 山口, 2019.12.12-13
78. 橋田 亨：(特別講演) がん領域における薬物治療マネジメントとそれを担う薬剤師の養成. Next Generation Leader Conference, 名古屋, 2020.1.24
79. 橋田 亨：(特別講演) 10 年後に活躍する薬剤師 波濤の先に見える未来. 3rd Pharmacy Director' s Seminar in Shonan, 藤沢, 2020.2.4
80. 池末裕明：irAE マネジメント薬剤師の立場から, irAE マネジメントセミナー in Gifu, 岐阜, 2020.2.5
81. 橋田 亨：(特別講演) 10 年後に活躍する薬剤師 波濤の先に見える未来. Pharmacy Director' s Seminar in Hokushin, 長野, 2020.2.7
82. 橋田 亨：(特別講演) 波濤の先に見える未来 入院・外来から地域医療へ. 第 2 3 回中国地区病院薬剤師研究会, 広島, 2020.2.8
83. 池末裕明：がん薬物療法の服薬指導と副作用マネジメント：症例サマリの書き方を含めて. 広島県病院薬剤師会呉支部研修会がん薬物療法認定薬剤師講習会, 呉, 2020.2.13
84. 室井延之：(シンポジウム) 高度急性期病院から地域につなぐ薬物療法と薬剤師の役割. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
85. 池末裕明：チームで取組む irAE マネジメント：薬剤師の取り組み. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.16
86. 池末裕明：(シンポジウム) がん薬物療法における薬剤師の役割：深化と広がり. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.16
87. 田村 亮：(シンポジウム) 中毒医療の未知を究明する. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
88. 土肥麻貴子：(シンポジウム) 抗菌薬の TDM と処方提案～ひと工夫を要した症例を中心に～. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
89. 秋葉健太, 増本憲生, 入江 慶, 池末裕明, 奥貞 智, 室井延之, 松岡直樹, 橋田 亨：2 型糖尿病性ケトアシドーシスで救急搬送された患者の実態調査. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
90. 有吉紗絵, 佐久間美佐緒, 吉岡千尋, 増本憲生, 奥貞 智, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨：周術期における入院前から退院までの薬剤師介入の有用性. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
91. 薩摩由香里, 鶴谷 茂, 奥貞紘平, 池末裕明, 室井延之, 簗谷雄二, 井上愛子, 松岡直樹, 橋田 亨：経口不能な原発性甲状腺機能低下症患者にレボチロキシン Na 錠の注腸投与で在宅療養が可能となった 1 症例. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
92. 三沖大介, 宗村雅男, 山本晴菜, 楠田かおり, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨：急性期病院から転院・退院先へつなぐ施設間薬剤情報提供書の活用状況. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
93. 宗村雅男：(シンポジウム) 入院から外来・在宅医療へつなぐ薬物療法～これからの高齢者医療の安心を考える～. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
94. 住吉佑介, 佐久間美佐緒, 河本由紀子, 増本憲生, 奥貞 智, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨：薬学実務実習生における薬剤師連携の学習としての服薬情報提供書 (トレーシングレポート) に関する検討. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
95. 吉岡千尋, 佐久間美佐緒, 有吉紗絵, 増本憲生, 奥貞 智, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨：入院前からの関りで安心安全な入院治療の薬学的管理をつなぐ. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16

96. 有吉紗絵, 佐久間美佐緒, 吉岡千尋, 増本憲生, 奥貞 智, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨: 周術期への入院前から退院までの薬剤師の関わりによる有用性. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
97. 奥貞 智: 当院における薬薬連携の現状と今後の展望. 糖尿病エンパワーメントセミナー 2.20 ~ 医師と薬剤師のコミュニケーションを考える~, 神戸, 2020.2.20
98. 安藤基純, 田村 亮, 中浴伸二, 滝元皐月, 有吉孝一, 山口真理恵, 崎園賢治, 江藤正明, 福島昭二, 杉岡信幸, 橋田 亨: 心肺蘇生後の中毒被疑薬および代謝物の血中濃度推移と心毒性との関連評価: アミトリプチリン過量服用の一例. 第 40 回日本中毒学会西日本地方会, 神戸, 2020.2.22
99. 楠田かおり, 室井延之, 土肥麻貴子, 東別府直紀, 西岡弘晶, 橋田 亨: 急性期病院から在宅へ栄養療法をつなぐための薬剤情報提供の取り組み. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会 (誌面開催), 京都, 2020.2.27-28
100. 鎌田里紗: (シンポジウム) General を学び, Special に活かす. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
101. 山岡健太, 入江 慶, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨: Hyper-CVAD/MA 療法におけるメトトレキサート母集団薬物動態モデル解析. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
102. 前田真美, 高瀬友貴, 住吉佑介, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨: 直接経口抗凝固薬 (DOAC) に関連した頭蓋内出血および消化管大出血後における DOAC 再開の有効性および安全性. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
103. 勝浦千都世, 入江 慶, 秋葉健太, 増本憲生, 室井延之, 松岡直樹, 橋田 亨: ビクトーザ®皮下注の手法に関する調査と薬剤師の指導方法についての検討. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
104. 米谷佳恵, 平野達也, 入江 慶, 大音三枝子, 室井延之, 橋田 亨: 経口ヒドロモルフォン製剤へのオピオイドスイッチングにおける有効性の検討. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
105. 細見周平, 入江 慶, 平島正樹, 池末裕明, 室井延之, 佐藤悠城, 富井啓介, 橋田 亨: 非小細胞肺癌患者におけるドセタキセル+ラムシルマブ併用療法の好中球減少の PK/PD モデル解析. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
106. 吉田早希, 安藤基純, 入江 慶, 福島恵造, 杉岡信幸, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨: 臍帯血移植患者におけるタクロリムスの全血中濃度制御を目的とした母集団薬物動態解析. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
107. 土居晃平, 池末裕明, 平島正樹, 室井延之, 竹信俊彦, 橋田 亨: 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
108. 田中敏博, 平野達也, 平島正樹, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨: 免疫チェックポイント阻害薬使用患者における検査実施率の現状調査~ PBPM の対象拡大に向けて~. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
109. 上田実穂, 山本晴菜, 田中敏博, 平島正樹, 池末裕明, 室井延之, 橋田 亨: 免疫抑制薬および経口抗がん薬投与と患者における B 型肝炎再活性化対策への薬剤師の介入効果. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
110. 最所拓也, 池末裕明, 平島正樹, 室井延之, 佐藤悠城, 富井啓介, 橋田 亨: 化学療法併用レジメンにおける免疫関連有害事象の発現状況. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
111. 田村直暉, 安藤基純, 平山晴奈, 平島正樹, 池末裕明, 東別府直紀, 大畑達哉, 室井延之, 橋田 亨: 高速液体クロマトグラフィーによるセフトリアキソンの血中濃度測定系の構築と人工心肺装置を用いた大動脈弁置換術の周術期におけるセフトリアキソンの血中濃度評価. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
112. 岩間弓奈, 池末裕明, 平島正樹, 三浦理恵子, 入江 慶, 室井延之, 川喜田睦司, 橋田 亨: エンザルタミド服用前立腺癌患者に対する薬剤師外来における有用性の評価. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム (誌面開催), 東京, 2020.3.14
113. Tohi M, Mizuno T, Irie K, Okuyoshi H, Hirabatake M, Ikesue H, Muroi N, Eto M, Fukushima S, Tomii K and Hashida T: Population pharmacokinetics of nivolumab in Japanese patients with non-small cell lung cancer. ASCPT Annual Meeting 2020, Houston, 2020.3.18-21 (誌面開催)

114. 細見周平, 入江 慶, 平島正樹, 池末裕明, 室井延之, 佐藤悠城, 富井啓介, 橋田 亨: 非小細胞肺癌患者におけるドセタキセル+ラムシルマブ併用療法の好中球減少の PK/PD モデル解析. 第 9 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2020 (誌面開催), 福岡, 2020.3.21-22
115. 池末裕明: (Basic セミナー) 免疫関連有害事象 (irAE) とその対策. 第 9 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2020 (誌面開催), 福岡, 2020.3.21-22
116. 池末裕明: (シンポジウム) 新たな展開を迎えたがん薬物療法を支える薬剤師の育成と広がり. 第 9 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2020 (誌面開催), 福岡, 2020.3.21-22
117. 三浦理恵子, 平島正樹, 入江 慶, 池末裕明, 室井延之, 川喜田睦司, 橋田 亨: 去勢抵抗性前立腺癌におけるエンザルタミド用量漸増法の有害事象評価. 第 9 回日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2020 (誌面開催), 福岡, 2020.3.21-22
118. 池末裕明: (シンポジウム) がん専門薬剤師の視点から: エビデンス発信と臨床研究教育. 日本薬学会第 140 年会 (誌面開催), 京都, 2020.3.27
119. 滝元卓月, 安藤基純, 田村 亮, 中浴伸二, 有吉孝一, 山口真理恵, 崎園賢治, 江藤正明, 福島昭二, 杉岡信幸, 橋田 亨: アミトリプチリンおよび代謝物の血中濃度同時測定法開発とそれらを利用した重症中毒例での濃度推移および毒性の評価. 日本薬学会第 140 年会 (誌面開催), 京都, 2020.3.27
120. 奥貞 智: (シンポジウム) 入院前支援に関わる薬剤師の業務調査と外来診療負担軽減への寄与. 第 6 回日本医療安全学会学術総会 (Web 開催), 東京, 2020.3.27-31

VII. 1. 34 臨床検査技術部

1. 丸岡隼人: 造血管腫瘍におけるフローサイトメトリーおよび遺伝子検査の実際～基礎から最新のトピックスまで～. 沖縄県臨床検査技師会・検査血液学会沖縄支部合同研修会, 沖縄, 2019.4.14
2. 佐々木一朗: 脳神経外科領域から見た IOM に取り組む姿勢. 日本医学検査学会, 下関, 2019.5.12
3. 吉田昌弘, 張 允禧, 山本容子, 楠本壽子, 簗輪和士: Daratumumab 投与患者における不規則抗体検査一中和法の検討一. 第 67 回日本輸血細胞治療学会総会, 熊本, 2019.5.24
4. 香原美咲, 太田光彦, 上野菜美子, 山本 駿, 三好悠太郎, 金 基泰, 北井 豪, 加地修一郎, 谷 知子, 古川 裕: 人工血管置換術後に発症した溶血性貧血の成因を心エコー図検査で特定し得た 2 症例. 第 92 回日本超音波医学会学術集会, 東京, 2019.5.24
5. 佐々木一朗: 臓器提供の概要と適応. 兵庫県 2019 年度院内コーディネータ研修, 神戸市立医療センター中央市民病院, 神戸, 2019.5.25
6. 丸岡隼人: AML におけるイムノフェノタイプインゲーマルチカラーフローサイトメトリーと抗体パネルの重要性. 一第 29 回日本サイトメトリー学会学術集会ワークショップ, 東京, 2019.5.25
7. 山本 剛: ルチンで遭遇している集中治療管理が必要な感染症ケーススタディ. 第 44 回 SCANIC 学術研究会, 大阪, 2019.5.25
8. 岩崎信広, 鄭 浩柄, 杉ノ下与志樹, 猪熊哲朗, 枳尾人司, 江藤正明: 血管性病変および小腸病変における超音波検査の有用性について. 日本超音波医学会ワークショップ, 第 92 回学術集会, 東京, 2019.5.26
9. 丸岡隼人: 造血管腫瘍における MRD 解析. 第 64 回日本臨床検査医学会近畿支部例会シンポジウム, 神戸, 2019.6.8
10. 中村真美子, 南 佳織, 佐々木一朗: 法的脳死判定時の脳波記録の注意点 2019 年度院内脳死シミュレーション. 神戸市立医療センター中央市民病院, 神戸, 2019.6.13-14
11. 奈須聖子: 質量分析と M50 の導入におけるワークフローの変更と効果. 第 3 回 BD 関西エキスパートセミナー, 大阪, 2019.06.15
12. 丸岡隼人: 造血管腫瘍における MRD 解析の実際. BD クリニカルソリューションセミナー in 大阪 2019, 大阪, 2019.7.2
13. 佐々木一朗: 術中脳脊髄モニタリングケースレポート. 日本臨床神経生理学学会主催第 5 回脳脊髄モニタリングセミナー, 大阪, 2019.7.20-21
14. 佐々木一朗: 臓器提供院内体制セミナー. 茨城, 2019.8.4
15. 奈須聖子: 質量分析による非結核性抗酸菌の同定. 第 3 回 MALDI-TOF MS 臨床微生物研究会総会学術集会, 大阪, 2019.09.14

16. 武元優允：当院における Dengue 熱の検出状況について。第 5 回感染症診断フォーラム - 関西，大阪，2019.9.21
17. 山本 剛：AS と DS で活用するグラム染色の考え方。第 26 回日本臨床微生物学会教育セミナー，那覇，2019.10.19
18. 則政文子，紺田利子，河野裕之，北井 豪，太田光彦，藤本寛太，長野真弥，山本 駿，谷 知子，古川裕：褐色細胞腫破裂によるカテコラミン心筋症の一例。日本超音波医学会第 46 回関西西地方会学術集会，大阪，2019.10.26
19. 矢野由希子，菅原雅史，馬場理江，佐々木一郎，枳尾人司，鄭 浩柄，杉ノ下与志樹：超音波検査が多発 A-P シェントに伴う門脈圧亢進症の診断と経過観察に有用であった一例。日本超音波医学会第 46 回関西西地方会学術集会，大阪，2019.10.26
20. 姫野真由子，白石祐美，物部真恵，張 允禧，丸岡隼人：8 カラーフローサイトメトリーを用いた多発性骨髄腫における高感度 MRD 検出法の開発。第 59 回日臨技近畿支部医学検査学会，滋賀，2019.10.26
21. 張 允禧，白石祐美，物部真恵，姫野真由子，丸岡隼人：8-color Flow cytometry による B 細胞性リンパ芽球性白血病の高感度 MRD 解析法の確立。第 59 回日臨技近畿支部医学検査学会，滋賀，2019.10.26
22. 物部真恵，白石祐美，姫野真由子，張 允禧，丸岡隼人：Digital PCR を用いた MYD88 L265P 変異検出法の確立。第 59 回日臨技近畿支部医学検査学会，滋賀，2019.10.27
23. 白石祐美，物部真恵，姫野真由子，張 允禧，丸岡隼人：骨髄血・リンパ節と髄液で軽鎖制限の異なる細胞集団を認めた悪性リンパ腫の一例。第 59 回日臨技近畿支部医学検査学会，滋賀，2019.10.27
24. 松下隆史，田中佑果，菅原雅史，安本綾乃，中村真実子，馬場理江，丸岡隼人，釜谷博行，幸原伸夫：典型的な超音波画像を呈した手根管症候群の一例。第 59 回日臨技近畿支部医学検査学会，滋賀，2019.10.27
25. 山本 剛：Diagnostic Stewardship. 広東省呼吸器疾患学会招聘講演，広東省広州市，中華人民共和国，2019.11.2
26. 山本 剛：微生物検査でここまでわかる～絶対押さえておきたい検査のママ知識と臨床推論～。第 62 回日本感染症学会中日本地方会学術集会感染症入門講座，浜松，2019.11.7
27. 山本 剛：工事における医療関連感染リスクと対策の実際 工事後のアスペルギルス・レジオネラのサーベイランス レジオネラの検査法。日本環境感染学会医療環境委員会主催研修会，東京，2019.11.15
28. 田代章人，井本秀志，玉木明子，尾松雅仁，山下大祐，下村良充，川本未知，原 重雄：ウイルス脳炎疑いによる反応性変化像と悪性リンパ腫との鑑別に苦慮した一例。第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会，岡山，2019.11.17
29. 玉木明子，井本秀志，尾松雅仁，田代章人，山下大祐，原 重雄：膣頸部細胞診における血液疾患治療による影響の検討。第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会，岡山，2019.11.17
30. 山本 剛：微生物検査業務を AST 業務にどのように繋げていくか？。第 66 回日本臨床検査医学会学術集会シンポジウム 4，岡山，2019.11.22
31. 松下隆史，幸原伸夫，崎山千尋，菅原雅史，中村真実子，浜田一美，佐々木一郎，川本未知：手根管症候群の近位部伝導遅延に対する NCS と F 波を用いた検討。Investigation using MCV and F wave for proximal conduction delay of carpal tunnel Syndrome. 日本臨床神経生理学会 第 49 回学術大会，福島，2019.11.28
32. 佐々木一郎：術中神経モニタリングにおける臨床検査技師の役割と技術～IOM の先にあるもの～。日本臨床神経生理学会第 49 回学術大会教育講演，福島，2019.11.29
33. 山本 剛：感染症セミナーグラム染色道場。第 2 回郡山医師会 2 次救急医療委員会勉強会，郡山，2019.12.8
34. 丸岡隼人：造血器腫瘍における FCM および遺伝子検査の実際－基礎から最新のトピックスまで－。日臨技近畿支部血液研修会，奈良，2019.12.15
35. 佐々木一郎：法的脳死判定について 令和元年度臓器提供シミュレーション。神戸大学医学部，神戸，2020.1.23
36. 中村真実子，南 佳織，佐々木一郎：法的脳死判定について 令和元年度院内臓器提供シミュレーション。神戸市立医療センター中央市民病院，神戸，2020.1.31
37. 南 佳織，中村真実子，佐々木一郎：臓器提供患者の適応について 令和元年度院内臓器提供シミュレーション。神戸市立医療センター中央市民病院，神戸，2020.1.31
38. 佐々木一郎：誘発電位測定について。第 13 回関西脳波・筋電図セミナー，京都，2020.2.1

39. 武元優允, 奈須聖子, 山口真理恵, 神田 彩, 牧田実央, 杉邑俊樹, 山本 剛: 当院における Dengue 熱迅速診断キットの検討. 第 31 回日本臨床微生物学会総会学術集会, 金沢, 2020.1.31-2.2
40. 杉邑俊樹, 奈須聖子, 山口真理恵, 神田 彩, 武元優允, 牧田実央, 山本 剛: 血液透析患者で検出された *Roseomonas mucosa* 菌血症の 1 症例. 第 31 回日本臨床微生物学会総会学術集会, 金沢, 2020.1.31-2.2
41. 奈須聖子: 薬剤耐性菌の検査法～日常検査でここまでできる～. 第 31 回日本臨床微生物学会総会学術集会, 金沢, 2020.1.31-2.2
42. 丸岡隼人: 造血管腫瘍における遺伝子検査の実際ー基礎から最新のトピックスまでー. 第 30 回生物資料分析学会シンポジウム, 大阪, 2020.2.1
43. 山本 駿, 北井 豪, 紺田利子, 登尾 薫, 田代章人, 大塚 聖, 井川彩加, 岡崎徳良, 香原美咲, 則政文子, 長野真弥, 中原千裕, 大畑淳子, 上野菜美子, 藤井洋子, 菅沼直生子, 三羽えり子, 山本 剛, 谷 知子, 原 重雄, 小山忠明, 古川 裕: 断層法にて描出が困難であった心臓粘液腫の一例. 第 90 回神戸臨床心エコー図研究会, 神戸, 2020.2.8
44. 丸岡隼人: 造血管腫瘍における治療効果モニタリングー MRD 解析に関するトピックスー. 第 31 回阪和血液病カンファレンス特別講演, 大阪, 2020.2.15
45. 山本 剛: AST 活動で薬剤師が知っておきたい微生物検査の基礎知識. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15

VII. 1. 35 放射線技術部

1. 田邊裕朗: 当院における Mosaic の運用～ユーザースケジュールとレポートを中心に～. Mosaic User's Meeting, 横浜, 2019.4.13
2. 名和志洋, 名定良祐, 茨木丈晴, 矢田真梨菜, 長谷川頌子: CT 装置および血管造影装置における金属アーチファクト低減処理技術の比較評価. 第 75 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2019.4.13
3. 谷内 翔, 小林彩友美, 宇草賢二, 増田祥子: Cone Beam CT の撮影条件の変化における金属アーチファクト低減処理効果の評価法の検討. 第 75 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2019.4.14
4. 鈴木順一: RI 検査に潜む危険. 医用画像の活用をクロスモダリティーで考える会, 神戸, 2019.6.14
5. 吉原宣幸: 実践していますか? 血管造影室のリスクマネジメント. 医用画像の活用をクロスモダリティーで考える会, 神戸, 2019.6.14
6. 宇都宮隆: 3 次救急で活躍し続ける Optima CT660. 第 25 回関西 GECT 研究会, 大阪, 2019.6.29
7. 清水敬二: 令和における PET 看護師とは. PET サマーセミナー 2019, 福島, 2019.8.24
8. 竹本幸志, 二田水絵梨, 上向井敏希, 福井達也, 奥内 昇: 救急心肺蘇生 ICLS の指導方法を利用した新人教育. 第 35 回日本診療放射線技師学術大会, 大宮, 2019.9.14
9. Masaki Sueoka, Akira Sawada, Hiroaki Tanabe, Yuki Okada, Sho Taniuchi, Masao Tanooka, Masayoshi Miyazaki, Wataru Okada, Ryuta Nakahara, Hitomi Suzuki, Noboru Okuuchi, Masaki Kokubo, Koichiro Yamakado: Verification of dosimetric and positional accuracy for dynamic tumor tracking intensity modulated radiation therapy. 19th Asia-Oceania Congress of Medical Physics, Perth, Australia, 2019.10.28-30
10. 谷内 翔: 切らずに治す～脳血管内治療を支える放射線技術～. 日本放射線技術学 2019 年度市民公開シンポジウム, 京都, 2019.11.14
11. 宇草賢二: 外傷診療における IVRー検査編ー検査から IVR まで. 第 9 回救急オープンカンファレンス, 神戸, 2019.11.15
12. 吉原宣幸: 急性期脳梗塞に対する血栓回収療法. 医用画像の活用をクロスモダリティーで考える会, 神戸, 2019.11.16
13. 山下幹子: 独立計算検証ソフトウェアの活用. 第 47 回日本放射線技術学会秋季学術大会 第 79 回放射線治療部会シンポジウム, 大阪, 2019.10.19
14. 合田靖司: 第三者機関による線量測定について概要と各病院での経験について. 第 26 回兵庫県放射線治療研究会, 神戸, 2019.11.29
15. 荒木佑介, 小山寛之, 吉田一貴: FPD 使用時の胸部撮影における銅フィルタの有用性. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2019.11.30
16. 上向井敏希: ヘリカルピッチが画質、線量に与える影響の定量評価. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2019.11.30

17. 隠岐太陽, 小林彩友美, 大塚 聖, 宇草賢二, 竹本幸志, 茨木丈晴: 当院の線量管理 ～被ばく線量の評価及び最適化～. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2019.11.30
18. 名和志洋, 名定良祐, 茨木丈晴: 2-point Dixon 法併用高速 3D-Gradient echo 法を用いた高速頸部 MR angiography の検討. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2019.11.30
19. 伊藤 望, 岡村佳明, 末岡正輝, 山下幹子, 田邊裕朗, 真田 明, 石井政男, 小川敦久, 岡田雄基, 合田靖司, 奥内 昇: 当院の IGRT における 2D /2DMatch 時の被ばく線量についての報告. 神戸市放射線技師会研究発表会, 神戸, 2019.11.30
20. 小山寛之, 荒木佑介, 吉田一貴: 銅フィルタを用いた FPD 使用時の胸部撮影における至適条件の基礎的検討. 放射線技術学会近畿支部第 63 回学術大会, 神戸, 2019.12.7
21. 山下幹子, 田邊裕朗, 岡田雄基, 岡村佳明, 末岡正輝, 泊 祐加, 村上智裕, 石井政男, 合田靖司, 奥内 昇, 小久保雅樹: ExacTrac を用いた脳定位照射線治療用 Shell の精度検証. 第 3 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2020.02.08
22. 末岡正輝, 澤田 晃, 田邊裕朗, 岡田雄基, 奥内 昇, 小久保雅樹: 動体追尾 IMRT の線量と照射位置精度の検証. 第 3 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2020.02.08
23. 小山寛之, 荒木佑介, 吉田一貴, 奥内 昇: 銅フィルタを用いた FPD 使用時の胸部撮影における至適条件の基礎的検討ー Basic study of optimal conditions for chest radiography using FPD with Cu filter ー. 第 3 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2020.02.08

VII. 1. 36 リハビリテーション技術部

1. 小柳圭一, 石井淳子, 黒田健仁, 浅井康紀, 門 浄彦, 岩田健太郎, 幸原伸夫: HAL が有効であった重度体幹機能低下の顔面肩甲上腕型筋ジストロフィーの一症例. 日本神経学会, 大阪, 2019.5.24
2. Daisuke Takamura, Hideki Moriyama, Atsuko Takahama, Hiroyuki Kobayashi, and Kentaro Iwata: Effect of postoperative complication on skeletal muscle mass and physical performance after esophagectomy. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM) World Congress, Kobe, Japan, 2019.6.9-13
3. Yuya Ichinose, Shinichiro Morishita, Gaku Endo, Rio Suzuki, and Stsuhiko Tsubaki: Changes in cerebral oxygenation during intermittent moderately intense exercise. 13th International Society of Physical and Rehabilitation Medicine (ISPRM) World Congress, Kobe, Japan, 2019.6.9-13
4. 桑田佳世子: 「やりたいこと」を家族と共に叶え最期の思い出に携わることの出来た一事例. 第 39 回近畿作業療法学会, 神戸, 2019.6.30
5. Kanejima Y, Kitamura M, Izawa KP: Self-Monitoring to Increase Physical Activity in Patients with Cardiovascular Disease: systematic review and meta-analysis. The 25 Annual Meeting Japanese Association of Cardiac Rehabilitation: AsiaPREvent, International Session Award, Osaka, 2019.7.13-14
6. 大箭周平, 中嶋瑠奈, 滝本龍矢, 前川侑宏, 岩田健太郎: Lateropulsion を呈した延髄外側梗塞患者に対し、職圧覚を介したフィードバックを用いて早期独歩自立に至った症例. 第 31 回兵庫県理学療法学術大会, 兵庫, 2019.7.13
7. 岩田健太郎: NDB・介護 DB 連結による科学的介護の推進について. 日本心管理理学療法学会シンポジウム～「脳卒中・循環器病対策基本法」成立後の理学療法士が果たすべき役割、守るべき未来～, 神戸, 2019.7.14
8. 山田莞爾, 沖侑太郎, 藤本由香里, 三谷有司, 山田洋二, 藤田万利子, 太田浩章, 岩田健太郎, 石川 朗: 高齢肺炎患者のフレイルと ADL の関連. 第 5 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会, 兵庫, 2019.7.27
9. 山田莞爾, 沖侑太郎, 藤本由香里, 三谷有司, 山田洋二, 藤田万利子, 太田浩章, 岩田健太郎, 石川 朗: 高齢肺炎患者のサルコペニアと ADL の関連. 第 5 回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会近畿支部学術集会, 兵庫, 2019.7.27
10. 下出 優, 北井 豪, 岩田健太郎, 山崎せつ子: Influence of cognitive function on difference in recognition for self-care between heart failure patients and families. 第 53 回日本作業療法学会, 福岡, 2019.9.6
11. 小松 寛, 松尾貴央, 岩田健太郎, 本田明広, 北井 豪, 東別府直紀: ICU 入室患者に対する Free Water Protocol の施行経験. 第 25 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会, 新潟, 2019.9.6-7

12. 中垣美優, 小柳圭一, 安田 義: 女性アスリートにおける股関節回旋と ACL 損傷との関連性, 性差, スポーツ種目の違いによる股関節回旋と膝前十字靭帯損傷との関連性. 日本体力医学会, 筑波, 2019.9.20
13. 小柳圭一, 中垣美優, 安田 義: 女性アスリートにおける股関節回旋と ACL 損傷との関連性 両脚着地動作時の股関節と膝関節のバイオメカニクスの関連性. 日本体力医学会, 筑波, 2019.9.20
14. Kanji Yamada, Yutaro Oki, Yukari Fujimoto, Yuji Mitani, Yoji Yamada, Mariko Fujita, Akihiro Ota, Kentaro Iwata, Akira Ishikawa : Association between admission skeletal muscle mass and functional independence at discharge in elderly patients with pneumonia. ERS International Congress 2019, Madrid, Spain, 2019.9.28-10.2
15. 滝本龍矢, 西原浩真, 岩田健太郎: 血管型 Behcet 病による多発性脳梗塞後、可動性決戦の遊離リスクがある中、合併症なく離床を行えた一例. 第 17 回日本神経理学療法学会学術大会, 神奈川, 2019.9.28-29
16. 前川侑宏, 栢春佳, 岩田健太郎, 本田明広: 重度運動麻痺を呈した全盲患者に知覚探索課題が有効であった症例. 第 17 回日本神経理学療法学会学術大会, 神奈川, 2019.9.28-29
17. 篠田 琢, 若田恭介, 岩田健太郎, 本田明広: パーキンソン病増悪の求積において HAL を用いた短期介入により歩行改善を認めた症例. 第 17 回日本神経理学療法学会学術大会, 横浜, 2019.9.28-29
18. 岩田健太郎, 北井 豪: 内部障害を合併したサルコペニア・フレイル患者の再入院予防のための急性期・在宅一体化プログラム. 第 6 回多職種間シンポジウム, 神戸, 2019.9.28
19. 阜月幹太, 高村大祐, 山田莞爾, 高濱安津子, 蔵谷鷹大, 本田明広, 岩田健太郎, 末吉達也, 安田 義: THA 術後患者の退院時歩行能力に術前予測因子として握力は影響を及ぼすか. 第 7 回日本運動器理学療法学会学術大会, 岡山, 2019.10.5-6
20. 高村大祐, 脇川大誠, 畠山隼平, 高濱安津子, 岩田健太郎, 末吉達也, 安田 義, 森山英樹: 血中 miR-133a は人工膝関節全置換術後早期の TUG と関連する. 第 7 回日本運動器理学療法学会学術大会, 岡山, 2019.10.5-6
21. 岩田健太郎: 心不全再入院予防のための急性期病院と在宅リハビリの連携. 心不全 ASV リサーチフォーラム第 7 回学術集会, 大阪, 2019.10.19
22. 矢嶋優磨, 藤田俊史, 安田 義: 鏡視下腱板修復術後における鏡視下滑膜の炎症所見と関節可動域との関係. 第 46 回日本肩関節学会, 長野, 2019.10.25-26
23. 柴田久美子, 矢嶋優磨, 藤田俊史, 安田 義: 腋窩動脈損傷を合併した左上腕骨近位端骨折症例に対する OT 介入. 日本肩関節学会症例報告, 長野, 2020.10.26
24. 岩田健太郎: 脳心血管病におけるリハビリテーションの重要性 医療・介護一体化による疾病予防と健康寿命延伸. 令和元年第 1 回チーム医療推進協議会研修会, 東京, 2019.10.26
25. 阜月幹太, 若田恭介, 原田惇平, 岩田健太郎: 特発性肺線維急性増悪後の労作時低酸素血症に対して HFNC を用いた運動療法の一症例. 第 6 回日本呼吸理学療法学会学術大会, 愛知, 2019.11.10
26. 吉田春の, 平林亮介, 若田恭介, 永田一真, 富井啓介: 間質性肺炎患者における作業療法が身体活動量に及ぼす影響. 第 29 回呼吸ケアリハビリテーション学会学術集会, 名古屋, 2019.11.11-18
27. 木村優太, 小島 翔, 大鶴直史, 大西秀明: 一定時間の他動運動が運動後抑制に与える影響—効果持続時間と反復効果の検討—. 第 24 回日本基礎理学療法学会学術大会, 新潟, 2019.11.30-12.1
28. 川上友理子, 小松 寛, 岩田健太郎, 本田明広, 松尾貴央: 送気法による発声訓練を行った頸髄損傷の一例. 第 10 回保健医療学会学術集会, 大阪, 2019.12.1
29. 岩田健太郎: 地域が求める医療介護連携～理学療法士の取り組み～. 日本プライマリ・ケア連合学会第 33 回近畿地方会, 姫路, 2019.12.1
30. 前川侑宏, 岩田健太郎, 本田明広: 急性期からの提言. JSNPT SIGs- 日本神経理学療法学会 第 3 回参加型フォーラム 2019, 京都, 2020.1.12
31. 柴田久美子: 手の自己管理ができるように指導を行った化膿性腱鞘炎の症例. 日本中部ハンドセラピー研究会症例報告, 鳥取, 2020.2.1
32. 内山綺紗良: PT 介入により Demand が実現し、不安・抑うつが軽減した濾胞性リンパ腫の一症例. H31 年度 兵庫県理学療法士会 神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2020.2.2
33. 三浦香緒里: L3 破裂骨折により対麻痺を呈し、病棟内 ADL の向上を目指した症例. R2 年度 兵庫県理学療法士会 神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2020.02.02
34. 新田 望: 両側前頭葉の皮質下出血患者に対し、肩甲骨と腹部に着目して歩行獲得した症例. R2 年度 兵庫県理学療法士会 神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2020.02.02

35. 饒波咲野：KAFOを使用した立位・歩行練習により座位保持獲得に至った心原性脳塞栓症. R2年度 兵庫県理学療法士会 神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2020.02.02
36. 市瀬裕也：びまん性軸索損傷患者の経過に伴う治療選択により、基本動作能力の改善に至った症例. H31年度 兵庫県理学療法士会 神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2020.2.2
37. 木村優太：脳梗塞後に出血性梗塞を呈した症例～身体機能と脳画像変化に合わせた介入～. R1年度 兵庫県理学療法士会 神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2020.2.2
38. 谷口佳穂：立位姿勢における体幹の筋収縮に着目した結果、歩容の改善が得られた症例について. R1年度 兵庫県理学療法士会 神戸東ブロック新人発表会, 神戸, 2020.2.2
39. 大村佳那：事例検討・事例報告. 2019年度神戸ブロック現職者共通研修, 神戸, 2020.2.2
40. 大塚脩斗, 岩田健太郎, 北井 豪, 下雅意崇亨, 中田歩美香, 滝本龍矢, 金 基泰, 江原夏彦, 小山忠明, 古川 裕：経カテーテル大動脈弁植込術（TAVI）術前の患者における歩行速度による6分間歩行距離の推定に関する検討. 日本心臓リハビリテーション学会 第5回近畿地方会, 大阪, 2019.2.15
41. 野崎偉貴, 谷内耕平, 岩田健太郎, 石川 明：ICU入室患者における病前の要介護認定が退院時の歩行機能に及ぼす影響-2施設後向き観察研究. 第47回日本集中治療医学学術集会, 名古屋, 2020.3.6-8

VII. 1. 37 臨床工学技術部

1. 中農陽介, 小堀敦志, 佐々木康博, 朴 美仙, 高岡循子, 中村 聡, 中村悟士, 山城悠葵, 杉澤朋弥, 坂地 一朗, 古川 裕：CARTO Coloring モジュールを用いて心房頻拍回路を同定しえた1症例. 第66回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2019.7.25
2. 中村悟士, 小堀敦志, 佐々木康博, 田中雄己, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 高岡循子, 坂地一朗, 古川 裕：心房細動アブレーション放射線被曝に対する透視削減プロトコルの効果について. 第66回日本不整脈心電学会学術大会, 横浜, 2019.7.25
3. 花岡正志, 吉田哲也, 山田恭二, 池田有加, 石橋一馬, 田一貴, 井上和久, 田中雄己, 坂地一朗：医工連携によるEAPセンサーをもちいた実現可能性研究. 第41回日本呼吸療法医学会学術集会, 大阪, 2019.8.4
4. 高岡循子, 小堀敦志, 佐々木康博, 朴 美仙, 杉澤朋弥, 山城悠葵, 中農陽介, 中村聡, 中村悟士, 坂地一朗, 古川 裕：ショートチップ型クライオバルーンカテーテルによる肺静脈電位観察の有効性検討. カテーテルアブレーション関連秋季大会 2019, 金沢, 2019.11.7
5. 山城悠葵, 小堀敦志, 佐々木康博, 朴 美仙, 高岡循子, 中村悟士, 中村 聡, 中農陽介, 杉澤朋弥, 坂地一朗, 古川 裕：バルーンアブレーション後の肺静脈形態変化の検討 [Laserballoon VS Cryoballoon vs hotballoon - カテーテルアブレーション関連秋季大会 2019, 金沢, 2019.11.8
6. 釜江直也, 中村 聡, 原園 裕, 中園紘子, 井上和久, 坂地一朗, 吉本明弘：Consideration of continuous blood purification therapy during surgery. 40th Annual Dialysis Conference, カンザシティ, 2020.2.9

VII. 1. 38 栄養管理部

1. 高津絵梨香：患者参加型の糖尿病教室をはじめて. 第23回神戸糖尿病チーム医療研究会, 神戸, 2019.7.5
2. 関口佳世：肝疾患とサルコペニア～当院での取組みについて～. 第2回地域で考える肝疾患の会, 神戸, 2019.9.6
3. 西岡弘晶, 岩本昌子, 東別府直紀：心臓血管手術後の開始食の食形態による喫食率の検討. 第35回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27

Ⅶ. 2 西市民病院

Ⅶ. 2.1 呼吸器内科

1. 富岡洋海：サルコイドーシスのアクネ菌病因論から病態と治療を考える - 基礎と臨床のクロストーク - サルコイドーシス（サ症）の臨床の特殊性・問題点. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.12
2. 富岡洋海：IPF との鑑別診断のポイント - 進行性線維化を伴う病態を踏まえて. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.12
3. 金子正博, 橋本梨花, 和田学政, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 藤井 宏, 富岡洋海：COPD 症例における運動誘発性酸素飽和度低下に関わる因子の検討. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.13
4. 山本暁生, 中本裕之, 澤田 格, 大澤悟志, 岩田優助, 金子正博, 酒井英樹, 山口卓巳, 門 浄彦, 西馬照明, 大西伸悟, 藤本由香里, 別所侑亮, 石川 朗：慢性閉塞性肺疾患における 6 分間歩行試験中の呼吸数に関する研究. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.13
5. 橋本梨花, 富岡洋海, 和田学政, 山添正敏, 吉積悠子：COPD 患者に対する禁煙治療：治療成績と禁煙成功関連因子、肺機能評価. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.14
6. 富岡洋海：サルコイドーシスの診断と治療について. サルコイドーシス友の会講演会, 高知, 2019.4.21
7. Tomioka H, Hashimoto R, Wada T, Yamazoe M：Smoking cessation in COPD patients with nicotine dependence in a single-center clinic in Japan. ATS 2019 International Conference, ダラス, アメリカ, 2019.5.20
8. Wada T, Tomioka H, Yamazoe M, Yoshizumi Y, Morita M, Yamashita S, Furuta K, Kaneko M：Clinical features and outcomes of idiopathic pulmonary fibrosis patients hospitalized for pneumonia. ATS 2019 International Conference, ダラス, アメリカ, 2019.5.20
9. Nishio C, Ochi T, Oh K, Konishi H, Tomioka H：Clinical significance of isolation of Mycobacterium tuberculosis among patients with non-tuberculous mycobacteria. ATS 2019 International Conference, ダラス, アメリカ, 2019.5.21
10. 富岡洋海：IPF 早期治療の重要性. IPF Web Academy, 東京 (WEB 配信講演), 2019.5.31
11. 富岡洋海：肺疾患の最大の危険因子であるタバコ (加熱式を含む). 2019 年世界禁煙ウィーク兵庫県民フォーラム, 神戸, 2019.6.1
12. 富岡洋海：IPF の治療戦略：進行抑制から生命予後の改善へ. IPF Web Academy, 大阪 (WEB 配信講演), 2019.6.5
13. 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 富岡洋海：当院での過去 3 年間の外国出生者における結核の検討. 第 94 回日本結核病学会総会, 大分, 2019.6.7
14. 富岡洋海：IPF 診療の疑問を解決：IPF における治療の必要性. 呼吸器疾患フォーラム, 東京, 2019.6.9
15. 金子正博, 橋本梨花, 和田学政, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 藤井 宏, 富岡洋海：ACO 症例における運動誘発性酸素飽和度低下に関わる因子の検討：6 分間歩行試験による評価. 第 68 回日本アレルギー学会学術大会, 東京, 2019.6.14
16. 古田健二郎：肺 MAC 症の診断と治療. KOBE Respiratory Seminar for Next Generation, 神戸, 2019.6.19
17. 富岡洋海：IPF の治療戦略：過去、現在、そして未来へ. 呼吸器疾患セミナー in 泉州, 大阪, 2019.6.22
18. 富岡洋海, 藤井宏, 奥野晃章, 勝山栄治, 河端美則：全身動脈の著明な新生と肥大を認めた asymmetric ILD の 1 例. 第 99 回間質性肺疾患研究会, 東京, 2019.6.28
19. 吉積悠子, 富岡洋海, 川崎 創, 横田 真, 高宮 麗, 和田学政, 網本久敬, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 藤井 宏, 金子正博, 竹尾正彦, 大越祐介, 西口 滋, 勝山栄治：肺性肥大型骨関節症を合併した肺腺癌の 1 例. 第 110 回日本肺癌学会関西支部学術集会, 京都, 2019.6.29
20. 山下修司, 川崎 創, 横田 真, 和田学政, 網本久敬, 吉積悠子, 森田充紀, 古田健二郎, 藤井 宏, 金子正博, 富岡洋海：局所麻酔下胸腔鏡検査を施行し結核性胸膜炎と診断した 11 例の検討. 第 42 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 2019.7.4
21. 高宮麗, 富岡洋海, 橋本梨花, 和田学政, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 藤井宏, 金子正博：症候性筋サルコイドーシスの一例. 第 123 回日本結核病学会 / 第 93 回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2019.7.6
22. 古田健二郎, 和田学政, 吉積悠子, 森田充紀, 山下修司, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海：インフルエンザに合併した壊死性気管支肺炎の 1 例. 第 123 回日本結核病学会 / 第 93 回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2019.7.6

23. 富岡洋海：特発性肺線維症：国際診断ガイドライン改定がもたらした診断と治療へのインパクト．第123回日本結核病学会 / 第93回日本呼吸器学会近畿地方会，京都，2019.7.6
24. 富岡洋海：IPFの治療戦略：過去、現在、そして未来へ．粕屋宗像呼吸器連携セミナー -COPD・間質性肺炎を中心に-，福岡，2019.7.31
25. 金子正博：呼吸器の病気の話．鹿島殿健康セミナー，高砂，2019.8.17
26. Yoshizumi Y, Tomioka H, Kawasaki S, Yokota M, Takamiya R, Hashimoto R, Wada T, Hisanori A, Morita M, Yamashita S, Furuta K, Kaneko M, Katsuyama E, Kawabata Y : A case of diffuse lung disease found on medical checkup. 第153回びまん性肺疾患研究会，大阪，2019.8.31
27. 富岡洋海：特発性肺線維症：早期発見と早期診断・治療のポイントについて．IPF Meet the Expert，東京，2019.9.28
28. Ogura T, Nishioka Y, Saito T, Tomii K, Kamio K, Tomioka H, Hisata S, Sakamoto S, Handa T, Miyazaki Y, Honma S, Azuma A : Phase 2 study of TAS-115, a novel multi-kinase inhibitor in patients with idiopathic pulmonary fibrosis. European Respiratory Society 29th Annual Congress, マドリード，2019.9.30
29. Y. Inoue, M. Akira, T. Kasai, T. Arai, K. Tachibana, C. Sugimoto, N. Takeuchi, Y. Matsui, Y. Kawabata, F. Sakai, R. Egashira, H. Sumikawa, S. Shimizu, T. Tanaka, T. Takemura, S. Izumi, K. Sakamoto, S. Matsumoto, K. Hatanaka, G. Matama, T. Baba, R. Mori, H. Tomioka, K. Tomii, N. Hamada, N. Nagata, Y. Kondoh, K. Kataoka, T. Kishaba, Y. Nakamura, A. Yamagata, A. Tanaka, V. Poletti, M. Kitaichi : Idiopathic pulmonary fibrosis based on disease behavior: Workshop summary of a Japanese multicenter study. European Respiratory Society 29th Annual Congress, マドリード，2019.9.30
30. Tomioka H, Yoshizumi Y, Yamashita S, Furuta K, Kaneko M : Fatigue Assessment Scale Score in Japanese Sarcoidosis Patients. WASOG/JSSOG, 横浜，2019.10.10
31. 富岡洋海：IgG4関連間質性肺炎の1例．第20回東京びまん性肺疾患研究会，東京，2019.10.26
32. 富岡洋海：IPFの治療戦略：過去、現在、そして未来へ．第6回新潟IPF研究会，新潟，2019.10.26
33. 富岡洋海：間質性肺炎：診療の現状と課題．間質性肺炎 Scientific Exchange Meeting，東京，2019.10.27
34. 富岡洋海：特発性肺線維症：国際診断ガイドライン改定がもたらした診断と治療へのインパクト．早島IPF Meeting，岡山，2019.10.29
35. 山下修司，横田 真，和田学政，網本久敬，吉積悠子，森田充紀，古田健二郎，藤井 宏，金子正博，富岡洋海：当院で結核性胸膜炎と診断、抗結核薬治療を行った30例の検討．第89回日本感染症学会西日本地方会学術集会，浜松，2019.11.1
36. 金子正博：ガイドラインに基づいたCOPDの診療．GSK COPDセミナー in Kobe，神戸，2019.11.14
37. 富岡洋海：IPFとその周辺疾患の診断と治療～抗線維化薬時代を迎えて～．第106回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部会ランチョンセミナー，大阪，2019.11.16
38. 横田真：気胸を契機にADL、QOLの低下を来した特発性肺線維症の一例．IPF Seminar for NEXT Generation，神戸，2019.11.20
39. 富岡洋海：IPF、beyond IPF: 診療の現状と課題．Hanshin Lung Disease Conference，芦屋，2019.11.27
40. 富岡洋海：特発性肺線維症：国際診断ガイドライン改定がもたらした診断と治療へのインパクト．県西部IPF診断治療研究会，海老名，2019.11.29
41. 吉積悠子，富岡洋海，横田 真，和田学政，網本久敬，森田充紀，山下修司，古田健二郎，金子正博，藤井宏，勝山栄治：当院における間質性肺炎合併肺癌に対するニンテダニブの使用経験．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019.12.6
42. 森田充紀，吉田澄子，吉積悠子，山下修司，古田健二郎，富岡洋海：PD-L1発現率と検体固定液についての検討．第60回日本肺癌学会学術集会，大阪，2019.12.7
43. 富岡洋海：IPF、beyond IPF: 診療の現状と課題．Lung Disease Seminar in OSAKA，大阪，2019.12.10
44. 富岡洋海：在宅医療における呼吸器感染症 - 誤嚥性肺炎を中心に -．第32回神戸在宅医療塾，神戸，2019.12.19
45. 富岡洋海：線維化性間質性肺疾患の予後不良フェノタイプ 非特発性2：慢性過敏性肺臓炎．第13回びまん性肺疾患フォーラム，大阪，2019.12.14
46. 富岡洋海：IPFと他疾患の鑑別：呼吸器内科医の観点．IPF Educational Seminar Advanced，東京，2020.1.11

47. 富岡洋海：IPF、beyond IPF: 診療の現状と課題 -SSc-ILD も含めて。IPF Expert Meeting in Kumamoto, 熊本, 2020.1.31
48. 富岡洋海：IPF, beyond IPF：臨床診断のポイント -SSc-ILD も含めて -。第 6 回初歩から学ぶびまん性肺疾患セミナー, 福岡, 2020.2.1
49. 和田学政, 富岡洋海, 吉積悠子, 石本学司：西市民病院における禁煙外来 10 年間の治療成績と禁煙成功関連因子の検討。第 3 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2020.2. 8
50. 富岡洋海:IPF, beyond IPF: 診療の現状と課題 -SSc-ILD も含めて。第 19 回長崎県呼吸器疾患研究会, 長崎, 2020.2.27
51. 富岡洋海：IPF における OFEV の治療意義。オフエブ SSc-ILD Web Academy, 東京 (WEB 配信講演), 2020.2.21
52. 口分田堯, 富岡洋海, 吉積悠子, 和田学政：発熱を契機に発見された齲歯による気道異物の一例。第 227 回日本内科学会近畿地方, 京都 (コロナウイルス感染拡大のため中止となり誌上開催), 2020.3.7
53. 佐伯美紀, 吉積悠子, 和田学政, 網本久敬, 森田充紀, 山下修司, 古田健二郎, 金子正博, 藤井 宏, 富岡洋海：肺癌治療過程で発症した慢性進行性肺アスペルギルス症の一例。第 227 回日本内科学会近畿地方, 京都 (コロナウイルス感染拡大のため中止となり誌上開催), 2020.3.7
54. 富岡洋海：IPF 診療における患者と医師の相互理解。オフエブ IPF Web Academy, 神戸 (WEB 配信講演), 2020.3.26

Ⅶ. 2.2 血液内科

1. Okuni-Watanabe M, Kurata K, Yakushijin K: The first case of e-cigarette-induced polycythemia. The 10th JSH International Symposium 2019, Ise-Shima, 2019.5.17-18

Ⅶ. 2.3 リウマチ・膠原病内科

1. 安部武生:関節リウマチ患者の非炎症性関節痛における破局的思考の関与。第 63 回日本リウマチ学会, 京都, 2019.4.22

Ⅶ. 2.4 腎臓内科

1. 金井大輔：多発脳梗塞を合併した TAFRO 症候群の 1 例。第 63 回リウマチ学会総会・学術集会, 京都, 2019.4.15-17
2. Rie Takiguchi, Shuhei Watanabe, Daisuke Kanai, Shinichi Nishi: A continuous ambulatory peritoneal dialysis case with hemoperitoneum diagnosed by laparoscopic observation. The 9th Asia Pacific Chapter Meeting of International Society for Peritoneal Dialysis in Nagoya, Japan, 2019.9.5-7
3. 藤澤由佳, 渡邊周平, 川崎 創, 金井大輔, 栗田梨愛, 西慎一：成人 T 細胞白血病に合併したループス腎炎の一例。第 49 回日本腎臓学会西部学術大会, 高知, 2019.10.28-29
4. 西垣智子, 渡邊周平, 川崎 創, 藤澤由佳, 金井大輔, 栗田梨愛, 西 慎一：腎生検と剖検で病理所見を評価しえた TAFRO 症候群の 1 例。第 49 回日本腎臓学会西部学術大会, 高知, 2019.10.28-29

Ⅶ. 2.5 糖尿病・内分泌内科

1. 穂積かおり, 北村 薫, 高橋 陸, 武部礼子, 中村武寛：2 型糖尿病の SGLT-2 阻害薬による正常血糖ケトアシドーシスが疑われた一例。第 62 回日本糖尿病学会年次学術集会, 仙台, 2019.5.24
2. 中村武寛：薬物療法選択と栄養相談を一回の受診で～新しい糖尿病紹介の仕組みづくり～。第 6 回明日から役立つ糖尿病勉強会, 神戸, 2019.6.12
3. 中村武寛：「地域」で糖尿病眼合併症を減らすのに、必要なことは何か？内科医の立場より。DM-DR Conference, 神戸, 2019.6.13
4. 中村武寛：新しい連携のカタチ～薬物療法選択と栄養相談をワンタイムで～。第 23 回神戸糖尿病チーム医療研究会, 神戸, 2019.7.5
5. 中村武寛：Kobe DM net の現状報告。第 5 回神戸市の糖尿病地域連携 (Kobe DM net) を考える会, 神戸, 2019.7.25

6. 中村武寛:SGLT2 阻害薬を最大限に活かす3つの方法. 患者さん一人ひとりに最適な治療を考える会, 神戸, 2019.8.22
7. 中村武寛: 垣根を越えた協力体制構築に必要なことは何か?. 医療コミュニティ懇話会, 神戸, 2019.8.29
8. 北村 薫, 高橋 陸, 武部礼子, 中村武寛: SGLT2 阻害薬により高血糖高浸透圧症候群をきたした2型糖尿病の1例. 第225回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.9.21
9. 中村武寛 (糖尿病チーム): 「知っ得! 納得!! 糖尿病!!!」体験型糖尿病教室. 長田公民館リフレッシュセミナー (市民対象糖尿病啓発活動), 神戸, 2019.10.18
10. 中村武寛: 高血圧診療で気をつけるべき3つのポイント. 長田区医師会学術講演会, 神戸, 2019.10.24
11. 中村武寛: 糖尿病に関わる医療者が前向きになれる5つの知識. 第7回明日から役立つ糖尿病勉強会, 神戸, 2019.11.13
12. 中村武寛: 地域でClinical Inertiaに対応する3つのポイント. 第9回神戸糖尿病 Expert Meeting, 神戸, 2019.11.28
13. 中村武寛: 糖尿病に関わる医療者が前向きになれる5つの知識. 第2回糖尿病ケア“楽習会”～交流を力に変えて～病院メディカルスタッフ合同勉強会, 神戸, 2019.11.30
14. 中村武寛: “一病息災”糖尿病～元気で機嫌よく過ごすための知恵～. 神戸市国保・協会けんぽ合同糖尿病重症化予防セミナー健康ライフプラザ, 神戸, 2019.12.8
15. 中村武寛: 機嫌よく長生きするための「健康ダイエット」～肥満専門医が伝えたい3つの大切なこと～. 第570回健康創造都市 KOBE 土曜健康科学セミナー健康ライフプラザ, 神戸, 2019.12.14
16. 北村 薫, 高橋 陸, 武部礼子, 中村武寛: 急性発症後にインスリン非依存性の期間を呈し, 病型判断に苦慮した1型糖尿病の1例. 第226回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.12.21
17. 中村武寛: 医療者が前向きに協力するためにホントに必要な情報とは?. 第12回北播糖尿病療養指導フォーラム, 西脇, 2020.1.21
18. 中村武寛: 生活習慣を支援するために必要な知識～肥満は本人が悪い?～. 令和1年度長田区医師会学校医と養護教諭との懇談会, 神戸, 2020.1.22
19. 中村武寛: 高齢糖尿病ケーススタディ. 第23回日本病態栄養学会年次学術集会教育セミナー, 京都, 2020.1.23
20. 北村 薫, 高橋 陸, 武部礼子, 中村武寛: 急性発症後にインスリン非依存性の期間を呈し, 病型判断に苦慮した1型糖尿病の経験. 第51回糖尿病臨床研究会, 神戸, 2020.2.6
21. 中村武寛: 糖尿病治療薬が効果を発揮するために必要な3つの知識～薬を目の前にした患者さんがどう思うか?～. 第41回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.16
22. 中村武寛: 患者さんの幸せを守るために医療者ができることは何か?～糖尿病治療薬の効果を十分に引き出す方法～. 長田・兵庫・須磨区糖尿病エンパワーメントセミナー, 神戸, 2020.2.20

VII. 2.6 脳神経内科

1. 晴木健人, 菅生教文, 木原武士, 足立秀光, 城洋志彦: 可逆性脳梁膨大部病変を呈した髄膜炎の1例. 第227回日本内科学会近畿地方会, 京都, 2020.3.7
2. 山田勝平, 菅生教文, 木原武士, 足立秀光, 城洋志彦: 感冒薬内服のためトライエージでオピオイド陽性となり診断に苦慮したアルコール性てんかんの1例. 第227回日本内科学会近畿地方会, 京都, 2020.3.7

VII. 2.7 総合内科

1. Koji Oh, Kazusa Egami, Tatsuya Ochi, Chihiro Nishio, Hiroki Konishi: Utility of blood cultures: the positive impact on uncomplicated cellulitis management. 29th European Congress of Clinical Microbiology and Infectious Diseases, Amsterdam, Netherlands, 2019.4.16
2. Chihiro Nishio, Hiroki Konishi, Tatsuya Ochi, Koji Oh, Hiromi Tomioka: Clinical Significance of Isolation of Mycobacterium Tuberculosis Among Patients with Non-Tuberculous Mycobacteria. Dallas, Texas, 2019.5.21
3. 越智達哉, 王 康治, 川崎 創, 西尾智尋, 小西弘起: 急性腹部大動脈閉塞の一例. 第224回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.6.1

4. 王 康治, 江上和紗, 佐伯美紀, 西尾智尋, 越智達哉, 小西弘起: 当院におけるグラム陽性菌による腎盂腎炎の検討と尿グラム染色の有用性について. 第 89 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 浜松, 2019.11.7
5. 越智達哉, 王 康治, 江上和紗, 佐伯美紀, 西尾智尋, 小西弘起: 尿路感染症患者に対する経験的治療における、セフメタゾールの有用性についての検討. 第 89 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 浜松, 2019.11.7
6. 佐伯美紀, 王 康治, 江上和紗, 越智達哉, 西尾智尋, 小西弘起: E.faecalis による感染性心内膜炎の症例当院 3 年間での検討. 第 89 回日本感染症学会西日本地方会学術集会, 浜松, 2019.11.7

VII. 2.8 小児科

1. 田中由起子, 百々菜月, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治: 神戸市内 3 区における食物アレルギー児童に対する地域連携 2018. 第 277 回日本小児科学会兵庫県地方会, 神戸, 2019.5.11
2. 竹本崇之, 松原康策, 森川悟, 光田好寛, 安島英裕, 田中由起子, 江口純治: 急性発症の出血傾向を呈した 11 か月男児の 1 例. 第 118 回神戸小児臨床研究会, 神戸, 2019.6.5
3. 長濱通子, 田中由起子, 野村正, 神人正寿, 大原國章: Diffuse Capillary Malformation with Overgrowth(DCMO) の 1 例. 第 43 回日本小児皮膚科学会学術大会, さいたま, 2019.7.20
4. 田中由起子, 百々菜月, 光田好寛, 山口陽恵, 後藤たみ, 渡木綾子, 赤沢尚美: 当院における小児アレルギーチーム活動. 第 36 回日本小児臨床アレルギー学会, 和歌山, 2019.7.27
5. 渡木綾子, 赤沢尚美, 百々菜月, 田中由起子: 当院での「夏休みこどもアレルギー講習会」を開催して. 第 36 回日本小児臨床アレルギー学会, 和歌山, 2019.7.27
6. 竹本崇之, 森川悟, 光田好寛, 安島英裕, 田中由起子, 江口純治, 西山将広: 意識障害を主訴に当院搬送となった 11 歳男児の一例. 第 119 回神戸小児臨床研究会, 神戸, 2019.9.11
7. 田中由起子, 百々菜月, 光田好寛, 竹中尚美, 安島英裕, 江口純治: 神戸市内 3 区における食物アレルギー児に対する地域連携 2018. 第 56 回日本小児アレルギー学会, 千葉, 2019.11.2
8. 則武加奈恵: 川崎病の心合併症について. 第 120 回神戸小児臨床研究会, 神戸, 2019.12.4

VII. 2.9 外科

1. 松井優悟, 石田 叡, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 田中英治, 新田隆士, 原田武尚: 急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術において CRP を指標とした開腹移行率の比較. 第 119 回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019.4.18
2. 田中英治, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 新田隆士, 原田武尚: 下部食道癌接合部がんに対する腹臥位胸腔鏡下食道胃管吻合～オーバーラップ法による胸腔内吻合. 第 119 回日本外科学会定期学術集会, 大阪, 2019.4.19
3. 大越祐介, 竹尾正彦: 門脈血栓症が原因で発症した肝性胸水を伴う横隔膜交通症に対して胸腔鏡下手術で根治できた一例. 第 36 回日本呼吸器外科学会総会学術集会, 大阪, 2019.5.17
4. 田中英治, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 新田隆士, 原田武尚: 当院におけるオーバーラップ法による腹臥位胸腔鏡下食道胃管吻合. 第 73 回日本食道学会学術集会, 福岡, 2019.6.6
5. Matsui Y, Tanaka E, Ishida S, Horita K, Yamada M, Mikami R, Murakami T, Kan T, Nitta T, Harada T, Arie S: The effect of C-reactive protein level on open conversion rate in laparoscopic cholecystectomy for acute cholecystitis. 27th European Association for Endoscopic Surgery Congress 2019, Sevilla, 2019.6.14
6. 三瀬昌宏, 多山 葵, 森本久美, 吉田澄子, 勝山栄治, 加藤大典: 乳腺悪性葉状腫瘍の遠隔転移に対してエルブリン, パゾパニブにより長期病勢がコントロールできた 1 例. 第 27 回日本乳癌学会総会, 東京, 2019.7.12
7. 新田隆士, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 三上隆一, 村上哲平, 姜 貴嗣, 原田武尚, 有井滋樹: BR 膵癌に対して術前化学療法と血行改変を組み合わせた治療戦略. 第 50 回日本膵臓学会大会, 東京, 2019.7.13
8. 田中英治, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 山田真規, 三上隆一, 村上哲平, 姜 貴嗣, 新田隆士, 原田武尚: 下部食道がん接合部がんに対する腹臥位胸腔鏡下食道胃管吻合～オーバーラップ法による胸腔内吻合～. 第 74 回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019.7.17

9. 堀田健太, 石田 叡, 松井優悟:閉鎖孔ヘルニア嵌頓症例に対する腹腔鏡下アプローチと開腹法の比較検討. 第 74 回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019.7.17
10. 三上隆一, 多山 葵, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 大越祐介, 村上哲平, 姜 貴嗣, 新田隆士, 三瀬昌宏, 原田武尚, 竹尾正彦, 有井滋樹:腹腔鏡下手術を施行された高齢者胃癌患者の予後リスク因子の検討. 第 81 回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.14
11. 村上哲平, 多山 葵, 石田 叡, 松井優悟, 堀田健太, 三上隆一, 姜 貴嗣, 新田隆士, 三瀬昌宏, 原田武尚:脾彎曲大腸癌に対する腹腔鏡下結腸切除術. 第 81 回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.15
12. 石田 叡, 姜 貴嗣, 多山 葵, 松井優悟, 堀田健太, 三上隆一, 村上哲平, 新田隆士:成人鼠径ヘルニア手術を契機に発見された左交叉性精巣転位を伴う停留精巣に対し, 腹腔鏡下両側鼠径ヘルニア修復術および左精巣切除術を施行した 1 例. 第 81 回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.15
13. 堀田健太, 多山 葵, 石田 叡, 松井優悟, 大越祐介, 三上隆一, 村上哲平, 姜 貴嗣, 新田隆士, 三瀬昌宏, 原田武尚, 竹尾正彦:5mm ポート創閉鎖における真皮埋没縫合とテープ閉鎖の比較検討. 第 81 回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.16
14. 多山 葵, 堀田健太, 石田 叡, 松井優悟, 三上隆一, 村上哲平, 姜 貴嗣, 新田隆士:胃癌穿孔後早期の幽門狭窄に対しカバーステントを留置した一例. 第 81 回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.16
15. 新田隆士, 堀田健太, 三上隆一, 村上哲平, 姜 貴嗣:腹腔鏡下肝外グリソン確保とステーブル肝切除の限界. 第 32 回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019.12.7

VII. 2. 10 整形外科

1. 山根逸郎, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 小林雅典, 本田新太郎:骨粗鬆症性椎体骨折に対する後方手術の治療成績. 第 48 回日本脊椎脊髄病学会学術集会, 横浜, 2019.4.18-20
2. 西口 滋:最近 6 年間の骨粗鬆症の診断治療の進歩. 令和元年長田区医師会学術講演会, 神戸, 2019.6.27
3. 藤原弘之:アキレス腱縫合術後感染の治療成績. 第 42 回日本骨・感染症学会, 横浜, 2019.7.19
4. 田中 敦, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 山根逸郎, 小林雅典:感染性脊椎炎 真菌性脊椎炎の 3 例. 第 133 回中部日本整形外科災害外科学会, 神戸, 2019.9.21-22
5. 小林雅典, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 山根逸郎:TWINS を用いた大腿骨頸部骨折の治療成績. 第 133 回中部日本整形外科災害外科学会, 神戸, 2019.9.21-22
6. 藤原弘之:環軸椎回旋位固定に対して漢方薬処方が有用であった 2 例. 日本東洋医学会兵庫県部会, 神戸, 2019.9.29
7. 西口 滋, 田中 敦, 小林雅典, 山根逸郎, 藤原弘之, 布施謙三:仙骨脆弱性骨折の診断は難しい. 第 21 回日本骨粗鬆症学会, 神戸, 2019.10.11-13
8. 藤原弘之:整形外科疾患と東洋医学的アプローチ. 第 51 回淡路漢方勉強会, 淡路, 2019.11.14
9. 山根逸郎, 西口 滋, 布施謙三, 藤原弘之, 小林雅典, 田中 敦:腰椎後方椎体間固定術での cage による合併症の検討. 第 28 回日本脊椎インストゥルメンテーション学会, つくば, 2019.11.15-16

VII. 2. 11 脳神経外科

1. 福光 龍, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 春原 匡, 大村佳大, 福井伸行, 佐々木夏一, 福田竜丸, 秋山智明, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 坂井信幸:造影剤を使用しない頸動脈ステント留置術 (non-contrast CAS) の治療成績. 日本脳神経外科学会学術総会, 大阪, 2019.10.9
2. 福井伸行, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 大村佳大, 佐々木夏一, 秋山智明, 福田竜丸, 坂井 信幸:担癌患者の急性期血行再建について地域脳卒中・がん診療拠点施設における検討. 日本脳神経外科学会学術総会, 大阪, 2019.10.9
3. 秋山智明, 谷 正一, 足立秀光, 今村博敏, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 佐々木夏一, 福田竜丸, 梶浦晋司, 重安将志, 堀井 亮, 朝倉健登, 坂井信幸:急性期頸動脈ステント留置術に関する有効性と安全性の検討. 日本脳神経外科学会学術総会, 大阪, 2019.10.9
4. 重安将志, 佐々木夏一, 今村博敏, 谷 正一, 足立秀光, 福光 龍, 春原 匡, 福井伸行, 大村佳大, 秋山智明, 福田竜丸, 梶浦晋司, 朝倉健登, 堀井 亮, 坂井信幸:血管内治療を施行した後大脳動脈瘤 20 例の成績と手法. 日本脳神経外科学会総会, 大阪, 2019.10.11

5. 大村佳大、今村博敏、谷 正一、坂井千秋、足立秀光、福光 龍、春原 匡、福井伸行、佐々木夏一、福田竜丸、秋山智明、梶浦晋司、重安将志、朝倉健登、堀井 亮、坂井信幸：ステント単独で治療した出血性解離性動脈瘤の3例。日本脳神経外科学術総会、大阪、2019.10.12
6. 坂井信幸、今村博敏、足立秀光、谷 正一、坂井千秋、河原崎 知、福光 龍、春原 匡、松本 調、福井伸行、大村佳大、秋山智明、福田竜丸、梶浦晋司、重安将志、朝倉健登、堀井 亮、尾原信行、藤原 悟、村上泰隆：急性期脳梗塞における血管内治療と再開通療法。日本栓子検出と治療学会、岩手、2019.10.18
7. 足立秀光、坂井信幸、谷 正一、今村博敏、河原崎 知、福光 龍、春原 匡、松本 調福光 龍、福井伸行、大村佳大、秋山智明、福田竜丸、梶浦晋司、重安将志、朝倉健登、堀井 亮、坂井千秋、菅生教史、清水寛平：母血管閉塞術単独で治療した未破裂大型内頸動脈瘤の長期成績。日本脳神経血管内治療学会学術総会、福岡、2019.11.21
8. Tadashi Sunohara, Hirotohi Imamura, Shoichi Tani, Hidemitsu Adachi, Ryu Fukumitsu, Nobuyuki Fukui, Yoshihiro Ohmura, Yusuke Funakoshi, Natsuhi Sasaki, Tomoaki Akiyama, Tatsumaru Fukuda, Shinji Kajiuura, Masashi Shigeyasu, Nobuyuki Sakai : Occlusion and complication rates with flow diverter treatment depend on aneurysm morphology. WFITN2019, Naples, Italy, 2019.10.22
9. Sakai N, Minematsu K, hasegawa Y, Hyodo A, Iihara K, Ogasawara K, Imamura H, Ohara N, Kono T, Adachi H, Sakai C : Japanese prospective study of endovascular therapy for ICAD. ICAS2019, Los Angeles, 2019.11.04
10. 重安将志、佐々木夏一、福光 龍、谷 正一、足立秀光、今村博敏、春原 匡、福井伸行、大村佳大、秋山智明、福田竜丸、梶浦晋司、朝倉健登、堀井 亮、坂井信幸：巨細胞性動脈炎により頭蓋内多発血管狭窄をきたしPTAを施行した1例。日本脳神経血管内治療学会学術総会、福岡、2019.11.22
11. 福井伸行、今村博敏、谷 正一、足立秀光、福光 龍、春原 匡、大村佳大、佐々木夏一、秋山智明、福田竜丸、坂井 信幸：担癌患者に対する急性期血栓回収療法について。日本脳神経血管内治療学会学術総会、福岡、2019.11.22
12. 福光 龍、今村博敏、谷 正一、足立秀光、春原 匡、大村佳大、福井伸行、佐々木夏一、福田竜丸、秋山智明、梶浦晋司、重安将志、堀井 亮、朝倉健登、坂井 信幸：造影剤を使用しない頸動脈ステント留置術（non-contrast CAS）の治療成績。日本脳神経血管内治療学術総会、福岡、2019.11.23
13. 谷 正一、佐々木一朗、大村佳大、重安将志、松下隆史、足立秀光、今村博敏、福光 龍、春原 匡、福井伸行、佐々木夏一、秋山智明、福田竜丸、梶浦晋司、堀井 亮、朝倉健登、坂井千秋、坂井信幸：側脳室周囲の静脈性鬱血により段階的に多部位の術中MEPが低下したcentral neurocytomaの1例。日本臨床神経生理学会学術大会、福島、2019.11.29

VII. 2. 12 皮膚科

1. 山田はるひ、有吉綾香、小倉香奈子：第13因子製剤に効果を示したIgA血管炎の1例。第476回日本皮膚科学会大阪地方会、大阪、2019.12.7
2. 有吉綾香、山田はるひ、小倉香奈子：イヌアレルギーの関与が疑われたアトピー性皮膚炎の2例。第477回日本皮膚科学会大阪地方会、大阪、2020.2.1

VII. 2. 13 泌尿器科

1. 平田淳一郎、藤本卓也、小泉文人、中村一郎：神戸市立医療センター西市民病院における膀胱全摘術の臨床的検討。第107回日本泌尿器科学会総会、名古屋、2019.4.19
2. 平田淳一郎、小泉文人、八尾昭久、中村一郎：proliferative funiculitisの1例。第242回日本泌尿器科学会関西地方会、大阪、2019.10.19
3. 平田淳一郎、藤本卓也、小泉文人、中村一郎：神戸市立医療センター西市民病院における膀胱全摘術の臨床的検討。第57回日本癌治療学会学術集会、福岡、2019.10.24
4. 高瀬雄太、小泉文人、八尾昭久、中村一郎：腹腔鏡下小切開前立腺全摘術後に発生した膀胱直腸瘻に対し種々の治療を行い治癒し得た1例。第69回日本泌尿器科学会中部総会、大阪、2019.10.31

VII. 2. 14 病理診断科

1. 中 彩乃、吉田澄子、下田智晴、宮川祥治、山下展弘、勝山栄治：良性多嚢胞性腹膜中皮腫の1例。第58回日本臨床細胞学会秋期大会、岡山、2019.11.17

Ⅶ. 2. 15 麻酔科

1. 榎泰二郎, 岡崎 俊, 松宮 桂, 中西亜也, 蛭名仁美, 三好健太郎: 麻酔を「かける」という言い回しの由来. 第 66 回日本麻酔科学会学術集会, 神戸, 2019.5.30

Ⅶ. 2. 16 歯科口腔外科

1. 遠藤嵩大, 河合峰雄, 西田哲也, 小原祥子, 道満朝美, 杉村智行: 障害者歯科センターの後送施設としての病院歯科の役割. 第 47 回日本歯科麻酔学会総会・学術大会, 岡山, 2019.10.25
2. 河合峰雄: 歯および口腔の病気とケア. 西市民病院市民公開講座, 神戸, 2019.11.28
3. 河合峰雄: シンポジウム - 病院歯科の新機軸 -, 地域の中核病院歯科口腔外科に求められること. 第 29 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 神戸, 2020.2.29
4. 小原祥子, 西田哲也, 遠藤嵩大, 河合峰雄: 保存的外科治療により良好な治療経過を得たビスフォスフォネート関連顎骨壊死の 1 例. 第 29 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 神戸, 2020.2.29
5. 遠藤嵩大, 西田哲也, 小原祥子, 河合峰雄: 化学療法中の口腔粘膜炎と歯周疾患の関連性の検討. 第 29 回日本有病者歯科医療学会総会・学術大会, 神戸, 2020.3.1

Ⅶ. 2. 17 看護部

1. 川崎優子, 牧野佐知子, 藤原佳美, 東谷朗子, 唐澤咲子, 石村 愛, 大路貴子, 杉江礼子, 西谷葉子, 奥出有香子, 堀口美穂: 「がん患者の療養上の意思決定プロセスを支援する共有型看護相談モデルを基盤とした意思決定支援システム」の開発. 第 24 回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2019.6.21
2. 川口麻衣, 山尾美希, 畑中あかね, 池田清子: 神経障害とともに生きる糖尿病患者の体験世界. 第 24 回日本糖尿病教育・看護学会学術集会, 千葉, 2019.9.21
3. 比屋根朋代, 衣笠のぞみ, 大重早紀, 坂本みなみ, 多田亜希子, 荒木敬雄, 大桑由美, 青野智子: A 救急病棟へ配置転換となった看護師が働き続けられる理由. 第 5 回神戸看護学会, 神戸, 2019.10.26
4. 須田千春, 小幡 楓, 崎山理香子, 西佳奈子, 新田和子, 大谷かおり, 泉谷裕子: A 病棟の術前臍処置における技術. 第 5 回神戸看護学会, 神戸, 2019.10.26
5. 吉本早由利: 実践で使える CPR トレーニングを目指して—より効果的なシミュレーション教育のために工夫したこと—. 第 5 回神戸看護学会, 神戸, 2019.10.26
6. 大納英美: 急性期病院から退院した患者の緊急の再入院の要因. 第 50 回日本看護学会慢性期看護学術集会, 鹿児島, 2019.11.14
7. 新田和子, 岩路かをり, 井上慎一, 杉原陽子: リエゾンチームを続ける難しさを感じた体験 —お金にならないチームの存在価値は何だろう—. 第 32 回日本総合病院精神医学学会総会, 岡山, 2019.11.15

Ⅶ. 2. 18 薬剤部

1. 吉川里香, 川島佳恵, 石本学司, 奥野昌宏, 田中詳二: おくすり確認外来での周術期の薬学的管理における薬剤師の役割. 第 29 回日本医療薬学会年会, 博多, 2019.11.2-4
2. 工藤千佳, 福嶋浩一, 野村洋道, 奥野昌宏, 田中詳二, 吉田雄三: アベマシクリブ (ページニオ錠®) 服用患者における薬剤師外来での薬剤師の役割. 第 29 回日本医療薬学会年会, 博多, 2019.11.2-4
3. 平野美優, 巽 弥生, 奥野昌宏, 田中詳二: 病棟薬剤師主導によるクリニカルパスの術後感染予防抗菌薬の適正化. 第 29 回日本医療薬学会年会, 博多, 2019.11.2-4
4. 川島佳恵, 吉川里香, 石本学司, 奥野昌宏, 田中詳二: 「おくすり確認外来」における一包化調剤された周術期中止対象薬管理への薬剤師の介入と役割. 第 29 回日本医療薬学会年会, 博多, 2019.11.2-4
5. 光武瑞穂, 金子正博, 福嶋浩一, 巽 弥生, 田村昌三, 尾鼻俊弥, 岡本知子, 廣石絢子, 太田好美, 船曳晃代, 穂積かおり, 後藤昭一, 河合峰雄, 西田哲也, 菅生教文, 田中詳二: 嚥下機能低下患者における薬剤の薬効分類別使用状況. 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2020.2.8
6. 平野美優, 巽 弥生, 奥野昌宏, 田中詳二: 病棟薬剤師主導によるクリニカルパスの術後感染予防抗菌薬の適正化. 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2020.2.8
7. 吉川里香, 川島佳恵, 石本学司, 奥野昌宏, 田中詳二: おくすり確認外来での周術期の薬学的管理における薬剤師の役割. 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2020.2.8

8. 川島佳恵, 吉川里香, 石本学司, 奥野昌宏, 田中詳二:「おくすり確認外来」における一包化調剤された周術期中止対象薬管理への薬剤師の介入と役割. 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2020.2.8
9. 福嶋浩一, 工藤千佳, 野村洋道, 奥野昌宏, 田中詳二, 吉田雄三: アベマシクリブ (ベージェニオ錠) 服用患者における薬剤師外来での薬剤師の役割. 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2020.2.8
10. 奥野昌宏, 田中詳二: 実務実習生の「一週間振り返り」における指導薬剤師の役割～全人的医療の教育とアンケート結果を通して～. 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
11. 記虎昇史, 奥野昌宏, 田中詳二: ナルデメジントシル酸塩錠 (スインプロイク錠) のオピオイド誘発性便秘症 (OIC) に対する効果が不十分になる要因の検討. 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
12. 川島佳恵, 石本学司, 奥野昌宏, 田中詳二: お薬確認外来で「入院日に周術期に対して中止対象薬は服用なし」と判断したが実際には服用していた 2 症例の検討. 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
13. 光武瑞穂, 金子正博, 福嶋浩一, 巽 弥生, 田村昌三, 尾鼻俊弥, 岡本知子, 廣石絢子, 太田好美, 後藤昭一, 河合峰雄, 西田哲也, 菅生教文, 田中詳二, 原田武尚: 摂食嚥下機能障害における薬剤の影響に関する検討. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27-28
14. 川島佳恵, 奥野昌宏, 石本学司, 田中詳二: 「おくすり確認外来」における一包化調剤された周術期中止対象薬管理への薬剤師の介入と役割. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 東京, 2020.3.14
15. 記虎昇史, 奥野昌宏, 田中詳二: ナルデメジントシル酸塩錠 (スインプロイク錠) のオピオイド誘発性便秘症 (OIC) に対する効果が不十分になる要因の検討. 第 9 回日本薬剤師レジデントフォーラム, 東京, 2020.3.14
16. 川島佳恵, 奥野昌宏, 石本学司, 田中詳二: 「おくすり確認外来」における一包化調剤された周術期中止対象薬管理への薬剤師の介入と役割. 神戸市民病院薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2020.3.14
17. 記虎昇史, 奥野昌宏, 田中詳二: ナルデメジントシル酸塩錠 (スインプロイク錠®) のオピオイド誘発性便秘症 (OIC) に対する効果が不十分になる要因の検討. 神戸市民病院薬剤師レジデントフォーラム, 神戸, 2020.3.14
18. 吉川里香, 福嶋浩一, 田村昌三, 奥野昌宏, 三瀬昌宏, 田中詳二: アベマシクリブ開始後に腎機能低下をきたした 1 症例, 日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2020, 博多, 2020.3.21-22

VII. 2. 19 臨床検査技術部

1. 江上和紗: Mycoplasma hominis による膿胸合併菌血症の一例. 第 68 回日本医学検査学会, 下関, 2019.5.19
2. 中 彩乃: ワークショップ・子宮体部 私の細胞診断アプローチ法. 第 45 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会, 和歌山, 2019.9.8
3. 佐田國真生, 松之舎教子, 宮川祥治, 大政麻衣, 高田真理子, 山下幸政, 中村一郎, 奥野晃章, 寺川智章: 超音波所見上内分泌腫瘍を疑った腎細胞癌転移による多発脾腫瘍の一例. 日本超音波医学会第 46 回関西地方会学術集会, 大阪, 2019.10.26
4. 青野真帆, 高田真理子, 大政麻衣, 北川宏樹, 小畑美佐子, 竹尾雅彦, 松之舎教子, 勝山栄治, 奥野晃章, 小西弘起: 超音波検査が診断に有用であった左肋骨軟骨肉腫の一例. 日本超音波医学会第 46 回関西地方会学術集会, 大阪, 2019.10.26
5. 足立安奈, 松之舎教子, 小畑美佐子, 宮川祥治, 五島恵里, 大政麻衣, 北川宏樹, 佐田國真生: 腹痛の原因検索としての腹部超音波検査の有用性についての検討. 第 59 回日臨技近畿支部医学検査学会, 滋賀, 2019.10.27
6. 中 彩乃, 吉田澄子, 下田智晴, 岡村俊佑, 宮川祥治, 山下展弘, 勝山栄治: 良性多嚢胞性腹膜中皮腫の 1 例. 第 58 回日本臨床細胞学会秋期大会, 岡山, 2019.11.17
7. 中 彩乃, 吉田澄子, 下田智晴, 岡村俊佑, 宮川祥治, 山下展弘, 勝山栄治: 良性多嚢胞性腹膜中皮腫の 1 例. 第 4 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2020.2.8

VII. 2. 20 放射線技術部

1. 今井雄一, 原 章剛, 耕田隆志, 中村 大, 酒井慎治: 当院の放射線技術部における医療安全への取り組み. 第 14 回マネジメント学会兵庫支部学術集会, 神戸, 2020.2.16
2. 酒井慎治: 人材育成から人的資源管理へ. 日本マネジメント学会第 14 回兵庫支部学術集会, 神戸, 2020.2.16

3. 伊田雄貴, 稲垣 諒, 藤本孝弘, 酒井慎治: 災害対応病院における防災意識向上の取り組み. 日本マネジメント学会第 14 回兵庫支部学術集会, 神戸, 2020.2.16
4. 伊田雄貴, 稲垣 諒, 藤本孝弘, 酒井慎治, 東 雅章: Effor to improveStaff's awareness to disaster protection through the disaster response drills. 第 75 回日本放射線技術学会総会学術大会, 横浜, 2019.4.12

VII. 2. 21 栄養管理室

1. 赤沢尚美: ワンタイム糖尿病病診連携の栄養相談. 糖尿病における医療連携を考える in KOBE, 神戸, 2019.9.12
2. 赤沢尚美: 知っとく! なっとく! カーボカウント～食事を楽しもう～. 第 23 回 DMF KOBE, 神戸, 2019.10.26
3. 赤沢尚美: スキンケアの実際. 第 17 回兵庫小児アレルギーケア講習会, 加古川, 2019.11.10
4. 赤沢尚美: 食物アレルギーの栄養指導. 令和元年度アレルギー疾患医療従事者等研修会, 神戸, 2020.1.19
5. 赤沢尚美, 中村武寛: ケーススタディ〈高齢糖尿病〉. 日本病態栄養学会 2019 年度教育セミナー, 京都, 2020.1.23
6. 尾鼻俊弥, 赤沢尚美, 巽 弥生, 金子正博: ICU における早期経腸栄養プロトコール導入結果 - 導入前後での臨床的検討 -. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会, 京都, 2020.2.28

Ⅶ. 3 西神戸医療センター

Ⅶ. 3.1 脳神経内科

1. 高原佳央里, 田中康博, 赤堀元樹, 石尾ゆきこ, 柳原千枝, 高野 真: 低 Na 血症で発症し、神経サルコイドーシスも疑われた中枢性悪性リンパ腫の一例. 第 114 回日本神経学会近畿地方会, 大阪, 2019.7.27
2. 赤堀元樹, 高原佳央里, 石尾ゆきこ, 柳原千枝, 曾根 淳, 高野 真: 突然の意識障害、左片麻痺で発症した成人型膵内封入体病の一例. 第 115 回日本神経学会近畿地方会, 大阪, 2019.12.7

Ⅶ. 3.2 内分泌・糖尿病内科

1. 野口 祐: プロタミン含有インスリン治療中、心臓カテーテル検査にてプロタミンショックを来した糖尿病患者の 1 例. 第 10 回西神戸内分泌・糖尿病オープンカンファレンス, 神戸, 2019.7.11
2. 横井祐樹: 当院における糖尿病患者への取り組みと課題～理学療法士の立場から～. 糖尿病チーム医療を考える会 in 西神戸, 神戸, 2019.9.5
3. 尾下真実: SGLT-2 阻害薬で DKA を生じた 2 型糖尿病の 1 例. Diabetes Seminar in HANSIN, 尼崎, 2019.10.25
4. 橘 奎悟, 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻 和雄: SGLT-2 阻害薬で DKA を生じた 2 型糖尿病の 1 例. 第 56 回糖尿病学会近畿地方会, 大阪, 2019.11.9
5. 野口 祐, 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻 和雄: プロタミン含有インスリン使用患者が心臓カテーテル検査でプロタミンショックを来した 1 例. 第 56 回糖尿病学会近畿地方会, 大阪, 2019.11.9
6. 飯尾享平, 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻 和雄: 偶発腫にて発見された副腎外原発パラガングリオーマの 1 例. 第 28 回臨床内分泌代謝 Update, 高知, 2019.11.29
7. 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻 和雄: ニボルマブで複数の i r A E を合併した副腎皮質機能低下症の 1 例. 第 29 回臨床内分泌代謝 Update, 高知, 2019.11.29
8. 内山 葵, 野口祐, 佐藤雄一, 藤原秀哉, 辻 和雄: プロタミン含有インスリン使用患者が心臓カテーテル検査でプロタミンショックを来した 1 例. 第 14 回糖尿病臨床フォーラム, 大阪, 2020.2.15

Ⅶ. 3.3 腎臓内科

1. 中田庸介, 中井雅史, 鳥越和雄: 血液透析及び血漿交換を要した抗基底膜抗体糸球体腎炎の 2 例. 第 64 回日本腎臓学会総会, 横浜, 2019.6.28
2. 中井雅史, 中田庸介, 大山敦嗣, 鳥越和雄: 大腸憩室にのみ炭酸ランタンが集積した一例. 第 64 回日本腎臓学会総会, 横浜, 2019.6.28
3. 野口 祐, 中田庸介, 中井雅史, 鳥越和雄: 疥癬の加療中に発症した感染関連腎炎の 1 例. 第 225 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.9.21
4. 鳥越和雄, 中田庸介, 中井雅史: 骨髄増殖性疾患関連腎疾患が疑われた 1 例. 第 49 回日本腎臓学会西部学術大会, 高知, 2019.10.18
5. 中田庸介, 中井雅史, 鳥越和雄: 疥癬を契機に急性腎不全を発症し血液透析を必要とした感染関連腎炎の 1 例. 第 49 回日本腎臓学会西部学術大会, 高知, 2019.10.19

Ⅶ. 3.4 免疫血液内科

1. 浅井真梨, 田中康博, 橋本朗子, 新里偉咲: 黄疸で発症した肝脾 T 細胞性リンパ腫の 1 例. 第 224 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.6.1
2. 橘 奎伍, 田中康博, 橋本朗子, 新里偉咲: 血栓性血小板減少性紫斑病発症後に多発性筋炎と全身性エリテマトーデスの overlap 症候群を発症した 1 例. 第 225 回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.9.21
3. 田中康博, 橋本朗子, 新里偉咲: 悪性リンパ腫を合併した本態性血小板血症. 第 81 回日本血液学会総会, 東京, 2019.10.13
4. 田中康博, 池町真美: 血液疾患に合併した Capnocytophaga 敗血症の 4 例. 第 89 回日本感染症学会西日本地方会, 浜松, 2019.11.8

Ⅶ. 3.5 循環器内科

1. 小林拓哉, 木下美菜子, 大末剛史, 山根啓一郎, 中川雅之, 江尻純哉, 永澤浩志: 頸部痛を契機に診断されたスキルス胃癌: 左内頸静脈及び鎖骨下静脈血栓症の1例. 第225回日本内科学会近畿地方会, 大阪, 2019.9.21

Ⅶ. 3.6 消化器内科

1. 井谷智尚, 原 和也, 鷲尾麻紀子, 島村康弘, 有岡靖隆: PTEGからの経腸栄養症例についての検討. 第25回関西PEG・栄養とリハビリ研究会, 大阪, 2019.6.8
2. 井谷智尚, 原 和也, 鷲尾麻紀子, 島村康弘, 有岡靖隆: PTEGからの経腸栄養症例についての検討. 第25回関西PEG・栄養とリハビリ研究会, 大阪, 2019.6.8
3. 伊藤 凌, 丹家元祥, 池田結香, 太田匠悟, 原 和也, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: S3-16 遠位胆管狭窄を伴う膵頭部癌との鑑別に苦慮した胆管神経腫の一例. 第42回京大消化器内科関連病院症例検討会, 京都, 2019.7.27
4. 原 和也, 池田結香, 伊藤 凌, 太田匠悟, 丹家元祥, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 島村康弘: PTEG ボタンから半固形化栄養剤の注入は可能か? -粘度とシリンジ抵抗力の検討-. 第18回日本PTEG研究会学術集会, 大阪, 2019.9.8
5. 井谷智尚: 当番世話人. 第18回日本PTEG研究会学術集会, 大阪, 2019.9.8
6. 小林拓哉, 丹家元祥, 伊藤 凌, 太田匠悟, 原 和也, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: F4-3 神経内分泌腫瘍 (P-NET) との鑑別に苦慮した膵尾部漿液性嚢胞性腫瘍 (SCN) の一例. 日本消化器病学会近畿支部第111回例会, 大阪, 2019.10.5
7. 山本健太, 丹家元祥, 伊藤 凌, 太田匠悟, 原 和也, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: F5-4 遠位胆管狭窄を伴う膵頭部癌との鑑別に苦慮した胆管神経腫の一例. 日本消化器病学会近畿支部第111回例会, 大阪, 2019.10.5
8. 井谷智尚: 大腸がんを早く見つけて切らずに治すー大腸内視鏡検査と内視鏡治療についてー. 第22回がん市民フォーラム, 神戸, 2019.11.2
9. 丹家元祥, 太田匠悟, 猪股典子, 原 和也, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 消 P-239 当院における切除不能進行膵癌に対する GEM + nab-PTX 併用療法と FOLFIRINOX 療法の検討. 第27回日本消化器関連学会週間, 神戸, 2019.11.21-24
10. 太田匠悟, 猪股典子, 原 和也, 丹家元祥, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚, 桑田陽一郎: 消 P-282 当院における大腸憩室出血に対する治療法の検討. 第27回日本消化器関連学会週間, 神戸, 2019.11.21-24
11. 原 和也, 太田匠悟, 猪股典子, 丹家元祥, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: 消 P-214 当院における直腸神経内分泌腫瘍に対する内視鏡治療の有用性の検討. 第27回日本消化器関連学会週間, 神戸, 2019.11.21-24
12. 島田友香里, 伊藤 凌, 太田匠悟, 原 和也, 丹家元祥, 高田 裕, 安達神奈, 林 幹人, 井谷智尚: クローン病関連直腸肛門管癌の一例. CDフォーラム~明石, 垂水, 須磨, 西区~, 神戸, 2019.11.30
13. 尾下真実, 島田友香里, 伊藤 凌, 太田匠悟, 原 和也, 丹家元祥, 高田 裕, 安達神奈, 林 幹人, 井谷智尚, 桑田陽一郎: YS3-3 早期胃癌 ESD 後に仮性動脈瘤を形成した一例. 第103回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18
14. 内山 葵, 原 和也, 伊藤 凌, 太田匠悟, 丹家元祥, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: YS8-5 漿液性嚢胞性腫瘍 (SCN) との鑑別に苦慮した粘液産生膵腫瘍 (MCN) の一例. 第103回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18
15. 伊藤 凌, 丹家元祥, 太田匠悟, 原 和也, 高田 裕, 安達神奈, 島田友香里, 林 幹人, 井谷智尚: YS8-6 閉塞性黄疸をきたし切除した膵漿液性嚢胞腺腫の一例. 第103回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18
16. 安達神奈: Young Endoscopist Session 6 消化管6 座長 第103回日本消化器内視鏡学会近畿支部例会, 大阪, 2020.1.18

17. 原 和也、池田結香、伊藤 凌、太田匠悟、丹家元祥、高田 裕、安達神奈、島田友香里、林 幹人、井谷智尚、島村康弘：O-55-1 PTEG ボタンから半固形化栄養剤の注入は可能か？－粘度とシリンジ抵抗力の検討－. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会、京都、2020.2.27-28
18. 井谷智尚：一般演題（ポスター）消化器疾患 1. 第 35 回日本臨床栄養代謝学会学術集会、京都、2020.2.27-28

Ⅶ. 3.7 呼吸器内科

1. 木田陽子, 桜井稔泰, 多田公英, 山下修司, 富岡洋海, 池田顕彦：免疫チェックポイント阻害薬（ICI）による重篤な皮膚障害. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.14
2. 三輪菜々子, 永野達也, 田村大介, 同國良太, 梅澤佳乃子, 桂田直子, 中田恭介, 山本正嗣, 立原素子, 上領 博, 小林和幸, 西村義博：アダパレンのヒト表皮細胞における炎症性サイトカイン産生調節と細胞増殖促進によるエルロチニブ誘発皮膚障害の抑制効果. 第 59 回日本呼吸器学会学術講演会, 東京, 2019.4.12-4.14
3. 多田公英：外国生まれ結核患者への対応－医療提供の立場から（シンポジウム 増加する外国生まれ結核患者への対応）. 第 94 回日本結核病学会総会, 大分, 2019.6.7
4. 益田隆広, 池田顕彦, 多田公英, 桜井稔泰, 瀧瀬力也, 木田陽子, 佐藤宏紀, 乾 佑輔：Curvularia 属によると考えられたアレルギー性気管支肺真菌症の 1 例. 第 93 回日本呼吸器学会近畿地方会, 京都, 2019.7.6
5. 木田陽子：免疫チェックポイント阻害薬と注意すべき皮膚障害. 第 4 回神戸がん免疫病院連携研究会, 神戸, 2019.7.25
6. Kida Y, Inui Y, Koketsu R, Sakurai T, Tada K, Ikeda A: Clinical outcome of Pembrolizumab monotherapy in patients with advanced non-small cell lung cancer -Reports from routine clinical care. ERS International Congress 2019, Madrid Spain, 2019.9.28-10.2
7. 益田隆広, 池田顕彦, 多田公英, 桜井稔泰, 瀧瀬力也, 木田陽子, 乾 佑輔：進行肺腺癌にてペムブロリズマブ投与中に気管支喘息を発症し、免疫関連有害事象が疑われた 1 例. 第 94 回日本呼吸器学会近畿地方会, 大阪, 2019.11.23
8. 乾 佑輔, 松岡 佑, 藤本昌大, 木田陽子, 瀧瀬力也, 桜井稔泰, 多田公英, 池田顕彦：頸部リンパ節結核による食道皮膚瘻をきたした粟粒結核の 1 例. 第 94 回日本呼吸器学会近畿地方会・第 124 回日本結核病学会近畿地方会, 大阪, 2019.11.23

Ⅶ. 3.8 緩和ケア内科

1. 安藤俊弘, 中村真理, 御園和美, 多田公英：当院緩和ケア内科外来におけるがん患者の当日予約による受診内容の検討. 第 24 回日本緩和医療学会学術集会, 横浜, 2019.6.21-22
2. 正井志穂, 安藤俊弘：疼痛マネジメントが困難であったメサドン塩酸塩によるオピオイド過量の一症例. 第 24 回日本緩和医療学会学術集会, 横浜, 2019.6.21-22
3. 安藤俊弘：メサドン塩酸塩の過量与薬の一症例. 第 53 回日本ペインクリニック学会学術集会, 熊本, 2019.7.18-20
4. Ando T, Masai S, Murakami T, Yamazaki A, Nakamura M, Misono K：Two cases of opioid overdose due to methadone hydrochloride. 57th annual meeting of Japan society of clinical oncology, Fukuoka, 2019.10.24-26

Ⅶ. 3.9 精神・神経科

1. 栗添恵理：糖尿病患者への心理的援助. 第 38 回日本心理臨床学会, 東京, 2019.6.6
2. 高宮静男：学校との協力体制で取り組む摂食障害. 第 60 回日本児童青年精神医学会シンポジウム, 沖縄, 2019.12.5

Ⅶ. 3.10 小児科

1. 松原康策：パネルディスカッション「今、考えたい日本におけるレンサ球菌感染症の現状と課題」. B 群レンサ球菌感染症の疫学とワクチン開発状況. 第 93 回日本感染症学会学術講演会, 名古屋, 2019.4.4-6
2. 山田早紀, 竹本崇之, 金 伽耶, 内藤昭嘉, 川崎 悠, 磯目賢一, 堀 雅之, 岩田あや, 仁紙宏之, 松原康策：神戸市地域中核病院における肺炎球菌ワクチン導入による侵襲性肺炎球菌感染症の変化. 第 122 回小児科学会総会, 金沢, 2019.4.19-21

3. 松原康策：赤ちゃんの髄膜炎～B群レンサ球菌（GBS）って何？～．世界髄膜炎デー呼応イベント，大阪，2019.4.28
4. 合田由香利，山口善道，山田早紀，竹本崇之，金 伽耶，内藤昭嘉，川崎 悠，磯目賢一，堀 雅之，岩田あや，尾藤祐子，大片祐一，會田洋輔，松原康策：突然発症する腹痛と嘔吐の反復歴を有し、術前診断して待機的に手術を行った左傍十二指腸ヘルニアの1例．第277回日本小児科学会兵庫県地方会，神戸，2019.5.11
5. 金 伽耶，合田由香利，竹本崇之，山田早紀，内藤昭嘉，川崎 悠，磯目賢一，堀 雅之，岩田あや，山口善道，松原康策：汎血球減少を伴い非血小板減少性点状出血斑を呈したパルボウイルス B19 感染症の兄妹例．第277回日本小児科学会兵庫県地方会，神戸，2019.5.11
6. 磯目賢一，宇治田風紗，山田早紀，金 伽耶，内藤昭嘉，川崎 悠，堀 雅之，山口善道，松原康策：神戸西地域における小児 AMR（薬剤耐性）と抗菌薬使用の重要性について．神戸市小児科医会学術集会，神戸，2019.5.25
7. 松原康策，山口善道，岩田あや，堀 雅之，磯目賢一，川崎 悠，内藤昭嘉，金 伽耶，宇治田風紗：ITP 合併妊婦からの出生時の血小板推移：nadir と分娩様式との関連．第12回京都大学 NICU 懇話会，京都，2019.6.22
8. 堀 雅之，宇治田風紗，山田早紀，金 伽耶，内藤昭嘉，川崎 悠，磯目賢一，岩田あや，山口善道，松原康策：抗痙攣薬による薬剤過敏性症候群を合併した、HHV6 関連痙攣重積型急性脳症．第1回京都小児臨床懇話会，京都，2019.8.31
9. 栗坂知里，宮坂美帆，木下美帆，堀 雅之，松原康策，中村亮介，秋山晴代：花粉 - 食物アレルギー症候群における EXiLE 法を用いた交差反応性評価．第63回日本薬学会関東支部大会，東京，2019.9.14
10. 岩田あや，宇治田風紗，山田早紀，金 伽耶，内藤昭嘉，川崎 悠，磯目賢一，堀 雅之，山口善道，松原康策：複合ビタミン内服による痙攣重積型脳症への進展抑制効果の検討：第278回日本小児科学会兵庫県地方会，姫路，2019.9.26
11. 山田早紀，堀 雅之，金 伽耶，内藤昭嘉，川崎 悠，磯目賢一，岩田あや，正木太朗，千貫祐子，松原康策：小児期早期発症の pork-cat syndrome の一例．第56回日本小児アレルギー学会学術大会，幕張，2019.11.2-3
12. 松原康策，内藤昭嘉，田村彰広，二野菜々子，山本暢之，長谷川大一郎，小阪嘉之，重松陽介：Vit B12 欠乏性貧血を呈した、回腸切除既往のある母体から出生した完全母乳の乳児例：第61回小児血液・がん学会，広島，2019.11.14-16
13. 宇治田風紗，堀 雅之，金 伽耶，内藤昭嘉，川崎 悠，磯目賢一，岩田あや，山口善道，松原康策：牛乳アレルギー患者における経口負荷試験の安全な実施と予後予測因子の検討．第71回兵庫小児アレルギー・呼吸器懇話会，神戸，2019.11.21
14. 磯目賢一：当院で発生した給水系統を起因としたレジオネラ感染事例と対策．第1回 Hospital Water Hygiene 研究会学術集会，東京，2019.11.23
15. 池谷紀衣子，宇治田風紗，山田早紀，金 伽耶，内藤昭嘉，川崎 悠，磯目賢一，堀 雅之，岩田あや，山口善道，松原康策：早期に卵白摂取が可能になった、卵黄による food protein-induced enterocolitis syndrome (FPIES) の6例．第279回日本小児科学会兵庫県地方会，西宮，2020.2.1
16. 磯目賢一，中島佳代，池町真実，山崎貴之，中浴伸二，宮川一也，永澤浩志：レジオネラ菌院内感染で判明した給湯系の汚染とその後の対応．第35回日本環境感染学会，横浜，2020.2.14-15
17. 磯目賢一，宇治田風紗，金 伽耶，内藤昭嘉，川崎 悠，堀 雅之，山口善道，松原康策：ESBL 産生菌尿路感染症での抗菌薬選択と治療反応性の検討．第33回近畿小児科学会，大阪，2020.3.15

VII. 3. 11 外科・消化器外科

1. 飯田 拓：肝臓のビデオ．ステープラーを語ろう Vol.8，神戸，2019.2.15
2. 飯田 拓：当院での肝・胆・膵外科手術の現状：腹腔鏡下手術の積極的導入について．第7回 西区外科懇話会，神戸，2019.2.16
3. 岩崎純治，飯田 拓，原田樹幸，森 彩，高橋有和，長田圭司，松浦正徒，塩田哲也，伊丹 淳，京極高久：肝両葉に発生した巨大肝腫瘍の一例．第47回近畿肝臓外科研究会，大阪，2019.2.16
4. 松浦正徒，原田樹幸，森 彩，長田圭司，高橋有和，塩田哲也，岩崎純治，飯田 拓，伊丹 淳，京極高久：腹腔鏡下胃切除手術における術後膵液漏の発生予測因子に関する検討．第119回日本外科学会，大阪，2019.4.18

5. 長田圭司, 飯田 拓, 原田樹幸, 森 彩, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久: 急性胆嚢炎に対する治療成績: 特に緊急手術例についての検討. 第 119 回日本外科学会, 大阪, 2019.4.18
6. 伊丹 淳, 松浦正徒, 塩田哲也, 長田圭司, 原田樹幸, 森 彩, 高橋有和, 岩崎純治, 飯田 拓, 京極高久: 食道外科微細解剖の新たな概念を直腸周囲の解剖と比較して理解する. 第 119 回日本外科学会, 大阪, 2019.4.19
7. 原田樹幸, 松浦正徒, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 伊丹 淳, 京極高久: 当院における TAPP の治療成績と learning curve の検討. 第 119 回日本外科学会, 大阪, 2019.4.20
8. 岩崎純治, 飯田 拓, 森 彩, 原田樹幸, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: 当院で経験した胆嚢癌における偶発癌 Incidental Gallbladder Cancer (IGC) 症例の検討. 第 119 回日本外科学会, 大阪, 2019.4.20
9. J. Iwasaki, T. Iida, S. Harada, A. mori, K. Nagata, Y. Takahashi, M. Matsuura, T. Shiota, A. Itami, T. Kyogoku : Standardization of major LLR. The 2nd World Congress of the International Laparoscopic Liver Society, 東京, 2019.5.9
10. T. Iida, J. Iwasaki, Harada, A. mori, K. Nagata, Y. Takahashi, M. Matsuura, T. Shiota, A. Itami, T. Kyogoku : Clinical outcome of the pure laparoscopic liver resection, compared the open liver resection. The 2nd World Congress of the International Laparoscopic Liver Society, 東京, 2019.5.9
11. 伊丹 淳: 同時性胃癌合併胸部食道癌に対して外科的治療と補助化学療法を施行した一例の考察. 第 73 回日本食道学会, 福岡, 2019.6.7
12. Shigeyuki Harada, Taku Iida, Aya Mori, Keiji Nagata, Yuwa Takahashi, Masato Matsuura, Tetsuya Shiota, Junji Iwasaki, Atsushi Itami, Takahisa Kyogoku : A case of the surgical resection for the huge pancreatic serous cystic neoplasm with liver dysfunction. 第 31 回日本肝胆膵外科学会, 高松, 2019.6.15
13. Aya Mori, Taku Iida, Atsushi Itami, Junji Iwasaki, Tetsuya Shiota, Masato Matsuura, Yuwa Takahashi, Keiji Nagata, Shigeyuki Harada, Takahisa Kyogoku : A case of hepatic peribiliary cysts with a biliary stenosis mimicking cholangiocarcinoma. 第 31 回日本肝胆膵外科学会, 高松, 2019.6.15
14. Keiji Nagata, Taku Iida, Shigeyuki Harada, Aya Mori, Yuwa Takahashi, Masato Matsuura, tetsuya Shiota, Jyunji Iwasaki, Atsushi Itami, Takahisa Kyougoku : A case of the gallbladder carcinoma which developed a double cystic duct case. 第 31 回日本肝胆膵外科学会, 高松, 2019.6.15
15. Junji Iwasaki, Taku Iida, Shigeyuki Harada, Aya Mori, Keiji Nagata, Yuwa Takahashi, Masato Matsuura, Shiota Tetsuya, Atsushi Itami, Takahisa Kyogoku : Standardization of left medial sectionectomy in our center. 第 31 回日本肝胆膵外科学会, 高松, 2019.6.15
16. Taku Iida, Junji Iwasaki, Shigeyuki Harada, Aya Mori, Keiji Nagata, Yuwa Takahashi, Masato Matsuura, Tetsuya Shiota, Atsushi Itami, Takahisa Kyogoku : Evaluation of clinical outcome in the pure laparoscopic liver resection, comparing with the open liver resection. 第 31 回日本肝胆膵外科学会, 高松, 2019.6.15
17. 森 彩, 飯田 拓, 京極高久: 胃切除術後の内ヘルニア症例に関する検討. 第 74 回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019.7.17
18. 伊丹 淳, 松浦正徒, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 京極高久: ロボット支援腹腔鏡下胃悪性腫瘍手術導入に際しての当科の経験. 第 74 回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019.7.17
19. 金田優也: 盲腸癌による腸重積に対して緊急で腹腔鏡下手術を施行した 1 例. 第 74 回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019.7.17
20. 橘 奎伍: 乳癌術後 13 年目にきたした単発性肝転移再発の 1 切除例. 第 74 回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019.7.17
21. 飯田 拓, 岩崎純治, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: 大腸癌異時性肝転移に対する肝切除術の治療成績. 第 74 回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019.7.17
22. 松浦正徒, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 伊丹 淳, 京極高久: 当院における ESD 非治癒切除症例に対する追加外科切除の検討. 第 74 回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019.7.18
23. 原田樹幸, 飯田 拓, 京極高久: 膵漿液性嚢胞腫瘍切除例の検討: 手術適応について. 第 74 回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019.7.18

24. 長田圭司, 飯田 拓, 原田樹幸, 森 彩, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久: 急性胆嚢炎に対する緊急手術例の治療成績. 第 74 回日本消化器外科学会総会, 東京, 2019.7.19
25. Taku Iida : Clinical outcome of liver resection for metachronous colorectal liver metastasis. The 7th Biennial Congress of the Asian-Pacific Hepato-Pancreato-Biliary Association, Seoul, Korea, 2019.9.7
26. 岩崎純治: 重複胆嚢管を伴う胆嚢癌に対する肝拡大右葉切除術: 術前診断・術式選択に難渋した 1 例. 第 24 回京都肝胆膵外科セミナー京都 2019.9.7
27. 中保良太, 森 彩, 伊丹 淳, 原田樹幸, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 京極高久: 早期胃癌に対する腹腔鏡下胃切除後に発生した腸間膜線維腫症 (mesenteric fibromatosis) の一例. 第 202 回近畿外科学会, 大阪, 2019.9.28
28. 松浦正徒, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 伊丹 淳, 京極高久: 当院における切除不能進行再発胃癌に対するニボルマブ療法の使用経験 Retrospective study of Nivolumab for unresectable advanced or recurrent gastric cancer in our hospital. 第 57 回日本癌治療学会, 福岡, 2019.10.25
29. 飯田 拓, 岩崎純治, 中村公治郎, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: 腹腔鏡下肝 S2 亜区域切除術の定型化について: 術前画像評価の重要性. 第 81 回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.14
30. 松浦正徒, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 伊丹 淳, 京極高久: 腹腔鏡下胃全摘術結腸後再建後に早期通過障害を来し腹腔鏡下で修復した 2 例. 第 81 回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.14
31. 岩崎純治, 飯田 拓, 原田樹幸, 森 彩, 高橋有和, 長田圭司, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: B, C 型肝炎ウイルス未感染での肝両葉に発生した巨大重複癌の 1 切除例. 第 81 回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.14
32. 原田樹幸, 飯田 拓, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久: 虫垂粘液性腫瘍 (appendiceal mucinous neoplasm) 切除例の検討. 第 81 回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.14
33. 伊丹 淳, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 京極高久: 術前化学療法が有効で治癒切除可能となったが術後ヘルニアと縫合不全を来した進行胃癌症例の考察. 第 81 回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.14
34. 高橋有和, 岩崎純治, 森 彩, 原田樹幸, 長田圭司, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 飯田 拓, 伊丹 淳, 京極高久: 子宮広間膜裂孔ヘルニア嵌頓による絞扼性イレウスの 3 例. 第 81 回日本臨床外科学会総会, 高知, 2019.11.16
35. 岩崎純治, 飯田 拓, 森 彩, 原田樹幸, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: 膵頭十二指腸切除術における門脈合併切除の検討. 第 17 回消化器外科学会大会, 神戸, 2019.11.22
36. 飯田 拓, 岩崎純治, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: 当院での腹腔鏡下肝切除の治療成績: 系統的肝切除の導入と課題. 第 17 回消化器外科学会大会, 神戸, 2019.11.22
37. 長田圭司, 松浦正徒, 原田樹幸, 森 彩, 高橋有和, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 伊丹 淳, 京極高久: 当院における 85 歳以上の超高齢者に対する胃癌手術の安全性の検討. 第 17 回消化器外科学会大会, 神戸, 2019.11.22
38. 松浦正徒, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 伊丹 淳, 京極高久: 当院における腹腔鏡下胃切除術後の胆嚢結石の発症頻度と予防的胆摘の意義の検討. 第 17 回消化器外科学会大会, 神戸, 2019.11.22
39. 原田樹幸, 飯田 拓, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久: 悪性胆道狭窄との鑑別に苦慮した遠位胆管神経腫の 1 例. 第 17 回消化器外科学会大会, 神戸, 2019.11.23
40. 伊丹 淳, 松浦正徒, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 京極高久: 当院におけるロボット支援腹腔鏡下胃切除術の短期成績. 第 32 回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019.12.6
41. 長田圭司, 松浦正徒, 原田樹幸, 森 彩, 高橋有和, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 伊丹 淳, 京極高久: 閉塞性大腸癌に対する経肛門的イレウス管と大腸ステントの短期成績についての検討. 第 32 回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019.12.6

42. 森 彩, 飯田 拓, 原田樹幸, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 伊丹 淳, 京極高久: 繰り返す腹壁癒痕ヘルニア嵌頓に対して緊急腹腔鏡下ヘルニア修復術を施行した1例. 第32回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019.12.6
43. 飯田 拓, 岩崎純治, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: 中肝静脈をランドマークとした腹腔鏡下肝S8腹側領域切除術. 第32回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019.12.7
44. 塩田哲也, 京極高久, 伊丹 淳, 飯田 拓, 岩崎純治, 中村公治郎, 松浦正徒, 高橋有和, 長田圭司, 原田樹幸, 森 彩: 血管に着目した腹腔鏡下における幽門輪の同定方法. 第32回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019.12.7
45. 松浦正徒, 原田樹幸, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 伊丹 淳, 京極高久: 当院における高齢者における腹腔鏡下胃全摘術の現状. 第32回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019.12.7
46. 原田樹幸, 伊丹 淳, 森 彩, 長田圭司, 高橋有和, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 岩崎純治, 飯田 拓, 京極高久: 腹腔鏡下直腸低位前方切除術の術後縫合不全におけるリスク因子の検討. 第32回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019.12.7
47. 岩崎純治, 飯田 拓, 森 彩, 原田樹幸, 高橋有和, 長田圭司, 松浦正徒, 中村公治郎, 塩田哲也, 伊丹 淳, 京極高久: 急性胆嚢炎における胆嚢管切離に自動縫合器を用いた緊急腹腔鏡下胆嚢摘出術症例の検討. 第32回日本内視鏡外科学会総会, 横浜, 2019.12.7
48. 松浦正徒: ニボルマブの使用経験 当院における治癒切除不能な進行・再発胃癌に対する化学療法の治療成績の検討. 令和胃癌免疫療法セミナー, 神戸, 2019.10.18
49. 長田圭司: 急性胆嚢炎に対する緊急手術例の治療成績. 令和元年度京都大学外科冬季研究会, 京都, 2019.12.14

VII. 3. 12 乳腺外科

1. 奥野敏隆, 久下加奈栄, 廣瀬圭子, 真鍋美香: Bモード法にドブラ法と造影超音波を追加した乳腺病理推定. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019.5.24
2. 奥野敏隆, 久下加奈栄, 廣瀬圭子, 真鍋美香: 適応と目的を明確にした乳房造影超音波検査. 日本超音波医学会第92回学術集会, 東京, 2019.5.24
3. 奥野敏隆, 朴憲之, 森 彩, 長田圭司, 京極高久: 整形外科と連携をとった乳癌骨転移患者の診療. 第27回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2019.7.13
4. Yukio Mitsuzuka, Toshitaka Okuno, Takashi Nakamura, et al: Outline of contrast-enhanced ultrasonographic findings of breast tumors, and results of provisional study. WFUMB 2019, Melbourne, Australia, 2019.9.6-9
5. Toshitaka Okuno, Takashi Nakamura, Toshiko Hirai, Yukio Mitsuzuka, Aya Noro, Yumi Imayoshi, Terumi Kaga, Megumi Satoh, Midori Noma, Shinsaku Kanazawa: Multicenter study to evaluate the difference between benign and malignant breast tumors by contrast-enhanced ultrasonography (JABTS FLOW-CEUS 01 study -part 2-). WFUMB 2019, Melbourne, Australia, 2019.9.6-9
6. Yumi Imayoshi, Takashi Nakamura, Toshiko Hirai, Megumi Satoh, Toshitaka Okuno, et al: Typical contrast-enhanced ultrasonographic findings of benign breast tumors (JABTS FLOW-CEUS 01 study -part 3-). WFUMB 2019, Melbourne, Australia, 2019.9.6-9
7. Megumi Satoh, Toshiko Hirai, Takashi Nakamura, Toshitaka Okuno, et al: Typical contrast-enhanced ultrasonographic findings of malignant breast tumors. WFUMB 2019, Melbourne, Australia, 2019.9.6-9
8. Mayuko Miki, Shintaro Takao, Muneharu Konishi, Yasushi Shigeoka, Masaru Miyashita, Hirohumi Suwa, Yasuo Miyoshi, Koichi Hirokaga, Toshitaka Okuno, Kazuhiko Yamagami, Michiko Imamura, Keiko Murase, Akiko Yanai: Investigation of the use of a novel S-1 administration method (2-week administration followed by 1-week rest) for treating metastatic and recurrent breast cancer. ESMO Asia Congress 2019, Singapore, 2019.11.22-24
9. Nina Odan, Yuichiro Kikawa, Hajime Matsumoto, Junya Minohata, Hirohumi Suwa, Takashi Hashimoto, Toshitaka Okuno, Masaru Miyashita, Masaru Saito, Kazuhiko Yamagami, Shintaro Takao: Real-world outcomes of patients with advanced breast cancer treated with palbociclib: a multicenter retrospective cohort study in Japan. Advanced Breast Cancer 5th ESO-ESMO International Consensus Conference, Lisbon, Portugal, 2019.11.14-16

10. Chiyomi Egawa, Shintaro Takao, Kazuhiro Yamagami, Masaru Miyashita, Masashi Baba, Shigetoshi Ichii, Muneharu Konishi, Yuichiro Kikawa, Junya Minohata, Toshitaka Okuno, Keisuke Miyauchi, Kazuyuki Wakita, Hirofumi Suwa, Takashi Hashimoto, Masayuki Nishino, Takashi Matsumoto, Toshiharu Hidaka, Yutaka Konishi, Yoko Sakoda, Akihiro Miya, Masahiro Kishimoto, Hidefumi Nishikawa, Seishi Kono, Ikuo Kokufu, Isao Sakita, Koushiro Kitatsuji, Koushi Oh and Yasuo Miyoshi: Influence of aromatase inhibitor-related adverse events on prognosis in postmenopausal Japanese breast cancer patients: A prospective multicenter cohort study on patient-reported outcomes. San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, Texas, USA, 2019.12.10-14
11. Aya Noro, Hiroaki Shima, Toshiko Hirai, Midori Noma, Takashi Nakamura, Emi Sato, Terumi Kaga, Yukio Mitsuzuka, Keitaro Kamei, Yumi Imayoshi, Toshikazu Ito, Shinsaku Kanazawa, Kumiko Kato, Ryuzo Sekiguchi, Goro Kutomi, Mitsuru Mori, Hasegawa Takumi, Ichiro Takemasa, Toshitaka Okuno: The Difference Between Tumor Width on a Contrast-Enhanced Ultrasound and the Extent of Pathological Breast Cancer. San Antonio Breast Cancer Symposium, San Antonio, Texas, USA, 2019.12.10-14

VII. 3. 13 整形外科

1. 吉田圭二：膝や股関節の痛む人たちへ～人工関節のことなど～. 兵庫県予防医学協会第 561 回土曜健康科学セミナー, 神戸, 2019.3.9
2. 朴 憲之:当院での骨転移マネジメントについて. 第 3 回オープンボーンカンファレンス特別講演会, 神戸, 2019.5.18
3. 奥野敏隆, 朴 憲之, 森 彩, 長田圭司, 京極高久: 整形外科と連携をとった乳癌骨転移患者の診療. 第 27 回日本乳癌学会学術総会, 東京, 2019.7.11-13
4. 原田崇史, 朴 憲之, 築山浩之, 阿部光伸, 齋藤富彦, 川井康嗣, 吉田圭二: 膝蓋骨下極粉碎骨折に対する治療経験. 第 5 回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2019.8.23
5. 朴 憲之, 築山浩之, 阿部光伸, 齋藤富彦, 川井康嗣, 吉田圭二: 当院での骨転移マネジメントとその検討. 第 133 回中部日本整形外科災害外科学会, 神戸, 2019.9.20-21
6. 原田崇史, 朴 憲之, 築山浩之, 阿部光伸, 齋藤富彦, 川井康嗣, 吉田圭二: 第 3 骨片を伴った上腕骨遠位骨幹部骨折に対する髓内釘固定の治療経験. 第 6 回オープンボーンカンファレンス症例検討会, 神戸, 2019.12.14

VII. 3. 14 脳神経外科

1. 東野真志, 蘆田典明, 西原賢在, 細田弘吉: 急性視野障害を呈した鞍結節髄膜腫に対して緊急手術を行い良好な結果を得た一例. 第 77 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 大阪, 2019.4.6
2. Matsuo K, Hosoda K, Tanaka J, Yamamoto Y, Imahori T, Nakai T, Irino Y, Shinohara M, Sasayama T, Kohmura E: Phosphorylation of Heat Shock Protein 27 Leads to Activation of Pentose Phosphate Pathway and Protection from Cerebral Ischemia-Reperfusion Injury. Brain & Brain PET 2019, Yokohama, 2019.7.7
3. 松尾和哉, 細田弘吉, 田中 潤, 山本祐輔, 今堀太一郎, 中井友昭, 入野康宏, 篠原正和, 篠山隆司, 甲村英二: Heat shock protein 27 リン酸化誘導による脳虚血再灌流時の神経保護: オミクス研究 から臨床応用へ. 第 20 回日本分子脳神経外科学会, 東京, 2019.8.9
4. 梶本裕人, 蘆田典明, 西原賢在, 細田弘吉: 開頭クリッピング術とコイル塞栓術の併用により治療した中大脳動脈 M1 部紡錘形動脈瘤の 1 例. 第 78 回日本脳神経外科学会近畿支部学術集会, 大阪, 2019.9.7
5. Hosoda K, Fujita A, Kohta M, Kimura H, Matsuo K, Imahori T, Nakai T, Uozumi Y, Kohmura E: Carotid revascularization in patients with crescendo TIA (cTIA) and stroke in evolution (SIE). European Association of Neurosurgical Societies (EANS) 2019, Dublin, Ireland, 2019.9.24-28
6. Ashida N, Kajimoto H, Nishihara M, Takeda N, Hosoda K: Characteristics and Long-Term Prognosis of Subarachnoid hemorrhage with Unknown Source of Hemorrhage. European Association of Neurosurgical Societies (EANS) 2019, Dublin, Ireland, 2019.9.24-28
7. 松尾和哉, 細田弘吉, 田中 潤, 山本祐輔, 今堀太一郎, 中井友昭, 入野康宏, 篠原正和, 篠山隆司, 甲村英二: 脳虚血再灌流障害に対する Heat shock protein 27 リン酸化誘導による神経保護治療: メタボロミクス研究から治療応用へ. 日本脳神経外科学会第 78 回学術総会, 大阪, 2019.10.9

8. 蘆田典明, 梶本裕人, 西原賢在, 甲村英二, 細田弘吉: マルチモダリティによる再発および残存脳動脈瘤治療の有効性についての検討. 日本脳神経外科学会第 78 回学術総会, 大阪, 2019.10.9
9. 細田弘吉, 藤田敦史, 甲田将章, 木村英仁, 松尾和哉, 魚住洋一, 甲村英二: Crescendo TIA/Stroke In Evolution 発症頸動脈狭窄症からみたプラーク不安定性の研究. シンポジウム 23「頸動脈狭窄症 - 診断と治療のフロントライン -」日本脳神経外科学会第 78 回学術総会, 大阪, 2019.10.11
10. 西原賢在, 石原美佐, 橋本公夫, 武田直也, 梶本裕人, 蘆田典明, 篠山隆司, 甲村英二, 細田弘吉. 膠芽腫における重要な化学療法予測因子としてのグルタチオン転移酵素パイ. 日本脳神経外科学会第 78 回学術総会, 大阪, 2019.10.11
11. 松尾和哉, 細田弘吉, 田中 潤, 山本祐輔, 今堀太一郎, 中井友昭, 入野康宏, 篠原正和, 篠山隆司, 甲村英二: 脳虚血再灌流障害に対する Heat shock protein 27 リン酸化誘導による神経保護治療: オミクス研究から治療へ. 特別シンポジウム 1『時間で追う脳虚血の病態と治療:1 急性期』第 62 回日本脳循環代謝学会学術集会, 仙台, 2019.11.29
12. 蘆田典明, 梶本裕人, 西原賢在, 甲村英二, 細田弘吉: 前大脳動脈の normal variant と機能予後についての検討. 第 35 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 福岡, 2019.11.21
13. 松尾和哉, 藤田敦史, 細田弘吉, 田中 潤, 今堀太一郎, 石井大嗣, 甲田将章, 田中一寛, 魚住洋一, 木村英仁, 甲村英二: AI の機械学習で頸動脈狭窄症治療後早期の転帰を予測する - 実臨床での応用. 第 35 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会, 福岡, 2019.11.23

VII. 3. 15 呼吸器外科

1. 本山秀樹, 徳重康介, 長田駿一, 中西崇雄, 大政 貢: 複雑な区域切除における ICG 静注法による切離領域同定. 第 36 回呼吸器外科学会学術集会, 大阪, 2019.5.15
2. 本山秀樹, 徳重康介, 長田駿一, 中西崇雄, 大政 貢: 高度肥満甲状腺癌患者の傍気管および鎖骨上窩リンパ節転移に対する transmanubrial approach. 第 36 回呼吸器外科学会学術集会, 大阪, 2019.5.15
3. 本山秀樹, 徳重康介, 長田駿一, 中西崇雄, 大政 貢: 気管支定型カルチノイドに対する胸腔鏡下右 S6 区域スリーブ切除. 第 36 回呼吸器外科学会学術集会, 大阪, 2019.5.16
4. 本山秀樹, 徳重康介, 長田駿一, 中西崇雄, 大政 貢: 分葉不全症例に対する単孔式胸腔鏡下右上葉切除術の経験. 第 36 回呼吸器外科学会学術集会, 大阪, 2019.5.16
5. 本山秀樹, 徳重康介, 長田駿一, 中西崇雄, 大政 貢: 部分的に縮小と増大を認めた multiple primary pulmonary myxoid sarcoma の一例. 第 36 回呼吸器外科学会学術集会, 大阪, 2019.5.16
6. 中西崇雄, 長田駿一, 徳重康介, 本山秀樹, 大政 貢: 当院における CO2 使用胸腔鏡下剣状突起下アプローチ前縦隔腫瘍切除術~右胸腔から観察による左腕頭静脈同定. 第 36 回呼吸器外科学会学術集会, 大阪, 2019.5.15
7. 中西崇雄, 長田駿一, 徳重康介, 本山秀樹, 大政 貢: 開窓術後局所陰圧閉鎖療法にて治癒した耐性緑膿菌残存肺慢性肺膿瘍穿孔の一例. 第 36 回呼吸器外科学会学術集会, 大阪, 2019.5.16
8. 中西崇雄, 長田駿一, 徳重康介, 本山秀樹, 大政 貢: 当院における急性膿胸に対する胸腔鏡下膿胸腔搔把術の検討. 第 36 回呼吸器外科学会学術集会, 大阪, 2019.5.16
9. 長田駿一, 徳重康介, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 酸化セルロースシート被覆した若年者気胸手術例ではブラ切離線長が術後再発因子となる. 第 36 回呼吸器外科学会学術集会, 大阪, 2019.5.15
10. 徳重康介, 本山秀樹, 長田駿一, 中西崇雄, 大政 貢: 胸腔鏡下に修復したラジオ波焼灼術後の横隔膜穿孔の 2 例. 第 36 回呼吸器外科学会学術集会, 大阪, 2019.5.15
11. 長田駿一, 徳重康介, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 右 B1+3 転位気管支に発生した右上葉肺癌の 1 切除例. 第 42 回日本呼吸器内視鏡学会学術集会, 東京, 2019.7.4-5
12. Shunichi Nagata, Ryo Miyata, Kosuke Tokushige, Takao Nakanishi, Hideki Motoyama, Mitsugu Omasa; CLINICAL SIGNIFICANCE AND HISTOPATHOLOGICAL FINDINGS OF STAPLE LINE COVERAGE WITH OXIDIZED REGENERATED CELLULOSE SHEET AFTER BULLECTOMY FOR PRIMARY SPONTANEOUS PNEUMOTHORAX. 27th European Conference on General Thoracic Surgery. Dublin, Ireland, 2019.6.9-12
13. 徳重康介, 中西崇雄, 長田駿一, 本山秀樹, 大政 貢: 同一肺葉内に発生した三重癌の 1 手術例. 第 110 回肺癌学会関西支部会, 京都, 2019.6.29

14. 長田駿一, 徳重康介, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 高齢者気胸手術における術後遷延性肺・合併症の危険因子とは. 第 72 回日本胸部外科学会学術集会, 京都, 2019.10.30
15. 本山秀樹, 徳重康介, 長田駿一, 中西崇雄, 大政 貢: 当院における Virtual-Assisted Lung Mapping(VALMAP) の成績と今後の課題. 第 72 回日本胸部外科学会学術集会, 京都, 2019.10.30
16. 中西崇雄, 徳重康介, 長田駿一, 本山秀樹, 大政 貢: 左上葉肺癌術後左房内血栓に対するリスク因子解析および左上肺静脈結紮有効性の検討. 第 72 回日本胸部外科学会学術集会, 京都, 2019.10.30
17. 徳重康介, 長田駿一, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 胸腔鏡下に摘出した腫瘍随伴症候群を伴った肺神経内分泌腫瘍の一例第. 106 回日本呼吸器内視鏡学会近畿支部, 大阪, 2019.11.16
18. 長田駿一, 徳重康介, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 自然気胸の世代別治療戦略. 第 32 回日本内視鏡外科学会学術集会, 横浜, 2019.12.5
19. 徳重康介, 本山秀樹, 長田駿一, 中西崇雄, 大政 貢: PET にて特徴的な所見を示した胸腺癌合併胸腺腫の一例. 第 60 回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019.12.6
20. 徳重康介, 長田駿一, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 85 歳以上の肺癌外科治療の妥当性の検討. 第 60 回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019.12.6
21. 長田駿一, 徳重康介, 中西崇雄, 本山秀樹, 大政 貢: 腫瘍径 2cm 以上の原発性肺癌に対する消極的縮小手術の妥当性の検討. 第 60 回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019.12.6
22. 本山秀樹, 徳重康介, 長田駿一, 中西崇雄, 大政 貢: 正中切開アプローチにより切除し得た右上葉肺癌縦隔リンパ節転移の 1 例. 第 60 回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019.12.6
23. 本山秀樹, 徳重康介, 長田駿一, 中西崇雄, 大政 貢: 単孔式胸腔鏡下右 S9 区域切除術における工夫. 第 60 回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019.12.6
24. 中西崇雄, 徳重康介, 長田駿一, 本山秀樹, 大政 貢: 当院肺癌手術標本における EGFR 遺伝子変異検査結果の検討. 第 60 回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019.12.6
25. 勝山苑香, 中西崇雄, 徳重康介, 長田駿一, 本山秀樹, 大政 貢: 低肺機能患者に生じた肺三重癌の一治療例. 第 111 回肺癌学会関西支部会, 大阪, 2020.2.22
26. 中西崇雄, 徳重康介, 長田駿一, 本山秀樹, 大政 貢: タイプ A 胸腺腫術後再発例の検討～3 期以上は再発リスクが高く, 晩期再発が多い. 第 39 回日本胸腺研究会, 札幌, 2020.2.15

VII. 3. 16 皮膚科

1. 小川 聡: 当院におけるグセルクマブの使用報告. Psoriasis/PPP Launch Meeting in KOBE, 神戸, 2019.4.11
2. 熊谷 淳, 兼本洋介, 中村文香, 小川 聡, 正木太朗: 下腿に生じた Cutaneous ciliated cyst. 第 473 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2019.5.18
3. 熊谷 淳, 中村文香, 小川 聡, 正木太朗, 織田好子, 鷺尾 健, 福永 淳, 仲田かおり: 米ぬかアレルギーの 1 例. 第 112 回近畿皮膚科集談会, 大阪, 2019.7.14
4. 熊谷 淳, 中村文香, 小川 聡, 鷺尾 健: 乾癬性紅皮症に対してウステキヌマブ投与後に非結核性抗酸菌症を認めた 1 例. 第 475 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2019.10.26
5. 小川 聡: 当院の乾癬治療に対する生物学的製剤導入の現状, 加古川乾癬連携ワークショップ, 加古川, 2019.11.21
6. 鷺尾 健: 令和時代の皮膚アレルギー疾患治療戦略. 兵庫県医師会学術講演会, 神戸, 2019.11.15
7. 鷺尾 健: 知っておきたい蕁麻疹と抗ヒスタミン薬の基礎知識. 第 14 回西神戸臨床懇話会, 神戸, 2019.11.2
8. 鷺尾 健: 使ってみよう UCT ～蕁麻疹診療ガイドライン 2018 に沿って～. 第 71 回日本皮膚科学会西部支部学術大会モーニングセミナー 4, 高知, 2019.9.8
9. 鷺尾 健: 乾癬に対して生物学的製剤を導入するに当たっての注意点とコツ!. IL-17A Web Seminar, 神戸, 2019.11.26
10. 熊谷 淳, 中村文香, 小川 聡, 鷺尾 健, 田中康博, 大西 輝, 新里偉咲, 池町真美, 瀬瀬力也, 浅井沙月, 橋本公夫, 石原美佐: 皮膚非結核性抗酸菌症の 2 例. 第 476 回日本皮膚科学会大阪地方会, 大阪, 2019.12.7
11. 鷺尾 健: アナフィラキシーと食物アレルギーの基礎知識. 神戸市西区養護教諭懇談会, 神戸, 2019.12.12
12. 鷺尾 健: コリン性蕁麻疹とアトピー性皮膚炎における発汗. 日本皮膚科学会東海地方会ランチオンセミナー, 名古屋, 2019.12.15

Ⅶ. 3. 17 泌尿器科

1. 清水洋祐, 小河孝輔, 請田翔子, 宇都宮紀明, 金丸聰淳: 前立腺全摘除術における断端陽性症例のPSA再発に関する検討. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.19
2. 小河孝輔, 請田翔子, 宇都宮紀明, 清水洋祐, 金丸聰淳: 当院における進行性尿路上皮癌に対するPembrolizumabの使用経験. 第107回日本泌尿器科学会総会, 名古屋, 2019.4.20
3. 請田翔子: RARC術後に直腸穿孔を来した症例. 第23回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2019.7.4
4. 小河孝輔: 高齢者筋層浸潤膀胱癌における無治療観察群の予後の検討. 第23回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2019.7.4
5. 宇都宮紀明: 小腸平滑筋肉腫膀胱浸潤の一例. 第23回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2019.7.4
6. 清水洋祐: オブジーボにて腎癌肺転移が縮小した1例. 第23回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2019.7.4
7. 清水洋祐: 前立腺がん治療の現状@神戸市立西神戸医療センター. 第4回明石・西神泌尿器科懇話会, 神戸, 2019.10.16
8. 清水洋祐, 小河孝輔, 請田翔子, 宇都宮紀明, 金丸聰淳: 骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対する塩化ラジウムの治療経験. 第57回癌治療学会, 福岡, 2019.10.25
9. 請田翔子, 小河孝輔, 宇都宮紀明, 清水洋祐, 金丸聰淳: 腎尿管全摘術後の膀胱外再発と全生存率に関する検討. 第71回西日本泌尿器科学会総会, 松江, 2019.11.8
10. 宇都宮紀明, 請田翔子, 小河孝輔, 清水洋祐, 金丸聰淳: 西神戸医療センターにおけるロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術の治療経験. 第71回西日本泌尿器科学会総会, 松江, 2019.11.9
11. 請田翔子: ロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘術後の8mmポートヘルニアの一例. 第24回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2020.2.6
12. 小河孝輔: RALP後の急性尿閉について. 第24回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2020.2.6
13. 宇都宮紀明: パゾパニブ使用中に薬剤性膀胱炎を発症した一例. 第24回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2020.2.6
14. 清水洋祐: 当院での前立腺癌治療の現状. 第24回西神戸泌尿器科カンファレンス, 神戸, 2020.2.6
15. 清水洋祐: Ra-223の使用経験状@西神戸医療センター. ゴールフィゴ®ハイブリッド講演会, 神戸, 2020.2.27

Ⅶ. 3. 18 産婦人科

1. 三浦敦美, 森上聡子, 前田振一郎, 三村裕美, 小菊 愛, 登村信之, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人, 佐本 崇: 当院の切迫早産68症例における膣分泌物培養検査の検討. 第141回近畿産科婦人科学会学術集会, 大津, 2019.10.27
2. 前田振一郎, 森上聡子, 三浦敦美, 三村裕美, 登村信之, 小菊 愛, 近田恵里, 佐原裕美子, 竹内康人, 佐本 崇: 当院の切迫早産68症例における膣分泌物培養検査の検討. 第141回近畿産科婦人科学会学術集会, 大津, 2019.10.27
3. Morikami S, Mimura Y, Kogiku A, Tomura N, Konda E, Sahara Y, Kawakita K, Samoto T, Takeuchi Y: Successful cases of pPROM in first trimester: Two case Reports. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 2019.4.11-14
4. Meda S, Morikami S, Kawakita K, Ikezawa Y, Mimura Y, Kogiku A, Tomura N, Konda E, Sahara Y, Kawakita K, Samoto T, Takeuchi Y: Comparative analysis of hysterectomy and transacted arterial embolization(TAE) against postpartum hemorrhage(PPH): A 5-year experience at a municipal hospital 2013-2017. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 2019.4.11-14
5. 三村裕美, 川北かおり, 登村信之, 池澤勇二, 前田振一郎, 小菊 愛, 森上聡子, 近田恵里, 佐原裕美子, 佐本 崇, 竹内康人: 母児ともに予後良好であった妊娠中の肺炎球菌髄膜炎. 第71回日本産科婦人科学会学術講演会, 名古屋, 2019.4.11-14

Ⅶ. 3. 19 眼科

1. 吉田章子, 黒田能匡, 黒田佳陽, 山本昭成, 三河章子: 癍痕期末熟児網膜症に発症した急性閉塞隅角緑内障の眼前部OCT所見. 第30回日本緑内障学会, 熊本, 2019.9.7
2. 山本昭成, 黒田佳陽, 吉田章子, 黒田能匡, 飯田裕子, 三河章子: ステロイドパルス療法を施行した強膜炎の3例. 第70回京大眼科同窓会学会, 京都, 2019.10.20

Ⅶ. 3. 20 耳鼻いんこう科

1. 本山英樹, 小嶋康隆, 長田俊一, 中西崇雄, 雲井一夫, 大政 貢: 高度肥満甲状腺癌患者の傍気管及び鎖骨上窩リンパ節転移に対する Trans manubrial approach. 第 36 回日本呼吸器外科学会学術集会, 大阪, 2019.5.16-17
2. 小嶋康隆: 耳かき外傷による顔面神経麻痺. 第 17 回神戸耳鼻手術手技研究会, 神戸, 2019.8.21
3. 原真貴子, 堀地祐人, 四宮 瞳, 小嶋康隆, 雲井一夫: 突発性難聴と診断された聴神経腫瘍症例. 第 193 回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2019.12.1
4. 藤井大智, 四宮弘隆, 涌井絵美, 高橋美貴, 岩城 忍, 入谷啓介, 古川竜也, 手島直則, 大月直樹, 丹生健一: 当科における喉頭全摘後代用音声の検討. 第 193 回日耳鼻兵庫県地方部会, 西宮, 2019.12.1
5. 四宮 瞳, 横井 純, 原真貴子, 堀地祐人, 小嶋康隆, 雲井一夫: 頸部リンパ節結核の診断について. 第 3 回 4 病院合同学術研究フォーラム, 神戸, 2020.2.8
6. 藤井大智, 四宮弘隆, 涌井絵美, 高橋美貴, 岩城 忍, 入谷啓介, 古川竜也, 手島直則, 大月直樹, 丹生健一: 当科における喉頭全摘後代用音声の検討. 第 30 回日本頭頸部外科学会総会, 那覇, 2020.1.30

Ⅶ. 3. 21 形成外科

1. 小熊 孝: 外科的治療を行った尋常性白斑の長期観察例. 第 46 回兵庫県形成外科医会研究会, 神戸, 2019.4.13
2. 松葉啓文, 小熊 孝, 徳原 里佳: 肋骨骨折に起因すると考えられた胸壁膿瘍の 1 例. 第 46 回兵庫県形成外科医会研究会, 神戸, 2019.4.13
3. 松葉啓文, 小熊 孝, 村井信幸: 血行再建後に下肢切断に至った急性下肢虚血の 2 例. 第 11 回日本下肢救済・足病学会学術集会, 神戸, 2019.6.29
4. 小熊 孝: 顔面への真皮脂肪移植例についての検討. 第 11 回日本創傷外科学会学術集会, 長崎, 2019.7.4
5. 岡本貴子, 小熊 孝: 頬部皮膚欠損を cervicofacial flap で再建した 1 例. 第 11 回日本創傷外科学会学術集会, 長崎, 2019.7.4
6. 徳原里佳, 小熊 孝, 近藤千紗: 動眼神経麻痺による眼瞼下垂症に対する眼瞼形成術の経験. 第 122 回関西形成外科学会学術集会, 大阪, 2019.7.14
7. 小熊 孝, 中川雅之: 脳卒中片麻痺患者に生じた虚血肢の治療経験. 第 17 回兵庫ライブデモンストラーション, 淡路, 2019.7.27
8. 近藤千紗, 小熊 孝, 徳原里佳: 胸囲結核の治療経験. 第 33 回神戸形成外科集談会, 神戸, 2019.11.3
9. 近藤千紗, 小熊 孝, 徳原里佳, 岡本貴子: 長期の保存的加療により創治癒が得られた血行再建が奏功しない虚血肢の 3 例. 第 1 回日本フットケア・足病医学会関西地方学術集会, 神戸, 2019.11.9
10. 近藤千紗, 小熊 孝, 徳原里佳: 胸囲結核の治療経験. 第 123 回関西形成外科学会学術集会, 京都, 2019.12.8
11. 徳原里佳, 小熊 孝, 近藤千紗, 松葉啓文: 上眼瞼全層欠損に対して侵襲の少ない graft on flap 法を用いて再建した 2 例. 第 123 回関西形成外科学会学術集会, 京都, 2019.12.8

Ⅶ. 3. 22 放射線診断科

1. 谷龍一郎, 宮崎亜樹, 平林沙織, 吉川俊紀, 北村ゆり, 多田智恵子, 桑田陽一郎: NBCA を用いて動脈塞栓術を施行した嚢胞腎の 1 例. 播磨 IVR 研究会, 明石, 2019.4.19
2. 谷龍一郎, 岡田卓也, 佐々木康二, HAMADA MOSTAFA, 堀之内宏樹, 元津倫幸, 上嶋英介, 小出 裕, 祖父江慶太郎, 山口雅人, 杉本幸司, 村上卓道: CT で認識できない骨病変に対する CT ガイド下骨生検の検討. 第 48 回日本 IVR 学会総会, 福岡, 2019.6.1
3. 宮崎亜樹, 平林沙織, 谷龍一郎, 河邊哲也, 吉川俊紀, 北村ゆり, 多田智恵子, 桑田陽一郎: 子宮広間膜裂孔ヘルニアの一例. 第 41 回播磨画像診断研究会, 明石, 2019.6.6
4. 宮崎亜樹, 神田知紀, 上野嘉子, 浦瀬靖代, 田中宇多留, 祖父江慶太郎, 前田隆樹, 野上宗伸, 村上卓道, 神澤真紀, 伊藤智雄: 両側水腎症をきたした膀胱形質細胞腫の 1 例. 第 33 回日本腹部放射線学会, 下関, 2019.6.28-29
5. 谷龍一郎, 宮崎亜樹, 平林沙織, 吉川俊紀, 北村ゆり, 多田智恵子, 桑田陽一郎: 当院における産褥早期出血に対する経動脈塞栓術 (TAE) の検討. 第 47 回日本救急医学会総会・学術集会, 東京, 2019.10.3

Ⅶ. 3. 23 放射線治療科

1. 河邊哲也, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 清水洋裕, 請田翔子, 小河孝輔, 宇都宮紀明, 金丸聰淳, 今中一文: 去勢抵抗性前立腺癌に対する塩化ラジウム内用療法の治療経験. 第 44 回神戸放射線腫瘍懇話会, 神戸, 2019.8.31
2. 河邊哲也, 多田智恵子, 桑田陽一郎, 清水洋祐, 今中一文: 骨転移を有する去勢抵抗性前立腺癌に対する塩化ラジウム 223 の初期使用経験. 日本放射線腫瘍学会第 32 回学術大会, 名古屋, 2019.11.22

Ⅶ. 3. 24 麻酔科

1. 宮崎純志, 堀川由夫, 伊地智和子, 飯島克博, 樋口恭子: 腹腔内巨大腫瘍摘出術 3 例の麻酔経験. 日本麻酔科学会第 65 回関西支部学術集会, 大阪, 2019.9.14
2. 中山莉子, 堀川由夫, 伊地智和子, 飯島克博, 樋口恭子: 長期透析患者における褐色細胞腫摘出術の周術期管理. 日本麻酔科学会第 65 回関西支部学術集会, 大阪, 2019.9.14
3. 盛房慎子: エホバの証人を信奉する低体重患者に対する小切開心臓手術による僧帽弁形成術の麻酔経験. 日本麻酔科学会第 65 回関西支部学術集会, 大阪, 2019.9.14
4. 宮崎純志, 堀川由夫, 伊地智和子, 飯島克博, 樋口恭子: デスフルラン気化器を用いた全身麻酔中に酸素濃度低下を来した 1 例. 日本臨床麻酔学会 第 39 回大会, 軽井沢, 2019.11.8

Ⅶ. 3. 25 病理診断科

1. 石原美佐, 中西崇雄, 益田隆広, 大政 貢, 橋本公夫: 分画肺内に発生した悪性黒色腫の一例. 第 108 回日本病理学会総会, 東京, 2019.5.9
2. 浅井沙月, 住吉真治, 山田洋介, 楯谷一郎, 羽賀博典, 長尾俊孝: 高悪性度成分が主体であった乳腺相似分泌癌の一例. 第 108 回日本病理学会総会, 東京, 2019.5.11
3. 毛利衣子, 清水理恵, 井上友佳里, 船越真依, 長森晴紀, 真鍋美香, 西田 稔, 栗田千絵, 浅井沙月, 石原美佐, 橋本公夫: 膀胱原発腺癌の 2 例. 第 58 回日本臨床細胞学会秋季大会, 岡山, 2019.11.17
4. 船越真依, 毛利衣子, 清水理恵, 井上友佳里, 長森晴紀, 真鍋美香, 西田 稔, 栗田千絵, 浅井沙月, 石原美佐, 橋本公夫: 嗅神経芽細胞腫の一例. 第 58 回日本臨床細胞学会秋季大会, 岡山, 2019.11.17

Ⅶ. 3. 26 歯科口腔外科

1. 岩城 太: 薬剤関連顎骨壊死の予防と治療の考え方. 西神戸骨粗鬆症連携セミナー, 神戸, 2019.5.30
2. 平井雄三, 竹信俊彦, 山本信佑, 谷池直樹: 顎矯正手術における予防的抗菌薬適正使用への取り組み. 第 29 回日本顎変形症学会学術大会, 東京, 2019.6.9
3. 山本信祐, 平井雄三, 谷池直樹, 竹信俊彦: 神戸市立医療センター中央市民病院歯科・歯科口腔外科における 11 年 6 ヶ月間の顎矯正手術の臨床的検討. 第 29 回日本顎変形症学会学術大会, 東京, 2019.6.9
4. 平井雄三: 「神戸西地域病院歯科の特徴と地域連携について」一病院歯科における専門分野の情報を公開し円滑な地域連携をめざします. 西神戸歯科口腔外科オープンカンファレンス, 神戸, 2019.9.12
5. 平井雄三, 竹信俊彦, 前田圭吾: 顎矯正手術における予防的抗菌薬適正使用への取り組み. 第 28 回日本口腔感染症学会学術大会, 東大阪, 2019.10.12
6. 平井雄三, 岩城 太: 上唇に発生した筋上皮種の 1 例. 第 31 回 NPO 法人日本口腔科学会近畿地方部会, 西宮, 2019.11.30
7. 竹信俊彦, 山本信祐, 谷池直樹, 平井雄三: 顎矯正手術とインプラントの連携治療をおこなった多数歯欠損症例の 2 例. 第 23 回日本顎顔面インプラント学会学術大会, つくば, 2019.12.1
8. 松本侑梨加, 佐藤悠城, 平井雄三, 藤本大智, 富井啓介, 高尾佳美, 中西雅美, 手島明美: 肺がん化学療法における口腔粘膜炎を予防するための統一した患者教育の取り組み. 第 60 回日本肺癌学会学術集会, 大阪, 2019.12.6

Ⅶ. 3. 27 栄養管理室

1. 島村康弘, 寺園沙矢香, 有岡靖隆, 井上達朗, 田中利明, 中井雅史, 柳原千枝, 原和也, 井谷智尚, 京極高久: NST におけるエネルギー必要量評価法の変更はエネルギー摂取量を増加させる. 第 11 回日本静脈経腸栄養学会近畿支部例会, 大阪, 2019.6.29

Ⅶ. 3. 28 臨床工学室

1. Kiyotaka Fujii, Munenori Inoue : Visualization of the Effect of Wandering Sensing Systems on Wireless Medical Telemetry Systems. EMC Sapporo & APEMC 2019, 北海道, 2019.6.3
2. 藤井清孝, 井上宗紀, 中本皓太, 岸本和昌 : 医療機器 / 電子カルテ連携推進に伴う新たなトラブル事例. 第48回日本医療福祉設備学会, 東京, 2019.11.21
3. 岸本和昌 : 強アルカリフリー炭酸ガス吸収剤の比較. 第41回日本手術医学会総会, 東京, 2019.9.27
4. 藤井清孝, 小山和彦, 篠原智誉, 吉田哲也, 黒田 聡 : 輸液ポンプにおける事故 / ヒヤリ・ハット防止に向けた取り組みの有効性に関する文献的検討. TC・リデザイン学術研究会, 京都, 2019.10.10
5. 岸本和昌, 上崎勝生, 高橋祐一, 藤井清孝 : 当院における電気メス用対極板の安全運用の検討. 第26回近畿臨床工学会, 京都, 2019.11.9
6. 新田 輝, 西原賢在, 岸本和昌, 上妻憲尚, 藤井清孝 : 小脳橋角部腫瘍摘出術において術中神経学的モニタリングを有効活用できた一例. 第26回近畿臨床工学会, 京都, 2019.11.9
7. 上妻憲尚, 岸本和昌, 新田 輝, 藤井清孝 : 当院における手術室トラブルの分析と検討. 第26回近畿臨床工学会, 京都, 2019.11.9

Ⅶ. 3. 29 薬剤部

1. 山崎彬史, 村田朋美, 堀 勇太, 中浴伸二, 安藤俊弘, 森本茂文 : メサドン導入 21 症例の有効性と薬剤師の役割についての検討. 第29回日本医療薬学会年会, 福岡, 2019.11.2-4
2. 堀 勇太, 山崎貴之, 中浴伸二, 森本茂文 : 抗菌薬適正使用支援チーム活動に伴う抗菌薬使用状況の変化と緑膿菌感受性への影響. 第29回日本医療薬学会年会, 福岡, 2019.11.2-4
3. 森 良江, 濱 宏仁, 西村 亮, 中浴伸二, 森本茂文 : 曝光により影響を受ける医薬品の患者居宅での保管状況の実態と遮光保管に関する検討. 第41回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
4. 村田朋美, 山崎彬史, 堀 勇太, 中西真也, 中浴伸二, 森本茂文 : ロルラチニブ投与中に高脂血症を発現した3症例. 第41回日本病院薬剤師会近畿学術大会, 神戸, 2020.2.15-16
5. 安藤基純, 田村 亮, 中浴伸二, 滝元阜月, 有吉孝一, 山口真理恵, 崎園賢治, 江藤正明, 福島昭二, 杉岡信幸, 橋田 亨 : 心肺蘇生後の中毒被疑薬および代謝物の血中濃度推移と心毒性との関連評価 : アミトリプチリン過量服用の一例. 第40回日本中毒学会西日本地方会, 神戸, 2020.2.22

Ⅶ. 3. 30 看護部

1. 正井志穂 : 自己の課題に取り組み、高度看護実践力を育む. 第6回日本CNS看護学会 交流集会, 愛知, 2019.6.1
2. 正井志穂, 入江愛美, 安藤俊弘 : 疼痛マネジメントが困難であったメサドン塩酸塩によるオピオイド過量の一症例. 第24回日本緩和医療学会学術大会, 横浜, 2019.6.21
3. 八木哉子 : 慢性病者のレジリエンスケアの看護展開 - 事例を用いて - . 第13回日本慢性看護学会学術集会教育セミナー, 神戸, 2019.7.7
4. 山田顕子 : せん妄に対するチームアプローチ, 第32回日本サイコオンコロジー学会総会 シンポジウム, 東京, 2019.10.11
5. 山田顕子, 八木哉子, 小林由香 : 急性期病院における院内デイケアの取り組み. 第4回神戸看護学会学術集会, 神戸, 2019.10.26
6. 宮崎輝美, 林裕絵, 辻埜恭子, 吉川寛子 : セル看護方式の導入 ~ 「ナースはベッドサイドに」 への取り組み. 第4回神戸看護学会学術集会, 神戸, 2019.10.26
7. 瀧澤紘輝 : A病院における院内トリアージの実施数と実施率を向上させる取り組み. 第4回神戸看護学会学術集会, 神戸, 2019.10.26
8. 正井志穂 : 事例検討の楽しさを体験してみよう! ~ 見つけよう、看護の意味を ~ . 第4回神戸看護学会学術集会 交流集会, 神戸, 2019.10.26
9. 鎌谷純夏 : 生まれ! 2・3年目ナースー忙しいなか、みんなどうしてる?. 第4回神戸看護学会学術集会 交流集会, 神戸, 2019.10.26
10. 川口美帆 : 終末期がん患者から学んだスピリチュアルケア ~ 最期まで患者らしく生きるために寄り添い続ける ~ . 兵庫県看護協会 神戸東部・中部・西部支部合同 看護実践報告会, 神戸, 2020.2.22

11. 鷺尾麻紀子, 倉藤明子, 原 和也, 井谷智尚: 地域への PTEG 普及へ向けて. 第 35 回 日本臨床栄養代謝学会学術集会, 京都, 2020.2.27-28

Ⅶ. 3. 31 臨床検査技術部

1. 登尾 薫, 石原温子: 胎児心臓スクリーニングの基礎. 第 13 回近畿胎児心臓病研究会教育セミナー, 大阪, 2019.5.19
2. 川井順一: 心エコーの精度をいかに保つか. 日本超音波医学会第 92 回学術集会, 東京, 2019.5.26
3. 竹川啓史: 真菌の培養から同定～見方が変われば結果も変わる～. 第 20 回北陸病原微生物研究会, 石川, 2019.7.20
4. 川井順一: 腹部・心臓超音波検査の基本断面の描出と基本計測を身につけるハンズオンセミナー. 兵庫県技師会主催生理検査研修会, 神戸, 2019.8.25
5. 毛利衣子, 西田 稔, 清水理絵, 井上友佳里, 船越真依, 真鍋美香, 栗田千絵, 浅井沙月, 石原美佐, 橋本公夫: 膀胱原発腺癌の 2 例. 第 58 回日本臨床細胞診学会秋期大会, 岡山, 2019.11.16-18
6. 船越真依, 毛利衣子, 西田 稔, 清水理絵, 井上友佳里, 真鍋美香, 栗田千絵, 浅井沙月, 石原美佐, 橋本公夫: 嗅神経芽細胞腫の 1 例. 第 58 回日本臨床細胞診学会秋期大会, 岡山, 2019.11.16-18
7. 川井順一: 僧帽弁逸脱症の診断 / 僧帽弁逆流の重症度評価. リカレントカンファレンス, 神戸, 2020.1.25
8. 竹川啓史, 池町真実: パネルディスクッション 培養困難菌を極める 糸状菌. 第 31 回日本臨床微生物学会総会・学術総会, 石川, 2020.2.2
9. 登尾 薫, 森上聡子, 石原温子: 出生前診断できた右冠動脈右室瘻の一例. 第 26 回日本胎児心臓病学会学術集会, 埼玉 (新型コロナウイルスの影響で開催中止), 2020.3.13-14
10. 井上友佳里, 毛利衣子, 西田 稔, 清水理絵, 船越真依, 真鍋美香, 栗田千絵, 浅井沙月, 石原美佐, 橋本公夫: 耳下腺に発生した分泌癌の 1 例. 令和元年度兵庫県臨床細胞学会, 兵庫 (新型コロナウイルスの影響で開催中止), 2020.3.28

Ⅶ. 3. 32 放射線技術部

1. 大政 亘, 中島正量: デリバリー 18F-FDG 施設における物理的指標を用いた収集時間の最適化 -BMI あたりの投与量による推定式の作成-. 第 47 回日本放射線技術学会秋季学術大会, 大阪, 2019.10.19
2. 宮本里奈, 浦田萌江, 横尾宏之, 大政亘, 山之内真也: 胸部ポータブル撮影における VG の使用に関する基礎的検討. 令和元年度神戸市技師会研究発表会, 兵庫, 2019.11.30
3. 手塚麻実, 遠矢瑠星, 林 亮太, 橋本強志: 冠動脈 MRA 検査における至適心位相決定方法の検討. 令和元年度神戸市技師会研究発表会, 兵庫, 2019.11.30

Ⅶ. 3. 33 リハビリテーション技術部

1. Inoue T, Misu S, Tanaka T, Kakehi T, Kakiuchi M, Chuman Y, Ono R: Frailty defined by 19 items as a predictor of short-term functional recovery in patients with hip fracture. 5th ACFS, Taipei, 2019.10.22
2. 井上達朗, 田中利明, 島村康弘, 寺園沙矢香, 有岡靖隆, 柳原千枝, 井谷智尚, 京極高久: 急性期病院での NST 回診における理学療法士帯同によるサルコペニアスクリーニングの試み. 第 11 回日本静脈経腸栄養学会近畿支部会, 大阪, 2019.6.29
3. 西尾優也, 秋武浩太, 垣内優芳, 西原賢在: 急性期病院における膠芽腫患者への作業療法介入. 第 53 回日本作業療法学会, 福岡, 2019.9.7
4. 白井裕美子: ROS 融合遺伝子陽性肺がんによる声帯麻痺の 1 症例. 兵庫県言語聴覚士会西ブロック症例検討会, 兵庫, 2019.11.4
5. 井上達朗: 急性期病院における ADL 改善を目的とした多職種での包括的介入について - 理学療法士の立場から -. 第 32 回関西栄養管理技術研究会, 大阪, 2019.11.9
6. 垣内優芳, 白井裕美子, 大政 貢: 胸腺腫合併重症筋無力症における拡大胸腺胸腺腫摘出術前後の最長発声持続時間: 症例報告. 第 6 回日本呼吸理学療法学会学術大会, 愛知, 2019.11.10
7. 田中利明, 笥 哲也, 小林 光, 飯川穂奈美, 横井佑樹, 垣内優芳: 高齢者市中肺炎患者におけるサルコペニア罹患および筋肉量と ADL の関係の検討. 第 6 回日本呼吸理学療法学会学術大会, 愛知, 2019.11.10

8. 笈 哲也, 清水洋祐, 海老名葵, 井上達朗, 垣内優芳, 金丸聰淳: 前立腺癌術前後の尿失禁に対する理学療法士が指導する骨盤底筋訓練の効果検証. 第 57 回日本癌治療学会学術集会, 福岡, 2019.10.24
9. 荒井悠子, 白井裕美子, 井上慎一: 脳炎により記憶障害を呈した一例. 第 1 回神戸プテ学術大会, 兵庫, 2020.2.2
10. 白井裕美子, 井上達朗, 横井佑樹, 荒井悠子: サルコペニアが主要因と考えられる摂食嚥下障害患者に対し、リハビリと栄養の併用を行った 2 症例. 第 1 回神戸プテ学術大会, 兵庫, 2020.2.2

VII. 3. 34 感染防止対策室

1. 磯目 賢一, 中島佳代, 池町真実, 山崎貴之, 中裕伸二, 宮川一也, 永澤浩志: レジオネラ菌院内感染で判明した給湯系の汚染とその後の対応. 第 35 回日本環境感染学会総会・学術集会, 横浜, 2020.2.15
2. 堀 勇太, 山崎貴之, 中裕伸二, 森本茂文: 抗菌薬適正使用支援チーム活動に伴う抗菌薬使用状況の変化と緑膿菌感受性への影響. 第 29 回日本医療薬学会年会, 福岡, 2019.11.2-4
3. 竹川啓史: 真菌の培養から同定～見方が変われば結果も変わる～. 第 20 回北陸病原微生物研究会, 石川, 2019.7.20
4. 竹川啓史, 池町真実: パネルディスカッション 培養困難菌を極める 糸状菌. 第 31 回日本臨床微生物学会総会・学術総会, 石川, 2020.2.2
5. 池町真実, 竹川啓史, 山本 剛: TAT を意識した微生物検査. 第 3 回 MALDI-TOF MS 臨床微生物研究会総会・学術集会, 大阪, 2019.9.14

VII. 4 神戸アイセンター病院

VII. 4.1 栄養管理室

1. 三浦由美子, 岩本昌子, 吉水 聡: 眼科専門病院の入院患者の特徴と管理栄養士の取り組み. 第23回日本病態栄養学会年次学術集会, 京都, 2020.1.25

VII. 4.2 診療部

1. 前田忠郎, 小出直史, 北畑将平, 坂井徳子, 宮脇正義, 山本 翠, 前田亜希子, 平見恭彦, 栗本康夫, 高橋政代: 神戸アイセンター研究センターでの iPS 細胞由来網膜色素上皮最適製剤化の取り組み. 第123回日本眼科学会, 東京, 2019.4.18
2. 高木誠二, 工藤重樹, 秋葉正博, 横田秀夫, 平見恭彦, 万代道子, 高橋政代, 栗本康夫, 石田政弘: 特発性黄斑上膜における網膜外層の3次元構造の特徴と視機能との関係. 第123回日本眼科学会, 東京, 2019.4.18
3. 高橋政代, 杉田 直, 万代道子, 平見恭彦, 高木誠二, 山本 翠, 小出直史, 坂口裕和, 丸山和一, 西田幸二, 山中伸弥, 栗本康夫: 加齢黄斑変性に対する HLA 適合同種 iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞移植. 第123回日本眼科学会, 東京, 2019.4.18
4. 田中沙織, 宮本紀子, 楠原仙太郎, 岩見久司, 山本庄吾, 吉武 信, 廣田勇士, 中村誠, 池田 誠宏, 五味文, 栗本康夫: 糖尿病性黄斑浮腫に対する12ヶ月のアフリバルセプト治療成績に影響する因子の検討. 第123回日本眼科学会, 東京, 2019.4.19
5. 広瀬文隆: 原発閉塞隅角緑内障と前駆病変 (サブスペシャリティサンデー). 第123回日本眼科学会, 東京, 2019.4.21
6. Tanaka S, Miyamoto N, Kusuhara S, Iwami H, Yamamoto S, Yoshitake S, Hirota Y, Nakamura M, Ikeda M, Gomi F, Kurimoto Y: Pretreatment factors in managing protocol with aflibercept in patients with diabetic macular edema. 2019 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Vancouver, Canada, 2019.4.29
7. Takahashi M, Sugita S, Mandai M, Hiram Y, Takagi S, Yamamoto M, Koide N, Sakaguchi H, Maruyama K, Nishida K, Yamanaka S, Kurimoto Y: HLA 6 loci matched allogeneic iPSC cells derived retinal pigment epithelial cells (iPSC-RPE) transplantation. 2019 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Vancouver, Canada, 2019.4.30
8. Uyama H, Yamasaki S, Kurimoto Y, Takahashi M, Sugita S, Mandai M: Survival and maturation of iPSC derived retina after transplantation in MHC matched and mismatched nonhuman primate. 2019 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Vancouver, Canada, 2019.4.30
9. Miyamoto N, Totani K, Mandai M, Matsuzaki M, Sugiyama S, Yamanari M, Takagi S, Hiram Y, Oshima S, Takahashi M, Kurimoto Y: Annotation of choroidal neovascularization components in age-related macular degeneration using polarization-sensitive optical coherence tomography with optical coherence tomography angiography. 2019 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Vancouver, Canada, 2019.4.30
10. Kuwayama S, Kubota F, Kato A, Gomi F, Takagi S, Kinoshita T, Ishikawa H, Mitamura Y, Kondo M, Iwahashi C, Kurimoto Y, Ogura Y, Yasukawa T: Long-term prognosis of eyes with tilted disc syndrome-associated serous retinal detachment. 2019 Annual Meeting of the Association for Research in Vision and Ophthalmology (ARVO), Vancouver, Canada, 2019.5.2
11. 平見恭彦: LenSx 導入1年の経験 (講演). Femto Master Course 三都物語, 京都, 2019.5.15
12. 栗本康夫: iPS 細胞が切り拓く目の再生医療 (講演). 東大医学部 (学園祭) 再生医療 臨床推論講演会, 東京, 2019.5.18
13. 栗本康夫: iPS 細胞を用いた網膜の再生医療 (特別講演). 北大阪眼科アカデミー 2019, 大阪, 2019.6.15
14. 栗本康夫: PACD への水晶体再建術の適応 (講師). 第34回 JSCRS 学術総会, 京都, 2019.6.29
15. 栗本康夫: 原発閉塞隅角病 (PACD) に対する水晶体再建術 (オーガナイザー). 第34回 JSCRS 学術総会, 京都, 2019.6.29
16. 宮本紀子, 戸谷皇太, 万代道子, 松崎光博, 杉山 聡, 山城正宏, 高木誠二, 平見恭彦, 大島進, 高橋政代, 栗本康夫: 偏光感受型 OCT で観察した加齢黄斑変性に対するアフリバルセプト前後のエントロピー値. 第36回日本眼循環学会, 札幌, 2019.7.19

17. 平見恭彦：再生医療とロービジョンの取り組み (特別講演), 加古川・高砂眼科医会勉強会, 加古川, 2019.7.25
18. 栗本康夫:iPS細胞を用いた網膜の再生医療 (特別講演), 第1回東京多摩眼科エキスパート講演会, 東京都多摩, 2019.8.30
19. 吉水 聡, 田中沙織, 山本庄吾, 藤原雅史, 広瀬文隆, 栗本康夫: Analysis of anterior segment with lens parameters by anterior segment optical coherence tomography 前眼部光干渉断層計を用いた水晶体パラメータを含めた前眼部構造の解析. 第30回日本緑内障学会, 熊本, 2019.9.6
20. 田中沙織, 藤原雅史, 吉水 聡, 山本庄吾, 広瀬文隆, 栗本康夫: short-term results of TANITO hook in secondary glaucoma 続発性緑内障に対する谷戸フックを用いた線維柱帯切開術眼内法の短期成績. 第30回日本緑内障学会, 熊本, 2019.9.7
21. 田中郁壮, 柴谷直樹, 藤田和美, 吉水 聡, 室井延之, 栗本康夫, 橋田亨: Investigation of Drugs Contraindicated for PACD Patients and recommendation of alternatives 原発閉塞隅角病 (PACD) 患者における緑内障禁忌薬の調査と代替薬の提案. 第30回日本緑内障学会, 熊本, 2019.9.7
22. 栗本康夫: 原発閉塞隅角病 (PACD) の診断と治療 (特別講演). 第3回京都眼科ネットワークセミナー, 京都, 2019.9.19
23. 藤原雅史: 多重手術を要した血管新生緑内障の一例 (パネルディスカッション). 第17回兵庫県眼科オープンカンファレンス, 神戸, 2019.9.21
24. 藤原雅史: 緑内障外来報告. 第3回神戸アイセンター病院眼科臨床懇話会, 神戸, 2019.9.26
25. 宮本紀子, 山本庄吾, 田中沙織, 吉武 信, 栗本康夫: 糖尿病黄斑浮腫に対する硝子体手術の長期成績に影響する因子の検討 (講演). 第25回日本糖尿病眼病学会総会・第34回日本糖尿病合併症学会, 大阪, 2019.9.27
26. 栗本康夫: iPS細胞が切り拓く網膜の再生医療 (ランチョンセミナー). 第57回日本神経眼科学会, 札幌, 2019.10.4
27. 伊藤晋一郎: 充血を起こす眼疾患 (講演). 兵庫県眼科医会 目の愛護デー, 神戸, 2019.10.20
28. 平見恭彦, 高橋政代, 万代道子, 杉田 直, 前田亜希子, 前田忠郎, 山本 翠, 栗本康夫: 同種 iPS 細胞由来網膜シート移植の臨床研究計画について. 第70回京大眼科同窓会学会 (令和元年度), 京都, 2019.10.20
29. 吉水 聡: 原発閉塞隅角緑病の治療戦略—用語の基本から困った症例の対応まで— (インストラクションコース). 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019.10.24
30. 栗本康夫: 原発閉塞隅角緑病の治療戦略—用語の基本から困った症例の対応まで— (インストラクションコース). 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019.10.24
31. Kurimoto Y: Transplantation of iPS cell-derived retinal cells (シンポジウム). 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019.10.24
32. 高木誠二, 戸谷皇太, 前田亜希子, 宮本紀子, 松崎光博, 山成正宏, 杉山 聡, 平見恭彦, 万代道子, 堀 裕一, 高橋政代, 栗本康夫: 偏光感受型 OCT を用いた定型網膜色素変性における RPE の観察. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019.10.25
33. Miyamoto N, Totani K, Mandai M, Matsuzaki M, Sugiyama S, Yamanari M, Takagi S, Hirami Y, Oshima S, Takahashi M, Kurimoto Y: 学術展示ショートトーク 36 網膜: 画像検査. Association of RPE entropy with photoreceptor morphology and function in AMD (PS-OCT で観察した加齢黄斑変性). 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019.10.26
34. 松崎光博, 万代道子, 戸谷皇太, 杉山 聡, 山成正宏, 前田忠郎, 高木誠二, 宮本紀子, 平見恭彦, 大島進, 高橋政代, 栗本康夫: 偏光感受型光干渉断層計による iPS 細胞由来網膜色素上皮懸濁液移植患者の観察. 第73回日本臨床眼科学会, 京都, 2019.10.26
35. 宮本紀子: 黄斑外来報告. 第4回神戸アイセンター病院眼科臨床懇話会, 神戸, 2019.10.31
36. 藤原雅史: 谷戸フックを用いた線維柱帯切開術眼内法への期待とその限界 (特別講演). 兵庫区眼科懇話会, 神戸, 2019.11.7
37. 平見恭彦: 多焦点眼内レンズの視機能について (ミニ教育講演). 第21回兵庫県眼科フォーラム, 神戸, 2019.11.9
38. 宮本紀子: Real World における抗 VEGF 薬の使い方 (特別講演). レチナミーティング in 山口, 山口, 2019.11.21

39. Maeda T: General presentation of the Kobe Eye Center Hospital. Vision restoration: emerging therapie, Paris, 2019.11.25
40. Hirami Y: General presentation of the Kobe Eye Center Hospital. Vision restoration: emerging therapie, Paris, 2019.11.25
41. Kurimoto Y: Address from the President of the Kobe Eye Center Hospital. Vision restoration: emerging therapie, Paris, 2019.11.25
42. 前田忠郎：超高齢社会での視機能について（招待講演）. 黄斑変性友の会，大阪，2019.12.2
43. 宮本紀子，万代道子，松崎光博，山本庄吾，黒田能匡，平見恭彦，前田忠郎，栗本康夫：加齢黄斑変性に対する treat & extend 法. 第 58 回日本網膜硝子体学会，長崎，2019.12.6
44. 栗本康夫：Stop the APAC ~ PACD の予防治療を考える～（招待講演）. Glaucoma Seminar，新潟，2019.12.7
45. 藤原雅史：緑内障第一選択薬の変遷 ～β ブロッカー、FPA、そして新しい機序の薬剤の登場～. 緑内障治療アップデート～エイベリスの魅力と実力～，神戸，2019.12.14
46. 宮本紀子：脈絡膜を画像で科学する. 第 27 回兵庫県黄斑疾患研究会，神戸，2020.2.1
47. 前田忠郎：ニーズ紹介（講演）. 医療機器・再生医療 再生医療現場のニーズを知る（第 5 回神戸再生医療勉強会），神戸，2019.12.20
48. 平見恭彦：ニーズ紹介（講演）. 医療機器・再生医療 再生医療現場のニーズを知る（第 5 回神戸再生医療勉強会），神戸，2019.12.20
49. 田中沙織，中村隆宏，伊藤晋一郎，吉水 聡，外園千恵，栗本康夫：DSAEK 眼に対する緑内障チューブシャント手術後 5 年間の経過. 角膜カンファレンス 2020，第 44 回角膜学会総会・第 36 回日本角膜移植学会，(WEB)，2020.2.27
50. 伊藤晋一郎，中村隆宏，外園千恵，栗本康夫：鉗子分娩による水疱性角膜症に対する DSAEK 施行時の術中 OCT 所見の検討. 角膜カンファレンス 2020，第 44 回角膜学会総会・第 36 回日本角膜移植学会，(WEB)，2020.2.27
51. 栗本康夫，平見恭彦，藤原雅史，森永千佳子，山本 翠，杉田 直，高木誠二，万代道子，高橋政代：加齢黄斑変性に対する自家 iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞シート移植 5 年の臨床経過. 第 19 回再生医療学会（コロナ拡大防止のため学会延期），横浜，2020.3.12
52. 前田忠郎，許沢尚弘，山本 翠，三浦拓也，都築拓，神田元紀，櫻田剛史，小澤陽介，小出直史，杉田 直，平見恭彦，万代道子，栗本康夫，高橋政代：眼底造影画像を用いた深層学習によるヒト iPS 細胞由来網膜色素上皮細胞移植後の客観的評価方法確立の試み. 第 19 回再生医療学会（コロナ拡大防止のため学会延期），横浜，2020.3.14

VII. 4.3 薬剤部

1. 田中郁壮，柴谷直樹，藤田和美，吉水 聡，室井延之，栗本康夫，橋田 亨：原発閉塞隅角病（PACD）患者における緑内障禁忌薬の調査と代替薬の提案. 第 30 回日本緑内障学会，熊本，2019.9.6-8
2. 宮坂萌菜，柴谷直樹，木下 恵，大江 泰，室井延之，橋田 亨：ロービジョン患者への服薬指導における薬剤師の意識調査. 第 29 回日本医療薬学会，福岡，2019. 11.2-4
3. 柴谷直樹，宮坂萌菜，木下 恵，大江 泰，室井延之，橋田 亨：ロービジョン患者におけるアドヒアランス向上を目指した薬剤師連携の構築. 第 41 回日本病院薬剤師会近畿学術大会，兵庫，2020.2.15-16

編集後記

令和2年という年は、COVID-19に始まりCOVID-19に終わった年でした。令和2年が終わり、令和3年を迎えても、COVID-19のほうは未だ終わりが見えていません。COVID-19は世界中の多くの人々の生命を脅かし、また、その生活に多大な影響を与えました。われわれ医療者としても理想的な医療の提供に大きな困難を伴うようになりました。コロナ禍の中での活動において、人々はさまざまな工夫、協力、団結を求められています。COVID-19診療拠点病院である当院を見ても、COVID-19診療の最前線で戦っている医師、看護師はもちろんのこと、それを支える多くの職員の方々の熱意と団結力には大きな感銘を受けます。同様のことが、COVID-19診療拠点病院ではない他の全ての市民病院機構の病院でも今起きているのだと思います。

コロナ禍により、人の移動や集会は制限され、学会も中止や延期となりました。そうした中、令和2年には第84回日本循環器学会学術集会が開催されました。当初の開催予定は3月でしたが、COVID-19第一波により8月に延期、さらに完全WEB開催へ開催形式も変更されました。この学会はコロナ禍のため完全WEB形式で開催された国内の大規模学会として、最初のものだったと思います。参加者が1万人をはるかに上回る学会が本当にWEB開催可能なのか確信が持てなかったのですが、実際に開催されてみると、学会長の木村剛京都大学循環器内科教授をはじめ事務局や同門の方々の団結と協力により、後に続く学会の道しるべとなるような見事な学会でし

た。これは暗い出来事が多かった令和2年の中で印象に残る良いできごとでした。

さて、さまざまな活動が難しくなり、学術活動へのモチベーションも高まりにくい現状ですが、今回の神戸市立病院紀要にもたいへん興味深い総説や症例報告が掲載されています。西市民病院の有井滋樹院長からは肝細胞癌への外科治療に関する最新の話題についてご寄稿いただきました。手術ナビゲーションや分子標的薬、免疫チェックポイント阻害剤などに関する情報など、肝細胞癌の診療以外でも急速に発展している領域の話題が述べられており、肝疾患がご専門ではない方々にもきっと興味のある教育的な内容です。そのほか、中央市民病院精神・神経科、血液内科、および薬剤部から臍帯血移植後のHHV-6によるウイルス性脳炎、西市民病院臨床検査技術部、産婦人科、および病理診断科から穿刺吸引細胞診が有用であった耳下腺原発粘表皮癌の症例が報告されており、診断のプロセスなど、いずれも興味深く読めるものとなっています。皆さんもぜひご一読ください。

最後に、ご投稿いただいた皆さん、本誌の編集・発刊までご尽力いただいている法人本部の企画財務課の方々に感謝申し上げますとともに、コロナ禍の中だけに、皆さまのご健康と少しでも早いCOVID-19の終息を祈念して、編集後の所感とさせていただきます。

神戸市立医療センター中央市民病院 循環器内科

古川 裕

神戸市立病院紀要投稿規程

1. 神戸市立病院紀要は、地方独立行政法人神戸市民病院機構に勤務する医療従事者の研究論文を掲載し、学会報告、その他の学術活動（前年度における業績）を広く記録し、年1回の発刊とする。
2. 投稿者は、地方独立行政法人神戸市民病院機構に勤務する医療従事者に限る（共著はさしつかえない）。編集委員会で依頼した原稿は、この限りでない。
3. 投稿論文の内容は、他誌に未発表であり、現在投稿中ではないこと。
4. 原稿の採否は、編集委員会が決定する。また、原稿の体裁、長さ、文体などについて著者に変更を求めることがある。

- なお、掲載済の原稿は返却しない。
5. 原稿の種類および原稿枚数
 - (1) 論文（総説）……………字数制限なし
（原著）…………… 16000字以内
（症例報告）…………… 8000字以内
（医療研究報告）…………… 16000字以内
 - (2) 医学振興事業等研究費補助による業績報告…………… 16000字以内
 - (3) 学会報告・論文発表（業績リスト）……………診療科ごとに提出
 - (4) CPC報告…………… 1症例2600字以内……………(所定の様式を使用)

6. 執筆要領は、次による。
 - A. 論文（総説、原著、症例報告、医療研究報告）
 - (1) 執筆様式は次の通りとする。
※総説・原著・症例報告は下記①から⑥の順での執筆とする。
医療研究報告は①②⑤⑥の順（③の英文表題、④の英文 Abstract は不要）での執筆とする。

①	論文表題（和文） 執筆者所属・氏名（和文）
②	要 旨（400字以内）（和文） キーワード（5コ以内）
③	論文表題（英文）文頭のみ大文字の表記とする。 執筆者所属・氏名（英文） ※英文氏名は、名を先、姓を後（フルネーム）とする。
④	Abstract（200語以内）（英文） Key words（5コ以内）（小文字）（英文）
⑤	本 論 はじめに（見出し番号は付けない） …………… 大見出し番号ⅠⅡⅢ～を用いる。 …………… } 中 “ 1 2 3～ ” …………… } 小 “ (1)(2)(3)～ ” おわりに（必ずしも必要ない。見出し番号は付けない）
⑥	文 献

- (2) 原稿は、A4判用紙に34×25行で、上下左右に約3cmの余白をとり、12ポイント以上で印字すること。数字は半角文字を用いること。
英文原稿も用紙はA4判を用い、上下左右に約3cmの余白をとること。字の大きさは12ポイントを原則として、ふさわしいピッチで、行間はダブルスペースとすること。
また、本文についてはプリントアウトしたものと同一原稿のデータを提出すること。データの形式は、本文はWordとする。
原稿中所定の用紙のほか、タイプ用紙、方眼紙、図表は、すべてA4判を使用し、写真は、手札型のものをA4判用紙に添付する。
- (3) 英文抄録は、表題、著者名、所属及び本文で構成する。本文の行間はダブルスペースとする。
- (4) 表現法については、下記の点に留意する。
 - 1) 本文の中で文献を引用する際には、引用番号は本文の引用順とし、「三輪ら^{1,3)}」のように右肩に番号をふる。
 - 2) 略語はできるだけ使わない。止むを得ず使う時は、初出時に正式名を記した後（ ）内に記入する。
- (5) 図、表については、下記の点に留意する。
 - 1) 図は説明文を別紙に書くこととする。
 - 2) 図、表は説明も含め、英語とするのが望ましい。ただし、図、表が日本語の場合は説明も日本語とする。
 - 3) 挿入箇所を本文の欄外に指定する。
 - 4) 写真は白黒を原則とする。カラー写真は、編集委員

会の承認したものに限る。提出方法は、Excel、Word等のデータも提出すること。

- (5) 電子顕微鏡写真にはスケールを入れる。
 - (6) 専門用語以外は、当用漢字、新かなづかいを用い、横書とする。
 - (7) 文献の記載方法は次の書式による。（Index Medicus、医学中央雑誌に従う）
 - 1) 雑誌の場合
著者名：表題、雑誌名 巻：初頁－終頁、発行年
 - 2) 単行本の場合
著者名：書名、版数、発行社名、発行地名、発行年
 - 3) 分担執筆による単行本の中の分担部分の引用の場合
著者名：分担執筆部分の表題、書名、編集者名、版数、発行社名、発行地名、初頁－終頁、発行年
 - 4) 雑誌名は、その雑誌指定の略名がある場合はそれを用い、ない場合はIndex Medicusあるいは「日本医学図書館協会編、日本医学雑誌名表」にあるものを用いること。
 - 5) 発行年は西暦を用いること。
 - 6) ページは通巻ページを用いること。
 - 7) 著者名は、3名までは全員を記載する。4名以上の場合は最初の3名を記載し、「他」あるいは外国語文献の場合は「et al」を付する。
 - 8) 実例
 - 1) Beltramin AU, Hertzig ME : Sleep and bed-time behavior in preschool-aged children. Pediatrics 71 : 153-158, 1983
 - 2) 鈴木義之：細胞生物学からみた遺伝性酵素欠損症の病態. 日児誌 88 : 405-408, 1984
 - 3) Cohen MM : The child with multiple birth defects. Raven press, New York, 1982
 - 4) 松永 英：日本における遺伝性疾患の頻度. 遺伝相談, 日暮 眞 編, 小児科Mook32, 金原出版, 東京, 1-11,1984
 - 5) Dorken B, Moller P, Pezzuto A, et al: CDw75. Lymphocyte typing IV: white cell differentiation antigens. In: Knapp W, Dorken B, Gilks WR, et al, eds, Oxford University Press, New York, 109-110, 1989
 - (8) 執筆者は、原稿を各施設の庶務（総務）係へ提出すること。
- B. 医学振興事業等研究費補助による業績報告
 - (1) 執筆要領は、論文（6. A参照）の執筆要領に準ずる。
 - (2) 別冊は作成しない。
- C. 学会報告・論文発表（業績リスト）
 - (1) 以下の必要記入事項があれば提出様式は自由であるが、Word形式で提出すること。診療科ごとに提出する。
- ＜論文発表＞
- ①雑誌の場合
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：表題、雑誌名、巻：初頁－終頁、発行年
 - ②単行本（分担執筆）の場合
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：分担執筆部分の表題、書名、編集者名、版数、発行社名、発行地名、初頁－終頁、発行年
 - ③単行本（単独での執筆）の場合
著者名全員（筆頭執筆者から順番に記載）：書名、版数、発行社名、発行地名、発行年
- ＜学会報告＞
- 発表者全員（筆頭演者から順番に記載）：表題、学会名、開催場所、発表年月日（※西暦で日にちまで記載）
 - (2) 学会報告等で発表した学会での研究発表、症例報告、講演などは漏れなく投稿する。
- D. CPC報告
 - (1) 必ず所定の様式を使用する。（所定の様式は各施設の総務係へ請求する）
 - (2) 図表を含めて2600字以内、原本とデータを提出する。
- E. その他
 - (1) 初校は、著者校正とする。
 - (2) 別冊は、20部まで無料とする。これを超える場合とカラー図版の実費は原則として著者が負担するものとする。
 - (3) 本誌に掲載された論文などの著作権は地方独立行政法人神戸市民病院機構に属する。

神戸市立病院紀要編集委員

中央市民病院 副 院 長 内 藤 泰 (委員長)

副 院 長 石 川 隆 之

第 2 診 療 部 長 川喜田 睦 司

循 環 器 内 科 部 長 古 川 裕

西市民病院 院 長 代 行 中 村 一 郎

副 院 長 富 岡 洋 海

西神戸医療センター 小 児 科 部 長 松 原 康 策

呼 吸 器 外 科 部 長 大 政 貢

神戸アイセンター病院 副 院 長 平 見 恭 彦

(令和2年12月現在)

神戸市立病院紀要 第59巻

令和3年3月16日発行

編 集 神戸市立病院紀要編集委員会

発 行 神戸市中央区港島南町2丁目2番地

地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印 刷 地方独立行政法人 神戸市民病院機構

印刷所 イワサキ出版印刷有限会社

